R7

履修の手引き

令和７年度（2025年度）入学生用

【 内 容 】

Ⅰ 科目履修に当たって知っておくべきこと

Ⅱ 教養教育について（獣医学部を除く）

Ⅲ 専門教育について 【人文社会科学部】

Ⅳ 専門教育について 【教育学部】

Ⅴ 専門教育について 【理工学部】

Ⅵ 専門教育について 【農学部】

Ⅶ 共通教育・専門教育について【獣医学部】

Ⅷ 教育職員免許状・各種資格の取得方法

Ⅸ 国際教育科目について

Ⅹ その他プログラムについて

Ⅺ 関係法規等

国立大学法人
岩手大学
IWATE UNIVERSITY

令和7年度（2025年度） 行事日程

前期	4月	3日（木）		外国人留学生オリエンテーション
		4日（金）		学部新入生学生証等配付
		7日（月）		入学式
				編入学生オリエンテーション
		8日（火）		学部新入生オリエンテーション
				新入生交流会（新入生歓迎実行委員会主催）
		8日（火） ～ 10日（木）	前期履修申告	
		9日（水） ～ 10日（木）		定期健康診断（学部の令和7年4月入学生）
		14日（月）	授業開始 【前期・ｸｫｰﾀｰ(Ⅰ)】	
		14日（月） ～ 18日（金）		定期健康診断（学部の令和7年4月入学生以外）
		14日（月） ～ 20日（日）	履修申告訂正	
		30日（水）	火曜授業の日	
	5月	8日（木） ～ 14日（水）	履修申告取消期間	
		17日（土）		盛岡・つなぎ間ロードレース大会
		20日（火）		前期授業料口座引落日
	6月	1日（日）		開学記念日
		5日（木）	ｸｫｰﾀｰ(Ⅰ)補講日	
		6日（金）	授業開始 【ｸｫｰﾀｰ(Ⅱ)】	
		20日（金） ～ 26日（木）	ｸｫｰﾀｰ(Ⅱ)科目履修申告取消期間	
	7月	25日（金）	月曜授業の日	
		28日（月） ～8月1日（金）	前期・ｸｫｰﾀｰ(Ⅱ)補講日	
		中下旬		前期授業料免除結果通知
	8月	7月28日（月） ～ 1日（金）	前期・ｸｫｰﾀｰ(Ⅱ)補講日	
		5日（火） ～9月30日（火）	夏季休業	
		5日（火）		オープンキャンパス
		8日（金） ～ 15日（金）		全学一斉休業（閉庁）
	9月	8月5日（火） ～ 30日（火）	夏季休業	
		19日（金）	前期成績発表	
		25日（木）		9月卒業式
		29日（月） ～10月1日（水）	後期履修申告	
後期	10月	9月29日（月） ～ 1日（水）	後期履修申告	
		1日（水）		10月入学式
		3日（金）	授業開始 【後期・ｸｫｰﾀｰ(Ⅲ)】	
		3日（金） ～ 9日（木）	履修申告訂正	
		17日（金）	全学休講(午後)	
		18日（土） ～ 19日（日）		大学祭
		21日（火） ～ 27日（月）	履修申告取消期間	
	11月	6日（木）	月曜授業の日	
		18日（火）	全学休講(午後)	
		19日（水）	全学休講	【入試】学校推薦型選抜
		20日（木）		後期授業料口座引落日
	12月	1日（月）	ｸｫｰﾀｰ(Ⅲ)補講日	
		2日（火）	授業開始 【ｸｫｰﾀｰ(Ⅳ)】	
		中旬		後期授業料免除結果通知
		15日（月） ～ 19日（金）	ｸｫｰﾀｰ(Ⅳ)科目履修申告取消期間	
		23日（火）	木曜授業の日	
		24日（水） ～1月4日（日）	冬季休業	
		29日（月） ～1月3日（土）		全学一斉休業（年末年始休業）
	1月	12月24日（水） ～ 4日（日）	冬季休業	
		12月29日（月） ～ 3日（土）		全学一斉休業（年末年始休業）
		15日（木） ～ 16日（金）	全学休講	
		17日（土） ～ 18日（日）		大学入学共通テスト
	2月	4日（水） ～ 10日（火）	後期・ｸｫｰﾀｰ(Ⅳ)補講日	
		19日（木） ～ 24日（火）		入試準備日
		25日（水） ～ 26日（木）		【入試】一般選抜（前期）
	3月	9日（月） ～ 11日（水）		入試準備日
		12日（木）		【入試】一般選抜（後期）
		19日（木）	後期成績発表	
		23日（月）		卒業式
		24日（火） ～ 31日（火）	春季休業	

※ 上記の日程は変更になる場合があります。日程の変更及び令和８年度以降の日程は，アイアシスタントでお知らせします。
※ 試験期間は特に設けませんので，試験については授業担当教員の指示に従ってください。
※ 以下の日は，事務窓口が開いていないため事務手続き等（証明書自動発行含む）は行えません。
土曜日，日曜日，祝日（授業実施日含む），全学一斉休業日及び入試等により入構できない日

目　次

令和７年度（２０２５年度）行事日程

Ⅰ　科目履修に当たって知っておくべきこと

１ 教育理念・教育目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－１
２ 学期区分 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－１
３ 本学の履修科目及び履修時期 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－２
４ 授業科目の単位 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－３
５ 成績評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－４
６ 授業時間 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－４
７ 時間割表の見方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－４
８ 総合学修支援システム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－５
９ 履修の申告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－５
１０ 履修科目登録単位の上限 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－６
１１ 他学部開講科目の履修 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－６
１２ 他大学の授業科目履修における単位認定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－７
１３ 放送大学の授業科目履修における単位認定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－８
１４ 資格試験等による単位認定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－９
１５ ボランティア活動による単位認定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－１０
１６ 試験 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－１０
１７ 成績評価に異議がある場合の問い合わせ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－１１
１８ 成績優秀者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－１１
１９ 卒業時に授与される学位 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－１２
２０ ３年以上４年未満での卒業（早期卒業）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－１２
２１ 長期履修学生制度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－１２
２２ 転学部制度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－１２
２３ 転学科・転課程制度 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－１３
２４ 学部３年次修了者の本学大学院への入学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－１３
２５ その他 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－１３
参考 学生の修得すべき単位数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－１４
学籍番号 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－１４
用語集 ・・ Ⅰ－１５
I^n Assistant2.0 & WebClass & I^n Folio ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅰ－１６

Ⅱ　教養教育について（獣医学部を除く）

１ 教養教育の理念 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅱ－１
２ 教養教育の教育目的と修得すべき能力 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅱ－１
３ 履修方法及び開設授業科目 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅱ－６
４ 選択について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅱ－１０
参考 開設授業科目要件区分／標準履修学年・時期早見表・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅱ－１１
５ 各学部の履修単位数及び履修方法
人文社会科学部 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅱ－１３
教育学部 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅱ－１５
理工学部 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅱ－１７
農学部 ・・ Ⅱ－１９

※履修の手引きの訂正等は、アイアシスタントや掲示版でお知らせします。

Ⅲ　専門教育について　【人文社会科学部】

１ 人文社会科学部の理念・目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅲ−１
２ 卒業認定・学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅲ−３
３ 人文社会科学部教育課程規則　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅲ−１７
４ 人文社会科学部教育課程履修細則　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅲ−１８
５ 卒業に必要な単位数および主・副専修プログラム等について　・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅲ−２０
６ 人間文化課程　科目等一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅲ−２８
７ 地域政策課程　科目等一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅲ−３７
８ 課程横断型プログラムおよび課外科目一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅲ−４７
９ 取得可能な資格等について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅲ−４９

Ⅳ　専門教育について　【教育学部】

１ 教育学部の理念と目的，学位授与の方針，教育課程規則，課程等の紹介　・・・・・・・・・・ Ⅳ−１
２ 教育学部の専門教育科目卒業要件　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅳ−８
３ 授業科目及び履修年次　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅳ−２２
４ 副免及びその他の教員免許の取り方について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅳ−４２
５ 日本語教育副専攻科目について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅳ−６７
６ 公認心理師学部カリキュラム修了のための必要単位　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅳ−６８

Ⅴ　専門教育について　【理工学部】

理念と目標，教育目的，修得すべき能力　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ−１
理工学部及び各コースの学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針　・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ−２
１ 岩手大学理工学部教育課程規則　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ−１５
２ 理工学部専門教育課程　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅴ−１８

Ⅵ　専門教育について　【農学部】

農学部の理念と目標，教育目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ−１
各学科等の教育目的，学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針　・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ−１
１ 岩手大学農学部教育課程規則　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ−１３
２ 学生が修得すべき単位数　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ−１４
３ 農学部専門教育科目履修表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅵ−１５
※各学科カリキュラムマップ

Ⅶ　共通教育・専門教育について【獣医学部】

獣医学部の理念と目標，教育目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅶ−１
獣医学部の教育目的，学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針　・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅶ−１
１ 岩手大学獣医学部教育課程規則　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅶ−３
２ 学生が修得すべき単位数　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅶ−４
３ 共通教育について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅶ−５
４ 専門教育について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅶ−１１
※カリキュラムマップ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅶ−１５

Ⅷ　教育職員免許状・各種資格の取得方法

１ 教育職員免許状の取得に当たって　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅷ−１
人文社会科学部　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅷ−２
理工学部　・・ Ⅷ−１１
農学部　・・・ Ⅷ−２０
２ その他各種資格の取得に当たって　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅷ−２５

Ⅸ　国際教育科目について

１ 国際教育科目の理念と教育目標　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅸ−１
２ 履修方法および開設授業科目　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ Ⅸ−３

Ⅹ その他プログラムについて

１ 数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム　Ⅹ-１
２ ＩＨＡＴＯＶＯグローバルコースについて　Ⅹ-２
３ イーハトーヴ協創コースについて　Ⅹ-４

Ⅺ 関係法規等

１ 岩手大学諸規則
２ 関係法令

Ⅰ

科目履修に当たって知っておくべきこと

Ⅰ　科目履修に当たって知っておくべきこと

１　教育理念・教育目標

本学は，**「教育理念」**として次のことを掲げています。

真理を探究する教育研究の場として，学術文化を創造しつつ，幅広く深い教養と高い専門性を備えた人材を育成することを目指すとともに，地域社会に開かれた大学として，その教育研究の成果をもとに地域社会の文化の向上と国際社会の発展に貢献することを目指す。

また，本学では教養教育と専門教育の調和を基本として，次のような資質・能力を兼ね備えた人材の育成を**「教育目標」**としています。

（１）幅広く深い教養と総合的な判断力を合わせ持つ豊かな人間性
（２）基礎的な学問的素養に裏打ちされた専門的能力
（３）環境問題をはじめとする複合的な人類的諸課題に対する基礎的な理解力
（４）地域に対する理解とグローバル化に見合う国際理解力
（５）柔軟な課題探求能力と高い倫理性

本学の学生の皆さんは，大学の教育理念・目標に基づき，それぞれ人文社会科学部，教育学部，理工学部，農学部，獣医学部に入学し，卒業するまでの４年間（獣医学部は６年間）に教養教育科目（獣医学部は共通教育科目）及び専門教育科目を履修し所定の単位を修得しなければなりません。
卒業に要する最低修得単位数は，教養教育科目が２８単位，共通教育科目が３０単位，専門教育科目が９８～１５９単位です。

また，教育学部学校教育教員養成課程以外の学科・課程の学生が教育職員免許状を取得しようとする場合は，さらに教職教育科目を履修する必要があります。
※獣医学部では教育職員免許状を取得することはできません。
なお，履修は全て単位制をとり，履修すべき授業科目については大幅に選択制がとられています。したがって，履修科目は，同じ学部・学科・課程であっても各人により異なる部分があります。
この複雑な科目履修制度をできるだけ早く理解し，目的が達せられる計画を立ててください。
ただし，本書の中では一般的な説明が主であるため，細部については担任教員や教務委員などの指導を受けながら学修内容の全体をよく研究し，学修計画を立てるようにしてください。

２　学期区分

１年間を前期，後期の２期に分け，**前期は４月１日～９月３０日**，**後期は１０月１日～３月３１日**となっています。（学則第３２条）

３　本学の履修科目及び履修時期

本学の履修科目は，大別すると次のとおりです。

・教養教育科目（技法知科目，学問知科目，探究知科目，実践知科目）

教養教育科目は１年次に多く開設しており，２年次，３年次と学年が進むにつれて履修する機会が減少しますので，低年次のうちに修得しておくことが推奨されます。

科目等の詳細については「Ⅱ　教養教育について」を参照してください。

・共通教育科目

共通教育科目は獣医学部のみ開設しています。

科目等の詳細については「Ⅶ　獣医学部について」を参照してください。

・専門教育科目

専門教育科目は各学部で開設しており，１年次には少なく，２年次，３年次と学年が進むにつれて増加します。科目等の詳細については各学部の項を参照してください。

※獣医学部については「Ⅶ　獣医学部について」を参照してください。

・教職教育科目

各学部で開設しており１～４年次で履修します。

履修方法は「Ⅷ　教育職員免許状・各種資格の取得方法」を参照してください。

・国際教育科目

国際教育科目は，外国人留学生を対象に英語で授業を行う科目ですが，日本人学生も履修することができます。詳細は「Ⅸ　国際教育科目について」を参照してください。

4　授業科目の単位

大学では，授業と，授業時間外における学習（以下，授業外学修※）を所定の時間満たすことで単位が認定されます。

※端的には，高等学校では授業時間＝単位でしたが，大学では授業＋授業時間外の学習＝単位となります。この授業時間外の単位認定に関わる学習のことを授業外学修と言います。

各科目の単位と必要な学修時間は，授業の種別によって以下の通り定められています。

	種 別	授業（分）	回 数	単 位	授業外学修（時間）
教養教育科目 共通教育科目 （獣医学部）	外国語 健康・スポーツ 実習，演習	100	14	1	15
	実験	150	14	1	0
	講義	100	14	2	60
専門教育科目 教職教育科目	実験，実習，実技など	100	14	1	15
		150	14	1	0
		150	28	2	0
		150	42	3	0
		300	7	1	0
	演 習	100	7	1	30
		100	14	1	15
		100	14	2	60
専門教育科目 教職教育科目	講 義 （グループワークなどが行われることもあります）	100	7	1	30
		100	14	2	60
専門教育科目 （獣医学部）	実 習	135	15	1	0
		135	45	3	0
	講 義 （グループワークなどが行われることもあります）	45	15	1	30
		90	15	2	60

≪解説≫

例えば，教養教育科目の「外国語」は１００分の授業が１４回で１単位となり，授業以外に計１５時間の授業外学修（予習や復習，課題への取り組みなど）が必要になります。また，講義で１４回２単位の科目は，授業以外に６０時間の授業外学修が必要になります。

≪授業外学修時間の算出≫

大学設置基準第２１条第２項により４５時間の学修で１単位と規定されていることから，単位に応じて授業で不足する時間により授業外学修時間が得られます。本学では授業４５分を１単位時間として計算し，標準的な９０分（２単位時間）×１５回＝１３５０分（３０単位時間）を，１００分×１４回＝１４００分で３０単位時間と見なします。２単位科目は９０時間の学修を必要としますので，授業時間の３０単位時間を引いた残り６０時間が授業外学修時間となります。

なお，獣医学部は９０分（２単位時間）×１５回で３０単位時間と見なします。

5　成績評価

成績の評価方法は，試験，報告書，論文及び平常の成績（授業への参加度等）によって行われます。（学則第４０条第２項）

成績の評価は，次のとおりです。

評　価		評　点
合格	秀	１００点～９０点
	優	８９点～８０点
	良	７９点～７０点
	可	６９点～６０点
不合格	不可	５９点～　０点

なお，各科目の到達目標，具体的な成績の評価方法及び基準はシラバス（講義要目）に掲載されています。

6　授業時間

時限	1	2	3	4	5	6
時間	8:35～10:15	10:30～12:10	13:00～14:40	14:55～16:35	16:50～18:30	18:40～20:20

【獣医学部専門教育科目】

校時	１・２	３・４	５・６	７・８	９・１０	１１・１２
時間	8:40～10:10 (8:45～10:15) ＊	10:30～12:00	13:00～14:30	14:45～16:15	16:30～18:00	18:10～19:40

注（）＊の時間は遠隔講義の時のみ

7　時間割表の見方

（１）教養教育科目

教養教育科目の授業時間割表を熟読し，履修してください。

１年次においては，所属学部学科及び課程毎に履修できる授業科目が指定されていますので，必ずその枠内で履修してください。指定された枠組で履修すれば２年間で教養教育科目の履修すべき単位数を修得できるよう計画されています。

「人文社会科学・教育学領域科目」，「理学・工学領域科目」，「農学領域科目」，「環境科目」，「地域科目」は，授業時間割表の下段の選択科目欄に授業科目名が記載されているのでその中から選択してください。

履修申告者が多い場合は，履修を制限する場合があります。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は，学生センターＡ棟②番窓口に問い合わせてください。

（２）獣医学部共通教育科目

獣医学部の授業時間割表を熟読し，履修してください。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は，学生センターＡ棟④番窓口に問い合わせてください。

（３）専門教育科目

所属学部毎に異なりますので，各学部の授業時間割表を熟読し，履修してください。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は，学生センターＡ棟③番窓口または④番窓口に問い合わせてください。

８　総合学修支援システム

本学では，大学での学修を支援するためのさまざまなシステムを利用しています。
（詳細は「Iⁿ Assistant2.0 & WebClass & Iⁿ Folio（アイアシスタント２．０＆ウェブクラス＆アイフォリオ）」（Ｉ－１６ページ）を参照）

９　履修の申告

学期の初めには，必ず**履修申告期間内に履修申告（授業科目の登録）をしなければなりません。**申告をしないと授業を受けることができず，単位の修得もできません。忘れずに，必ず履修申告をしてください。

また，集中講義科目の中には，学期の途中に履修申告期間を設定する場合もあります。その場合，履修申告の日程等はアイアシスタント等でお知らせします。

なお，前期は５月中旬，後期は１０月下旬（学年暦参照）に履修申告をした科目を取り消すことができます。（ただし，集中講義科目は開講日の２週間前まで）詳細はアイアシスタント等でお知らせしますが，**あくまでも取り消すだけで，他の科目へ変更することはできません。**

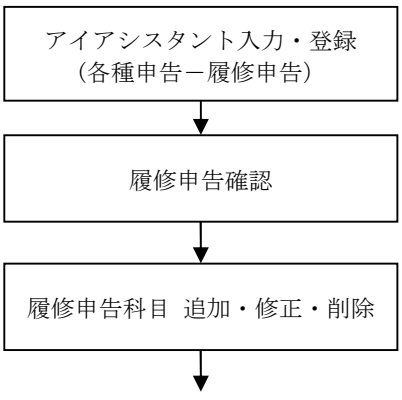
（１）履修申告する際の注意事項

・「授業時間割」，「シラバス（講義要目）」，「履修の手引き」により，履修したい授業科目が自分の学部・学科（課程）・学年の受講対象となっているかよく確認してください。
・履修申告する際は，「授業時間割」に記載されている時間割コード（アルファベットと数字の４桁）を，正しく入力しているかよく確認してください。
・同じ授業科目でも，担当する教員によって時間割コードが違います。担当教員名を確認してください。
・同一時間に複数の授業科目を重複申告することはできません。
・履修登録できる単位数に上限があります。上限は，１学期につき２４単位（編入学生及び成績優秀者は２８単位）までです。詳細は，「１０　履修科目登録単位の上限（ＣＡＰ制）」を参照してください。

（２）履修申告方法

・履修申告は，アイアシスタントから行ってください。
・集中講義は開講の都度，履修申告を行います。申告方法は掲示でお知らせします。

アイアシスタントから履修申告**（集中講義の申告はできません。）**

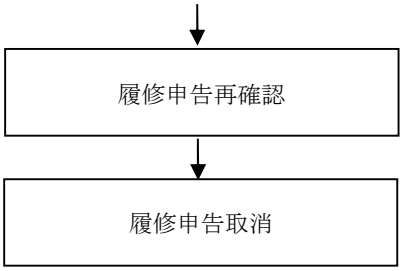


授業時間割表に基づいて，各自で履修計画を立て，**上限単位数を超えないように，履修する全科目をアイアシスタントにある各種申告の履修申告から入力**してください。

履修申告結果は，指定された日に**アイアシスタントのMy時間割に表示されます。**

各自で**「時限（校時）・科目名・時間割コード」などが正確に登録されているか**を必ず確認してください。

履修申告エラーがあった場合，または科目を追加・修正・削除したい場合には，指定された日までに，再度アイアシスタントにより，履修申告を訂正してください。



指定された日以降は，訂正できません。
なお，履修申告の取消しは後述のとおりです。
履修申告結果をアイアシスタントで必ず確認してください。
学修上の理由で履修申告を取消したい場合，指定された履修取消期間に限りアイアシスタントより履修申告を取り消すことができます。

１０　履修科目登録単位の上限（ＣＡＰ制）

授業科目は，１単位当たり４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする（学則第３８条）とされています。

そのため，授業のみならず授業外学修（予習や復習，課題への取り組みなど）の時間も加味した，無理のない学修計画を立てる必要があります。

本学では，学生が１学期間に履修登録できる単位数を次のとおり定めています。

（X　関係法規等「岩手大学における授業科目の履修登録単位数の上限に関する規則」参照）

・履修登録単位数の上限は，**１学期につき２４単位**までとする。
・履修登録単位数の上限の対象科目は，「卒業要件科目」とする。
　ただし，卒業要件科目のうち，「集中講義の授業科目」，「教育実習」，「卒業・特別研究」，「いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換科目」，「放送大学における単位互換科目」は対象から除外する。
・**教育学部学生**の履修登録単位数の上限は，**１学期につき２８単位**までになる場合がある。（Ⅳ-21 ページを参照）
・**成績優秀者及び編入学生の履修登録単位数は，１学期につき２８単位を上限**とする。
（成績優秀者については「１８　成績優秀者」を参照）
・教育職員免許取得希望者（教育学部学生を除く）が履修する教科に関する科目，教職に関する科目及び教科の指導法に関する科目（Ⅷ参照）の登録単位数の上限は，「卒業要件科目」と合わせて１学期につき２８単位までとする。ただしこの場合でも，「卒業要件科目」の登録単位数の上限は１学期につき２４単位までとする。

１１　他学部開講科目の履修

本学では，自分の所属する学部の専門教育科目だけでなく，他学部の専門教育科目についても，一定の条件のもと，その講義を受講し単位を修得することができます。修得した単位については，学部，学科・課程ごとに定める範囲で卒業に必要な単位として認定することができます。

他学部の学生が受講可能な授業科目や受講の条件等については，別途お知らせしますので，アイアシスタント等からのお知らせに注意してください。

１２　他大学の授業科目履修における単位認定

本学では，多様な授業を受けられるよう他大学と単位互換に関する協定を結びました。講義を受講し単位を修得すれば，卒業に必要な単位として認定されます。

受講には手続きが必要ですので，その都度，アイアシスタント等でお知らせします。

<table>
<tr><td colspan="2">区分</td><td>いわて高等教育コンソーシアム</td></tr>
<tr><td colspan="2">協定校</td><td>岩手大学，岩手県立大学，岩手医科大学，富士大学，盛岡大学，岩手保健医療大学，一関工業高等専門学校</td></tr>
<tr><td colspan="2">身分</td><td>特別聴講学生</td></tr>
<tr><td colspan="2">授業料等</td><td>入学料，授業料，検定料は無料
ただし，追・再試験の検定料は受講大学によっては必要な場合があります。</td></tr>
<tr><td colspan="2">開講科目</td><td>開講校が許可した科目を受講することができます。詳細は，いわて高等教育コンソーシアムの「単位互換」ページで確認してください。</td></tr>
<tr><td colspan="2">出願期間</td><td>前期：4 月上旬
後期：7 月上旬～8 月下旬</td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業単位上限</td><td>教養教育科目</td><td>教養教育科目の選択の単位として認定します。
（獣医学部の共通教育科目は該当しません。）
人文社会科学部：４単位まで
教育学部　　：２単位まで
理工学部　　：４単位まで
農学部　　：４単位まで</td></tr>
<tr><td>専門教育科目</td><td>学部によって自由選択科目または選択科目の単位として認められます。
詳細は，Ⅲ～Ⅶの各学部専門教育のページを参照してください。</td></tr>
</table>

※　上記の出願期間は予定の期間となりますので，詳細はアイアシスタント等でお知らせします。

１３　放送大学の授業科目履修における単位認定

本学と放送大学は単位互換に関する協定を結び，放送大学の科目を受講し単位を修得すれば，卒業に必要な単位として認定されます。

受講には手続きが必要ですので，その都度，アイアシスタント等でお知らせします。

身分		特別聴講学生
授業料等		1科目（2単位）　12,000円　※授業料は改定される場合があります。
開講科目		出願期間前に「開講科目一覧表」を掲示または配付します。
出願期間		第1学期：1月中旬 第2学期：7月中旬
卒業単位上限	教養教育科目	単位互換できる科目は出願期間時にお知らせします。 ただし，単位互換科目は，教養教育科目及び専門教育科目両方合わせて３０単位までです。
	専門教育科目	

※　この単位認定制度を利用するには，岩手大学を通して放送大学に特別聴講学生として入学する必要があります。

※　上記の出願期間は予定の期間となりますので，詳細はアイアシスタント等でお知らせします。

※　放送大学の特別聴講学生は，テレビ（ＢＳ放送）やインターネットで配信される映像・音声の視聴または，本学の附属図書館内にある「放送大学岩手学習センター」において，ＤＶＤを視聴しての受講となります。

また，単位互換制度とは別に，放送大学の教材を利用して授業を開講する場合もあります。この科目を受講するための授業料は無料ですが，受講する場合には，履修科目登録単位の上限に含まれます。開講については，アイアシスタント等でお知らせします。

１４　資格試験等による単位認定

本学では，資格試験で取得した資格又は本学が関わる研修において合格点を取得した場合は，申請に基づき単位の認定を行います。単位が認定される資格等の種類，単位数は，下記の表のとおりです。

申請は，学生センターＡ棟①番窓口で年２回（１月，７月）受け付けます。

詳しくはアイアシスタント等でお知らせします。

（1）資格試験によるもの

資格試験	資格	認定科目・単位数		認定単位数の上限	備考
		授業科目	単位		
英検 Ｓ－ＣＢＴ	準１級	英語総合Ⅰ・Ⅱ，英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ	4	4	最も上級の資格により認定する。
実用英語技能検定試験	準１級		4	4	
	１級		8	8	
ＴＯＥＦＬ（マークシート式677点満点）	500～539点	英語総合Ⅰ・Ⅱ，英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ	2	2	
	540点以上		4	4	
ＴＯＥＦＬ　ｉＢＴ（インターネット式120点満点）	61～75点		2	2	
	76点以上		4	4	
ＴＯＥＩＣ	600～699点	英語総合Ⅰ・Ⅱ，英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ	2	2	
	700点以上		4	4	
ドイツ語技能検定試験	４級	初級ドイツ語（入門・発展）	4	4	再履修学生のみ認定する。 各種その他の外国語の資格試験において，上級の資格で認定する。
	３級以上	初級ドイツ語（入門・発展）	4	6	
		中級ドイツ語	2		
実用フランス語技能検定試験	５級	初級フランス語（入門・発展）	2	2	
	４級	初級フランス語（入門・発展）	4	4	
	３級以上	初級フランス語（入門・発展）	4	6	
		中級フランス語	2		
ロシア語能力検定試験	４級	初級ロシア語（入門・発展）	4	4	
	３級以上	初級ロシア語（入門・発展）	4	6	
		中級ロシア語	2		
ＨＳＫ（漢語水平考試）	２級	初級中国語（入門・発展）	4	4	
	３級以上	初級中国語（入門・発展）	4	6	
		中級中国語	2		
韓国語能力試験	TOPIKⅠ（1級～2級140点以上）	初級韓国語（入門・発展）	4	4	
	TOPIKⅡ（3級～6級120点以上）	初級韓国語（入門・発展）	4	6	
		中級韓国語	2		
ハングル能力検定試験	５級	初級韓国語（入門・発展）	4	4	
	４級以上	初級韓国語（入門・発展）	4	6	
		中級韓国語	2		

≪備考≫

１　認定した単位の評価は，「○合」とする。

２　申請できる資格試験は，入学後に取得したもので，取得した日から１年以内のものに限る。

３　英語科目又はその他の外国語の資格試験において，先に下級の資格で認定を受けた者が，後に上級の資格を取得し願い出た場合は，先に認定を受けた単位数を差し引いて単位を認定する。

４　「再履修学生」とは，一度でも初級（入門）あるいは初級（発展）を履修した学生をいう。

５　ＴＯＥＦＬとＴＯＥＩＣに関しては，ＴＯＥＦＬ－ＩＴＰとＴＯＥＩＣ－ＩＰも資格試験の対象とする。

（2）外国語研修によるもの

該　当　条　件	認定科目・単位数		認定単位	備　考
	授　業　科　目	単位		
外国の大学が主催する外国語研修または異文化研修で，６０時間を超える研修を終え合格点（６０点以上又は評価Ｃ以上）を取得**（岩手大学教務委員会が承認したものに限る。）**	英語総合Ⅰ・Ⅱ，英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ	2	2	認定した単位の評価は，「○合」とする。

※資格試験等による単位認定は，履修申告し受講している（した）授業の代わりになるものではありません。よって資格試験等による単位認定により，履修申告した科目が自動的に取り消されたり，既に受講した授業の評価が更新されることはありません。

１５　ボランティア活動による単位認定

本学の学内ボランティア活動で，一定時間数以上の研修，活動参加後，レポートを提出し，その活動が認定された場合は，「コミュニティーサポート実習」１単位が認定されます（各年度１単位までとし，最大２単位まで認定されます）。ただし，卒業要件単位には含まれません。

１６　試　験

試験時における不正行為

試験において不正行為をすることは，真摯な態度で勉学に励むべき学生として許されない行為といえます。したがって，不正行為を行った者は，訓告処分を受けるだけでなく，不正行為が教養教育科目において行われたか専門教育科目において行われたかを問わず，当該学期の教養教育科目と専門教育科目の**全ての単位が認められません。**

また，通年科目については，不正行為が行われた学期・科目を問わず，当該年度の全ての単位が認められません。

不正行為を行った場合は，留年につながる厳しい処分が科せられます。

１．教養教育

試験期間は特に設けませんので，試験については担当教員の指示に従ってください。

（１）試験についての注意事項

①　受験に際しては学生証を必ず持参し，机の上に置くこと。
　万一学生証を忘れたときには，仮受験証での受験が認められるが，その場合には試験終了後３日以内に学生センターＡ棟②番窓口に学生証を持参して確認を受けること。これを怠った場合には，その答案は，無効となる。

②　原則として，遅刻は認められない。ただし，特別の事情があった場合には，１０分程度の遅刻は考慮されることがある。

③　試験開始後２０分間，退室は認められない。

④　答案用紙の姓名は，インク又はボールペン書きとする。

⑤　試験中，机の中には一切持ち物を置かないこと。不正行為の材料となり得る物を持っていたり，机の中に入れていた場合には，それを使用したか否かにかかわらず，不正行為と見なされる。
⑥　試験中，不正行為を行った者は，厳しい処分を受ける。
⑦　試験中，監督者の指示に従わない者は，退室を命じられる。
⑧　申告しない又は正しい申告をしていない科目を受験しても，その答案は無効である。

（２）追試験について

下記事項に該当する者で追試験を希望する者は，試験終了後，１週間以内に必要書類を添えて学生センターＡ棟②番窓口に願い出ることができます。

①　負傷又は疾病　（必要添付書類…医師の診断書等）
②　天災その他突発事故　（必要書類…その事由を証明する物）
③　忌引き　（必要書類…死亡診断書の写し等）
④　列車等の遅延　（必要書類…遅延証明書）
⑤　その他特別に事情があると認められる場合（必要書類…その事由を証明する物）

願い出のあった者に対しては追試験受験願の理由が正当であり，かつ平素の出席状況が良好であって受験の資格があると認められた者に限り受験を許可します。

２．専門教育

専門教育科目の試験についても，教養教育科目と同様に試験が実施されます。詳細は，担当教員の指示に従ってください。

１７　成績評価に異議がある場合の問い合わせ

学期末（成績発表時）にアイフォリオで確認した成績評価が，シラバス（講義要目）の成績評価基準と照らし合わせた結果，成績評価に不明な点がある場合は，学務課経由で授業担当教員に問い合わせを行うことができます。問い合わせは，成績発表後一定の期間を設けますが，詳細はアイアシスタント等でお知らせします。

１８　成績優秀者

成績優秀者とは，その学期において卒業要件科目を１８単位以上修得し，かつ，卒業要件科目の総修得単位数のうち，「秀」および「優」の評語を単位数の点で１０分の９以上得て，成績優秀者と認定された者をいいます。

成績優秀者に認定されると，次の学期の履修は，履修科目の登録の上限（１学期２４単位）の例外として，２８単位まで登録することができます。

なお，編入生の履修科目の登録の上限は，２８単位ですので優秀者判定は行いません。

また，２年次後期までの全学期に成績優秀者として認定されると，早期卒業の申請をすることができます。（「２０　３年以上４年未満での卒業（早期卒業）」を参照）

１９　卒業時に授与される学位

本学に４年以上（獣医学部は６年以上）在学し，かつ所定の科目の単位を修得した者に対し教授会の議を経て卒業を認定します。

卒業を認定された者には，次の学士の学位が授与されます。

人文社会科学部卒業生			学士（総合科学）
教育学部卒業生			学士（教育）
理工学部卒業生	理工学科	化学コース 数理・物理コース 材料科学コース	学士（理工学）
		知能情報コース クリエイティブ情報コース	学士（情報学）
		電気電子・情報通信コース 機械知能航空コース 社会基盤・環境工学コース	学士（工学）
農学部卒業生	食料農学科 生命科学科 地域環境科学科 動物科学・水産科学科		学士（農学）
獣医学部卒業生	共同獣医学科		学士（獣医学）

２０　３年以上４年未満での卒業（早期卒業）

２年次後期までの全学期に成績優秀者（「１８　成績優秀者」を参照）として認定された者で，４年未満の在学で卒業を希望する者は早期卒業を申請することができます。

申請が認められ，早期卒業候補者となった後も成績優秀であり，卒業要件の全単位を満たし，卒業研究（最終試験を含む。）の成績が秀または優であるときは，３年次終了時又は４年次前期終了時に卒業することができます。（X　関係法規等「岩手大学における在学期間の特例に関する規則」を参照）

この制度で卒業が認められると，学士の学位が授与され，大学卒業の資格が得られます。

２１　長期履修学生制度　※獣医学部の学生は対象になりません

職業を有している等の事情により修業年限の４年間での卒業が困難な場合は，この制度に基づき申請し，許可された者に限り，一定の期間（最長６年まで）にわたり履修して卒業することができます。授業料は，修業年限の４年間分を許可された長期履修の期間に合わせて支払うことになります。

希望する場合は学生センターＡ棟①番窓口に申し出てください。

（申請時期：２月末日又は８月末日まで　対象：１～３年次まで）

２２　転学部制度

入学後に他学部に移る積極的理由を見いだした際に，新たな勉学意識を引き出すため，各学部の選考により転学部が認められる（許可される）場合があります。

申請の時期，方法については，アイアシスタント等でお知らせします。

２３　転学科・転課程制度

入学後に他学科又は他課程に移る積極的理由を見いだした際に，新たな勉学意識を引き出すため，各学部の選考により転学科又は転課程が認められる（許可される）場合があります。

申請の時期，方法については，アイアシスタント等でお知らせします。

２４　学部３年次修了者の本学大学院への入学

大学に３年以上在学し所定の単位を優れた成績をもって修得する見込みのある者で，本学の大学院の研究科で受験資格を有すると認めた者は，出願し受験することができます。

これは，研究者として優れた資質を有する者に対して，早期から大学院教育を実施することを目的としているための制度です。

出願に当たっては，指導教員あるいは関係教員と十分相談のうえ決定するのが望ましいです。

（注意事項）

本出願資格により入学する場合は，学部学生の身分を有することはできず，退学して大学院に入学することとなります。したがって，大学学部卒業を要件としている各種の国家試験等の資格試験は，受験できなくなります。

２５　その他

（１）大学からの連絡・案内

大学から学生に対する連絡（例えば公示・通知・呼び出し・授業時間割・休講・試験日程あるいは奨学金・授業料免除の申請期日など）は，アイアシスタントや大学構内に設置している掲示板でお知らせします。

そのため，毎日一度はアイアシスタントと掲示板を見るように心がけ，見なかったり，見落としたために，不利益を受けないよう注意してください。掲示板の場所は，『学生生活の手引き』で確認してください。

（２）気象警報等の発令時における授業等の取扱い

気象警報（暴風警報及び暴風雪警報に限ります。）又は特別警報が発令された場合，本学学生の安全確保のために，授業の休講及び課外活動等が休止となることがあります。詳細については，Ｘ　関係法規等「気象警報等の発令時における授業等の取扱いに関する申合せ」を確認してください。

＜参考＞

＊学生の修得すべき単位数（詳細は，教養教育（共通教育），各専門教育のページを参照）　（単位）

学　　部	学科・課程	コ　ー　ス	教養教育科目	共通教育科目	専門教育科目	合　計
人文社会科学部	人間文化課程		２８		９８	１２６
	地域政策課程					
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース	２８		１０９～１１８	１３７～１４６
		中学校教育コース			１０６～１１５	１３４～１４３
		理数教育コース			１０９～１１１	１３７～１３９
		特別支援教育コース			１０７	１３５
理工学部	理工学科		２８		９９	１２７
農学部	食料農学科		２８		９８	１２６
	生命科学科					
	地域環境科学科					
	動物科学・水産科学科					
獣医学部	共同獣医学科			３０	１５９	１８９

＊学籍番号

学籍番号は在学中のすべての提出書類に記載する８桁の番号であり，次表によって定められています。学籍番号を記入する際には，必ず学生証で確認してください。

＊学部学科等（３桁）	**＊入学年度**（２桁）	**＊通番**（３桁）
人文社会科学部 　Ｈ０１　人間文化課程 　Ｈ０２　地域政策課程 教育学部 　Ｅ０１　学校教育教員養成課程小学校教育コース 　Ｅ０２　学校教育教員養成課程中学校教育コース 　Ｅ０３　学校教育教員養成課程理数教育コース 　Ｅ０４　学校教育教員養成課程特別支援教育コース 理工学部 　ＳＢ１　理工学科 農学部 　ＡＢ１　食料農学科農学コース 　ＡＢ２　食料農学科食品健康科学コース 　ＡＢ３　生命科学科分子生物機能学コース 　ＡＢ４　生命科学科分子生命医科学コース 　ＡＢ５　地域環境科学科革新農業コース 　ＡＢ６　地域環境科学科森林科学コース 　ＡＢ７　動物科学・水産科学科動物科学コース 　ＡＢ８　動物科学・水産科学科水産システム学コース 獣医学部 　ＶＢ１　共同獣医学科	入学年度の西暦下２桁となります。 　例：２０２５年入学＝２５ 編入学生は，編入した学年の入学年度の西暦下２桁となります。 　例：３年次編入生＝２３	個人を特定する番号で３桁となります。 例：　１番＝００１ 　　１０番＝０１０

（例）

「２０２５年度入学　食料農学科農学コース９９番」の学生の場合は，「ＡＢ１２５０９９」であり，分解すると，「ＡＢ１＝**学部学科等**・２５＝**入学年度**・０９９＝**通番**」となります。

科目を履修する際によく出てくる用語です。覚えておきましょう。

アイアシスタント

インターネットを利用した岩手大学の学修支援システムのひとつです。シラバスの検索・閲覧，履修申告の登録，休講・補講・教室変更の確認などができます。

このほか地震等の災害時に緊急連絡による安否確認が行われます。

インターンシップ

職場の監督下での一定期間の職業経験のことです。学生の専攻分野に関連した業務に関わるものか否か，フルタイムかパートタイムか，有給か無給か，短時間か長期間かなど形態は様々ですが，キャリア意識の涵養，職業的技能・態度・知識の獲得を目的に実施されています。

ＣＡＰ制（キャップ制）

履修登録科目数上限制度のことです。授業外学修時間の確保のため，各学生が一学期に履修を申告できる総単位数に上限を設定しています。成績優秀者及び編入学生に対しては，より多くの科目の履修が認められます。（詳しくはⅠ-6ページを参照）

いわて高等教育コンソーシアム

いわて高等教育コンソーシアムは，岩手県内の大学等高等教育機関が連携して，県内の高等教育・学術研究の振興と地域社会の発展に寄与することを目的とした組織体であり，岩手大学，岩手県立大学，岩手医科大学，富士大学，盛岡大学，放送大学岩手学習センター，一関工業高等専門学校，及び岩手保健医療大学で構成し，学生は他校の授業を受講し単位を修得したり，図書館を利用することができます。

集中講義

通常の授業とは別に，特定の期間に集中して行う授業です。休日や夏季・冬季休業中に行うこともあります。履修申告の方法は，その都度アイアシスタント等でお知らせします。

シラバス

各授業科目の概要のことです。授業の目的や各回の授業内容，成績評価の基準や方法，教科書・参考書，教員への相談方法等が記載されています。シラバスはアイアシスタントから見ることができます。

ＧＰＡ（ジー・ピー・エー：Grade Point Average）

個々の学生の学業成績を数値化したものです。岩手大学では，各授業科目の履修単位数に成績評価によるポイント（秀＝４，優＝３，良＝２，可＝１，不可＝０）を掛けた数字の合計を，履修した単位数で割って算出した値をＧＰＡとしています。

【本学のＧＰＡ算出方法】

$$ＧＰＡ＝\frac{\text{「秀」単位数}\times４+\text{「優」単位数}\times３+\text{「良」単位数}\times２+\text{「可」単位数}\times１+\text{「不可」単位数}\times０}{\text{「秀」単位数}+\text{「優」単位数}+\text{「良」単位数}+\text{「可」単位数}+\text{「不可」単位数}}$$

（１）　（２）

※（１）は履修単位数×成績評価によるポイントの合計，（２）は履修単位数

上記の計算式の対象となる授業科目は卒業要件単位に算入される授業科目です。ただし，成績評価がないもの（「○合」など），「保留」となっているものは含まれません。

なお，不可だった授業科目を再度履修して単位修得した場合，再履修による結果でＧＰＡを算出します（再履修による単位修得後は，不可だった初回の履修単位数は分母から除かれます）。

ＪＡＢＥＥ（ジャビー：Japan Accreditation Board for Engineering Education）

大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが，社会の要求水準を満たしているかどうかを，日本技術者教育認定機構が公平に評価し，要求水準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定制度のことです。

ポートフォリオ

学生の学修成果を集め，ファイル等にまとめたもののことです。テストやレポートのみならず，学生の書いた図画や，活動中の写真なども含まれます。本学ではアイフォリオと呼ばれるＷＥＢ上でのポートフォリオを使用しています。

履修取消制度

履修登録期間を過ぎた後に，学修上の理由で履修登録を取消したい場合，指定された履修取消期間にアイアシスタントより取り消す制度のことです。取消ができない科目もありますので，アイアシスタント等でよく確認してください。

履修取消の手続きをせずに，履修登録した科目を受講しなかった場合は，その科目の評価が「不可」となり，「ＧＰＡ算定」や「成績優秀者」判定に影響します。

Iⁿ Assistant2.0 & WebClass & Iⁿ Folio
（アイアシスタント 2.0＆ウェブクラス＆アイフォリオ）

１．Iⁿ Assistant2.0（アイアシスタント 2.0）

Iⁿ Assistant2.0（以下「アイアシスタント」という。）は，皆さんの学修を支援するためのシステムです。授業に関するお知らせや大学からの重要なお知らせ，シラバスの確認，履修申告等の様々な機能を有しています。また，WebClass や Iⁿ Folio を利用するための入り口となります。

大学生活に必要なシステムですので，毎日（遂次）利用するようにしてください。

＜システムのインストール＞

スマートフォン等に「アイアシスタント」アプリをインストールしてください。

iphone 等版（App Store）

Android 版（Google Play）

アプリを利用できない場合は，Web ブラウザ版（https://ia2.iwate-u.ac.jp）を利用してください。ただし，Web ブラウザ版にはプッシュ通知で各種お知らせを受け取る機能はありません。

＜ログイン＞

ログイン画面で「ログイン名」，「パスワード」を入力し，ログインボタンをタップ（初回のみ）してください。

ログイン名は，大学のメールアカウントになります。入学時に，メールアカウントとパスワードが配付されます。

これは，大学の端末室（パソコン教室）のパソコンを使う時のユーザ名，パスワードと同じになります。

万が一パスワードを忘れてしまった場合は，情報基盤センターに相談してください。

＜トップ＞

ログインすると，個人専用のトップページが表示されます。

学務関連新着情報には，履修関係（休講，補講，教室変更，その他），学務部からの各種お知らせ，呼び出しの情報が届きます。また，重要なお知らせや緊急時のお知らせ等もここに届くことになります。

その他の新着情報には，学生生活，学生支援（授業料免除や奨学金等含む），地域協創教育，キャリア支援，留学に関することや図書館からのお知らせが届きます。

＜My 時間割＞

My 時間割には，履修している科目の時間割が表示されます。また，授業時間表や 1 年間の大学のスケジュール等が，学年暦や行事予定表として表示されています。

My 時間割の科目名をタップすると，該当科目の WebClass が表示されます。

＜履修科目＞

履修科目の一覧が表示されます。履修科目のシラバスや LMS ボタンから該当科目の WebClass が表示されます。

＜シラバス＞

シラバスを検索，閲覧することができます。科目履修に必要な情報が掲載されていますので，履修申告する際は必ず確認するようにしてください。また，当該科目の担当教員に連絡を取りたい場合に必要な連絡先等もシラバスで確認することができます。

＜各種申告＞

各種申告では，履修に必須となる履修申告や，学生本人，保護者の連絡先を登録する住所変更・登録が行えます。また，取得を希望する資格（等）の種類を登録することができます。

＜学務関連＞

履修の手引きや学生生活の手引きをダウンロードすることができます。

＜リンク＞

関連の機関等のホームページへのリンクになります。

＜緊急連絡＞

災害時等の安否確認等を行うための機能になります。

＜設定＞

各種お知らせのプッシュ通知を受け取る設定や，My 時間割の表示場所を設定することができます。

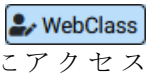
2．WebClass（ウェブクラス）

WebClass（以下「ウェブクラス」という。）は，教材の配付やテスト等，出席確認に利用されます。

その他，各種アンケート等にも利用されます。

＜利用＞

ウェブクラスは，アイアシスタントの My 時間割にある科目名をタップして，利用します。

なお，My 時間割の下の「Webclass のトップページへ」または 

をタップするとウェブクラスのトップページにアクセスできます。

時限(校時)	月	火
1	初級フランス語(入門)	
2		経済のしくみ

ウェブクラスでは，授業を「コース」と呼びます。
授業でウェブクラスを利用するかは，授業担当の教員によります。

＜教材＞

教材には，教材の一覧が表示され，タイムラインに教材が時系列で通知されます。

＜マイレポート＞

マイレポートには，提出したレポートのコメントや成績，提出日が表示されます。

＜成績＞

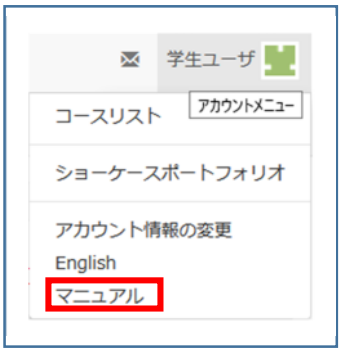
成績では，実施されたテストやレポートの採点結果を確認することができます。

＜出席＞

出席では授業の始めに出席データを送信したり，今までの出席状況を確認することができます。

＜マニュアル＞

マニュアルは，アカウントメニューからダウンロードすることができます。



3．Iⁿ Folio （アイフォリオ）

Iⁿ Folio （以下「アイフォリオ」という。）は，学位授与の方針（ディプロマポリシー，以下「ＤＰ」という。）の達成状況に関する自己評価や取得単位から算出される達成量，さらに学士力（学士課程共通のＤＰ），学修時間，学修体験に関する自己評価を見える化したシステムです。

＜利用＞

アイフォリオは，アイアシスタントの Iⁿ Folio をタップして利用します。

＜学生情報＞

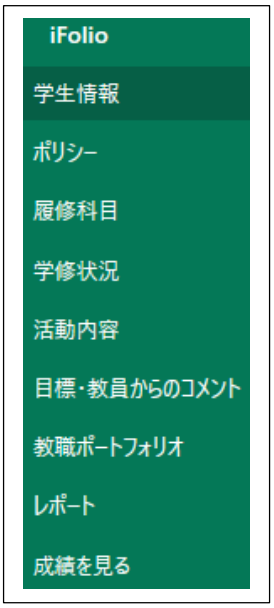
学生情報には，所属している学部，学科等のプログラム概要や学位授与方針が表示されます。

＜ポリシー＞

自己評価：各年度・学期ごとに「学位授与の方針」の達成状況についての自己評価を入力します。
入力しなければ，成績を見ることができません。

ＤＰグラフ：累積の達成量のグラフが表示されます。

累積達成量：各学期までの取得単位数×ＤＰに対する重みづけから算出された達成量です。



＜履修科目＞

履修した科目について，学修状況を評価入力します。
入力しなければ，成績を見ることができません。

＜レポート＞

ウェブクラスの学習記録ビューアが表示されます。

＜学修状況＞

学士力自己評価，学修時間自己評価，学修体験自己評価別の学期ごとの自己評価とそれらのレーダーチャートです。

＜活動内容＞

委員会活動やサークル・部活，インターンシップ，資格・検定等に関して，自身の活動を記録（入力）しておくことができます。

＜目標・教員からのコメント＞

学部によっては，学修ポートフォリオの一環として，年度ごとに学生が将来の希望や年間の目標，その成果等を記入し，それに対して教員がコメントを記入する取り組みが行われています。

＜教職ポートフォリオ＞

教員免許状を取得するのに必要な資質能力の向上のために利用します。

＜成績を見る＞

自身の修得単位，成績の状況を確認することができます。

また，修得した単位の集計表，GPA の値，履修中を含めた科目の一覧が表示されるほか，卒業に向けての単位の充足率（卒業要件をどのぐらい満たしているのかを判定した結果）を見ることができます。なお，この充足率は参考の情報となりますので，履修の手引きを参照のうえ，各自で必ず確認してください（修得した単位すべてが卒業要件の単位となるわけではないので，注意すること）。

なお，学期ごとに新たな成績を見るには，前述の各種自己評価を入力する必要があります。

＜マイレージ＞

国際教育センターで実施している「IHATOVO グローバルコース」，地域協創教育センターで実施している「イーハトーヴ協創コース」のマイレージポイントの状況を確認することができます。

大学メール

入学時に，大学で利用する学生専用のメールアドレス（～@iwate-u.ac.jp）が付与されます。

これは個人へのお知らせ等に利用されるもので，緊急時等にもこのメールにお知らせが届きます。アイアシスタントだけではなく，大学メールも毎日（随時）確認するようにしてください。

Ⅱ

教養教育について

（獣医学部を除く）

Ⅱ　教 養 教 育 について
（獣医学部を除く）

1　教養教育の理念

岩手大学は，各学部が行う専門教育とならんで，所属する学部にかかわらず全学生が共通に受けるべき教育として教養教育を設け，「基礎的な知識の修得を求め，多様な領域に対する学問的関心を喚起するとともに，幅広く深い教養と総合的な判断力を培い，地域社会と国際社会の発展に貢献できる豊かな人間性を涵養する」ことを理念としています。

この理念を実現するために，教養教育は，岩手大学のすべての教職員の関心・責任・協力のもとに実施されています。

教養教育科目は，「技法知科目」，「学問知科目」，「探究知科目」及び「実践知科目」によって構成されています。

2　教養教育の教育目的と修得すべき能力

教養教育における人材養成像を以下のとおり明示します。

教養教育の教育目的及び修得すべき能力

＜教育目的＞

岩手大学は，基礎的な知識を身につけ，多様な領域に対する学問的関心を高め，幅広く深い教養と総合的な判断力を培い，地域社会と国際社会の発展に貢献できる豊かな人間性を養うことを目的とし，すべての学生が共通に学ぶべき教養教育を提供する。

＜修得すべき能力＞

教養教育では，学生が以下の能力を修得することを目指す。

（1）自らの意欲や関心に基づき主体的に学び続ける能力
（2）自ら問題を発見・探究・解決する思考力と判断力
（3）複雑化する社会に適応するために必要な情報を収集し処理する基本的能力
（4）幅広い学問領域の知識を身につけ，専門分野に対する複合的視点を獲得するための総合的能力
（5）多様な人びとと協働するために必要なさまざまな言語による基本的コミュニケーション能力
（6）心と体の健康を保つ手段や方法を獲得するために必要な基礎的人間力
（7）自らの役割を認識し，身につけた教養を責任ある行動に結びつける能力

各科目区分等の教育目的及び修得すべき能力

Ａ　技法知科目

＜教育目的＞

「技法知科目」は，①外国語科目と情報科目の学習を通じて，学問知・探究知・実践知科目ならびに専門教育科目の学業を進めるうえで，さらに卒業後に社会生活を営むうえで必要となる基本的技能やその基礎となる知識を身につけるとともに，②健康・スポーツ科目の学習を通じて，社会生活を営む基盤となる健康・体力の増進を図ることを目的とする。

＜修得すべき能力＞

「技法知科目」では，学生が以下の能力を修得することを目指す。

（1）外国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる能力
（2）情報の収集・加工を適切に行うことができる能力
（3）自ら健康・体力の保持増進を図ることができる能力

1．外国語科目

・英語

＜教育目的＞

「英語」は，学生が英語を通して他国及び自国の文化や社会に関する理解を深め，英語を用いて積極的にコミュニケーションをとる姿勢を養成することを目的にする。

また，英語を自律的に学習する習慣を身につけさせ，修得した英語力を利用して，情報を効率的に収集・発信する能力を向上させることを目的とする。

さらに，英語による異文化コミュニケーションのあり方について認識を深めさせることも目的とする。

＜修得すべき能力＞

「英語」では，学生が以下の能力を修得することを目指す。

（1）十分な英語力を身につけていない習熟度が初級の学生にとっては，英文法や基礎的語彙・表現などの学習を通して，英語の基礎的な読み書き能力を修得し，それらを応用して簡単な日常会話ができるコミュニケーション能力

（2）ある程度の英語力を既に身につけている習熟度が中級の学生にとっては，様々なテーマについて書かれた入門レベルの英文を読みこなせる読解力，平易な英語を使って英文が書ける作文力，身近な話題について説明したり，簡単な意見を述べたりすることができるコミュニケーション能力

（3）高度な英語力を有する習熟度が上級の学生にとっては，各自の専門領域に関する複雑なテクストを正確に理解できる読解力，多様なトピックについて適切な英語表現を用いて英文が書ける作文力，相手に自分の意思を的確に伝えたり，論理的に意見を述べたりできるコミュニケーション能力

（4）上記，いずれの習熟度の授業においても，異文化に対する理解を深め，促進する

・英語以外の外国語

＜教育目的＞

「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」は，外国語の文法を習得した上で，①日常生活に必要な基本的な会話ができるようにすること，②外国語で書かれた文章を読むことができるようにすること，③日常生活で使う文章を外国語で書けるようにすること，④外国語学習を通して，異文化理解の基礎的知識を獲得すること，の４点を身につけることを目的とする。

＜修得すべき能力＞

「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」では，学生が以下の能力を修得することを目指す。

初級外国語（入門・発展）では，

（1）下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力

- ドイツ語技能検定試験　４級
- 実用フランス語技能検定試験　４級
- ロシア語能力検定試験　４級
- 中国語検定試験　４級
- 漢語水平考試（HSK）　３級
- 韓国語能力試験　TOPIK Ⅰ（1～2 級 140 点以上）
- ハングル能力検定試験　５級

（2）外国語を用いて，基本的なコミュニケーションを行うことができる能力

（3）易しい文章を読んだり書いたりできる能力

（4）国際化社会に対応できる，異文化を理解するための基礎的知識

中級外国語では，

（1）下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力

- ドイツ語技能検定試験　３級
- 実用フランス語技能検定試験　３級
- ロシア語能力検定試験　３級
- 中国語検定試験　３級
- 漢語水平考試（HSK）　４級
- 韓国語能力試験　TOPIK Ⅱ（3～6 級 120 点以上）
- ハングル能力検定試験　４級

（2）外国語を用いて，より高度なコミュニケーションを行うことができる能力

（3）やや難解な文章を読んだり書いたりできる能力

（4）国際化社会に対応できる，異文化を理解するための知識

・日本語

＜教育目的＞

「日本語」は，外国人留学生を対象とし，上級レベルの四技能（読む・書く・聞く・話す）の指導を通じ，日本語による情報収集，口頭発表，論文作成，討論など，大学の授業や研究活動に日本語を使用して参加する力の養成を目的とする。

＜修得すべき能力＞

「日本語」では，学生が以下の能力を修得することを目指す。

（1）文法力，読解力，聴解力については日本語能力試験Ｎ１レベル以上の能力
（2）レポート，小論文等の文章作成力，および，討論，口頭発表等の口頭表現力等，日本語教育の参照枠のＣ１レベル以上の日本語能力

２．健康・スポーツ科目

＜教育目的＞

「健康・スポーツ科目」は，スポーツを行うことによって健康と体力の保持増進を図り，コミュニケーション能力を高めるとともに，スポーツ科学やスポーツ文化についても理解を深めながら，生涯にわたりスポーツを実践する力を養うことを目的とする。

＜修得すべき能力＞

「健康・スポーツ科目」では，学生が以下の能力を修得することを目指す。
（1）スポーツ活動を通じて健康と体力の保持増進を図る能力
（2）スポーツ活動を通して他者とコミュニケーションを図る能力
（3）スポーツを科学的・文化的に理解するとともに生涯にわたってスポーツを実践する能力

３．情報科目

＜教育目的＞

「情報科目」は，高度情報化社会において社会生活を営む上で必要となるコンピュータと情報処理に関する基礎的な知識と技能を習得することを目的とする。

＜修得すべき能力＞

「情報科目」では，学生が以下の能力を修得することを目指す。
（1）コンピュータの基本的な仕組みを理解し，目的に応じて使うことができる基礎的な能力
（2）多種多様な情報から必要な情報を獲得し，目的に向けた適切な処理を行う基礎的な能力
（3）情報を適切に受発信するための基礎的な能力
（4）情報化社会におけるモラルや社会的な問題を理解し，適切な行動をとることができる能力

Ｂ　学問知科目

＜教育目的＞

「学問知科目」は，学生が諸学問分野の「ものの見方・考え方」を幅広く学ぶことによって，多様な学問領域への関心を高め，自分自身の専門分野が全体の中でどのような位置にあり，どのような意味・役割を持っているかを理解するとともに，教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

＜修得すべき能力＞

「学問知科目」では，学生が以下の能力を修得することを目指す。
（1）知識の修得を通じて，物事を多面的な角度から考察できる能力
（2）知識の修得を通じて，多様な価値観を受け入れることができる能力
（3）自然・人間・社会との関係において，各種の常識・通念を根底的に捉え直せるような「ものの見方・考え方」ができる能力

１．人文社会科学・教育学領域科目

＜教育目的＞

「人文社会科学・教育学領域科目」は，人文社会科学及び教育学における各学問分野の視点から，多様な文化の形成や意義，社会の成り立ち，教育や心理に関する諸問題を理解し，教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

＜修得すべき能力＞

「人文社会科学・教育学領域科目」では，学生が以下の能力を修得することを目指す。
（1）各種の文化や社会，教育，心理に関する基礎的な知識とそれらを多面的な角度から思考し考察できる能力
（2）各種の文化や社会，教育，心理に関する初歩的な専門知識に基づく思考能力

２．理学・工学領域科目

＜教育目的＞

「理学・工学領域科目」は，理学及び工学における各学問分野の視点から，自然を理解し役立てる上での基礎的な概念や考え方を学び，人間と自然とのかかわりをめぐるさまざまな問題を取り上げることによって，教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

＜修得すべき能力＞

「理学・工学領域科目」では，学生が以下の能力を修得することを目指す。
（1）人間と自然とのかかわりを多面的な角度から考察できる能力
（2）自然科学や科学技術に関する初歩的な専門知識に基づく思考能力

3．農学領域科目

＜教育目的＞

「農学領域科目」は，農学における各学問分野の視点から，生命や動植物，食料生産や環境に関することを学び，教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

＜修得すべき能力＞

「農学領域科目」では，学生が以下の能力を修得することを目指す。
（1）生命や動植物，食料生産や環境に関する基礎的な知識とそれらに関して考察できる能力
（2）自然科学や農林水産業に関する初歩的な専門知識に基づく思考能力

C　探究知科目

＜教育目的＞

「探究知科目」は，多元的・複合的な主題を掘り下げ，課題を見いだし，探究することで，幅広く深い教養と総合的な判断力を培うことを目的とする。

＜修得すべき能力＞

「探究知科目」では，学生が以下の能力を修得することを目指す。
（1）主体的に問いを立て，何が課題であるかを探究できる思考力
（2）事象間の繋がりや影響関係を複眼的に見いだすことができる能力
（3）激動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できる，総合的判断を行える能力

1．環境科目

＜教育目的＞

「環境科目」は，本学における環境教育の出発点として位置づけられていることから，環境に対する幅広い関心と深い認識を促し，環境についての多角的な「考え方」を養うことを目的とする。

＜修得すべき能力＞

「環境科目」では，学生が以下の能力を修得することを目指す。
（1）環境を，自らの主観によるのではなくデータなどに基づき客観的に理解する能力
（2）環境を，文系，理系などの自らの学ぶ専門領域を超えて，広い視野から理解する能力
（3）環境に関する問題を，人間や生物の生存と深くかかわるものと理解し，自らの問題として思考する能力

2．地域関連科目

＜教育目的＞

「地域関連科目」は，異分野の専門家と協働し，自らの専門性を地域の課題解決へ実践することができる能力を養うことを目的とする。

＜修得すべき能力＞

「地域関連科目」では，学生が以下の能力を修得することを目指す。
（1）異なる専門分野の者と協働して課題の発見・解決に取り組むことができる能力
（2）地域社会の現実に即して地域の課題解決に取り組む実践能力

・地域科目

＜教育目的＞

「地域科目」は，岩手の地域に関することを様々な分野・視点から学び，岩手の歴史・文化・特色を理解し，地域社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような総合的判断力を培うことを目的とする。

＜修得すべき能力＞

「地域科目」では，学生が以下の能力を修得することを目指す。
（1）多角的・複眼的な視点によって，岩手の地域社会を全体的に把握できる能力
（2）総合的な判断に基づいて，岩手の地域社会の諸問題に対して柔軟に対応できる能力

D　実践知科目

＜教育目的＞

「実践知科目」は，技法知・学問知・探究知で培った知識や情報，技能を活用する能力を基礎に，さまざまな客体に対する理解と働きかけについて実践的に学修し，身につけた知識を主体的に実践することで，地域の発展に貢献できる豊かな人間性を養うことを目的とする。

＜修得すべき能力＞

「実践知科目」では，学生が以下の能力を修得することを目指す。

（1）技法知・学問知・探究知科目で得た知識や情報を活用して課題を発見し解決する能力
（2）社会における自らの役割を認識し，責任感をもって主体的に行動する能力
（3）他者と協働して多様な意見を調整し，解決策を見出す能力

・地域課題演習科目

＜教育目的＞

「地域課題演習科目」は，学生が地域社会にある具体的課題の解決に向けて，身につけた知識を実践活動と結びつけるための考え方や方法を学部の枠を越えて学び，課題解決に必要な思考力・判断力を養うことを目的とする。

＜修得すべき能力＞

「地域課題演習科目」では，学生が以下の能力を修得することを目指す。

（1）自らの専門分野と異なる知識を修得し，他者の異なる意見も理解したうえで考察する能力
（2）異なる分野の人びとと協働して地域にある現実問題を積極的に解決しようとする意欲
（3）多様な人びとと共に課題解決に向けた協力体制を組織できるコミュニケーション能力
（4）学習で得た知識を社会での実践活動に活かす意欲と行動力
（5）学習で得た知識を課題の発見と解決に活かす能力

3　履修方法及び開設授業科目

履修については，本冊子及び授業時間割を参考にし，間違いのないよう注意してください。
同一名称の授業科目は重複して履修できません。ただし，日本語以外の外国語科目は重複して履修できます。
なお，**授業科目には，必修科目と選択科目の２種類があり，各学部，学科，課程ごとにそれぞれ範囲及び修得すべき単位数等が定められていますので，各学部の説明の項を熟読してください。**また，履修にあたっては前期のみ，または後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意してください。

A　技法知科目

（1）「外国語科目」の開講授業科目及び履修方法等
表Ｉａ－１

授　業　科　目	単位数	週時限数	授　業　科　目	単位数	週時限数
英語総合Ⅰ（上級）	1	1	初級ロシア語(入門)	1	1
英語総合Ⅱ（上級）	1	1	初級ロシア語(発展)	1	1
英語総合Ⅰ（中級）	1	1	中級ロシア語	1	1
英語総合Ⅱ（中級）	1	1	初級中国語（入門）	1	1
英語総合Ⅰ（初級）	1	1	初級中国語（発展）	1	1
英語総合Ⅱ（初級）	1	1	中級中国語	1	1
英語コミュニケーションⅠ(上級)	1	1	初級韓国語（入門）	1	1
英語コミュニケーションⅡ(上級)	1	1	初級韓国語（発展）	1	1
英語コミュニケーションⅠ(中級)	1	1	中級韓国語	1	1
英語コミュニケーションⅡ(中級)	1	1	上級日本語A	1	1
英語コミュニケーションⅠ(初級)	1	1	上級日本語B	1	1
英語コミュニケーションⅡ(初級)	1	1	上級日本語C	1	1
初級ドイツ語（入門）	1	1	上級日本語D	1	1
初級ドイツ語（発展）	1	1	上級日本語E	1	1
中級ドイツ語	1	1	上級日本語F	1	1
初級フランス語(入門)	1	1	上級日本語G	1	1
初級フランス語(発展)	1	1	上級日本語H	1	1
中級フランス語	1	1			

－履修年次－
１年次に履修すること。履修方式は学部ごとに異なるので，注意すること。
また，クラス分けを行っているので，注意すること（掲示により確認すること）。

（注）１．外国語は週１時限で１単位。
２．「英語」と「英語以外の外国語」を合わせて，計８単位履修すること。
３．英語総合Ⅰ・Ⅱは「読むことと書くこと」を中心とする授業であり，英語コミュニケーションⅠ・Ⅱは「聞くことと話すこと」を中心とする授業である。
４．英語以外の外国語は，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国語から１つの言語を履修する。中級外国語は，初級外国語と同一言語を履修する。
５．英語以外の外国語は，初級（入門），初級（発展）の順に履修すること。
ただし，集中型（入門と発展を併せて週４回行う。）の授業の場合は，同時に履修すること。
６．外国人留学生は，外国語科目として日本語を履修することができる。
７．外国人留学生は，母語（native language），および CEFR C1 レベル以上の既習得言語を，「外国語科目」として履修できない。
８．英語以外の外国語で１科目当たり６０時間以上を高校等で履修してきた学生は，別に指示するので申し出ること。
９．「英語」については，上記のほか表Ｉａ－２のとおり開設授業科目がある。

表Ｉａ－２

授　業　科　目	単位数	週時限数	備考
英語発展Ａ（TOEIC 初級）	1	1	２年次以上対象
英語発展Ｂ（TOEIC 中級）	1	1	２年次以上対象
英語発展Ｃ（実践英語）	1	1	２年次以上対象
英語発展Ｄ（科学英語）	1	1	２年次以上対象

－履修年次－

「英語発展」は２年次以上に履修すること。

なお，「英語発展」で修得した単位は選択となる。

（注）１．外国語は週１時限で１単位。

２．英語発展Ａ～Ｄに履修の順番はない。ただし，英語発展Ｂ（TOEIC 中級）の単位を修得した場合，英語発展Ａ（TOEIC 初級）を履修することはできない。

３．英語発展Ａ（TOEIC 初級）は，TOEIC スコア 500 点を到達目標とした授業である。
英語発展Ｂ（TOEIC 中級）は，TOEIC スコア 600 点を到達目標とした授業である。
英語発展Ｃ（実践英語）は，日常生活で使用する実践的な英語力を養うことを目的とした授業である。
英語発展Ｄ（科学英語）は，「科学」をテーマにした文献の読解力の養成と英語によるプレゼンテーション能力を高めることを目的とした授業である。

（２）「健康・スポーツ科目」の開講授業科目及び履修方法等

表Ｉｂ

授　業　科　目	単位数	週時限数	備　　考
健康・スポーツＡ	1	1	通常実技(理論含む)
健康・スポーツＢ	1	1	通常実技(理論含む)
健康・スポーツＣ（シーズン）	1	集中	集中実技(理論含む)

－履修年次－

全学部とも健康・スポーツＡは１年次前期に，健康・スポーツＢは１年次後期に履修すること。

（注）１．全学部とも健康・スポーツＡ（１単位）は必ず履修すること。健康・スポーツ科目が２単位必修の教育学部は，健康・スポーツＢ（１単位）を必ず履修すること。

２．健康・スポーツＣ（シーズン）は，「雪上のスポーツ」，「氷上のスポーツ」から１つ履修できる。

３．健康・スポーツＢ（教育学部対象を除く）と健康・スポーツＣ（シーズン）は人数制限があるので注意すること。

（３）「情報科目」の開講授業科目及び履修方法等

表Ｉｃ　（１年次対象）

授　業　科　目	単位数	週時限数	備　　考
情報基礎Ａ	2	1	機器の操作含む
情報基礎Ｂ	2	1	機器の操作含む

－履修年次－

全学部とも情報基礎Ａは１年次前期に，情報基礎Ｂは１年次後期に履修すること。

また，端末台数の関係上，学部毎に学科等の単位でのクラス編成または学籍番号によるクラス編成を行っているので，注意すること（時間割及び掲示により確認すること）。

（注）１．全学部とも情報基礎Ａ（２単位）は必ず修得すること。情報基礎Ｂ（２単位）は１年次後期に履修することができる。

２．高校で情報科目を履修し，所定のレベルを有するものは早期に単位を修得できる場合がある。

B　学問知科目

（1）「人文社会科学・教育学領域科目」の開講授業科目・単位数・週時間数
表Ｉｄ

授　業　科　目	単位数	週時限数
思想	2	1
芸術学	2	1
文学	2	1
言語学	2	1
歴史学	2	1
法学	2	1
憲法	2	1
政治学	2	1
経済学・経営学	2	1
社会学	2	1
教育学	2	1
心理学	2	1

（2）「理学・工学領域科目」の開講授業科目・単位数・週時間数
表Ｉｅ

授　業　科　目	単位数	週時限数
物質科学	2	1
自然科学	2	1
材料科学	2	1
電気電子工学	2	1
エネルギー科学	2	1
数理情報科学	2	1
機械科学	2	1
環境・防災学	2	1
メディア情報学	2	1

（3）「農学領域科目」の開講授業科目・単位数・週時間数
表Ｉｆ

授　業　科　目	単位数	週時限数
農学基礎	2	1
食品健康科学	2	1
分子生物機能科学	2	1
分子生命医科学	2	1
農業環境工学	2	1
森林科学	2	1
動物科学	2	1
水産学基礎	2	1
獣医学A	2	1
獣医学B	2	1
獣医学C	2	1

C　探究知科目

（1）「環境科目」の開講授業科目・単位数・週時間数

表Ｉｇ

授　業　科　目	単位数	週時限数
環境A	2	1
環境B	2	1
環境C	2	1
環境D	2	1
環境E	2	1
環境F	2	1

（2）「地域科目（地域関連科目）」の開講授業科目・単位数・週時間数

表Ｉｈ

授　業　科　目	単位数	週時限数	授　業　科　目	単位数	週時限数
現代社会をみる視角	2	1	地域協創E	1	1
宮沢賢治の世界	2	1	地域協創F	1	1
危機管理と復興	2	集中	地域協創G	1	1
地場産業･企業論	2	集中	地域協創H	1	1
ボランティアとリーダーシップ	2	集中	地域協創Ｉ	1	1
地域協創入門	2	1	キャリアを考えるA	2	1
社会連携学A	2	1	キャリアを考えるB	2	1
社会連携学B	2	1	日本事情A	2	1
地域協創A	1	1	日本事情B	2	1
地域協創B	1	1	多文化コミュニケーションA	2	1
地域協創C	1	1	多文化コミュニケーションB	2	1
地域協創D	1	1			

D　実践知科目

（1）「地域課題演習科目（地域関連科目）」の開講授業科目及び履修方法等

表Ｉｉ

授　業　科　目	単位数	週時限数
地域防災課題演習	2	1
地域グローバル課題演習	2	1
地域クリエイト課題演習	2	1
地域課題演習A	2	1
地域課題演習B	2	1
地域課題演習C	2	1
地域課題演習D	2	1
インターカレッジ・フィールド実践演習	2	1
キャリアデザイン実践演習	2	1
海外研修–世界から地域を考える–	2	集中

（注）地域課題演習科目（２単位）は，人数制限があるので注意すること。

４　「選択」について

外国語科目（「英語発展」のみ）ならびに必修単位数を超えた健康・スポーツ科目，情報科目，人文社会科学・教育学領域科目，理学・工学領域科目，農学領域科目，地域関連科目（地域科目，地域課題演習科目）を「選択」に充てることができます。

また，いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換協定に基づき，他大学で修得した科目については，所定単位数までは「選択」のなかに取り入れることができます。

なお，「選択」の範囲及び修得すべき単位数等については，学部，学科，課程により異なるので各学部の説明の項を参照してください。

参考:開設授業科目要件区分／標準履修学年・時期早見表

履修区分			科目名 (※印は集中講義形式で開講)	単位数	要件区分	標準履修 学年・時期	備考
技法知科目	外国語科目	英語	英語総合Ⅰ(初級)	1	選択	1	履修希望調査及び大学入学共通テストとオックスフォード・プレースメント・テストによりクラス分けを行う。 (掲示により確認すること)
			英語総合Ⅰ(中級)	1	選択	1	
			英語総合Ⅰ(上級)	1	選択	1	
			英語総合Ⅱ(初級)	1	選択	1	
			英語総合Ⅱ(中級)	1	選択	1	
			英語総合Ⅱ(上級)	1	選択	1	
			英語コミュニケーションⅠ(初級)	1	選択	1	
			英語コミュニケーションⅠ(中級)	1	選択	1	
			英語コミュニケーションⅠ(上級)	1	選択	1	
			英語コミュニケーションⅡ(初級)	1	選択	1	
			英語コミュニケーションⅡ(中級)	1	選択	1	
			英語コミュニケーションⅡ(上級)	1	選択	1	
			英語発展A(TOEIC 初級)	1	選択	2前	
			英語発展B(TOEIC 中級)	1	選択	2後	
			英語発展C(実践英語)	1	選択	2前	
			英語発展D(科学英語)	1	選択	2後	
		英語以外	初級ドイツ語(入門)	1	選択	1	履修希望調査によりクラス分けを行う。 (掲示により確認すること)
			初級ドイツ語(発展)	1	選択	1	
			中級ドイツ語	1	選択	1後	
			初級フランス語(入門)	1	選択	1	
			初級フランス語(発展)	1	選択	1	
			中級フランス語	1	選択	1後	
			初級ロシア語(入門)	1	選択	1	
			初級ロシア語(発展)	1	選択	1	
			中級ロシア語	1	選択	1後	
			初級中国語(入門)	1	選択	1	
			初級中国語(発展)	1	選択	1	
			中級中国語	1	選択	1後	
			初級韓国語(入門)	1	選択	1	
			初級韓国語(発展)	1	選択	1	
			中級韓国語	1	選択	1後	
			上級日本語A	1	選択	1前	
			上級日本語B	1	選択	1前	
			上級日本語C	1	選択	1前	
			上級日本語D	1	選択	1前	
			上級日本語E	1	選択	1後	
			上級日本語F	1	選択	1後	
			上級日本語G	1	選択	1後	
			上級日本語H	1	選択	1後	
	健康・スポーツ科目		健康・スポーツA	1	必修	1前	
			健康・スポーツB	1	必修／選択	1後	
			健康・スポーツC(シーズン) ※	1	選択	1後	
	情報科目		情報基礎A	2	必修	1前	学部毎に学科等の単位でのクラス編成または学籍番号でのクラス編成を行う。 (時間割及び掲示により確認すること)
			情報基礎B	2	選択	1後	
学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目		思想	2	選択	1・2	教育学部生は，時間割を確認の上，「憲法」を１年前期に履修すること。
			芸術学	2	選択	1・2	
			文学	2	選択	1・2	
			言語学	2	選択	1・2	
			歴史学	2	選択	1・2	
			法学	2	選択	1・2	
			憲法	2	必修／選択	1・2	
			政治学	2	選択	1・2	
			経済学・経営学	2	選択	1・2	
			社会学	2	選択	1・2	
			教育学	2	選択	1・2	
			心理学	2	選択	1・2	

履修区分			科目名 (※印は集中講義形式で開講)	単位数	要件区分	標準履修 学年・時期	備考
学問知科目	理学・工学領域科目		物質化学	2	選択	1・2	
			自然科学	2	選択	1・2	
			材料科学	2	選択	1・2	
			電気電子工学	2	選択	1・2	
			エネルギー科学	2	選択	1・2	
			数理情報科学	2	選択	1・2	
			機械科学	2	選択	1・2	
			環境・防災学	2	選択	1・2	
			メディア情報学	2	選択	1・2	
	農学領域科目		農学基礎	2	選択	1・2	
			食品健康科学	2	選択	1・2	
			分子生物機能科学	2	選択	1・2	
			分子生命医科学	2	選択	1・2	
			農業環境工学	2	選択	1・2	
			森林科学	2	選択	1・2	
			動物科学	2	選択	1・2	
			水産学基礎	2	選択	1・2	
			獣医学A	2	選択	1・2	
			獣医学B	2	選択	1・2	
			獣医学C	2	選択	1・2	
探究知科目	環境科目		環境A	2	選択	1・2 前	
			環境B	2	選択	1・2 前	
			環境C	2	選択	1・2 前	
			環境D	2	選択	1・2 後	
			環境E	2	選択	1・2 後	
			環境F	2	選択	1・2 後	
	地域関連科目	地域科目	現代社会をみる視角	2	選択	1・2	
			宮沢賢治の世界	2	選択	1・2	
			危機管理と復興 ※	2	選択	1・2	
			地場産業・企業論 ※	2	選択	1・2	
			ボランティアとリーダーシップ ※	2	選択	1・2	
			地域協創入門	2	選択	1・2	
			社会連携学A	2	選択	1・2	
			社会連携学B	2	選択	1・2	
			地域協創A	1	選択	1・2	
			地域協創B	1	選択	1・2	
			地域協創C	1	選択	1・2	
			地域協創D	1	選択	1・2	
			地域協創E	1	選択	1・2	
			地域協創F	1	選択	1・2	
			地域協創G	1	選択	1・2	
			地域協創H	1	選択	1・2	
			地域協創I	1	選択	1・2	
			キャリアを考えるA	2	選択	1・2	
			キャリアを考えるB	2	選択	1・2	
			日本事情A	2	選択	1・2	
			日本事情B	2	選択	1・2	
			多文化コミュニケーションA	2	選択	1・2	
			多文化コミュニケーションB	2	選択	1・2	
実践知科目		地域課題演習科目	地域防災課題演習	2	選択	2	
			地域グローバル課題演習	2	選択	2	
			地域クリエイト課題演習	2	選択	2	
			地域課題演習A	2	選択	2	
			地域課題演習B	2	選択	2	
			地域課題演習C	2	選択	2	
			地域課題演習D	2	選択	2	
			インターカレッジ・フィールド実践演習	2	選択	2	
			キャリアデザイン実践演習	2	選択	2	
			海外研修-世界から地域を考える- ※	2	選択	2	

注1:各学部の履修単位数及び履修方法を確認すること。

注2:履修にあたっては前期のみまたは後期のみの開設授業科目や年度により開設しない科目があるので，時間割を確認すること。

なお，時間割には，学年・学部・学科等の単位で履修できる枠(時間割枠)があるので，注意すること。

注3:科目名の※印は集中講義形式での開講を示しているが，これ以外でも集中講義形式で開講する場合がある。

5　各学部の修得すべき単位数と履修の注意点

人文社会科学部

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが，修得すべき単位数及び履修方法については，以下のようになりますので，熟読のうえ履修してください。

表Ⅱａ　教養教育科目の修得すべき単位数

区分				人文社会科学部		
				必修単位	選択	
					(選択可能)	単位
教養教育科目	技法知科目	外国語科目	英語	8	(2)	7 「Ⅲ　選択」参照
			英語以外			
			日本語			
		健康・スポーツ科目		1	(2)	
		情報科目		2	(2)	
	技法知科目修得単位数計			11		
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目		2	(2)	
		理学・工学領域科目		2	(2)	
		農学領域科目		2	(2)	
	学問知科目修得単位数計			6		
	探究知科目	環境科目		4		
		地域関連科目	地域科目		(2)	
	実践知科目		地域課題演習科目			
	探究知・実践知科目取得単位合計数			4		
	教養教育科目修得単位数計			28		

(注) 1．各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。
2．「選択可能」欄の数字は，教養教育科目の修得すべき単位数のうち，各科目から「選択」として修得できる上限単位数を表す。
3．上記の表だけで判断せず，下の説明も確認すること。

Ⅰ　技法知科目（１１単位）
必修単位（１１単位）
① 外国語科目（英語・英語以外の外国語）（８単位）
英語，英語以外の外国語を次のａ～ｃのいずれか１つの履修形態を選択し修得すること。
ａ．英語８単位
英語総合Ⅰ・Ⅱを各２単位，英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各２単位，合計８単位
ｂ．英語４単位，英語以外の外国語４単位，計８単位
英語総合Ⅰ・Ⅱを各１単位，英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各１単位，計４単位及び英語以外の外国語から１外国語を選択し，初級（入門）を２単位，初級（発展）を２単位，計４単位，合計８単位
ｃ．英語以外の外国語８単位
１外国語を選択し，初級（入門）を２単位，初級（発展）を２単位，中級を４単位，計８単位

② 健康・スポーツ科目（１単位）
健康・スポーツＡ（１単位）を修得すること。

③ 情報科目（２単位）
情報基礎Ａ（２単位）を修得すること。

Ⅱ 学問知科目，探究知科目及び実践知科目（１０単位）
必修単位（１０単位）
① 「人文社会科学・教育学領域科目」から２単位を修得すること。
② 「理学・工学領域科目」から２単位を修得すること。
③ 「農学領域科目」から２単位を修得すること。
④ 「環境科目」，「地域科目」，「地域課題演習科目」から４単位を修得すること。

※Ⅲ 選択（７単位）
次の区分から７単位を修得すること。なお，区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。
また，いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき，他大学で修得した科目を含むことができる。
① 「外国語科目」（「英語発展」のみ。２単位まで）
② 「健康・スポーツ科目」（２単位まで）
健康・スポーツＢ，健康・スポーツＣ（シーズン）は，人数制限があるので注意すること。
③ 「情報科目」（２単位まで）
④ 「人文社会科学・教育学領域科目」（２単位まで）
⑤ 「理学・工学領域科目」（２単位まで）
⑥ 「農学領域科目」（２単位まで）
⑦ 「地域科目」，「地域課題演習科目」（２単位まで）

－履修上の注意事項－
１ 「外国語科目」，「健康・スポーツ科目」，「情報科目」は１年次に，それぞれ決められた時間帯で履修すること。また「外国語科目（英語発展）」は２年次以降に履修すること。

２ 教育職員免許状取得希望者は，日本国憲法として「人文社会科学・教育学領域科目」で**憲法２単位**，**健康・スポーツ科目２単位修得**する必要があるので注意すること。

３ 履修については，本冊子及び授業時間割表を参考にし，間違いのないよう注意すること。
なお，同一名称の授業科目は重複して履修できない。ただし，日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。
また，履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。

４ 外国語科目は，入学時に決定する決定語学のとおりに履修すること（掲示により確認すること）。
なお，人文社会科学部の学生は，前期末に行う外国語科目の変更希望調査により，後期に履修する決定語学の変更を許可される場合がある。ただし，決定語学の変更は，１年次のみに認められ，２年次以降の変更はできないので，変更の手続きについては掲示を確認すること。

教 育 学 部

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが，修得すべき単位数及び履修方法については，以下のようになりますので，熟読のうえ履修してください。

表Ⅱｂ　教養教育科目の修得すべき単位数

区分				教育学部		
				必修単位	選択	
					(選択可能)	単位
教養教育科目	技法知科目	外国語科目	英語	4	(2)	4「Ⅲ 選択」参照
			英語以外	4		
			日本語			
		健康・スポーツ科目		2	(1)	
		情報科目		2	(2)	
	技法知科目修得単位数計			12		
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目（憲法）		2		
		人文社会科学・教育学領域科目		2	(2)	
		理学・工学領域科目		2	(2)	
		農学領域科目		2	(2)	
	学問知科目修得単位数計			8		
	探究知科目	環境科目		4		
		地域関連科目	地域科目		(2)	
	実践知科目		地域課題演習科目			
	探究知・実践知科目取得単位合計数			4		
	教養教育科目修得単位数計			28		

(注) 1．各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。
2．「選択可能」欄の数字は，教養教育科目の修得すべき単位数のうち，各科目から「選択」として修得できる上限単位数を表す。
3．上記の表だけで判断せず，下の説明も確認すること。

Ⅰ　技法知科目（１２単位）
必修単位（１２単位）

① 外国語科目（英語）（４単位）
英語総合Ⅰ・Ⅱを各１単位，英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各１単位，合計４単位を修得すること。

② 外国語科目（英語以外の外国語）（４単位）
１外国語を選択し，初級（入門）を２単位，初級（発展）を２単位，合計４単位を修得すること。

③ 健康・スポーツ科目（２単位）
健康・スポーツＡ（１単位）及び健康・スポーツＢ（１単位）を修得すること。

④ 情報科目（２単位）
情報基礎Ａ（２単位）を修得すること。

Ⅱ　学問知科目，探究知科目及び実践知科目（１２単位）

必修単位（１２単位）

①　「人文社会科学・教育学領域科目」から憲法（２単位）を修得すること。
②　「人文社会科学・教育学領域科目」から憲法を除き２単位を修得すること。
③　「理学・工学領域科目」から２単位を修得すること。
④　「農学領域科目」から２単位を修得すること。
⑤　「環境科目」，「地域科目」，「地域課題演習科目」から４単位を修得すること。

※Ⅲ　選択（４単位）

次の区分から４単位を修得すること。なお，区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。

また，いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき，他大学で修得した科目を含むことができる。

①　「外国語科目」（「英語発展」のみ。２単位まで）
②　「健康・スポーツ科目」（１単位まで）

健康・スポーツＣ（シーズン）は，人数制限があるので注意すること。

③　「情報科目」（２単位まで）
④　「人文社会科学・教育学領域科目」（憲法を除く）（２単位まで）
⑤　「理学・工学領域科目」（２単位まで）
⑥　「農学領域科目」（２単位まで）
⑦　「地域科目」，「地域課題演習科目」（２単位まで）

－履修上の注意事項－

１　「外国語科目」，「健康・スポーツ科目」，「情報科目」は１年次に，それぞれ決められた時間帯で履修すること。また，「外国語科目（英語発展）」は２年次以降に履修すること。

２　履修については，本冊子及び授業時間割表を参考にし，間違いのないよう注意すること。

なお，同一名称の授業科目は重複して履修できない。ただし，日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。

また，履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。

３　外国語科目は，入学時に決定する決定語学のとおりに履修すること（掲示により確認すること）。

決定語学は変更できない。

理 工 学 部

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが，修得すべき単位数及び履修方法については，以下のようになりますので，熟読のうえ履修してください。

表Ⅱｃ　教養教育科目の修得すべき単位数

区分				理工学部		
				必修単位	選択	
					(選択可能)	単位
教養教育科目	技法知科目	外国語科目	英語	8	(2)	7 「Ⅲ 選択」参照
			英語以外			
			日本語			
		健康・スポーツ科目		1	(1)	
		情報科目		2	(2)	
	技法知科目修得単位数計			11		
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目		2	(2)	
		理学・工学領域科目		2	(2)	
		農学領域科目		2	(2)	
	学問知科目修得単位数計			6		
	探究知科目	環境科目		4		
		地域関連科目	地域科目		(2)	
	実践知科目		地域課題演習科目			
	探究知・実践知科目取得単位合計数			4		
	教養教育科目修得単位数計			28		

(注) 1．各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。
2．「選択可能」欄の数字は，教養教育科目の修得すべき単位数のうち，各科目から「選択」として修得できる上限単位数を表す。
3．上記の表だけで判断せず，下の説明も確認すること。

Ⅰ　技法知科目（１１単位）

必修単位（１１単位）

① 外国語科目（英語・英語以外の外国語）（８単位）

英語，英語以外の外国語を次のａ～ｂのどちらか１つの履修形態を選択し修得すること。

ａ．英語８単位

英語総合Ⅰ・Ⅱを各２単位，英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各２単位，合計８単位

ｂ．英語４単位，英語以外の外国語４単位，計８単位

英語総合Ⅰ・Ⅱを各１単位，英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各１単位，計４単位及び英語以外の外国語から１外国語を選択し，初級（入門）を２単位，初級（発展）を２単位，計４単位，合計８単位

② 健康・スポーツ科目（１単位）

健康・スポーツＡ（１単位）を修得すること。

③ 情報科目（２単位）

情報基礎Ａ（２単位）を修得すること。

Ⅱ　学問知科目，探究知科目及び実践知科目（１０単位）

必修単位（１０単位）

①　「人文社会科学・教育学領域科目」から２単位を修得すること。
②　「理学・工学領域科目」から２単位を修得すること。
③　「農学領域科目」から２単位を修得すること。
④　「環境科目」，「地域科目」，「地域課題演習科目」から４単位を修得すること。

※Ⅲ　選択（７単位）

次の区分から７単位を修得すること。なお，区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。

また，いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき，他大学で修得した科目を含むことができる。

①　「外国語科目」（「英語発展」のみ。２単位まで）
②　「健康・スポーツ科目」（１単位まで）
　　健康・スポーツＢ，健康・スポーツＣ（シーズン）は，人数制限があるので注意すること。
③　「情報科目」（２単位まで）
④　「人文社会科学・教育学領域科目」（２単位まで）
⑤　「理学・工学領域科目」（２単位まで）
⑥　「農学領域科目」（２単位まで）
⑦　「地域科目」，「地域課題演習科目」（２単位まで）

－履修上の注意事項－

１　「外国語科目」，「健康・スポーツ科目」，「情報科目」は１年次に，それぞれ決められた時間帯で履修すること。また，「外国語科目（英語発展）」は２年次以降に履修すること。

２　教育職員免許状取得希望者は，日本国憲法として「人文社会科学・教育学領域科目」で**憲法２単位**，**健康・スポーツ科目２単位修得**する必要があるので注意すること。

３　履修については，本冊子及び授業時間割表を参考にし，間違いのないよう注意すること。
なお，同一名称の授業科目は重複して履修できない。ただし，日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。
また，履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。

４　外国語科目は，入学時に決定する決定語学のとおりに履修すること（掲示により確認すること）。
決定語学は変更できない。

農　学　部

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが，修得すべき単位数及び履修方法については，以下のようになりますので，熟読のうえ履修してください。

表Ⅱｄ　教養教育科目の修得すべき単位数

<table>
<tr><th colspan="4" rowspan="3">区　　分</th><th colspan="3">農　学　部</th></tr>
<tr><th rowspan="2">必修
単位</th><th colspan="2">選択</th></tr>
<tr><th>(選択可能)</th><th>単位</th></tr>
<tr><td rowspan="13">教養教育科目</td><td rowspan="6">技法知科目</td><td rowspan="3">外国語科目</td><td>英語</td><td rowspan="3">8</td><td>（2）</td><td rowspan="13">7
「Ⅲ　選択」
参照</td></tr>
<tr><td>英語以外</td><td></td></tr>
<tr><td>日本語</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">健康・スポーツ科目</td><td>1</td><td>（2）</td></tr>
<tr><td colspan="2">情報科目</td><td>2</td><td>（2）</td></tr>
<tr><td colspan="3">技法知科目修得単位数計</td><td>１１</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">学問知科目</td><td colspan="2">人文社会科学・教育学領域科目</td><td>2</td><td>（2）</td></tr>
<tr><td colspan="2">理学・工学領域科目</td><td>2</td><td>（2）</td></tr>
<tr><td colspan="2">農学領域科目</td><td>2</td><td>（2）</td></tr>
<tr><td colspan="3">学問知科目修得単位数計</td><td>6</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">探究知科目</td><td colspan="2">環境科目</td><td rowspan="3">4</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">地域関連科目</td><td>地域科目</td><td rowspan="2">（2）</td></tr>
<tr><td>実践知科目</td><td>地域課題演習科目</td></tr>
<tr><td colspan="3">探究知・実践知科目取得単位合計数</td><td>4</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">教養教育科目修得単位数計</td><td colspan="3">２８</td></tr>
</table>

（注）１．各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。
２．「選択可能」欄の数字は，教養教育科目の修得すべき単位数のうち，各科目から「選択」として修得できる上限単位数を表す。
３．上記の表だけで判断せず，下の説明も確認すること。

Ⅰ　技法知科目（１１単位）

必修単位（１１単位）

①　外国語科目（英語・英語以外の外国語）（８単位）

英語，英語以外の外国語を次のａ～ｂのどちらか１つの履修形態を選択し修得すること。

ａ．英語８単位

英語総合Ⅰ・Ⅱを各２単位，英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各２単位，合計８単位

ｂ．英語４単位，英語以外の外国語４単位，計８単位

英語総合Ⅰ・Ⅱを各１単位，英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各１単位，計４単位及び英語以外の外国語から１外国語を選択し，初級（入門）を２単位，初級（発展）を２単位，計４単位，合計８単位

②　健康・スポーツ科目（１単位）

健康・スポーツＡ（１単位）を修得すること。

③　情報科目（２単位）

情報基礎Ａ（２単位）を修得すること。

Ⅱ　学問知科目，探究知科目及び実践知科目（１０単位）

必修単位（１０単位）

①　「人文社会科学・教育学領域科目」から２単位を修得すること。
②　「理学・工学領域科目」から２単位を修得すること。
③　「農学領域科目」から２単位を修得すること。
④　「環境科目」，「地域科目」，「地域課題演習科目」から４単位を修得すること。

※Ⅲ　選択（７単位）

次の区分から７単位を修得すること。なお，区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。

また，いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき，他大学で修得した科目を含むことができる。

①　「外国語科目」（「英語発展」のみ。２単位まで）
②　「健康・スポーツ科目」（２単位まで）

健康・スポーツＢ，健康・スポーツＣ（シーズン）は，人数制限があるので注意すること。

③　「情報科目」（２単位まで）
④　「人文社会科学・教育学領域科目」（２単位まで）
⑤　「理学・工学領域科目」（２単位まで）
⑥　「農学領域科目」（２単位まで）
⑦　「環境科目」，「地域科目」，「地域課題演習科目」から４単位を修得すること。

－履修上の注意事項－

１　「外国語科目」，「情報科目」，「健康・スポーツ科目」は１年次に，それぞれ決められた時間帯で履修すること。また，「外国語科目（英語発展）」は２年次以降に履修すること。

２　教育職員免許状取得希望者は，日本国憲法として「人文社会科学・教育学領域科目」で**憲法２単位**，**健康・スポーツ科目２単位修得**する必要があるので注意すること。

３　履修については，本冊子及び授業時間割表を参考にし，間違いのないよう注意すること。

なお，同一名称の授業科目は重複して履修できない。ただし，日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。

また，履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。

４　外国語科目は，入学時に決定する決定語学のとおりに履修すること（掲示により確認すること）。
決定語学は変更できない。

Ⅲ

専門教育について

人文社会科学部

人文社会科学部学生の皆さんへ

皆さんの科目履修については，この「履修の手引き」に全て記載してありますので，関係する部分をよく読んでください。

本手引きの記載内容に変更等ある場合は，その都度，アイアシスタント・掲示板でお知らせします。

【教養教育科目の履修】

Ⅱ‐13～Ⅱ‐14 に書いてある単位を修得してください。

【専門教育科目の履修】

下記の順に掲載しています。

1．人文社会科学部の理念・目的
2．卒業認定・学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針
3．人文社会科学部教育課程規則
4．人文社会科学部教育課程履修細則
5．卒業に必要な単位数および主・副専修プログラム等について
6．人間文化課程　科目等一覧
7．地域政策課程　科目等一覧
8．課程横断型プログラムおよび課外科目一覧
9．取得可能な資格等について

【教育職員免許状等の取得について】

中学校教諭（一種），高等学校教諭（一種）の免許等の取得が可能です。

履修すべき単位数や免許等取得の条件等については，本手引きで確認してください。

ガイダンス等は全てアイアシスタント及び掲示板でお知らせしますので，日頃から注意してください。

【学生センター相談窓口】

教養教育科目に関すること＝学生センター②窓口

専門教育科目・教員免許や学芸員等資格取得に関すること＝学生センター③窓口

※人文社会科学部ＨＰにプログラムごとの履修のながれを示しています。

https://jinsha.iwate-u.ac.jp/

１．人文社会科学部の理念・目的

◆理念と目標

＊理念

岩手大学人文社会科学部は，教育研究における「総合化」と「専門深化」をともに追究する。その実現のため，人文社会諸科学と芸術文化に関する総合的教育研究を，自然科学との連携のもとに行い，地域社会および国際社会の持続的発展に貢献する。

＊教育目標

人文社会科学部は，幅広く深い教養と豊かな人間性，複雑化・高度化が進む現代社会に対応することができる総合的な知見・思考力・判断力，および広い国際的視野を育むための教育を行う。

カリキュラムにおいて，教養教育と専門教育との有機的な連携，および専門教育における人文社会諸科学・芸術文化と自然科学との密接な連携を図り，教育における「総合化と専門深化」の実現をめざす。

＊研究目標

人文社会科学部は，グローバル化が進む現代社会の諸問題を解明・解決し，地域社会に暮らす人々の生活に貢献することを目的として，以下の視点から独創的で多面的・総合的な研究を行う。

（１）固有の文化を育み，それを歴史的に継承してきた地域社会と，そこに暮らす人々の行動の特徴

（２）グローバル化が地域社会に及ぼす影響

（３）地域における社会システム・環境システムの特徴

＊社会貢献目標

人文社会科学部は，地域社会が抱える諸課題を自らの課題として，これらに積極的に対応し，研究成果の地域還元や地域に対する社会教育・芸術活動を通じて地域社会に貢献する。さらに，教育研究活動の場を広げることによって，国際社会に貢献する。

◆教育目的

人文社会科学部は，現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と，人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し，地域社会および国際社会に実践を通して貢献できる人材を養成することを目的とする。

◆修得すべき能力

人文社会科学部は，その教育プログラムを通して，学生が次のような能力を獲得することを目指している。

（１）分野にとらわれず，幅広く深く学ぶ能力

（２）人間・文化・社会・環境を，現象だけにとらわれず，それぞれの本質的視点から分析し，それらを総合し，判断する能力

（３）地域社会および国際社会のなかで，学び，考え，行動するために必要なコミュニケーション能力

◆課程の教育目的

人間文化課程では，固有文化を育み歴史的に継承されてきた地域社会と，そこに暮らす人間の行動を多角的に学修し，グローバル化を踏まえた地域づくりと住民の健やかな生活に貢献できる人材，および地域文化を世界に向けて発信できる人材の養成を目的とする。

地域政策課程では，震災復興から，未来のモデルとなる持続可能な社会づくりへの道筋を見据え，地域創生・地域マネジメントの課題に，法学・経済学・環境学それぞれの分野の学修を軸としながら，総合的視点から取り組むことのできる人材の養成を目的とする。

２．卒業認定・学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）とは，学生が修得すべき学修の成果を示したもので，端的に言えば，学生が本学部卒業（＝学位授与）までに身に着けるべき知識や能力等です。教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は，卒業認定・学位授与の方針実現のために，教育課程（カリキュラム）をどのように編成し，実施するかを示したものです。

本学部では，本学の学位授与の方針に基づき，学部および専修プログラムの卒業認定・学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針を定めています。学修を進めるうえで，本学部卒業までに身に着けることができる知識・能力等を知り，その知識・能力等獲得のために，どのように学修内容が定められているのかを理解することは，皆さんの夢の実現への近道となることでしょう。

自立的な学修の第一歩として，卒業認定・学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針をよく読んで，学修に取り組んでください。

〈学　部〉

卒業認定・学位授与の方針

人文社会科学部では，教養教育を重視しつつ「総合化と専門深化」の教育理念に基づき，現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し，地域社会および国際社会に実践を通して貢献できる人材の養成を目的としており，所定の教育課程を学修し，以下に示す能力を修得した者に「学士（総合科学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

１．教養教育により幅広い分野の知識を修得している。

２．人間・文化・社会・環境について，教養教育で得た基礎的知識・技能等を土台にし，専門的な知識と理解を有するとともに，総合的・学際的な広い視野を有している。

（思考・判断）

３．総合的な学修を活かし，変化が著しく複雑化する現代社会に対応できる柔軟な思考力と的確な判断力を有している。

（技能・表現）

４．グローバル化が進む社会において，多様な考え方，異質なものを理解するとともに，自らの見解・成果を的確に表現し，発信できる高いコミュニケーション能力を有している。

（関心・意欲・態度）

５．地域社会・国際社会の諸課題に実践を通して取り組み，貢献しようとする積極的態度と高い倫理性を有している。

教育課程編成・実施の方針

人文社会科学部では，「総合化と専門深化」の教育理念に基づき，現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し，地域社会および国際社会に実践を通して貢献できる人材の養成を教育目的としている。

この目的を達成するために，教養教育で得た多様な学問領域の基礎的知識および基本的思考力，幅広く深い教養と総合的な判断力等を踏まえ，卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき，専門教育科目を「学部共通科目」，「課程科目」，「専修プログラム科目」の３つのカテゴリーに分け，体系的な教育課程を編成する。

教育課程の特色として，学部共通科目の１～２年次必修科目に「総合科学基礎」，３年次必修科目に「総合科学論」を配置し，諸学問のあり方を規定する方法論および諸研究が学際的に取り組む現代の重要課題を学修し，自らの学修の学問的特性や位置づけに対する理解を深める。また，多様な学修成果，能力の養成を可能とする主・副専修プログラムを設けることで，専門性の強化および総合的・複眼的視野の充実を図るだけでなく，地域の諸課題に柔軟に対応できる思考力・判断力と，その解決に必要なコミュニケーション能力を育成する。

なお，教育課程を編成している各科目の評価に関しては，別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

（知識・理解）

１．幅広い分野の知識等修得のために，教養教育を必修とする。

２．総合的・学際的視野を養うために，「総合科学基礎」，「総合科学論」，他課程科目および主・副専修プログラムの修得を必修とする。

（思考・判断）

３．柔軟な思考力と的確な判断力を養うために，１つ以上の副専修プログラムの修得を必修とする。

（技能・表現）

４．基礎的語学力および多様な考え方を理解し，自分の考えを表現する力を養うために，教養教育の外国語科目および１つ以上の副専修プログラムの修得を必修とし，学部共通科目　に「課題解決型国際研修」を置く。

（関心・意欲・態度）

５．諸課題に積極的に取り組み，貢献しようとする態度および高い倫理観を養うために，教養教育の探求知科目・実践知科目を必修とし，学部共通科目に「課題解決型国際研修」を置く。

〈人間文化課程　専修プログラム〉

国際文化専修プログラム　卒業認定・学位授与の方針

国際文化専修プログラムでは，アジア・ヨーロッパ・英米諸地域をはじめとする世界の歴史・言語・文学などの研究を通して，国際的・多角的な視野から，多文化共生の道のりの探究を行うことを目的としており，以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

（知識・理解）

１．人間と文化に関して幅広い知識と教養を有している。

２．国際的な視野に立って異文化を理解することができる。

３．世界の言語・文化の諸相を，その歴史的背景や社会的背景も踏まえながら理解できる能力を有している。

（思考・判断）

４．国際社会における諸問題を探求するための広い視野に基づいた思考力と社会的背景を踏まえた判断力を有している。

５．探求する課題について論理的に思考・判断することができる。

（技能・表現）

６．グローバル化社会に対応できるコミュニケーション手段として個別言語を用いて発信できる能力を有している。

７．従来の研究成果を批判的に検討し，自らの見解を論理的に組み立て，資料に基づいて適切に発表する

ことができる。

８．探求する課題について，論理的な文章によって自分の考えを表すことができる。

（関心・意欲・態度）

９．世界の多様な文化への関心と，自ら進んで学ぶ意欲を持ち，多文化共生のあり方について主体的に探求する態度を有している。

国際文化専修プログラム　教育課程編成・実施の方針

国際文化専修プログラムでは，アジア・ヨーロッパ・英米諸地域をはじめとする世界の歴史・言語・文学などの研究を通して，国際的・多角的な視野から，多文化共生の道のりの探究を行うことを目的としている。この教育目的を達成するために，以下のようなカリキュラムを編成する。

（知識・理解）

１．人間と文化に関して幅広い知識と教養を有するために，課程共通科目を配置する。

２．国際的な視野に立って異文化を理解することができるために，課程共通科目として，「国際交流研修」，「国際文化論」を選択必修科目に配置する。

３．世界の言語・文化の諸相を，その歴史的背景や社会的背景も踏まえながら理解するために，プログラム基礎科目として，英米言語文化系，異文化コミュニケーション系，アジア言語文化系，歴史系，ヨーロッパ言語文化系の講義科目を配置する。

（思考・判断）

４．国際社会における諸問題を探求するための広い視野に基づいた思考力と社会的背景を踏まえた判断力を獲得するために，プログラム展開科目として，英米言語文化系，異文化コミュニケーション系，アジア言語文化系，歴史系，ヨーロッパ言語文化系の演習・特講・講読科目を配置する。

５．探求する課題について論理的に思考・判断することができるために，「特別研究」を課程科目の必修科目として配置する。

（技能・表現）

６．グローバル化社会に対応できるコミュニケーション手段として個別言語を用いて発信できる能力を身につけるために，外国語コミュニケーション系の科目を段階的に学べるように配置する。

７．能動的な発信力を身につけるために，英米言語文化系，異文化コミュニケーション系，アジア言語文化系，歴史系，ヨーロッパ言語文化系の演習・講読科目を配置し，資料の読解力を向上させるとともに，先行研究を批判的に検討し，そのうえで自らの見解を発表できる能力を修得する。

８．探求する課題について，論理的な文章によって自分の考えを表すことができるために，「特別研究」を４年次に配置する。

（関心・意欲・態度）

９．世界の多様な文化への関心を持ち，自ら進んで学ぶ意欲を高め，多文化共生のあり方について主体的に探求する態度を身につけるために，各分野の演習科目を配置する。

日本文化専修プログラム　卒業認定・学位授与の方針

日本文化専修プログラムでは，日本という地域における人間の文化的営み（言語・歴史・思想・文学・芸術等）について，広く学び，深く探究することを通して，グローバル化社会で活躍できる人材を養成することを目的としており，以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

（知識・理解）

１．人間と文化に関して幅広い知識と教養を有している。

２．国際的な視野に立って日本文化を理解することができる。
３．日本の言語・文化の諸相を，その歴史的背景や社会的背景も踏まえながら理解できる能力を有している。
４．日本という地域における人間の文化的営みのいずれかに関して深い知識を有している。
（思考・判断）
５．日本に関わる諸問題を探求するための広い視野に基づいた思考力と社会的背景を踏まえた判断力を有している。
６．探求する課題について論理的に思考・判断することができる。
（技能・表現）
７．文献資料あるいは非文献資料を適切に取り扱い，活用する能力を身に付けている。
８．探求する課題について，論理的な文章や作品によって自分の考えを表現することができる。
（関心・意欲）
９．日本における多様な文化に関する関心を持ち，自ら進んで学ぶ意欲を有している。
（態度）
１０．多様な文化を積極的に学修して多文化社会のあり方について主体的に探求する態度を有している。

日本文化専修プログラム　教育課程編成・実施の方針

日本文化専修プログラムでは，日本という地域における人間の様々な文化的営みについて深く分析・考察することを通して，グローバル化社会で活躍できる人材を養成することを目的としている。この教育目的を達成するために，以下のようにカリキュラムを編成する。

（知識・理解）
１．人間と文化に関して幅広い知識と教養を有するために，課程共通科目を配置する。
２．国際的な視野に立って日本文化を理解することができるために，課程共通科目として，１年次後期に「日本文化研究入門」を配置する
３．日本の言語・文化の諸相を理解するために，プログラム基礎科目として，各分野の講義等の科目を配置する。
４．日本に関する諸分野のいずれかに関して深い専門的知見を得るために，プログラム展開科目のフィールドワーク，特講等の科目を配置する。
（思考・判断）
５．日本に関する諸問題を探求するための広い視野に基づいた思考力と社会的背景を踏まえた判断力を獲得するために，プログラム展開科目として，各分野の演習を配置する。
６．探求する課題について論理的に思考・判断することができるために，「特別研究」を課程科目の必修科目として配置する。
（技能・表現）
７．資料を扱う基礎を身につけるために，プログラム基礎科目に「日本書文化」の関連科目及びプログラム展開科目として各分野の講読，実習等の科目を配置する。
８．自ら課題を見出し，適切に調査・分析をすすめ，自らの意図するところを表現する力を養い，最終年次において「特別研究」を達成する。
（関心・意欲）
９．日本における多様な文化に関する関心を持ち，自ら進んで学ぶ意欲を高めるために，３・４年次に各分野の演習科目を配置する。

（態度）

１０．多様な文化を積極的に学修して多文化社会のあり方について主体的に探求する態度を身に付けるために，課題解決型の授業科目である各分野の演習科目を配置する。

現代社会共創プログラム　卒業認定・学位授与の方針

現代社会共創プログラムでは，人間や社会についての思想の歴史的・現代的展開を理解し，その土台のうえに社会学的な理論や技法を修得することによって，複雑化する現代社会の諸問題の根幹にある要因や価値の対立を見抜く力を身につけ，高い倫理性をもって共生社会の発展のために寄与できる人材を養成することを目的としており，以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

（知識・理解）

１．人間と文化に関して幅広い知識と教養を有している。

２．国際的な視野に立って異文化を理解できる。

３．人文学的分野と社会学的分野の諸理論や研究方法について，広く分野横断的な知識と理解を備えている。

（思考・判断）

４．現代社会の諸問題について，人間，文化，倫理，ケア，科学技術等をめぐる思想の歴史や原理的考察をふまえて思考・分析することができる。

５．性別，国籍，民族性，能力，障がいなどに基づく社会的排除の現状や歴史的背景について理解するとともに，それを乗り越えて社会的参加を実現するための実践的思考法を有している。

（技能・表現）

６．専門的な文献資料を正確に読解する能力や，適切な問題設定をおこない議論を構築する能力，具体的な社会事象についての社会学的分析の能力を備えている。

７．自分の研究成果や企画・立案した内容を論理的に表現するとともに，広く発信するコミュニケーション能力を有している。

（関心・意欲・態度）

８．市民社会・地域社会の一員として，学修した専門的知識を生かしながら，持続可能な共生社会の構築に積極的に参加する意欲をもっている。

現代社会共創専修プログラム　教育課程編成・実施の方針

現代社会共創プログラムでは，人間や社会についての思想の歴史的・現代的展開を理解し，その土台のうえに社会学的な理論や技法を修得することによって，複雑化する現代社会の諸問題の根幹にある要因や価値の対立を見抜く力を身につけ，高い倫理性をもって共生社会の発展のために寄与できる人材を養成することを目的としている。この教育目的を達成するために，以下のようにカリキュラムを編成する。

（知識・理解）

１．人間と文化に関する幅広い知識と教養を涵養するために，課程共通科目を配置する。また，プログラム基礎科目として，１年次に専門基礎的な導入科目（「人文学入門」，「社会学入門」）を設置する。

２．国際的な視野に立って異文化を理解する能力を養成するために，課程共通科目の「国際交流研修」や外国語関連の科目を配置する。プログラム科目としては，外国の思想・文化やエスニシティに関連する講義・特講・演習科目を配置する。

３．人文学的分野と社会学的分野の諸理論や研究方法について，広く分野横断的な知識と理解を身につけるため，プログラム基礎科目および展開科目の選択必修においては，人文学的分野と社会学的分野の双

方から所定の単位の履修を義務づける。

（思考・判断）

4．現代社会の諸問題について，人間，文化，倫理，ケア，科学技術等をめぐる思想の歴史や原理的考察をふまえて思考・分析する能力を養成するために，プログラム基礎科目および展開科目として，人文学的分野の講義科目や特講科目を配置する。

5．性別，国籍，民族性，能力，障がいなどに基づく社会的排除の現状や歴史的背景について理解するとともに，それを乗り越えて社会的参加を実現するための実践的思考法を養成するために，プログラム基礎科目および展開科目として社会学的分野の講義科目や特講科目を配置する。

（技能・表現）

6．専門的な文献資料を正確に読解する能力や適切な問題設定をおこない議論を構築する能力，具体的な社会事象についての社会学的分析の能力を養成するために，プログラム展開科目として各演習科目を配置する。

7．自分の研究成果や企画・立案した内容を論理的に表現するとともに，広く発信するコミュニケーション能力を養成するために，上記の各演習科目に加えて４年次に「特別研究」を配置する。

（関心・意欲・態度）

8．市民社会・地域社会の一員として，学修した専門的知識を生かしながら，持続可能な共生社会の構築に積極的に参加する意欲を涵養するために，各演習科目と「特別研究」を配置する。

人間行動専修プログラム　卒業認定・学位授与の方針

人間行動専修プログラムでは，人間行動を個人的側面と集団的側面から総合的に理解し，地域住民の心身の問題，家族の問題，生きがいの問題など，人々が抱える多様な問題に適切に対処できる人材の養成を目的としており，以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

（知識・理解）

1．人間行動に関わる専門分野について知識を幅広く身につけており，人間行動を総合的・多元的に理解することができる。

（思考・判断）

2．人間行動に関する専門的な知識等を活用して，人間や社会に潜む問題や課題を見出しその解決に向けた思考を展開することができるとともに， 社会に積極的な提案を行うことができる。

（技能・表現）

3．調査や実験に関する技法，そしてそれらから得られたデータの分析に関する技法を身につけている。

4．分析や考察の内容を文章として適切に表現できる能力を有しているとともに，発表や討論の機会を通じて，コミュニケーションやプレゼンテーションのスキルを修得している。

5．経験（実習・実験）を通して，チームワークやリーダーシップなどの集団活動場面におけるグループファシリテーションスキルを修得している。

（関心・意欲）

6．専門分野の学問内容，最新の研究成果，動向等について興味・関心を持っている。

7．専門性を活かして，地域社会に参画する意欲を持っている。

（態度）

8．人間に対する深い理解と広い視野に基づく学際的・総合的な課題探求能力を修得し，現代社会の様々な課題を全体的に把握し，それらの課題に適切かつ柔軟に対処しようとする態度を身に着けている。

人間行動専修プログラム　教育課程編成・実施の方針

人間行動専修プログラムでは，人間行動を個人的側面と集団的側面から総合的に理解し，地域住民の心身の問題，家族の問題，生きがいの問題など，人々が抱える多様な問題に適切に対処できる人材の養成を目的としている。この教育目的を達成するために，以下のようにカリキュラムを編成する。

（知識・理解）

１．人間行動に関わる専門分野についての知識を幅広く身につけ，人間行動について総合的・多元的に理解できるようにするために，プログラム基礎科目として，人間行動に関わる各専門分野の基本的な講義科目，プログラム展開科目として各学問分野のより専門・応用的な講義科目を系統的に配置する。さらに，人間行動の理解に関わる専門分野に通底する学際的な方法論を理解するための科目をプログラム基礎科目に配置する。

（思考・判断）

２．人間行動に関する専門的な知識等を活用して，人間や社会に潜む問題や課題を見出し，その解決に向けた思考と社会への積極的な提案を行うことができるようにするため，プログラム基礎科目に社会調査や心理学実験に関する科目（２年次),「特殊実験調査Ⅰ・Ⅱ」（３年次），４年次に「特別研究」を配置する。

（技能・表現）

３.調査や実験に関する技法,そしてそれらから得られたデータの分析に関する技法を身につけるために，プログラム基礎科目に社会調査や心理学実験に関する科目（２年次),「特殊実験調査Ⅰ・Ⅱ」（３年次），４年次に「特別研究」を配置するとともに，基礎的および実践・応用的な統計分析に関する科目をプログラム基礎科目として配置する。

４．分析や考察の内容を文章として適切に表現できる能力を身につけるとともに，発表や討論の機会を通じて，コミュニケーションやプレゼンテーションのスキルを修得できるようにするために，プログラム基礎科目として社会調査や心理学実験に関する科目（２年次),「特殊実験調査Ⅰ・Ⅱ」（３年次），プログラム展開科目としての各専門分野の演習科目，そして「特別研究」（４年次）を配置する。

５．経験（実習・実験）を通したチームワークやリーダーシップなどの集団活動場面におけるグループファシリテーションスキルを修得させるために，２年次の基礎科目として社会調査や心理学実験に関する科目を配置する。

（関心・意欲）

６．専門分野の学問内容に興味を抱かせるために，プログラム基礎科目として，各専門分野の基本的な講義科目が配置されている。また，最新の研究成果・動向等について興味・関心を持たせるために，プログラム展開科目では各専門分野のより専門・応用的な講義科目を系統的に配置する。

７．専門性を活かした地域社会への参画の意欲を高めるために,「特殊実験調査Ⅰ・Ⅱ」（３年次),「特別研究」（４年次），ならびに各専門分野の講義科目と演習科目を配置する。

（態度）

８．人間に対する深い理解と広い視野に基づく学際的・総合的な課題探求能力を修得し，現代社会の様々な課題を全体的に把握し，それらの課題に適切かつ柔軟に対処しようとする態度を身につけられるようにするため，プログラム基礎科目に社会調査や心理学基礎実験に関する科目（２年次),「特殊実験調査Ⅰ・Ⅱ」（３年次），４年次に「特別研究」を配置して，こうした態度の形成を促す。

〈地域政策課程　専修プログラム〉

政策法務専修プログラム　卒業認定・学位授与の方針

政策法務専修プログラムは，法学全体，とくに公法，刑事法，政治学などに関する学修に基づき，学部・課程および他専修プログラムにおける学修で得られた知見と合わせて，公共政策形成の観点から地域創生・地域マネジメントの課題に取り組むことのできる人材の養成を目的とする。この目的の下，本プログラムの教育課程は，公共政策形成に必要な専門的知識および法学的思考様式をもって，実際の政策立案・評価を効果的に行うことのできる能力の修得を目標とし，以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

（知識・理解）

１．法・経済・環境に関する基礎的な知識を修得している。

２．地域社会が抱える現実的な法的・政治的課題の内容や意義，歴史的経緯について的確に認識している。

（思考・判断）

３．法と人間・社会のあり方について，相互の複雑な連関を踏まえて理解するための法学的思考様式を身につけている。

４．法学的思考様式を用いて現実の社会的課題に関する判断を下す力を有している。

（技能・表現）

５．法学全体に関する基礎的な観点および公法，刑事法，政治学を中心とする専門的な観点から，地域社会が抱える課題につき，法学的思考様式を用いて政策立案を行い，それを論理的かつ的確に説明するスキルを身につけている。

６．様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

（関心・意欲）

７．地域社会が抱える課題の解決や地域創生・地域マネジメントに強い関心を持っている。

８．本専修プログラムで修得した専門的視点を活かし，地域の問題解決のために社会に参画する意欲を持っている。

（態度）

９．中立公正な立場から高い倫理性を持って，専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

政策法務専修プログラム　教育課程編成・実施の方針

政策法務専修プログラムでは，プログラムのディプロマ・ポリシーを実現するために，法・経済・環境に関する基礎および公法，刑事法，政治学などの専門に関する学修を目的に，以下のようにカリキュラムを編成する。

（知識・理解）

１．法・経済・環境に関する専門基礎的な知識を幅広く身につけるために，１年次に課程共通科目（「民法（総則）Ⅰ・Ⅱ」など），１・２年次に憲法・刑事法・政治学に関係する科目群を配置する。

２．法学全体に関する基礎知識および公法・刑事法を中心とする専門的知識を修得するため，プログラム基礎科目として２・３年次に公法・刑事法・民法に関係する科目群を配置する。また，地域社会が抱える具体的・現実的課題の内容や意義，歴史的経緯を学修するうえでの基本的知識を学ぶために，１・２年次にプログラム基礎科目として政治学に関係する科目群を配置する。

（思考・判断）

３．法と人間・社会のあり方について，相互の複雑な連関を踏まえて理解する法学的思考様式を身につけるために，３年次にプログラム展開科目として訴訟法・民法（相続法）に関係する科目群を配置する。

４．身に付けた法学的思考様式を用いて現実の社会的課題に関する判断を下す力を養うために，３年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習Ａ・Ｂ」（いずれかを選択必修）を配置し，地域の具体的な政策について知り，評価を下す機会を設ける。

（技能・表現）

５．法学全体に関する基礎的な観点および公法，刑事法，政治学を中心とする専門的な観点から，地域社会が抱える課題につき，法学的思考様式を用いて政策立案を行い，それを論理的かつ的確に説明するスキルを身につけられるように，３年次にプログラム展開科目として各演習科目（いずれかを選択必修）を置き，調査・報告やグループディスカッションを実施する。さらに４年次に課程科目として「特別研究」（必修）を配置し，自身の学修・研究の結果を文章に表現する機会を与える。

６．様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーション・スキルを身につけさせるために，３年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習Ａ・Ｂ」（いずれかを選択必修）を置き，多人数集団の中でのコミュニケーションと自己発信能力を陶冶することができるようにする。

（関心・意欲）

７．３年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習Ａ・Ｂ」（いずれかを選択必修）を配置し，地域政策に携わる実践的機会を与えることで，地域が抱える課題の解決や地域創生・地域マネジメントへの関心を高められるようにする。

８．本専修プログラムで修得した専門的視点を活かし，地域の問題解決のために社会に参画する意欲を高めるために，３年次にプログラム展開科目として各演習科目（いずれかを選択必修）を置き，４年次に課程科目として「特別研究」（必修）を配置し，自身の関心ある課題を選択して取り組めるようにする。

（態度）

９．中立公正な立場から高い倫理性を持ち，専門分野を社会に活かす体験をさせるため，３・４年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習Ａ・Ｂ」（いずれかを選択必修）および各演習科目（いずれかを選択必修）を配置する。

企業法務専修プログラム　卒業認定・学位授与の方針

企業法務専修プログラムは，法学全体，とくに民法（財産法），商法，労働法などに関する学修に基づき，学部・課程および他専修プログラムにおける学修で得られた知見と合わせて，企業法務の観点から地域創生・地域マネジメントの課題に取り組むことのできる人材の養成を目的とする。この目的の下，本プログラムの教育課程は，企業法務に必要な専門的知識および法学的思考様式をもって，地域産業が抱える諸問題の解決を実行ないし提言することのできる能力の修得を目標とし，以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

（知識・理解）

１．法・経済・環境に関する基礎的な知識を修得している。

２．地域産業が抱える現実的な法的（とくに私法に関する）課題の内容や意義，歴史的経緯について的確に認識している。

（思考・判断）

３．法と人間・社会のあり方について，相互の複雑な連関を踏まえて理解するための法学的思考

様式を身につけている。

4．法学的思考様式を用いて現実の社会的課題に関する判断を下す力を有している。

（技能・表現）

5．法学全体に関する基礎的な観点および民法（財産法），商法，労働法を中心とする専門的な観点から，地域産業が抱える課題につき，法学的思考様式を用いて政策立案を行い，それを論理的かつ的確に説明するスキルを身につけている。

6．様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

（関心・意欲）

7．地域産業が抱える課題の解決や地域創生・地域マネジメントに強い関心を持っている。

8．本専修プログラムで修得した専門的視点を活かし，地域産業の問題解決のために社会に参画する意欲を持っている。

（態度）

9．中立公正な立場から高い倫理性を持って，専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

企業法務専修プログラム　教育課程編成・実施の方針

企業法務専修プログラムでは，プログラムのディプロマ・ポリシーを実現するために，法・経済・環境に関する基礎および民法（財産法），商法，労働法などの専門に関する学修を目的に，以下のようにカリキュラムを編成する。

（知識・理解）

1．法・経済・環境に関する専門基礎的な知識を幅広く身につけるために，１年次に課程共通科目（「民法（総則）Ⅰ・Ⅱ」など），２年次にプログラム基礎科目として民法（物権・債権総論）などに関係する科目群を配置する。

2．法学全体に関する基礎知識および民法商法，労働法を中心とする専門的知識を修得するため，プログラム基礎科目として２・３年次に民法（債権各論），民法（家族法），商法などに関係する科目群を配置する。また，地域産業が抱える具体的・現実的課題の内容や意義，歴史的経緯を学修するうえでの基本的知識を学ぶために，２・３年次にプログラム基礎科目として労働法などに関係する科目群を配置する。

（思考・判断）

3．法と人間・社会のあり方について，相互の複雑な連関を踏まえて理解する法学的思考様式を身につけるために，３年次にプログラム展開科目として民法（相続法），会社法，民事訴訟法などに関係する科目群を配置する。

4．身に付けた法学的思考様式を用いて現実の社会的課題に関する判断を下す力を養うために，３年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習Ａ・Ｂ」（いずれかを選択必修）を配置し，地域の具体的な政策について知り，評価を下す機会を設ける。

（技能・表現）

5．法学全体に関する基礎的な観点および民法，商法，労働法を中心とする専門的な観点から，地域社会が抱える課題につき，法学的思考様式を用いて政策立案を行い，それを論理的かつ的確に説明するスキルを身につけられるように，３年次にプログラム展開科目として各演習科目

（いずれかを選択必修）を置き，調査・報告やグループディスカッションを実施する。さらに４年次に課程科目として「特別研究」（必修）を配置し，自身の学修・研究の結果を文章に表現する機会を与える。

６．様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーション・スキルを身につけさせるために，３年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習Ａ・Ｂ」（いずれかを選択必修）を置き，多人数集団の中でのコミュニケーションと自己発信能力を陶冶することができるようにする。

（関心・意欲）

７．３年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習Ａ・Ｂ」（いずれかを選択必修）を配置し，地域政策に携わる実践的機会を与えることで，地域産業が抱える課題の解決や地域創生・地域マネジメントへの関心を高められるようにする。

８．本専修プログラムで修得した専門的視点を活かし，地域産業の問題解決のために社会に参画する意欲を高めるために，３年次にプログラム展開科目として各演習科目（いずれかを選択必修）を置き，４年次に課程科目として「特別研究」（必修）を配置し，自身の関心ある課題を選択して取り組めるようにする。

（態度）

９．中立公正な立場から高い倫理性を持ち，専門分野を社会に活かす体験をさせるため，３・４年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習Ａ・Ｂ」（いずれかを選択必修）および各演習科目（いずれかを選択必修）を配置する。

地域社会経済専修プログラム　卒業認定・学位授与の方針

地域社会経済専修プログラムでは，経済・法・環境分野の総合的学修を基礎に，経済学や経営学などの専門的学修を通じて，地域社会や経済，産業，行政などに関わる政策的諸課題を多角的に分析でき，持続可能な地域社会・経済の構築を担うことができる人材の養成を目的としており，以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

（知識・理解）

１．経済・法・環境に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。

２．地域社会・経済を総合的に理解するための専門的な知識を修得している。

（思考・判断）

３．地域社会・経済について，多角的な視点から思考・判断する能力を身につけている。

４．経済学や経営学などの専門的知識を活用し，地域社会・経済とその課題を総合的に思考・判断することができる

（技能・表現）

５．地域社会・経済の現状や課題について，関連資料・データに基づき理論的・実証的に分析・評価することができる。

６．様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけている。

（関心・意欲）

７．様々な経済事象や，地域社会・経済が抱える諸問題に強い関心を有している。

８．経済学や経営学などを中心とした専門的視点を活かし，地域社会・経済の課題に主体的・実践的に取り組む意欲を持っている。

（態度）

9．高い倫理性をそなえつつ，専門分野を社会に活かそうとする態度を身につけている。

地域社会経済専修プログラム　教育課程編成・実施の方針

地域社会経済専修プログラムでは，経済・法・環境分野の総合的学修を基礎に，経済学や経営学などの専門的学修を通じて，地域社会や経済，産業，行政などの政策的諸課題を多角的に分析でき，持続可能な地域社会・経済の構築を担うことができる人材の養成を目的としている。この教育目標を達成するために，以下のようにカリキュラムを編成する。

（知識・理解）

1．経済・法・環境に関する基礎的な知識を幅広く身につけるために，課程共通科目に必修科目として「経済学基礎 I」「民法（総則）I」「環境政策論 I」を，プログラム基礎科目に選択必修科目として各分野の基礎的な関連科目を，それぞれ配置する。

2．地域社会・経済を総合的に理解するための専門的知識を修得するために，課程共通科目とプログラム基礎科目を中心に，経済学や経営学などに関わる科目を選択必修科目として配置する。

（思考・判断）

3．地域社会・経済について，多角的な視点から思考・判断する能力を身につけるために，プログラム基礎科目を中心に経済分野に加え，法・環境分野の関連科目を配置する。

4．経済学や経営学などの専門的知識を活用し，地域社会・経済とその課題を総合的に思考・判断する能力を身につけるため，課程共通科目やプログラム基礎科目に加え，プログラム展開科目に経済学や経営学などに関わる専門的な科目を配置する。

（技能・表現）

5．地域社会・経済の現状や課題について，関連資料・データに基づき評価・分析する能力を身につけられるよう，調査・分析，口頭発表・集団討議やレポート・論文作成等の教育活動を取り入れた演習科目等を必修・選択必修科目として配置し，学年に応じ系統的に履修できるようにする。

6．柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけるために，プログラム基礎科目やプログラム展開科目の演習科目，課程科目の「特別研究」等の口頭発表・集団討議等を取り入れた科目を，必修・選択必修科目とする。

（関心・意欲）

7．経済関連科目をはじめとする各分野のプログラム基礎科目に加えて，プログラム展開科目に発展的な科目を配置し，また各分野の演習科目や「特別研究」を通じて，現代における様々な経済事象や，地域社会・経済が抱える諸問題への関心を高められるようにする。

8．プログラム基礎科目やプログラム展開科目に各分野の演習科目を，課程科目に「特別研究」等を必修科目や選択必修科目として配置することで，経済学や経営学などを中心とした専門的視点を活かし，地域社会・経済の課題に主体的・実践的に取り組む意欲を高められるようにする。

（態度）

9．高い倫理性をそなえつつ専門知識を社会に活かす体験をさせるため，プログラム基礎科目やプログラム展開科目に各分野の演習科目，課程科目の「特別研究」等を系統的に履修できるように配置する。

地域環境専修プログラム　卒業認定・学位授与の方針

地域環境専修プログラムでは，環境・法・経済分野の総合的学修を基礎に，環境学の専門的学修を地域における環境政策・環境マネジメントの実践に活かし，持続可能な共生社会の構築に貢献できる人材の養成を目的としており，以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

（知識・理解）

１．環境・法・経済に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。

２．文理融合に基づく環境学諸分野の研究手法と専門的な知識を修得している。

（思考・判断）

３．環境と人間・社会のあり方について，相互の複雑な連関を踏まえて理解する能力を身につけている。

４．環境学を始めとした専門的知識を活用し，環境問題の解決，「持続可能な共生社会」構築に向けた具体的な方策を総合的に思考・判断することができる。

（技能・表現）

５．地域社会とその環境に関する調査・分析ができ，そこに潜む問題点やその解決法について，自らの見解・提言を論理的かつ的確に説明するスキルを身につけている。

６．様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

（関心・意欲）

７．身近な地域から地球規模まで，多岐にわたる環境や環境問題に強い関心を持っている。

８．環境学をはじめとする専門的視点を活かし，環境や地域の問題解決のために主体的・実践的に取り組む意欲を持っている。

（態度）

９．中立公正な立場から高い倫理性を持って，専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

地域環境専修プログラム　教育課程編成・実施の方針

地域環境専修プログラムでは，プログラムの学位授与の方針を実現するために，以下のようにカリキュラムを編成する。

（知識・理解）

１．環境・法・経済に関する専門基礎的な知識を幅広く身につけるために，１年次に課程共通科目，１・２年次にプログラム基礎科目（「環境社会学Ⅰ」など）を配置する。

２．環境学諸分野の研究手法と専門的知識を獲得させるために，プログラム基礎科目として２年次に必修の「環境科学演習」や１～３年次に選択必修科目など，プログラム展開科目として２～４年次に選択必修科目や各分野の演習科目などを配置する。

（思考・判断）

３．環境と人間・社会のあり方について，相互の複雑な連関を踏まえ，理解する能力を身につけるために，１年次に課程共通科目，１～３年次にプログラム基礎科目を配置する。

４．獲得した様々な専門的知識を用いて，環境問題の解決，「持続可能な共生社会」構築に取り組む活動を行わせるために，必修・選択必修プログラム基礎科目に加え，各分野の実習・実験・演習科目（２・３年次履修），４年次必修の「特別研究」などを配置する。

（技能・表現）

５．地域社会やその環境に関する調査ができ，そこに潜む問題点や解決法に関する見解・提言を論理的か

つ的確に説明するスキルを身につけられるように，プログラム基礎科目に「環境科学演習」，４年次に課程科目の「特別研究」など，調査・分析，フィールド実習，口頭発表，論文執筆などの教育活動を取り入れた科目を必修・選択必修として配置し，２年次から系統的に履修できるようにする。

６．柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーション・スキルを身につけるために，プログラム基礎科目の「環境科学演習」，課程科目の「特別研究」を必修，各分野の演習科目などを必修・選択必修とする。

（関心・意欲）

７．身近な地域環境の現状・取り組みに焦点を当てたプログラム基礎科目の「環境科学演習」など等に加え，地球規模の環境問題や開発途上国の開発をテーマとしたプログラム基礎科目，各分野の演習など，幅広く環境の現実を扱う科目をプログラム基礎・展開科目を中心に配置し，多岐にわたる環境や環境問題への関心を高められるようにする。

８．環境学をはじめとする専門的視点を活かし，環境・地域の問題解決のために主体的・実践的に取り組む意欲を高められるよう，プログラム基礎科目の「環境科学演習」や，プログラム展開科目などを配置する。

（態度）

９．中立公正な立場から高い倫理性を持ち，専門分野を社会に活かす体験をさせるため，プログラム基礎科目に各分野の演習・実習・実験科目，プログラム展開科目に各分野の演習科目，課程科目などを系統的に履修できるように配置する。

３．人文社会科学部教育課程規則（平成１６年４月１日制定）

（趣旨）

第１条　この規則は，国立大学法人岩手大学学則（以下「学則」という。）第３６条第５項の規定に基づき，岩手大学人文社会科学部（以下「本学部」という。）における専門教育（以下「専門教育」という。）に関し，必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第２条　本学部は，「総合化と専門深化」の教育理念に基づき，現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し，地域社会及び国際社会に実践を通して貢献できる人材の養成を目的とする。

（科目及び単位の修得）

第３条　専門教育における授業科目（以下「科目」という。）及び単位数は，別表第１に定めるところによる。

２　専門教育においては，別表第２に掲げる単位数以上を修得しなければならない。

３　科目の必修と選択の別，履修年次，時間数，履修方法等は，別に定める。

（授業時間割等の公示）

第４条　各学期に開講する科目，授業時間及び担当教員等は，学期の初めまでに公示する。

２　学期の途中から開講する科目については，その都度公示する。

（履修科目の申告）

第５条　学生は，履修しようとする科目を学期の初めの指定の期間内に学部長に申告しなければならない。

２　学期の途中から開講する科目については，その都度前項の申告をすることができる。

３　第１項及び第２項の申告をしない者は，単位の認定を受けることができない。

４　第１項及び第２項の申告の後は，履修取り消しを認める指定期間を除き，履修を取り消すことはできない。

（他学部科目等の履修）

第６条　学生は，所定の手続きを経て他学部の科目及び国際教育科目の授業科目を履修することができる。

２　他学部の学生が，本学部の科目の履修を願い出たときは前項に準ずる。

（他大学等での履修）

第７条　学生は，他の大学又は短期大学の科目を履修しようとするときは，所定の手続きを経て許可を得なければならない。

２　前項及び前条第１項の規定により修得した単位及び海外の交流協定締結大学で修得した単位のうち本学部の専門教育科目に振り替えられない単位は，別に定める単位数の範囲内で別表第２の専修プログラム科目又は自由選択科目の単位として認めることができる。

（試験）

第８条　試験を行う場合は，学期末に行う。ただし，科目によっては，その他適当な時期に行うことができる。

（細則）

第９条　この規則に定めるもののほか，専門教育に関し必要な事項は，教授会が別に定める。

（以下省略）

４．人文社会科学部教育課程履修細則（平成２８年４月１日制定）

（趣旨）

第１条　この細則は，岩手大学人文社会科学部教育課程規則（以下「規則」という。）第９条の規定に基づき，岩手大学人文社会科学部（以下「本学部」という。）の専門教育の授業科目の履修に関し必要な事項を定めるものとする。

（学部共通科目）

第２条　本学部の基本的教育目標の一つである「総合性・学際性」を基礎とした幅広い視野を養うとともに，学問研究の根底的基礎となる考え方と方法を深化させ，課題探求能力を育成するため，学部共通科目を置く。

２　本学部の学生（以下「学生」という。）は，規則第３条第２項に定める学部共通科目の単位数のうち，「総合科学基礎」６単位（必修４単位，選択必修２単位）及び「総合科学論」２単位を修得しなければならない。

３　「総合科学基礎」及び「総合科学論」の履修に関し，必要な事項は別に定める。

（課程科目）

第３条　学生は，課程全体の教育目標を達成するために，課程ごとに置く課程科目から規則第３条第２項に定める単位数のうち，課程共通科目８単位以上及び「特別研究」６単位を修得しなければならない。

（専修プログラム科目）

第４条　課程の専門領域の学修を深めるために専修プログラムを置く。

２　本学部の総合的な学修をより系統立てて行わせるために，専修プログラムに主専修プログラム及び副専修プログラムを置く。

３　学生は，主専修プログラムを２年次の前期末に選択し，学部長に届け出なければならない。

４　主専修プログラムは，所属する課程の専修プログラムから選択しなければならない。

５　学生は，第３項に基づき届け出た専修プログラムの科目から規則第３条第２項に定める単位数のうち，主専修プログラム科目４４単位以上（うち，プログラム基礎科目を１６単位以上，プログラム展開科目を１０単位以上含まなければならない）修得しなければならない。

６　学生は，副専修プログラムを２年次の前期末に選択し，学部長に届け出なければならない。

７　副専修プログラムは，第３項に基づき届け出た主専修プログラム以外の専修プログラム（所属する課程以外の専修プログラム及び課程横断型プログラムを含む）から選択しなければならない。

８　学生は，第６項に基づき届け出た専修プログラムの科目から規則第３条第２項に定める単位数のうち，副専修プログラム科目１６単位以上を修得しなければならない。

９　前項に定める単位数は，選択した専修プログラムの副専修プログラム科目又は課程横断型プログラムで定める授業科目から修得しなければならない。

１０　専修プログラムに関し必要な事項は別に定める。

（他課程科目）

第５条　学生は，他課程科目として，他の課程の「特別研究」を除く課程科目から規則第３条第２項に定める単位数以上を修得しなければならない。

２　他課程科目の単位数には，学部共通科目のうち，「総合科学基礎」（選択必修）の修得すべき最低必要単位数を超えて修得した２単位を加えることができる。

（自由選択科目）

第６条　学生は，自由選択科目として，第２条から前条までに定める科目から規則第３条第２項に定める単位数以上を修得しなければならない。ただし，第２条から前条までに定める科目の修得すべき最低単位数に算入した授業科目の単位は，自由選択科目の単位数に含めることができない。

２　前項及び第４条第８項の修得すべき単位数には，規則第７条第２項の規定により修得した単位を合計１０単位まで加えることができる。
３　グローバル・地域人材育成プログラムを副専修プログラムに選択した学生は，規則第７条第２項に定める単位のうち，海外の協定交流協定締結大学で修得した単位のうち本学部の専門教育科目に振り替えられない単位を副専修プログラム科目の修得単位数に加えることができ，それ以外の単位は自由選択科目の修得単位数に加えることができる。
４　グローバル・地域人材育成プログラム以外を副専修プログラムに選択した学生は，規則第７条第２項に定める単位を自由選択科目の修得単位数に加えることができるが，それが自由選択の修得すべき最低単位数を超えた場合でも本条第２項の規定に関わらず副専修プログラム科目の修得単位数に加えることはできない。

（特別研究）
第７条　課程科目に置く特別研究は，最終年次に履修するものとする。
２　特別研究（通年，６単位）を履修するには，当該科目を履修する前の学期の，卒業要件として履修する授業科目（教養教育科目を含み，課外科目を除く。以下「卒業要件科目」という。）の修得単位数が９６単位以上でなければならない。
３　卒業論文等（特別研究の成果をまとめた論文又は作品をいう。）は，卒業予定年度の１月１４日（９月卒業予定者の場合は，７月２１日。その日が休日の場合は，その翌日）午後５時までに学務課に提出しなければならない。
４　特別研究の審査は，課程において行う。
５　特別研究の指導体制，題目届け等の手続き，その他必要な事項は別に定める。

（早期卒業）
第８条　学生は,岩手大学における在学期間の特例に関する規則に基づき,２年次の学年末において,卒業要件科目を９０単位以上修得し，かつ，すべての学期において成績優秀者（岩手大学における授業科目の履修登録単位数の上限に関する規則第４条に規定する者をいう。）である場合は，学部長に早期卒業の認定を願い出ることができる。
２　教務委員会の審査に基づき，教授会が早期卒業の可能性があると認める場合は，その者を早期卒業の候補者（以下「候補者」という。）とする。
３　候補者は，３年次に「特別研究」を履修しなければならない。
４　候補者は，候補者として認定を受けた後の各学期において，秀及び優の標語の単位数を１０分の９以上得なければならない。
５　前項の秀及び優の標語の単位数を１０分の９以上得ない場合は，候補者の資格を失う。
６　候補者は，３年次の学年末又は４年次の前期末に，特別研究の内容を中心とした最終試験を受けなければならない。
７　候補者が卒業の認定を受けるためには，特別研究の成績は秀又は優でなければならない。

（雑則）
第９条　本学部における転課程及び転学部に関し，必要な事項は別に定める。
２　本学部における編入学に関し，必要な事項は別に定める。
３　本学部における再入学に関し，必要な事項は別に定める。
４　本学部における科目等履修生に関し，必要な事項は別に定める。

（以下省略）

５．卒業に必要な単位数および主・副専修プログラム等について

修得しなければならない最低単位数（教育課程規則第３条第１項および履修細則第２～６条より）

科　目　区　分				単位数
教養教育				２８
専門教育	学部共通科目			１０
	課程科目	課程共通科目		８
		特別研究		６
	専修プログラム科目	主専修プログラム科目		４４
			プログラム基礎科目	（１６単位以上）
			プログラム展開科目	（１０単位以上）
		副専修プログラム科目		１６
	他課程科目			４
	自由選択科目			１０
	計			９８
合　　計				１２６

◆専門教育の科目区分ごとの必修・選択必修科目等

学部共通科目

必修：基礎ゼミナール（２単位）

総合科学基礎（４単位）

人間文化課程は「総合科学基礎（人間文化）Ａ・Ｂ」，地域政策課程は「総合科学基礎（地域政策）Ａ・Ｂ」を履修します。

総合科学論（２単位）

選択必修：総合科学基礎（２単位）

人間文化課程は「総合科学基礎（地域政策）Ａ・Ｂ」，地域政策課程は「総合科学基礎（人間文化）Ａ・Ｂ」から選択してください。

課程科目

・課程共通科目

選択必修：所属する課程の課程共通科目から８単位以上

なお，各課程で必修・選択必修の授業科目が下記のとおり決められています。

人間文化課程

選択必修①：下記授業科目から４単位以上修得

国際交流研修，日本語表現基礎，日本語読解基礎，ドイツ語基礎，フランス語基礎，ロシア語基礎，中国語基礎，韓国語基礎，文学・思想研究方法論

選択必修②：下記授業科目から４単位以上修得

国際文化論，日本文化研究入門，現代社会共創論，人間行動論

地域政策課程

必修：民法（総則）Ⅰ，経済学基礎Ⅰ，環境政策論Ⅰ

選択必修：下記授業科目から２単位以上修得

法律学基礎，民法（総則）Ⅱ，経済学基礎Ⅱ，環境経済論Ａ

・特別研究

必修（６単位）　特別研究の期間は，最低１年間（２学期分の期間）です。履修申告は不要です。

専修プログラム科目

・主専修プログラム科目

必修・選択必修：各専修プログラムで定める必修・選択必修科目を修得（「◆主・副専修プログラムについて」で確認してください。）

・副専修プログラム科目

必修・選択必修：各専修プログラムの副専修プログラム科目から，各専修プログラムで定める必修・選択必修科目を修得（「◆主・副専修プログラムについて」で確認してください。）

他課程科目

所属していない課程の課程共通科目から４単位以上

自由選択科目

本学部専門教育の授業科目から１０単位以上（課外科目を除く）※1，※2

※１　学部共通科目，課程科目，専修プログラム科目，他課程科目の修得しなければならない最低単位数を超えて修得した単位は，自由選択科目の単位に算入されます。

※２　他学部・他大学の専門教育の授業科目の修得単位，国際教育科目の修得単位および海外協定大学で修得した単位で本学部専門教育の単位に振り替えられなかった単位は，１０単位を上限に自由選択科目の修得単位に算入することができます。

※３　課程横断型の「グローバル・地域人材育成」プログラムを副専修に選択した学生に限り，海外協定大学で修得した単位で本学部専門教育の単位に振り替えられなかった単位は，１０単位を上限にグローバル・地域人材育成副専修プログラム科目または自由選択科目の修得単位に算入することができます。

◆授業科目履修に係る注意事項

①授業科目名に「Ⅰ」,「Ⅱ」とある場合は，数字順に履修・単位修得することを推奨します。一部授業科目ではそれ以前に指定する授業科目の単位を修得しなければその授業科目を履修することができません（例：民法（総則）Ⅰの単位を修得しないと民法（総則）Ⅱを履修できない）。上記履修制限がある授業科目は「科目等一覧」にその旨を記載していますので，注意して履修申告してください。

②同じ授業科目を，重複して単位修得することはできません。

③各授業科目の対象学年より下の学年の学生はその授業科目を履修することはできませんが，それ以上の学年は履修することができます。

④主専修に選択した専修プログラム以外の演習科目を履修しようとする場合は，事前にその授業科目を担当する教員の了承を得て履修してください。了承を得ずに履修すると，後日，履修申告が取り消され，単位修得できない場合があります。

⑤集中講義の履修申告は，通常の履修申告（各学期の初め）とは別に行います。履修申告の開始時期や方法は，アイアシスタント・掲示板でお知らせします。

⑥一部授業科目はクォーター制で開講されます。クォーター制の授業科目は週２回開講となりますので，履修する授業科目の選択や履修申告の際はご注意ください。クォーター制で開講する授業科目は，科目等一覧の「備考」欄にその旨を記載しています。

上記のほか，一般的な注意事項等は，本手引きＰ１の「科目履修に当たって知っておくべきこと」で確認してください。

◆主・副専修プログラムについて

主・副専修プログラムの選択は２年次前期末までに行い，２年次後期から本格的な学修を開始します（１年次から履修可能な授業科目もあるので，詳細は科目等一覧で確認してください）。

主専修プログラムは，自分の所属する課程の専修プログラムから１つを選び，そのプログラムの授業科目（主専修プログラム科目）を履修し，学修を進めていきます。主専修プログラム科目は，選択した専修プログラムのプログラム基礎科目１６単位以上，プログラム展開科目１０単位以上を修得したうえで，４４単位以上修得しなければなりません。各専修プログラムでは，必修・選択必修の授業科目等を【別表Ａ】のとおり設定しているので，科目等一覧とあわせて確認し，履修・単位修得してください。

副専修プログラムは，全ての専修プログラム（課程問わず）および副専修専門プログラム・課程横断型プログラムから１つ以上を選んで学修を進めていきます。ただし，主専修プログラムに選択した専修プログラムを，副専修プログラムに選択することはできません。各専修プログラムでは，副専修プログラム用の授業科目（副専修プログラム科目）を定めていて（科目等一覧で，授業科目名の左に「副」とある授業科目），その副専修プログラム科目から１６単位以上修得しなければなりません。

副専修プログラムでも必修・選択必修の授業科目等が【別表Ｂ】のとおり決められており，それを満たさないと，副専修プログラム科目を１６単位以上修得しても卒業できません。副専修専門プログラム・課程横断型プログラムの授業科目は，副専修専門プログラム・課程横断型プログラムの科目等一覧で確認してください。

なお，課程横断型の「グローバル・地域人材育成」プログラムを副専修に選択した場合は，前述の海外の交流協定締結大学への留学により修得した単位のうち，本学部の専門教育の授業科目に振り替えられなかった単位を自由選択科目の修得単位数に算入せず，１０単位を上限に副専修プログラム科目の修得単位数に算入することができます。

副専修プログラム科目に定められている授業科目を履修する場合は，自分が選択している主・副専修プログラムに関わらず，履修申告時に，主専修プログラム科目として履修するのか，副専修プログラム科目として履修するのかを選択してください。時間割表には「主」用，「副」用の申告コードが記載されているので，注意して履修申告してください。

◆学修ポートフォリオについて

学修ポートフォリオは，学生が自分の学修状況の記録や関係する資料等を１つにまとめたものです。学期初めに履修申告した授業科目を記録したあと，履修している授業科目での配布物や課題，参考資料をまとめ，学期の終わりには履修した授業科目の成績を記録します。また，ポートフォリオを使って，次学期の学修目標や履修する授業科目の検討を行います。

☆用語解説

学修

学問をまなび身につけること。「学習」も同様の意味で使われるが，大学設置基準（大学を設置するのに必要な最低の基準を定めた文部科学省令）では「学修」を使っている。2012 年 8 月の中央教育審議会答申の注釈に「大学設置基準上，大学での学びは『学修』としている。これは，大学での学びの本質は，講義，演習，実験，実習，実技等の授業時間とともに，授業のための事前の準備，事後の展開などの主体的な学びに要する時間を内在した『単位制』により形成されていることによる。」とあり，高校までの教育（学習内容は学習指導要領で規定）と大学教育は異なることを意味している。

修得

学問・技芸などを学んで会得すること。主体的な学びの場である大学での学修は，「修得」であり，習い覚える「習得」とは異なる。

必修

卒業するために，必ず修得しなければならない授業科目・単位を指す。

選択必修

指定された複数の授業科目から，指定された単位数分の授業科目を修得する場合を指す。本手引きでは科目一覧表等で「選必」と略す場合がある。

クォーター制

本学の授業科目は，通常，１年間を２つの学期に分けて開講しているが（セメスター制），一部授業科目は，学期を４つに分けて開講している。１年間を４つの学期に分けることをクォーター制と言う。クォーター制で開講する授業科目は，週２回授業が行われ，期間はセメスター制の半分になる

専修プログラム

専門性の明確化と総合化の充実を図ることを目的に作られたカリキュラム（教育計画）のこと。各専修プログラムはそれぞれの教育目的に基づき，授業科目の履修年次や必修・選択必修の授業科目を決めており，学生は体系的に学修を進めることができる（基礎的内容学修後に発展的内容を学修等）。また，主専修（高度な専門性養成）と副専修（一定程度の専門知識修得や技能養成）の組み合わせで，多様な学修目的・進路目標に応えることができる。

ポートフォリオ

英語で，紙挟み，書類かばんという意味。「学修ポートフォリオ」は，学修状況を記録した書類や関係する資料等を，紙挟みや書類かばんに収めたように，取りまとめたものを指す。

【別表Ａ】各専修プログラム　主専修プログラム要件一覧表

全プログラム共通要件：プログラム基礎科目から１６単位以上，プログラム展開科目から１０単位以上修得したうえで，計４４単位以上修得

専修プログラム名		科目区分等		単位数	授　業　科　目　名　等
人間文化課程	国際文化	基礎	選必①	10	２分野以上から修得 分野a＜英米言語文化系＞ 英米文化論講義Ａ～Ｆ，英米文学講義Ａ～Ｄ，言語習得論ＡまたはＢ，英語学講義Ａ～Ｄ 分野b＜異文化コミュニケーション系＞ 異文化コミュニケーション論Ａ～Ｄ 分野c＜アジア言語文化系＞ 中国語学講義Ａ～Ｃ，韓国文化論講義Ａ～Ｃ 分野d＜歴史系＞ アジア史講義ＡまたはＢ，西洋史講義Ａ～Ｃ 分野e＜ヨーロッパ言語文化系＞ ドイツ語学・文化論講義Ａ～Ｃ，ドイツ文学講義Ａ～Ｃ，フランス文学講義Ａ～Ｃ，フランス文化論講義Ａ～Ｃ，表象文化論（ロシア文化）講義Ａ～Ｃ，ヴィジュアル文化論講義，ヴィジュアル表現Ａ～Ｃ 分野f＜外国語コミュニケーション系＞ 英語コミュニケーション基礎ⅠまたはⅡ，総合中国語ＡまたはＢ，中国語コミュニケーション発展Ａ～Ｃ，韓国語コミュニケーション発展Ａ～Ｃ，総合ドイツ語ＡまたはＢ，ドイツ語コミュニケーション発展Ａ～Ｃ，総合フランス語ＡまたはＢ，フランス語コミュニケーション発展Ａ～Ｃ，総合ロシア語ＡまたはＢ，ロシア語コミュニケーション発展Ａ～Ｃ
		展開	選必②	4	１分野から修得 分野g＜英米言語文化系＞ 英語コミュニケーション論演習ⅠまたはⅡ，英米文化論・文学演習ＡまたはＢ，英語習得論演習Ａ～Ｄ 分野h＜異文化コミュニケーション系＞ 異文化コミュニケーション論特講Ａ～Ｄ，異文化コミュニケーション論演習Ａ～Ｄ 分野i＜アジア言語文化系＞ 中国語学演習Ａ～Ｃ，韓国文化論演習Ａ～Ｃ 分野j＜歴史系＞ アジア史演習Ａ～Ｄ，西洋史演習Ａ～Ｄ 分野k＜ヨーロッパ言語文化系＞ ドイツ語学・文化論演習Ａ～Ｃ，ドイツ文学演習Ａ～Ｃ，フランス文学演習Ａ～Ｃ，フランス文化論演習，表象文化論（ロシア文化）演習Ａ～Ｃ，ヴィジュアル文化論演習Ａ～Ｃ
	日本文化	基礎	選必①	2	日本史講義Ａ～Ｄ
			選必②	2	日本思想史講義Ａ～Ｄ
			選必③	2	考古学講義Ａ・Ｂ，考古学実習Ａ～Ｄ
			選必④	2	日本文学講義Ａ～Ｄ
			選必⑤	2	日本語学概説，日本語学講義Ａ～Ｄ
			選必⑥	2	書法基礎，日本書文化講義，日本書文化基礎Ａ～Ｄ

人間文化課程	日本文化	展開	選必⑦	6	２分野以上から修得 分野a: 日本史特講Ａ～Ｃ，日本史講読Ａ・Ｂ 分野b: 日本思想史特講Ａ～Ｃ，日本思想史講読Ⅰ・Ⅱ 分野c: 考古学特講，考古学各論 分野d: 日本文学特講Ａ～Ｃ，日本文学講読Ａ・Ｂ 分野e: 日本語学特講Ａ・Ｂ，日本語学講読Ａ・Ｂ 分野f: 日本書文化展開Ａ～Ｄ，日本書文化講読
			選必⑧	4	１分野から修得 分野g: 日本史演習Ⅰ～Ⅳ 分野h: 日本思想史演習Ⅰ～Ⅳ 分野i: 考古学演習Ⅰ～Ⅳ 分野j: 日本文学演習Ａ～Ｄ 分野k: 日本語学演習Ａ～Ｄ 分野l: 日本書文化演習Ａ～Ｄ
	現代社会共創	基礎	選必①	4	各分野から２単位以上修得 分野a: 人文学入門Ａ～Ｃ 分野b: 社会学入門Ａ～Ｃ
			選必②	4	各分野から２単位以上修得 分野c: 人間学講義，倫理学講義，社会文化思想論講義，表象文化論（ロシア文化）講義Ａ～Ｃ 分野d: ジェンダー論講義，エスニシティ論講義，社会問題論講義
		展開	選必③	4	人間学特講ＡまたはＢ，倫理学特講ＡまたはＢ，社会文化思想論特講ＡまたはＢ，ジェンダー論特講ＡまたはＢ，エスニシティ論特講ＡまたはＢ，社会問題論特講
			選必④	6	各分野から２単位以上修得 分野e: 人間学演習Ａ～Ｄ，倫理学演習Ａ～Ｄ，社会文化思想論演習ＡまたはＢ，表象文化論（ロシア文化）演習Ａ～Ｃ 分野f: ジェンダー論演習Ａ～Ｄ，エスニシティ論演習Ａ～Ｄ，社会問題論演習Ａ～Ｄ
	人間行動	基礎	必修	12	社会調査基礎，心理学基礎実験（心理学実験），特殊実験調査Ⅰ，特殊実験調査Ⅱ，行動科学方法論（心理学研究法）
			選必①	4	社会調査実習，基礎統計学，統計学（検定･推定），行動科学統計法（心理学統計法）
			選必②	4	心理学概論，実験心理学（神経・生理心理学），認知心理学（知覚・認知心理学Ⅰ），人格心理学（感情・人格心理学），スポーツ心理学，臨床心理学（臨床心理学概論）
			選必③	4	社会心理学（社会・集団・家族心理学），地域社会学，ソーシャルデザイン論，スポーツ社会学
		展開	選必④	8	分野a から４単位以上，分野b から４単位以上で合計８単位以上修得 分野a＜個人系＞ 実験心理学演習ＡまたはＢ，認知心理学演習ＡまたはＢ，人格心理学演習ＡまたはＢ，スポーツ心理学演習ＡまたはＢ，臨床心理学演習ＡまたはＢ 分野b＜集団系＞ 社会心理学演習ＡまたはＢ，犯罪心理学演習，地域社会学演習ＡまたはＢ，ソーシャルデザイン論演習ＡまたはＢ，行動計量学演習ＡまたはＢ，スポーツ社会学演習ＡまたはＢ

地域政策課程	政策法務	基礎	選必①	6	憲法（人権）Ⅰ，憲法（統治機構）Ａ，刑法総論Ａ，政治学（政治過程），刑事政策
			選必②	2	環境生態学Ａ，自然環境学Ａ，環境統計学Ⅰ
		展開	選必③	2	地域政策実践演習ＡまたはＢ
			選必④	4	同名演習科目のⅠおよびⅡを修得 政治学演習Ⅰ・Ⅱ，憲法演習Ⅰ・Ⅱ，民法（財産法）演習Ⅰ・Ⅱ，民法（家族法）演習Ⅰ・Ⅱ，商法演習Ⅰ・Ⅱ，刑法演習Ⅰ・Ⅱ，刑事訴訟法演習Ⅰ・Ⅱ，労働法演習Ⅰ・Ⅱ，理論経済学演習Ⅰ・Ⅱ，政治経済学演習Ⅰ・Ⅱ，財政学演習Ⅰ・Ⅱ，農業経済論演習Ⅰ・Ⅱ，経営学演習Ⅰ・Ⅱ，環境政策論演習Ⅰ・Ⅱ，環境経済論演習Ⅰ・Ⅱ，環境社会学演習Ⅰ・Ⅱ，自然環境学演習Ⅰ・Ⅱ，環境生態学演習Ⅰ・Ⅱ
	企業法務	基礎	選必①	6	民法（物権）Ⅰ，民法（債権総論）Ａ，民法（債権各論）Ａ，会社法Ａ，労働法（個別法）
			選必②	2	環境生態学Ａ，自然環境学Ａ，環境統計学Ⅰ
		展開	選必③	2	地域政策実践演習ＡまたはＢ
			選必④	4	同名演習科目のⅠおよびⅡを修得 対象授業科目は政策法務プログラムの「選必④」と同じ
	地域社会経済	基礎	選必①	6	理論経済学ⅠまたはⅡ，政治経済学ⅠまたはⅡ，財政学ⅠまたはⅡ，農業経済論ⅠまたはⅡ，経営学総論ⅠまたはⅡ，国際経済論ＡまたはＢ，ミクロ経済学，金融論
			選必②	2	環境生態学Ａ，自然環境学Ａ，環境統計学Ⅰ
			選必③	2	地域経済調査演習，地域経済実践演習
		展開	選必④	4	同名演習科目のⅠおよびⅡを修得 対象授業科目は政策法務プログラムの「選必④」と同じ
	地域環境	基礎	必修	2	環境科学演習
			選必①	4	環境政策論Ⅱ，環境社会学ⅠまたはⅡ
			選必②	2	環境生態学Ａ，自然環境学Ａ，環境統計学Ⅰ
			選必③	2	環境社会調査演習，地域環境マネジメント実践演習
		展開	選必④	4	同名演習科目のⅠおよびⅡを修得 対象授業科目は政策法務プログラムの「選必④」と同じ

【別表Ｂ】各専修プログラム　副専修プログラム要件一覧表

全プログラム共通要件：各専修プログラムの副専修プログラム科目（科目等一覧で授業科目名に「副」とある授業科目（課程横断型を除く））から１６単位以上修得

課程	プログラム名	要　　件	
人間文化課程	国際文化	プログラム基礎科目から６単位以上，プログラム展開科目から６単位以上修得	
	日本文化	プログラム基礎科目から６単位以上，プログラム展開科目から６単位以上修得	
	現代社会共創	プログラム基礎科目から６単位以上，プログラム展開科目から６単位以上修得	
	人間行動	プログラム基礎科目から６単位以上，プログラム展開科目から６単位以上修得	
地域政策課程	政策法務	憲法（人権）Ⅰ，憲法（統治機構）Ａ，刑法総論Ａ，政治学（政治過程），刑事政策から６単位以上修得	
	企業法務	民法（物権）Ⅰ，民法（債権総論）Ａ，民法（債権各論）Ａ，会社法Ａ，労働法（個別法）から６単位以上修得	
	地域社会経済	指定なし ※人間文化課程所属学生は「他課程科目」で「経済学基礎Ⅰ」を履修することが望ましい	
	地域環境	選必①　環境政策論Ⅱ，環境社会学ⅠまたはⅡから４単位以上修得	
		選必②　環境生態学Ａ，自然環境学Ａ，環境統計学ⅠまたはⅡから２単位以上修得	
	地域社会連携（副専修専門プログラム）	選必①　経営学総論ⅠまたはⅡ，会計学ⅠまたはⅡ，政治経済学ⅠまたはⅡ，農業経済論ⅠまたはⅡ，財政学ⅠまたはⅡ，社会保障論，国際経済論ＡまたはＢ，地方財政論，協同組合論，マーケティング論，企業論，労働経済論，日本経済論，経済学特講から６単位以上修得	
		選必②　行政学，会社法ＡまたはＢ，労働法（個別法），労働法（集団法），社会保障法，地方自治法，国際法ＡまたはＢ，刑事政策，政治学（政治過程），政治学（政治理論），国際政治学から２単位以上修得	
		選必③　環境経済論Ｂ，環境政策論Ⅱ，環境社会学ⅠまたはⅡ，環境生態学Ａ，自然環境学Ａ，環境統計学Ⅰから２単位上修得	
		※人間文化課程所属学生は「他課程科目」で「経済学基礎Ⅰ」を履修することが望ましい	

※グローバル・地域人材育成プログラムについては，Ⅲ－47ページで確認してください。

６．人間文化課程　科目等一覧

注１　　単位数の「必」は必修科目，「選」は選択必修科目，「自」は自由選択科目の略です。必修，選択必修科目については，「５．卒業に必要な単位数および主・副専修プログラム等について」で確認してください。

注２　　下位数字の授業科目の単位修得が履修の条件となっている授業科目は,備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

注３　　「総合科学基礎（地域政策）Ａ・Ｂ」を４単位修得した場合，２単位分は他課程科目の単位に算入することができます。

★課程科目単位修得要件

選必①から４単位以上，選必②から４単位以上修得

科目区分		必要単位数	授業科目名	単位数 必	単位数 選	単位数 自	対象学年	開講間隔	備考
学部共通科目		2	基礎ゼミナール	2			1前	1回/1年	
		2	総合科学論	2			3前	1回/1年	
		4	総合科学基礎（人間文化）Ａ	2			1前	1回/1年	
			総合科学基礎（人間文化）Ｂ	2			1後	1回/1年	
		2	総合科学基礎（地域政策）Ａ		2		2前	1回/1年	
			総合科学基礎（地域政策）Ｂ		2		2後	1回/1年	
		－	課題解決型国際研修（英語）			2	1後	1回/1年	集中
			課題解決型国際研修（ドイツ語）			2	1後	1回/1年	集中
			課題解決型国際研修（フランス語）			2	1後	1回/1年	集中
			課題解決型国際研修（中国語）			2	1後	1回/1年	集中
			課題解決型国際研修（韓国語）			2	1前	1回/1年	集中
			統計的機械学習実践			2	3前	1回/1年	
			プログラミング基礎			1	1後	1回/1年	
			プログラミング入門			2	2前	1回/1年	
課程科目	課程共通科目	4	国際交流研修		2		1前	1回/1年	選必①
			日本語表現基礎（アカデミック・ライティング）		2		1後	1回/1年	選必①
			日本語読解基礎（クリティカル・リーディング）		2		1後	1回/1年	選必①
			ドイツ語基礎		2		2・3後	1回/2年	選必①
			フランス語基礎		2		2・3後	1回/2年	選必①
			ロシア語基礎		2		2・3後	1回/2年	選必①
			中国語基礎		2		2・3後	1回/2年	選必①
			韓国語基礎		2		2・3後	1回/2年	選必①
			文学・思想研究方法論		2		1後	1回/1年	選必①
		4	国際文化論		2		1後	1回/1年	選必②
			日本文化研究入門		2		1後	1回/1年	選必②
			現代社会共創論		2		1後	1回/1年	選必②
			人間行動論		2		1後	1回/1年	選必②
		6	特別研究	6			4通	1回/1年	
他課程科目		4	法律学基礎		2		2前	1回/1年	
			民法（総則）Ⅰ		2		2前	1回/1年	
			民法（総則）Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
			経済学基礎Ⅰ		2		2前	1回/1年	
			経済学基礎Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
			環境政策論Ⅰ		2		2前	1回/1年	
			環境経済論Ａ		2		2後	1回/1年	

＊　備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

◇国際文化専修プログラム

★主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細はⅢ－24～27ページの【別表Ａ】，【別表Ｂ】を確認すること。

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目		単位数 必	選	自	対象学年	開講間隔	備考
プログラム基礎科目	副	ドイツ語コミュニケーション基礎		2		1後	1回/1年	
	副	ロシア語コミュニケーション基礎		2		1後	1回/1年	
	副	英米文化論講義Ａ		2		2・3前	1回/2年	選必①a
	副	英米文化論講義Ｂ		2		2・3後	1回/2年	選必①a
	副	英米文化論講義Ｃ		2		2・3前	1回/2年	選必①a
	副	英米文化論講義Ｄ		2		2・3後	1回/2年	選必①a
	副	英米文化論講義Ｅ		2		2・3前	1回/2年	選必①a
	副	英米文化論講義Ｆ		2		2・3後	1回/2年	選必①a
	副	英米文学講義Ａ		2		2・3前	1回/2年	選必①a
	副	英米文学講義Ｂ		2		1・2後	1回/2年	選必①a
	副	英米文学講義Ｃ		2		2・3前	1回/2年	選必①a
	副	英米文学講義Ｄ		2		1・2後	1回/2年	選必①a
	副	言語習得論Ａ		2		2前	1回/1年	選必①a
	副	言語習得論Ｂ		2		2後	1回/1年	選必①a
	副	英語学講義Ａ		2		2前	1回/1年	選必①a
	副	英語学講義Ｂ		2		2後	1回/1年	選必①a
	副	英語学講義Ｃ		2		2前	1回/1年	選必①a
	副	英語学講義Ｄ		2		2後	1回/1年	選必①a
	副	スキルアップ・イングリッシュＡ		2		2・3前	1回/2年	
	副	スキルアップ・イングリッシュＢ		2		1・2後	1回/2年	
	副	英語コミュニケーション基礎Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必①f
	副	英語コミュニケーション基礎Ⅱ		2		2後	1回/1年	選必①f
	副	英語コミュニケーション発展Ⅰ		2		3前	1回/1年	
	副	英語コミュニケーション発展Ⅱ		2		3後	1回/1年	
	副	アカデミック・イングリッシュⅠ		2		2・3前	1回/2年	
	副	アカデミック・イングリッシュⅡ		2		2・3前	1回/2年	
	副	パワーアップ・イングリッシュＡ		2		2・3前	1回/2年	
	副	パワーアップ・イングリッシュＢ		2		2・3前	1回/2年	
	副	異文化コミュニケーション論Ａ		2		2・3前	1回/2年	選必①b
	副	異文化コミュニケーション論Ｂ		2		1・2後	1回/2年	選必①b
	副	異文化コミュニケーション論Ｃ		2		2・3前	1回/2年	選必①b
	副	異文化コミュニケーション論Ｄ		2		1・2後	1回/2年	選必①b
	副	中国文学講義Ａ		2		2・3前	1回/2年	
	副	中国文学講義Ｂ		2		1・2後	1回/2年	
	副	中国語学講義Ａ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①c
	副	中国語学講義Ｂ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①c
	副	中国語学講義Ｃ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①c
	副	韓国文化論講義Ａ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①c
	副	韓国文化論講義Ｂ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①c
	副	韓国文化論講義Ｃ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①c
	副	総合中国語Ａ		2		2・3前	1回/2年	選必①f
	副	総合中国語Ｂ		2		2・3前	1回/2年	選必①f
	副	中国語コミュニケーション発展Ａ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①f
	副	中国語コミュニケーション発展Ｂ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①f
	副	中国語コミュニケーション発展Ｃ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①f
	副	韓国語コミュニケーション発展Ａ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①f
	副	韓国語コミュニケーション発展Ｂ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①f
	副	韓国語コミュニケーション発展Ｃ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①f
	副	アジア史講義Ａ		2		2・3前	1回/2年	選必①d
	副	アジア史講義Ｂ		2		2・3前	1回/2年	選必①d
	副	中国思想史講義Ａ		2		2・3前	1回/2年	
	副	中国思想史講義Ｂ		2		1・2後	1回/2年	
	副	西洋史講義Ａ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①d

科目区分		授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数 必	単位数 選	単位数 自	対象学年	開講間隔	備考
プログラム基礎科目	副	西洋史講義Ｂ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①d
	副	西洋史講義Ｃ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①d
	副	ドイツ語学・文化論講義Ａ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①e
	副	ドイツ語学・文化論講義Ｂ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①e
	副	ドイツ語学・文化論講義Ｃ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①e
	副	ドイツ文学講義Ａ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①e
	副	ドイツ文学講義Ｂ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①e
	副	ドイツ文学講義Ｃ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①e
	副	フランス文学講義Ａ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①e
	副	フランス文学講義Ｂ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①e
	副	フランス文学講義Ｃ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①e
	副	フランス文化論講義Ａ		2		1・2・3後	1回/3年	選必①e
	副	フランス文化論講義Ｂ		2		1・2・3後	1回/3年	選必①e
	副	フランス文化論講義Ｃ		2		1・2・3後	1回/3年	選必①e
	副	表象文化論（ロシア文化）講義Ａ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①e
	副	表象文化論（ロシア文化）講義Ｂ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①e
	副	表象文化論（ロシア文化）講義Ｃ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①e
	副	ヴィジュアル文化論講義		2		2前	1回/1年	選必①e
	副	ヴィジュアル表現Ａ		1		2・3・4前	1回/3年	選必①e
	副	ヴィジュアル表現Ｂ		1		2・3・4前	1回/3年	選必①e
	副	ヴィジュアル表現Ｃ		1		2・3・4前	1回/3年	選必①e
	副	総合ドイツ語Ａ		2		2・3前	1回/2年	選必①f
	副	総合ドイツ語Ｂ		2		2・3前	1回/2年	選必①f
	副	ドイツ語コミュニケーション発展Ａ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①f
	副	ドイツ語コミュニケーション発展Ｂ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①f
	副	ドイツ語コミュニケーション発展Ｃ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①f
	副	総合フランス語Ａ		2		2・3前	1回/2年	選必①f
	副	総合フランス語Ｂ		2		2・3前	1回/2年	選必①f
	副	フランス語コミュニケーション発展Ａ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①f
	副	フランス語コミュニケーション発展Ｂ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①f
	副	フランス語コミュニケーション発展Ｃ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①f
	副	総合ロシア語Ａ		2		2・3前	1回/2年	選必①f
	副	総合ロシア語Ｂ		2		2・3前	1回/2年	選必①f
	副	ロシア語コミュニケーション発展Ａ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①f
	副	ロシア語コミュニケーション発展Ｂ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①f
	副	ロシア語コミュニケーション発展Ｃ		2		2・3・4前	1回/3年	選必①f
		基礎法Ａ		2		2・3前	1回/2年	
		基礎法Ｂ		2		2・3後	1回/2年	
プログラム展開科目	副	英米文化論・文学演習Ａ		2		3前	1回/1年	選必②g
	副	英米文化論・文学演習Ｂ		2		3後	1回/1年	選必②g
	副	英語習得論演習Ａ		2		3・4前	1回/2年	選必②g
	副	英語習得論演習Ｂ		2		3・4後	1回/2年	選必②g
	副	英語習得論演習Ｃ		2		3・4前	1回/2年	選必②g
	副	英語習得論演習Ｄ		2		3・4後	1回/2年	選必②g
	副	英語コミュニケーション論演習Ⅰ		2		3後	1回/1年	選必②g
	副	英語コミュニケーション論演習Ⅱ		2		4前	1回/1年	選必②g
	副	英語コミュニケーション実践Ⅰ		2		3前	1回/1年	
	副	英語コミュニケーション実践Ⅱ		2		3後	1回/1年	
	副	異文化コミュニケーション論特講Ａ		2		3・4前	1回/2年	選必②h
	副	異文化コミュニケーション論特講Ｂ		2		2・3後	1回/2年	選必②h
	副	異文化コミュニケーション論特講Ｃ		2		3・4前	1回/2年	選必②h
	副	異文化コミュニケーション論特講Ｄ		2		2・3後	1回/2年	選必②h
	副	異文化コミュニケーション論演習Ａ		2		3・4前	1回/2年	選必②h
	副	異文化コミュニケーション論演習Ｂ		2		3・4後	1回/2年	選必②h
	副	異文化コミュニケーション論演習Ｃ		2		3・4前	1回/2年	選必②h
	副	異文化コミュニケーション論演習Ｄ		2		3・4後	1回/2年	選必②h
	副	中国文学特講Ａ		2		3・4前	1回/2年	
	副	中国文学特講Ｂ		2		2・3後	1回/2年	
	副	中国語学演習Ａ		2		2・3・4後	1回/3年	選必②i
	副	中国語学演習Ｂ		2		2・3・4後	1回/3年	選必②i
	副	中国語学演習Ｃ		2		2・3・4後	1回/3年	選必②i
	副	韓国文化論演習Ａ		2		2・3・4後	1回/3年	選必②i
	副	韓国文化論演習Ｂ		2		2・3・4後	1回/3年	選必②i

科目区分		授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数 必	選	自	対象学年	開講間隔	備考
プログラム展開科目	副	韓国文化論演習C		2		2・3・4後	1回/3年	選必②i
	副	アジア史特講A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副	アジア史特講B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副	アジア史特講C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副	アジア史特講D		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	副	アジア史講読A		2		3・4前	1回/2年	
	副	アジア史講読B		2		2・3後	1回/2年	
	副	アジア史講読C		2		3・4前	1回/2年	
	副	アジア史講読D		2		2・3後	1回/2年	
	副	アジア史演習A		2		3・4前	1回/2年	選必②j
	副	アジア史演習B		2		3・4後	1回/2年	選必②j
	副	アジア史演習C		2		3・4前	1回/2年	選必②j
	副	アジア史演習D		2		3・4後	1回/2年	選必②j
	副	中国思想史特講A		2		3・4前	1回/2年	
	副	中国思想史特講B		2		2・3後	1回/2年	
	副	西洋史特講A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副	西洋史特講B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副	西洋史特講C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副	西洋史特講D		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	副	西洋史講読A		2		2・3後	1回/2年	
	副	西洋史講読B		2		3・4前	1回/2年	
	副	西洋史講読C		2		2・3後	1回/2年	
	副	西洋史講読D		2		3・4前	1回/2年	
	副	西洋史演習A		2		3・4前	1回/2年	選必②j
	副	西洋史演習B		2		3・4後	1回/2年	選必②j
	副	西洋史演習C		2		3・4前	1回/2年	選必②j
	副	西洋史演習D		2		3・4後	1回/2年	選必②j
	副	ドイツ語学・文化論演習A		2		2・3・4後	1回/3年	選必②k
	副	ドイツ語学・文化論演習B		2		2・3・4後	1回/3年	選必②k
	副	ドイツ語学・文化論演習C		2		2・3・4後	1回/3年	選必②k
	副	ドイツ文学演習A		2		2・3・4後	1回/3年	選必②k
	副	ドイツ文学演習B		2		2・3・4後	1回/3年	選必②k
	副	ドイツ文学演習C		2		2・3・4後	1回/3年	選必②k
	副	フランス文学演習A		2		2・3・4後	1回/3年	選必②k
	副	フランス文学演習B		2		2・3・4後	1回/3年	選必②k
	副	フランス文学演習C		2		2・3・4後	1回/3年	選必②k
	副	フランス文化論演習		2		2・3後	1回/2年	選必②k
	副	表象文化論（ロシア文化）演習A		2		2・3・4後	1回/3年	選必②k
	副	表象文化論（ロシア文化）演習B		2		2・3・4後	1回/3年	選必②k
	副	表象文化論（ロシア文化）演習C		2		2・3・4後	1回/3年	選必②k
	副	ヴィジュアル文化論演習A		2		2・3・4後	1回/3年	選必②k
	副	ヴィジュアル文化論演習B		2		2・3・4後	1回/3年	選必②k
	副	ヴィジュアル文化論演習C		2		2・3・4後	1回/3年	選必②k
	副	ドイツ語コミュニケーション実践A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副	ドイツ語コミュニケーション実践B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副	ドイツ語コミュニケーション実践C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副	フランス語コミュニケーション実践A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副	フランス語コミュニケーション実践B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副	フランス語コミュニケーション実践C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副	ロシア語コミュニケーション実践A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副	ロシア語コミュニケーション実践B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副	ロシア語コミュニケーション実践C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副	ロシア語コミュニケーション実践D		2		2・3・4後	1回/3年	
	副	ロシア語コミュニケーション実践E		2		2・3・4後	1回/3年	
	副	ロシア語コミュニケーション実践F		2		2・3・4後	1回/3年	
主専修プログラム最低必要単位数			0	44	−	基礎から16単位・展開から10単位以上修得（必修含む）　注）修得要件を満たすこと		
副専修プログラム最低必要単位数			−	16	−	授業科目名の前に「副」とあるものから修得　注）修得要件を満たすこと		

*1　備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。
*2　単位数欄の「必」，「選」，「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

◇日本文化専修プログラム

★主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細はⅢ－24～27ページの【別表Ａ】，【別表Ｂ】を確認すること。

科目区分		授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数 必	選	自	対象学年	開講間隔	備考
プログラム基礎科目	副	日本史講義Ａ		2		2・3前	1回/2年	選必①
	副	日本史講義Ｂ		2		2・3後	1回/2年	選必①
	副	日本史講義Ｃ		2		2・3前	1回/2年	選必①
	副	日本史講義Ｄ		2		2・3後	1回/2年	選必①
	副	日本思想史講義Ａ		2		1・2後	1回/2年	選必②
	副	日本思想史講義Ｂ		2		2・3前	1回/2年	選必②
	副	日本思想史講義Ｃ		2		1・2後	1回/2年	選必②
	副	日本思想史講義Ｄ		2		2・3前	1回/2年	選必②
	副	日本文学講義Ａ		2		1・2後	1回/2年	選必④
	副	日本文学講義Ｂ		2		2・3前	1回/2年	選必④
	副	日本文学講義Ｃ		2		1・2後	1回/2年	選必④
	副	日本文学講義Ｄ		2		2・3前	1回/2年	選必④
	副	日本語学概説		2		2前	1回/1年	選必⑤
	副	日本語学講義Ａ		2		2・3前	1回/2年	選必⑤
	副	日本語学講義Ｂ		2		2・3後	1回/2年	選必⑤
	副	日本語学講義Ｃ		2		2・3前	1回/2年	選必⑤
	副	日本語学講義Ｄ		2		2・3後	1回/2年	選必⑤
	副	日本語教育概論Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	副	日本語教育概論Ⅱ		2		2後	1回/1年	
	副	日本語教授法講義Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	副	日本語教授法講義Ⅱ		2		2後	1回/1年	
	副	学校教育を受けるための日本語		2		2後	1回/1年	
	副	書法基礎		2		1後	1回/1年	選必⑥
	副	日本書文化講義		2		2・3前	1回/2年	選必⑥
	副	日本書文化基礎Ａ		2		1・2後	1回/2年	選必⑥
	副	日本書文化基礎Ｂ		2		1・2後	1回/2年	選必⑥
	副	日本書文化基礎Ｃ		2		1・2後	1回/2年	選必⑥
	副	日本書文化基礎Ｄ		2		1・2後	1回/2年	選必⑥
	副	考古学講義Ａ		2		1後	1回/1年	選必③
	副	考古学講義Ｂ		2		2前	1回/1年	選必③
	副	考古学実習Ａ		2		2前	1回/1年	選必③
	副	考古学実習Ｂ		2		2後	1回/1年	選必③
	副	考古学実習Ｃ		2		3前	1回/1年	選必③
	副	考古学実習Ｄ		2		3後	1回/1年	選必③
		漢文学概論		2		2前	1回/1年	
		漢文学講義		2		2後	1回/1年	
プログラム展開科目	副	日本史特講Ａ		2		3・4前	1回/2年	選必⑦a
	副	日本史特講Ｂ		2		3・4後	1回/2年	選必⑦a
	副	日本史特講Ｃ		2		2・3・4後	1回/3年	選必⑦a　集中
		日本史講読Ａ		2		3・4前	1回/2年	選必⑦a
		日本史講読Ｂ		2		2・3後	1回/2年	選必⑦a
		日本史演習Ⅰ		2		3・4前	1回/2年	選必⑧g
		日本史演習Ⅱ		2		3・4後	1回/2年	選必⑧g
		日本史演習Ⅲ		2		3・4前	1回/2年	選必⑧g
		日本史演習Ⅳ		2		3・4後	1回/2年	選必⑧g
	副	日本思想史特講Ａ		2		3・4前	1回/2年	選必⑦b
	副	日本思想史特講Ｂ		2		3・4後	1回/2年	選必⑦b
	副	日本思想史特講Ｃ		2		2・3・4前	1回/3年	選必⑦b　集中
	副	日本思想史講読Ⅰ		2		3・4前	1回/2年	選必⑦b
	副	日本思想史講読Ⅱ		2		3・4後	1回/2年	選必⑦b
		日本思想史演習Ⅰ		2		3・4前	1回/2年	選必⑧h

科目区分		授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数 必	選	自	対象学年	開講間隔	備考
プログラム展開科目		日本思想史演習Ⅱ		2		3・4後	1回/2年	選必⑧h
		日本思想史演習Ⅲ		2		3・4前	1回/2年	選必⑧h
		日本思想史演習Ⅳ		2		3・4後	1回/2年	選必⑧h
	副	日本文学特講Ａ		2		2・3後	1回/2年	選必⑦d
	副	日本文学特講Ｂ		2		2・3後	1回/2年	選必⑦d
	副	日本文学特講Ｃ		2		2・3・4前	1回/3年	選必⑦d
	副	日本文学講読Ａ		2		3・4前	1回/2年	選必⑦d
	副	日本文学講読Ｂ		2		3・4前	1回/2年	選必⑦d
		日本文学演習Ａ		2		3・4前	1回/2年	選必⑧j
		日本文学演習Ｂ		2		3・4後	1回/2年	選必⑧j
		日本文学演習Ｃ		2		3・4前	1回/2年	選必⑧j
		日本文学演習Ｄ		2		3・4後	1回/2年	選必⑧j
	副	日本語学講読Ａ		2		3・4前	1回/2年	選必⑦e
	副	日本語学講読Ｂ		2		3・4前	1回/2年	選必⑦e
	副	日本語学特講Ａ		2		2・3後	1回/2年	選必⑦e
	副	日本語学特講Ｂ		2		2・3後	1回/2年	選必⑦e
		日本語学演習Ａ		2		3・4前	1回/2年	選必⑧k
		日本語学演習Ｂ		2		3・4後	1回/2年	選必⑧k
		日本語学演習Ｃ		2		3・4前	1回/2年	選必⑧k
		日本語学演習Ｄ		2		3・4後	1回/2年	選必⑧k
	副	日本書文化講読		2		3・4前	1回/2年	選必⑦f
	副	日本書文化展開Ａ		2		2・3前	1回/2年	選必⑦f
	副	日本書文化展開Ｂ		2		2・3前	1回/2年	選必⑦f
	副	日本書文化展開Ｃ		2		2・3前	1回/2年	選必⑦f
	副	日本書文化展開Ｄ		2		2・3前	1回/2年	選必⑦f
		日本書文化演習Ａ		2		3前	1回/1年	選必⑧l
		日本書文化演習Ｂ		2		3前	1回/1年	選必⑧l
		日本書文化演習Ｃ		2		4前	1回/1年	選必⑧l
		日本書文化演習Ｄ		2		4後	1回/1年	選必⑧l
	副	考古学特講		2		2・3後	1回/2年	選必⑦c
	副	考古学各論		2		2・3・4前	1回/3年	選必⑦c
		考古学フィールドワークＡ		2		2前	1回/1年	集中
		考古学フィールドワークＢ		2		2前	1回/1年	集中
		考古学フィールドワークＣ		2		3前	1回/1年	集中
		考古学フィールドワークＤ		2		3前	1回/1年	集中
		考古学演習Ⅰ		2		3・4前	1回/2年	選必⑧i
		考古学演習Ⅱ		2		3・4後	1回/2年	選必⑧i
		考古学演習Ⅲ		2		3・4前	1回/2年	選必⑧i
		考古学演習Ⅳ		2		3・4後	1回/2年	選必⑧i
	副	日本文化史特講		2		2後	1回/1年	
主専修プログラム最低必要単位数			0	44	−	基礎16単位以上・展開10単位以上修得（必修含む）　注）修得要件を満たすこと		
副専修プログラム最低必要単位数			−	16	−	授業科目名の前に「副」とあるものから修得　注）修得要件を満たすこと		

*1　備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。
*2　単位数欄の「必」，「選」，「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

◇現代社会共創専修プログラム

★主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細はⅢ－24～27ページの【別表Ａ】，【別表Ｂ】を確認すること。

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数 必	選	自	対象学年	開講間隔	備考
プログラム基礎科目	副　人文学入門Ａ		2		1・2後	1回/2年	選必①a
	副　人文学入門Ｂ		2		1・2後	1回/2年	選必①a
	副　人文学入門Ｃ		2		1・2後	1回/2年	選必①a
	副　社会学入門Ａ		2		1後	1回/1年	選必①b
	副　社会学入門Ｂ		2		1・2後	1回/2年	選必①b
	副　社会学入門Ｃ		2		1・2後	1回/2年	選必①b
	副　人間学講義		2		1・2後	1回/2年	選必②c
	副　倫理学講義		2		1・2後	1回/2年	選必②c
	副　社会文化思想論講義		2		1・2後	1回/2年	選必②c
	副　表象文化論（ロシア文化）講義Ａ		2		2・3・4前	1回/3年	選必②c
	副　表象文化論（ロシア文化）講義Ｂ		2		2・3・4前	1回/3年	選必②c
	副　表象文化論（ロシア文化）講義Ｃ		2		2・3・4前	1回/3年	選必②c
	副　ジェンダー論講義		2		1・2後	1回/2年	選必②d
	副　エスニシティ論講義		2		1・2後	1回/2年	選必②d
	副　社会問題論講義		2		1・2後	1回/2年	選必②d
	副　論理学		2		2・3前	1回/2年	
プログラム展開科目	副　人間学特講Ａ		2		2・3前	1回/2年	選必③
	副　人間学特講Ｂ		2		2・3前	1回/2年	選必③
	副　倫理学特講Ａ		2		2・3前	1回/2年	選必③
	副　倫理学特講Ｂ		2		2・3前	1回/2年	選必③
	副　社会文化思想論特講Ａ		2		2・3前	1回/2年	選必③
	副　社会文化思想論特講Ｂ		2		2・3前	1回/2年	選必③
	副　ジェンダー論特講Ａ		2		2・3前	1回/2年	選必③
	副　ジェンダー論特講Ｂ		2		2・3前	1回/2年	選必③
	副　エスニシティ論特講Ａ		2		2・3前	1回/2年	選必③
	副　エスニシティ論特講Ｂ		2		2・3前	1回/2年	選必③
	副　社会問題論特講		2		2・3前	1回/2年	選必③
	人間学演習Ａ		2		2・3後	1回/2年	選必④e
	人間学演習Ｂ		2		3・4前	1回/2年	選必④e
	人間学演習Ｃ		2		2・3後	1回/2年	選必④e
	人間学演習Ｄ		2		3・4前	1回/2年	選必④e
	倫理学演習Ａ		2		2・3後	1回/2年	選必④e
	倫理学演習Ｂ		2		3・4前	1回/2年	選必④e
	倫理学演習Ｃ		2		2・3後	1回/2年	選必④e
	倫理学演習Ｄ		2		3・4前	1回/2年	選必④e
	社会文化思想論演習Ａ		2		2・3後	1回/2年	選必④e
	社会文化思想論演習Ｂ		2		3・4前	1回/2年	選必④e
	表象文化論（ロシア文化）演習Ａ		2		2・3・4後	1回/3年	選必④e
	表象文化論（ロシア文化）演習Ｂ		2		2・3・4後	1回/3年	選必④e
	表象文化論（ロシア文化）演習Ｃ		2		2・3・4後	1回/3年	選必④e
	ジェンダー論演習Ａ		2		2・3後	1回/2年	選必④f
	ジェンダー論演習Ｂ		2		3・4前	1回/2年	選必④f
	ジェンダー論演習Ｃ		2		2・3後	1回/2年	選必④f
	ジェンダー論演習Ｄ		2		3・4前	1回/2年	選必④f
	エスニシティ論演習Ａ		2		2・3後	1回/2年	選必④f
	エスニシティ論演習Ｂ		2		3・4前	1回/2年	選必④f
	エスニシティ論演習Ｃ		2		2・3後	1回/2年	選必④f
	エスニシティ論演習Ｄ		2		3・4前	1回/2年	選必④f
	社会問題論演習Ａ		2		2・3後	1回/2年	選必④f
	社会問題論演習Ｂ		2		3・4前	1回/2年	選必④f
	社会問題論演習Ｃ		2		2・3後	1回/2年	選必④f
	社会問題論演習Ｄ		2		3・4前	1回/2年	選必④f
	ギリシア語		2		2・3後	1回/2年	
	ラテン語		2		2・3前	1回/2年	
主専修プログラム最低必要単位数		0	44	－	基礎16単位以上・展開10単位以上修得（必修含む）　注）修得要件を満たすこと		
副専修プログラム最低必要単位数		－	16	－	授業科目名の前に「副」とあるものから修得　注）修得要件を満たすこと		

*1　備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。
*2　単位数欄の「必」，「選」，「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

◇人間行動専修プログラム

★主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細はⅢ－24～27ページの【別表Ａ】，【別表Ｂ】を確認すること。

科目区分		授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数 必	単位数 選	単位数 自	対象学年	開講間隔	備考
プログラム基礎科目		社会調査基礎	4			2前	1回/1年	
		心理学基礎実験（心理学実験）	2			2後	1回/1年	
		特殊実験調査Ⅰ	2			3前	1回/1年	
		特殊実験調査Ⅱ	2			3後	1回/1年	
		行動科学方法論（心理学研究法）	2			3後	1回/1年	
		社会調査実習		2		2後	1回/1年	選必① 要「社会調査基礎」
	副	基礎統計学		2		1後	1回/1年	選必①
	副	統計学（検定･推定）		2		2前	1回/1年	選必①
	副	行動科学統計法（心理学統計法）		2		2前	1回/1年	選必①
	副	心理学概論		2		1後	1回/1年	選必②
	副	実験心理学（神経・生理心理学）		2		2・3後	1回/2年	選必②
	副	認知心理学（知覚・認知心理学Ⅰ）		2		2前	1回/1年	選必②
	副	人格心理学（感情・人格心理学）		2		2・3後	1回/2年	選必②
	副	スポーツ心理学		2		1後	1回/1年	選必②
	副	臨床心理学（臨床心理学概論）		2		2・3前	1回/2年	選必②
	副	社会心理学（社会・集団・家族心理学）		2		2前	1回/1年	選必③
	副	地域社会学		2		1後	1回/1年	選必③
	副	ソーシャルデザイン論		2		1後	1回/1年	選必③
	副	スポーツ社会学		2		2前	1回/1年	選必③
プログラム展開科目	副	実験心理学特講（学習・言語心理学）		2		2・3前	1回/2年	
		実験心理学演習Ａ		2		2・3後	1回/2年	選必④a
		実験心理学演習Ｂ		2		3・4前	1回/2年	選必④a
	副	認知心理学特講（知覚・認知心理学Ⅱ）		2		2・3後	1回/2年	
		認知心理学演習Ａ		2		2後	1回/1年	選必④a
		認知心理学演習Ｂ		2		3前	1回/1年	選必④a
	副	人格心理学特講		2		2・3後	1回/2年	
		人格心理学演習Ａ		2		2・3後	1回/2年	選必④a
		人格心理学演習Ｂ		2		3・4前	1回/2年	選必④a
		心理演習		2		3後	1回/1年	
	副	スポーツ心理学特講		2		2前	1回/1年	
		スポーツ心理学演習Ａ		2		2後	1回/1年	選必④a
		スポーツ心理学演習Ｂ		2		3前	1回/1年	選必④a
	副	臨床心理学特講（心理学的支援法Ⅰ）		2		2・3前	1回/2年	
		臨床心理学演習Ａ		2		2・3後	1回/2年	選必④a
		臨床心理学演習Ｂ		2		2・3後	1回/2年	選必④a
		心理検査法実習（心理的アセスメント）		2		3・4前	1回/2年	
	副	社会心理学特講（産業・組織心理学）		2		2・3後	1回/2年	
	副	犯罪社会心理学（司法・犯罪心理学）		2		2・3後	1回/2年	
		社会心理学演習Ａ		2		2後	1回/1年	選必④b
		社会心理学演習Ｂ		2		3・4前	1回/2年	選必④b
		犯罪心理学演習		2		2・3後	1回/2年	選必④b
	副	社会調査特講		2		2前	1回/1年	
	副	地域社会学特講		2		2前	1回/1年	
		地域社会学演習Ａ		2		2後	1回/1年	選必④b
		地域社会学演習Ｂ		2		3前	1回/1年	選必④b
	副	ソーシャルデザイン論特講		2		2前	1回/1年	集中
		ソーシャルデザイン論演習Ａ		2		2後	1回/1年	選必④b
		ソーシャルデザイン論演習Ｂ		2		3前	1回/1年	選必④b
	副	行動計量学		2		2前	1回/1年	
		行動計量学演習Ａ		2		2後	1回/1年	選必④b
		行動計量学演習Ｂ		2		3前	1回/1年	選必④b

科目区分		授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数 必	単位数 選	単位数 自	対象学年	開講間隔	備考
プログラム展開科目	副	スポーツ社会学特講		2		2後	1回/1年	
		スポーツ社会学演習Ａ		2		2後	1回/1年	選必④b
		スポーツ社会学演習Ｂ		2		3前	1回/1年	選必④b
	副	基礎心理学		2		2・3前	1回/2年	集中
	副	応用心理学		2		2・3前	1回/2年	集中
	副	文化心理学		2		2・3前	1回/2年	集中
	副	心理療法論（心理学的支援法Ⅱ）		2		3・4前	1回/2年	集中
	副	心理学通論		2		2後	1回/1年	
	副	生理学特講		2		2・3前	1回/2年	
	副	現代社会論		2		2前	1回/1年	集中
主専修プログラム最低必要単位数			12	32	－	基礎16単位以上・展開10単位以上修得（必修含む）　注）修得要件を満たすこと		
副専修プログラム最低必要単位数			－	16	－	授業科目名の前に「副」とあるものから修得　注）修得要件を満たすこと		

*1　備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。
*2　単位数欄の「必」，「選」，「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

７．地域政策課程　科目等一覧

注１　　単位数の「必」は必修科目，「選」は選択必修科目，「自」は自由選択科目の略です。必修，選択必修科目については，「５．卒業に必要な単位数および主・副専修プログラム等について」で確認してください。

注２　　下位数字の授業科目の単位修得が履修の条件となっている授業科目は,備考欄に「要『（単位修得が必要な授業科目名の数字）』」を記載しています。

注３　　「総合科学基礎（人間文化）Ａ・Ｂ」を４単位修得した場合，２単位分は他課程科目の単位に算入することができます。

科目区分		必要単位数	授業科目名	単位数 必	選	自	対象学年	開講間隔	備考
学部共通科目		2	基礎ゼミナール	2			1前	1回/1年	
		2	総合科学論	2			3前	1回/1年	
		4	総合科学基礎（地域政策）Ａ	2			1前	1回/1年	
			総合科学基礎（地域政策）Ｂ	2			1後	1回/1年	
		2	総合科学基礎（人間文化）Ａ		2		2前	1回/1年	
			総合科学基礎（人間文化）Ｂ		2		2後	1回/1年	
		－	課題解決型国際研修（英語）			2	1後	1回/1年	集中
			課題解決型国際研修（ドイツ語）			2	1後	1回/1年	集中
			課題解決型国際研修（フランス語）			2	1後	1回/1年	集中
			課題解決型国際研修（中国語）			2	1後	1回/1年	集中
			課題解決型国際研修（韓国語）			2	1前	1回/1年	集中
			統計的機械学習実践			2	3前	1回/1年	
			プログラミング基礎			1	1後	1回/1年	
			プログラミング入門			2	2前	1回/1年	
課程科目	課程共通科目	8	法律学基礎		2		1前	1回/1年	
			民法（総則）Ⅰ	2			1前	1回/1年	
			民法（総則）Ⅱ		2		1後	1回/1年	要「Ⅰ」
			経済学基礎Ⅰ	2			1前	1回/1年	
			経済学基礎Ⅱ		2		1後	1回/1年	要「Ⅰ」
			環境政策論Ⅰ	2			1前	1回/1年	
			環境経済論Ａ		2		1後	1回/1年	
		6	特別研究	6			4通	1回/1年	
他課程科目		4	国際交流研修		2		1前	1回/1年	
			日本語表現基礎（アカデミック・ライティング）		2		2前後	1回/1年	
			日本語読解基礎（クリティカル・リーディング）		2		2前後	1回/1年	
			ドイツ語基礎		2		2・3後	1回/2年	
			フランス語基礎		2		2・3後	1回/2年	
			ロシア語基礎		2		2・3後	1回/2年	
			中国語基礎		2		2・3後	1回/2年	
			韓国語基礎		2		2・3後	1回/2年	
			文学・思想研究方法論		2		2後	1回/1年	
			国際文化論		2		2後	1回/1年	
			日本文化研究入門		2		2後	1回/1年	
			現代社会共創論		2		2後	1回/1年	
			人間行動論		2		2後	1回/1年	

＊　備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

◇政策法務専修プログラム

★主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細はⅢ－24～27ページの【別表Ａ】，【別表Ｂ】を確認すること。

注意　下位数字の単位修得が履修条件の授業科目は，備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数 必	単位数 選	単位数 自	対象学年	開講間隔	備考
プログラム基礎科目	副　憲法（人権）Ⅰ		2		1後	1回/1年	選必① 副選
	副　憲法（人権）Ⅱ		2		2前	1回/1年	要「Ⅰ」
	副　憲法（統治機構）Ａ		2		2・3前	1回/2年	選必① 副選
	副　憲法（統治機構）Ｂ		2		2・3後	1回/2年	
	副　刑法総論Ａ		2		2前	1回/1年	選必① 副選
	副　刑法総論Ｂ		2		2後	1回/1年	
	副　政治学（政治過程）		2		1後	1回/1年	選必① 副選
	副　環境生態学Ａ		2		2前	1回/1年	選必②
	副　自然環境学Ａ		2		2前	1回/1年	選必②
	副　環境統計学Ⅰ		2		1後	1回/1年	選必②
	副　民法（物権）Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	副　民法（物権）Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	副　民法（債権総論）Ａ		2		2・3前	1回/2年	
	副　民法（債権総論）Ｂ		2		2・3後	1回/2年	
	民法（債権各論）Ａ		2		2・3前	1回/2年	
	民法（債権各論）Ｂ		2		2・3後	1回/2年	
	民法（家族法）Ａ		2		1後	1回/1年	
	民法（家族法）Ｂ		2		2前	1回/1年	
	副　労働法（個別法）		2		2・3前	1回/2年	
	副　労働法（集団法）		2		2・3後	1回/2年	
	雇用管理法		2		2・3前	1回/2年	
	副　社会保障法		2		2・3・4後	1回/3年	
	刑法各論Ａ		2		2・3前	1回/2年	
	刑法各論Ｂ		2		2・3後	1回/2年	
	副　刑事訴訟法（証拠法・公判法）		2		2・3後	1回/2年	
	副　行政法（作用法総論）Ⅰ		2		2・3前	1回/2年	
	副　行政法（作用法総論）Ⅱ		2		2・3後	1回/2年	要「Ⅰ」
	副　行政法（救済法）Ⅰ		2		2・3前	1回/2年	
	副　行政法（救済法）Ⅱ		2		2・3後	1回/2年	要「Ⅰ」
	副　政治学（政治理論）		2		2前	1回/1年	
	副　行政学		2		2・3前	1回/2年	
	副　地方自治法		2		2・3・4後	1回/3年	
	副　刑事政策		2		2前	1回/1年	選必① 副選
	基礎法Ａ		2		2・3前	1回/2年	
	基礎法Ｂ		2		2・3後	1回/2年	
	国際法Ａ		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	国際法Ｂ		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	副　財政学Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	副　財政学Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	副　社会保障論		2		2後	1回/1年	
	副　環境政策論Ⅱ		2		1後	1回/1年	要「Ⅰ」
	法律学特講Ａ		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講Ｄ		2		2・3・4後	1回/3年	集中
プログラム展開科目	副　地域政策実践演習Ａ		2		3後	1回/1年	選必③
	副　地域政策実践演習Ｂ		2		3後	1回/1年	選必③
	民法（相続法）		2		2後	1回/1年	
	副　民事訴訟法Ａ		2		3・4前	1回/2年	

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数 必	選	自	対象学年	開講間隔	備考
プログラム展開科目	副　民事訴訟法Ｂ		2		2・3後	1回/2年	
	副　刑事訴訟法（捜査法・公訴法）		2		3・4前	1回/2年	
	国際政治学		2		3・4前	1回/2年	
	少年法		2		3・4前	1回/2年	集中
	法律学特講Ｂ		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講Ｃ		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講Ｅ		2		2・3・4後	1回/3年	集中
	法律学特講Ｆ		2		2・3・4後	1回/3年	集中
	副　地方財政論		2		3前	1回/1年	要「財政学Ⅰ」
	政治学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	政治学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	憲法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	憲法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	民法（財産法）演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	民法（財産法）演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	民法（家族法）演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	民法（家族法）演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	商法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	商法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	刑法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	刑法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	刑事訴訟法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	刑事訴訟法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	労働法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	労働法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	理論経済学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	理論経済学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	政治経済学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	政治経済学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	財政学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	財政学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	農業経済論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	農業経済論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	経営学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	経営学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	環境政策論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境政策論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	環境経済論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境経済論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	環境社会学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境社会学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	自然環境学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	自然環境学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	環境生態学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境生態学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
主専修プログラム最低必要単位数		0	44	－	基礎から16単位・展開から10単位以上修得（必修含む）		
副専修プログラム最低必要単位数		－	16	－	授業科目名の前に「副」とあるものから修得　注）修得要件を満たすこと		

*1　備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。
*2　単位数欄の「必」，「選」，「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

◇企業法務専修プログラム

★主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細はⅢ－24～27ページの【別表Ａ】，【別表Ｂ】を確認すること。

注意　下位数字の単位修得が履修条件の授業科目は，備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数 必	単位数 選	単位数 自	対象学年	開講間隔	備考
プログラム基礎科目	副　民法（物権）Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必①　副選
	副　民法（物権）Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	副　民法（債権総論）Ａ		2		2・3前	1回/2年	選必①　副選
	副　民法（債権総論）Ｂ		2		2・3後	1回/2年	
	副　民法（債権各論）Ａ		2		2・3前	1回/2年	選必①　副選
	副　民法（債権各論）Ｂ		2		2・3後	1回/2年	
	副　会社法Ａ		2		2前	1回/1年	選必①　副選
	副　会社法Ｂ		2		2後	1回/1年	
	副　労働法（個別法）		2		2・3前	1回/2年	選必①　副選
	副　労働法（集団法）		2		2・3後	1回/2年	
	副　環境生態学Ａ		2		2前	1回/1年	選必②
	副　自然環境学Ａ		2		2前	1回/1年	選必②
	副　環境統計学Ⅰ		2		1後	1回/1年	選必②
	副　憲法（人権）Ⅰ		2		1後	1回/1年	
	副　憲法（人権）Ⅱ		2		2前	1回/1年	要「Ⅰ」
	民法（家族法）Ａ		2		2前	1回/1年	
	民法（家族法）Ｂ		2		2後	1回/1年	
	刑法総論Ａ		2		1後	1回/1年	
	刑法総論Ｂ		2		2前	1回/1年	
	刑法各論Ａ		2		2・3前	1回/2年	
	刑法各論Ｂ		2		2・3後	1回/2年	
	副　商法Ａ		2		2前	1回/1年	
	副　商法Ｂ		2		2後	1回/1年	
	副　雇用管理法		2		2・3前	1回/2年	
	基礎法Ａ		2		2・3前	1回/2年	
	基礎法Ｂ		2		2・3後	1回/2年	
	国際法Ａ		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	国際法Ｂ		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	副　理論経済学Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	副　理論経済学Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	副　政治経済学Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	副　政治経済学Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	会計学Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	会計学Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	副　経営学総論Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	副　経営学総論Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	金融論		2		2・3前	1回/2年	集中
	環境経済論Ｂ		2		2前	1回/1年	
	法律学特講Ａ		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講Ｄ		2		2・3・4後	1回/3年	集中
プログラム展開科目	副　地域政策実践演習Ａ		2		3後	1回/1年	選必③
	副　地域政策実践演習Ｂ		2		3後	1回/1年	選必③
	民法（相続法）		2		2後	1回/1年	
	副　民事訴訟法Ａ		2		3・4前	1回/2年	
	副　民事訴訟法Ｂ		2		2・3後	1回/2年	
	副　金融法		2		2・3後	1回/2年	

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数 必	選	自	対象学年	開講間隔	備考
プログラム展開科目	知的財産法		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講Ｂ		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講Ｃ		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講Ｅ		2		2・3・4後	1回/3年	集中
	法律学特講Ｆ		2		2・3・4後	1回/3年	集中
	企業論		2		2・3前	1回/2年	
	労働経済論		2		2・3後	1回/2年	
	政治学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	政治学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	憲法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	憲法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	民法（財産法）演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	民法（財産法）演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	民法（家族法）演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	民法（家族法）演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	商法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	商法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	刑法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	刑法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	刑事訴訟法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	刑事訴訟法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	労働法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	労働法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	理論経済学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	理論経済学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	政治経済学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	政治経済学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	財政学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	財政学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	農業経済論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	農業経済論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	経営学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	経営学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	環境政策論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境政策論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	環境経済論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境経済論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	環境社会学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境社会学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	自然環境学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	自然環境学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	環境生態学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境生態学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
主専修プログラム最低必要単位数		0	44	－	基礎から16単位・展開から10単位以上修得（必修含む）		
副専修プログラム最低必要単位数		－	16	－	授業科目名の前に「副」とあるものから修得　注）修得要件を満たすこと		

*1　備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。
*2　単位数欄の「必」，「選」，「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

◇地域社会経済専修プログラム

★主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細はⅢ－24～27ページの【別表Ａ】，【別表Ｂ】を確認すること。

注意　下位数字の単位修得が履修条件の授業科目は，備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数 必	単位数 選	単位数 自	対象学年	開講間隔	備考
プログラム基礎科目	副　理論経済学Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必①
	副　理論経済学Ⅱ		2		2後	1回/1年	選必①　要「Ⅰ」
	副　政治経済学Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必①
	副　政治経済学Ⅱ		2		2後	1回/1年	選必①　要「Ⅰ」
	副　財政学Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必①
	副　財政学Ⅱ		2		2後	1回/1年	選必①　要「Ⅰ」
	副　農業経済論Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必①
	副　農業経済論Ⅱ		2		2後	1回/1年	選必①　要「Ⅰ」
	副　経営学総論Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必①
	副　経営学総論Ⅱ		2		2後	1回/1年	選必①　要「Ⅰ」
	副　国際経済論Ａ		2		2前	1回/1年	選必①
	副　国際経済論Ｂ		2		2後	1回/1年	選必①
	副　ミクロ経済学		2		1後	1回/1年	選必①
	副　金融論		2		2・3前	1回/2年	選必①　集中
	会計学Ⅰ		2		2前	1回/1年	
	会計学Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ⅰ」
	経済外書講読		2		2・3後	1回/2年	
	副　憲法（統治機構）Ａ		2		2・3前	1回/2年	
	副　憲法（統治機構）Ｂ		2		2・3後	1回/2年	
	行政学		2		2・3前	1回/2年	
	副　行政法（作用法総論）Ⅰ		2		2・3前	1回/2年	
	副　行政法（作用法総論）Ⅱ		2		2・3後	1回/2年	要「Ⅰ」
	副　環境政策論Ⅱ		2		１後	1回/1年	要「Ⅰ」
	政治学（政治理論）		2		2前	1回/1年	
	副　環境経済論Ｂ		2		2前	1回/1年	
	環境生態学Ａ		2		2前	1回/1年	選必②
	自然環境学Ａ		2		2前	1回/1年	選必②
	環境統計学Ⅰ		2		1後	1回/1年	選必②
	副　地域経済調査演習		2		2前	1回/1年	選必③
	副　地域経済実践演習		2		2後	1回/1年	選必③
プログラム展開科目	応用マクロ経済学		2		3・4前	1回/2年	
	地方財政論		2		3前	1回/1年	要「財政学Ⅰ」
	協同組合論		2		2・3後	1回/2年	
	マーケティング論		2		2・3前	1回/2年	集中
	副　日本経済史		2		2・3後	1回/2年	
	人的資源管理論		2		2・3後	1回/2年	要「経営学総論Ⅰ」
	経済思想		2		2・3後	1回/2年	
	企業論		2		2・3前	1回/2年	
	副　労働経済論		2		2・3後	1回/2年	
	副　日本経済論		2		2・3後	1回/2年	集中
	副　国際開発と環境・貧困		2		2・3後	1回/2年	
	経済学特講		2		2・3前	1回/2年	集中
	理論経済学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	理論経済学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	政治経済学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	政治経済学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	財政学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	財政学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	農業経済論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	農業経済論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数 必	単位数 選	単位数 自	対象学年	開講間隔	備考
プログラム展開科目	経営学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	経営学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	政治学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	政治学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	憲法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	憲法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	民法（財産法）演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	民法（財産法）演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	民法（家族法）演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	民法（家族法）演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	商法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	商法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	刑法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	刑法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	刑事訴訟法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	刑事訴訟法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	労働法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	労働法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	環境政策論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境政策論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	環境経済論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境経済論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	環境社会学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境社会学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	自然環境学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	自然環境学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	環境生態学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境生態学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
主専修プログラム最低必要単位数		0	44	－	基礎から16単位・展開から10単位以上修得（必修含む）		
副専修プログラム最低必要単位数		－	16	－	授業科目名の前に「副」とあるものから修得　注）修得要件を満たすこと		

*1　備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。
*2　単位数欄の「必」，「選」，「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

◇地域環境専修プログラム

★主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細はⅢ－24～27ページの【別表Ａ】，【別表Ｂ】を確認すること。

注意　下位数字の単位修得が履修条件の授業科目は，備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数 必	単位数 選	単位数 自	対象学年	開講間隔	備考
プログラム基礎科目	副　環境政策論Ⅱ		2		1後	1回/1年	選必①　要「Ｉ」　副選①
	副　環境経済論Ｂ		2		2前	1回/1年	
	副　環境社会学Ｉ		2		2前	1回/1年	選必①　副選①
	副　環境社会学Ⅱ		2		2後	1回/1年	選必①　要「Ｉ」　副選①
	副　環境生態学Ａ		2		2前	1回/1年	選必②　副選②
	副　環境生態学Ｂ		2		2・3後	1回/2年	
	副　自然環境学Ａ		2		2前	1回/1年	選必②　副選②
	副　自然環境学Ｂ		2		2・3後	1回/2年	
	副　環境統計学Ｉ		2		1後	1回/1年	選必②　副選②
	副　環境統計学Ⅱ		2		2前	1回/1年	要「Ｉ」　副選②
	副　憲法（統治機構）Ａ		2		2・3前	1回/2年	
	副　憲法（統治機構）Ｂ		2		2・3後	1回/2年	
	地方自治法		2		2・3・4後	1回/3年	
	政治学（政治理論）		2		2前	1回/1年	
	政治学（政治過程）		2		2後	1回/1年	
	副　行政学		2		2・3前	1回/2年	
	副　理論経済学Ｉ		2		2前	1回/1年	
	理論経済学Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ｉ」
	副　経営学総論Ｉ		2		2前	1回/1年	
	経営学総論Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ｉ」
	副　農業経済論Ｉ		2		2前	1回/1年	
	副　農業経済論Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ｉ」
	副　財政学Ｉ		2		2前	1回/1年	
	副　財政学Ⅱ		2		2後	1回/1年	要「Ｉ」
	副　ミクロ経済学		2		2後	1回/1年	
	副　国際開発と環境・貧困		2		2・3後	1回/2年	
	環境科学演習	2			2前	1回/1年	
	環境科学実験		2		2・3前	1回/2年	集中
	副　環境社会調査実習		2		2・3後	1回/2年	
	副　環境社会調査演習		2		2前	1回/1年	選必③
	副　地域環境マネジメント実践演習		2		2後	1回/1年	選必③
プログラム展開科目	副　環境経済論特講		2		2・3前	1回/2年	
	副　環境社会学特講		2		3・4前	1回/2年	
	倫理学特講A		2		2・3前	1回/2年	
	環境倫理学		2		2・3後	1回/2年	
	国際法Ａ		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	副　国際法Ｂ		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	企業論		2		2・3前	1回/2年	
	副　地方財政論		2		3前	1回/1年	要「財政学Ｉ」
	副　環境学特講Ａ		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	副　環境学特講Ｂ		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	副　環境学特講Ｃ		2		2・3・4前	1回/3年	集中

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数 必	単位数 選	単位数 自	対象学年	開講間隔	備考
プログラム展開科目	環境政策論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境政策論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	環境経済論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境経済論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	環境社会学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境社会学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	自然環境学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	自然環境学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	環境生態学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	環境生態学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	政治学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	政治学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	憲法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	憲法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	民法（財産法）演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	民法（財産法）演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	民法（家族法）演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	民法（家族法）演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	商法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	商法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	刑法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	刑法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	刑事訴訟法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	刑事訴訟法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	労働法演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	労働法演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	理論経済学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	理論経済学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	政治経済学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	政治経済学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	財政学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	財政学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	農業経済論演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	農業経済論演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
	経営学演習Ⅰ		2		3前	1回/1年	選必④
	経営学演習Ⅱ		2		3後	1回/1年	選必④　要「Ⅰ」
主専修プログラム最低必要単位数		2	42	－	基礎から16単位・展開から10単位以上修得（必修含む）　注）修得要件を満たすこと		
副専修プログラム最低必要単位数		－	16	－	授業科目名の前に「副」とあるものから修得　注）修得要件を満たすこと		

*1　備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。
*2　単位数欄の「必」，「選」，「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

◇地域社会連携専修プログラム（副専修専門プログラム）

★副専修プログラムの単位修得要件の詳細はⅢ－27ページの【別表Ｂ】を確認すること。

※人間文化課程所属学生は「他課程科目」で「経済学基礎Ⅰ」を履修することが望ましい。

注意　下位数字の単位修得が履修条件の授業科目は，備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数 必	選	自	対象学年	開講間隔	備考
プログラム科目	副　経営学総論Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必①
	副　経営学総論Ⅱ		2		2後	1回/1年	選必①　要「Ⅰ」
	副　会計学Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必①
	副　会計学Ⅱ		2		2後	1回/1年	選必①　要「Ⅰ」
	副　政治経済学Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必①
	副　政治経済学Ⅱ		2		2後	1回/1年	選必①　要「Ⅰ」
	副　農業経済論Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必①
	副　農業経済論Ⅱ		2		2後	1回/1年	選必①　要「Ⅰ」
	副　財政学Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必①
	副　財政学Ⅱ		2		2後	1回/1年	選必①　要「Ⅰ」
	副　社会保障論		2		2後	1回/1年	選必①
	副　国際経済論Ａ		2		2前	1回/1年	選必①
	副　国際経済論Ｂ		2		2後	1回/1年	選必①
	副　地方財政論		2		3前	1回/1年	選必①　要「財政学Ⅰ」
	副　協同組合論		2		2・3後	1回/2年	選必①
	副　マーケティング論		2		2・3前	1回/2年	選必①　　集中
	副　企業論		2		2・3前	1回/2年	選必①
	副　労働経済論		2		2・3後	1回/2年	選必①
	副　日本経済論		2		2・3後	1回/2年	選必①　　集中
	副　経済学特講		2		2・3前	1回/2年	選必①　　集中
	副　行政学		2		2・3前	1回/2年	選必②
	副　会社法Ａ		2		2前	1回/1年	選必②
	副　会社法Ｂ		2		2後	1回/1年	選必②
	副　労働法（個別法）		2		2・3前	1回/2年	選必②
	副　労働法（集団法）		2		2・3後	1回/2年	選必②
	副　社会保障法		2		2・3・4後	1回/3年	選必②
	副　地方自治法		2		2・3・4後	1回/3年	選必②
	副　国際法Ａ		2		2・3・4前	1回/3年	選必②　　集中
	副　国際法Ｂ		2		2・3・4前	1回/3年	選必②　　集中
	副　刑事政策		2		2前	1回/1年	選必②
	副　政治学(政治過程)		2		1後	1回/1年	選必②
	副　政治学(政治理論)		2		2前	1回/1年	選必②
	副　国際政治学		2		3・4前	1回/2年	選必②
	副　環境経済論Ｂ		2		2前	1回/2年	選必③
	副　環境政策論Ⅱ		2		１後	1回/1年	選必③　要「Ⅰ」
	副　環境社会学Ⅰ		2		2前	1回/1年	選必③
	副　環境社会学Ⅱ		2		2後	1回/1年	選必③　要「Ⅰ」
	副　環境生態学Ａ		2		2前	1回/1年	選必③
	副　自然環境学Ａ		2		2前	1回/1年	選必③
	副　環境統計学Ⅰ		2		1後	1回/1年	選必③
副専修プログラム最低必要単位数		－	16	－	授業科目名の前に「副」とあるものから修得　注）修得要件を満たすこと		

*1　備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

*2　単位数欄の「必」，「選」，「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

８．課程横断型プログラムおよび課外科目一覧

≪課程横断型プログラム≫

人間文化課程，地域政策課程のどちらにも属さない，課程横断型のプログラムです。どちらの課程の学生も副専修プログラムとして履修できます。（このプログラムを主専修プログラムとして選択することはできません。）

◇グローバル・地域人材育成プログラム

目的・養成人材像

海外の協定校への留学で獲得したグローバルな視点や行動力を生かし，個々の学生の所属する課程に応じた専門性に基づく，社会的・文化的あるいは環境問題にかかわる地域の諸問題の解決に貢献する能力と意欲を育成します。

科目の履修について

本プログラムを副専修プログラムに選択し，要件を満たして修得した単位は，主専修プログラムの単位数に算入することはできません。

なお、必修ではないが、留学前に人間文化課程の課程科目「国際交流研修」を履修しておくことが望ましい。

科目区分等	授業科目名	単位数	必要修得単位数	備考
国際教育関連科目	国際経済論Ａ	2	6～8	各専修プログラムのプログラム科目（基礎・展開）。振替ではなく、岩手大学で履修すること。 なお、本副専修で履修した分は主専修プログラムの単位に入れることはできない。
	国際経済論Ｂ	2		
	国際政治学	2		
	国際開発と環境・貧困	2		
	エスニシティ論講義	2		
	異文化コミュニケーション論Ａ	2		
	異文化コミュニケーション論Ｂ	2		
	異文化コミュニケーション論Ｃ	2		
	異文化コミュニケーション論Ｄ	2		
	日本語教育概論I	2		
	日本語教育概論II	2		
留学	交換留学（海外協定大学への留学）により履修した授業科目※	－	8～10	修得単位を主専修プログラム科目の単位に申請・登録した場合は本区分には算入できない。 留学前に担当教員と留学先での履修科目について相談しておくこと。
合　　計			16	

※ただし、協定校で履修した科目として認定できる単位数は、原則として下記の範囲内とする。

実技・実習科目(体育・音楽等)　４単位まで

外国語としての日本語科目　　４単位まで

◇課外科目

注　課外科目は，単位修得しても卒業に必要な単位に算入できません。

科目区分		授業科目名	単位数	対象学年	開講間隔	備考
課外科目		模擬裁判実践演習	1	2前	1回/1年	集中
	教職関係	教職入門	2	1前	1回/1年	
		教育概論	2	2前	1回/1年	
		教育・学校心理学	2	1後	1回/1年	
		教育法規	2	2前	1回/1年	
		学校経営・制度論	2	2後	1回/1年	
		特別支援教育	2	2前	1回/1年	
		教育課程・教育方法論	2	2前	1回/1年	
		道徳教育の理論と実践	2	2後	1回/1年	
		総合的な学習の時間の理論と実践	2	2後	1回/1年	
		特別活動の理論と方法	2	1後	1回/1年	
		教育におけるＩＣＴ活用法	1	3年	1回/1年	
		生徒指導・進路指導	2	2後	1回/1年	
		教育相談	2	2前	1回/1年	
		中学校教育実習	4	4通	1回/1年	集中
		高等学校教育実習	2	4通	1回/1年	集中
		教育実習事前事後指導	1	3～4	1回/1年	集中
		教職実践演習	2	4後	1回/1年	
		国語科教育法Ⅰ	2	2前	1回/1年	
		国語科教育法Ⅱ	2	2後	1回/1年	
		国語科教育法Ⅲ	2	3前	1回/1年	
		国語科教育法Ⅳ	2	4後	1回/1年	
		社会科教材研究法	2	2前	1回/1年	
		社会科学習内容構築論	2	4後	1回/1年	
		中等社会科教育法Ａ（社会・地歴）	2	2後	1回/1年	
		中等社会科教育法Ｂ（社会・公民）	2	2前	1回/1年	
		地理歴史科教育法	2	2前	1回/1年	
		公民科教育法	2	2後	1回/1年	
		英語科教育法Ⅰ	2	2前	1回/1年	
		英語科教育法Ⅱ	2	2･3後	1回/2年	
		英語科教育法Ⅲ	2	2･3後	1回/2年	
		英語科教育法Ⅳ	2	4後	1回/1年	
		人文地理学概論Ａ	2	1後	1回/1年	
		自然地理学概論Ａ	2	2前	1回/1年	
		地誌学	2	2前	1回/1年	
	学芸員関係	生涯学習概論Ⅱ	2	1前	1回/1年	
		博物館概論	2	1後	1回/1年	
		博物館経営論	2	3後	1回/1年	
		博物館資料論	2	3前	1回/1年	
		博物館資料保存論	2	2前	1回/1年	
		博物館展示論	2	2前	1回/1年	
		博物館教育論	2	2前	1回/1年	
		博物館情報・メディア論	2	2後	1回/1年	集中
		博物館実習	3	4前	1回/1年	
	日本語	日本語教育実習事前指導	1	2後	1回/1年	集中
		日本語教育実習	1	2後	1回/1年	集中
	公認心理師	公認心理師の職責	1	1後	1回/1年	
		健康・医療心理学	1	2前	1回/1年	集中
		福祉心理学	1	2後	1回/1年	集中
		精神疾患とその治療	2	2後	1回/1年	
		関係行政論	1	3前	1回/1年	
		発達心理学	2	2後	1回/1年	
		心理実習	2	4通	1回/1年	集中

＊備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

９．取得可能な資格等について

本学部で取得可能な資格等は以下のとおりです。

一部の資格では，課外科目（卒業に必要な単位に算入できない授業科目）の単位修得が必要なものもあります。また，授業科目の履修する順番が決まっている場合もありますので，本手引きをよく読んで，資格取得を目指してください。

・教育職員免許状（教員免許）
・学芸員資格
・日本語教員
・社会調査士
・認定心理士
・公認心理師（受験資格の一部※）
・環境再生医　初級
・自然再生士補

※公認心理師については，大学で所定の単位を修得し，その後，大学院で所定の単位を修得するルート等で，受験資格が得られます。

■教育職員免許状

本学部で取得できる教員免許は，以下のとおりです。所属課程により，取得できる教員免許の種類が異なるので注意してください。

人間文化課程
　中学校：国語，社会，英語
　高等学校：国語，地理歴史，公民，英語
地域政策課程
　高等学校：公民

教員免許取得のために必要な授業科目や修得単位数，また，履修条件等の詳細は，本手引きの「Ⅷ教育職員免許状・各種資格の取得について」で確認してください。

■学芸員資格

学芸員の職務や資格取得方法等の概略は，文化庁ホームページで確認してください。

文化庁ＨＰ　https://www.bunka.go.jp/seisaku/bijutsukan_hakubutsukan/index.html

本学部で開講する学芸員資格取得のための科目は以下のとおりです。履修対象学年や開講学期等は課外科目の科目等一覧で確認してください。

・生涯学習概論Ⅱ
・博物館概論
・博物館経営論
・博物館資料論
・博物館資料保存論
・博物館展示論
・博物館教育論
・博物館情報・メディア論
・博物館実習

なお,「博物館実習」を履修するには,「博物館実習」以外の学芸員資格取得のための授業科目全ての単位（１６単位）を修得していなければなりません。

■日本語教員養成

日本語教員の職務等の概略は文部科学省ホームページ及び文化庁ホームページで確認してください。

文部科学省 https://www.mext.go.jp/　文化庁ＨＰ　https://www.bunka.go.jp/

本学部では，日本語教員養成に関して文化庁が示した標準的な教育内容に基づき，日本語教員養成のための科目を以下のとおり開講します。下記の所定の科目を履修し単位を修得した者に対しては,「日本語教育科目単位修得証明書」を交付します。

科目区分	科目名	単位数	修得すべき単位数
教養教育科目	外国語科目 ※	1	2
人社専門　学部共通科目	基礎ゼミナール	1	1
人社専門　日本文化・基礎科目	日本語教育概論Ⅰ	2	2
人社専門　日本文化・基礎科目	日本語教育概論 II	2	2
人社専門　日本文化・基礎科目	日本語教授法講義Ⅰ	2	2
人社専門　日本文化・基礎科目	日本語教授法講義 II	2	2
人社専門　日本文化・基礎科目	学校教育を受けるための日本語	2	2
人社専門　日本文化・基礎科目	日本語学概説	2	2
人社専門　国際文化・基礎科目	異文化コミュニケーション論Ａ	2	2
人社専門　国際文化・基礎科目	異文化コミュニケーション論Ｂ	2	
人社専門　国際文化・基礎科目	異文化コミュニケーション論Ｃ	2	
人社専門　国際文化・基礎科目	異文化コミュニケーション論Ｄ	2	
人社専門　人間文化課程・課程科目	国際交流研修	2	2
人社専門　課外科目	日本語教育実習事前指導	1	1
人社専門　課外科目	日本語教育実習	1	1
教養教育科目	言語学※※	2	2
教養教育科目	多文化コミュニケーションＡ	2	2
教養教育科目	多文化コミュニケーションＢ	2	
人社専門　課外科目（教職）	教育・学校心理学	2	2
人社専門　国際文化・基礎科目	言語習得論Ａ	2	
人社専門　国際文化・基礎科目	言語習得論Ｂ	2	
合計			27

※外国語科目は２単位まで充当できる。

※※「言語学」は指定クラスを受講すること。（掲示でお知らせします。）

■社会調査士

社会調査士資格の概要は，一般社団法人社会調査協会ＨＰで確認してください。

一般社団法人社会調査協会ＨＰ　https://jasr.or.jp/

本資格の取得は，人間行動専修プログラムおよび地域環境専修プログラムの担当教員の指導を受けて，行ってください。

■認定心理士

認定心理士資格の概要は，公益社団法人日本心理学会ＨＰで確認してください。

公益社団法人日本心理学会ＨＰ　https://www.psych.or.jp/

本資格の取得は，人間行動専修プログラムの担当教員の指導を受けて，行ってください。

■公認心理師

公認心理師資格の概要は，厚生労働省ＨＰで確認してください。

厚生労働省ＨＰ　https://www.mhlw.go.jp/index.html

本資格の取得は，人間行動専修プログラムの担当教員の指導を受けて，行ってください。

■環境再生医　初級

環境再生医資格の概要は，認定ＮＰＯ法人自然環境復元協会ＨＰで確認してください。

認定ＮＰＯ法人自然環境復元協会ＨＰ　https://www.narec.or.jp/

本資格の取得は，地域環境専修プログラムの担当教員の指導を受けて，行ってください。

■自然再生士補

自然再生士補資格の概要は，一般財団法人日本緑化センターＨＰで確認してください。

一般財団法人日本緑化センターＨＰ　http://www.jpgreen.or.jp/

本資格の取得は，地域環境専修プログラムの担当教員の指導を受けて，行ってください。

Ⅳ

専門教育について

教育学部

教育学部の皆さんへ
次ページ以降の教育学部における履修についての説明は，以下の構成になっています。

１．１　教育学部の理念と目的
１．２　教育学部の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
１．３　岩手大学教育学部教育課程規則
１．４　課程等の紹介

２．教育学部の専門教育科目卒業要件：概要（初めにこの項を必ずご覧ください。）
２．１　卒業要件単位数
２．１．１　小学校教育コース
（１）国語・社会・英語・音楽・美術・保健体育の各サブコース
（２）教育学・心理学・情報教育学・特別支援教育の各サブコース
２．１．２　中学校教育コース
２．１．３　理数教育コース
２．１．４　特別支援教育コース
２．２　卒業要件科目（教育学部専門教育科目）：詳細版（具体的な科目一覧表が掲載されています。）
２．２．１　小学校教育コース
（１）国語・社会・英語・音楽・美術・保健体育の各サブコース
（２）教育学・心理学・情報教育学・特別支援教育の各サブコース＜「小学校一種＋中学校二種」免許を取得する場合＞
（３）教育学・心理学・情報教育学・特別支援教育の各サブコース＜「小学校一種＋特別支援一種」免許を取得する場合＞
２．２．２　中学校教育コース
（１）「中学校一種＋小学校二種」免許を取得する場合
（２）「中学校一種＋中学校他教科二種」免許を取得する場合
２．２．３　理数教育コース
（１）小学校教育専修　＜「小学校一種＋中学校一種」免許を取得する場合＞
（２）中学校教育専修　＜「中学校一種＋小学校二種」免許を取得する場合＞
２．２．４　特別支援教育コース
（１）基礎免として小学校免許を取得する場合
（２）基礎免として中学校免許を取得する場合
２．３　教育実習の受講資格及び卒業研究の着手条件，履修科目登録単位の上限について
Ⅰ　教育実習の受講資格　　Ⅱ　卒業研究の着手条件
Ⅲ　履修科目登録単位の上限（ＣＡＰ制）の特例

３．授業科目及び履修年次
３．１　教職専門科目＜一覧表＞＜個表＞
３．２　教科専門科目（小学校科目）
３．３　小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目
（１）国語（２）社会（３）英語（４）音楽（５）美術（６）保健体育（７）教育学
（８）心理学（９）情報教育学（１０）特別支援教育
３．４　理数教育コースの開講科目
（１）理科（２）数学
３．５　特別支援教育コースの開講科目

４．副免及びその他の教員免許の取り方について
４．１　コース毎の教員免許の取得について
４．１．１　小学校教育コース
４．１．２　中学校教育コース
４．１．３　理数教育コース
４．１．４　特別支援教育コース
４．２　教員免許取得のための必要単位
４．２．１　小学校教員免許
４．２．２　中学校教員免許／高等学校教員免許
４．２．３　特別支援学校教員免許

５．日本語教育副専攻科目について

６．公認心理師学部カリキュラム修了のための必要単位

教　育　学　部

１．１　教育学部の理念と目的

（理念）
岩手大学教育学部は，幅広い視野と教養，専門的知識・技能，及び実践的な指導力を兼ね備えた学校教員を養成するとともに，教育分野に関わる理論的・実践的な教育研究を行うことで，学校教育の発展に貢献する。

（目的）
本学部は，教員養成の専門学部として，教育に関する理論的・実践的な力量，教育内容とその背景をなす諸学問の理解及び豊かな人間性・社会性を備え，地域の要請に応えつつ，教員としての意欲と高い使命感をもって教育に取り組むことができる教員の養成を目的とする。

１．２　教育学部の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

岩手大学教育学部の理念と教育目標に則り，所定の教育課程（複数免許取得を含む）を修了し，以下の各項目を身につけた学生に「学士（教育）」の学位を授与する。

【小学校教育コース】

（知識・理解）
１．総合的思考力を養うために幅広い視野と教養を身につけている。
２．小学校教育及び子どもに関する基礎的な知識を身につけている。
３．各教科等の内容及び指導法に関する基礎的な知識を身につけている。
４．専攻する学問分野の専門的知識を身につけている。

（思考・判断）
５．学校教育に関する総合的な基礎的知識と実践的な体験を通して，学校教育について多面的かつ実践的に思考・判断する能力を身につけている。
６．専攻する学問分野の探究的な活動を通して，課題分析力，論理的思考力及びものごとを創造的にアプローチする能力を身につけている。

（技能・表現）
７．小学校における学習指導及び生活指導のための基礎的な技能を身につけている。
８．ものごとを計画的に進め，その結果を整理して口頭や文章で的確に表現することができる。また，授業や話し合いを主導的に進めたり，協調的に議論したりすることができる。

（関心・意欲）
９．学校教育の現状や課題に強い関心を持ち，学校教育の発展に貢献しようとする意欲を持っている。

（態度）
１０．学校教育に対する強い使命感と責任を自覚し，常に学び続けようとする態度を身につけている。

【中学校教育コース】

（知識・理解）
１．総合的思考力を養うために幅広い視野と教養を身につけている。
２．中学校教育及び子どもに関する基礎的な知識を身につけている。
３．取得する免許教科の内容及び指導法に関する知識を身につけている。
４．専攻する学問分野の専門的知識を身につけている。

（思考・判断）
５．学校教育に関する総合的な基礎的知識と実践的な体験を通して，学校教育について多面的かつ実践的に思考・判断する能力を身につけている。
６．専攻する学問分野の探究的な活動を通して，課題分析力，論理的思考力及びものごとを創造的にアプローチする能力を身につけている。

（技能・表現）
７．中学校における学習指導及び生活指導のための基礎的な技能を身につけている。
８．ものごとを計画的に進め，その結果を整理して口頭や文章で的確に表現することができる。
また，授業や話し合いを主導的に進めたり，協調的に議論したりすることができる。

（関心・意欲）
９．学校教育の現状や課題に強い関心を持ち，学校教育の発展に貢献しようとする意欲を持っている。

（態度）
１０．学校教育に対する強い使命感と責任を自覚し，常に学び続けようとする態度を身につけている。

【理数教育コース】

（知識・理解）
１．総合的思考力を養うために幅広い視野と教養を身につけている。
２．義務教育段階の学校教育及び子どもに関する基礎的な知識を身につけている。
３．理科あるいは算数・数学の内容及び指導法に関する知識を身につけている。
４．専攻する学問分野の専門的知識を身につけている。

（思考・判断）
５．学校教育に関する総合的な基礎的知識，理数教育に関する知識，及び実践的な体験を通して，学校教育について実践的に思考・判断する能力を身につけている。
６．専攻する学問分野の探究的な活動を通して，課題分析力，論理的思考力及びものごとを創造的にアプローチする能力を身につけている。

（技能・表現）
７．理数教育を中心として小学校及び中学校における学習指導の基本的な技能を身につけている。
８．小学校及び中学校における生活指導のための基礎的な技能を身につけている。
９．ものごとを計画的に進め，その結果を整理して口頭や文章で的確に表現することができる。
また，授業や話し合いを主導的に進めたり，協調的に議論したりすることができる。

（関心・意欲）
１０．学校教育の現状や課題に強い関心を持ち，理数教育の充実を中心として学校教育の発展に貢献しようとする意欲を持っている。

（態度）
１１．学校教育に対する強い使命感と責任を自覚し，常に学び続けようとする態度を身につけている。

【特別支援教育コース】

（知識・理解）

１．総合的思考力を養うために幅広い視野と教養を身につけている。

２．特別支援学校における教育及び小学校教育または中学校教育並びに子どもに関する基礎的な知識を身につけている。

３．特別支援学校及び小学校または中学校の各教科等の内容並びに指導法に関する基礎的な知識を身につけている。

４．特別支援教育の専門的知識を身につけている。

（思考・判断）

５．学校教育に関する総合的な基礎的知識と実践的な体験を通して，学校教育について多面的かつ実践的に思考・判断する能力を身につけている。

６．特別支援教育への探究的な活動を通して，課題分析力，論理的思考力及びものごとを創造的にアプローチする能力を身につけている。

（技能・表現）

７．小学校または中学校における学習指導及び生活指導のための基礎的な技能を身につけている。

８．特別支援学校における指導及び支援，特別支援学校が有するセンター的機能に求められる相談支援のための基礎的な技能を身につけている。

９．ものごとを計画的に進め，その結果を整理して口頭や文章で的確に表現することができる。
また，授業や話し合いを主導的に進めたり，協調的に議論したりすることができる。

（関心・意欲）

１０．学校教育の現状や課題に強い関心を持ち，学校教育の発展に貢献しようとする意欲を持っている。

１１．特別支援教育の現状や課題に強い関心を持ち，最新の動向の把握に努め，特別支援教育の発展に貢献しようとする意欲を持っている。

（態度）

１２．学校教育に対する強い使命感と責任を自覚し，常に学び続けようとする態度を身につけている。

１３．特別支援教育に対する強い使命感と責任を自覚し，児童生徒及び保護者の思いに寄り添う態度を身につけている。

１．３　岩手大学教育学部教育課程規則

（趣旨）

第１条　この規則は，国立大学法人岩手大学学則（以下「学則」という。）第３６条第５項の規定に基づき，岩手大学教育学部（以下「本学部」という。）における専門教育（以下「専門教育」という。）に関し，必要な事項を定めるものとする。

２　本学部の教育課程に関する事項は，学則に定めるもののほか，この規則による。

３　学則及びこの規則に特別の定めのある場合を除き，教育課程に関する事項は，教授会が定める。

（目的）

第２条

本学部は，教員養成の専門学部として，教育に関する理論的・実践的な力量，教育内容とその背景をなす諸学問の理解及び豊かな人間性・社会性を備え，地域の要請に応えつつ，教員としての意欲と高い使命感をもって教育に取り組むことができる教員の養成を目的とする。

（課程，コース，サブコース及び専修）

第３条　本学部に学校教育教員養成課程を置く。学校教育教員養成課程に次のとおりコース及びサブコースを置く。

学校教育教員養成課程

小学校教育コース

国語サブコース

社会サブコース

英語サブコース

音楽サブコース

美術サブコース

保健体育サブコース

教育学サブコース

心理学サブコース

情報教育学サブコース

特別支援教育サブコース

中学校教育コース

国語サブコース

社会サブコース

英語サブコース

音楽サブコース

美術サブコース

保健体育サブコース

理数教育コース

理科サブコース

数学サブコース

特別支援教育コース

２　学校教育教員養成課程理数教育コースの理科及び数学の各サブコースに小学校教育専修及び中学校教育専修を置く。

（専門教育の授業科目）

第４条　専門教育における授業科目（以下「科目」という。）は，必修科目，選択必修科目及び選択科目からなる。

２　科目は，講義，演習，実験，実習，教育実習及び卒業研究等による。

３　科目の種類とその単位数は，別表１による。

４　科目の必修と選択の別，年次配当，時間数及び履修方法等並びに教育実習に係る特別措置については別に定める。

（科目等の公示）

第５条　各学期に開講する科目，授業時間及び担当教員は，学期の初めに公示する。

（履修科目の届出）
第６条　学生は，履修しようとする科目を学期当初の指定の期間内に学部長に届け出なければならない。
２　学期の途中から開講する科目については，その時に前項の届出をすることができる。
３　第１項及び第２項の届出をしない者は，単位の認定を受けることができない。
４　第１項及び第２項の届出の後は科目を変えることはできない。
５　他学部の授業科目，国際教育科目又は他大学の開講する授業科目を履修しようとする学生は，所定の手続きを経て許可を得なければならない。
６　他学部及び他大学に在籍する学生が本学部の科目の履修を願い出たときは，前項に準ずる。
（成績評価）
第７条　科目の成績は，秀，優，良，可及び不可の評語で表わし，秀，優，良及び可を合格，不可を不合格とする。
２　試験を行う場合は，各学期末に行う。ただし，科目によっては，各学期末以外の適当な時期に行うことができる。
（卒業認定）
第８条　学部を卒業するには，別表２に定める所定の単位を修得しなければならない。
２　卒業の要件として学部の定める単位を特に優秀な成績をもって修得したと認められる場合は，岩手大学における在学期間の特例に関する規則の定めるところにより３年以上４年未満の在学で卒業を認める。
３　前項に関して必要な事項は，別に定める。
附　則　（省略）
別　表　（省略）

１．４　課程等の紹介

学校教育教員養成課程

学校教育教員養成課程は，「小学校教育コース」，「中学校教育コース」，「理数教育コース」及び「特別支援教育コース」の４コースからなり，主として小学校，中学校及び特別支援学校の教員を養成することを目的とする。

この課程では，教育に関する理論的・実践的な知識，教育内容とその背景をなす諸学問の理解，及び豊かな人間性・社会性を備え，意欲と高い使命感を持って地域の教育に取り組むことが出来る教員を養成する。

また，この課程では，幼稚園から小学校，中学校及び特別支援学校のそれぞれにおける発達段階を見通して子どもを理解する能力及び学校教育現場のいじめ・不登校・学級がうまく機能しない状況等の諸課題にも対応できる能力を育成する。

なお，学校教育教員養成課程では，全学生に複数の教員免許状取得を卒業要件として義務付けている。（以下のコースごとの説明を参照のこと）

小学校教育コース

小学校教育コースでは，小学校教員の養成を主たる目的とし，小学校の教科の内容と教育方法について専門的知識・能力を深めるとともに，学校現場での諸課題に対する実践能力・問題解決能力を身につける。本コースでは，小学校教員としての得意分野の形成をはかるため，それぞれの専門教育領域から構成されるサブコースに，１年次後期から所属する。サブコースには，各教科に対応したサブコース（国語，社会，英語，音楽，美術，保健体育）のほか，教育学，心理学，情報教育学及び特別支援教育のサブコースがある。なお，各サブコースの紹介及び配属決定方法については，入学時に配付される『サブコース所属の手引き』を参照のこと。

本コースでは，以下に示すとおり，卒業要件として主免及び副免の合わせて二つの教員免許状の取得を義務付けている。すなわち，各教科に対応したサブコース（国語，社会，英語，音楽，美術，保健体育）に所属する場合は，主免許として小学校教諭一種免許状及び副免として所属サブコースの該当教科の中学校教諭免許状（二種免）を取得することを卒業要件とする。教育学サブコース，心理学サブコース，情報教育学サブコース又は特別支援教育サブコースに所属する場合は，主免として小学校教諭一種免許状及び副免として希望する教科の中学校教諭免許状（二種免），又は特別支援学校教諭一種免許状を取得することを卒業要件とする。さらに，どのサブコースに所属していても，希望に応じて所定の単位を追加取得することにより，所属サブコース以外の教科の中学校・高等学校教諭の免許，特別支援学校教諭の免許状を取得できる。

中学校教育コース

中学校教育コースは，国語，社会，英語，音楽，美術，保健体育の６サブコースで構成され，学生の所属するサブコースは入学時に決まっている。本コースでは，それぞれの教科の内容と教育方法について専門的知識・能力を深めるとともに，学校現場での諸課題に対する実践能力・問題解決能力を身につけることを目的としている。本コースでは，所属サブコースの教科の中学校教諭一種免許状取得と，小学校教諭免許状（二種免）あるいは所属サブコースの教科以外の中学校教諭免許状（二種免）の資格取得を卒業要件としている。

なお，卒業要件となる上記の中学校教諭一種免許状の取得により，同教科の高等学校教諭一種免許状も合わせて取得できる。（国語，社会及び美術は，要件が異なるので，「４．２．２中学校教員免許／高等学校教員免許」以降を必ず参照すること）。さらに希望によっては，所定の単位を取得することにより，所属サブコース以外の教科の中学校・高等学校教諭の免許状，小学校及び特別支援学校教諭の免許状を取得できる。

理数教育コース

理数教育コースは理科及び数学の２つのサブコースから構成されており，学生の所属するサブコースは入学時に決まっている。それぞれのサブコースには，理数系に強い小学校教員の養成を主たる目的とした「小学校教育専修」と，理科・数学の中学校教員の養成を主たる目的とした「中学校教育専修」とがある。それぞれの専修の決定は学生の希望に基づいて行い，１年次前期終了時に仮決定とし，２年次４月履修申告期間末日に正式決定とする。（ただし，推薦入学した学生は小学校教育専修に決まっている。）

「小学校教育専修」では，主免となる小学校教諭一種免許状及び副免となるサブコースの教科に対応する中学校教諭一種免許状の資格取得を卒業要件とする。「中学校教育専修」では，主免となるサブコースの教科に対応する中学校教諭一種免許状と副免となる小学校教諭免許状（二種免）の資格取得を卒業要件とする。両専修とも，義務教育段階を一貫した理科／算数・数学の指導を先導できる専門的知識，技術を習得することを目指す。

なお，卒業要件となる上記の中学校教諭一種免許状の取得により，同教科の高等学校教諭一種免許状も合わせて取得できる。さらに希望によっては，所定の単位を履修することにより，所属サブコース以外の教科の中学校・高等学校教諭の免許状，特別支援学校教諭の免許状も取得できる。

特別支援教育コース

特別支援教育コースは，特別支援学校，特別支援学級，小学校・中学校等の通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする子どもに対して，自立や社会参加に向けた主体的取り組みを支援する観点から幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握して，適確に指導・支援できる教員の養成を目的としている。

学生は，特別支援学校等の特別支援教育に関する教科の内容と教育方法について専門的知識・能力を深めるとともに，特別支援学校等における特別支援教育に関する専門的・実践的力量を身につけ，学校現場での諸課題に対応する実践能力・問題解決能力を修得する。

本コースでは，主免となる特別支援学校教諭一種免許状，及び基礎免となる小学校教諭一種免許状あるいは中学校教諭一種免許状の資格取得を卒業要件とする。また，希望によっては，所定の単位を履修することにより，その他の免許（小，中，高）を取得できる。

２．教育学部の専門教育科目卒業要件

教育学部の卒業要件単位　１３４～１４６単位
（教養教育科目２８単位，専門教育科目１０６～１１８単位）

＜はじめに＞

教育学部学校教育教員養成課程では,卒業要件として複数の教員免許を取得することが義務づけられています。卒業要件とは，卒業するために必要な条件のことを言います。教育学部では，卒業要件となる教員免許のうち,コースごとに指定される一つめの主たる免許のことを**「主免」**，二つめの免許のことを**「副免」**という名称で位置づけます。（ただし，特別支援教育コースでは特別支援学校教諭一種免許状の基礎として取得する免許のことを**「基礎免」**と呼びます。）また，主免・副免（基礎免）以外の教員免許で，卒業要件とはならない免許のことを**「その他の免許」**として，それぞれを区別しています。複数免許（主免・副免（基礎免））の組み合わせパターンはコースごとに異なりますので注意してください。

以下は，コースごとに，「主免・副免（基礎免）」の組み合わせパターンとその注意事項，そして卒業要件単位の一覧表を提示します。まずはこの項の表でその輪郭をつかんでください。

なお,各コースの区分ごとの具体的な科目一覧と単位数は,次項「３．授業科目及び履修年次」に掲載されています。

２．１　卒業要件単位数

２．１．１　小学校教育コース

小学校教育コースでは，主免として「小学校一種」免許を取得することはもちろんですが，副免としてもう一つの免許を取得しなくてはなりません。免許取得の組み合わせパターンはサブコースによって異なります。

教科サブコース（国語・社会・英語・音楽・美術・保健体育）については，卒業要件として「小学校一種＋中学校二種（所属サブコース）」免許の取得が義務づけられています。

教科以外のサブコース（教育学・心理学・情報教育学・特別支援教育）については，「小学校一種＋中学校二種」又は「小学校一種＋特別支援一種」のどちらかのパターンの免許取得が義務づけられています。

（１）国語・社会・英語・音楽・美術・保健体育の各サブコース

コース ／ 区分	小学校教育コース 「小学校一種＋中学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数
転換教育科目	１
教職専門科目	４２
教科専門科目	３２
所属専門科目（中学校教科専門科目）	１６（～２１）
選択科目	１２
卒業研究	６
専門教育科目　計	１０９（～１１４）
教養教育科目	２８
合　　計	１３７（～１４２）

区分ごとの具体的な科目一覧と単位数は，次項「３．授業科目及び履修年次」に掲載されています。

注）区分「所属専門科目１６単位」では，それぞれ副免とする中学校免許の教科専門科目を履修してください。ただし，選択した教科によっては，二種免許でも免許取得に必要となる教科専門科目の単位数が１６単位を超える教科があります。このことから，副免として選択した教科によっては，卒業最低単位数が上表の合計単位数（専門教育科目計１０９単位）を超える場合があります。その場合には上表の「選択科目１２単位」を活用して，免許取得に必要な単位を満たすことができます。なお，副免の取得についての詳細は，「４．副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

（２）教育学・心理学・情報教育学・特別支援教育の各サブコース

コース / 区分	小学校教育コース（教育学・心理学・情報教育学・特別支援教育サブコース）	
	「小学校一種＋中学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数	「小学校一種＋特別支援一種」免許を取得する場合の卒業要件単位数
転換教育科目	１	１
教職専門科目	４２	３９
教科専門科目	３２	３２
所属専門科目	１０	６
選択必修科目	（中学校教科専門科目） １２（～２１）	（特別支援教育に関する科目） ２６
選択科目	６	２
卒業研究	６	６
専門教育科目　計	１０９（～１１８）	１１２
教養教育科目	２８	２８
合　　計	１３７（～１４６）	１４０

区分ごとの具体的な科目一覧と単位数は，次項「３．授業科目及び履修年次」に掲載されています。

注）区分「選択必修科目１２単位」（中学校教科専門科目）では，それぞれ副免とする中学校免許の教科専門科目を履修してください。ただし，選択した教科によっては，二種免許でも免許取得に必要となる中学校の教科専門科目の単位数が１２単位を超える教科があります。このことから，副免として選択した教科によっては，卒業最低単位数が上表の合計単位数（専門教育科目計１０９単位）を超える場合があります。その場合には上表の「選択科目６単位」を活用して，免許取得に必要な単位を満たすことができます。なお，副免の取得についての詳細は，「４．副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

２．１．２　中学校教育コース

中学校教育コースでは，主免として「中学校一種」免許を取得することはもちろんですが，副免としてもう一つの免許を取得しなくてはなりません。免許取得の組み合わせは，次の二つのパターンがあります。すなわち，①所属するサブコースの教科に対応する「中学校一種」免許と「小学校二種」免許の組み合わせ，あるいは，②所属するサブコースの教科に対応する「中学校一種」免許と他教科の「中学校二種」免許の組み合わせ，のいずれかのパターンでの免許取得が義務づけられています。

コース / 区分	中学校教育コース	
	「中学校一種＋小学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数	「中学校一種＋中学校他教科二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数
転換教育科目	１	１
教職専門科目	４２	４１
教科専門科目	（小学校教科専門科目） １６	（他教科専門科目【副免】） １２（～２１）
所属専門科目(各科指定科目)	３８	３８
選択科目	４	８
卒業研究	６	６
専門教育科目　計	１０７	１０６（～１１５）
教養教育科目	２８	２８
合　　計	１３５	１３４（～１４３）

区分ごとの具体的な科目一覧と単位数は，次項「３．授業科目及び履修年次」に掲載されています。

注）「中学校一種＋中学校他教科二種」免許を取得する場合，区分「他教科専門科目【副免】１２単位」で，副免とする教科の教科専門科目を履修してください。ただし，選択した教科によっては，二種免許でも免許取得に必要となる教科専門科目の単位数が１２単位を超える教科があります。このことから，副免として選択した教科によっては，卒業最低単位数が上表の合計単位数（専門教育科目計１０６単位）を超

える場合があります。その場合には上表の「選択科目８単位」を活用して，免許取得に必要な単位を満たすことができます。なお，副免の取得についての詳細は，「４．副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

２．１．３　理数教育コース

理数教育コースでは，専修ごとに複数免許の取得パターンが異なります。小学校教育専修では，主免として「小学校一種」免許を取得することはもちろんですが，副免として，所属するサブコースの教科に対応する「中学校一種」免許を取得しなくてはなりません。中学校教育専修では，主免として，所属するサブコースの教科に対応する「中学校一種」免許を，副免として「小学校二種」免許を取得することが卒業要件として義務づけられています。

専修 / 区分	小学校教育専修 「小学校一種＋中学校一種」免許を取得する場合の卒業要件単位数	中学校教育専修 「中学校一種＋小学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数
転換教育科目	１	１
教職専門科目	４４	４４
教科専門科目	（小学校教科専門科目） ３０	（小学校教科専門科目） １６
所属専門科目	２８	３６
選択科目	２	６
卒業研究	６	６
専門教育科目　計	１１１	１０９
教養教育科目	２８	２８
合　　計	１３９	１３７

区分ごとの具体的な科目一覧と単位数は，次項「３．授業科目及び履修年次」に掲載されています。

２．１．４　特別支援教育コース

特別支援教育コースでは，主免として「特別支援学校一種」免許の取得が義務づけられています。また，基礎免として「小学校一種免許」あるいは「中学校一種免許」のいずれかを取得することが卒業要件として義務づけられています。

基礎免 / 区分	小学校免許を取得する場合の卒業要件単位数	中学校免許を取得する場合の卒業要件単位数
転換教育科目	１	１
教職専門科目	３９	３９
教科専門科目	３２	（各科指定教科専門科目） ３２
所属専門科目（特別支援教育に関する科目）	２６	２６
選択科目	３	３
卒業研究	６	６
専門教育科目　計	１０７	１０７
教養教育科目	２８	２８
合　　計	１３５	１３５

区分ごとの具体的な科目一覧と単位数は，次項「３．授業科目及び履修年次」に掲載されています。

２．２　卒業要件科目（教育学部専門教育科目）

卒業要件となる専門科目の一覧表をコースごとに示します。それぞれのコースの表に記載されている科目の単位をすべて修得し，かつコースごとに定められた複数の教員免許状を取得し資格を得た場合に卒業要件を満たすことになります。なお，副免として中学校教員免許を取得する場合には，教科によって免許取得に必要な単位数が異なります。以下の表に記された合計単位数を超える場合がありますので注意してください。

２．２．１　小学校教育コース

(1)国語・社会・英語・音楽・美術・保健体育の各サブコース

コース ／ 区分	小学校教育コース 「小学校一種+中学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数 科目名	単位数
転換教育科目	基礎ゼミナール	1単位
教職専門科目	教職入門	2
	教育概論	2
	学校安全学と防災教育	2
	教育・学校心理学	2
	発達心理学	2
	特別支援教育	2
	右記別欄①から1科目選択必修	2
	右記別欄②から1科目選択必修	2
	道徳教育の理論と実践	2
	総合的な学習の時間の理論と実践	2
	特別活動の理論と方法	2
	教育課程・教育方法論	2
	教育におけるICT活用法	1
	プログラミング基礎	1
	生徒指導・進路指導	2
	教育相談	2
	観察実習(小)	1
	学校体験実習(小)	1
	教育実習研究(小)	1
	教育実習研究(中・高)	1
	小学校教育実習	4
	中学校教育実習	2
	教職実践演習	2
	小計	42単位
教科専門科目	小学校算数	2
	小学校理科	2
	小学校体育A	1
	小学校英語	2
	小学校音楽A（選択必修5単位）	1
	小学校国語（選択必修5単位）	2
	小学校社会（選択必修5単位）	2
	小学校図画工作（選択必修5単位）	2
	小学校家庭科（選択必修5単位）	2
	小学校生活科（選択必修5単位）	2
	選択必修5単位	5
	教科の指導法(小学校10教科)	20
	小計	32単位
所属専門科目	配属サブコースの科目(中学校教科専門科目)から	14(～19)
	教科の指導法(中学校)	2
	小計	16(～21)単位
選択科目※	教育学部の専門教育科目から選択	12単位
卒業研究	卒業研究	6単位
合計	109(～114)単位	

別欄①科目	
教育の思想	2
教育の歴史	2
教育学特殊講義A	2

別欄②科目	
教育法規	2
学校経営・制度論	2

選択科目※について

他学部の科目，国際教育科目，いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち，本学部の科目として認定できなかった科目を，選択科目として10単位まで卒業要件として認定することができます。

注）区分「所属専門科目１６単位」では，それぞれ副免とする中学校免許の教科専門科目を履修してください。ただし，選択した教科によっては，二種免許でも免許取得に必要となる教科専門科目の単位数が１６単位を超える教科があります(保健体育２１単位)。このことから，副免として選択した教科によっては，卒業最低単位数が上表の合計単位数（専門教育科目計１０９単位）を超える場合があります。その場合には上表の「選択科目１２単位」を活用して，免許取得に必要な単位を満たすことができます。なお，副免の取得についての詳細は**「４．副免及びその他の教員免許の取り方について」以降**を必ず参照してください。

(2)教育学・心理学・情報教育学・特別支援教育の各サブコース<「小学校一種＋中学校二種」免許を取得する場合>

コース / 区分	小学校教育コース 「小学校一種+中学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数 科目名	単位数
転換教育科目	基礎ゼミナール	1単位
教職専門科目	教職入門	2
	教育概論	2
	学校安全学と防災教育	2
	教育・学校心理学	2
	発達心理学	2
	特別支援教育	2
	右記別欄①から1科目選択必修	2
	右記別欄②から1科目選択必修	2
	道徳教育の理論と実践	2
	総合的な学習の時間の理論と実践	2
	特別活動の理論と方法	2
	教育課程・教育方法論	2
	教育におけるICT活用法	1
	プログラミング基礎	1
	生徒指導・進路指導	2
	教育相談	2
	観察実習(小)	1
	学校体験実習(小)	1
	教育実習研究(小)	1
	教育実習研究(中・高)	1
	小学校教育実習	4
	中学校教育実習	2
	教職実践演習	2
	小計	42単位
教科専門科目	小学校算数	2
	小学校理科	2
	小学校体育A	1
	小学校英語	2
	小学校音楽A	1
	小学校国語	2
	小学校社会	2
	小学校図画工作	2
	小学校家庭科	2
	小学校生活科	2
	選択必修5単位	5
	教科の指導法(小学校10教科)	20
	小計	32単位
所属専門科目	配属サブコースの科目から	10単位
選択必修科目	中学校教科専門科目から	10(～19)
	教科の指導法(中学校)	2
	小計	12(～21)単位
選択科目※	教育学部の専門教育科目から選択	6単位
卒業研究	卒業研究	6単位
合計	109(～118)単位	

別欄①科目	
教育の思想	2
教育の歴史	2
教育学特殊講義A	2

別欄②科目	
教育法規	2
学校経営・制度論	2

選択科目※について

他学部の科目，国際教育科目，いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち，本学部の科目として認定できなかった科目を，選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。

注）区分「選択必修科目１２単位」では，それぞれ副免とする中学校免許の教科専門科目を履修してください。
「4.2.2(2)教科毎の科目・中・高」以降を参照。ただし，選択した教科によっては，二種免許でも免許取得に必要となる教科専門科目の単位数が１２単位を超える教科があります(技術１５単位，理科１４単位，音楽１５単位，社会１６単位，保健体育２１単位)。このことから，副免として選択した教科によっては，卒業最低単位数が上表の合計単位数（専門教育科目計１０９単位）を超える場合があります。その場合には上表の「選択科目６単位」を活用して，免許取得に必要な単位を満たすことができます。なお，副免の取得についての詳細は，**「４．副免及びその他の教員免許の取り方について」以降**を必ず参照してください。

(3)教育学・心理学・情報教育学・特別支援教育の各サブコース<「小学校一種＋特別支援一種」免許を取得する場合>

コース / 区分	小学校教育コース 「小学校一種+特別支援一種」免許を取得する場合の卒業要件単位数 科目名	単位数	別欄①科目	
転換教育科目	基礎ゼミナール	1単位	教育の思想 教育の歴史 教育学特殊講義A	2 2 2
教職専門科目	教職入門	2	別欄②科目	
	教育概論	2	教育法規 学校経営・制度論	2 2
	学校安全学と防災教育	2		
	教育・学校心理学	2		
	発達心理学	2		
	特別支援教育	2		
	右記別欄①から1科目選択必修	2		
	右記別欄②から1科目選択必修	2		
	道徳教育の理論と実践	2		
	総合的な学習の時間の理論と実践	2		
	特別活動の理論と方法	2		
	教育課程・教育方法論	2		
	教育におけるICT活用法	1		
	プログラミング基礎	1		
	生徒指導・進路指導	2		
	教育相談	2		
	観察実習(小)	1		
	学校体験実習(小)	1		
	教育実習研究(小)	1		
	小学校教育実習	4		
	教職実践演習	2		
	小計	39単位		
教科専門科目	小学校算数	2		
	小学校理科	2		
	小学校体育A	1		
	小学校英語	2		
	小学校音楽A	1		
	小学校国語	2		
	小学校社会	2		
	小学校図画工作	2		
	小学校家庭科	2		
	小学校生活科	2		
	選択必修 5単位	5		
	教科の指導法(小学校10教科)	20		
	小計	32単位		
所属専門科目	配属サブコースの科目から	6単位		
選択必修科目	特別支援教育に関する科目	26単位		
選択科目※	教育学部の専門教育科目から選択	2単位		
卒業研究	卒業研究	6単位		
合計	112単位			

選択科目※について

他学部の科目，国際教育科目，いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち，本学部の科目として認定できなかった科目を，選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。

副免の取得についての詳細は**「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降**を必ず参照してください。

２．２．２　中学校教育コース

(1)「中学校一種＋小学校二種」免許を取得する場合

コース / 区分	中学校教育コース 「中学校一種+小学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数 科目名	単位数
転換教育科目	基礎ゼミナール	1単位
教職専門科目	教職入門	2
	教育概論	2
	学校安全学と防災教育	2
	教育・学校心理学	2
	発達心理学	2
	特別支援教育	2
	右記別欄①から1科目選択必修	2
	右記別欄②から1科目選択必修	2
	道徳教育の理論と実践	2
	総合的な学習の時間の理論と実践	2
	特別活動の理論と方法	2
	教育課程・教育方法論	2
	教育におけるICT活用法	1
	プログラミング基礎	1
	生徒指導・進路指導	2
	教育相談	2
	観察実習(中・高)	1
	学校体験実習(中・高)	1
	教育実習研究(中・高)	1
	教育実習研究(小)	1
	中学校教育実習	4
	小学校教育実習	2
	教職実践演習	2
	小計	42単位
教科専門科目	小学校算数 (選択必修 4単位)	2
	小学校理科	2
	小学校音楽A	1
	小学校体育A	1
	小学校英語	2
	小学校国語	2
	小学校社会	2
	小学校図画工作	2
	小学校家庭科	2
	小学校生活科	2
	(4)	
	教科の指導法(小学校)	12
	小計	16単位
所属専門科目	各科で指定する中学校教科専門科目	30
	教科の指導法(中学校)	8
	小計	38単位
選択科目※	教育学部の専門教育科目から選択	4単位
卒業研究	卒業研究	6単位
合計	107単位	

別欄①科目	
教育の思想	2
教育の歴史	2
教育学特殊講義A	2

別欄②科目	
教育法規	2
学校経営・制度論	2

選択科目※について

他学部の科目，国際教育科目，いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち，本学部の科目として認定できなかった科目を，選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。

副免の取得についての詳細は**「4．副免及びその他の教員免許の取り方について」以降**を必ず参照してください。

(2)「中学校一種＋中学校他教科二種」免許を取得する場合

コース / 区分	中学校教育コース 「中学校一種+中学校他教科二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数 科目名	単位数
転換教育科目	基礎ゼミナール	1単位
教職専門科目	教職入門	2
	教育概論	2
	学校安全学と防災教育	2
	教育・学校心理学	2
	発達心理学	2
	特別支援教育	2
	右記別欄①から1科目選択必修	2
	右記別欄②から1科目選択必修	2
	道徳教育の理論と実践	2
	総合的な学習の時間の理論と実践	2
	特別活動の理論と方法	2
	教育課程・教育方法論	2
	教育におけるICT活用法	1
	プログラミング基礎	1
	生徒指導・進路指導	2
	教育相談	2
	観察実習(中・高)	1
	学校体験実習(中・高)	1
	教育実習研究(中・高)	1
	中学校教育実習(主免)	4
	中学校教育実習(副免・他教科)	2
	教職実践演習	2
	小 計	41単位
教科専門科目【副免】	中学校教科専門科目(副免・他教科)	10(～19)
	教科の指導法(中学校(副免・他教科))	2
	小 計	12(～21)単位
所属専門科目(教科専門科目(主免))	各科で指定する中学校教科専門科目(主免)	30
	教科の指導法(中学校(主免))	8
	小 計	38単位
選択科目※	教育学部の専門教育科目から選択	8単位
卒業研究	卒業研究	6単位
合 計	106(～115)単位	

別欄①科目	
教育の思想	2
教育の歴史	2
教育学特殊講義A	2

別欄②科目	
教育法規	2
学校経営・制度論	2

選択科目※について

他学部の科目，国際教育科目，いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち，本学部の科目として認定できなかった科目を，選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。

注）区分「教科専門科目【副免】」の１２単位は，副免とする他教科の教科専門科目を履修してください。
「4.2.2(2)教科毎の科目・中・高」以降を参照。ただし，選択した教科によっては，二種免許でも免許取得に必要となる教科専門科目の単位数が１２単位を超える教科があります（理科１４単位，音楽１５単位，社会１６単位，技術１５単位，保健体育２１単位）。このことから，副免として選択した教科によっては，卒業最低単位数が上表の合計単位数（専門教育科目計１０６単位）を超える場合があります。その場合には上表の「選択科目※８単位」を活用して，免許取得に必要な単位を満たすことができます。なお，副免の取得についての詳細は**「４．副免及びその他の教員免許の取り方について」以降**を必ず参照してください。

２．２．３　理数教育コース

(1)小学校教育専修　＜「小学校一種＋中学校一種」免許を取得する場合＞

コース・サブコース 専修 / 区分	理数教育コース・理科及び数学サブコース 小学校教育専修 「小学校一種+中学校一種」免許を取得する場合の卒業要件単位数 科　目　名		単位数
転換教育科目	基礎ゼミナール		1単位
教職専門科目	教職入門		2
	教育概論		2
	学校安全学と防災教育		2
	教育・学校心理学		2
	発達心理学		2
	特別支援教育		2
	右記別欄①から1科目選択必修		2
	右記別欄②から1科目選択必修		2
	道徳教育の理論と実践		2
	総合的な学習の時間の理論と実践		2
	特別活動の理論と方法		2
	教育課程・教育方法論		2
	教育におけるICT活用法		1
	プログラミング基礎		1
	生徒指導・進路指導		2
	教育相談		2
	ICTを活用した理数教育		2
	観察実習(小)		1
	学校体験実習(小)		1
	教育実習研究(小)		1
	教育実習研究(中・高)		1
	小学校教育実習		4
	中学校教育実習		2
	教職実践演習		2
	小　計		44単位
教科専門科目	小学校音楽A	選択必修10単位	1
	小学校体育A		1
	小学校英語		2
	小学校国語		2
	小学校社会		2
	小学校図画工作		2
	小学校家庭科		2
	小学校生活科		2
	選択必修10単位		10
	教科の指導法(小学校10教科)		20
	小　計		30単位
所属専門科目	各科で指定する中学校教科専門科目		20
	教科の指導法(中学校)		8
	小　計		28単位
選択科目※	教育学部の専門教育科目から選択		2単位
卒業研究	卒業研究		6単位
合　計	111単位		

別欄①科目	
教育の思想	2
教育の歴史	2
教育学特殊講義A	2

別欄②科目	
教育法規	2
学校経営・制度論	2

選択科目※について
他学部の科目，国際教育科目，いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち，本学部の科目として認定できなかった科目を，選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。

副免の取得についての詳細は**「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降**を必ず参照してください。

(2)中学校教育専修 ＜「中学校一種＋小学校二種」免許を取得する場合＞

コース・サブコース 専修 / 区分	理数教育コース・理科及び数学サブコース 中学校教育専修 「中学校一種+小学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数 科 目 名	単位数
転換教育科目	基礎ゼミナール	1単位
教職専門科目	教職入門	2
	教育概論	2
	学校安全学と防災教育	2
	教育・学校心理学	2
	発達心理学	2
	特別支援教育	2
	右記別欄①から1科目選択必修	2
	右記別欄②から1科目選択必修	2
	道徳教育の理論と実践	2
	総合的な学習の時間の理論と実践	2
	特別活動の理論と方法	2
	教育課程・教育方法論	2
	教育におけるICT活用法	1
	プログラミング基礎	1
	生徒指導・進路指導	2
	教育相談	2
	ICTを活用した理数教育	2
	観察実習(中・高)	1
	学校体験実習(中・高)	1
	教育実習研究(中・高)	1
	教育実習研究(小)	1
	中学校教育実習	4
	小学校教育実習	2
	教職実践演習	2
	小 計	44単位
教科専門科目	小学校音楽A (選択必修 4単位)	1
	小学校体育A	1
	小学校英語	2
	小学校国語	2
	小学校社会	2
	小学校図画工作	2
	小学校家庭科	2
	小学校生活科	2
	(選択必修 4単位)	4
	教科の指導法(小学校)	12
	小 計	16単位
所属専門科目	各科で指定する中学校教科専門科目	28
	教科の指導法(中学校)	8
	小 計	36単位
選択科目※	教育学部の専門教育科目から選択	6単位
卒業研究	卒業研究	6単位
合 計	109単位	

別欄①科目	
教育の思想	2
教育の歴史	2
教育学特殊講義A	2

別欄②科目	
教育法規	2
学校経営・制度論	2

選択科目※について

他学部の科目，国際教育科目，いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち，本学部の科目として認定できなかった科目を，選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。

副免の取得についての詳細は**「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降**を必ず参照してください。

２．２．４　特別支援教育コース

(1)基礎免として小学校免許を取得する場合

コース / 区分	特別支援教育コース 基礎免として小学校免許を取得する場合の卒業要件単位数 科目名	単位数
転換教育科目	基礎ゼミナール	1単位
教職専門科目	教職入門	2
	教育概論	2
	学校安全学と防災教育	2
	教育・学校心理学	2
	発達心理学	2
	特別支援教育	2
	右記別欄①から1科目選択必修	2
	右記別欄②から1科目選択必修	2
	道徳教育の理論と実践	2
	総合的な学習の時間の理論と実践	2
	特別活動の理論と方法	2
	教育課程・教育方法論	2
	教育におけるICT活用法	1
	プログラミング基礎	1
	生徒指導・進路指導	2
	教育相談	2
	観察実習(小)	1
	学校体験実習(小)	1
	教育実習研究(小)	1
	小学校教育実習	4
	教職実践演習	2
	小計	39単位
教科専門科目	小学校算数	2
	小学校理科	2
	小学校体育A	1
	小学校英語	2
	小学校音楽A（選択必修5単位）	1
	小学校国語（選択必修5単位）	2
	小学校社会（選択必修5単位）	2
	小学校図画工作（選択必修5単位）	2
	小学校家庭科（選択必修5単位）	2
	小学校生活科（選択必修5単位）	2
	選択必修5単位	5
	教科の指導法(小学校10教科)	20
	小計	32単位
所属専門科目	特別支援教育に関する科目	26単位
選択科目※	教育学部の専門教育科目から選択	3単位
卒業研究	卒業研究	6単位
合計	107単位	

別欄①科目	
教育の思想	2
教育の歴史	2
教育学特殊講義A	2

別欄②科目	
教育法規	2
学校経営・制度論	2

選択科目※について

他学部の科目，国際教育科目，いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち，本学部の科目として認定できなかった科目を，選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。

基礎免の取得についての詳細は**「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降**を必ず参照してください。

(2)基礎免として中学校免許を取得する場合

コース / 区分	特別支援教育コース 基礎免として中学校免許を取得する場合の卒業要件単位数 科目名	単位数
転換教育科目	基礎ゼミナール	1単位
教職専門科目	教職入門	2
	教育概論	2
	学校安全学と防災教育	2
	教育・学校心理学	2
	発達心理学	2
	特別支援教育	2
	右記別欄①から1科目選択必修	2
	右記別欄②から1科目選択必修	2
	道徳教育の理論と実践	2
	総合的な学習の時間の理論と実践	2
	特別活動の理論と方法	2
	教育課程・教育方法論	2
	教育におけるICT活用法	1
	プログラミング基礎	1
	生徒指導・進路指導	2
	教育相談	2
	観察実習(中・高)	1
	学校体験実習(中・高)	1
	教育実習研究(中・高)	1
	中学校教育実習	4
	教職実践演習	2
	小計	39単位
教科専門科目	各科で指定する中学校教科専門科目	24
	教科の指導法(中学校)	8
	小計	32単位
所属専門科目	特別支援教育に関する科目	26単位
選択科目※	教育学部の専門教育科目から選択	3単位
卒業研究	卒業研究	6単位
合計	107単位	

別欄①科目	
教育の思想	2
教育の歴史	2
教育学特殊講義A	2

別欄②科目	
教育法規	2
学校経営・制度論	2

選択科目※について

他学部の科目，国際教育科目，いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち，本学部の科目として認定できなかった科目を，選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。

基礎免の取得についての詳細は**「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降**を必ず参照してください。

２．３　教育実習の受講資格及び卒業研究の着手条件，履修科目登録単位の上限について

Ⅰ　教育実習の受講資格

（１）主免教育実習，基礎免教育実習，教育実習研究の受講資格

小学校教育コース，中学校教育コース，理数教育コースの学生が，主免教育実習及び教育実習研究を受講するためには，３年次開始時（又は受講しようとする年度の初め）までに，次の 1.～3.の条件を満たしていることが必要である。

特別支援教育コースの学生が，卒業要件となる基礎免教育実習及び教育実習研究を受講するためには，３年次開始時（又は受講しようとする年度の初め）までに，次の 1.～3.の条件を満たしていることが必要である。

１．「基礎ゼミナール」，「教職入門」，「教育概論」，「生徒指導・進路指導」，「教育相談」，「観察実習」，「学校体験実習」を履修（単位取得）済みであること。

２．実習する校種ごとに，以下の単位を履修（単位取得）済みであること。
・小学校で実習をする場合は，小学校の教科の指導法から最低６単位を履修済みであること。
・中学校で実習をする場合は，中学校の該当教科の教科指導法から最低２単位を履修済みであること。

３．次に掲げる単位数以上の単位を取得済みであること。
教養教育科目　　１８単位
専門教育科目　　３０単位

（２）副免教育実習の受講資格

小学校教育コース，中学校教育コース，理数教育コースの学生が，副免教育実習を受講するためには，副免教育実習を受講しようとする年度の初めまでに，次の 1.と 2.の条件を満たしていることが必要である。

１．主免教育実習を履修済みであること。
（ただし，４年次で主免教育実習と副免教育実習を同時に履修する場合に限り，主免教育実習と副免教育実習の同時履修を認めるものとする。）

２．実習する校種ごとに，以下の単位を履修（単位取得）済みであること。
・小学校で実習をする場合は，小学校の教科の指導法から最低６単位を履修済みであること。
・中学校で実習をする場合は，中学校の該当教科の教科指導法から最低２単位を履修済みであること。
・特別支援学校で実習をする場合は，「特別支援教育概説」を履修済みであること，及び「知的障害者の心理・生理・病理」，「知的障害教育課程論」，「知的障害教育指導法」の３科目から最低４単位を履修済みであること。

（３）特別支援教育コースの特別支援学校での教育実習の受講資格

特別支援教育コースの学生が，特別支援学校で教育実習を受講するためには，特別支援教育実習を受講しようとする年度の初めまでに，次の 1.と 2.の条件を満たしていることが必要である。

１．卒業要件となる基礎免教育実習を履修済みであること。
（ただし，４年次で基礎免教育実習と特別支援教育実習を同時に履修する場合に限り，基礎免教育実習と特別支援教育実習の同時履修を認めるものとする。）

２．「特別支援教育概説」を履修（単位取得）済みであること，及び「知的障害者の心理・生理・病理」，「知的障害教育課程論」，「知的障害教育指導法」の３科目から最低４単位を履修済みであること。

（４）卒業要件となっていない教員免許（その他の免許）取得のための教育実習の受講資格

卒業要件となっていない教員免許（その他の免許）を取得するための教育実習の受講には，教育実習を受講しようとする年度の初めまでに，次の 1.と 2.の条件を満たしていることが必要である。

１．主免教育実習（小学校教育コース，中学校教育コース，理数教育コース）あるいは基礎免教育実習（特別支援教育コース）を履修済みであること。
ただし，４年次で主免教育実習（基礎免教育実習）とその他の免許取得のための教育実習を同時に履修する場合に限り，主免教育実習（基礎免教育実習）との同時履修を認めるものとする。

２．実習する校種ごとに，以下の単位を履修（単位取得）済みであること。
・小学校で実習をする場合は，小学校の教科の指導法から最低６単位を履修済みであること。
・中学校で実習をする場合は，中学校の該当教科の教科指導法から最低２単位を履修済みであること。
・特別支援学校で実習をする場合は，「特別支援教育概説」を履修済みであること，及び「知的障害者の心理・生理・病理」，「知的障害教育課程論」，「知的障害教育指導法」の３科目から最低４単位を履修済みであること。

Ⅱ　卒業研究の着手条件

（１）卒業研究の着手条件

学校教育教員養成課程のすべてのコースで，３年次終了時までに，次に掲げる単位数以上の単位を取得済みの場合，４年次４月から卒業研究に着手できる。

教養教育科目　　２２単位
専門教育科目　　７５単位

なお，３年次終了時までに上記単位数を取得できなかった場合には，単位数条件を満たした次の学期から卒業研究に着手できる。

（２）卒業研究期間

卒業研究の研究期間は，指導教員の指導のもとに少なくとも１年間を要するものとする。

（３）卒業研究論文の提出

卒業研究をまとめた論文（卒業研究論文）を，指定された日時までに学部長宛てに提出すること。なお，卒業研究論文は卒業制作，卒業演奏等に替えることができる。

Ⅲ　履修科目登録単位の上限（ＣＡＰ制）の特例

教育学部学生の履修登録単位数は，２８単位を上限とするが，２８単位の内，所属するコース又はサブコースにより取得を義務づけられた一つめの教育職員免許状の取得にかかる授業科目の登録は２４単位を上限とする。なお，成績優秀者に認定されると，次の学期の履修は，一つめの教育職員免許状の取得に関する科目に関わらず２８単位まで例外として履修登録することができる。

３．授業科目及び履修年次

＜注意事項＞標準履修年次について

以降の各ページに記載されている「標準履修年次」とは，あくまで履修が望ましい年次を示しているものであり，その年次以降であれば履修可能である。

例）標準履修年次で2年前期の欄に〇が記されている科目の場合は，2年次だけでなく3年次，4年次でも履修できる。

３．１　教職専門科目

＜一覧表＞

教員免許法上の区分			科　　目　　名	単位数
教育の基礎的理解に関する科目	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職入門	2
	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的，制度的又は経営的事項		教育概論	2
	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	別欄① 選択	教育の思想 教育の歴史 教育学特殊講義Ａ 教育学演習Ａ 教育学演習Ｂ	2 2 2 1 1
	・教育に関する社会的，制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	 別欄② 選択	学校安全学と防災教育 教育法規 学校経営・制度論 いわての復興教育 教育学演習Ｄ 教育学演習Ｅ 教育学演習Ｆ 小規模学校教育論	2 2 2 2 1 1 1 2
	・幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育・学校心理学 発達心理学 心理学概論 教育心理学演習 発達心理学演習 障害者・障害児心理学	2 2 2 1 1 2
	・特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解		特別支援教育	2
道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法		道徳教育の理論と実践	2
	・総合的な探究の時間の指導法		総合的な学習の時間の理論と実践	2
	・特別活動の指導法		特別活動の理論と方法	2
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） ・教育の方法及び技術		教育課程・教育方法論 教育学特殊講義Ｂ	2 2
	・教育の方法及び技術		教育学演習Ｃ 教育学演習Ｇ 授業実践研究 小学校実践研究	1 1 2 1
	・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		教育におけるICT活用法	1
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導（キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。）の理論及び方法		生徒指導・進路指導	2
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談 臨床心理学概論 心理演習 心理的アセスメント 心理学的支援法	2 2 1 1 1
教育実践に関する科目	・教育実習		観察実習 学校体験実習 教育実習 教育実習研究	1 1 4 1
	・教職実践演習		教職実践演習	2

＜教職専門科目・個表＞

科目名	単位数	コース・単位数																		標準履修年次【備考１】								取得上限単位	免許法上の科目
		小学校教育コース						中学校教育コース				理数教育コース				特別支援教育コース				1年		2年		3年		4年			
		小一種＋中二種				小一種＋特支一種		中一種＋小二種		中一種＋他教科二種		小一種＋中一種		中一種＋小二種		特支一種＋小一種		特支一種＋中一種													
		教科サブコース		教育・心理・情報教育・特支サブコース		教育・心理・情報教育・特支サブコース						小学校教育専修		中学校教育専修		小学校基礎免許		中学校基礎免許													
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
教職入門	2	2		2		2		2		2		2		2		2		2		○								2	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）
教育概論	2	2		2		2		2		2		2		2		2		2		○								2	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的，制度的又は経営的事項
教育の思想	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		○							2	
教育の歴史	2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		○							2	
教育学特殊講義A	2		2		2		2		2		2		2		2		2		2			←	○	→				2	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教育学演習A	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1			←	○	→				3	
教育学演習B	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1			←	○	→				3	
学校安全学と防災教育	2	2		2		2		2		2		2		2		2		2			○							2	・教育に関する社会的，制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
教育法規	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2					○				2	
学校経営・制度論	2		2		2		2		2		2		2		2		2		2						○			2	
いわての復興教育	2		2		2		2		2		2		2		2		2		2			○		○		○		2	
教育学演習D	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1			←	○	→				3	
教育学演習E	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1			←	○	→				3	
教育学演習F	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1			←	○	→				3	
小規模学校教育論	2		2		2		2		2		2		2		2		2		2							○		2	
教育・学校心理学	2	2		2		2		2		2		2		2		2		2			○							2	・幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
発達心理学	2	2		2		2		2		2		2		2		2		2					○					2	
心理学概論	2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		○							2	
教育心理学演習	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1				○					2	
発達心理学演習	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1			○						2	
障害者・障害児心理学	2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		○							2	
特別支援教育	2	2		2		2		2		2		2		2		2		2				○		○				2	・特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解
道徳教育の理論と実践【備考２】	2	2		2		2		2		2		2		2		2		2				○	○					2	・道徳の理論及び指導法
総合的な学習の時間の理論と実践	2	2		2		2		2		2		2		2		2		2						○				2	・総合的な探究の時間の指導法
特別活動の理論と方法【備考２】	2	2		2		2		2		2		2		2		2		2				○	○					2	・特別活動の指導法
教育課程・教育方法論	2	2		2		2		2		2		2		2		2		2					○					2	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） ・教育の方法及び技術
教育学特殊講義B	2		2		2		2		2		2		2		2		2		2							○		2	
教育におけるICT活用法	1	1		1		1		1		1		1		1		1		1			○							1	・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法
教育学演習C	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1			←	○	→				3	・教育の方法及び技術
教育学演習G	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1			←	○	→				3	
授業実践研究	2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		○							2	
小学校実践研究	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1					○				1	

科目名	単位数	コース・単位数																		標準履修年次【備考１】								取得上限単位	免許法上の科目
		小学校教育コース						中学校教育コース				理数教育コース				特別支援教育コース				１年		２年		３年		４年			
		小一種＋中二種				小一種＋特支一種		中一種＋小二種		中一種＋他教科二種		小一種＋中一種		中一種＋小二種		特支一種＋小一種		特支一種＋中一種											
		教科サブコース		教育・心理・情報教育・特支サブコース		教育・心理・情報教育・特支サブコース						小学校教育専修		中学校教育専修		小学校基礎免許		中学校基礎免許											
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
生徒指導・進路指導	2	2		2		2		2		2		2		2		2		2		○								2	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導（キャリア教育に関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
教育相談【備考３】	2	2		2		2		2		2		2		2		2		2				○	○					2	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
臨床心理学概論	2		2		2		2		2		2		2		2		2		2			○						2	
心理演習	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1			○						1	
心理的アセスメント	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1				○					1	
心理学的支援法	1		1		1		1		1		1		1		1		1		1				○					1	
観察実習（小）	1	1		1		1						1				1				○								1	・教育実習
観察実習（中・高）	1							1		1				1				1		○								1	
学校体験実習（小）	1	1		1		1						1				1						○						1	
学校体験実習（中・高）	1							1		1				1				1				○						1	
小学校教育実習	4	4		4		4		2				4		2		4			2					主○			副○		4	
中学校教育実習	4	2		2			2	4		(主)(副)4＋2		2		4			2	4						主○			副○		4	
高等学校教育実習	2																											2	
教育実習研究（小）	1	1		1		1		1				1		1		1			1					○	○	○	○		1	
教育実習研究（中・高）	1	1		1				1		1		1		1			1	1						○	○	○	○		1	
教職実践演習	2	2		2		2		2		2		2		2		2		2									○		2	・教職実践演習
プログラミング基礎	1	1		1		1		1		1		1		1		1		1			○								1	大学が独自設定する科目（小学校，中学校，高校）
STEAM教育実践演習【備考４】	2		2		2		2		2		2		2		2		2		2							○			2	大学が独自設定する科目（小学校，中学校，高校）
ＩＣＴを活用した理数教育【備考５】	2											2		2										○					2	大学が独自設定する科目（小学校，中・高（理科・数学））
卒業要件		42		42		39		42		41		44		44		39		39												
		42		42		39		42		41		44		44		39		39												

【備考１】標準履修年次の中の「←　→」は，その期間のいずれかに開講するもので，毎年，前・後期に必ず開講されるものではないことを示している。

【備考２】「道徳教育の理論と実践」及び「特別活動の理論と方法」の履修対象学生を，原則として前期は小学校主免，後期は中学校主免の学生とすることを示している。

【備考３】「教育相談」の履修対象学生を，原則として前期は小学校教育コース，後期は中学校教育コース及び理数教育コース，特別支援教育コースとすることを示している。

【備考４】通年にて２単位の科目であるが，後期については一部集中的に講義を開講する。実施日については４月のオリエンテーションで確認して日程調整すること。

【備考５】理数教育コースの学生のみ対象の履修科目を示している。

３．２教科専門科目（小学校科目）

３．２．（１）小学校・教科に関する科目

科目名	単位数	コース・単位数										標準履修年次								取得上限単位	免許法上の科目
		小学校教育コース		中学校教育コース		理数教育コース				特別支援教育コース		１年		２年		３年		４年			
		小一種		小二種		小一種		小二種		小一種											
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
小学校算数	2	2			2		2		2	2				○	○	○	○	○		2	小の教科に関する専門的事項（算数）
小学校理科	2	2			2		2		2	2					○	○				2	小の教科に関する専門的事項（理科）
小学校体育Ａ	1	1			1		1		1	1				○						1	小の教科に関する専門的事項（体育）
小学校英語	2	2			2		2		2	2			○	○						2	小の教科に関する専門的事項（英語）
小学校音楽Ａ	1	5	1	4	1	10	1	4	1	5	1		○	○						1	小の教科に関する専門的事項（音楽）
小学校国語	2		2		2		2		2		2		○	○						2	小の教科に関する専門的事項（国語 書写を含む。）
小学校社会	2		2		2		2		2		2				○		○			2	小の教科に関する専門的事項（社会）
小学校図画工作	2		2		2		2		2		2				○		○			2	小の教科に関する専門的事項（図画工作）
小学校家庭科	2		2		2		2		2		2			○	○	○	○	○		2	小の教科に関する専門的事項（家庭）
小学校生活科	2		2		2		2		2		2			○	○					2	小の教科に関する専門的事項（生活）
小学校音楽Ｂ	1		1		1		1		1		1		○	○	○	○				1	小の教科に関する専門的事項（音楽）
小学校体育Ｂ	1		1		1		1		1		1				○		○			1	小の教科に関する専門的事項（体育）
卒業要件		12		4		10		4		12											
		12		4		10		4		12											

※下記科目は選択科目であるが，教員として必要な内容が含まれている。それぞれ内容を確認し，各自必要に応じて履修することが望ましい。

・小学校音楽Ｂ＝ 小学校音楽科の教材のピアノ弾き歌いや読譜等の実技実習を行う。鍵盤楽器の未経験者を対象とする。

・小学校体育Ｂ＝ 体育の授業において有効と思われる教材や教具の開発を行い，その有効性を検証する実技を中心としたアクティブラーニングによって，改善・修正の過程を通した実践的指導力の向上を図る授業をする。

３．２．（２）小学校・教科の指導法

科目名	単位数	コース・単位数										標準履修年次								取得上限単位	免許法上の科目	
		小学校教育コース		中学校教育コース		理数教育コース				特別支援教育コース		１年		２年		３年		４年				
		小一種		小二種		小一種		小二種		小一種												
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後			
国語科教育法（小）	2	2		※教科の教育法（小）12単位修すること ※音楽・図画工作・体育のうち2科目以上を履	2	2		※教科の教育法（小）12単位修すること ※音楽・図画工作・体育のうち2科目以上を履	2	2				○	○					2	小学校・教科の指導法	小（国語）
社会科教育法（小）	2	2			2	2			2	2				○	○	○	○			2		小（社会）
算数科教育法	2	2			2	2			2	2				○	○	○	○	○		2		小（算数）
理科教育法（小）	2	2			2	2			2	2				○	○	○	○			2		小（理科）
生活科教育法	2	2			2	2			2	2				○		○				2		小（生活）
音楽科教育法（小）	2	2			2	2			2	2					○	○				2		小（音楽）
図画工作科教育法	2	2			2	2			2	2					○		○			2		小(図画工作)
家庭科教育法（小）	2	2			2	2			2	2				○	○	○	○	○		2		小（家庭）
体育科教育法（小）	2	2			2	2			2	2				○						2		小（体育）
英語科教育法（小）	2	2			2	2			2	2					○	○				2		小（英語）
卒業要件		20		12		20		12		20												
		20		12		20		12		20												

３．３　小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目

（１）国語サブコース

区分	科目名	単位数	コース・単位数						標準履修年次								備考
			小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		１年		２年		３年		４年		
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	
教科専門科目	日本語学概論A	2	2		2		2				○		○		○		
	日本語学概論B	2	2		2		2			○		○		○			
	日本語学講義A	2		2		2		2			○		○		○		
	日本語学講義B	2		2		2		2				○		○			
	日本語学講義C	2		2		2		2			○		○		○		
	日本語学講義D	2		2		2		2				○		○			
	日本語学特別演習A	2		2		2		2				○		○			
	国文学史A	2	2	4	2		2				○		○		○		
	国文学史B	2			2		2					○		○			
	国文学史C	2			2		2				○		○		○		
	国文学講義A	2		2		2		2				○		○			
	国文学講義B	2		2		2		2				○		○			
	国文学特別演習A	2		2		2		2				○		○			
	国文学特別演習B	2		2		2		2				○		○			
	国文学実地研究	2		2		2		2			○		○		○		
	漢文学概論	2	2	2	2		2				○		○		○		
	漢文学講義	2			2		2					○		○			
	論語講読	2		2		2		2						○			
	漢字の文化誌	2		2		2		2					○		○		
	漢文学特別演習	2		2		2		2					○		○		
	漢文学実地研究	2		2		2		2				○		○			
	国語科特別演習	2		2	2										○		
	国語科教育実践特別演習	2		2		2					○		○		○		
	日本語学特殊講義	2		2		2		2				○		○			
	国文学特殊講義	2		2		2		2			○		○		○		
	漢文学特殊講義	2		2		2		2				○		○			
	書法基礎	2	2		2		2					○		○			
	卒業要件		10	4	18	12	16	8									
			14		30		24										

区分	科目名	単位数	コース・単位数						標準履修年次								備考
			小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		１年		２年		３年		４年		
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	
教科専門科目	小学校国語	2		2		2		2		○	○						
	国語科教育法（小）	2	2			2		2			○	○					教科の指導法（小学校）
	国語科教育法Ⅰ	2	2		2		2				○						教科の指導法（中学校）
	国語科教育法Ⅱ	2		2	2		2					○					
	国語科教育法Ⅲ	2		2	2		2						○				
	国語科教育法Ⅳ	2		2	2		2							○			
	卒業要件		4		8		8										

※免許については，「４．副免及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

（2）社会サブコース

区分	科目名	単位数	コース・単位数						標準履修年次								備考
			小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年		
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	
教科専門科目	日本史概論A	2	2		2		2			○		○		○			
	日本史概論B	2		2		2		2			○		○		○		
	日本近現代史	2		2		2		2		○		○		○			
	考古学概論	2		2		2		2			○		○		○		
	考古学特殊講義	2		2		2		2				○		○			
	西洋史概論	2	2		2		2				○		○		○		
	西洋史外書講読A	2		2		2		2			←		○		→		
	西洋史外書講読B	2		2		2		2			←		○		→		
	西洋史外書講読C	2		2		2		2			←		○		→		
	西洋史外書講読D	2		2		2		2			←		○		→		
	西洋史特別演習A	2		2		2		2			←		○		→		
	西洋史特別演習B	2		2		2		2			←		○		→		
	西洋史特別演習C	2		2		2		2			←		○		→		
	西洋史特別演習D	2		2		2		2			←		○		→		
	西洋史特別研究Ⅰ	2		2		2		2			←		○		→		
	西洋史特別研究Ⅱ	2		2		2		2			←		○		→		
	西洋史特別研究Ⅲ	2		2		2		2			←		○		→		
	西洋史特別研究Ⅳ	2		2		2		2			←		○		→		
	西洋史特別研究Ⅴ	2		2		2		2			←		○		→		
	東洋史概論	2		2		2		2			←		○		→		前期又は後期に毎年開講
	人文地理学概論A	2	*2		2		2			○		○		○			*どちらか１科目選択必修
	人文地理学概論B	2		2		2		2			○		○		○		
	地理学特別演習AⅠ	2		2		2		2			○		○		○		３年に一度開講
	地理学特別演習AⅡ	2		2		2		2			○		○		○		〃
	地理学特別演習AⅢ	2		2		2		2			○		○		○		〃
	地理学特別演習BⅠ	2		2		2		2				○		○			〃
	地理学特別演習BⅡ	2		2		2		2				○		○			〃
	地理学特別演習BⅢ	2		2		2		2				○		○			〃
	地理学実習AⅠ	1		1		1		1					○		○		〃
	地理学実習AⅡ	1		1		1		1					○		○		〃
	地理学実習AⅢ	1		1		1		1					○		○		〃
	地理学実習BⅠ	1		1		1		1				○		○			〃
	地理学実習BⅡ	1		1		1		1				○		○			〃
	地理学実習BⅢ	1		1		1		1				○		○			〃
	自然地理学概論A	2	*2		2		2				○		○		○		*どちらか１科目選択必修
	自然地理学概論B	2		2		2		2				○		○			
	地誌学	2	2		2		2				○		○		○		
	法学概論	2	**2		2		2					○		○			**どちらか１科目選択必修
	人権と教育	2		2		2		2			○		○		○		
	法と人権実習	1		1		1		1			○		○		○		隔年開講
	法学特別演習A	2		2		2		2			←		○		→		
	法学特別演習B	2		2		2		2			←		○		→		
	法学特別演習C	2		2		2		2			←		○		→		
	法学特別演習D	2		2		2		2			←		○		→		
	法学特別演習E	2		2		2		2			←		○		→		
	法学特殊講義A	2		2		2		2				○		○			
	法学特殊講義B	2		2		2		2			○		○		○		
	国際政治学	2		2		2		2			○		○		○		
	現代政治と公民教育	2	**2			2		2				○		○			**どちらか１科目選択必修
	社会学概論	2	***2		2		2				○		○		○		***どちらか１科目選択必修
	社会学特殊講義	2		2		2		2				○		○			
	社会学特別演習AⅠ	2		2		2		2			←		○		→		
	社会学特別演習AⅡ	2		2		2		2			←		○		→		
	社会学特別演習AⅢ	2		2		2		2			←		○		→		
	社会学特別演習AⅣ	2		2		2		2			←		○		→		
	社会学特別演習AⅤ	2		2		2		2			←		○		→		
	社会学特別演習BⅠ	2		2		2		2			←		○		→		
	社会学特別演習BⅡ	2		2		2		2			←		○		→		
	社会学特別演習BⅢ	2		2		2		2			←		○		→		
	社会学特別演習BⅣ	2		2		2		2			←		○		→		
	社会学特別演習BⅤ	2		2		2		2			←		○		→		

区分	科目名	単位数	コース・単位数						標準履修年次								備考
			小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年		
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	
教科専門科目	経済学概論	2	***2		2		2		○		○		○		○		***どちらか１科目選択必修　小学校教育コースは2年前期で履修すること
	国際経済論	2		2		2		2			○		○		○		
	労働問題	2		2		2		2				○		○			
	哲学概論	2	****2		2		2				○		○		○		倫理学概論と隔年開講　****どちらか１科目選択必修
	哲学史	2		2		2		2				○		○			倫理思想史と隔年開講
	倫理学概論	2	****2		2		2				○		○		○		哲学概論と隔年開講　****どちらか１科目選択必修
	倫理思想史	2		2		2		2				○		○			哲学史と隔年開講
	哲学特殊講義A	2		2		2		2			○		○		○		
	哲学特殊講義B	2		2		2		2				○		○			
	倫理学特殊講義A	2		2		2		2			○		○		○		
	倫理学特殊講義B	2		2		2		2				○		○			
	哲学・倫理学特別演習A	2		2		2		2			←		○		→		
	哲学・倫理学特別演習B	2		2		2		2			←		○		→		
	哲学・倫理学特別演習C	2		2		2		2			←		○		→		
	哲学・倫理学特別演習D	2		2		2		2			←		○		→		
	哲学・倫理学特別演習E	2		2		2		2			←		○		→		
	哲学・倫理学特別研究Ⅰ	2		2		2		2			←		○		→		
	哲学・倫理学特別研究Ⅱ	2		2		2		2			←		○		→		
	哲学・倫理学特別研究Ⅲ	2		2		2		2			←		○		→		
	哲学・倫理学特別研究Ⅳ	2		2		2		2			←		○		→		
	哲学・倫理学特別研究Ⅴ	2		2		2		2			←		○		→		
	社会科教育学概論A（地理歴史）	2		2	2		*****2				○		○		○		*****どちらか１科目選択必修
	社会科教育学特殊講義A（地理歴史）Ⅰ	2		2		2		2			○		○		○		
	社会科教育学特殊講義A（地理歴史）Ⅱ	2		2		2		2				○		○			
	社会科教育学特別演習A（地理歴史）Ⅰ	2		2		2		2			○		○		○		２年に一度開講
	社会科教育学特別演習A（地理歴史）Ⅱ	2		2		2		2				○		○			２年に一度開講
	社会科教育学特別演習A（地理歴史）Ⅲ	2		2		2		2			○		○		○		２年に一度開講
	社会科教育学特別演習A（地理歴史）Ⅳ	2		2		2		2				○		○			２年に一度開講
	社会科教育学概論B（公民）	2		2	2		*****2				○		○		○		*****どちらか１科目選択必修
	社会科教育学特殊講義B（公民）Ⅰ	2		2		2		2			○		○		○		
	社会科教育学特殊講義B（公民）Ⅱ	2		2		2		2				○		○			
	社会科教育学特別演習B（公民）Ⅰ	2		2		2		2			○		○		○		２年に一度開講
	社会科教育学特別演習B（公民）Ⅱ	2		2		2		2				○		○			２年に一度開講
	社会科教育学特別演習B（公民）Ⅲ	2		2		2		2			○		○		○		２年に一度開講
	社会科教育学特別演習B（公民）Ⅳ	2		2		2		2				○		○			２年に一度開講
	卒業要件		14		24	6	22	2									
			14		30		24										

区分	科目名	単位数	コース・単位数						標準履修年次								備考
			小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年		
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	
教科専門科目	小学校社会	2		2		2		2				○		○			
	社会科教育法（小）	2	2			2		2			○	○	○	○			教科の指導法（小学校）
	社会科教材研究法	2		2	2		2						○		○		
	社会科学習内容構築論	2		2	2		2							○			
	中等社会科教育法A（社会・地歴）	2	2	2	2		2					○		○			教科の指導法（中学校）
	中等社会科教育法B（社会・公民）	2			2		2				○		○		○		
	地理歴史科教育法	2		2		2		2			○		○		○		教科の指導法（高校：地歴）
	公民科教育法	2		2		2		2				○		○			教科の指導法（高校：公民）
	卒業要件		4		8		8										

備考　標準履修年次の中の「←　→」は，その期間のいずれかに開講するもので，毎年，前・後期に必ず開講されるものではないことを示している。

※免許については，「４．副免及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

（３）英語サブコース

区分	科目名	単位数	コース・単位数 小学校教育コース 必修	小学校教育コース 選択	中学校教育コース 必修	中学校教育コース 選択	特別支援教育コース 必修	特別支援教育コース 選択	標準履修年次 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
教科専門科目	英語学の世界	2		2	2			2			○						
	英語の文法	2	2		2		2		中○		小○						履修時期はコースごとに異なる。
	英語学特別演習	2		2	2			2					○				
	英語学特別講義A	2		2		2		2			←		○	→			
	英語学特別講義B	2		2		2		2			←		○	→			
	英語文学概論	2	2		2		2					○					
	英語文学特別演習Ⅰ	2		2	2			2				○					
	英語文学特別演習Ⅱ	2		2		2		2					○				
	英語文学特別講義A	2		2		2		2			←		○	→			
	英語文学特別講義B	2		2		2		2			←		○	→			
	英語音声学講義	2		2	2		2			○							
	英語音声学特別演習	2		2	2			2			○						
	英語表現特別演習（S）Ⅰ	2		2	2		2			○							
	英語表現特別演習（S）Ⅱ	2		2		2		2			○						
	英語表現特別演習（W）Ⅰ	2	2		2		2		中○	小○							履修時期はコースごとに異なる。
	英語表現特別演習（W）Ⅱ	2		2		2		2		中○		小○					履修時期はコースごとに異なる。
	英語表現特別研究A	2		2	2									○			
	英語表現特別研究B	2		2	2										○		
	英語表現特別研究C	2		2		2								○			
	異文化理解	2	2		2		2				○						
	英語インターンシッププログラムA	2		2		2		2			←		○	→			
	英語インターンシッププログラムB	2		2		2		2			←		○	→			
	英語科教育法特別演習Ⅰ	2		2	2		2						○				
	英語科教育法特別演習Ⅱ	2		2		2								○			※備考７を参照
	英語科教育法特別講義A	2		2		2						←	○	→			
	英語科教育法特別講義B	2		2		2						←	○	→			
	卒業要件		8	6	26	4	14	10									
			14		30		24										

区分	科目名	単位数	コース・単位数 小学校教育コース 必修	小学校教育コース 選択	中学校教育コース 必修	中学校教育コース 選択	特別支援教育コース 必修	特別支援教育コース 選択	標準履修年次 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
教科専門科目	小学校英語	2	2			2		2		○	○						
	英語科教育法（小）	2	2			2		2				○	○				教科の指導法（小学校）
	英語科教育法Ⅰ	2	2		2		2				○						
	英語科教育法Ⅱ	2		2	2		2					○					
	英語科教育法Ⅲ	2		2	2		2						○				教科の指導法（中学校）
	英語科教育法Ⅳ	2		2	2		2							○			
	卒業要件		6		8		8										

備考　１　中学校教育コースの学生は卒業研究のため，英語表現特別研究のＡ・Ｂを履修すること。
　　Ｃは選択履修することが望ましい。
　２　英語表現特別演習(W)は，必ずⅠ・Ⅱの順序で履修すること。
　３　英語表現特別演習（S）Ⅰ・Ⅱの履修順序の指定はありません。
　４　英語科教育法は，Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの順序で履修すること。
　５　標準履修年次の中の「←　→」は，その期間に開講することを示している。
　６　英語インターンシッププログラムＡ・Ｂは，留学生の履修希望があった場合に開講する。
　　開講する場合，日本人学生の履修希望者には面接を実施する。その結果，履修できないこともある。
　７　英語科教育法特別演習Ⅰ・Ⅱ及び英語科教育法特別講義Ａ・Ｂは，免許取得に必要とされる「教科専門科目（教科に関する専門的事項）」の科目（20単位）には属さないので履修には留意されたい。（Ⅳ-54ページ参照）

※免許については，「４．副免及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

（4）音楽サブコース

区分	科目名	単位数	コース・単位数						標準履修年次								備考
			小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年		
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	
教科専門科目	ソルフェージュA Ⅰ	1	1*		1*		1*		○								*原則としてAは中学校，Bは小学校・特支コースを対象とする。
	ソルフェージュB Ⅰ	1									○						
	ソルフェージュA Ⅱ	1		1*	1*			1*		○							*原則としてAは中学校，Bは小学校・特支コースを対象とする。
	ソルフェージュB Ⅱ	1										○					
	声楽 Ⅰ	1	1		1		1		○		○						小学校コースは2年前期，中学校コースは1年前期で履修。
	声楽 Ⅱ	1		1	1			1		○							
	声楽 Ⅲ	1		1		1		1			○						
	声楽 Ⅳ	1		1		1		1				○					
	合唱	1	1		1		1			○		○		○			
	器楽A Ⅰ	1	1		1		1		○		○						小学校コースは2年前期，中学校コースは1年前期で履修
	器楽A Ⅱ	1		1	1			1		○							
	器楽A Ⅲ	1		1		1		1			○						
	器楽A Ⅳ	1		1		1		1				○					
	器楽B Ⅰ	1		1		1		1	○		○						小学校コースは2年前期，中学校コースは1年前期から履修可
	器楽B Ⅱ	1		1		1		1		○							
	器楽B Ⅲ	1		1		1		1			○						
	器楽B Ⅳ	1		1		1		1				○					
	伴奏法	1	1		1		1			○		○		○			原則として器楽ＡＩを履修済みの学生を対象とする
	合奏A	1	1		1		1						○				
	合奏B	1		1		1		1		○		○		○			
	器楽C	1	1		1			1		○		○		○			
	器楽D	1		1		1		1		○		○		○			
	指揮法	1	1		1		1				○		○		○		
	音楽理論 Ⅰ	2	2		2		2		中○	小○							小学校コースは1年後期，中学校コースは1年前期で履修
	音楽理論 Ⅱ	2		2	2			2		中○		小○					小学校コースは２年後期，中学校コースは１年後期で履修
	作曲法 Ⅰ	2	2		2		2				○		○				
	作曲法 Ⅱ	2		2		2		2				○		○			
	音楽史	2	2		2		2			○		○		○			
	声楽演習 Ⅰ	1		1		1							○				
	声楽演習 Ⅱ	1		1		1								○			
	声楽演習 Ⅲ	1		1		1									○		
	声楽演習 Ⅳ	1		1		1								○			
	器楽演習A Ⅰ	1		1		1							○				
	器楽演習A Ⅱ	1		1		1								○			
	器楽演習A Ⅲ	1		1		1									○		
	器楽演習A Ⅳ	1		1		1								○			
	器楽演習B Ⅰ	1		1		1							○				
	器楽演習B Ⅱ	1		1		1								○			
	器楽演習B Ⅲ	1		1		1									○		
	器楽演習B Ⅳ	1		1		1								○			
	作曲演習 Ⅰ	1		1		1							○				
	作曲演習 Ⅱ	1		1		1								○			
	作曲演習 Ⅲ	1		1		1									○		
	作曲演習 Ⅳ	1		1		1								○			
	音楽科教育学演習 Ⅰ	1		1		1							○				
	音楽科教育学演習 Ⅱ	1		1		1								○			
	音楽科教育学演習 Ⅲ	1		1		1									○		
	音楽科教育学演習 Ⅳ	1		1		1								○			
	卒業要件		14		19	11	13	11									
			14		30		24										

備考　個人指導の科目は，所属学生及び免許取得希望学生以外の選択を認めない。

区分	科目名	単位数	コース・単位数						標準履修年次								備考
			小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年		
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	
教科専門科目	小学校音楽A	1		1		1		1		○	○						
	小学校音楽B	1		1		1		1		○	○	○	○				
	音楽科教育法（小）	2	2			2		2				○	○				教科の指導法（小学校）
	音楽科教育法 Ⅰ	2		2	2		2				○						
	音楽科教育法 Ⅱ	2	2		2		2					○					
	音楽科教育法 Ⅲ	2		2	2		2							○			教科の指導法（中学校）
	音楽科教育法演習A	1		1	1		1				○						
	音楽科教育法演習B	1		1	1		1					○					
	卒業要件		4		8		8										

※免許については，「４．副免及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

（５）美術サブコース

区分	科目名	コース・単位数							標準履修年次								備考
		単位数	小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		１年		２年		３年		４年		
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	
教科専門科目	絵画基礎	2	2		2		2		※○		○		○		○		※小学校教育コースの学生は，１年前期には受講不可
	彫刻基礎	2	2		2		2			○		○		○			
	デザイン基礎A	2	2		2		2		※○		○		○		○		※小学校教育コースの学生は，１年前期には受講不可
	工芸基礎	2	2		2		2			○		○		○			
	美術史入門	2	2		2		2			○		○		○			
	造形特別演習（絵画）A	2		2		2		2					*○		*○		*は隔年開講
	造形特別演習（絵画）B	2		2		2		2						*○			*は隔年開講
	造形特別演習（絵画）C	2		2		2		2					*○		*○		*は隔年開講
	造形特別演習（絵画）D	2		2		2		2						*○			*は隔年開講
	造形実習（絵画）A	1		1		1		1			○		○		○		３年に一度開講
	造形実習（絵画）B	1		1		1		1				○		○			３年に一度開講
	造形実習（絵画）C	1		1		1		1			○		○		○		３年に一度開講
	造形実習（絵画）D	1		1		1		1				○		○			３年に一度開講
	造形実習（絵画）E	1		1		1		1			○		○		○		３年に一度開講
	造形実習（絵画）F	1		1		1		1				○		○			３年に一度開講
	造形特別演習（彫刻）A	2		2		2		2					*○		*○		*は隔年開講
	造形特別演習（彫刻）B	2		2		2		2						*○			*は隔年開講
	造形特別演習（彫刻）C	2		2		2		2					*○		*○		*は隔年開講
	造形特別演習（彫刻）D	2		2		2		2						*○			*は隔年開講
	造形実習（彫刻）A	1		1		1		1			○		○		○		３年に一度開講
	造形実習（彫刻）B	1		1		1		1				○		○			３年に一度開講
	造形実習（彫刻）C	1		1		1		1			○		○		○		３年に一度開講
	造形実習（彫刻）D	1		1		1		1				○		○			３年に一度開講
	造形実習（彫刻）E	1		1		1		1			○		○		○		３年に一度開講
	造形実習（彫刻）F	1		1		1		1				○		○			３年に一度開講
	デザイン基礎B	2		2		2		2		○		○		○			
	造形特別演習（デザイン）A	2		2		2		2					*○		*○		*は隔年開講
	造形特別演習（デザイン）B	2		2		2		2						*○			*は隔年開講
	造形特別演習（デザイン）C	2		2		2		2					*○		*○		*は隔年開講
	造形特別演習（デザイン）D	2		2		2		2						*○			*は隔年開講
	造形実習（デザイン）A	1		1		1		1			○		○		○		３年に一度開講
	造形実習（デザイン）B	1		1		1		1				○		○			３年に一度開講
	造形実習（デザイン）C	1		1		1		1			○		○		○		３年に一度開講
	造形実習（デザイン）D	1		1		1		1				○		○			３年に一度開講
	造形実習（デザイン）E	1		1		1		1			○		○		○		３年に一度開講
	造形実習（デザイン）F	1		1		1		1				○		○			３年に一度開講
	造形特別演習（視覚文化）A	2		2		2		2					*○		*○		*は隔年開講
	造形特別演習（視覚文化）B	2		2		2		2						*○			*は隔年開講
	造形特別演習（視覚文化）C	2		2		2		2					*○		*○		*は隔年開講
	造形特別演習（視覚文化）D	2		2		2		2						*○			*は隔年開講
	造形実習（視覚文化）A	1		1		1		1			○		○		○		３年に一度開講
	造形実習（視覚文化）B	1		1		1		1				○		○			３年に一度開講
	造形実習（視覚文化）C	1		1		1		1			○		○		○		３年に一度開講
	造形実習（視覚文化）D	1		1		1		1				○		○			３年に一度開講
	造形実習（視覚文化）E	1		1		1		1			○		○		○		３年に一度開講
	造形実習（視覚文化）F	1		1		1		1				○		○			３年に一度開講
	造形特別演習（工芸）A	2		2		2		2					○		○		備考１）参照
	造形特別演習（工芸）B	2		2		2		2					○		○		備考１）参照
	造形特別演習（工芸）C	2		2		2		2						○			備考１）参照
	造形特別演習（工芸）D	2		2		2		2						○			備考１）参照

区分	科目名	単位数	コース・単位数						標準履修年次								備考
			小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年		
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	
教科専門科目	造形実習（工芸）A	1		1		1		1			○		○		○		備考２）参照
	造形実習（工芸）B	1		1		1		1			○		○		○		備考２）参照
	造形実習（工芸）C	1		1		1		1				○		○			備考２）参照
	造形実習（工芸）D	1		1		1		1				○		○			備考２）参照
	美術史Ⅰ	2		2		2		2			○		○		○		
	美術史Ⅱ	2		2		2		2				○		○			
	美術史特別演習A	2		2		2		2					*○		*○		*は隔年開講
	美術史特別演習B	2		2		2		2						*○			*は隔年開講
	美術史特別演習C	2		2		2		2					*○		*○		*は隔年開講
	美術史特別演習D	2		2		2		2						*○			*は隔年開講
	色彩論特別演習	2		2		2		2				○		○			
	美術科教育特別演習A	2		2		2		2					*○		*○		*は隔年開講
	美術科教育特別演習B	2		2		2		2						*○			*は隔年開講
	美術科教育特別演習C	2		2		2		2					*○		*○		*は隔年開講
	美術科教育特別演習D	2		2		2		2						*○			*は隔年開講
	卒業要件		10	4	10	20	10	14									
			14		30		24										

区分	科目名	単位数	コース・単位数						標準履修年次								備考
			小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年		
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	
教科専門科目	小学校図画工作	2		2		2		2				○		○			
	図画工作科教育法	2	2			2		2				○		○			教科の指導法（小学校）
	美術科教育法Ⅰ	2	2		2		2				○						教科の指導法（中学校）
	美術科教育法Ⅱ	2		2	2		2					○					
	美術科教育法Ⅲ	2		2	2		2						○				
	美術科教育法Ⅳ	2		2	2		2							○			
卒業要件			4		8		8										

※免許については，「４．副免及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

備考１）造形特別演習（工芸）Ａ・Ｃは窯芸の内容を、Ｂ・Ｄは染織の内容をそれぞれ扱う。

備考２）造形実習（工芸）Ａ・Ｃは窯芸の内容を、Ｂ・Ｄは染織の内容をそれぞれ扱う。

上記の科目は、道具及び作業スペースの都合上、受講者多数の場合、人数制限を行う。その場合、（人）芸文プログラム（主専攻）希望学生、（教）美術免許取得学生、単位履修者を優先する。

造形特別演習（工芸）は、造形実習（工芸）を履修済みであることが望ましい。また、造形特別演習（工芸）Ｃ・Ｄは、造形特別演習（工芸）Ａ・Ｂを履修済みであることが望ましい。

（6）保健体育サブコース

区分	科目名	単位数	コース・単位数 小学校教育コース 必修	小学校教育コース 選択	中学校教育コース 必修	中学校教育コース 選択	特別支援教育コース 必修	特別支援教育コース 選択	標準履修年次 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
教科専門科目	基礎体育実技（体つくり運動含む）	1	1		1		1			○							
	体育実技A（水泳含む）	1	1		1		1		中○		小○						集中講義（中学校コースは1年前期，小学校コースは2年前期で履修）
	体育実技B（冬季スポーツ含む）	1		1		1		1				○					集中講義
	体育実技C（陸上競技含む）	1	1		1		1				○						
	体育実技D（器械運動含む）	1	1		1		1				○		○				
	体育実技E（武道含む）	1	1		1		1				○		○				
	体育実技F（ダンス含む）	1	1		1		1				○						
	体育実技G（球技含む）	1	1		1		1					←	○	→			体育実技Ⅰと隔年開講
	体育実技H（球技含む）	1		1		1		1			←	○	→				体育実技Jと隔年開講
	体育実技I（球技含む）	1		1		1		1				←	○	→			体育実技Gと隔年開講
	体育実技J（球技含む）	1		1		1		1			←	○	→				体育実技Hと隔年開講
	体育学A（体育原理含む）	2	※2	6	※2	6	※2	6				←	○	→			隔年開講（集中講義）
	体育学B（体育心理学含む）	2										○		○			
	体育学C（体育経営管理学含む）	2										○		○			※いずれか1科目選択必修。
	体育学D（体育社会学含む）	2											○				
	運動学（運動方法学含む）	2	2		2		2					○		○			
	生理学（運動生理学含む）	2	2		2		2					○		○			
	衛生・公衆衛生学	2	2		2		2				○		○				
	学校保健A（小児保健・精神保健・学校安全含む）	2	2		2		2				○						
	学校保健B（救急処置含む）	2	2		2		2					○		○			
	体育学実験	1		1		1							○				
	体育学特別演習	2		2		2								○			
	卒業要件		19		19	11	19	5									
			19		30		24										

区分	科目名	単位数	コース・単位数 小学校教育コース 必修	小学校教育コース 選択	中学校教育コース 必修	中学校教育コース 選択	特別支援教育コース 必修	特別支援教育コース 選択	標準履修年次 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考
教科専門科目	小学校体育A	1	1			1		1			○						
	小学校体育B	1		1		1		1				○		○			
	体育科教育法（小）	2	2			2		2			○						教科の指導法（小学校）
	保健体育科教育法Ⅰ	2	2		2		2				○						教科の指導法（中学校）
	保健体育科教育法Ⅱ	2		2	2		2					○					
	保健体育科教育法Ⅲ	2		2	2		2						○				
	保健体育科教育法Ⅳ	2		2	2		2							○			
	卒業要件		5		8		8										

備考　標準履修年次の中の「←　→」は，その期間に開講することを示している。

※免許については，「４．副免及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

（7）教育学サブコース

区分	科目名	単位数	コース・単位数						標準履修年次								備考	免許法上の科目
			学校教育教員養成課程全学生		小一種＋中二種		小一種＋特支一種		1年		2年		3年		4年			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
教職専門科目	教職入門	2	2						○									教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）
	教育概論	2	2						○									教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 教育に関する社会的，制度的又は経営的事項
	教育の思想	2		2		2		2		○							*	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
	教育の歴史	2	2	2		2		2		○							*	
	教育学特殊講義A	2		2		2		2			←	○	→				**	
	教育学演習A	1		3		3		3			←	○	→				***	
	教育学演習B	1		3		3		3			←	○	→				***	
	教育法規	2	2	2		2		2					○				*	教育に関する社会的，制度的又は経営的事項
	学校経営・制度論	2		2		2		2						○			*	
	教育学演習D	1		3		3		3			←	○	→				***	
	教育学演習E	1		3		3		3			←	○	→				***	
	教育学演習F	1		3		3		3			←	○	→				***	
	教育課程・教育方法論	2	2									○						教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） 教育の方法及び技術
	教育学特殊講義B	2		2		2		2							○		**	
	道徳教育の理論と実践	2	2								○	○						道徳の理論及び指導法
	総合的な学習の時間の理論と実践	2	2										○					総合的な探究の時間の指導法
	特別活動の理論と方法	2	2								○	○						特別活動の指導法
	教育学演習C	1		3		3		3			←	○	→				***	教育の方法及び技術
	教育学演習G	1		3		3		3			←	○	→				***	
	授業実践研究	2		2		2		2		○								
教科専門科目	生活科教育法	2	小 2	中 2							○		○					教科の指導法（小学校）
	家庭科教育法（小）	2	2	2							○	○	○	○	○			教科の指導法（小学校）
	小学校生活科	2		2							○	○						教科に関する専門的事項（小学校・生活）
	小学校家庭科	2		2							○	○	○	○	○			教科に関する専門的事項（小学校・家庭）
	卒業要件				10	10	6	6										

備考　＊　　学校教育教員養成課程全体の卒業要件科目（別欄①②の選択必修２科目）とは別に２単位以上選択必修。

＊＊　学校教育教員養成課程全体の卒業要件科目（別欄①の選択必修１科目）とは別に２単位以上選択必修。

＊＊＊　教育学演習Ａ～Ｇから２種類以上，計２単位以上選択必修とする（「3」は上限単位数）。

標準履修年次の中の「←　→」は，その期間のいずれかに開講するもので，毎年，前・後期に必ず開講されるものではないことを示している。

上記の科目のうち，学校教育教員養成課程全学生が必修の科目及び生活科教育法，小学校生活科の単位は，教育学サブコースの卒業要件１０単位または６単位に使用できないので注意すること。

※免許については，「４．副免及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

（8）心理学サブコース

区分	科目名	単位数	コース・単位数						標準履修年次								備考	免許法上の科目
			学校教育教員養成課程全学生		小一種＋中二種		小一種＋特支一種		1年		2年		3年		4年			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
教職専門科目	教育・学校心理学	2	2							○								幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
	発達心理学	2	2									○						
	心理学概論	2		2	2		2			○								
	教育心理学演習	1		1	1		1					○						
	発達心理学演習	1		1	1		1				○							
	障害者・障害児心理学	2		2		2		2		○								
	知覚・認知心理学	2		2		2		2					○				隔年	
	心理学統計法	2		2	2			2		○								
	心理学研究法	2		2		2		2			○							
	心理学実験	1		1	1		1				○							
	心理実習Ⅰ	1		1		1		1					○					
	心理実習Ⅲ	1		1		1		1						○				
	学習・言語心理学	1		1		1		1				○					隔年	
	感情・人格心理学	1		1		1		1				○						
	神経・生理心理学	1		1		1		1				○						
	健康・医療心理学	1		1		1		1			○							
	人体の構造と機能及び疾病	1		1		1		1			○							
	精神疾患とその治療	1		1		1		1			○							
	司法・犯罪心理学	1		1		1		1		○							隔年	
	福祉心理学	1		1		1		1				○					隔年	
	社会・集団・家族心理学	1		1		1		1		○							隔年	
	産業・組織心理学	1		1		1		1				○					隔年	
	生徒指導・進路指導	2	2						○									生徒指導の理論及び方法 進路指導（キャリア教育に関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
	教育相談	2	2								小 ○	○					脚注参照	
	臨床心理学概論	2		2		2		2			○							
	心理演習	1		1	1		1				○						隔年	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
	心理的アセスメント	1		1		1		1				○						
	心理学的支援法	1		1		1		1				○						
	卒業要件				8	2	6											
					10		6											

備考　教育相談：履修対象学生を，前期は小学校教育コース，後期は中学校教育コース及び理数教育コース，特別支援教育コースとすることを示す。
「隔年」は隔年開講を示す。

※公認心理師受験資格の取得を希望する場合は「６．公認心理師学部カリキュラム修了のための必要単位」を確認すること。

上記の科目のうち，学校教育教員養成課程全学生が必修の科目の単位は，心理学サブコースの卒業要件１０単位または６単位に使用できないので注意すること。

※免許については，「４．副免及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

（9）情報教育学サブコース

区分	科目名	単位数	コース・単位数						標準履修年次								備考	免許法上の科目
			学校教育教員養成課程全学生		小一種＋中二種		小一種＋特支一種		1年		2年		3年		4年			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
教職専門科目	教育におけるICT活用法	1	1							○								情報通信技術を活用した教育の理論及び方法
	プログラミング基礎	1	1							○								大学が独自指定する科目
	STEAM教育実践演習	2		2	2		2								○		備考1)	
教科専門	教育情報システム演習	2		2	2		2				○		○		○		備考2)	教科に関する専門的事項（技術）
	基礎統計解析の理論と実践	2		2	2		2					○		○				
	多変量解析の理論と実践	2		2		2		2						○			備考3)	
	情報社会と倫理	2		2	2			2			○		○		○		備考4)	
	統計的機械学習実践	2		2	2			2					○		○		備考5)	
	卒業要件				10		6											
					10		6											

備考1　通年にて2単位の科目であるが，後期については一部集中的に講義を開講する。実施日については4月のオリエンテーションで確認して日程調整すること。

備考2　ICT活用教育を含む。

備考3　原則「基礎統計解析の理論と実践」の単位取得してから履修すること。全員履修することが望ましい。

備考4　情報モラル教育を含む。

備考5　プログラミングを含む。

注1　中学校教諭二種免許状を取得する学生は，表中選択扱いになっている「多変量解析の理論と実践」も卒業要件の「選択科目」として履修することが望ましい。

注2　特別支援学校教諭の免許状を取得する学生は，表中選択扱いになっている3科目も卒業要件の「選択科目」等として履修することが望ましい。

※免許については，「４．副免及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

（10）特別支援教育サブコース（小学校教育コース）

区分	科目名	単位数 小一種＋中二種 必修	単位数 小一種＋中二種 選択	単位数 小一種＋特支一種 必修	単位数 小一種＋特支一種 選択	標準履修年次 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考	免許法上の科目
所属専門科目	特別支援教育概説	2		2			○		○						特別支援教育の基礎理論に関する科目
	知的障害者の心理・生理・病理	2		2				○		○					特別支援教育領域に関する科目 ／ 心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目 ／ (中心となる領域) 知的障害者
	特別支援心理検査法	2			2				○		○				特別支援教育領域に関する科目 ／ 心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目 ／ 知的障害者
	肢体不自由者の心理・生理・病理	2		2					○		○				特別支援教育領域に関する科目 ／ 心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目 ／ 肢体不自由者
	病弱者の心理・生理・病理	2		2				○		○					特別支援教育領域に関する科目 ／ 心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目 ／ 病弱者
	知的障害教育課程論	2		2				○		○					特別支援教育領域に関する科目 ／ 心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 ／ 知的障害者
	知的障害教育指導法	2		2					○		○				特別支援教育領域に関する科目 ／ 心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 ／ 知的障害者
	特別支援教育指導法	2		2				○		○					特別支援教育領域に関する科目 ／ 心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 ／ 知的障害者
	知的障害教育授業論	2			2				○		○				特別支援教育領域に関する科目 ／ 心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 ／ 知的障害者
	肢体不自由教育課程・指導法	2		2				○		○					特別支援教育領域に関する科目 ／ 心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 ／ 肢体不自由者
	病弱教育課程・指導法	2	10	2					○		○				特別支援教育領域に関する科目 ／ 心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 ／ 病弱者
	特別支援教育実践論	2			2			○						原則，集中講義	特別支援教育領域に関する科目 ／ ・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 ／ 知的障害者
	視覚障害教育総論	1		1					○		○				免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ／ ・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 ／ 視覚障害者
	聴覚障害教育総論	1		1				○		○					免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ／ ・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 ／ 聴覚障害者
	言語障害教育総論	1		1					○		○				免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ／ ・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 ／ 発達障害者（言語）
	重複障害教育総論	1		1					○		○				免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ／ ・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 ／ 重複
	発達障害総論	1		1					○		○				免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ／ ・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 ／ 発達障害者（自閉・情緒・LD・ADHD）
	発達障害教育指導法	2			2			○		○					免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ／ ・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 ／ 発達障害者（情緒・LD・ADHD）
	特別支援教育実習	2		2								○			心身に障害のある幼児，児童又は生徒についての教育実習
	特別支援教育実習研究	1		1								○			心身に障害のある幼児，児童又は生徒についての教育実習
	卒業要件	10		26	6										
		10		32											
		小一種＋中二種		小一種＋特支一種											

区分	科目名	単位数	学校教育教員養成課程全学生 必修	学校教育教員養成課程全学生 選択	標準履修年次 1年 前	1年 後	2年 前	2年 後	3年 前	3年 後	4年 前	4年 後	備考	免許法上の科目
教職	特別支援教育	2	2				○		○					特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解

※免許については，「４．副免及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

３．４　理数教育コースの開講科目

（1）理科サブコース

区分	科目名	単位数	コース・専修・単位数						標準履修年次								備考
			理数教育コース 小学校教育専修		理数教育コース 中学校教育専修		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年		
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	
教科専門科目	物理学A	2	2		2		2				○						
	物理学B	2		2	2			2				○					
	古典力学	2		2		2		2					○				
	電磁気学	2		2		2		2					○				
	量子力学	2		2		2		2						○			
	相対性理論	2		2		2		2						○			
	物理学実験Ⅰ	1	1		1		1				○						
	物理学実験Ⅱ	1	1		1		1					○					
	化学A	2	2		2		2			○							
	化学B	2		2	2			2			○						
	化学特講A	2		2		2		2					○				
	化学特講B	2		2		2		2						○		○	
	化学特講C	2		2		2		2					○				
	化学演習A	1		1		1								○			
	化学演習B	1		1		1									○		
	化学演習C	1		1		1								○			
	化学演習D	1		1		1									○		
	化学実験Ⅰ	1	1		1		1			○							
	化学実験Ⅱ	1	1		1		1				○						
	化学専門実験	1		1		1		1						○			
	生物学A	2	2		2		2			○							
	生物学B	2		2	2			2			○						
	分子生物学	2		2		2		2					○				
	生命科学演習A	1		1		1		1					○				
	生命科学演習B	1		1		1		1						○			
	生物学実験Ⅰ	1	1		1		1				○						
	生物学実験Ⅱ	1	1		1		1					○					
	分子生物学実験	1		1		1		1					○				
	地学A	2	2		2		2				○						
	地学B	2		2	2			2				○					
	岩石学	2		2		2		2						○			
	造岩鉱物の識別法	2		2		2		2					○				
	地学野外巡検	1		1		1		1	○		○		○		○		
	地学実験Ⅰ	1	1		1		1			○							
	地学実験Ⅱ	1	1		1		1				○						
	理科教育特講Ⅰ	2		2		2		2					○				
	理科教育特講Ⅱ	2		2		2		2						○			
	理科教育特講Ⅲ	2		2		2		2							○		※備考を参照
	理科教育学特別演習Ⅰ	2		2		2		2					○				
	理科教育学特別演習Ⅱ	2		2		2		2						○			
	理科教育学特別演習Ⅲ	2		2		2		2							○		
	卒業要件		16	4	24	4	16	8									
			20		28		24										

区分	科目名	単位数	コース・専修・単位数						標準履修年次								備考
			理数教育コース 小学校教育専修		理数教育コース 中学校教育専修		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年		
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	
教職	ＩＣＴを活用した理数教育	2	2		2								○				大学が独自に設定する科目：小学校，中学校（理科・数学），高等学校（理科・数学）に使用できる免許科目
教科専門科目	小学校理科	2		2		2		2				○	○				
	理科教育法（小）	2	2			2		2			○	○	○	○			教科の指導法（小学校）
	理科教育法Ⅰ	2	2		2		2				○						教科の指導法（中学校）
	理科教育法Ⅱ	2	2		2		2					○					
	理科教育法Ⅲ	2	2		2		2						○				
	理科教育法Ⅳ	2	2		2		2							○			
	卒業要件		12		10		8										

備考　理科教育特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ及び理科教育学特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは，免許取得に必要とされる「教科専門科目（教科に関する専門的事項）」の科目（20単位）には属さないので履修には留意されたい。（Ⅳ-61～62ページ参照）

※免許については，「４．副免及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

（２）数学サブコース

区分	科目名	単位数	コース・専修・単位数 理数教育コース 小学校教育専修 必修	選択	理数教育コース 中学校教育専修 必修	選択	特別支援教育コース 必修	選択	標準履修年次 1年 前	後	2年 前	後	3年 前	後	4年 前	後	備考
教科専門科目	代数学Ⅰ	2	2		2		2		○								
	代数学Ⅱ	2	2		2		2			○							
	代数学Ⅲ	2		2		2		2			○						
	代数学Ⅳ	2		2		2		2				○					
	幾何学Ⅰ	2	2		2		2		○								
	幾何学Ⅱ	2	2		2		2			○							
	幾何学Ⅲ	2		2		2		2			○						
	幾何学Ⅳ	2		2		2		2				○					
	解析学Ⅰ	2	2		2		2		○								
	解析学Ⅱ	2	2		2		2			○							
	解析学Ⅲ	2		2		2		2			○						
	解析学Ⅳ	2		2		2		2				○					
	確率論入門	2	2		2		2					○					
	プログラミング入門	2	2		2		2				○						
	代数学各論	2		2	※2	8		2					←	○	→		※中学校教育専修所属者は，この中から最低２単位選択すること。
	幾何学各論	2		2				2					←	○	→		
	解析学各論	2		2				2					←	○	→		
	応用数学	2		2				2					←	○	→		
	数学教育	2		2				2					←	○	→		
	代数学特別講義	4		4	4										○		
	幾何学特別講義	4		4											○		
	解析学特別講義	4		4											○		
	数学教育特別講義	4		4											○		
	卒業要件		16	4	22	6	16	8									
			20		28		24										

区分	科目名	単位数	コース・専修・単位数 理数教育コース 小学校教育専修 必修	選択	理数教育コース 中学校教育専修 必修	選択	特別支援教育コース 必修	選択	標準履修年次 1年 前	後	2年 前	後	3年 前	後	4年 前	後	備考
教職	ＩＣＴを活用した理数教育	2	2		2								○				大学が独自に設定する科目：小学校，中学校（理科・数学），高等学校（理科・数学）に使用できる免許科目
教科専門科目	小学校算数	2		2		2		2			○	○	○	○	○		
	算数科教育法	2	2			2		2			○	○	○	○	○		教科の指導法（小学校）
	数学科教育法Ⅰ	2	2		2		2				○						教科の指導法（中学校）
	数学科教育法Ⅱ	2	2		2		2					○					
	数学科教育法Ⅲ	2	2		2		2						○				
	数学科教育法Ⅳ	2	2		2		2							○			
	卒業要件		12		10		8										

備考　1 ここに示された順序に従って履修すること。標準履修年次の中の「←　→」はその期間のいずれかに開講することを示している。

2 所属学生は，卒業研究のため 代数学，幾何学，解析学，数学教育の各特別講義の一つを選択すること。

3 数学教育及び数学教育特別講義は，免許取得に必要とされる「教科専門科目（教科に関する専門的事項）」の科目（20単位）には属さないので履修には留意されたい。（Ⅳ-63ページ参照）

※免許については，「４．副免及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

３．５　特別支援教育コースの開講科目

区分	科目名	単位数			標準履修年次								備考	免許法上の科目		
		単位数	小学校基礎免許 中学校基礎免許		１年		２年		３年		４年					
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		特別支援学校教諭		
所属専門科目	特別支援教育概説	2	2			○		○						特別支援教育の基礎理論に関する科目		
	知的障害者の心理・生理・病理	2	2				○		○					特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目	(中心となる領域) 知的障害者
	特別支援心理検査法	2		2				○		○						知的障害者
	肢体不自由者の心理・生理・病理	2	2					○		○						肢体不自由者
	病弱者の心理・生理・病理	2	2				○		○							病弱者
	知的障害教育課程論	2	2				○		○						心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	知的障害者
	知的障害教育指導法	2	2					○		○						知的障害者
	特別支援教育指導法	2	2				○		○							知的障害者
	知的障害教育授業論	2		2				○		○						知的障害者
	肢体不自由教育課程・指導法	2	2				○		○							肢体不自由者
	病弱教育課程・指導法	2	2					○		○						病弱者
	特別支援教育実践論	2		2	○								原則，集中講義		・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	知的障害者
	視覚障害教育総論	1	1					○		○				免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の心理，生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児，児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	視覚障害者
	聴覚障害教育総論	1	1				○		○							聴覚障害者
	言語障害教育総論	1	1					○		○						発達障害者 （言語）
	重複障害教育総論	1	1					○		○						重複
	発達障害総論	1	1					○		○						発達障害者 （自閉・情緒・LD・ADHD）
	発達障害教育指導法	2		2			○		○							発達障害者 （情緒・LD・ADHD）
	特別支援教育実習	2	2								○			心身に障害のある幼児，児童又は生徒についての教育実習		
	特別支援教育実習研究	1	1								○					
	卒業要件		26													
			26													

区分	科目名	単位数	学校教育教員養成課程全学生	標準履修年次								備考	免許法上の科目
				１年		２年		３年		４年			
			必修	前	後	前	後	前	後	前	後		
教職	特別支援教育	2	2			○		○					特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解

備考　基礎免許として中学校を選択する場合，履修状況や卒業要件単位数などを確認する際は，「３．３ 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」又は「３．４　理数教育コースの開講科目」にある各教科の「特別支援教育コース」欄を見ること。

※免許については，「４．副免及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

４．副免及びその他の教員免許の取り方について

小学校教育コース，中学校教育コース，理数教育コースの学生は，それぞれの所属コースの定めにより，主免となる教員免許に加えて副免となる教員免許の取得が卒業の要件となっています。 特別支援教育コースの学生は，特別支援学校の教員免許に加えて，基礎免として小学校教員免許あるいは中学校教員免許のいずれかを取得することが卒業要件となっています。

また，卒業の要件としては二種免許の取得を課されている場合，さらに必要な単位を修得することにより一種免許を取得することができます。この他，卒業要件以外の教員免許についても所定の単位を修得することにより免許の取得が可能です。

以下，コース毎に教員免許の取得について記載します。

＜副免及びその他の教員免許の取り方についての基本的な考え方＞

主免と副免の組み合わせパターンは，すでに『履修の手引き』「1.4 課程等の紹介」「2.1 卒業要件単位数」の項で説明したように，コース（サブコース）ごとに異なります。また，同じ一つの組み合わせパターンであっても，副免として取得しようとする免許の種類によって具体的に履修すべき科目内容が異なってきます。けれども副免に関する科目を履修する際の基本的な考え方は共通していますので，この項ではその概要を説明します。

以下の 4.2 では教員免許取得のために必要な単位の一覧表が掲載されています(4.2.1 は小学校教員免許，4.2.2 は中学校教員免許／高等学校教員免許)。ここで留意していただきたいのは，副免用にすべての科目を新たに最初から履修するというのでは決してなく，すでに主免用に履修した科目で副免用の科目としてもカウントできるものもあります。教職専門科目などは多くの場合これに該当します。

副免について考えるときにまず皆さんに行っていただきたいのは，「4.2 教員免許取得のための必要単位」をよく確認し，① 取得しようとする免許に必要な科目を調べ，② その中からすでに主免として履修済みの科目（教職専門科目など）を差し引いた上で，③ 副免用に新たに履修しなくてはならない科目を特定してください。

なお，ここまでの説明は，「副免」を例にして進めてきましたが，「その他の免許」の場合にもそのままあてはまりますので，必要に応じて「副免」を「その他の免許」に読み替えてください。

４．１　コース毎の教員免許の取得について

４．１．１　小学校教育コース

（１）国語・社会・英語・音楽・美術・保健体育の各サブコース

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより，主免となる小学校教員免許（一種）及び副免となる中学校教員免許（二種）を取得することができます。

ここで保健体育については，「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」の表2.2.1(1) の区分：所属専門科目１６単位と，「3.3小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の保健体育サブコース欄に記載されている卒業要件単位数２１単位が異なってい

ますが，必ず「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の記載に従ってください。これは中学校教員免許（二種）を取得するための教科専門科目の最低修得単位数が，保健体育（２１単位）であるため，「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」の表2.2.1(1) 中の区分：所属専門科目１６単位では免許取得に必要な最低修得単位数を満たさないためです。

中学校教員免許を一種免許にする場合を含め，卒業要件以外の教員免許を取得する場合には，「4.2教員免許取得のための必要単位」 に記載された科目の単位を修得する必要があり，卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

（２）教育・心理・情報教育学・特別支援の各サブコース

＜中学校教員免許（二種）を副免とする場合＞

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより，主免となる小学校教員免許（一種）を取得することができます。

副免を取得する場合には，「4.2教員免許取得のための必要単位」以降に記載された科目の単位を修得する必要があります。「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」の表2.2.1(2) 中の区分：選択必修科目１２単位を利用して，副免とする中学校教員免許の教科専門科目を取ります。ただし教科によっては教科専門科目の最低修得単位数が１２単位を超える教科があるので，その場合には「4.2教員免許取得のための必要単位」 以降の各教科の記載に従い，教科専門科目の最低修得単位数以上の科目の単位を修得してください。（教科専門科目の最低修得単位数：国語（１２），社会（１６），技術（１５），英語（１２），音楽（１５），美術（１２），保健体育（２１），理科（１４），数学（１２））

中学校教員免許を一種免許にする場合を含め，卒業要件以外の教員免許を取得する場合には，「4.2教員免許取得のための必要単位」 に記載された科目の単位を修得する必要があり，卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

＜特別支援学校教員免許（一種）を副免とする場合＞

教育学サブコース，心理学サブコース及び情報教育学コースの学生は，「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより，主免となる小学校教員免許（一種）を取得することができます。また「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」の表2.2.1(3) 中の区分：選択必修科目２６単位を利用して，「4.2教員免許取得のための必要単位」以降に記載された特別支援学校欄の科目の単位を修得することにより，副免となる特別支援学校教員免許（一種）が取得できます。

特別支援サブコースの学生は，「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.3小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより，主免となる小学校教員免許（一種）及び副免となる特別支援学校教員免許（一種）を取得することができます。

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には，「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要があり，卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

４．１．２　中学校教育コース

（１）小学校教員免許（二種）を副免とする場合

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより，主免となる中学校教員免許（一種）及び副免となる小学校教員免許（二種）を取得することができます。

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には，「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要があり，卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

（２）主免と異なる教科の中学校教員免許（二種）を副免とする場合

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより，主免となる教科の中学校教員免許（一種）を取得することができます。 副免を取得する場合には，「4.2教員免許取得のための必要単位」 以降に記載された該当教科の科目の単位を修得する必要があるので，「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」の表2.2.2(2)中の区分：教科専門科目【副免】１２単位を利用して，副免とする中学校教員免許の教科専門科目を取ります。ただし教科によっては教科専門科目の最低修得単位数が１２単位を超える教科があるので，その場合には「4.2教員免許取得のための必要単位」 以降の各教科の記載に従い，教科専門科目の最低修得単位数以上の科目の単位を修得してください。（教科専門科目の最低修得単位数：国語（１２），社会（１６），技術（１５），英語（１２），音楽（１５），美術（１２），保健体育（２１），理科（１４），数学（１２））

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には，「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要があり，卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

４．１．３　理数教育コース

（１）小学校教育専修

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.4 理数教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより，主免となる小学校教員免許（一種）及び副免となる中学校教員免許（一種）を取得することができます。

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には，「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要があり，卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

（２）中学校教育専修

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.4 理数教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより，主免となる中学校教員免許（一種）及び副免となる小学校教員免許（二種免）を取得することができます。

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には，「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要があり，卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

４．１．４　特別支援教育コース

（１）小学校教員免許（一種）を基礎免とする場合

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.5 特別支援教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより，基礎免となる小学校教員免許（一種）及び特別支援学校教員免許（一種）を取得することができます。

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には，「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要があり，卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

（２）中学校教員免許（一種）を基礎免とする場合

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.5 特別支援教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより，特別支援学校教員免許（一種）を取得することができます。 基礎免は，「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」の表2.2.4(2)中の区分：教科専門科目３２単位を利用して，「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」または「3.4 理数教育コースの開講科目」から，基礎免として選択する教科の「特別支援教育コース」欄に従い単位を修得することにより，中学校教員免許（一種）を取得することができます。

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には，「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要があり，卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

４．２　教員免許取得のための必要単位

教員免許の取得に必要な科目・単位を以下にまとめて示します。

４．２．１　小学校教員免許

（１）一覧表

	二種免許	単位数	一種免許	単位数
教職専門科目	教職入門	2	教職入門	2
	教育概論	2	教育概論	2
	学校安全学と防災教育	2	学校安全学と防災教育	2
	教育・学校心理学	2	教育・学校心理学	2
	発達心理学	2	発達心理学	2
	特別支援教育	2	特別支援教育	2
	教育の思想，教育の歴史，教育学特殊講義Ａから１科目	2	教育の思想，教育の歴史，教育学特殊講義Ａから１科目	2
	教育法規　又は　学校経営・制度論	2	教育法規　又は　学校経営・制度論	2
	道徳教育の理論と実践	2	道徳教育の理論と実践	2
	総合的な学習の時間の理論と実践	2	総合的な学習の時間の理論と実践	2
	特別活動の理論と方法	2	特別活動の理論と方法	2
	教育課程・教育方法論	2	教育課程・教育方法論	2
	教育におけるICT活用法	1	教育におけるICT活用法	1
	生徒指導・進路指導	2	生徒指導・進路指導	2
	教育相談	2	教育相談	2
	教育実習研究（小）	1	教育実習研究（小）	1
	小学校教育実習	2	小学校教育実習	2
	教職実践演習	2	教職実践演習	2
教科専門科目	教科専門科目（小学校）*注1)*	4	教科専門科目（小学校）*注1)*	１０
	教科の指導法（小学校）*注2)*	１２	教科の指導法（小学校）*注2)*	２０
大学が独自に設定する科目	プログラミング基礎	1	プログラミング基礎	1
合計		５１		６５

注1)「教科専門科目（小学校）」（選択必修）の具体的な科目は，次ページ別表（2）教科専門科目（小学校）を参照すること。

注2)「教科の指導法（小学校）」の具体的な科目は，次ページ別表（3）教科の指導法(小学校)を参照すること。二種免許の１２単位の選択必修においては，音楽，図画工作，体育のうちから必ず２科目以上を履修すること。

別表（２）教科専門科目（小学校）

教科専門科目	単位数
小学校算数	2
小学校理科	2
小学校音楽Ａ	1
小学校体育Ａ	1
小学校英語	2
小学校国語	2
小学校社会	2
小学校図画工作	2
小学校家庭科	2
小学校生活科	2
小学校音楽Ｂ	1
小学校体育Ｂ	1

別表（３）教科の指導法（小学校）

教科専門科目	単位数
・国語科教育法（小）	2
・社会科教育法（小）	2
・算数科教育法	2
・理科教育法（小）	2
・生活科教育法	2
・音楽科教育法（小）※	2
・図画工作科教育法　※	2
・家庭科教育法（小）	2
・体育科教育法（小）※	2
・英語科教育法（小）	2

※二種免許の12単位の選択必修においては，音楽，図画工作，体育のうちから必ず2科目以上を履修すること。

４．２．２　中学校教員免許／高等学校教員免許

（１）一覧表

	中学校二種免許	単位数	中学校一種免許	単位数	高等学校一種免許	単位数
教職専門科目	教職入門	2	教職入門	2	教職入門	2
	教育概論	2	教育概論	2	教育概論	2
	学校安全学と防災教育	2	学校安全学と防災教育	2	学校安全学と防災教育	2
	教育・学校心理学	2	教育・学校心理学	2	教育・学校心理学	2
	発達心理学	2	発達心理学	2	発達心理学	2
	特別支援教育	2	特別支援教育	2	特別支援教育	2
	教育の思想，教育の歴史，教育学特殊講義Ａから１科目	2	教育の思想，教育の歴史，教育学特殊講義Ａから１科目	2	教育の思想，教育の歴史，教育学特殊講義Ａから１科目	2
	教育法規　又は　学校経営・制度論	2	教育法規　又は　学校経営・制度論	2	教育法規　又は　学校経営・制度論	2
	道徳教育の理論と実践	2	道徳教育の理論と実践	2	―	―
	総合的な学習の時間の理論と実践	2	総合的な学習の時間の理論と実践	2	総合的な学習の時間の理論と実践	2
	特別活動の理論と方法	2	特別活動の理論と方法	2	特別活動の理論と方法	2
	教育課程・教育方法論	2	教育課程・教育方法論	2	教育課程・教育方法論	2
	教育におけるICT活用法	1	教育におけるICT活用法	1	教育におけるICT活用法	1
	生徒指導・進路指導	2	生徒指導・進路指導	2	生徒指導・進路指導	2
	教育相談	2	教育相談	2	教育相談	2
	教育実習研究（中・高）	1	教育実習研究（中・高）	1	教育実習研究（中・高）	1
	中学校教育実習	2	中学校教育実習	2	中学校教育実習	2
	教職実践演習	2	教職実践演習	2	教職実践演習	2
教科専門科目	教科に関する専門的事項 *注1)*	１０～１９	教科に関する専門的事項 *注1)*	２０	教科に関する専門的事項 *注1)*	２０
	教科の指導法（中学校） *注1)*	2	教科の指導法（中学校） *注1)*	8	教科の指導法（中学校） *注1)*	4
大学が独自に設定する科目	プログラミング基礎	1	プログラミング基礎	1	プログラミング基礎	1
					下記*注2）*を参照して修得すること。	**2**
合計		４７～５６		６３		５９

注1)　教科専門科目（教科に関する専門的事項及び教科の指導法）の具体的な科目は，「(2)教科毎の科目・中・高」以降を参照して，単位を修得すること。

注2)　（２）教科毎の科目・中・高の各教科の「高校一種」欄で選択科目となっている科目又は，別表（２）各免許校種の「大学が独自に設定する科目」に使用できる科目（Ⅳ－65ページ）で，高校に使用できる科目から２単位を選択。

(2)教科毎の科目・中・高

◎中学校(国語), 高等学校(国語)

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学国語一種		中学国語二種		高校国語一種	
教科に関する専門的事項		必修	選択	必修	選択	必修	選択
国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む）	日本語学概論A	2	2	2	2	2	2
	日本語学概論B						
国語学	日本語学講義A		2		2		2
	日本語学講義B		2		2		2
	日本語学講義C		2		2		2
	日本語学講義D		2		2		2
	日本語学特別演習A		2		2		2
	日本語学特殊講義		2		2		2
国文学（国文学史含む）	国文学史A	2	4	2	4	2	4
	国文学史B						
	国文学史C						
国文学	国文学講義A		2		2		2
	国文学講義B		2		2		2
	国文学特別演習A		2		2		2
	国文学特別演習B		2		2		2
	国文学実地研究		2		2		2
	国文学特殊講義		2		2		2
漢文学	漢文学概論	2	2	2	2	2	2
	漢文学講義						
	論語講読		2		2		2
	漢字の文化誌		2		2		2
	漢文学実地研究		2		2		2
	漢文学特別演習		2		2		2
	漢文学特殊講義		2		2		2
書道（書写を中心とする）	書法基礎	2		2			
	合　　計	8	12	8	2	6	14

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学国語一種		中学国語二種		高校国語一種	
教科の指導法		必修	選択	必修	選択	必修	選択
中・高の教科指導法（国語）	国語科教育法Ⅰ	2		2		2	
	国語科教育法Ⅱ	2			2	2	
	国語科教育法Ⅲ	2			2		2
	国語科教育法Ⅳ	2			2		2
	合　　計	8		2		4	

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学国語一種		中学国語二種		高校国語一種	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目（国語）	国語科教育実践特別演習		2		2		2

◎中学校（社会），高等学校（地理歴史）（公民）

免許法上の区分等		左記に対応する開設授業科目	中学社会一種		中学社会二種		高校一種 地理歴史		高校一種 公　民		備　　考
教科に関する専門的事項											
中学校	高校		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	
日本史	日本史	日本史概論Ａ	2		2		2				
		日本史概論Ｂ		2		2		2			
		日本近現代史		2		2		2			
		考古学概論		2		2		2			
		考古学特殊講義		2		2		2			
外国史	外国史	西洋史概論	(2)		(2)		2				注1：選択必修①
		西洋史外書講読Ａ		2		2		2			
		西洋史外書講読Ｂ		2		2		2			
		西洋史外書講読Ｃ		2		2		2			
		西洋史外書講読Ｄ		2		2		2			
		西洋史特別演習Ａ		2		2		2			
		西洋史特別演習Ｂ		2		2		2			
		西洋史特別演習Ｃ		2		2		2			
		西洋史特別演習Ｄ		2		2		2			
		西洋史特別研究Ⅰ		2		2		2			
		西洋史特別研究Ⅱ		2		2		2			
		西洋史特別研究Ⅲ		2		2		2			
		西洋史特別研究Ⅳ		2		2		2			
		西洋史特別研究Ⅴ		2		2		2			
		東洋史概論	(2)		(2)		2				注1：選択必修①
地理学	人文地理学	人文地理学概論Ａ	(2)		(2)		2				注1：選択必修②
		人文地理学概論Ｂ		2		2		2			
	自然地理学	自然地理学概論Ａ	(2)		(2)		2				注1：選択必修②
		自然地理学概論Ｂ		2		2		2			
	人文地理学及び自然地理学	地理学特別演習ＡⅠ		2		2		2			
		地理学特別演習ＡⅡ		2		2		2			
		地理学特別演習ＡⅢ		2		2		2			
		地理学特別演習ＢⅠ		2		2		2			
		地理学特別演習ＢⅡ		2		2		2			
		地理学特別演習ＢⅢ		2		2		2			
		地理学実習ＡⅠ		1		1		1			
		地理学実習ＡⅡ		1		1		1			
		地理学実習ＡⅢ		1		1		1			
		地理学実習ＢⅠ		1		1		1			
		地理学実習ＢⅡ		1		1		1			
		地理学実習ＢⅢ		1		1		1			
地誌学	地誌学	地誌学	2		2		2				

免許法上の区分等		左記に対応する開設授業科目	中学社会一種		中学社会二種		高校一種 地理歴史		高校一種 公　民		備　　考
教科に関する専門的事項											
中学校	高校		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	
法律学	法律学（国際法を含む）	法学概論	(2)		(2)				(2)		注1：選択必修③ 注2：選択必修⑥
	法律学	人権と教育		2		2				2	
		法と人権実習		1		1				1	
		法学特別演習Ａ		2		2				2	
		法学特別演習Ｂ		2		2				2	
		法学特別演習Ｃ		2		2				2	
		法学特別演習Ｄ		2		2				2	
		法学特別演習Ｅ		2		2				2	
		法学特殊講義Ａ		2		2				2	
		法学特殊講義Ｂ		2		2				2	
政治学	政治学	現代政治と公民教育	(2)		(2)				(2)		注1：選択必修③ 注2：選択必修⑥
	国際政治学	国際政治学		2		2			(2)		注2：選択必修⑥
社会学	社会学	社会学概論	(2)		(2)				(2)		注1：選択必修④ 注2：選択必修⑦
		社会学特殊講義		2		2				2	
		社会学特別演習ＡⅠ		2		2				2	
		社会学特別演習ＡⅡ		2		2				2	
		社会学特別演習ＡⅢ		2		2				2	
		社会学特別演習ＡⅣ		2		2				2	
		社会学特別演習ＡⅤ		2		2				2	
		社会学特別演習ＢⅠ		2		2				2	
		社会学特別演習ＢⅡ		2		2				2	
		社会学特別演習ＢⅢ		2		2				2	
		社会学特別演習ＢⅣ		2		2				2	
		社会学特別演習ＢⅤ		2		2				2	
経済学	経済学	経済学概論	(2)		(2)				(2)		注1：選択必修④ 注2：選択必修⑦
		労働問題		2		2				2	
	国際経済	国際経済論		2		2			(2)		注2：選択必修⑦
哲学、倫理学	哲学、倫理学	哲学概論	(2)		(2)				(2)		注1：選択必修⑤ 注2：選択必修⑧
		哲学史		2		2				2	
		哲学特殊講義Ａ		2		2				2	
		哲学特殊講義Ｂ		2		2				2	
		倫理学概論	(2)		(2)				(2)		注1：選択必修⑤ 注2：選択必修⑧
		倫理学特殊講義Ａ		2		2				2	
		倫理学特殊講義Ｂ		2		2				2	
		倫理思想史		2		2				2	
		哲学・倫理学特別演習Ａ		2		2				2	
		哲学・倫理学特別演習Ｂ		2		2				2	
		哲学・倫理学特別演習Ｃ		2		2				2	
		哲学・倫理学特別演習Ｄ		2		2				2	
		哲学・倫理学特別演習Ｅ		2		2				2	

免許法上の区分等		左記に対応する開設授業科目	中学社会一種		中学社会二種		高校一種 地理歴史		高校一種 公　民		備　　考
教科に関する専門的事項											
中学校	高校		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	
哲学、倫理学	哲学、倫理学	哲学・倫理学特別研究Ⅰ		2		2				2	
		哲学・倫理学特別研究Ⅱ		2		2				2	
		哲学・倫理学特別研究Ⅲ		2		2				2	
		哲学・倫理学特別研究Ⅳ		2		2				2	
		哲学・倫理学特別研究Ⅴ		2		2				2	
		合　　計	14	6	14		12	8	6～ 10*	14～10*	

注1：中学校社会一種または二種免許取得の場合，選択必修①の科目から１科目，選択必修②から１科目，選択必修③から１科目，選択必修④から１科目，選択必修⑤から１科目選択すること。

注2：高校一種（公民）免許取得の場合，選択必修⑥は「法学概論」または「「現代政治と公民教育」+「国際政治学」（２科目両方選択）」のいずれかを選択，選択必修⑦は「社会学概論」または「「経済学概論」+「国際経済論」（２科目両方選択）」のいずれかを選択，選択必修⑧は２科目からいずれか１科目を選択すること。

＊ 高校一種（公民）は、注2の選択の組合せによって「必修6単位／選択14単位」、「必修8単位／選択12単位」、「必修10単位／選択10単位」となります。

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校社会一種		中学校社会二種		高校一種 地理歴史		高校一種 公　民	
教科の指導法		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
中学校の教科指導法（社会）	社会科教材研究法	2			6				
	社会科学習内容構築論	2							
中・高の教科指導法（社会・地歴）	中等社会科教育法A（社会・地歴）	2		2		2			
中・高の教科指導法（社会・公民）	中等社会科教育法B（社会・公民）	2						2	
高校の教科指導法（地歴）	地理歴史科教育法					2			
高校の教科指導法（公民）	公民科教育法							2	
	合　　計	8		2		4		4	

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校社会一種		中学校社会二種		高校一種 地理歴史		高校一種 公　民	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目（社会）	社会科教育学概論Ａ（地理歴史）		2		2		2		
	社会科教育学概論Ｂ（公民）		2		2				2
	社会科教育学特殊講義Ａ（地理歴史）Ⅰ		2		2		2		
	社会科教育学特殊講義Ａ（地理歴史）Ⅱ		2		2		2		
	社会科教育学特殊講義Ｂ（公民）Ⅰ		2		2				2
	社会科教育学特殊講義Ｂ（公民）Ⅱ		2		2				2
	社会科教育学特別演習Ａ（地理歴史）Ⅰ		2		2		2		
	社会科教育学特別演習Ａ（地理歴史）Ⅱ		2		2		2		
	社会科教育学特別演習Ａ（地理歴史）Ⅲ		2		2		2		
	社会科教育学特別演習Ａ（地理歴史）Ⅳ		2		2		2		
	社会科教育学特別演習Ｂ（公民）Ⅰ		2		2				2
	社会科教育学特別演習Ｂ（公民）Ⅱ		2		2				2
	社会科教育学特別演習Ｂ（公民）Ⅲ		2		2				2
	社会科教育学特別演習Ｂ（公民）Ⅳ		2		2				2

◎中学校(技術)

免許法上の区分等 教科に関する専門的事項 中学校	左記に対応する開設授業科目	中学技術一種		中学技術二種		標準履修年次
		必修	選択	必修	選択	
材料加工（実習を含む）	木材加工（製図を含む）	2		2		2年次前期
	機械材料学	2		2		2年次前期
	金属加工（製図を含む）	1		1		2年次後期
機械・電気（実習を含む）	機械工学	1		1		2年次前期
	電気電子工学	1		1		2年次前期
生物育成	栽培理論Ⅰ	2		2		2年次前期
	栽培理論Ⅱ		2		2	2年次後期
	作物生産論		2		2	2年次前期（隔年）
	栽培学実験		1		1	2年次前期（隔年）
情報とコンピュータ	統計的機械学習実践	2		2		3年次前期
	教育情報システム演習	2			2	2年次前期
	情報工学Ⅰ	2		2		3年次前期
	情報工学Ⅱ		2		2	3年次後期
	プログラミング演習		2		2	2年次後期
	多変量解析の理論と実践		2		2	3年次後期
	基礎統計解析の理論と実践		2		2	2年次後期
	情報社会と倫理	2			2	2年次後期
	合　　計	17	3	13		

免許法上の区分等 教科の指導法	左記に対応する開設授業科目	中学技術一種		中学技術二種		標準履修年次
		必修	選択	必修	選択	
中学校の教科指導法（技術）	技術科教育法Ⅰ	2		2		2年次前期
	技術科教育法Ⅱ	2			2	2年次後期
	技術科教育法Ⅲ	2			2	3年次前期
	技術科教育法Ⅳ	2			2	3年次後期
	合　　計	8		2		

◎中学校（英語），高等学校（英語）

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学英語一種		中学英語二種		高校英語一種	
教科に関する専門的事項		必修	選択	必修	選択	必修	選択
英語学	英語学の世界		2		2		2
	英語の文法	2		2		2	
	英語学特別演習		2		2		2
	英語学特別講義Ａ		2		2		2
	英語学特別講義Ｂ		2		2		2
英語文学	英語文学概論	2		2		2	
	英語文学特別演習Ⅰ		2		2		2
	英語文学特別演習Ⅱ		2		2		2
	英語文学特別講義Ａ		2		2		2
	英語文学特別講義Ｂ		2		2		2
英語コミュニケーション	英語音声学講義		2		2		2
	英語音声学特別演習		2		2		2
	英語表現特別演習（Ｓ）Ⅰ		2		2		2
	英語表現特別演習（Ｓ）Ⅱ		2		2		2
	英語表現特別演習（Ｗ）Ⅰ	2		2		2	
	英語表現特別演習（Ｗ）Ⅱ		2		2		2
	英語表現特別研究Ａ		2		2		2
	英語表現特別研究Ｂ		2		2		2
	英語表現特別研究Ｃ		2		2		2
異文化理解	異文化理解	2		2		2	
	英語インターンシッププログラムＡ		2		2		2
	英語インターンシッププログラムＢ		2		2		2
	合　　計	8	12	8	2	8	12

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学英語一種		中学英語二種		高校英語一種	
教科の指導法		必修	選択	必修	選択	必修	選択
中・高の教科指導法（英語）	英語科教育法Ⅰ	2		2		2	
	英語科教育法Ⅱ	2			2	2	
	英語科教育法Ⅲ	2			2		2
	英語科教育法Ⅳ	2			2		2
	合　　計	8		2		4	

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学英語一種		中学英語二種		高校英語一種	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目（英語）	英語科教育法特別演習Ⅰ		2		2		2
	英語科教育法特別演習Ⅱ		2		2		2
	英語科教育法特別講義Ａ		2		2		2
	英語科教育法特別講義Ｂ		2		2		2

備考１　英語表現特別演習（Ｗ）は，必ずⅠ・Ⅱの順序で履修すること。
　２　英語表現特別演習（Ｓ）Ⅰ・Ⅱの履修順序の指定はありません。
　３　英語科教育法は，Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの順序で履修すること。

◎中学校(音楽)，高等学校(音楽)

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学音楽一種		中学音楽二種		高校音楽一種	
教科に関する専門的事項		必修	選択	必修	選択	必修	選択
ソルフェージュ	ソルフェージュＡⅠ	} 1		} 1		} 1	
	ソルフェージュＢⅠ						
	ソルフェージュＡⅡ		} 1		} 1		} 1
	ソルフェージュＢⅡ						
声楽（日本の伝統的な歌唱法を含む）	声楽Ⅰ	1		1		1	
声楽	声楽Ⅱ		1		1		1
	声楽Ⅲ		1		1		1
	声楽Ⅳ		1		1		1
合唱	合唱	1		1		1	
声楽	声楽演習Ⅰ		1		1		1
	声楽演習Ⅱ		1		1		1
	声楽演習Ⅲ		1		1		1
	声楽演習Ⅳ		1		1		1
器楽	器楽ＡⅠ	1		1		1	
	器楽ＡⅡ		1		1		1
	器楽ＡⅢ		1		1		1
	器楽ＡⅣ		1		1		1
	器楽ＢⅠ		1		1		1
	器楽ＢⅡ		1		1		1
	器楽ＢⅢ		1		1		1
	器楽ＢⅣ		1		1		1
伴奏	伴奏法	1		1		1	
合奏（和楽器を含む）	合奏Ａ	1		1		1	
合奏	合奏Ｂ		1		1		1
器楽	器楽Ｃ		1		1		1
	器楽Ｄ		1		1		1
	器楽演習ＡⅠ		1		1		1
	器楽演習ＡⅡ		1		1		1
	器楽演習ＡⅢ		1		1		1
	器楽演習ＡⅣ		1		1		1
	器楽演習ＢⅠ		1		1		1
	器楽演習ＢⅡ		1		1		1
	器楽演習ＢⅢ		1		1		1
	器楽演習ＢⅣ		1		1		1
指揮法	指揮法	1		1		1	
音楽理論	音楽理論Ⅰ	2		2		2	
	音楽理論Ⅱ		2		2		2
作曲法（編曲法を含む）	作曲法Ⅰ	2		2		2	
	作曲法Ⅱ		2		2		2
作曲法	作曲演習Ⅰ		1		1		1
	作曲演習Ⅱ		1		1		1
	作曲演習Ⅲ		1		1		1
	作曲演習Ⅳ		1		1		1
音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む）	音楽史	2		2		2	
	合　　計	13	7	13		13	7

免許法上の区分等 教科の指導法	左記に対応する開設授業科目	中学音楽一種		中学音楽二種		高校音楽一種	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
中・高の教科指導法（音楽）	音楽科教育法Ⅰ	2			2	2	
	音楽科教育法Ⅱ	2		2		2	
	音楽科教育法Ⅲ	2			2		2
	音楽科教育法演習Ａ	1			1		1
	音楽科教育法演習Ｂ	1			1		1
	合　　計	8		2		4	

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学音楽一種		中学音楽二種		高校音楽一種	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目 （音楽）	音楽科教育学演習Ⅰ		1		1		1
	音楽科教育学演習Ⅱ		1		1		1
	音楽科教育学演習Ⅲ		1		1		1
	音楽科教育学演習Ⅳ		1		1		1

備考１　中学校音楽の二種免許取得希望者は音楽科教育法Ⅱを必ず履修すること。

２　高等学校音楽の免許取得希望者は音楽科教育法Ⅰ・Ⅱを必ず履修すること。

◎中学校（美術），高等学校（美術）

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学美術一種		中学美術二種		高校一種美術	
教科に関する専門的事項		必修	選択	必修	選択	必修	選択
絵画 （映像メディア表現を含む）	絵画基礎	2		2		2	
絵画	造形特別演習（絵画）A		2		2		2
	造形特別演習（絵画）B		2		2		2
	造形特別演習（絵画）C		2		2		2
	造形特別演習（絵画）D		2		2		2
	造形実習（絵画）A		1		1		1
	造形実習（絵画）B		1		1		1
	造形実習（絵画）C		1		1		1
	造形実習（絵画）D		1		1		1
	造形実習（絵画）E		1		1		1
	造形実習（絵画）F		1		1		1
彫刻	彫刻基礎	2		2		2	
	造形特別演習（彫刻）A		2		2		2
	造形特別演習（彫刻）B		2		2		2
	造形特別演習（彫刻）C		2		2		2
	造形特別演習（彫刻）D		2		2		2
	造形実習（彫刻）A		1		1		1
	造形実習（彫刻）B		1		1		1
	造形実習（彫刻）C		1		1		1
	造形実習（彫刻）D		1		1		1
	造形実習（彫刻）E		1		1		1
	造形実習（彫刻）F		1		1		1
デザイン （映像メディア表現を含む）	デザイン基礎A	2		2		2	
デザイン	デザイン基礎B		2		2		2
	造形特別演習（デザイン）A		2		2		2
	造形特別演習（デザイン）B		2		2		2
	造形特別演習（デザイン）C		2		2		2
	造形特別演習（デザイン）D		2		2		2
	造形実習（デザイン）A		1		1		1
	造形実習（デザイン）B		1		1		1
	造形実習（デザイン）C		1		1		1
	造形実習（デザイン）D		1		1		1
	造形実習（デザイン）E		1		1		1
	造形実習（デザイン）F		1		1		1
	造形特別演習（視覚文化）A		2		2		2
	造形特別演習（視覚文化）B		2		2		2

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学美術一種		中学美術二種		高校一種美術	
教科に関する専門的事項		必修	選択	必修	選択	必修	選択
デザイン	造形特別演習（視覚文化）C		2		2		2
	造形特別演習（視覚文化）D		2		2		2
	造形実習（視覚文化）A		1		1		1
	造形実習（視覚文化）B		1		1		1
	造形実習（視覚文化）C		1		1		1
	造形実習（視覚文化）D		1		1		1
	造形実習（視覚文化）E		1		1		1
	造形実習（視覚文化）F		1		1		1
	色彩論特別演習		2		2		2
工芸	工芸基礎	2		2			
	造形特別演習（工芸）A		2		2		
	造形特別演習（工芸）B		2		2		
	造形特別演習（工芸）C		2		2		
	造形特別演習（工芸）D		2		2		
	造形実習（工芸）A		1		1		
	造形実習（工芸）B		1		1		
	造形実習（工芸）C		1		1		
	造形実習（工芸）D		1		1		
美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む）	美術史入門	2		2		2	
美術理論・美術史	美術史Ⅰ		2		2		2
	美術史Ⅱ		2		2		2
	美術史特別演習A		2		2		2
	美術史特別演習B		2		2		2
	美術史特別演習C		2		2		2
	美術史特別演習D		2		2		2
	合　　計	10	10	10		8	12

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学美術一種		中学美術二種		高校一種美術	
教科の指導法		必修	選択	必修	選択	必修	選択
中・高の教科指導法（美術）	美術科教育法Ⅰ	2		2	6	2	
	美術科教育法Ⅱ	2				2	
	美術科教育法Ⅲ	2					2
	美術科教育法Ⅳ	2					2
	合　　計	8		2		4	

免許法上の区分等 教科の指導法	左記に対応する開設授業科目	中学美術一種		中学美術二種		高校一種美術	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目 （美術）	美術科教育特別演習Ａ		2		2		2
	美術科教育特別演習Ｂ		2		2		2
	美術科教育特別演習Ｃ		2		2		2
	美術科教育特別演習Ｄ		2		2		2

◎中学校（保健体育），高等学校（保健体育）

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学保健体育一種		中学保健体育二種		高校保健体育一種	
教科に関する専門的事項		必修	選択	必修	選択	必修	選択
体育実技	基礎体育実技（体つくり運動含む）	1		1		1	
	体育実技Ａ（水泳含む）	1		1		1	
	体育実技Ｂ（冬季スポーツ含む）		1		1		1
	体育実技Ｃ（陸上競技含む）	1		1		1	
	体育実技Ｄ（器械運動含む）	1		1		1	
	体育実技Ｅ（武道含む）	1		1		1	
	体育実技Ｆ（ダンス含む）	1		1		1	
	体育実技Ｇ（球技含む）	1		1		1	
	体育実技Ｈ（球技含む）		1		1		1
	体育実技Ｉ（球技含む）		1		1		1
	体育実技Ｊ（球技含む）		1		1		1
体育原理	体育学Ａ（体育原理含む）	※2	6	※2	6	※2	6
体育心理学	体育学Ｂ（体育心理学含む）						
体育経営管理学	体育学Ｃ（体育経営管理学含む）						
体育社会学	体育学Ｄ（体育社会学含む）						
運動学 （運動方法学を含む）	運動学（運動方法学含む）	2		2		2	
生理学 （運動生理学を含む）	生理学（運動生理学含む）	2		2		2	
衛生学・公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	2		2		2	
学校保健（小児保健，精神保健，学校安全を含む）	学校保健Ａ（小児保健・精神保健・学校安全含む）	2		2		2	
学校保健 （救急処置を含む）	学校保健Ｂ（救急処置含む）	2		2		2	
	合　　計	19	1	19		19	1

※いずれか１科目選択必修。

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学保健体育一種		中学保健体育二種		高校保健体育一種	
教科の指導法		必修	選択	必修	選択	必修	選択
中・高の教科指導法 （保健体育）	保健体育科教育法Ⅰ	2		2		2	
	保健体育科教育法Ⅱ	2			2	2	
	保健体育科教育法Ⅲ	2			2		2
	保健体育科教育法Ⅳ	2			2		2
	合　　計	8		2		4	

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学保健体育一種		中学保健体育二種		高校保健体育一種	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目 （保健体育）	体育学実験		1		1		1
	体育学特別演習		2		2		2

◎中学校(理科), 高等学校(理科)

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学理科一種		中学理科二種		高校理科一種	
教科に関する専門的事項		必修	選択	必修	選択	必修	選択
物理学	物理学A	2		2		2	
	物理学B		2		2		2
	古典力学		2		2		2
	電磁気学		2		2		2
	量子力学		2		2		2
	相対性理論		2		2		2
化学	化学A	2		2		2	
	化学B		2		2		2
	化学特講A		2		2		2
	化学特講B		2		2		2
	化学特講C		2		2		2
	化学演習A		1		1		1
	化学演習B		1		1		1
	化学演習C		1		1		1
	化学演習D		1		1		1
生物学	生物学A	2		2		2	
	生物学B		2		2		2
	分子生物学		2		2		2
	生物学演習A		1		1		1
	生物学演習B		1		1		1
	生命科学演習A		1		1		1
	生命科学演習B		1		1		1
地学	地学A	2		2		2	
	地学B		2		2		2
	岩石学		2		2		2
	造岩鉱物の識別法		2		2		2
	地学野外巡検		1		1		1
物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	物理学実験Ⅰ	1		1		(1)	
	物理学実験Ⅱ		1		1	(1)	
	化学実験Ⅰ	1		1		(1)	
	化学実験Ⅱ		1		1	(1)	
	化学専門実験		1		1		1
	生物学実験Ⅰ	1		1		(1)	
	生物学実験Ⅱ		1		1	(1)	
	分子生物学実験		1		1		1
	地学実験Ⅰ	1		1		(1)	
	地学実験Ⅱ		1		1	(1)	
	合　計	12	8	12		10	10

注:高校免許の( )は物理学実験Ⅰ・Ⅱ, 化学実験Ⅰ・Ⅱ, 生物学実験Ⅰ・Ⅱ, 地学実験Ⅰ・Ⅱのいずれかの科目について, Ⅰ・Ⅱセットで2単位履修すること。2単位を超えて修得した単位は選択の10単位に使用できる。

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学理科一種		中学理科二種		高校理科一種	
教科の指導法		必修	選択	必修	選択	必修	選択
中・高の教科指導法（理科）	理科教育法Ⅰ	2		2		2	
	理科教育法Ⅱ	2			2	※2	2
	理科教育法Ⅲ	2			2		
	理科教育法Ⅳ	2			2		2
	合　　計	8		2		4	

※いずれか１科目選択必修

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学理科一種		中学理科二種		高校理科一種	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目（理科）	理科教育特講Ⅰ		2		2		2
	理科教育特講Ⅱ		2		2		2
	理科教育特講Ⅲ		2		2		2
	理科教育学特別演習Ⅰ		2		2		2
	理科教育学特別演習Ⅱ		2		2		2
	理科教育学特別演習Ⅲ		2		2		2

◎中学校(数学)，高等学校(数学)

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学数学一種		中学数学二種		高校数学一種	
教科に関する専門的事項		必修	選択	必修	選択	必修	選択
代数学	代数学Ⅰ	2		2		2	
	代数学Ⅱ		2		2		2
	代数学Ⅲ		2		2		2
	代数学Ⅳ		2		2		2
	代数学各論		2		2		2
	＊代数学特別講義		4		4		4
幾何学	幾何学Ⅰ	2		2		2	
	幾何学Ⅱ		2		2		2
	幾何学Ⅲ		2		2		2
	幾何学Ⅳ		2		2		2
	幾何学各論		2		2		2
	＊幾何学特別講義		4		4		4
解析学	解析学Ⅰ	2		2		2	
	解析学Ⅱ		2		2		2
	解析学Ⅲ		2		2		2
	解析学Ⅳ		2		2		2
	応用数学		2		2		2
	解析学各論		2		2		2
	＊解析学特別講義		4		4		4
「確率論，統計学」	確率論入門	2		2		2	
コンピュータ	プログラミング入門	2		2		2	
	合　　計	10	10	10		10	10

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学数学一種		中学数学二種		高校数学一種	
教科の指導法		必修	選択	必修	選択	必修	選択
中・高の教科指導法 (数学)	数学科教育法Ⅰ	2		2		2	
	数学科教育法Ⅱ	2			2	2	
	数学科教育法Ⅲ	2			2		2
	数学科教育法Ⅳ	2			2		2
	合　　計	8		2		4	

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学数学一種		中学数学二種		高校数学一種	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目 (数学)	数学教育		2		2		2
	＊数学教育特別講義		4		4		4

＊各特別講義は，数学サブコース所属学生以外の学生は履修不可。

備考１　代数学，幾何学，解析学，数学科教育法は，原則としてそれぞれⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの順序で履修すること。

２　代数学Ⅰ，幾何学Ⅰ，解析学Ⅰについては，小学校教育コース１年次の学生は履修の対象外とする。その他のコースの学生については，数学の免許取得を希望する場合のみ１年次から履修対象とする。

◎高等学校(情報)

免許法上の区分等 教科に関する専門的事項	左記に対応する開設授業科目	高校情報一種		備考	標準履修年次
		必修	選択		
情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理	情報社会と倫理	2		中（技術）教科専門科目	2年次後期
	セキュリティとプライバシー		2	理工学部開設科目	4年次前期
	情報職業論		1	理工学部開設科目	4年次前期
コンピュータ・情報処理	情報工学Ⅰ	2		中（技術）教科専門科目	3年次前期
	情報工学Ⅱ		2	中（技術）教科専門科目	3年次後期
	プログラミング演習		2	中（技術）教科専門科目	2年次後期
	教育情報システム演習		2	中（技術）教科専門科目	2年次前期
	統計的機械学習実践		2	中（技術）教科専門科目	3年次前期
	基礎統計解析の理論と実践		2	中（技術）教科専門科目	2年次後期
	多変量解析の理論と実践		2	中（技術）教科専門科目	3年次後期
情報システム	情報システム概論	2			3年次前期
	データベース		2	理工学部開設科目	4年次前期
情報通信ネットワーク	情報通信ネットワーク演習	2			3年次後期
	コンピュータネットワーク		2	理工学部開設科目	4年次後期
マルチメディア表現・マルチメディア技術	メディアシステム	2		理工学部開設科目	4年次前期
	コンピュータグラフィックス		2	理工学部開設科目	4年次前期
	合　　計	10	10		

免許法上の区分等 教科の指導法	左記に対応する開設授業科目	高校情報一種		備考	標準履修年次
		必修	選択		
高校の教科指導法（情報）	情報教育法Ⅰ	2			2年次後期
	情報教育法Ⅱ	2			3年次前期
	合　　計	4			

４．２．３　特別支援学校教員免許

小学校または中学校の教員免許の取得とともに以下の科目の単位を修得することで特別支援学校教員免許（一種）が取得できます。

一種免許	単位数
特別支援教育概説	2
知的障害者の心理・生理・病理	2
肢体不自由者の心理・生理・病理	2
病弱者の心理・生理・病理	2
知的障害教育課程論	2
知的障害教育指導法	2
特別支援教育指導法	2
肢体不自由教育課程・指導法	2
病弱教育課程・指導法	2
視覚障害教育総論	1
聴覚障害教育総論	1
言語障害教育総論	1
重複障害教育総論	1
発達障害総論	1
特別支援教育実習	2
特別支援教育実習研究	1
合　計	２６

※　教育学部で取得できる特別支援学校の教員免許状の種類（教育領域）は，「知的障害者，肢体不自由者，病弱者に関する教育の領域」です。

別表（２）各免許校種の「大学が独自に設定する科目」に使用できる科目

教員免許法上の区分			科　　目　　名	単位数	小学校	中学校	高等学校
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	別欄①	教育の思想	2	○	○	○
			教育の歴史	2	○	○	○
			教育学特殊講義Ａ	2	○	○	○
		選択	教育学演習Ａ	1	○	○	○
			教育学演習Ｂ	1	○	○	○
	・教育に関する社会的，制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	別欄②	教育法規	2	○	○	○
			学校経営・制度論	2	○	○	○
		選択	いわての復興教育	2	○	○	○
			教育学演習Ｄ	1	○	○	○
			教育学演習Ｅ	1	○	○	○
			教育学演習Ｆ	1	○	○	○
			小規模学校教育論	2	○	○	○
	・幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		心理学概論	2	○	○	○
			教育心理学演習	1	○	○	○
			発達心理学演習	1	○	○	○
			障害者・障害児心理学	2	○	○	○
道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） ・教育の方法及び技術		教育学特殊講義Ｂ	2	○	○	○
	・教育の方法及び技術		教育学演習Ｃ	1	○	○	○
			教育学演習Ｇ	1	○	○	○
			授業実践研究	2	×	○	○
			小学校実践研究	1	○	×	×
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		臨床心理学概論	2	○	○	○
			心理演習	1	○	○	○
			心理的アセスメント	1	○	○	○
			心理学的支援法	1	○	○	○
大学が独自に設定する科目			STEAM教育実践演習	2	○	○	○

注）「×」印は，各免許校種の免許状を取得するための「大学が独自に設定する科目」に使用できない。

５　日本語教育副専攻科目について

グローバル化が進む中で，帰国・外国人児童生徒などに対する日本語指導の必要性はますます増大しています。日本語教育の基礎を身につけた人材は，日本語学校にとどまらず小・中・高等学校や地域社会から，広く求められています。

教育学部では，日本語教員養成に関して文部科学省が示した標準的な教育内容（副専攻）に基づき，日本語教育副専攻科目を以下のとおり開講します。所定の副専攻科目の単位を履修し単位を修得した者に対しては，日本語教育副専攻を修了したものと認め，卒業時に「日本語教育副専攻単位修得証明書」を授与します。

科目区分	科目名	単位数	備考欄	必修／選択必修	最低取得単位数
転換教育科目	基礎ゼミナール	1		必修	1
教養教育科目	外国語科目（必修８単位から２単位充当）	1		必修	2
日本語教育副専攻科目 ※下記の表を参照	日本語教育概論Ⅰ	2		必修	2
	日本語教育概論Ⅱ	2		必修	2
	学校教育を受けるための日本語	2		必修	2
	日本語教育実習事前指導	1		必修	1
	日本語教育実習	1		必修	1
	日本語教授法講義Ⅰ	2		必修	2
	日本語教授法講義Ⅱ	2		必修	2
教科専門科目（国語）	日本語学概論Ａ	2		選択必修	4
	日本語学概論Ｂ	2			
	日本語学講義Ａ	2			
	日本語学講義Ｂ	2			
	日本語学特殊講義	2			
教科専門科目（英語）	異文化理解	2		選択必修	2
人文社会科学部 人間文化課程開設科目	異文化コミュニケーション論Ａ	2	隔年・前期		
	異文化コミュニケーション論Ｂ	2	隔年・後期		
	異文化コミュニケーション論Ｃ	2	隔年・前期		
	異文化コミュニケーション論Ｄ	2	隔年・後期		
教養教育科目	言語学	2	注）	必修	2
教養教育科目	多文化コミュニケーションＡ	2		選択必修	2
	多文化コミュニケーションＢ	2			
教職専門科目	発達心理学	2		選択必修	2
	教育・学校心理学	2			
合　　計					27

注）「言語学」は指定のクラスを履修すること。詳細は掲示を参照すること。

＜日本語教育副専攻科目＞

区分	科　目　名	コース・単位数			標準履修年次								備　考
		単位数	全コース		1年		2年		3年		4年		
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後	
日本語支援科目	日本語教育概論Ⅰ	2		2	○		○		○		○		教員免許取得の科目としては使用できません。
	日本語教育概論Ⅱ	2		2		○		○		○			
	日本語教授法講義Ⅰ	2		2			○		○		○		
	日本語教授法講義Ⅱ	2		2				○		○			
	日本語教育実習事前指導	1		1				○		○			
	日本語教育実習	1		1				○		○			
	学校教育を受けるための日本語	2		2		○		○		○			

※この表にない科目は，「３．３小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」のページから確認すること。

６　公認心理師学部カリキュラム修了のための必要単位

※　小学校教育コース心理サブコースのみ受講可能です。

公認心理師（国家資格）の受験資格を得るためには、大学の学部で広く一般心理学や医学等の科目を含む「大学における必要な科目」をすべて履修し、卒業後、指定された科目を開設する大学院に進んで必要な科目を履修して修了することが条件の一つです。

公認心理師法上の区分		科目名	標準履修年次	単位数	備考欄
心理学基礎科目		公認心理師の職責	３年前期	1	
		心理学概論	１年後期	2	
		臨床心理学概論	２年前期	2	
		心理学研究法	２年前期	2	
		心理学統計法	１年後期	2	
		心理学実験	２年前期	1	
心理学発展科目	基礎心理学	知覚・認知心理学	２年後期	1	隔年
		学習・言語心理学	３年後期	1	隔年
		感情・人格心理学	２年前期集中	1	
		神経・生理心理学	２年前期集中	1	
		社会・集団・家族心理学	１年後期集中	1	隔年
		発達心理学	２年後期	1	
		障害者・障害児心理学	１年後期集中	2	
		心理的アセスメント	２年後期	1	
		心理学的支援法	２年後期	1	
	実践心理学	健康・医療心理学	２年前期集中	1	
		福祉心理学	２年後期集中	1	隔年
		教育・学校心理学	１年後期	1	
		司法・犯罪心理学	１年後期集中	1	隔年
		産業・組織心理学	２年後期集中	1	隔年
	心理学関連科目	人体の構造と機能及び疾病	２年前期集中	1	
		精神疾患とその治療	２年前期集中	1	
		関係行政論	３年前期	1	
実習演習科目		心理演習	２年前期	1	隔年
		心理実習Ⅱ	３年前期集中	1	
			合計単位数	30	

卒業要件とは別に、「発達心理学」「教育・学校心理学」は、公認心理師科目の１単位ものを履修することが必要です。

V

専門教育について

理工学部

理工学部の学生の皆さんへ

皆さんの大学における履修は，この本（「履修の手引き」）にすべて記載されていますので，関係する部分を熟読してください。記載内容に変更がある場合は，掲示（アイアシスタント）等でお知らせします。以下に「履修の手引き」の要点を示します。

１．大学における履修全般については，“Ⅰ　科目履修に当たって知っておくべきこと”を熟読してください。

２．教養教育科目については，“Ⅱ　教養教育について（獣医学部を除く）”を熟読してください。
・情報基礎，外国語，健康・スポーツは，指定された時間帯を履修してください。
・選択単位には区分ごとに上限があります。

３．各コースの専門科目については，Ⅴ-19～Ⅴ-44 ページ”を熟読してください。

４．教育職員免許状については，“Ⅷ　教育職員免許状・各種資格の取得方法”を熟読してください。
免許状取得希望者には，１年次前期に開講する「教職入門」で教育職員免許状を取得するためのガイダンスを行います。免許取得希望者は必ず「教職入門」を履修申告してください。

履修に関して分からないことがあったら，学生センターや各クラス／各コースの教務委員または担任へ相談してください。

学生センター相談窓口
教養教育科目に関すること　　…学生センターＡ棟②番窓口
専門教育科目に関すること　　…学生センターＡ棟④番窓口
教育職員免許状の取得に関すること…学生センターＡ棟④番窓口

理　工　学　部

＜理念と目標＞

＊理念

岩手大学理工学部は学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、我が国が目指す未来社会で必要とされる情報リテラシーと確かな専門性を併せもち、地球環境問題をはじめとする国際社会ならびに地域社会が抱える諸課題の解決に貢献できる理工系人材の育成を目指します。また、科学技術分野における基礎研究と応用研究を積極的に推進することによって自然界の摂理の解明と技術革新の推進に貢献します。

＊教育目標

理工学部は、以下のような人材育成を行うことによって、我が国が目指す未来社会で必要とされる確かな専門性と情報リテラシーを併せもち、地球環境問題をはじめとする国際社会ならびに地域社会が抱える諸課題の解決に貢献することを目指します。

（1）幅広い教養と豊かな人間性を基礎として、理工学分野における基礎学力と国際水準を満たす専門的知識・専門技術、および倫理性を有し、新しい発想で現代社会の諸課題に積極的に取り組むことのできる人材の育成

（2）獲得した知識や技術を様々な科学技術分野に役立てることを通して、地域や国際社会の様々な問題解決に貢献できる人材の育成

（3）理工学的課題探求心と理解力に基づき、自然科学の様々な現象を根源的かつ包括的に捉えながら人間社会と自然環境の共生を図り、多様な課題の解決への取り組みを通して地域社会と国際社会の持続的発展に貢献できる人材の育成

（4）確かな専門性に加えて豊かな教養と情報リテラシーを有し、自らの専門分野の課題に対し、主体性と協働性をもって取り組むことのできる人材の育成

（5）持続可能な社会の構築のために、「ソフトパス理工学」の理念を実践できる人材の育成

＊研究目標

理工学部は、理工学の幅広い分野における基礎研究から商品化研究までの広範な研究の推進とともに、環境問題、エネルギー問題、巨大災害発生への備え、震災からの復興や地域振興などへの積極的な対応により、地域社会や国際社会の発展に貢献することを目指します。

（1）理工学分野およびその周辺分野の基礎研究による自然のしくみの探求と技術革新の推進およびそれらの研究成果に基づく新しいシーズの創出

（2）地域社会や国際社会からのニーズの発掘

（3）応用研究や実用化研究の推進

＊社会貢献目標

理工学部は、教育・研究活動の成果を地域社会および国際社会に展開し、これらの発展に貢献することを目指します。

（1）産学官民の連携による産業振興への対応

（2）環境および福祉問題における諸課題への対応

（3）生涯学習社会における諸問題への対応

＜教育目的＞

理工学部は、理工学及びその周辺の専門知識を有し、持続可能な社会づくりのための理工学の構築と実践を理念として、地域や国際社会で活躍できる人間性豊かな人材ならびに科学技術の調和的発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。

＜修得すべき能力＞

理工学部では、その教育プログラムを通して、学生が以下のような能力を習得することを目指す。

（1）理工学的課題を解決する専門的能力

（2）持続可能な社会づくりを見据えた幅広い教養と理工学的基礎能力

（3）地域社会や国際社会と主体性を持って協働できる理解力やコミュニケーション能力

＜理工学部及び各コースの学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針＞

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）とは、学生が修得すべき学修の成果を示したものであり、学生が理工学部卒業（＝学位授与）までに身につけるべき知識や能力等です。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、学位授与の方針を実現するために、教育課程（カリキュラム）をどのように編成し、実施するかを示したものです。

＊学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）：理工学部

・真理を探究する理学の考え方と、社会の課題解決に資することを志向する工学の考え方をともに理解し、広い教養と柔軟な発想をもって社会の未解決課題に挑戦する姿勢と、そのために必要な専門コースが求める能力を身につけた者に「学士（理工学)」の学位を授与する。

・社会が抱える様々な課題を理解する教養と、科学技術を応用してそれらを解決しようとする姿勢とを併せ持ち、技術者や研究者として持続可能な社会システムの構築に貢献するために必要な専門コースが求める能力を身につけた者に「学士（工学)」の学位を授与する。

・高度化する情報化社会の動向を適切に把握できる教養と、コンピュータ・サイエンスに関する専門知識を有し、様々な応用分野で情報技術を駆使できるために必要な専門コースが求める能力を身に付けた者に「学士（情報学)」の学位を授与する。

◇理工学科

【化学コース】

化学コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（理工学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

１．幅広い教養と理工学分野の基礎学力を身につけている。

２．化学に関する基礎知識とそれに基づく物質化学から生命化学までの専門知識を有し、それらを応用できる。

（思考・判断）

３．社会における諸問題を分析し、その解決法を論理的に提案できる。

４．化学に関する専門知識に基づいて、直面する課題に対する解決法を思考することができる。

（技能・表現）

５．化学技術者として必要な基本的実験技能と情報処理能力を有する。

６．実験や調査結果を論理的に表現する文章作成能力を有し、国際的に通用するプレゼンテーション能力を身につけている。

（関心・意欲・態度）

７．社会における課題、化学に関する研究動向に関心を持っている。

８．化学に関する知識や技能を活かして、持続可能な社会の構築に貢献する意欲と態度を持っている。

【数理・物理コース】

数理・物理コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目 を身につけた学生に「学士（理工学)」の学位を授与する。

（知識・理解）

１．教養教育、数学、物理、化学の各分野の幅広い基礎知識、基礎学力を有している。

２．数理科学および物理学に関する幅広い専門知識を有している。

（思考・判断）

３．数理科学および物理学の観点から諸問題を分析し、問題解決のための論理的な判断や提案ができる。

（技能・表現）

４．教育者、研究者あるいは技術者として必要な基本的な実験や演習、計算、情報処理の技能を有するとともに、自らの考えを論理的に説明できる。
５．科学英語の読解力と文章力を有するとともに、英語により自らの成果をプレゼンテーションすることができる。
（関心・意欲・態度）
６．科学技術の創成や人の暮らしや産業の発展を担う新現象の解明、研究手法の開発および、数理科学、物理学に大いなる意欲を有している。
７．社会における科学技術の役割を理解し、高い倫理性を持って、獲得した知識や技術を地域や国際社会の様々な問題解決に積極的に生かそうとすることができる。

【材料科学コース】

材料科学コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（理工学)」の学位を授与する。

（知識・理解）
１．教養教育および理工学分野の幅広い基礎知識、基礎学力を有している。
２．材料科学および材料工学に関する幅広い専門知識を有している。
（思考・判断）
３．材料科学および材料工学の観点から諸問題を探索・分析し、問題解決のための論理的な判断や提案ができる。
（技能・表現）
４．技術者、研究者あるいは教育者として必要な基本的な実験やデータサイエンスの技能を有するとともに、自らの考えを論理的に説明できる。
５．技術者あるいは研究者として必要な科学技術英語の基礎知識と技能を有している。
（関心・意欲・態度）
６．科学技術の創成、人の暮らしや産業の発展を担う素材・材料開発や評価技術開発に大いなる意欲を有している。
７．社会における材料科学および材料工学の役割を理解し、高い倫理性を持って、修得した知識や技術を持続的な社会発展に積極的に生かそうとすることができる。

【知能情報コース】

知能情報コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（情報学)」の学位を授与する。

（知識・理解）
１．幅広い教養と知能情報学に関する基礎的な専門知識を身につけている。
（思考・判断）
２．問題の本質を理解し、基礎的な課題に対して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的な計画立案・遂行能力を身につけている。
３．専門分野等の知識を活用してデータを分析することができ、論理的な評価や考察を行える能力を身につけている。
（技能・表現）
４．知能情報システムを開発するために必要な基礎的能力を幅広く身につけている。
５．自らの思考・判断のプロセスや結果を論理的に表現する文章能力と、協創的課題解決のために他人に説明するコミュニケーション能力を身につけている。
６．知能情報学及びその関連分野に関する基礎的な英語能力を身につけている。
（関心・意欲・態度）
７．自然科学、地域課題、及び知能情報学等の動向や進展に関心を持ち、主体的に学ぶための基礎的な能力を身につけている。
８．社会における知能情報システムの役割を理解し、技術者として社会に貢献する基礎的な能力を身につけている。

【クリエイティブ情報コース】

クリエイティブ情報コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（情報学)」の学位を授与する。

（知識・理解）

１．幅広い教養と情報の創造分野に関する基礎的な専門知識を身につけている。

（思考・判断）

２．問題の本質を理解し、基礎的な課題に対して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的な計画立案・遂行能力を身につけている。

３．専門分野等の知識を活用してデータを分析することができ、論理的な評価や考察を行える能力を身につけている。

（技能・表現）

４．情報の創造技術を開発するために必要な基礎的能力を幅広く身につけている。

５．自らの思考・判断のプロセスや結果を論理的に表現する文章能力と、協創的課題解決のために他人に説明するコミュニケーション能力を身につけている。

６．情報の創造及びその関連分野に関する基礎的な英語能力を身につけている。

（関心・意欲・態度）

７．自然科学、地域課題、及び情報の創造等の動向や進展に関心を持ち、主体的に学ぶための基礎的な能力を身につけている。

８．社会における情報の創造の役割を理解し、技術者として社会に貢献する基礎的な能力を身につけている。

【電気電子・情報通信コース】

電気電子・情報通信コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（工学)」の学位を授与する。

（知識・理解）

１．幅広い教養を備え、電気電子・情報通信工学に関する基本的な原理、法則、理論を理解している。

（思考・判断）

２．専門知識を実際の課題に結びつけて柔軟な思考ができ、創造的に応用することができる。

（技能・表現）

３．電気電子・情報通信に関する機器の動作原理を理解し、活用することができる。

４．他人と議論や協力ができる論理的なコミュニケーション能力・語学力を身につけている。

（関心・意欲・態度）

５．科学技術の進展に高い関心を持ち、継続的・主体的に学修することができる。

６．社会における役割を理解し、環境や安全に対する倫理観を身につけている。

【機械知能航空コース】

機械知能航空コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（工学)」の学位を授与する。

（知識・理解）

１．豊かな教養を身につけ、理工学に関する幅広い基礎知識と、機械工学に関する基礎的な専門知識を身につけている。

（思考・判断）

２．豊かな教養と専門分野等の知識に基づいて論理的に思考し、問題解決のための方策を提案できる。

（技能・表現）

３．機械工学分野の機器及び情報関連機器を活用し、機械の知能化等によって所望の機能を実現するための基礎的な能力を身につけている。

４．日本語と英語による論理的な表現力とコミュニケーション能力の基礎を身につけている。
（関心・意欲・態度）
５．機械工学関連分野の進展に関心を持ち、専門的知識を活用しながら主体的に学習することができる。
６．機械工学に関する知識や技能を生かして、持続可能な社会に貢献する意欲と態度を持っている。

【社会基盤・環境工学コース】

社会基盤・環境工学コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（工学)」の学位を授与する。

（知識・理解）
１．数学・自然科学および情報技術に関する知識を修得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。
２．社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。
（思考・判断）
３．問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を身につけている（デザイン能力)。
４．自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学修を行う能力を身につけている（課題発見能力、継続学修能力)。
（技能・表現）
５．充分な語学力、および自国の文化・社会を学ぶとともに世界の多様な価値観を理解し、国際的に通用するコミュニケーション能力を身につけている。
６．自分の意見や実験研究の内容・成果を論理的・客観的に表現する文章作成能力とプレゼンテーション能力を身につけている。
７．他者と協力してチームで仕事をすることができる能力を身につけている（チームワーク力)。
（関心・意欲・態度）
８．地球環境・地域環境を理解する能力および持続可能な循環型社会構築のための技術を考える能力を身につけている。
９．科学技術が社会や自然におよぼす影響を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識する能力を身につけている（倫理)。

＊教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）：理工学部

理工学部では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、理学、工学の各分野で幅広い教養と基礎学力を養うため、化学コース、数理・物理コース、材料科学コース、知能情報コース、クリエイティブ情報コース、電気電子・情報通信コース、機械知能航空コース、社会基盤・環境工学コースごとに、教養教育科目、コース専門入門科目、専門基礎科目、理工学専門共通科目、コース専門横断科目および各コース科目で構成される系統的な教育課程を編成している。

◇理工学科

【化学コース】

化学コースでは、物質化学から生命化学までの、国際水準を満たす高度な専門知識・専門技術を有し、さらに幅広い一般教養と語学力を基にして、地域社会と国際社会の持続的発展を実現するうえで解決すべき諸問題に積極的に取り組むことができる人材の育成を目的として定めている。本コースでは、その教育プログラムを通して、学生が以下の能力を修得することを目指している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

（知識・理解）

1．幅広い教養を身に付つけさせるために、教養教育科目の履修を必修とし、理工学全般の基礎的な学力を修得できるように、教養教育、主として数学、物理、化学の講義からなる専門基礎科目を配置している。

2．化学の専門性を深化できるように、物理化学、無機化学、有機化学を基盤とし、物質化学から生命化学までの応用化学に関する知識、ならびにそれらの知識を応用する能力を修得するための専門科目を配置し、体系的に履修させることを徹底する。

（思考・判断）

3．データサイエンスを活用して化学に関する諸問題の分析とその解決法を提案できるように、情報科目としてデータサイエンスに関する科目を配置している。

4．基礎化学と応用化学の課題に対する実践的解決法を提案できるように、基盤科目に対応する演習科目を配置している。

（技能・表現）

5．化学における基本的な実験技能を習得させるために、「化学理工学実験Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究」などの実験科目を配置し、化学における情報処理の技能を習得させるために、プログラミングに関する科目を配置している。

6．英語で発表する能力を養わせるために、「科学技術英語」等を配置している。

（関心・意欲・態度）

7．プロジェクトベースドラーニング（PBL)科目を通じて、自ら調べた結果を論理的に発表する能力を養わせる。環境・エネルギー・資源への影響を考慮しながら持続的な社会の発展を提案する能力を開発させるために、「ソフトパス理工学序論」等の科目を配置している。

8．実社会において化学の専門家として活動する際に必要となる素養を身につけさせるために、「技術者倫理」、「社会体験学習」等の科目を配置している。

【数理・物理コース】

数理・物理コースでは、数学及び物理に関する幅広い知識・教養を身につけると同時に自然界の真理探究を通じて自然科学と人類社会との関係を総合的に判断出来る知性、品格さらには国際感覚を身につけた人材の育成を目標としている。そのため、教育研究分野として、物理科学分野と数理科学分野を設置し、幅広い基礎知識の修得と数理科学の専門性深化を目指した教育課程を以下の様に編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

（知識・理解）

1．１、２年次に、幅広い教養と理工学全般の基礎的な知識と実験・分析方法を修得させることができるように、教養教育科目および、主として数学、物理、化学の講義と基礎実験科目からなる専門基礎科目を配置している。

2．数理科学、物理科学に関する幅広い基礎知識および高度な専門性を体系的に修得させることができるように、コース専門横断科目、さらにより高い専門性を学ぶための数理・物理コース科目を２年次以降に配置している。

3．数理科学分野の専門性を深化できるように、微分方程式、線形代数学、複素解析学を基礎に、応用解析学、応用確率統計学などを体系的に履修させることを徹底している。

4．物理科学分野の専門性を深化できるように、電磁気学、量子力学、統計力学を基礎に、固体物理学、磁性物理学、光学などを体系的に履修させることを徹底している。

（思考・判断）

5．数理科学、物理科学の課題に対する理解力・判断力・実践的解決法を確かな専門性に基づき修得させることができるように「物理・材料理工学実験Ⅰ・Ⅱ」、「社会体験学習」、「特別研修」、「工場見学」、「卒業研究」などの実験・研修科目を３年次以降に配置している。

（技能・表現）
6．専門科目で修得した知識や技能を活かす応用力や創造力、情報処理能力を修得させるために「プログラミング学」、「物理学実験」、「物理数学演習Ⅰ・Ⅱ」、「物理・材料理工学実験Ⅰ・Ⅱ」などの実験・演習科目や教養教育における情報科目を配置している。
7．科学技術英語の読解力と文章力、及び、英語による表現法を修得させることができるように、科学英語科目を体系的に履修させることを徹底している。
（関心・意欲・態度）
8．分野横断的な思考力および俯瞰的研究能力を身につけさせるため、コース専門入門科目や「ソフトパス理工学序論」、「ソフトパス理工学実践」などのソフトパス理工学指定科目を配置するとともに、他コース開講科目をコース専門横断科目として履修可能としている。
9．主体性・協働性を身につけさせるとともに、社会における数理科学および物理科学の役割ならびに技術者・研究者が負っている社会的責任について深く理解させるために、「ソフトパス理工学実践」などの PBL 科目及び「技術者倫理」「原子力工学」などを配置している。

【材料科学コース】

材料科学コースでは、材料工学および物質科学に関する幅広い知識と高い専門性のスキルを身につけ、科学技術の創成、人の暮らしや産業の発展を担うことができる人材の育成を目標としている。そのため、教育研究分野として、金属生産工学分野と機能材料理工学分野を設置し、幅広い基礎知識の修得と材料工学及び物質科学の専門性の深化を目指した教育課程を以下の様に編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

（知識・理解）
1．1、2年次に、一般教養に関する教養教育科目を配置している。
2．理工学全般の基礎的な知識と実験・分析方法を修得させることができるように、1、2年次に、主に数学、物理、化学の講義と基礎実験科目からなる専門基礎科目を配置している。
3．材料工学および物質科学に関する幅広い基礎知識および高度な専門性を体系的に修得させることができるように、コース専門横断科目、さらにより高い専門性を学ぶための材料科学コース科目を2年次以降に配置している。
4．金属生産工学分野の専門性を深化できるように、材料物理化学、材料組織学、金属構造材料学などの金属とセラミックスの物理・化学的性質を基礎に、金属工学、材料精製、加工プロセス工学などを体系的に履修させることを徹底している。
5．機能材料理工学分野の専門性を深化できるように、電磁気学、固体物理学、半導体理工学などを基礎に、新電子材料、生体材料、計測技術、材料設計・解析などを体系的に履修させることを徹底している。
6．課題への理解力と解決法を身につけさせるために、1年次に PBL の手法を取り入れた「ソフトパス理工学実践」を配置している。
7．持続可能な社会を実現するソフトパスの概念を身につけさせるために、1年次に「ソフトパス理工学序論」を配置している。また、材料科学コース科目にソフトパス指定科目を設置している。
（思考・判断）
8．材料工学および物質科学分野の課題に対する実践的解決法を修得させることができるように、3年次以降に「物理・材料理工学実験Ⅰ・Ⅱ」、「社会体験学習」、「工場見学」、「卒業研究」などの実験・研修科目を配置している。
（技能・表現）
9．専門科目で学んだ知識を活用する実践能力や実験等で得られたデータを適切に処理・活用する技能を修得させることができるように、「物理学実験」、「物理・材料理工学実験Ⅰ・Ⅱ」、「プログラミング学」を配置している。
10．科学技術英語の読解力と文章力、及び、英語による表現法を修得させることができるよ

うに、科学英語科目を体系的に履修することを徹底している。
１１．情報リテラシーを身に付つけるために、１年次に「情報基礎Ａ」、「数理・データサイエンス基礎および演習」、「ＡＩ基礎および演習」を配置している。
（関心・意欲・態度）
１２．専門科目で修得した知識や技能を材料開発や評価技術開発へ生かす応用力と創造力を育成するため、「特別研修」、「特別講義Ⅰ・Ⅱ」、「工場見学」を３年次以降に配置している。
１３．主体性および共同性を身につけさせるために、１年次に PBL の手法を取り入れた「ソフトパス理工学実践（PBL)」を配置している。
１４．分野横断的な思考力および俯瞰的研究能力を身につけさせるため、コース専門横断科目および他コース開講科目を選択科目として履修可能としている。
１５．社会における材料工学および物質科学の役割、及び、技術者・研究者が負っている社会的責任について深く理解させるため、「ソフトパス理工学序論」、「技術者倫理」を配置している。また、材料科学コース科目にソフトパス指定科目を設置している。

【知能情報コース】

知能情報コースでは、豊かな生活環境を支えるための高度で多様な情報システムを構築できる人材の育成を目標としている。このため、コンピュータの基礎理論から知能情報工学、メディア情報工学に至るまでの広範な教育課程を以下のように編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

（知識・理解）
１．幅広い教養と知能情報工学・メディア情報工学・デザイン工学に関する基礎的な専門知識を身につけさせるため、教養教育科目や数学・理科に関する専門基礎科目を１、２年次に多く配置し、２、３年次からは、情報学の基礎である離散数学やデータ構造に関する知識、及び、情報学の各分野に応じた基礎的な専門知識を身につけさせるため、専門科目において基礎から応用までの知識を系統的に修得できるようにしている。
（思考・判断）
２．問題の本質をとらえる課題理解力、基礎的な課題に対して解決法を考える能力、及び問題解決のための具体的な計画立案・遂行能力を身につけさせるため、専門科目としてプログラミングに関する基礎的な演習科目や「数理計画法」などの講義科目を２、３年次に、「卒業研究」を４年時に配置している。
３．専門分野等の知識を活用してデータを分析することができ、論理的な評価や考察を行える能力と確かな専門性を身につけさせるため、専門科目として「ネットワーク実験」や「ＡＩデータサイエンス実践演習Ⅰ」などの演習・実験科目、「データ解析」や「データベース」などの講義科目を２～４年次で履修できるように配置している。
（技能・表現）
４．知能・メディア情報システムを構成するハードウェアやソフトウェアを開発するために必要な情報リテラシーを含む基礎的能力を幅広く身につけさせるため、演習科目を２年次～４年次前期に系統的に履修できるように配置している。また、知能情報工学・メディア情報工学・デザイン工学に関する確かな専門性・技能を学ぶための科目として、「ロボティクス」、「人工知能」、「コンピュータグラフィックス」、「メディアシステム」、「コンパイラ」、「情報デザインⅡ」などの講義科目を３年次で履修できるように配置している。
５．自らの思考・判断のプロセスや結果を論理的に表現する文章能力、協創的課題解決のために他人に説明するコミュニケーション能力と協働性を身につけさせるため、「ソフトパス理工学実践」や「システム創成プロジェクト」などの PBL 科目や「卒業研究」を配置している。
６．知能情報工学及びその関連分野に関する基礎的な英語能力を身につけさせるため、教養教育科目の外国語（英語、英語以外）や専門科目の「科学技術英語（入門)」、「科学技術英語（情報)」などを配置している。
（関心・意欲・態度）

７．自然科学、地域課題、及び知能情報工学等の動向や進展に関心を持ち、主体性をもって学ぶための基礎的な能力を身につけさせるため、教養教育科目の履修を必修としている。
８．社会における知能情報システムの役割を理解し、技術者として社会に貢献する基礎的な能力を身につけさせるため、理工学専門共通科目のソフトパス理工学序論を必修とし、専門科目として情報学特別講義などの講義科目を配置している。

【クリエイティブ情報コース】

クリエイティブ情報コースでは、豊かな生活環境を支えるための高度で多様な情報システムを構築できる人材の育成を目標としている。このため、コンピュータの基礎理論からメディア情報工学・知能情報工学・デザイン工学に至るまでの広範な教育課程を以下のように編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

（知識・理解）
１．幅広い教養とメディア情報工学・知能情報工学・デザイン工学に関する基礎的な専門知識を身につけさせるため、教養教育科目や数学・理科に関する専門基礎科目を１、２年次に多く配置し、２、３年次からは、情報学の基礎である離散数学やデータ構造に関する知識、及び情報学の各分野に応じた基礎的な専門知識を身につけさせるため、専門科目において基礎から応用までの知識を系統的に修得できるようにしている。
（思考・判断）
２．問題の本質をとらえる課題理解力、基礎的な課題に対して解決法を考える能力、及び問題解決のための具体的な計画立案・遂行能力を身につけさせるため、専門科目としてプログラミングに関する基礎的な演習科目や「コンピュータグラフィックス」などの講義科目を２、３年次に、「卒業研究」を４年次に配置している。
３．専門分野等の知識を活用してデータを分析することができ、論理的な評価や考察を行える能力と確かな専門性を身につけさせるため、専門科目として「ネットワーク実験」や「ＡＩ・データサイエンス実践演習Ⅰ」などの演習・実験科目、「データ解析」や「データベース」などの講義科目を２～４年次で履修できるように配置している。
（技能・表現）
４．情報を創造するためのソフトウェア、使いやすいユーザインタフェース、人にやさしいデジタルコンテンツなどを開発するために必要な情報リテラシーを含む基礎的能力を幅広く身につけさせるため、演習科目を２、３年次に系統的に履修できるように配置している。また、メディア情報工学・知能情報工学・デザイン工学に関する確かな専門性・技能を学ぶための科目として、「情報デザインⅡ」、「創造デザインⅡ」、「コンピュータグラフィックス」、「ヒューマンインタフェース」、「メディアシステム」、「ロボティクス」、「人工知能」などの講義科目を３年次で履修できるように配置している。
５．自らの思考・判断のプロセスや結果を論理的に表現する文章能力、協創的課題解決のために他人に説明するコミュニケーション能力と協働性を身につけさせるため、「ソフトパス理工学実践」や「システム創成プロジェクト」などの PBL 科目や「卒業研究」を配置している。
６．情報の創造及びその関連分野に関する基礎的な英語能力を身につけさせるため、教養教育科目の外国語（英語、英語以外）や専門科目の「科学技術英語（入門）」、「科学技術英語（情報）」などを配置している。
（関心・意欲・態度）
７．自然科学、地域課題、及び情報の創造等の動向や進展に関心を持ち、主体性をもって学ぶための基礎的な能力を身につけさせるために、教養教育科目の履修を必修としている。
８．社会における情報の創造の役割を理解し、技術者として社会に貢献する基礎的な能力を身につけさせるため、理工学専門共通科目の「ソフトパス理工学序論」を必修とし、専門科目として「情報学特別講義」などの講義科目を配置している。

【電気電子・情報通信コース】

電気電子・情報通信コースでは、地球環境や人の暮らしなど持続可能な社会に高い関心を持ちながら、効率化とクリーンエネルギー化が進む電気エネルギー技術、材料や微細化により高度化が進む電子デバイス技術、社会の隅々まで張り巡らされる情報通信技術の基礎を修得し、これらの技術の発展に貢献できる人材を育成する教育研究を行う。電気電子・情報通信コースでは、コースの学位授与の方針を実現するために、以下の通り、カリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

（知識・理解）

１．科学技術が人間社会や自然環境に及ぼす影響を多面的に考えることができる素養を育み、豊かな人格形成に資するために教養教育科目の履修を義務付けている。さまざまな専門分野の根底を形成している普遍的な数理や、自然科学の基礎的知識を修得させるために、低年次に数学、物理学、化学に関する専門基礎科目を配置している。

専門的となるコース科目では、電気回路、電磁気学、電子回路、計測・制御に関する科目群を基幹の必修科目としており、電気電子・情報通信の分野を学ぶための基礎を築くことができるようにしている。また、数学と電気工学の橋渡しとして電気数学を設け、学び始めでつまずかないように配慮した構成としている。

３年次からは情報通信分野、電子デバイス分野、電気エネルギー分野の３分野において、より深く専門化した科目を用意し、難易度や前提となる予備知識に応じて、系統的に学ぶことができるように科目を配置している。

（思考・判断）

２．講義で学んだ専門知識をベースとして、実社会と結びつけて課題を発見することができ、柔軟な思考により問題解決への道を探り創造的に応用することができる人材を育成するために、低年次には「ソフトパス理工学実践」、高年次には「電気電子・情報通信工学専門研修」、「電気電子・情報通信工学先端課題実習」、「卒業研究」を配置している。これらの科目ではＰＢＬの手法が取り入れられている。

（技能・表現）

３．デジタル社会の基礎的な素養としての情報リテラシーの習得や数理・データサイエンス・AIを電気電子・情報通信分野に応用することができるようにするため、「情報基礎Ａ・Ｂ」、「数理・データサイエンス基礎および演習」、「AI　基礎および演習」を１年次に配置している。

４．電気電子・情報通信に関する機器の動作原理や操作方法を理解し、活用することができるようにするため、「電気電子・情報通信工学基礎実験」、「電気電子・情報通信工学応用実験」、「プログラム言語及び演習」、「組込ソフトウェア実習」、「組込ハードウェア実習」、「電気設計製図」の実習科目を２－４年次に配置している。これらの実験・実習により、ハードウェアからソフトウェア・情報通信技術まで幅広く体験的な学修をすることができるようにしている。

５．４年次の「卒業研究」では自ら調べさせ、能動的に調査・実験・研究を行わせる。成果や結果を発表することや、レポートや論文にまとめる作業により、第三者に論理的に説明する表現能力を醸成させる。また、グローバル社会で活躍するための英語能力を身につけさせるために、「科学技術英語（入門）」、「科学英語技術（電気電子・情報通信）」、「国際研修」を配置している。

（関心・意欲・態度）

６．科学技術の進展に高い関心を持ち、継続的・主体的に学修することができるように、コース内の教員の研究を紹介する「電気電子・情報通信工学特別講義」や、会社経営者や外部研究者を招聘する「電気電子・情報通信工学専門研修」を開講している。さらに、インターンシップ等を行う「社会体験学習」も設置している。

７．社会における役割を理解し、環境や安全に対する倫理観を身につけさせるために、学部内共通科目として、１年次に実施する「ソフトパス理工学序論」で基礎的な教育を行い、高年

次には「技術者倫理」を配置している。また、企業や自治体における電気電子・情報通信工学の関わりあいを学ぶために「社会体験学習」や「工業経営管理論」等の科目も配置している。

【機械知能航空コース】

機械知能航空コースでは、多様な地域産業を支え、機械の知能化や航空機開発などのより高い専門性が要求される産業分野で活躍できる人材の育成を目標としている。このため、機械工学の基礎からロボット工学や航空宇宙工学などの先端的な領域まで、幅広い教育課程を編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

（知識・理解）

１．豊かな教養と理工学に関する幅広い基礎知識を身につけさせるため、文化、社会、自然、環境等に関する教養教育科目、数学や物理などの理工学に関する基盤的な基礎科目を１、２年次に配置している。

機械システム分野、知能ロボティクス分野、航空宇宙分野などの機械工学に関する基礎的な知識を身につけさせるため、各分野に関するコース内専門科目を配置し、基礎から応用までの知識を系統的に修得できるようにしている。

（思考・判断）

２．豊かな教養と専門分野等の知識に基づいて論理的に思考し、問題解決のための方策を提案できる能力を身につけさせるため、１年次に PBL 科目の「ソフトパス理工学実践」を配置し、高年次では「機械リサーチ研修」や「卒業研究」などの科目を配置している。

（技能・表現）

３．機械工学分野の機器及び情報関連機器を活用し、機械の知能化等によって所望の機能を実現するための基礎的な能力を身につけさせるため、１年次に教養科目における情報科目、２、３年次に製図・CAD、プログラミングに関する科目を配置している。

４．日本語と英語による論理的な表現力とコミュニケーション能力を身につけさせるため、１年次と４年次に機械工学分野の英語基礎から学術論文の読解まで幅広く取り組ませる科学技術英語を配置している。また、論理的な表現力とコミュニケーション能力を身につけるため、「機械リサーチ研修」と「卒業研究」を配置している。

（関心・意欲・態度）

５．機械工学分野の進展に関心を持たせるため、１年次に「機械知能航空入門」を配置して機械工学分野の概要を把握させる。専門的知識を活用しながら主体的に学習する能力を身につけさせるため、高年次では機械技術者のキャリアデザインや社会体験に関する科目を配置し、卒業研究では専門知識を活用しながら主体的に取り組む能力を身につけさせる。

６．機械工学に関する知識や技能を生かして、持続可能な社会に貢献する意欲と態度を身につけさせるため、１、２年次に文化、社会、自然、環境等の教養教育科目を配置し、３年次には「技術者倫理」や「社会体験学習」を配置している。

【社会基盤・環境工学コース】

社会基盤・環境コースでは「安全・安心な社会の構築」と「人と環境に優しい持続可能な社会の創出」を教育理念に、社会基盤・環境工学に関する広範な専門基礎学力を有し、建設工学、環境工学、防災工学の基礎と幅広い教養を身につけ、問題発見・解決能力を持ち、次世代の科学技術の創生と発展を担うことができる人材およびそれらの専門性を高めながら、社会基盤・環境工学分野を支え、地域復興のために貢献できる人材、より高い専門性が求められる同分野で活躍できる人材を育成することを目指している。

このような観点から、社会基盤・環境工学コースでは、コースの学位授与の方針を実現するために、以下の通りカリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイ

ドライン」に基づくものとする。
（知識・理解）
1．数学・自然科学および情報技術に関する知識を修得させ、多面的な視点から考えることのできる能力を修得させることができるように「基礎数学」、「微分積分学Ⅰ」などの専門基礎科目を必修としている。
2．社会基盤・環境工学の建設工学、環境工学、防災工学の各専門技術に関する知識、ならびにその知識を応用する能力を修得させることができるように専門科目を配置している。
（思考・判断）
3．問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考え、問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を修得させることができるように「ソフトパス理工学実践」、「測量学実習Ⅰ、Ⅱ」、「卒業研究」等を必修としている。
4．自ら課題を発見・解決しようとする問題意識をもち、自主的・持続的に学修を行う能力を修得させることができるように PBL 科目である「ソフトパス理工学実践」、実習系科目である「測量学実習Ⅰ、Ⅱ」、「卒業研究」等を必修としている。
（技能・表現）
5．充分な語学力を身に付け、自国の文化・社会を学ぶとともに世界の多様な価値観を理解し、国際的に通用するコミュニケーション能力を修得させることができるように豊かな教養を育む教養科目、および語学科目、専門教育科目の演習系科目の「科学技術英語（入門）」、「科学技術英語（社会基盤・環境）」を必修としている。
6．種々の工学的な課題に対して、論理的・客観的な意見が述べられるような文章作成能力とプレゼンテーション能力を修得させることができるように PBL 科目である「ソフトパス理工学実践」、演習系科目である、「卒業研究」等を必修としている。
7．他者と協力してチームで仕事をする能力を修得させることができるように PBL 科目である「ソフトパス理工学実践」、「測量学実習Ⅰ」を必修としている。
（関心・意欲・態度）
8．地球環境・地域環境について深く理解し、環境と調和した持続可能な循環型社会の構築のための技術を多面的に考える能力と素養を修得させることができるように教養科目の環境科目、および「環境工学」等の専門教育科目の体系的な履修を徹底させる。
9．科学技術が社会や自然におよぼす影響や効果を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識できるように「技術者倫理」を必修としている。

＜特別プログラム＞

特別プログラムとは，専門コースの通常の教育プログラムに加えて履修する特別な教育プログラムで，入学試験において当該プログラムの履修を前提に選抜された学生および入学後に選抜された履修生に対して実施し，所定の基準を満たした者に認証を与えるプログラムである。
「データサイエンス応用副プログラム」,「地域協創ものづくりプログラム」,「地域防災・まちづくりプログラム」,「半導体人材育成プログラム」の４つがある。

データサイエンス応用副プログラム

＊　教育目的

データサイエンス応用副プログラムは，所属するコースの教育課程を通じてコースとしての教養及び専門性を修得するとともに，データサイエンスの知識を併せ持ち，専門的な技術課題の解決にデータサイエンスの知識を活かすことができる人材の育成を目的とする。

＊　修得すべき能力

データサイエンス応用副プログラムでは，その教育プログラムを通して，学生が以下の能力を修得することを目指す。

（1）データサイエンスに関する基礎的な知識と実践技術を身につけ，データサイエンスを活用して基礎的な課題を解決できる能力
（2）自らの専門性を理解し，専門分野における課題解決にデータサイエンスを応用できる能力

地域協創ものづくりプログラム

＊　教育目的

地域協創ものづくりプログラムは，所属するコースの教育課程を通じてコースとしての教養及び専門性を修得するとともに，ものづくりを通して地域課題を解決するための幅広い実践技術を身につけ，地域産業の発展に貢献できる人材の育成を目的とする。

＊　修得すべき能力

地域協創ものづくりプログラムでは，その教育プログラムを通して，学生が以下の能力を修得することを目指す。

（1）ものづくりを通して地域課題を解決するための幅広い実践技術を身につけ，独自技術を開発して地域産業の発展に貢献できる能力
（2）地域課題を理解し，多様な人々との協創によって課題解決のために自律的に判断・行動できる能力

地域防災・まちづくりプログラム

＊　教育目的

建設工学・環境工学・防災工学の幅広い教養と地域防災やまちづくりの専門分野の知識を身につけるとともに，主体性や協働性を発揮して地域防災を考慮したまちづくりに取り組むことのできるリーダーシップを持ち，「安心・安全な社会の構築」「持続可能社会の創出」に関する課題発見および解決に資する科学技術の創生と発展に貢献できる人材の育成を目的とする。

＊　修得すべき能力

地域防災･まちづくりプログラムでは,その教育プログラムを通して,学生が以下の能力を修得することを目指す。

（1）社会基盤・環境工学技術に基礎を置くとともに地域防災やまちづくりに対する高い専門性を持ち，今後も想定される災害への備えや地域における防災・まちづくりに取り組むことができるリーダーシップ能力
（2）より柔軟な手法の構築により「安心・安全な社会の構築」「持続可能社会の創出」に対する現実的な課題の解決を図る総合的なマネジメント能力

半導体人材育成プログラム

＊　教育目的

岩手大学理工学部は，半導体産業の集積化が進む拠点地域の教育・研究機関として半導体人材育成プログラムを設置している。半導体人材育成プログラムは，所属するコースの教育課程を通じてコースとしての教養及び専門性を修得するとともに，半導体の基礎知識を併せ持つことで，半導体産業と自分の専門性の関連性を理解し，半導体産業の発展に貢献できる人材の育成を目的とする。

＊　修得すべき能力

半導体人材育成プログラムでは，その教育プログラムを通して，学生が以下の能力を修得することを目指す。
（1）所属コースにおける専門性と半導体産業の関連性を理解できる能力
（2）所属コースにおける専門性を活かし，半導体産業の発展に貢献できる能力

１．岩手大学理工学部教育課程規則

（趣旨）

第１条　岩手大学理工学部（以下「本学部」という。）の教育課程に関する事項は、国立大学法人岩手大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則による。

２　学則及びこの規則に特別の定めのある場合を除き、教育課程に関する事項は、理工学部教授会（以下「教授会」という。）が別に定める。

（目的）

第２条　本学部は、確かな専門性に加えて豊かな教養と情報リテラシーを有し、自らの専門分野の課題に対し、主体性と協働性をもって取り組むことができると共に、国際社会や地域社会が直面している課題を正しく理解し、持続可能な社会の構築のために、「ソフトパス理工学」の理念を実践できる人材の養成を目的とする。

（コース、初年次教育クラス）

第３条　本学部理工学科に次のコースを置き、２年次以上の学生は、いずれかのコースに所属するものとする。

一　化学コース
二　数理・物理コース
三　材料科学コース
四　知能情報コース
五　クリエイティブ情報コース
六　電気電子・情報通信コース
七　機械知能航空コース
八　社会基盤・環境工学コース

２　本学部理工学科に次の初年次教育クラスを置き、１年次の学生はいずれかのクラスに所属するものとする。

一　化学クラス
二　数理・物理クラス
三　材料科学クラス
四　情報系クラス
五　電気電子・情報通信クラス
六　機械知能航空クラス
七　社会基盤・環境工学クラス
八　データサイエンス応用オープンクラス

第４条　本学部に次のプログラムを置く。

一　データサイエンス応用副プログラム
二　地域協創ものづくりプログラム
三　地域防災・まちづくりプログラム

四　半導体人材育成プログラム

２　前項各号に定める各プログラムの履修に関し必要な事項は、別に定める。

（専門教育の科目）

第５条　専門教育においては、別表１に掲げる単位数以上を修得しなければならない。

２　科目は、必修科目及び選択科目からなり、講義、演習、実験、実習、製図、卒業研究等による。

３　科目の種類及び単位数は、別表２による。

４　科目の必修と選択の別は、別に定める。

（履修の方法）

第６条　履修の順序及びその他細部については、各コースにおいて定める。

（他コース、他学部、いわて５大学等の科目の履修）

第７条　学生は、他コース、他学部、いわて５大学の授業科目、国際教育科目及び海外協定大学の科目を履修することができる。ただし、設備及び収容人員等の関係で制限されることがある。

２　前項の規定により取得した単位は、１０単位の範囲内で別表１の選択科目の単位として認めることができる。

（科目等の公示）

第８条　各学期に開講する科目、授業時間及び担当教員は、学期の初めに公示する。

（履修科目の届出）

第９条　学生は、各学期の所定の期日までに履修しようとする科目を学部長及び担当教員に届け出なければならない。

２　前項の届出の後、特別の場合を除き科目を変えることはできない。

３　学生は、所定の手続を経て、他コース、他学部又はいわて５大学の科目履修を願い出ることができる。

４　他コース、他学部又はいわて５大学の学生が本学部の科目の履修を願い出たときは、許可することがある。

（いわて５大学以外の他の大学又は短期大学の科目の履修等）

第１０条　本学部が教育上有益と認めるときは、いわて５大学以外の他の大学又は短期大学との協議に基づき、学生に当該大学又は短期大学の科目を履修させることができる。

２　学生は、他の大学又は短期大学の科目を履修しようとするときは、学部長の許可を得なければならない。

３　第１項の規定及びいわて５大学で修得した単位は、６０単位を超えない範囲で、本学部において修得したものとみなすことができる。

４　前各項に関して必要な事項は、別に定める。

（留学）

第１１条　本学部が教育上有益と認めるときは、外国の大学又は短期大学に留学することを許可することができる。
２　学生は、外国の大学又は短期大学に留学しようとするときは、学部長を経て、学長の許可を得なければならない。
３　外国の大学又は短期大学における履修等については第９条を準用する。

（試験）
第１２条　試験は、各学期末に行う。ただし、科目によっては、その他適当な時期に行うことができる。

（転コース）
第１３条　転コースを志願する者があるときは、選考の上許可することがある。
２　前項に関し必要な事項は、別に定める。

（修了認定）
第１４条　第４条第１項各号に定めるプログラムに在籍している者が所定の科目を履修し必要単位を修得した場合は、当該プログラムの修了を認める。
２　前項の修了の認定は、理工学部長が行う。

附　則（省略）
別表１（第５条第１項関係）
修得すべき単位数（省略）
別表２（第５条第３項関係）
科目の種類及び単位数（省略）

２．理工学部専門教育課程

理工学部専門教育課程の履修は，次ページ以降に示す各コース課程表の順序によらなければならず，下記の表に掲げる基準の単位数以上を４ヶ年で有効適切に修得しなければならない。

なお，各表は，初年次クラス→２年次以降配属コースが同系である場合を基本としている。

２年次進級の際，**初年次クラスとは他系のコースに配属になった学生は，配属になったコースが定める要件（履修すべき科目，単位数等）を全て満たすことで卒業**となるので，留意すること。

３年次課程では専門の必修科目が大半を占めており，各コース専門教育課程表以外の単位修得は困難であるから，３年次課程に入る時には２年次課程までの科目を修得していることが必要である。

４年次課程又は卒業研究に入るためには，コースごとに別に定める基準による。

コース専門教育課程表によることができない場合は，担任又は教務担当教員に相談の上，その指導を受けなければならない。

（１） 卒業要件単位数

学　科	理　工　学　科

初 年 次	化学クラス 数理・物理クラス 材料科学クラス 情報系クラス 電気電子・情報通信クラス 機械知能航空クラス 社会基盤・環境工学クラス データサイエンス応用オープンクラス

コース		化学コース	数理・物理コース	材料科学コース	知能情報コース	クリエイティブ情報コース	電気電子・情報通信コース	機械知能航空コース	社会基盤・環境工学コース
専門科目	必　修	65	62	68	63	63	70	70	72
	選　択	34	37	31	36	36	29	29	27
	計	99	99	99	99	99	99	99	99
教養教育科目		28	28	28	28	28	28	28	28
卒業要件単位数		127	127	127	127	127	127	127	127

（２）各コース課程表（Ⅴ-20～Ⅴ-44ページ）

理工学科

化学クラス→**「化学コース」**

区分等		科目名	単位数		履修年次								備考
					1年次（初年次）		2年次		3年次		4年次		
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
コース専門入門科目		理工学入門	1		○								〔注３〕
		化学入門	2※	1		○							※選択必修2科目（2単位）
		数理・物理入門		1		○							
		材料科学入門		1		○							
		情報学入門		1		○							
		電気電子・情報通信入門		1		○							
		機械知能航空入門		1		○							
		社会基盤・環境工学入門		1		○							
専門基礎科目	数学系	基礎数学	1		○								代
		微分積分学Ⅰ	2		○								解
		微分積分学Ⅱ	2			○							解
		線形代数学A	2			○							代
		確率統計学		2		○							確
	物理系	物理学A	2		○								物
		物理学B		2		○							物
	化学系	化学A	2		○								化
		化学B		2		○							化
	生物系	生物学		2			○						生
理工学専門共通科目		ソフトパス理工学序論	1		○								
		ソフトパス理工学実践	1			○							
		科学技術英語（入門）	1			○							
		半導体入門		1	○								＊半導体人材
		半導体デバイスと製造プロセス		1			○						＊半導体人材
		数理・データサイエンス基礎および演習	2		○								＊ＤＳ副プロ
		ＡＩ基礎および演習	2			○							＊ＤＳ副プロ
		原子力工学		2					←	○	→		
		技術者倫理	2						← ○（前期） →				
		工業経営管理論		2					←	○	→		
		知的財産権概論		2					← ○（前期） →				
		特許法特講		2					← ○（前期） →				
		社会体験学習		1～2					←★→				
		国際研修		1～2			←		★		→		
		化学C		2		○							
		情報学基礎		2		○							
		電気数学		2		○							代
		機械工作実習		1	○								
コース専門横断科目		人工知能		2					○				コ ＊ＤＳ副プロ
		データベース		2			○						情シ ＊ＤＳ副プロ
		セキュリティとプライバシー		2				○					情社 ＊ＤＳ副プロ
化学コース科目		有機化学Ⅰ	2				○						化 ＊半導体人材
		有機化学Ⅱ	2					○					化 ＊半導体人材
		有機化学演習Ⅰ	1				○						化
		有機化学演習Ⅱ	1					○					化
		有機化学演習Ⅲ	1						○				化
		無機化学Ⅰ	2				○						化 ＊半導体人材
		無機化学Ⅱ	2					○					化 ＊半導体人材
		無機化学演習Ⅰ	1				○						化
		無機化学演習Ⅱ	1					○					化
		無機化学演習Ⅲ	1						○				化
		物理化学Ⅰ	2				○						化 ＊半導体人材
		物理化学Ⅱ	2					○					化 ＊半導体人材
		物理化学演習Ⅰ	1				○						化
		物理化学演習Ⅱ	1					○					化
		物理化学演習Ⅲ	1						○				化
		生物化学Ⅰ		2			○						生
		生物化学Ⅱ		2				○					生
		プログラミング言語入門	2				○						
		高分子化学		2						○			化 ＊半導体人材
		無機分析化学		2				○					化

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考
				1年次（初年次）		2年次		3年次		4年次		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
化学コース科目	生物有機化学		2					○				生
	医薬品化学		2						○			化
	無機材料化学		2						○			化 ＊半導体人材
	化学工学Ⅰ	2					○					化 ＊半導体人材
	化学工学Ⅱ		2					○				化 ＊半導体人材
	次世代電池工学		2						○			化 ＊半導体人材
	触媒化学		2					○				化
	ケミカルバイオロジー		2						○			生
	有機分析化学		2				○					化
	表面化学		2						○			化 ＊半導体人材
	応用電気化学		2					○				化 ＊半導体人材
	結晶工学		2						○			化 ＊半導体人材
	エネルギー環境科学		2					○				化
	半導体分子化学		2						○			化 ＊半導体人材
	科学技術英語（化学）	1						○				
	化学概論		2						○			化
	化学研修	1						○				化
	化学理工学情報Ⅰ	1								○		化
	化学理工学情報Ⅱ	1									○	化
	化学理工学実験Ⅰ	3						○				化実
	化学理工学実験Ⅱ	3							○			化実
	化学理工学研修	1								○		化
	卒業研究	6								○		〔注１〕
高大連携科目	理工学入門数学Ⅰ		＊2	○								〔注２〕
	理工学入門数学Ⅱ		＊2	○								〔注２〕
	理工学入門物理Ⅰ		＊2	○								〔注２〕
	理工学入門物理Ⅱ		＊2	○								〔注２〕
	理工学入門化学		＊2	○								〔注２〕
卒業要件単位数		65	34									
合計必要単位数		99										

注意事項

〔注１〕　卒業研究に入るために取得していなければならない単位数は別の基準によります。詳細は担任教員に確認してください。

〔注２〕　[高大連携科目]理工学入門科目の単位（*）は専門科目（選択）の単位として認定されますが，卒業要件単位数ならびに卒業研究配属要件単位数には含まれません。

〔注３〕　[コース専門入門科目]は，理工学入門を必修とします。
また，化学，数理・物理，材料科学，情報学，電気電子・情報通信，機械知能航空，社会基盤・環境工学の計７科目から，２科目２単位を選択必修とします。この科目数（単位数）を超えて修得しても，卒業要件内の選択単位には含まれませんので，注意してください。

補足事項

〔１〕　このコース課程は，実施面で多少変更することがあります。

〔２〕　履修年次欄の○印は通常時間割科目、★印は集中講義での実施を示します。（○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。）

〔３〕　この表に記載されていない科目についても，教職科目以外の他コース，他学部，いわて高等教育コンソーシアムの授業科目，国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は，１０単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし，その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって，履修申告前に教務委員に相談し所定の手続をとることを条件とします。

〔４〕　工場見学を３年次の適当な時期に実施します。

〔５〕　卒業生が受けられる国家試験・資格試験等には，次のようなものがあります。

(1)技術士　（一次試験合格後，実務経験４年で受験資格）
(2)火薬類取扱保安責任者　（「一般教養科目」と「機械工学・電気工学大要」の試験免除）
(3)危険物取扱者甲種　（甲種受験資格）
(4)毒物劇物取扱責任者　（卒業証明書を添えて届出）
(5)作業環境測定士１種・２種　（卒業後労働衛生の実務経験１年以上で受験資格）
(6)公害防止管理者　（資格認定講習受講により取得する場合は，本学科を卒業後実務経験が必要。国家試験による場合は受験資格不問）
(7)廃棄物処理施設技術管理者　（実務経験２年以上で有資格者）
(8)ボイラー・タービン主任技術者　（第１種は１０年以上，第２種は５年以上の実務経験を積んだうえで申請・交付）
(9)冷凍空調技士第一種　（卒業後２年以上の実務経験で受験資格）

なお，詳細は，各資格試験実施機関のHPなどを参照してください。

〔６〕　教員免許の取得については“Ⅷ 教育職員免許状・各種資格の取得方法”を参照してください。なお，教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。

〔７〕　備考欄の＊印付きは，各特別プログラム関係科目を示しています。

化学コース　カリキュラムマップ

区分	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
教養教育科目	外国語科目							
	健康・スポーツ科目							
	情報科目							
	人文社会科学・教育学領域科目							
	理学・工学領域科目							
	農学領域科目							
	環境科目							
	地域関連科目（地域科目）							
			地域関連科目（地域課題演習科目）					
コース専門入門科目	理工学入門	化学入門						
		数理・物理入門						
		材料科学入門						
		電気電子・情報通信入門						
		情報学入門						
		機械知能航空入門						
		社会基盤・環境工学入門						
専門基礎科目	基礎数学	線形代数学A						
	微分積分学Ⅰ	微分積分学Ⅱ						
		確率統計学						
	物理学A	物理学B						
	化学A	化学B						
			生物学					
学部内共通科目	ソフトパス理工学序論	ソフトパス理工学実践						
		科学技術英語（入門）						
	半導体入門		半導体デバイスと製造プロセス					
	数理・データサイエンス基礎及び演習	AI基礎及び演習						
		化学C						
			国際研修					
					社会体験学習			
							技術者倫理	
							知的財産権概論	
							特許法特講	
							原子力工学	
							工業経営管理論	
コース専門横断科目			有機化学Ⅰ	有機化学Ⅱ				
			無機化学Ⅰ	無機化学Ⅱ				
			物理化学Ⅰ	物理化学Ⅱ				
				化学工学Ⅰ				
			データベース	セキュリティとプライバシー	人工知能			
化学コース科目			有機化学演習Ⅰ	有機化学演習Ⅱ	有機化学演習Ⅲ	医薬品化学		
				有機分析化学	生物有機化学			
			無機化学演習Ⅰ	無機化学演習Ⅱ	無機化学演習Ⅲ	表面化学		
				無機分析化学	触媒化学	無機材料化学		
			物理化学演習Ⅰ	物理化学演習Ⅱ	物理化学演習Ⅲ			
					応用電気化学	次世代電池工学		
			生物化学Ⅰ	生物化学Ⅱ		ケミカルバイオロジー		
			プログラミング言語入門		化学工学Ⅱ	結晶工学		
						高分子化学		
					エネルギー環境科学	半導体分子化学		
					化学理工学実験Ⅰ	化学理工学実験Ⅱ	化学理工学情報Ⅰ	化学理工学情報Ⅱ
					化学研修	化学概論	化学理工学研修	
					科学技術英語（化学）		卒業研究	

塗りつぶし（太枠）がある科目は必修科目
塗りつぶしがない（細枠）科目は選択科目

理工学科

数理・物理クラス―**「数理・物理コース」**

区分等		科目名	単位数		履修年次								備考
					1年次（初年次）		2年次		3年次		4年次		
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
コース専門入門科目		理工学入門	1		○								〔注４〕
		化学入門	2※	1		○							※選択必修2科目（2単位）
		数理・物理入門		1		○							
		材料科学入門		1		○							
		情報学入門		1		○							
		電気電子・情報通信入門		1		○							
		機械知能航空入門		1		○							
		社会基盤・環境工学入門		1		○							
専門基礎科目	数学系	基礎数学	1		○								代
		微分積分学Ⅰ	2		○								解
		微分積分学Ⅱ	2			○							解
		線形代数学A	2			○							代
		線形代数学B		2			○						代
		微分方程式	2				○						解
		ベクトル解析	2				○						幾
		複素解析		2				○					解
		確率統計学		2		○							確
		フーリエ解析	2				○						解
	物理系	物理学A	2		○								物
		物理学実験	1				○						物実
	化学系	化学A	2		○								化
		化学B	2			○							化
		化学実験	1					○					化実
	生物系	生物学		2	○								生〔注１〕
	地学系	地学		2				○					地〔注１〕
理工学専門共通科目		ソフトパス理工学序論	1		○								
		ソフトパス理工学実践	1			○							
		科学技術英語（入門）	1			○							
		半導体入門		1	○								＊半導体人材
		半導体デバイスと製造プロセス		1			○						＊半導体人材
		数理・データサイエンス基礎および演習	2		○								＊ＤＳ副プロ
		ＡＩ基礎および演習	2			○							＊ＤＳ副プロ
		原子力工学		2					←	○	→		
		技術者倫理		2					← ○（前期） →				
		工業経営管理論		2					←	○	→		
		知的財産権概論		2					← ○（前期） →				
		特許法特講		2					← ○（前期） →				
		社会体験学習		1～2					←★→				
		国際研修		1～2			←		★		→		
		化学C		2		○							
		情報学基礎		2		○							
		電気数学		2		○							代
		機械工作実習		1	○								
コース専門横断科目		人工知能		2					○				コ　＊ＤＳ副プロ
		データベース		2			○						情シ　＊ＤＳ副プロ
		セキュリティとプライバシー		2				○					情社　＊ＤＳ副プロ
		科学技術英語（物理・材料）	1						○				
		数値計算法	2						○				コ
		プログラミング学	2							○			コ
		物理・材料理工学実験Ⅰ	2						○				化実
		物理・材料理工学実験Ⅱ	2							○			物実
		専門英語セミナー	1								○		
		特別研修	1									○	
		特別講義Ⅰ		2					○				
		特別講義Ⅱ		2						○			
		工場見学		1					← ○ →				
		熱力学	2				○						物
		材料組織学Ⅰ	2				○						工
		電気回路学		2			○						工

区　分　等	科目名	単位数		履修年次								備　考
				1年次（初年次）		2年次		3年次		4年次		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
コース専門横断科目	電磁気学Ⅰ	2				○						物
	電磁気学Ⅱ		2				○					物
	量子物理学Ⅰ	2					○					物
	統計物理学	2					○					物
	光学		2					○				物　＊半導体人材
	固体物理学	2						○				物
	電子物性学		2						○			物　＊半導体人材
	材料計測学		2					○				工
	誘電体材料学		2						○			工
	半導体理工学		2					○				工　＊半導体人材
	磁性理工学		2					○				物
	超伝導理工学		2						○			物
	ナノ理工学		2						○			物
数理･物理コース科目	物理数学演習Ⅰ	1						○				幾
	物理数学演習Ⅱ	1							○			解
	量子物理学Ⅱ		2					○				物
	粒子線計測学		2						○			物
	現代物理学Ⅰ		2				○					物
	現代物理学Ⅱ		2					○				物
	応用確率統計学		2				○					確
	応用微分方程式		2				○					解
	応用解析学		2						○			解
	幾何学Ⅰ		2			○						幾
	幾何学Ⅱ		2				○					幾
	振動論		2				○					物
	卒業研究	6								○		〔注２〕
高大連携科目	理工学入門数学Ⅰ		＊2	○								〔注３〕
	理工学入門数学Ⅱ		＊2	○								〔注３〕
	理工学入門物理Ⅰ		＊2	○								〔注３〕
	理工学入門物理Ⅱ		＊2	○								〔注３〕
	理工学入門化学		＊2	○								〔注３〕
卒業要件単位数		62	37									
合計必要単位数		99										

注意事項

〔注１〕　教員免許（理科）取得希望者は必ず受講してください。

〔注２〕　卒業研究に入るために取得していなければならない単位数は別の基準によります。詳細は担任教員に確認してください。

〔注３〕　[高大連携科目]理工学入門科目の単位（*）は専門科目（選択）の単位として認定されますが，卒業要件単位数には含まれません。

〔注４〕　[コース専門入門科目]は，理工学入門を必修とします。
また，化学，数理・物理，材料科学，情報学，電気電子・情報通信，機械知能航空，社会基盤・環境工学の計７科目から，２科目２単位を選択必修とします。この科目数（単位数）を超えて修得しても，卒業要件内の選択単位には含まれませんので，注意してください。

補足事項

〔１〕　このコース課程は，実施面で多少変更することがあります。

〔２〕　履修年次欄の○印は通常時間割科目、★印は集中講義での実施を示します。（○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。）

〔３〕　この表に記載されていない科目についても，教職科目以外の他コース，他学部，いわて高等教育コンソーシアムの授業科目，国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は，１０単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし，その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって，履修申告前に教務委員に相談し所定の手続をとることを条件とします。

〔４〕　卒業生が受けられる国家試験・資格試験には，次のようなものがあります。

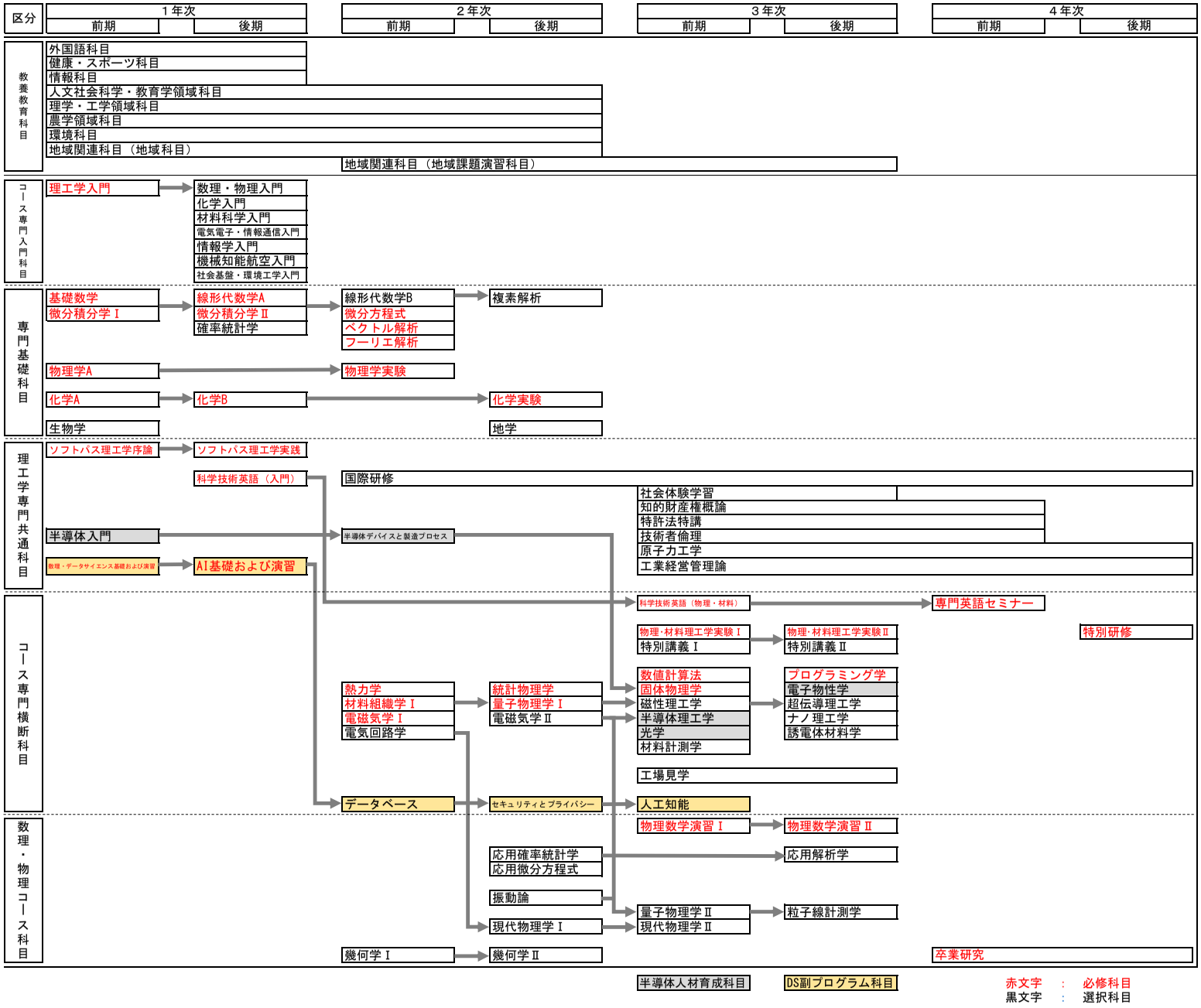
危険物取扱者（甲種受験資格）

なお，受験資格を得るには，関連科目の単位を一定基準以上取得する必要があります。詳細は担任に確認してください。

〔５〕　教員免許の取得については“Ⅷ 教育職員免許状・各種資格の取得方法”を参照してください。なお，教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。

〔６〕　備考欄の＊印は，各特別プログラム関係科目を示しています。

数理・物理コース　カリキュラムマップ



理工学科

材料科学クラス→**「材料科学コース」**

区分等		科目名	単位数		履修年次								備考
					1年次（初年次）		2年次		3年次		4年次		
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
コース専門入門科目		理工学入門	1		○								〔注４〕
		化学入門	2※	1		○							※選択必修2科目（2単位）
		数理・物理入門		1		○							
		材料科学入門		1		○							
		情報学入門		1		○							
		電気電子・情報通信入門		1		○							
		機械知能航空入門		1		○							
		社会基盤・環境工学入門		1		○							
専門基礎科目	数学系	基礎数学	1		○								代
		微分積分学Ⅰ	2		○								解
		微分積分学Ⅱ	2			○							解
		線形代数学A	2			○							代
		線形代数学B		2			○						代
		微分方程式	2				○						解
		ベクトル解析	2				○						幾
		複素解析		2				○					解
		確率統計学		2		○							確
		フーリエ解析	2				○						解
	物理系	物理学A	2		○								物
		物理学実験	1				○						物実
	化学系	化学A	2		○								化
		化学B	2			○							化
		化学実験	1					○					化実
	生物系	生物学		2	○								生〔注１〕
	地学系	地学		2				○					地〔注１〕
理工学専門共通科目		ソフトパス理工学序論	1		○								
		ソフトパス理工学実践	1			○							
		科学技術英語（入門）	1			○							
		半導体入門		1	○								＊半導体人材
		半導体デバイスと製造プロセス		1			○						＊半導体人材
		数理・データサイエンス基礎および演習	2		○								＊ＤＳ副プロ
		ＡＩ基礎および演習	2			○							＊ＤＳ副プロ
		原子力工学		2					←	○	→		
		技術者倫理		2					← ○（前期） →				
		工業経営管理論		2					←	○	→		
		知的財産権概論		2					← ○（前期） →				
		特許法特講		2					← ○（前期） →				
		社会体験学習		1～2					←★→				
		国際研修		1～2			←		★		→		
		化学C		2		○							
		情報学基礎		2		○							
		電気数学		2		○							代
		機械工作実習		1	○								
コース専門横断科目		人工知能		2					○				コ　＊ＤＳ副プロ
		データベース		2			○						情シ　＊ＤＳ副プロ
		セキュリティとプライバシー		2				○					情社　＊ＤＳ副プロ
		科学技術英語（物理・材料）	1						○				
		数値計算法	2						○				コ
		プログラミング学	2							○			コ
		物理・材料理工学実験Ⅰ	2						○				化実
		物理・材料理工学実験Ⅱ	2							○			物実
		専門英語セミナー	1								○		
		特別研修	1									○	
		特別講義Ⅰ		2					○				
		特別講義Ⅱ		2						○			
		工場見学		1					← ○ →				
		熱力学	2				○						物
		材料組織学Ⅰ	2				○						工
		電気回路学		2			○						工

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考
				1年次（初年次）		2年次		3年次		4年次		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
コース専門横断科目	電磁気学Ⅰ	2				○						物
	電磁気学Ⅱ		2				○					物
	量子物理学Ⅰ	2					○					物
	統計物理学	2					○					物
	光学		2					○				物 ＊半導体人材
	固体物理学	2						○				物
	電子物性学		2						○			物 ＊半導体人材
	材料計測学		2					○				工
	誘電体材料学		2						○			工
	半導体理工学		2					○				工 ＊半導体人材
	磁性理工学		2					○				物
	超伝導理工学		2						○			物
	ナノ理工学		2						○			物
材料科学コース科目	材料力学		2				○					工
	材料物理化学Ⅰ	2					○					化
	材料物理化学Ⅱ		2					○				工
	材料組織学Ⅱ		2				○					工
	金属構造材料学	2						○				工
	材料強度学	2						○				工
	材料電気化学	2						○				化
	半導体デバイス工学		2						○			工 ＊半導体人材
	エコ材料学		2						○			工
	接合工学		2					○				工
	反応工学		2					○				工
	製錬工学		2						○			工
	鋳造材料学		2						○			工
	複合材料学		2						○			工
	生体材料学		2						○			工
	非鉄金属材料学		2					○				工
	卒業研究	6								○		〔注２〕
高大連携科目	理工学入門数学Ⅰ		＊2	○								〔注３〕
	理工学入門数学Ⅱ		＊2	○								〔注３〕
	理工学入門物理Ⅰ		＊2	○								〔注３〕
	理工学入門物理Ⅱ		＊2	○								〔注３〕
	理工学入門化学		＊2	○								〔注３〕
卒業要件単位数		68	31									
合計必要単位数		99										

注意事項

〔注１〕　教員免許（理科）取得希望者は必ず受講してください。

〔注２〕　卒業研究に入るために取得していなければならない単位数は別の基準によります。詳細は担任教員に確認してください。

〔注３〕　[高大連携科目]理工学入門科目の単位（*）は専門科目（選択）の単位として認定されますが，卒業要件単位数には含まれません。

〔注４〕　[コース専門入門科目]は，理工学入門を必修とします。
また，化学，数理・物理，材料科学，情報学，電気電子・情報通信，機械知能航空，社会基盤・環境工学の計７科目から，２科目２単位を選択必修とします。この科目数（単位数）を超えて修得しても，卒業要件内の選択単位には含まれませんので，注意してください。

補足事項

〔１〕　このコース課程は，実施面で多少変更することがあります。

〔２〕　履修年次欄の○印は通常時間割科目、★印は集中講義での実施を示します。（○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。）

〔３〕　この表に記載されていない科目についても，教職科目以外の他コース，他学部，いわて高等教育コンソーシアムの授業科目，国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は，１０単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし，その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって，履修申告前に教務委員に相談し所定の手続をとることを条件とします。

〔４〕　卒業生が受けられる国家試験・資格試験には，次のようなものがあります。

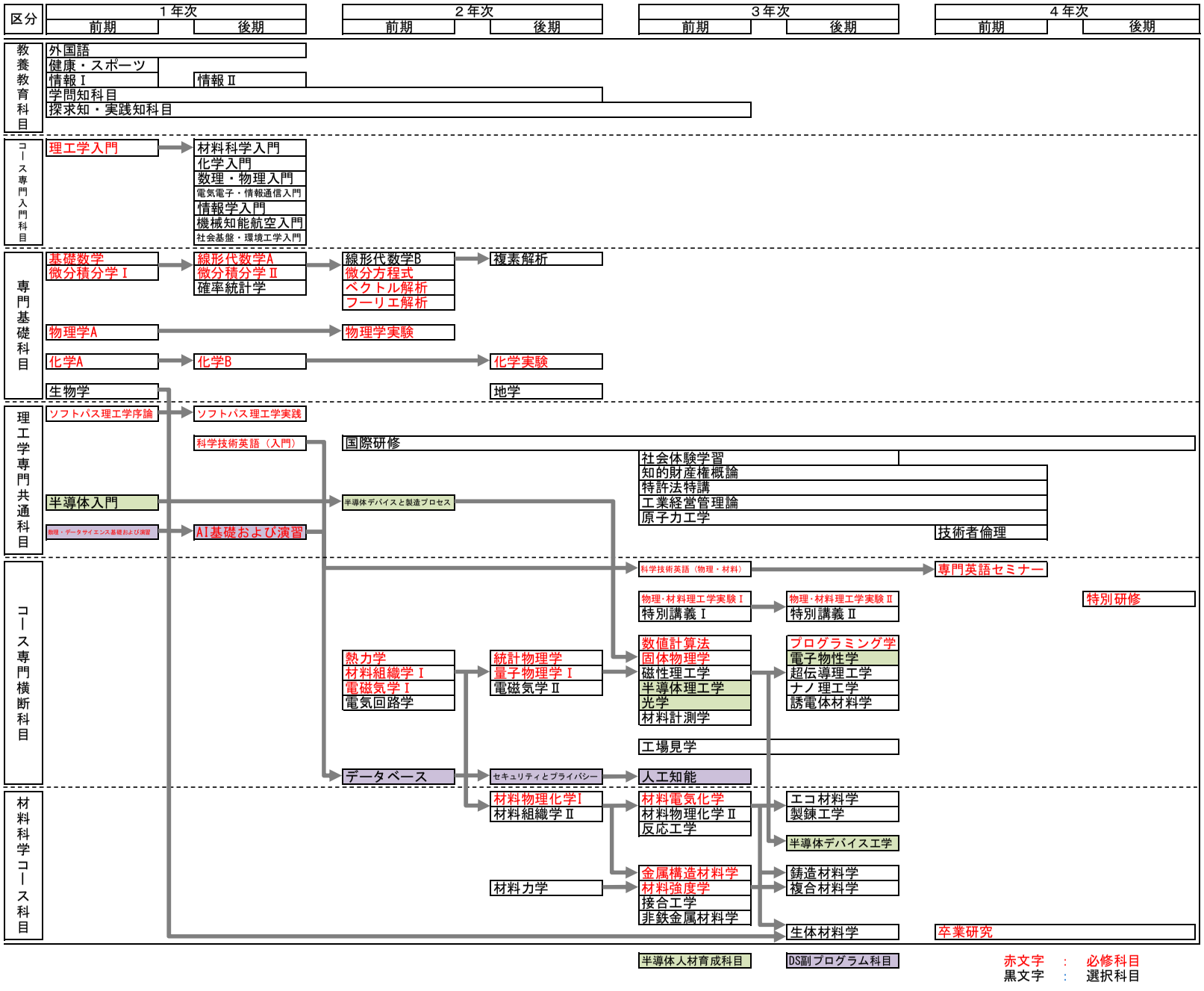
危険物取扱者（甲種受験資格）

なお，受験資格を得るには，関連科目の単位を一定基準以上取得する必要があります。詳細は担任に確認してください。

〔５〕　教員免許の取得については“Ⅷ 教育職員免許状・各種資格の取得方法”を参照してください。なお，教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。

〔６〕　備考欄の＊印は，各特別プログラム関係科目を示しています。

材料科学コース　カリキュラムマップ



理工学科

情報系クラス→**「知能情報コース」**

区分等		科目名	単位数		履修年次 1年次(初年次) 前期	1年次(初年次) 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	備考
			必修	選択									
コース専門入門科目		理工学入門	1		○								〔注３〕
		化学入門	2※	1		○							※選択必修2科目（2単位）
		数理・物理入門		1		○							
		材料科学入門		1		○							
		情報学入門		1		○							
		電気電子・情報通信入門		1		○							
		機械知能航空入門		1		○							
		社会基盤・環境工学入門		1		○							
専門基礎科目	数学系	基礎数学	1		○								代
		微分積分学Ⅰ	2		○								解
		微分積分学Ⅱ		2		○							解
		線形代数学A	2			○							代
		線形代数学B	2					○					代
		微分方程式		2			○						解
		ベクトル解析	2				○						幾
		複素解析		2			○						解
		確率統計学	2			○							確
		フーリエ解析		2				○					解
	物理系	物理学A		2	○								物
		物理学B		2		○							物
	化学系	化学A		2	○								化
		化学B		2		○							化
	生物系	生物学		2	○								生
理工学専門共通科目		ソフトパス理工学序論	1		○								
		ソフトパス理工学実践	1			○							
		科学技術英語（入門）	1			○							
		半導体入門		1	○								＊半導体人材
		半導体デバイスと製造プロセス		1			○						＊半導体人材
		数理・データサイエンス基礎および演習	2		○								＊ＤＳ副プロ
		ＡＩ基礎および演習	2			○							＊ＤＳ副プロ
		原子力工学		2					←	○	→		
		技術者倫理		2					← ○（前期） →				
		工業経営管理論		2					←	○	→		
		知的財産権概論		2					← ○（前期） →				
		特許法特講		2					← ○（前期） →				
		社会体験学習		1～2					←★→				
		国際研修		1～2			←		★		→		
		化学C		2		○							
		情報学基礎		2		○							
		電気数学		2		○							代
		機械工作実習		1	○								
コース専門横断科目		人工知能	2						○				コ ＊ＤＳ副プロ
		データベース		2							○		情シ ＊ＤＳ副プロ
		セキュリティとプライバシー		2				○					情社 ＊ＤＳ副プロ
		データ解析		2			○						確
		離散数学	2					○					代
		論理回路	2				○						コ ＊半導体人材
		信号処理		2					○				情コ
		画像処理とパターン認識		2						○			情マ
		ロボティクス		2					○				情シ
		コンピュータグラフィックス		2					○				情マ
		メディアシステム		2					○				情マ
		ヒューマンインタフェース		2						○			情マ
		データ構造とアルゴリズム	2					○					情コ
		数値計算	2					○					コ
		ディジタル回路設計	2							○			情コ ＊半導体人材
		コンピュータアーキテクチャ	2						○				コ
		コンピュータネットワーク	2				○						情ネ
		オペレーティングシステム	2							○			情コ

区　分　等	科目名	単位数		履修年次								備　考
				1年次（初年次）		2年次		3年次		4年次		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
コース専門横断科目	ソフトウェア構成論	2					○					情シ
	ディジタル通信		2			○						情ネ
	形式言語とオートマトン		2					○				コ
	情報理論		2					○				
	数理計画法		2						○			情コ
	科学技術英語（情報）	1							○			
	情報学特別講義	2						○				
	プログラミング言語及び演習Ⅰ	2				○						情コ　＊半導体人材
	プログラミング言語及び演習Ⅱ	2				○						情コ　＊半導体人材
	ＡＩプログラミング言語	1						○				
	ＡＩ・データサイエンス実践演習Ⅰ		1					○				
	ＡＩ・データサイエンス実践演習Ⅱ		1						○			
	ソフトウェア設計及び演習	2							○			情シ
	ハードウェア設計及び演習	2								○		情コ
	ネットワーク実験	1					○					情ネ
	情報学専門実験	1								○		
	システム創成プロジェクト	2						○				情シ
	情報デザインⅠ		2				○					情マ
	情報デザインⅡ		2					○				
	創造デザインⅠ		2			○						
	情報職業論		1					○				情社
知能情報コース科目	コンパイラ		2						○			情コ
	卒業研究	6								○		〔注１〕
高大連携科目	理工学入門数学Ⅰ		＊2	○								〔注２〕
	理工学入門数学Ⅱ		＊2	○								〔注２〕
	理工学入門物理Ⅰ		＊2	○								〔注２〕
	理工学入門物理Ⅱ		＊2	○								〔注２〕
	理工学入門化学		＊2	○								〔注２〕
卒業要件単位数		63	36									
合計必要単位数		99										

注意事項

〔注１〕　卒業研究に入るためには，コースで定める別の基準を満たさなければなりません。この基準については，コースの掲示板に掲示しますので，確認しておいてください。

〔注２〕　[高大連携科目]理工学入門科目の単位（*）は専門科目（選択）の単位として認定されますが，卒業要件単位数には含まれません。

〔注３〕　[コース専門入門科目]は，理工学入門を必修とします。
また，化学，数理・物理，材料科学，情報学，電気電子・情報通信，機械知能航空，社会基盤・環境工学の計７科目から，２科目２単位を選択必修とします。この科目数（単位数)を超えて修得しても，卒業要件内の選択単位には含まれませんので，注意してください。

補足事項

〔１〕　このコース課程は，実施面で多少変更することがあります。

〔２〕　履修年次欄の○印は通常時間割科目、★印は集中講義での実施を示します。（○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。）

〔３〕　この表に記載されていない科目についても，教職科目以外の他コース，他学部，いわて高等教育コンソーシアムの授業科目，国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は，１０単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし，その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって，履修申告前に担任に相談し所定の手続をとることを条件とします。

〔４〕　本コースに関連する国家試験・資格試験には，情報処理技術者試験（基本情報技術者，応用情報技術者等），CG-ARTS検定（CGエンジニア，画像処理エンジニア等）などがあります。

〔５〕　教員免許の取得については“Ⅷ 教育職員免許状・各種資格の取得方法”を参照してください。なお，教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。

〔６〕　備考欄の＊印は，各特別プログラム関係科目を示しています。

知能情報コース　カリキュラムマップ

区分	１年次		２年次		３年次		４年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	外国語科目 健康・スポーツ科目 情報科目 人文社会科学・教育学領域科目 理学・工学領域科目 農学領域科目 環境科目 地域関連科目（地域科目）		地域関連科目（地域課題演習科目）					
専門基礎科目	基礎数学 微分積分学Ⅰ 物理学A 化学A 生物学	線形代数学A 微分積分学Ⅱ 確率統計学 物理学B 化学B	ベクトル解析 微分方程式 複素解析	線形代数学B フーリエ解析				
理工学専門共通科目	ソフトパス理工学序論 数理・データサイエンス基礎および演習 半導体入門	ソフトパス理工学実践 科学技術英語（入門） AI基礎および演習 情報学基礎	国際研修 半導体デバイスと製造プロセス		社会体験学習		技術者倫理 工業経営管理論 知的財産権概論 特許法特講 原子力工学	
コース専門入門科目	理工学入門	情報学入門 化学入門 数理・物理入門 材料科学入門 電気電子・情報通信入門 機械知能航空入門 社会基盤・環境工学入門						
コース専門横断科目			データ解析 プログラミング言語及び演習Ⅰ プログラミング言語及び演習Ⅱ 論理回路 コンピュータネットワーク ディジタル通信 数値計算 創造デザインⅠ	離散数学 ソフトウェア構成論 データ構造とアルゴリズム ネットワーク実験 セキュリティとプライバシー 情報デザインⅠ	人工知能 AI・データサイエンス実践演習Ⅰ AIプログラミング言語 システム創成プロジェクト 形式言語とオートマトン コンピュータアーキテクチャ 情報理論 信号処理 コンピュータグラフィックス メディアシステム ロボティクス 情報デザインⅡ 情報職業論 情報学特別講義	AI・データサイエンス実践演習Ⅱ ソフトウェア設計及び演習 数理計画法 ディジタル回路設計 オペレーティングシステム 画像処理とパターン認識 ヒューマンインタフェース 科学技術英語（情報）	データベース ハードウェア設計及び演習 情報学専門実験	
知能情報コース専門科目						コンパイラ	卒業研究	

赤文字：必修科目
青文字：選択必修科目
黒文字：選択科目

理工学科

情報系クラス→**「クリエイティブ情報コース」**

区分等		科目名	単位数		履修年次 1年次(初年次) 前期	1年次(初年次) 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	備考
			必修	選択									
コース専門入門科目		理工学入門	1		○								〔注３〕
		化学入門	2※	1		○							※選択必修2科目（2単位）
		数理・物理入門		1		○							
		材料科学入門		1		○							
		情報学入門		1		○							
		電気電子・情報通信入門		1		○							
		機械知能航空入門		1		○							
		社会基盤・環境工学入門		1		○							
専門基礎科目	数学系	基礎数学	1		○								代
		微分積分学Ⅰ	2		○								解
		微分積分学Ⅱ		2		○							解
		線形代数学A	2			○							代
		線形代数学B	2					○					代
		微分方程式		2			○						解
		ベクトル解析	2				○						幾
		複素解析		2			○						解
		確率統計学	2			○							確
		フーリエ解析		2				○					解
	物理系	物理学A		2	○								物
		物理学B		2		○							物
	化学系	化学A		2	○								化
		化学B		2		○							化
	生物系	生物学		2	○								生
理工学専門共通科目		ソフトパス理工学序論	1		○								
		ソフトパス理工学実践	1			○							
		科学技術英語（入門）	1			○							
		半導体入門		1	○								＊半導体人材
		半導体デバイスと製造プロセス		1			○						＊半導体人材
		数理・データサイエンス基礎および演習	2		○								＊ＤＳ副プロ
		ＡＩ基礎および演習	2			○							＊ＤＳ副プロ
		原子力工学		2					←	○	→		
		技術者倫理		2					← ○（前期） →				
		工業経営管理論		2					←	○	→		
		知的財産権概論		2					← ○（前期） →				
		特許法特講		2					← ○（前期） →				
		社会体験学習		1～2					←★→				
		国際研修		1～2			←		★		→		
		化学C		2		○							
		情報学基礎		2		○							
		電気数学		2		○							代
		機械工作実習		1	○								
コース専門横断科目		人工知能	2						○				コ ＊ＤＳ副プロ
		データベース		2							○		情シ ＊ＤＳ副プロ
		セキュリティとプライバシー		2				○					情社 ＊ＤＳ副プロ
		データ解析		2			○						確
		離散数学	2					○					代
		論理回路	2				○						コ ＊半導体人材
		信号処理		2					○				情コ
		画像処理とパターン認識		2						○			情マ
		ロボティクス		2					○				情シ
		コンピュータグラフィックス	2						○				情マ
		メディアシステム	2						○				情マ
		ヒューマンインタフェース	2							○			情マ
		データ構造とアルゴリズム	2					○					情コ
		数値計算	2					○					コ
		ディジタル回路設計		2						○			情コ ＊半導体人材
		コンピュータアーキテクチャ		2					○				コ
		コンピュータネットワーク	2				○						情ネ
		オペレーティングシステム	2							○			情コ

区　分　等	科目名	単位数		履修年次								備　考
				1年次（初年次）		2年次		3年次		4年次		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
コース専門横断科目	ソフトウェア構成論	2					○					情シ
	ディジタル通信		2			○						情ネ
	形式言語とオートマトン		2					○				コ
	情報理論		2					○				
	数理計画法		2						○			情コ
	科学技術英語（情報）	1							○			
	情報学特別講義	2						○				
	プログラミング言語及び演習Ⅰ	2				○						情コ　＊半導体人材
	プログラミング言語及び演習Ⅱ	2				○						情コ　＊半導体人材
	ＡＩプログラミング言語	1						○				
	ＡＩ・データサイエンス実践演習Ⅰ		1					○				
	ＡＩ・データサイエンス実践演習Ⅱ		1						○			
	ソフトウェア設計及び演習	2							○			情シ
	ハードウェア設計及び演習		2							○		情コ
	ネットワーク実験	1					○					情ネ
	情報学専門実験	1								○		
	システム創成プロジェクト	2						○				情シ
	情報デザインⅠ		2				○					情マ
	情報デザインⅡ		2					○				
	創造デザインⅠ		2			○						
	情報職業論		1					○				情社
クリエイティブ情報コース科目	創造デザインⅡ		2						○			
	卒業研究	6								○		〔注１〕
高大連携科目	理工学入門数学Ⅰ		＊2	○								〔注２〕
	理工学入門数学Ⅱ		＊2	○								〔注２〕
	理工学入門物理Ⅰ		＊2	○								〔注２〕
	理工学入門物理Ⅱ		＊2	○								〔注２〕
	理工学入門化学		＊2	○								〔注２〕
卒業要件単位数		63	36									
合計必要単位数		99										

注意事項

〔注１〕　卒業研究に入るためには，コースで定める別の基準を満たさなければなりません。この基準については，コースの掲示板に掲示しますので，確認しておいてください。

〔注２〕　[高大連携科目]理工学入門科目の単位（*）は専門科目（選択）の単位として認定されますが，卒業要件単位数には含まれません。

〔注３〕　[コース専門入門科目]は，理工学入門を必修とします。
また，化学，数理・物理，材料科学，情報学，電気電子・情報通信，機械知能航空，社会基盤・環境工学の計７科目から，２科目２単位を選択必修とします。この科目数（単位数）を超えて修得しても，卒業要件内の選択単位には含まれませんので，注意してください。

補足事項

〔１〕　このコース課程は，実施面で多少変更することがあります。

〔２〕　履修年次欄の○印は通常時間割科目、★印は集中講義での実施を示します。（○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。）

〔３〕　この表に記載されていない科目についても，教職科目以外の他コース，他学部，いわて高等教育コンソーシアムの授業科目，国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は，１０単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし，その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって，履修申告前に担任に相談し所定の手続をとることを条件とします。

〔４〕　本コースに関連する国家試験・資格試験には，情報処理技術者試験（基本情報技術者，応用情報技術者等），CG-ARTS検定（CGエンジニア，画像処理エンジニア等）などがあります。

〔５〕　教員免許の取得については“Ⅷ 教育職員免許状・各種資格の取得方法”を参照してください。なお，教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。

〔６〕　備考欄の＊印は，各特別プログラム関係科目を示しています。

クリエイティブ情報コース　カリキュラムマップ

区分	１年次		２年次		３年次		４年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	外国語科目 健康・スポーツ科目 情報科目 人文社会科学・教育学領域科目 理学・工学領域科目 農学領域科目 環境科目 地域関連科目（地域科目）		地域関連科目（地域課題演習科目）					
専門基礎科目	基礎数学 微分積分学Ⅰ 物理学A 化学A 生物学	線形代数学A 微分積分学Ⅱ 確率統計学 物理学B 化学B	ベクトル解析 微分方程式 複素解析	線形代数学B フーリエ解析				
理工学専門共通科目	ソフトパス理工学序論	ソフトパス理工学実践 科学技術英語（入門）	国際研修		社会体験学習			
	数理・データサイエンス基礎および演習	AI基礎および演習					技術者倫理 工業経営管理論 知的財産権概論 特許法特講 原子力工学	
	半導体入門	情報学基礎	半導体デバイスと製造プロセス					
コース専門入門科目	理工学入門	情報学入門 化学入門 数理・物理入門 材料科学入門 電気電子・情報通信入門 機械知能航空入門 社会基盤・環境工学入門						
コース専門横断科目			データ解析	離散数学	人工知能 AI・データサイエンス実践演習Ⅰ AIプログラミング言語	AI・データサイエンス実践演習Ⅱ	データベース	
			プログラミング言語及び演習Ⅰ プログラミング言語及び演習Ⅱ	ソフトウェア構成論 データ構造とアルゴリズム	システム創成プロジェクト 形式言語とオートマトン	ソフトウェア設計及び演習 数理計画法		
			論理回路 コンピュータネットワーク ディジタル通信	ネットワーク実験 セキュリティとプライバシー	コンピュータアーキテクチャ 情報理論	ディジタル回路設計 オペレーティングシステム	ハードウェア設計及び演習	
				数値計算	信号処理 コンピュータグラフィックス メディアシステム ロボティクス	画像処理とパターン認識		
			創造デザインⅠ	情報デザインⅠ	情報デザインⅡ	ヒューマンインタフェース		
					情報職業論 情報学特別講義	科学技術英語（情報）	情報学専門実験	
クリエイティブ情報コース専門科目						創造デザインⅡ	卒業研究	

赤文字：必修科目
青文字：選択必修科目
黒文字：選択科目

理工学科

電気電子・情報通信クラス→**「電気電子・情報通信コース」**

区分等		科目名	単位数		履修年次								備考
					1年次（初年次）		2年次		3年次		4年次		
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
コース専門入門科目		理工学入門	1		○								〔注３〕
		化学入門	2※	1		○							※選択必修2科目（2単位）
		数理・物理入門		1		○							
		材料科学入門		1		○							
		情報学入門		1		○							
		電気電子・情報通信入門		1		○							
		機械知能航空入門		1		○							
		社会基盤・環境工学入門		1		○							
専門基礎科目	数学系	基礎数学	1		○								代
		微分積分学Ⅰ	2		○								解
		微分積分学Ⅱ	2			○							解
		線形代数学A	2			○							代
		微分方程式	2				○						解
		ベクトル解析	2				○						幾
		複素解析		2				○					解
		確率統計学	2			○							確
		フーリエ解析	2					○					解
	物理系	物理学A	2		○								物
		物理学B		2		○							物
	化学系	化学A		2	○								化
理工学専門共通科目		ソフトパス理工学序論	1		○								
		ソフトパス理工学実践	1			○							
		科学技術英語（入門）	1			○							
		半導体入門		1	○								＊半導体人材
		半導体デバイスと製造プロセス		1			○						＊半導体人材
		数理・データサイエンス基礎および演習	2		○								＊ＤＳ副プロ
		ＡＩ基礎および演習	2			○							＊ＤＳ副プロ
		原子力工学		2					←	○	→		
		技術者倫理		2					← ○（前期） →				
		工業経営管理論		2					←	○	→		
		知的財産権概論		2					← ○（前期） →				
		特許法特講		2					← ○（前期） →				
		社会体験学習		1～2					←★→				
		国際研修		1～2			←		★		→		
		化学C		2		○							
		情報学基礎		2		○							
		電気数学		2		○							代
		機械工作実習		1	○								
コース専門横断科目		人工知能		2					○				コ　＊ＤＳ副プロ
		データベース		2			○						情シ　＊ＤＳ副プロ
		セキュリティとプライバシー		2				○					情社　＊ＤＳ副プロ
		ものづくり課題演習Ⅰ		1			○						＊ものづくりプロ
		ものづくり課題演習Ⅱ		1					○				＊ものづくりプロ
電気電子・情報通信コース科目		電気回路論Ⅰ	2				○						工
		電気回路論Ⅱ	2					○					工
		電気回路論Ⅲ	2						○				工
		電磁気学Ⅰ	2				○						工
		電磁気学Ⅱ	2					○					工
		電磁波工学	2						○				工
		電子材料物性学	2				○						工　＊半導体人材
		半導体LSI工学		2					○				工　＊半導体人材
		電子デバイス工学Ⅰ		2				○					工　＊半導体人材
		電子デバイス工学Ⅱ		2					○				工　＊半導体人材
		アナログ電子回路	2					○					工
		ディジタル電子回路	2					○					
		応用電子回路		2					○				工
		電気電子計測学	2				○						工
		情報通信理論		2				○					
		情報通信ネットワーク		2					○				

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考
				1年次（初年次）		2年次		3年次		4年次		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
電気電子・情報通信コース科目	通信システム		2						○			工
	コンピュータ工学	2						○				
	制御システム工学	2						○				工
	ディジタル信号処理		2						○			
	光エレクトロニクス		2						○			工
	エネルギー変換工学	2					○					工
	電気機器工学		2					○				工
	高電圧プラズマ工学		2						○			工
	発電工学		2					○				工
	送配電工学		2						○			工
	電気電子・情報通信工学基礎実験	2					○					
	電気電子・情報通信工学応用実験	2						○				
	プログラム言語及び演習	2				○						
	組込ソフトウェア実習	1							○			工
	組込ハードウェア実習	1							○			工
	電気電子・情報通信工学英語研修	1				○						
	科学技術英語（電気電子・情報通信）	1								○		
	電気電子・情報通信工学専門研修		1					←	○	→		
	電気電子・情報通信工学特別講義		2						○			工
	電気電子・情報通信工学先端課題実習	1								○		
	電気設計製図		2							○		工
	電気法規		2						○			
	電波法規		2							○		
	卒業研究	6								○		〔注1〕
高大連携科目	理工学入門数学Ⅰ		＊2	○								〔注2〕
	理工学入門数学Ⅱ		＊2	○								〔注2〕
	理工学入門物理Ⅰ		＊2	○								〔注2〕
	理工学入門物理Ⅱ		＊2	○								〔注2〕
	理工学入門化学		＊2	○								〔注2〕
卒業要件単位数		70	29									
合計必要単位数		99										

注意事項

〔注1〕　卒業研究に入るためには，コースで定める別の基準を満たさなければなりません。この基準については，コースの掲示板に掲示しますので，確認しておいてください。

〔注2〕　[高大連携科目]理工学入門科目の単位（*）は専門科目（選択）の単位として認定されますが，卒業要件単位数には含まれません。

〔注3〕　[コース専門入門科目]は，理工学入門を必修とします。
また，化学，数理・物理，材料科学，情報学，電気電子・情報通信，機械知能航空，社会基盤・環境工学の計７科目から，２科目２単位を選択必修とします。この科目数（単位数）を超えて修得しても，卒業要件内の選択単位には含まれませんので，注意してください。

補足事項

〔1〕　このコース課程は，実施面で多少変更することがあります。

〔2〕　履修年次欄の○印は通常時間割科目、★印は集中講義での実施を示します。（○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。）

〔3〕　この表に記載されていない科目についても，教職科目以外の他コース，他学部，いわて高等教育コンソーシアムの授業科目，国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は，１０単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし，その科目がコースの科目と講義内容が重複する恐れがある場合，履修申告前に担任に相談してください。

〔4〕　工場見学を３年次の適当な時期に実施します。

〔5〕　本コース卒業生で申請により取得できる資格，又は受けられる国家試験・資格試験等には，次のようなものがあります。ただし，資格によって所要の単位を修得する必要があります。

(1)電気主任技術者　（一定の実務経験で申請により取得）
(2)電気通信主任技術者　（「電気通信システム」の試験を免除）
(3)第一級陸上無線技術士　（「無線工学の基礎」の試験を免除）
(4)第一級陸上特殊無線技士　（申請により取得）
(5)第二級海上特殊無線技士　（申請により取得）
(6)第二種電気工事士　（筆記試験を免除）

なお，詳細は，各資格試験実施機関のHPなどを参照してください。

〔6〕　教員免許の取得については“Ⅷ 教育職員免許状・各種資格の取得方法”を参照してください。なお，教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。

〔7〕　備考欄の＊印は，各特別プログラム関係科目を示しています。

電気電子・情報通信コース　カリキュラムマップ

区分	１年次 前期	１年次 後期	２年次 前期	２年次 後期	３年次 前期	３年次 後期	４年次 前期	４年次 後期
教養教育科目	外国語科目 健康・スポーツ科目 情報科目							
	人文社会科学・教育学領域科目 理学・工学領域科目 農学領域科目 環境科目 地域関連科目（地域科目）							
			地域関連科目（地域課題演習科目）					
専門基礎科目	基礎数学 微分積分学Ⅰ	線形代数学A 微分積分学Ⅱ 確率統計学	ベクトル解析 微分方程式 複素解析	フーリエ解析				
	物理学A 化学A	物理学B						
コース専門入門科目	理工学入門（オムニバス）	化学入門 数理・物理入門 材料科学入門 電気電子・情報通信入門 情報学入門 機械知能航空入門 社会基盤・環境工学入門						
学部内共通科目	ソフトバス理工学序論	ソフトバス理工学実践 科学技術英語（入門） 電気数学	国際研修		社会体験学習			
	半導体入門		半導体デバイスと製造プロセス				知的財産権概論 特許法特講 工業経営管理論 原子力工学 技術者倫理	
	数理・データサイエンス基礎および演習	AI基礎および演習						
コース専門横断科目			データベース ものづくり課題実習Ⅰ	セキュリティとプライバシー	人工知能 ものづくり課題実習Ⅱ			
電気電子・情報通信コース科目			電気回路論Ⅰ 電磁気学Ⅰ 電気電子計測学 電子材料物性学	電気回路論Ⅱ 電磁気学Ⅱ ディジタル電子回路 アナログ電子回路 情報通信理論 電子デバイス工学Ⅰ	電気回路論Ⅲ 電磁波工学 制御システム工学 応用電子回路 情報通信ネットワーク コンピュータ工学 電気機器工学 発電工学 電子デバイス工学Ⅱ 半導体LSI工学	光エレクトロニクス 通信システム ディジタル信号処理 高電圧プラズマ工学 送配電工学 電気法規	電波法規 電気設計製図	
				エネルギー変換工学	電気電子・情報通信工学専門研修	電気電子・情報通信工学特別講義		
			プログラム言語及び演習 電気電子・情報通信工学英語研修	電気電子・情報通信工学基礎実験	電気電子・情報通信工学応用実験	組込ハードウェア実習 組込ソフトウェア実習	電気電子・情報通信先端課題実習 科学技術英語（電気電子・情報通信）	
							卒業研究	

赤文字：必修科目
黒文字：選択科目

半導体育成科目

理工学科

機械知能航空クラス→**「機械知能航空コース」**

区分等		科目名	単位数		履修年次								備考
					1年次（初年次）		2年次		3年次		4年次		
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
コース専門入門科目		理工学入門	1		○								〔注３〕
		化学入門	2※	1		○							※選択必修2科目（2単位）
		数理・物理入門		1		○							
		材料科学入門		1		○							
		情報学入門		1		○							
		電気電子・情報通信入門		1		○							
		機械知能航空入門		1		○							
		社会基盤・環境工学入門		1		○							
専門基礎科目	数学系	基礎数学	1		○								代
		微分積分学Ⅰ	2		○								解
		微分積分学Ⅱ	2			○							解
		線形代数学A	2			○							代
		微分方程式	2				○						解
		ベクトル解析	2				○						幾
		複素解析入門		1					○				解
		確率統計学	2			○							確
		フーリエ解析	2					○					解
	物理系	物理学A	2		○								物
		物理学B	2			○							物
		物理学実験	1				○						物実
	化学系	化学A	2		○								化
理工学専門共通科目		ソフトパス理工学序論	1		○								
		ソフトパス理工学実践	1			○							
		科学技術英語（入門）	1			○							
		半導体入門		1	○								＊半導体人材
		半導体デバイスと製造プロセス		1			○						＊半導体人材
		数理・データサイエンス基礎および演習	2		○								＊ＤＳ副プロ
		ＡＩ基礎および演習	2			○							＊ＤＳ副プロ
		原子力工学		2					←	○	→		
		技術者倫理	2						←	○（前期）	→		
		工業経営管理論		2					←	○	→		
		知的財産権概論		2					←	○（前期）	→		
		特許法特講		2					←	○（前期）	→		
		社会体験学習		1～2					←★→				
		国際研修		1～2			←		★		→		
		化学C		2		○							
		情報学基礎		2		○							
		電気数学		2		○							代
		機械工作実習		1	○								
コース専門横断科目		人工知能		2					○				コ　＊ＤＳ副プロ
		データベース		2			○						情シ　＊ＤＳ副プロ
		セキュリティとプライバシー		2				○					情社　＊ＤＳ副プロ
		ものづくり課題演習Ⅰ		1			○						＊ものづくりプロ
		ものづくり課題演習Ⅱ		1					○				＊ものづくりプロ
機械知能航空コース科目		機械製図Ⅰ	1				○						工
		ＣＡＤ実習	1				○						工
		プログラミング言語実習Ⅰ	1				○						
		材料力学Ⅰ	2				○						工
		材料力学演習	1				○						
		機械材料学Ⅰ	2				○						工
		流体力学	2				○						工
		流体力学演習	1				○						
		機械製図Ⅱ	1					○					工
		機械加工学	2					○					工
		機械力学	2					○					工
		機械力学演習	1					○					
		熱力学	2					○					工
		熱力学演習	1					○					
		機械実験	1						○				

区　分　等	科目名	単位数		履修年次								備　考
				1年次（初年次）		2年次		3年次		4年次		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
機械知能航空コース科目	プログラミング言語実習Ⅱ	1						○				
	制御工学	2						○				工
	先端機械工学概論	1						○				
	キャリアデザイン	1						○				
	機械設計学	2							○			工
	機械リサーチ研修	1							○			
	科学技術英語（機械）	1								○		
	数値計算アルゴリズム		2				○					コ
	材料力学Ⅱ		2				○					工
	粘性流体工学		2				○					工
	固体力学		2					○				工
	伝熱工学		2					○				工
	燃焼工学		2					○				工
	トライボロジー		2						○			工　＊半導体人材
	生体工学		2					○				工
	精密工学		2					○				工　＊半導体人材
	センシング工学		2						○			工　＊半導体人材
	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ実習		1						○			
	計算力学		2						○			代
	システム制御工学		2						○			コ
	航空流体工学		2						○			工
	機械材料学Ⅱ		1							○		工
	ロボティクス工学		2							○		工
	航空宇宙システム工学		1							○		工
	卒業研究	6								○		〔注１〕
高大連携科目	理工学入門数学Ⅰ		＊2	○								〔注２〕
	理工学入門数学Ⅱ		＊2	○								〔注２〕
	理工学入門物理Ⅰ		＊2	○								〔注２〕
	理工学入門物理Ⅱ		＊2	○								〔注２〕
	理工学入門化学		＊2	○								〔注２〕
卒業要件単位数		70	29									
合計必要単位数		99										

注意事項

〔注１〕　卒業研究に入るために取得していなければならない単位数は別の基準によります。詳細は担任教員に確認してください。

〔注２〕　[高大連携科目]理工学入門科目の単位（*）は専門科目（選択）の単位として認定されますが，卒業要件単位数には含まれません。

〔注３〕　[コース専門入門科目]は，理工学入門を必修とします。
　また，化学，数理・物理，材料科学，情報学，電気電子・情報通信，機械知能航空，社会基盤・環境工学の計７科目から，２科目２単位を選択必修とします。この科目数（単位数）を超えて修得しても，卒業要件内の選択単位には含まれませんので，注意してください。

補足事項

〔１〕　このコース課程は，実施面で多少変更することがあります。

〔２〕　履修年次欄の○印は通常時間割科目、★印は集中講義での実施を示します。（○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。）

〔３〕　この表に記載されていない科目についても，教職科目以外の他コース，他学部，いわて高等教育コンソーシアムの授業科目，国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は，１０単位を単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし，その科目がコースの科目と講義内容が重複する恐れがある場合，履修申告前に担任に相談してください。

〔４〕　工場見学は適宜実施します。

〔５〕　卒業生が受けられる国家試験・資格試験等には，次のようなものがあります。

(1)ボイラー・タービン主任技術者（第２種）　（卒業後に実務経験３年で申請資格を取得）
(2)自動車整備士（三級）　（卒業後に実務経験６ヶ月で受験資格を取得）
(3)消防設備士　甲種（甲種特類を除く）　（卒業で受験資格を取得）
(4)冷凍空調技士（第一種）　（卒業後に実務経験２年で受験資格を取得）
(5)建設機械施工技士（２級）　（卒業後に実務経験１年で受験資格を取得）

　なお，詳細は，各資格試験実施機関のHPなどを参照してください。

〔６〕　教員免許の取得については“Ⅷ 教育職員免許状・各種資格の取得方法”を参照してください。なお，教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。

〔７〕　備考欄の＊印は，各特別プログラム関係科目を示しています。

機械知能航空コース　カリキュラムマップ

区分	１年次		２年次		３年次		４年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	外国語科目							
	健康・スポーツ科目							
	情報科目							
	人文社会科学・教育学領域科目							
	理学・工学領域科目							
	農学領域科目							
	環境科目							
	地域関連科目（地域科目）							
			地域関連科目（地域課題演習科目）					
コース専門入門科目	理工学入門	化学入門						
		数理・物理入門						
		材料科学入門						
		電機電子・情報通信入門						
		情報入門						
		機械知能航空入門						
		社会基盤・環境工学入門						
専門基礎科目	基礎数学	線形代数学A	ベクトル解析	フーリエ解析	複素解析入門			
	微分積分学Ⅰ	微分積分学Ⅱ	微分方程式					
	物理A	物理B	物理学実験					
	化学A	確率統計学						
専門共通科目	ソフトパス理工学序論	ソフトパス理工学実践						
		科学技術英語（入門）	国際研修（集中）					
	機械工作実習				社会体験学習（集中）			
	半導体入門		半導体デバイスと製造プロセス		工業経営管理論（集中）			
	数理・データサイエンス基礎および演習	AI基礎演習および演習			知的財産権概論（集中）			
					特許法特講（集中）			
					原子力工学(集中)			
					技術者倫理			
コース専門横断科目			データベース	セキュリティとプライバシー	人工知能			
コース科目			機械製図Ⅰ	機械製図Ⅱ	機械実験	機械設計学		
			CAD実習			ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ実習		
			プログラミング言語実習Ⅰ	数値計算アルゴリズム	プログラミング言語実習Ⅱ	計算力学		
			材料力学Ⅰ	材料力学Ⅱ	固体力学			
			材料力学演習	機械加工学	精密工学	トライボロジー		
			機械材料学Ⅰ				機械材料学Ⅱ	
				機械力学	制御工学	システム制御工学	ロボティクス工学	
				機械力学演習	生体工学	センシング工学		
			流体力学	粘性流体工学		航空流体工学	航空宇宙システム工学	
			流体力学演習					
				熱力学	伝熱工学			
				熱力学演習	燃焼工学			
					先端機械工学概論(2Q)		科学技術英語（機械）	
					キャリアデザイン(1Q)	機械リサーチ研修	卒業研究	

塗りつぶし（太枠）がある科目は必修科目
塗りつぶしがない（細枠）科目は選択科目

理工学科

社会基盤・環境工学クラス→**「社会基盤・環境工学コース」**

区分等		科目名	単位数		履修年次								備考
					1年次（初年次）		2年次		3年次		4年次		
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
コース専門入門科目		理工学入門	1		○								〔注３〕
		化学入門	2※	1		○							※選択必修2科目（2単位）
		数理・物理入門		1		○							
		材料科学入門		1		○							
		情報学入門		1		○							
		電気電子・情報通信入門		1		○							
		機械知能航空入門		1		○							
		社会基盤・環境工学入門		1		○							
専門基礎科目	数学系	基礎数学	1		○								代
		微分積分学Ⅰ	2		○								解
		微分積分学Ⅱ	2			○							解
		線形代数学A	2			○							代
		微分方程式	2					○					解
		ベクトル解析		2				○					幾
		確率統計学		2		○							確
		フーリエ解析		2			○						解
	物理系	物理学A	2		○								物
		物理学B	2			○							物
		物理学実験	1					○					物実
	化学系	化学A	2		○								化
		化学B	2			○							化
		化学実験	1				○						化実
	地学系	地学		2				○					地
理工学専門共通科目		ソフトパス理工学序論	1		○								
		ソフトパス理工学実践	1			○							
		科学技術英語（入門）	1			○							
		半導体入門		1	○								＊半導体人材
		半導体デバイスと製造プロセス		1			○						＊半導体人材
		数理・データサイエンス基礎および演習	2		○								＊ＤＳ副プロ
		ＡＩ基礎および演習	2			○							＊ＤＳ副プロ
		原子力工学		2					←	○	→		
		技術者倫理	2						← ○（前期） →				
		工業経営管理論		2					←	○	→		
		知的財産権概論		2					← ○（前期） →				
		特許法特講		2					← ○（前期） →				
		社会体験学習		1～2					←★→				
		国際研修		1～2			←		★		→		
		化学C		2		○							
		情報学基礎		2		○							
		電気数学		2		○							代
		機械工作実習		1	○								
コース専門横断科目		人工知能		2					○				コ　＊ＤＳ副プロ
		データベース		2			○						情シ　＊ＤＳ副プロ
		セキュリティとプライバシー		2				○					情社　＊ＤＳ副プロ
社会基盤・環境工学コース科目		地域創生課題演習Ⅰ		1				○					
		地域創生課題演習Ⅱ		1					○				
		社会基盤・環境工学実験	1						○				地実
		社会基盤・環境プログラミング演習	1							○			
		数値計算法		2						○			コ
		科学技術英語（社会基盤・環境）	1							○			
		測量学	2				○						工
		測量学実習Ⅰ	1				○						工
		測量学実習Ⅱ	1					○					工
		構造力学Ⅰ	2				○						物
		構造力学Ⅱ	2					○					物
		構造力学演習	1							○			物
		鋼構造学		2					○				工
		コンクリート工学	2				○						工
		鉄筋コンクリート工学	2					○					工
		道路工学		2					○				工
		施設維持管理工学		2						○			工

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考
				1年次（初年次）		2年次		3年次		4年次		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
社会基盤・環境工学コース科目	水理学Ⅰ	2				○						物
	水理学Ⅱ	2					○					物
	水理学演習		1					○				物
	水工学		2					○				工
	土質力学Ⅰ	2				○						物
	土質力学Ⅱ	2					○					物
	土質力学演習		1					○				物
	地質工学		2					○				地
	岩盤力学		2						○			工
	耐震工学		2						○			物
	地震・火山防災工学		2					○				地
	水・土砂防災工学		2						○			地
	都市計画学	2				○						工
	交通計画学	2					○					工
	公共政策学		2					○				工
	上下水道工学	2					○					工 ＊半導体人材
	環境工学	2				○						工
	水環境工学		2					○				化 ＊半導体人材
	大気環境工学		2					○				化
	土壌環境工学		2						○			工
	生態環境保全学		2						○			工
	資源循環工学		2					○				工 ＊半導体人材
	設計製図	1							○			工
	施工法	2							○			
	特別演習		1						○			
	卒業研究	6								○		〔注１〕
高大連携科目	理工学入門数学Ⅰ		＊2	○								〔注２〕
	理工学入門数学Ⅱ		＊2	○								〔注２〕
	理工学入門物理Ⅰ		＊2	○								〔注２〕
	理工学入門物理Ⅱ		＊2	○								〔注２〕
	理工学入門化学		＊2	○								〔注２〕
卒業要件単位数		72	27									
合計必要単位数		99										

注意事項

〔注１〕　卒業研究に入るために取得していなければならない単位数は別の基準によります。詳細は担任教員に確認してください。

〔注２〕　[高大連携科目]理工学入門科目の単位（*）は専門科目（選択）の単位として認定されますが，卒業要件単位数には含まれません。

〔注３〕　[コース専門入門科目]は，理工学入門を必修とします。
また，化学，数理・物理，材料科学，情報学，電気電子・情報通信，機械知能航空，社会基盤・環境工学の計７科目から，２科目２単位を選択必修とします。この科目数（単位数）を超えて修得しても，卒業要件内の選択単位には含まれませんので，注意してください。

補足事項

〔1〕　このコース課程は，実施面で多少変更することがあります。

〔2〕　履修年次欄の○印は通常時間割科目、★印は集中講義での実施を示します。（○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。）

〔3〕　この表に記載されていない科目についても，教職科目以外の他コース，他学部，いわて高等教育コンソーシアムの授業科目，国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は，１０単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし，その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって，履修申告前に教務委員に相談し所定の手続をとることを条件とします。

〔4〕　卒業生が申請により取得できる資格，又は受けられる国家試験・資格試験等には，次のようなものがあります。

(1)技術士補　（修習技術者と認定、申請取得）
(2)技術士　（技術士補取得後、実務経験4 年で受験資格）
(3)１級土木施工管理技士　（卒業後実務経験３年で受験資格）
(4)２級土木施工管理技士　（卒業後実務経験１年で受験資格）
(5)測量士補　（申請取得）
(6)測量士　（測量士補登録後，実務経験１年で申請により取得）
(7)作業環境測定士（１種、２種）　（労働衛生・要実務経験）
(8)公害防止管理者　（資格認定講習受講・要実務経験）
(9)廃棄物処理施設技術管理者　（要実務経験）
(10)冷凍空調技士（第１種）　（要実務経験）
(11)１級建築施工管理技士　（卒業後実務経験３年で受験資格）
(12)２級建築施工管理技士　（卒業後実務経験１年で受験資格）

なお，詳細は，各資格試験実施機関のHPなどを参照してください。

〔5〕　教員免許の取得については“Ⅷ 教育職員免許状・各種資格の取得方法”を参照してください。なお，教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。

〔6〕　備考欄の＊印は，各特別プログラム関係科目を示しています。

社会基盤・環境工学コース　カリキュラムマップ

区分	１年次 前期	１年次 後期	２年次 前期	２年次 後期	３年次 前期	３年次 後期	４年次 前期	４年次 後期
教養教育科目	外国語科目							
	健康・スポーツ科目							
	情報科目							
	学問知科目							
	探求知科目							
	実践知科目							
コース専門入門科目	理工学入門	社会基盤・環境工学入門						
		化学入門						
		数理・物理入門						
		材料科学入門						
		情報学入門						
		電気電子・情報通信入門						
		機械知能航空入門						
専門基礎科目	基礎数学	線形代数学A	フーリエ解析	微分方程式				
	微分積分学Ⅰ	微分積分学Ⅱ		ベクトル解析				
	物理学A	物理学B		物理学実験				
	化学A	化学B	化学実験					
		確率統計学		地学				
理工学専門共通科目	ソフトパス理工学序論	ソフトパス理工学実践	国際研修					
		科学技術英語（入門）			社会体験学習			
		化学C						
	半導体入門		半導体デバイスと製造プロセス		技術者倫理			
		情報学基礎			工業経営管理論		工業経営管理論	
	数理・データサイエンス基礎および演習	AI基礎および演習			知的財産権概論		知的財産権概論	
	機械工学実習				特許法特講		特許法特講	
		電気数学			原子力工学		原子力工学	
コース専門横断科目			データベース					
				セキュリティとプライバシー				
					人工知能			
コース科目				地域創生課題演習Ⅰ	地域創生課題演習Ⅱ	特別演習		
			測量学					
			測量学実習Ⅰ	測量学実習Ⅱ		設計製図		
						科学技術英語（社会基盤・環境）		
					社会基盤・環境工学実験			
						社会基盤・環境プログラミング演習		
						数値計算法		
			構造力学Ⅰ	構造力学Ⅱ	鋼構造学	構造力学演習		
			コンクリート工学	鉄筋コンクリート工学	道路工学	施設維持管理工学		
			水理学Ⅰ	水理学Ⅱ	水理学演習			
					水工学			
			土質力学Ⅰ	土質力学Ⅱ	土質力学演習	岩盤工学		
					地質工学	耐震工学		
					地震･火山防災工学	水・土砂防災工学		
			都市計画学	交通計画学	公共政策学	施工法		
			環境工学	上下水道工学	水環境工学	生態環境保全学		
					大気環境工学			
					資源循環工学	土壌環境工学		
							卒業研究	

赤文字：必修科目
黒文字：選択科目

理工学科

データサイエンス応用オープンクラス（初年次のみ）

区分等	科目名	単位数 必修	単位数 選択	履修年次 1年次（初年次） 前期	1年次（初年次） 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	備考
コース専門入門科目	理工学入門	1		○								〔注２〕
	化学入門	2※	1		○							※選択必修2科目（2単位）
	数理・物理入門		1		○							
	材料科学入門		1		○							
	情報学入門		1		○							
	電気電子・情報通信入門		1		○							
	機械知能航空入門		1		○							
	社会基盤・環境工学入門		1		○							
専門基礎科目	〔注３〕											〔注３〕
理工学専門共通科目	ソフトパス理工学序論	1		○								
	ソフトパス理工学実践	1			○							
	科学技術英語（入門）	1			○							
	半導体入門		1	○								＊半導体人材
	半導体デバイスと製造プロセス		1			○						＊半導体人材
	数理・データサイエンス基礎および演習	2		○								＊ＤＳ副プロ
	ＡＩ基礎および演習	2			○							＊ＤＳ副プロ
	原子力工学		2					←	○	→		
	技術者倫理	2						← ○（前期） →				〔注６〕
	工業経営管理論		2					←	○	→		
	知的財産権概論		2					← ○（前期） →				
	特許法特講		2					← ○（前期） →				
	社会体験学習		1～2					←★→				
	国際研修		1～2			←		★		→		
	化学Ｃ		2		○							
	情報学基礎		2		○							
	電気数学		2		○							代
	機械工作実習		1	○								
コース専門横断科目	〔注４〕											〔注４〕
コース科目	〔注５〕											〔注５〕
高大連携科目	理工学入門数学Ⅰ		＊2	○								〔注１〕
	理工学入門数学Ⅱ		＊2	○								〔注１〕
	理工学入門物理Ⅰ		＊2	○								〔注１〕
	理工学入門物理Ⅱ		＊2	○								〔注１〕
	理工学入門化学		＊2	○								〔注１〕

注意事項

〔注１〕 [高大連携科目]理工学入門科目の単位（*）は専門科目（選択）の単位として認定されますが，卒業要件単位数には含まれません。

〔注２〕 [コース専門入門科目]は，理工学入門を必修とします。
また，化学，数理・物理，材料科学，情報学，電気電子・情報通信，機械知能航空，社会基盤・環境工学の計７科目から，２科目２単位を選択必修とします。この科目数（単位数）以上を履修しても，卒業要件内の選択単位には含まれませんので，注意してください。

〔注３〕 ２年次以降に所属したいコースの「専門基礎科目」区分を参照のうえ履修してください。

〔注４〕 ２年次以降に所属したいコースの「コース専門横断科目」区分を参照のうえ履修してください。

〔注５〕 ２年次からの所属コースの教育課程に従って履修してください。

〔注６〕 この科目は,所属コースによって必修／選択が異なります。

〔注７〕 備考欄の＊印は，各特別プログラム関係科目を示しています。

（３）教職に関する科目・教科に関する科目表

科目区分及び授業科目（注１）		単位数	１年次		２年次		３年次		４年次		備考
			前	後	前	後	前	後	前	後	
教職に関する科目	教職入門	2	←	→							
	教育概論	2			←	—	—	—	→		
	教育・学校心理学	2		←	—	—	—	→			
	教育法規	2			←	—	—	—	→		
	学校経営・制度論	2				←	—	→			
	特別支援教育	2			←	—	—	—	→		
	総合的な学習の時間の理論と実践	2				←	—	→			
	特別活動の理論と方法	2		←	—	—	—	—	→		
	教育課程・教育方法論	2			←	—	—	—	→		
	教育におけるICT活用法	1					←	—	—	→	
	生徒指導・進路指導	2		←	—	—	—	→			
	教育相談	2		←	—	—	—	→			
	教職実践演習	2								↔	
	教育実習	3							↔	—	
	教育実習事前事後指導						←	—	—	→	
教科及び教科の指導法に関する科目	数学科教育法Ⅰ	2			←	—	—	—	→		
	数学科教育法Ⅱ	2				←	—	→			
	理科教育法Ⅰ	2			←	—	—	—	→		
	理科教育法Ⅱ	2				←	—	→			
	情報教育法Ⅰ	2			←	—	—	—	→		
	情報教育法Ⅱ	2				←	—	→			
	工業教育法Ⅰ	2			←	—	—	—	→		
	工業教育法Ⅱ	2				←	—	→			
	職業指導	2			←	—	—	—	→		

（注１） 本表の科目は，卒業要件単位数に含まれません。

Ⅵ

専門教育について

農学部

農　学　部

＜農学部の理念と目標＞

＊理念

現在の農学分野においては，世界的規模で進む環境の変化や農業生産を取り巻く様々な情勢の変化を反映した教育・研究の必要性が増している。さらに，年々複雑化，多様化する農学分野における諸課題の解決にあたっては，個々の専門分野における教育・研究の深化のみならず，農学分野を広く横断する俯瞰的な視点に立った教育・研究が強く求められており，その実践を農学部の理念とする。

＊教育目標

農学分野において基盤を成す「食料」「生命」「環境」の３つの領域を基軸として，各領域に関する教育・研究，さらには３つの領域を俯瞰しそれらを複合するための「農学の総合知」教育を実践する。

＊研究目標

農学部は，独創的な国際レベルの学術研究，そして地域社会との連携による新分野の研究を追求する。具体的には以下の視点からの研究の推進と質的向上を目指す。

１）持続可能な地域農林水産業と豊かな社会の形成に対する貢献
２）地球規模の問題を視野に入れた課題の解決
３）生物系産業の創出・発展への積極的な取り組み

＊社会貢献目標

農学部は，地域社会に存在する教育，研究ニーズを積極的に掘り起こし，学部の教育・研究課題として受け止める一方，その成果をわかりやすく解説しながら社会に還元していくことを目標とする。この目標実現のためには，日常的に地域社会と農学部の交流を十全にし，その関係構築の土壌形成に努めることとする。

さらに，地域社会から国際社会へ教育研究の場を拡げ，知的資産を還元し社会に貢献する。

＜教育目的＞

農学分野において基盤を成す「食料」「生命」「環境」の３つの領域に関する教育に加えこれら３つの領域を俯瞰しそれらを複合するための「農学の総合知」に関する教育の実践により，自身の専門分野に関して農学全体からの視点を持ち，身につけた知識・技術を他の分野に広く展開できる能力を持った次世代の農学人材の育成を教育目的とする。

食料農学科

＜教育目的＞

食料農学科は，人々の生存の基盤である食料の生産とそれを基にした食品に関わる知識と技術の教育と研究を行い，地域・国際社会での食料生産，食品供給，健康分野における課題解決や新しい価値の創出を通じて，健康で持続的な食料と食品の生産・供給を担う人材の養成を目的とする。

＜学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）＞

【農学コース】

農学コースの教育目的に則り，所定の教育課程を修了し，以下の各項目を身につけた学生に「学士(農学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1．農業および食品産業に関わる諸問題を理解するために必要な自然科学，情報技術，コミュニケーション技術に関する基礎知識を有している。

2．食料の持続的な安定生産および安定供給，生命機能の解明と食料生産への応用に関する基礎的知識および科学的方法を理解している。

(思考・判断)

3．農学に関する知識と理解を基礎に，関連する諸問題に対して多面的に考察し，自分の考えをまとめ，行動することができる。

(関心・意欲)

4．豊かな課題探求能力と課題解決能力をもって農業および食品産業が抱える諸問題を解決しようとする意欲を持っている。

(態度)

5．農学に関連した産業の創出・発展のニーズに，協調性と倫理性をもって，自立的・継続的に行動することができる。

(技能・表現)

6．自らの倫理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得している。

【食品健康科学コース】

食品健康科学コースの教育目的に則り，所定の教育課程を修了し，以下の各項目を身につけた学生に「学士（農学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1．食と健康に関わる諸問題を理解するために必要な自然科学，社会科学，情報技術およびコミュニケーションに関する基礎知識を身につけている。

2．農産物や食品素材の物理的・化学的特性やその加工に関する知識，栄養代謝や天然資源の健康機能素材に関する理解が身についている。

(思考・判断)

3．農産物や食品素材に関する知識と理解を基礎に，食糧，健康に関する諸課題・未知事項について，多面的に思考し自らの考えをまとめる能力を身につけている。

(関心・意欲)

4．食糧，健康に関する課題や未知事項に関心を持ち，その解決・解明に取り組む意欲を持っている。

(態度)

5．農産物，食品素材，天然資源の有効利用やその応用を通じて，食品産業や医薬品産業を始めとする食品・健康関連産業の創出・発展に寄与し，広い視野を持って地域や社会に貢献する考え方や行動がとれる。

(技能・表現)

6．自らの知識と論理的な思考に基づいた判断結果を的確に説明する表現力や，それを実践する技能を修得している。

＜教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）＞

食料農学科は，人類の生存基盤である食料の生産とそれを基にした食品に関わる知識と技術の教育と研究を行い，地域・国際社会での食料生産，食品供給，健康分野における課題解決や新しい価値の創出を通じて，健康で持続的な食料と食品の生産・供給を担う人材を育成する。

【農学コース】

農学コースでは，農学に関する専門知識と技術を身につけ，社会のリーダーとして活躍できる専門職業人，またグローバルな視点をもった研究者・技術者として国内外で活躍できる人材を育成するた

め，以下のカリキュラムを構成している。
なお，教育課程を編成している各科目の評価に関しては，別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。
（知識・理解）
1．広範な知識と高い倫理性を身につけるために，教養教育科目群，専門基礎科目群，学部共通科目群に属する科目の履修を必修としている。
2．農業および食品産業に関する高い専門知識と技術を身につけるために，専門コア科目において作物学，園芸学，植物育種学，植物病理学，土壌学，植物栄養生理学，農業経済学に関する科目群を配置している。
（思考・判断）
3・農学に関する知識と理解を基礎に，関連する諸課題に対して多面的に考察し，自分の考えをまとめることができるように，学科概論，専門コア科目に演習科目および実験科目を配置している。
（関心・意欲）
4．農業および食品産業に関する具体的な課題への関心と，課題を解決する能力・技術・意欲を身につけるための科目として，専門コア科目に農場実習，学部共通科目に「農学の総合知」修得のための概論と演習，インターンシップおよび卒業研究を配置している。
（態度）
5．農業および食品産業の創出・発展のニーズに，協調性と倫理性をもって，自律的・継続的に行動できる能力を修得するために，インターンシップ，農学のための倫理学，食料農学科概論および卒業研究を配置している。
6．論理的な思考の過程と判断の結果をわかりやすく説明するための高いプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得するために，演習科目，卒業研究および科学英語を配置している。

【食品健康科学コース】
食品健康科学コースでは，国内外の食品産業の発展や超高齢社会において食を通じた人々の健康に寄与できる人材を育成することを目的として，以下のカリキュラムを編成している。
なお，教育課程を編成している各科目の評価に関しては，別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。
（知識・理解）
1．食と健康に関わる諸問題を理解するために必要な自然科学，社会科学，情報技術およびコミュニケーションに関する基礎知識を身につけるため，教養教育科目と専門基礎科目の履修を必修としている。
2．農産物や食品素材の物理的・化学的特性やその加工に関する知識，栄養代謝や天然資源の健康機能素材に関する理解を修得するため，専門コア科目に食品化学，栄養化学，食品工学，天然物化学，食品微生物学に関する科目群を配置している。
（思考・判断）
3．農産物や食品素材に関する知識と理解を基礎に，食糧，健康に関する諸課題・未知事項について，多面的に思考し自らの考えをまとめる能力を育成するため，専門コア科目に演習科目および実験実習科目を配置している。
（関心・意欲）
4．食糧，健康に関する課題や未知事項に関心を持ち，その解決・解明に意欲的に取り組むために，学部共通科目にインターンシップや卒業研究を配置している。
（態度）
5．農産物，食品素材，天然資源の有効利用やその応用を通じて，食品産業や医薬品産業を始めとする食品・健康関連産業の創出・発展に寄与し，広い視野を持って地域や社会に貢献する考え方や行動をとることが可能になるよう，インターンシップ，農学の総合知の修得に関する科目および学科概論を配置している。
（技能・表現）
6．自らの知識と論理的な思考に基づいた判断結果を的確に説明する表現力や，それを実践する技能を修得するため，学部共通科目に科学英語や卒業研究，専門コア科目に演習科目や実験実習を配置している。

生命科学科

＜教育目的＞

生命科学科は，生命の営みの基本であるタンパク質や核酸，糖鎖や脂質などが関与する分子レベルの反応に焦点を当て，生命現象を分子レベルで理解することにより，地球環境問題の解決，種の多様性の保存，健康寿命の延長など，次世代の諸問題の解決を先導できる人材の養成を目的とする。

＜学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）＞

【分子生物機能学コース】

分子生物機能学コースの教育目的に則り，所定の教育課程を修了し，以下の各項目を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

1．生物機能を理解するための基礎となる自然科学や専門知識を広い視野で俯瞰できる教養的素養を有している。

2．生化学，分子生物学，細胞生物学，微生物学，植物生理学，応用昆虫学の専門的な基礎知識を身につけ，様々な生き物の生物機能について十分に理解している。

（思考・判断）

3．様々な生物における分子機能に関する知識と理解を基礎に，関連する諸課題に対して多面的に考察し，自分の考えをまとめることができる。

（関心・意欲）

4．様々な生物における分子機能の未解決課題に関心を持ち，産業への応用をはじめとして，環境や食料，健康などの分野での問題解決に意欲的に取り組むことができる。

（態度）

5．様々な生物における分子機能の有効利用やその応用を通じて，分析系や化学系，食品系の関連産業や研究関連分野の創出・発展に寄与し，高い倫理観を持って地域や社会に貢献する考え方や行動がとれる。

（技能・表現）

6．自らの知識と論理的な思考に基づいた判断を的確に説明する表現力や，それを実践する技能を修得している。

【分子生命医科学コース】

分子生命医科学コースの教育目的に則り，所定の教育課程を修了し，以下の各項目を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

1．生命活動のプログラムを分子レベルで解き明かす分子生命科学やその知見を医療に役立てる生命医科学を理解するための基礎となる自然科学や専門知識を広い視野で俯瞰できる教養的素養を有している。

2．生化学，分子生物学，バイオテクノロジー，細胞生物学，生理学，神経科学，免疫学，組織形態学，再生医療工学，動物行動学などの専門的な基礎知識を身につけ，様々な生命活動のプログラムについて十分に理解している。

（思考・判断）

3．生命活動のプログラムやその医療への応用に関する分子レベルでの知識と理解を基礎に，関連する諸課題に対して多面的に考察し，自分の考えをまとめることができる。

（関心・意欲）

4．様々な生命活動のプログラムに関する分子メカニズムに関心を持ち，生活の質(Quality of life; QOL)の向上に役立てる試みをはじめとして，健康衛生や疾病の予防などの生命科学に関連する問題解決に意欲的に取り組むことができる。

（態度）
５．様々な生命活動のプログラムの分子レベルでの解明やその医療への応用を通して，医療系や製薬系，化学系，食品系の関連産業や研究関連分野の創出・発展に寄与し，高い倫理観を持って地域や社会に貢献する考え方や行動がとれる。
（技能・表現）
６．自らの知識と論理的な思考に基づいた判断を的確に説明する表現力や，それを実践する技能を修得している。

＜教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）＞

生命科学科は，生物の分子レベルでの知識と理解に立脚し，様々な問題を俯瞰的に捉え，地球環境問題の解決，種の多様性の次世代への保存，健康寿命の延長など，次世代の諸問題の解決するための教育研究を行う。

【分子生物機能学コース】

分子生物機能学コースでは，微生物，植物，昆虫，動物など様々な生き物の生物機能に関わる基礎的および専門的知識を習得し，実験，研究科目を学ぶ中で，自ら発想し行動する力，独創性ならびに柔軟な対応力を身につけ，グローバル化する社会でその力を発揮できる，自律性や判断力を持つ人材を育成することを目的として，以下のカリキュラムを編成している。

なお，教育課程を編成している各科目の評価に関しては，別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

（知識・理解）
１．生物機能を理解するための基礎となる自然科学や専門知識を広い視野で俯瞰できる素養を身につけるために，教養教育科目，専門基礎科目，学部共通科目に属する科目の履修を選択必修としている。
２．様々な生物の機能を分子レベルで解明し，産業への応用をはじめとして，環境や食料，健康などの分野で問題解決へと導く専門的な基礎知識を身につけるために，専門コア科目において生化学，分子生物学，細胞生物学，微生物学，植物生理学，応用昆虫学に関する科目群を配置している。
（思考・判断）
３．様々な生物における分子機能に関する知識と理解を基礎に，関連する諸課題に対して多面的に考察し，自分の考えをまとめることができるように演習科目および卒業研究を配置している。
（関心・意欲）
４．様々な生物における分子機能の未解決課題へ関心を持ち，また，専門知識を産業へと応用することをはじめ，環境や食料，健康などの分野での課題解決への意欲を身につけるための科目としてインターンシップおよび卒業研究を配置している。
（態度）
５．様々な生物における分子機能の有効利用やその応用を通じて，分析系や化学系，食品系の関連産業や研究関連分野の創出・発展に寄与し，高い倫理観を持って地域や社会に貢献する考え方や行動をとることが可能になるよう学部共通科目のインターンシップや専門重点科目の農学のための倫理を配置している。
（技能・表現）
６．自らの知識と論理的な思考に基づいた判断を的確に説明する表現力や，それを実践する技能を修得するために，演習科目，卒業研究，科学文献読解法を配置している。

【分子生命医科学コース】

分子生命医科学コースでは，様々な生命活動の分子レベルでの解明・理解に基づく医療への応用に関する基礎的および専門的知識を習得し，実験，研究科目を学ぶ中で，自ら発想し行動する力，独創性ならびに柔軟な対応力を身につけ，生命科学分野の諸問題の解決に力を発揮できる，自律性や判断力を持つ人材を育成することを目的として，以下のカリキュラムを編成している。

なお，教育課程を編成している各科目の評価に関しては，別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

（知識・理解）
1．様々な生命活動のプログラムを分子レベルで理解し，その知見を医療に応用する基礎となる自然科学や専門知識を広い視野で俯瞰できる素養を身につけるために，教養教育科目，専門基礎科目，学部共通科目に属する科目の履修を選択必修としている。
2．生命活動のプログラムを分子レベルで理解し，生命科学分野の諸問題の解決へと導く専門的な基礎知識を身につけるために，専門コア科目において生化学，分子生物学，バイオテクノロジー，細胞生物学，生理学，神経科学，免疫学，組織形態学，再生医療工学，動物行動学などに関する科目群を配置している。
（思考・判断）
3．生命活動のプログラムや医療に関する知識と理解を基礎に，関連する諸課題に対して多面的に考察し，自分の考えをまとめることができるように実験科目，情報科目および卒業研究を配置している。
（関心・意欲）
4．生命活動のプログラムの分子レベルでの理解やその医療への応用に関する諸問題に関心を持ち，専門知識を生活の質(Quality of life; QOL)の向上へと応用することをはじめ，健康衛生や疾病の予防などの分野での課題解決への意欲を身につけるための科目としてインターンシップおよび卒業研究を配置している。
（態度）
5．生命活動のプログラムの分子レベルでの理解やその医療への応用を通して，医療系や製薬系，化学系，食品系の関連産業や研究関連分野の創出・発展に寄与し，高い倫理観を持って地域や社会に貢献する考え方や行動をとることが可能になるよう学部共通科目インターンシップや専門重点科目に農学のための倫理を配置している。
（技能・表現）
6．自らの知識と論理的な思考に基づいた判断を的確に説明する表現力や，それを実践する技能を修得するために，実験科目，情報科目，卒業研究を配置している。

地域環境科学科

＜教育目的＞

地域環境科学科では，持続可能な食と農の科学，地域生態系の保全，森林資源の管理と持続的な利用，持続的農業生産と環境管理，農業インフラの整備，スマート農業システムの導入，グリーントランスフォーメーションについて，地球環境問題とSDGsへの対応を念頭に置いた教育を行い，未来の農林業を担う地域先導型人材の養成を目的とする。

＜学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）＞

【革新農業コース】

革新農業コースの教育目的に則り，所定の教育課程を修了し，以下の各項目を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与する。
（知識・理解）
1．自然科学や情報技術および地域文化に関する基礎知識を深く理解している。
2．革新的な農業技術の基礎および応用分野の知識を身につけている。
（思考・判断）
3．地域の課題について考察し，課題解決のための適切な判断ができる能力を身につけている。
4．革新的な農業技術について総合的に考察し，適切な判断ができる能力を身につけている。
（関心・意欲）
5．持続可能な食料・農業・農村システムの実現に関心を持ち，問題解決に貢献しつつ地域農業を先導する意欲と能力を持っている。

（態度）
６．自らの社会的責任と倫理遵守の重さを自覚し，多様な主体と協働しながら継続的に学ぶ態度を身につけている。
（技能・表現）
７．調査・研究や各種統計によるデータを分析・利用する技能を身につけている。
８．聞き手に明快に説明できるプレゼンテーション技能とコミュニケーション能力を身につけ，文章や口頭発表によって表現できる。

【森林科学コース】
森林科学コースの教育目的に則り，所定の教育課程を修了し，以下の各項目を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与する。
（知識・理解）
１．数学，自然科学，情報処理に関する基礎的知識を持っている。
２．森林科学の学問内容および方法を説明できる。
（思考・判断）
３．森林の多面的機能について，総合的に考えることができる。
４．与えられた制約の下で計画的に仕事を進めることができる。
（関心・意欲）
５．地球的視点から，各地の文化や異なる価値観に関心を示している。
６．自主的，継続的に学修できる。
（態度）
７．技術者が社会に対して負っている責任を感じる。
８．チームワークを意識して行動できる。
（技能・表現）
９．日本語で論理的に記述・発表・討議できる。
10．森林科学の知識を利用し，社会の要求を解決するために提案できる。

＜教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）＞
地域環境科学科では，持続可能な食と農の科学，地域生態系の保全，森林資源の管理と持続的な利用，持続的農業生産と環境管理，農業インフラの整備，スマート農業システムの導入，グリーントランスフォーメーションについて，地球環境問題とSDGs達成への対応を念頭に置いた教育を行い，未来の農林業を担う地域先導型人材を育成することを目的として，以下のカリキュラムを編成している。
なお，教育課程を編成している各科目の評価に関しては，別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

【革新農業コース】
革新農業コースでは，農業と食を切り拓く革新的な農業技術を取り扱うことのできる人材の輩出を目的とした教育を行う。具体的には，スマート農業技術を核とした，農村環境や農業のインフラ整備の技術の開発，地域のネットワークづくり，次世代型食料システムの創出を担うことのできる人材を育成する。さらには，グローバルな視点と高度な専門知識を備えて地域農業を先導するとともに，持続可能な食料・農業・農村システムの実現に向けた取り組みを通じてSDGs達成に貢献できる人材育成のための教育・研究を展開することを目的として，以下のカリキュラムを編成している。
（知識・理解）
１．自然科学や情報技術および農業と食を切り拓く革新的な農業技術に関する基礎知識を深く理解できるよう，教養教育科目と専門基礎科目の幅広い履修を課している。
２．スマート農業技術を核とした，農村環境整備や農業生産のインフラ整備の技術開発，地域のネットワークづくり，次世代型食料供給システムの構築の知識を身につけられるよう，コース科目に，力学系科目群，地理情報系科目群，水土系科目群，農業・食料生産科学系科目群，生態・社会科学系科目群，演習科目群を配置している。

（思考・判断）
3.地域の問題点と課題を把握し,専門知識を総合してさまざまな課題について考察できるとともに，課題解決のための判断力が養われるよう，コース科目に演習科目群，学部共通科目にインターンシップと卒業研究を配置している。
4．革新的な農業技術について総合的に考察し，その現場適用における適切な判断ができる能力を養えるよう，コース科目にスマート農業概論，フィールドロボティクス，革新農業実践論などの実用的かつ実践的な授業科目群を配置し，２，３年次での履修を促している。
（関心・意欲）
5.持続可能な食料・農業・農村システムの実現に向けた取り組みや革新的な農業技術に関心を持ち，これらを取り巻く課題を解決しつつ地域農業を先導する意欲と能力を身につけられるよう，講義に関連する演習，実験科目を設けている。
（態度）
6．将来の技術者あるいは研究者としての社会的責任と倫理遵守の重さを自覚し，多様な主体と協働して学びを継続するよう，コース科目の演習，実習科目を配置するとともに，学部共通科目にインターンシップを配置している。
（技能・表現）
7．調査・研究や各種統計によるデータを分析・利用する技能の獲得を目的として，情報処理演習や地理情報処理学を設けている。
8．聞き手に明快に説明できるプレゼンテーション技能とコミュニケーション能力および文章や口頭発表による表現力を身につけられるよう，農学の総合知演習と学部共通科目の卒業研究を必修としている。

【森林科学コース】
森林科学コースでは，東北地方の恵まれた自然環境を背景として，森林の持つ多様な環境保全機能や樹木資源の生産と利用について総合的に学習し，自然との共生関係を築きながら発展できる地域社会の実現に貢献する人材を育成することを目的として，以下のカリキュラムを編成している。
なお，教育課程を編成している各科目の評価に関しては，別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。
（知識・理解）
1．数学，自然科学，情報処理に関する基礎的知識を獲得するため，１，２年次に教養教育科目の技法知科目（情報科目），学問知科目（理学・工学領域）及び学部専門基礎科目の履修を促している。
2．森林科学の学問内容と方法を説明できるようにするため，専門コア科目に森林学・森林工学，自然環境学，林産学に関する基礎的な授業・実習科目群を配置し，２，３年次の履修を促している。
（思考・判断）
3．森林の多面的機能について，総合的に考えることができるようにするため，専門コア科目に野生動物管理学，森林政策学，砂防学などの応用的な授業科目群を配置し，２，３年次の履修を促している。
4．与えられた制約の下で計画的に仕事を進められるようにするため，専門コア科目に森林造成学実習，森林利用学実習，砂防学実習などの野外実習科目群を配置し，３年次の履修を促している。
（関心・意欲）
5．地球的視点から各地の文化や異なる価値観に関心を示すようになるため，１，２年次に教養教育科目の学問知科目と技法知科目（外国語）の履修を促している。
6．自主的・継続的に学修できるようにするため，専門コア科目全般で自己学習時間の確保を促すとともに，宿題を特に重視する科目として，専門コア科目の森林計測学，専門基礎科目の生物統計学を配置し，１年次の履修を促している。
（態度）
7．技術者倫理を感じられるようにするため，学部共通科目のインターンシップの履修を促すとともに，専門コア科目に技術者倫理入門，森林科学応用演習 I，専門サブ科目に海外・日本の林業を配置し，２，３年次の履修を促している。
8．チームワークを意識して行動できるようにするため，専門コア科目に森林科学基礎演習，森林測量学実習Ⅰ・Ⅱを配置し，１年次から２年次の履修を促している。

（技能・表現）
9．日本語で論理的に記述・発表・討議できるようにするため，１年次に専門コア科目の森林科学の歴史と現在，学科共通科目の地域環境科学概論の履修を促している。
10．森林科学の知識を利用し，社会の要求を解決するために提案できるようにするため，専門コア科目に森林科学応用演習 I，森林科学応用演習Ⅱ，学部共通科目に卒業研究を配置し，３年次後期から４年次の履修を促している。

森林科学コースは日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を指向するコースである。地球的視点と技術者としての社会に対する責任感を持ち，森林科学の主要分野である「森林学，森林工学，自然環境・社会学，林産学」について基礎知識と応用能力を兼ね備えた人材を「自立した技術者像」として定め，本コースの学習・教育到達目標を以下のとおりとする。
（A）フォレストエンジニアとして必要な基礎的な素養・能力を修得する。
①国際人として自国の文化，他国の文化や異なる価値観などを理解し，基礎的な英会話によるコミュニケーションができる知識・能力を身につける。
②技術者として社会性をもち，技術が人間，社会，自然へ及ぼす影響や効果について理解，自覚し，責任ある態度をとる能力を身につける。
③インターンシップ，演習林宿泊実習，現地見学などの実体験を通じて，チームで仕事をするための能力と職業人としての自覚と社会性を身につける。
④３年次後期から１年半にわたる卒業研究などを通じて，実験・調査計画の立案・遂行能力とデータ解析能力の向上を図るとともに，成果の取りまとめ，発表などにより，デザイン能力，問題解決能力，コミュニケーション能力，プレゼンテーション能力を身につける。
（B）数学，自然科学，情報処理などの森林科学の基礎知識を修得する。
（C）森林科学の専門領域である「森林学，森林工学，自然環境・社会学，林産学」の専門基礎を系統的に学び，地域，地球規模での森林管理に必要な基盤となる知識を修得する。
（D）冷温帯林における豊富な自然環境での実習，現地見学などにより森林造成，森林計画，森林防災を学び，自然への深い理解に基づいた森林管理技術を修得する。
（E）実習，実験，現地見学などにより木材生産や木材利用を学び，人工林資源の利活用により冷温帯林における持続的森林経営や地域林産業に貢献できる，森林利用技術を修得する。
（F）森林科学の知識を応用し，森林管理の諸問題に適切に対応できる，幅広い専門知識とそれらを問題解決に利用できる実践的能力を備えた専門性の高い自立した職業人，フォレストエンジニアとして活躍できるための総合的な知識・能力を修得する。

動物科学・水産科学科

＜教育目的＞

動物科学・水産科学科は，農学領域において畜産物および水産物の生産と供給を担う二つの産業基盤を背景とした教育・研究を行うとともに，野生動物，展示動物，実験動物および海洋生物の生理・生態とそれらの有益な利用方法に関する知識および技術の教育・研究を行うことにより，動物・水産資源の安定的な生産と供給，その高度利用に貢献する人材の養成を目的とする。

＜学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）＞

【動物科学コース】

動物科学コースの教育目的に則り，所定の教育課程を修了し，以下の各項目を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

（知識・理解）
1．農学全体を俯瞰する幅広い知識及びその基礎となる教養を持っている。
2．動物生産及び動物科学分野に関する知識を持っている。
（思考・判断）
3．動物関連産業に関する課題の解決を適切に行うため，動物生産及び動物科学分野に関する知識により考察することができる。
（関心・意欲）
4．動物関連産業に関する課題に関心を持ち，課題の解決に意欲的に取り組むことができる。
（態度）
5．動物関連産業に関する課題の解決を客観的に行うため，情報収集及び議論を積極的に行うことができる。
（技能・表現）
6．動物関連産業に関する課題を解決して論文又は口頭で発表を行うか，修得した動物生産及び動物科学分野の技術を実践することができる。

【水産システム学コース】
水産システム学コースの教育目的に則り，所定の教育課程を修了し，以下の各項目を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与する。
（知識･理解）
1．水産システム学を実践するための数学，自然科学，社会科学，コミュニケーション（日本語・英語）に関する基礎的知識を身につけている。
2．水産業の復興と持続的発展に貢献するために，水産科学分野に加えて，水産業に関わる人文・社会科学分野までの幅広い関連分野を網羅した水産システム学を体系的に身につけ，水産業の現状とその課題を俯瞰的視点から理解できる。
（思考･判断）
3．水産業が抱える諸課題について多角的に分析，俯瞰的に思考し，最善の解決策を判断できる。その中で個人のそれぞれの志向に応じた専門性追求に向けて関連分野を含めた幅広い知識を修得している。
（関心･意欲）
4．日本と世界の水産業の持続的発展の諸課題に関心を持ち，地域における実体験を通した学びを通して問題解決に意欲的に取り組むことができる。
（態度）
5．水産業に関わる専門家としての高い倫理観を持ち，真摯に責任をもって持続的水産業構築の諸課題について積極的に携わる態度を持つ。
（技能･表現）
6．水産システムを構成する漁業，増養殖業，加工・流通産業を理解し，分析するための基礎的技術を身につけ，地域貢献活動などによる実体験を通して社会実践に向けた意欲が養われている。
7．調査・実験や各種統計によるデータを的確かつ適正に分析・利用する技術，結果に基づく論理的な思考能力，および得られた結果を的確に伝えることができるコミュニケーション力（プレゼンテーション，日本語，英語）を身につけている。

＜教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）＞
動物科学・水産科学科は，「食料」「生命」「環境」のいずれの領域にも深く関連する教育・研究分野として，畜産物および水産物の生産と供給を担う二つの産業基盤を背景とした専門分野に関するカリキュラム，さらには，野生動物や海洋生物の生理・生態とそれらの利用に関するカリキュラムを編成している。

【動物科学コース】
動物科学コースでは，産業動物（家畜），実験動物，野生動物，展示動物などの様々な動物種を対

象に，人と動物が共生する心豊かな地域社会の創造を目指し，効率的かつ機能的な動物関連産業の発展と動物科学に関する高度な科学技術の開発に貢献できる人材を育成することを目的として，以下のカリキュラムを編成している。

なお，教育課程を編成している各科目の評価に関しては，別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

（知識・理解）

1．学士としての幅広い教養と豊かな人間性を養うために，教養教育科目，専門基礎科目の履修を必修としている。

2．動物生産及び動物科学分野に関する知識を身につけるために，産業動物（家畜），実験動物，野生動物，展示動物など，幅広い動物種を対象として，動物の生理，形態，組織，遺伝育種，発生，生殖，飼料，草地，栄養，飼養，管理，行動及び動物資源の利用に関する専門重点科目を配置している。

（思考・判断）

3．動物関連産業に関する課題を理解し，講義で得た専門知識を駆使して課題解決を適切に行う技能を養成するために，各専門コア科目の実験科目および牧場実習などを配置している。

（関心・意欲）

4．我が国有数の畜産物生産地域である東北地方という背景を活かし，動物関連産業発展に資する動物科学を学ぶために，牧場実習を含む専門コア科目を配置し，その一部に現場見学を取り入れている。また，実地研修の内容を取り入れた科目として，インターンシップを配置している。

（態度）

5．情報収集及び客観的な議論を積極的に行うことができる技能を養成するために，各専門コア科目の実験および牧場実習，さらに卒業研究へつながるよう科目を配置している。

（技能・表現）

6．修得した動物生産及び動物科学分野の技術を総合的に実践する能力を養成するために卒業研究およびインターンシップを配置している。

【水産システム学コース】

水産システム学コースでは，広範な水圏生物の生態解明と水産資源の利活用と保全の方法に関わる分野を学び，グローバルな食料需給とローカルな資源循環の視点から地域産業と地方創生を担う人材を育成することを目的として，以下のカリキュラムを編成している。

なお，教育課程を編成している各科目の評価に関しては，別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

（知識･理解）

1．水産システム学を実践するための数学，自然科学，社会科学，コミュニケーション（日本語・英語）に関する基礎的知識を獲得するため，1，2年次の教養教育科目に関連科目履修を促している。

2．水産業の復興と持続的発展に貢献する人材を育成するために，水産科学分野に加えて，水産業に関わる社会科学分野までの幅広い関連分野を網羅した水産システム学を体系的に提供する。

3．その中で学生個人それぞれの志向に応じた専門性追求の意欲を醸成し，関連領域への知識拡大のため，他学科・コース提供科目履修の機会を提供する。

（思考･判断）

4．水産業が抱える諸課題について多角的に分析，俯瞰的に思考し，地域における実体験を通した学びを通して最善の解決策を判断できるよう基礎論と実践的な実習･演習を配置している。

（関心･意欲）

5．日本と世界の水産業の持続的発展の諸課題に関心を持ち，問題解決に意欲的に取り組めるように，水産業の発展に関連した科目を配置している。

（態度）

6．水産業に関わる専門家としての高い倫理観を持ち，真摯に責任をもって持続的水産業構築の諸課題について積極的に携われるように，水産業復興に資する科目を配置している。

（技能･表現）

7．水産システムを構成する漁業，増養殖業，加工・流通産業を理解し，分析するための基礎的技術を身につけるために，海洋実習や地域水産業実習などの実習科目を配置している。また，学生個人

による積極的な地域貢献活動を通した学びを推奨するため，地域貢献演習を配置している。
8．フィールド調査や実験，各種統計によるデータを的確かつ適正に分析・利用する技術，結果に基づく論理的な思考能力，および得られた結果を的確に伝えることができるプレゼンテーション力と語学力を身につける科目を配置している。

１．岩手大学農学部教育課程規則

（平成１６年４月１日制定）

（趣旨）

第１条　この規則は，国立大学法人岩手大学学則第３６条第５項及び岩手大学農学部規則第１３条の規定に基づき，岩手大学農学部（以下「本学部」という。）における専門教育（以下「専門教育」という。）に関し，必要な事項を定めるものとする。

（科目及び単位の修得）

第２条　専門教育における授業科目（以下「科目」という。）及び単位数は，別表第１に定めるところによる。

２　専門教育においては，別表第２に掲げる単位数以上を修得しなければならない。

３　科目の必修と選択の別，履修年次，時間数，履修方法等は，別に定める。

（授業時間割等の公示）

第３条　開講する科目の担当教員，授業時間等は，各学期の開始までに公示する。

２　学期の途中から開講する科目については，その都度公示する。

（履修科目の届出）

第４条　学生は，履修しようとする科目を指定の期間内に学部長に届け出なければならない。

２　前項の届け出をしない者は，単位の認定を受けることができない。

３　前項の届け出の後は，履修取り消しを認める指定期間内に限り，届け出た科目を取り消すことができる。

（他学科及び他学部科目の履修）

第５条　学生は，所定の手続きを経て他学科又は他学部の科目を履修することができる。

２　他学部の学生が，本学部の科目の履修を願い出たときは，前項に準ずる。

（他大学等での履修）

第６条　学生は，他の大学又は短期大学の授業科目を履修しようとするときは，所定の手続きを経て許可を得なければならない。

２　前項及び前条第１項の規定により修得した単位は，１０単位の範囲内で別表第２の選択の単位として認めることができる。

（試験）

第７条　試験を行う場合は，各学期末に行う。ただし，科目によってはその他適当な時期に行うことができる。

（雑則）

第８条　この規則に定めるもののほか，専門教育に関し必要な事項は，教授会において別に定める。

（規則の改正）

第９条　この規則の改正は，教授会の議を経なければならない。

附　則（省略）

別表第　１　（第３条第１項関係）

農学部専門教育科目表　　（省略）

別表第　２　（第３条第２項関係）

学生が修得すべき単位数　（省略）

２．学生が取得すべき単位数（教養教育及び専門教育）

学科		食料農学科		生命科学科		地域環境科学科		動物科学・水産科学科	
コース		農学コース	食品健康科学コース	分子生物機能学コース	分子生命医科学コース	革新農業コース	森林科学コース	動物科学コース	水産システム学コース
教養教育科目	技法知科目	１１	１１	１１	１１	１１	１１	１１	１１
	学問知科目	6	6	6	6	6	6	6	6
	探求知科目・実践知科目	4	4	4	4	4	4	4	4
	選択科目	7	7	7	7	7	7	7	7
	計	２８	２８	２８	２８	２８	２８	２８	２８
専門教育科目	必修科目	５８	６６	６３	７４	６７	６４	６５	４８
	選択科目	４０	３２	３５	２４	３１	３４	３３	５０
	計	９８	９８	９８	９８	９８	９８	９８	９８
合計		１２６	１２６	１２６	１２６	１２６	１２６	１２６	１２６

３．農学部専門教育科目履修表

食料農学科　農学コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考
				１年次		２年次		３年次		４年次		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○								
	線形代数学入門		2		○							
	微分積分学入門		2		○							
	物理学入門		2	○								物必
	化学入門		2	○								化必　※１（注１）
	化学		2	○								※１（注１）
	生物学入門		2	○								生必　※２（注１）
	生物学		2	○								※２（注１）
	地学入門		2		○							地必
	生物統計学		2		○							
	基礎化学実験		1		○							化実（注２）
	基礎生物学実験		1		○							生実（注２）
		2	7									（注３）
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○								
	農学の総合知実習	1		○								
	インターンシップ		1					★				
	科学英語	2				○						
	海外特別実習		1			★	★	★	★	★	★	
	データ分析演習	1				○						
	統計的機械学習実践	2							○			
	卒業研究	8							○	○	○	
学科共通科目	食料農学科概論	2			○							農必
	生命科学科概論		2				○					
	地域環境科学概論		2				○					
	動物科学・水産科学科概論		2				○					
専門コア科目	農学総論	1		○								
	作物栽培学	2			○							農
	食用作物学Ⅰ	2					○					農
	園芸学Ⅰ	2					○					農
	園芸学Ⅱ	2					○					農
	植物病理学Ⅰ	2					○					生
	植物病理学Ⅱ	2						○				生
	基礎遺伝学	2		○								生
	植物育種学Ⅰ	2					○					農
	食料経済学	2				○						農
	基礎分析化学	2				○						化
	土壌資源利用論	2				○						農
	応用昆虫学Ⅰ	2					○					生
	植物生理生化学	2					○					農
	植物栄養学・肥料学	2						○				農
	食料・農業政策演習	1							○			
	農学実験Ⅰ	2					○					化実
	農学実験Ⅱ	1						○				生実
	農学実験Ⅲ	1						○				農
	農学実験Ⅳ	1						○				農
	農学演習	1								○		
	農場実習Ⅰ	1				○						農
	農学の総合知演習	1							○			農
専門サブ科目	食用作物学Ⅱ		2					○				農
	園芸学Ⅲ		2					○				
	植物育種学Ⅱ		2					○				生
	農業経営学		2				○					農
	植物ウイルス学		2					○				生
	土壌環境微生物学・生化学		2						○			農
	フィールド管理学		2			○						農
	農場実習Ⅱ		1				○					農
	農場特別実習		1					★				

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考
				1年次		2年次		3年次		4年次		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
	食品化学		2			○						化
	食品機能学		2						○			農
	天然物化学		2				○					化
	ケミカルバイオロジー		2					○				生
	食品機能加工学Ⅰ		2			○						
	栄養化学		2				○					化
	食品微生物学		2					○				
	栽培施設学		2			○						農
	農作業システム学		2					○				農
	スマート農業概論		2						○			農
	ポストハーベスト工学		2				○					農
	農業循環工学		2				○					農
	生鮮食品保存科学		2					○				生
	応用昆虫学Ⅱ		2					○				生
	植物生理学Ⅰ		2			○						
	植物生理学Ⅱ		2				○					生
	共生生物学		2			○						
	生化学Ⅰ		2		○							化
	生化学Ⅱ		2			○						化
	遺伝子工学		2				○					生
必要修得単位数		58	40									
合計必要修得単位数		98										

○　専門基礎科目の履修について

（注１）※１の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。
　　※２の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。

（注２）基礎化学実験、基礎生物学実験の２科目から必ず１科目以上を修得しなければなりません。

（注３）専門基礎科目の選択単位については（注２）の実験を含め７単位以上修得しなければなりません。

○　その他の注意事項

①　この表に記載されていない教職科目を除く「農学部専門教育科目」「他学部専門教育科目（卒業要件外として開講している科目は除く）」「国際教育科目」「いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目」「他大学及び海外協定大学で修得した科目のうち本学部で認めた科目」について修得した単位は１０単位を上限として卒業に必要な単位として認めます。

②　★印は集中講義での実施を示します。○★印は，通常時間割の実習と集中的に行う実習を組み合わせて実施することを示します。（○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。）

③　教職免許法上の科目は次のように表示します。
　理科（物理学：物必・物，化学：化必・化，生物学：生必・生，地学：地必・地，「化学実験，生物学実験」：化実・生実）
　農業：農必・農
　物必・化必・生必・地必：理科の免許を取得するための必修科目です。
　農必：農業の免許を取得するための必修科目です。

④　編入学生は専門基礎科目以外の科目を修得してください。

食料農学科　農学コース　カリキュラムマップ

：教養科目　：専門科目（必修）　：専門科目（選択）

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	技法知科目	外国語科目/健康・スポーツ科目/情報科目		外国語科目（英語発展）					
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目							
		理学・工学領域科目/農学領域科目							
	探究知科目	環境科目/地域関連科目（地域科目）							
	実践知科目			地域関連科目（地域課題演習科目）					
専門教育科目	専門基礎科目	生物学入門	基礎生物学実験						
		化学入門	基礎化学実験						
		物理学入門	地学入門						
		基礎数学入門	線形代数学入門						
		生物学	微分積分学入門						
		化学	生物統計学						
	共通学科部目	農学の総合知概論		科学英語		インターンシップ	統計的機械学習実践		
		農学の総合知実習		データ分析演習			卒業研究		
				海外特別実習					
	共通学科科目		食料農学科概論		生命科学科概論				
					地域環境科学概論				
					動物科学・水産科学科概論				
	専門コア科目	農学総論	作物栽培学	食料経済学	食用作物学Ⅰ	植物病理学Ⅱ	食料・農業政策演習	農学演習	
		基礎遺伝学		土壌資源利用論	園芸学Ⅰ	植物栄養学・肥料学	農学の総合知演習		
				農場実習Ⅰ	応用昆虫学Ⅰ	農学実験Ⅱ			
				基礎分析化学	植物生理生化学	農学実験Ⅲ			
					植物病理学Ⅰ	農学実験Ⅳ			
					園芸学Ⅱ				
					植物育種学Ⅰ				
					農学実験Ⅰ				
	専門サブ科目		生化学Ⅰ	栽培施設学	農業経営学	食用作物学Ⅱ	土壌環境微生物学・生化学		
				共生生物学	農場実習Ⅱ	農作業システム学	食品機能学		
				フィールド管理学	天然物化学	園芸学Ⅲ	スマート農業概論		
				食品化学	ポストハーベスト工学	植物育種学Ⅱ			
				植物生理学Ⅰ	農業循環工学	植物ウイルス学			
				生化学Ⅱ	植物生理学Ⅱ	農場特別実習			
				食品機能加工学Ⅰ	遺伝子工学	ケミカルバイオロジー			
					栄養化学	生鮮食品保存科学			
						食品微生物学			
						応用昆虫学Ⅱ			

食料農学科　食品健康科学コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考
				1年次		2年次		3年次		4年次		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○								
	線形代数学入門		2		○							
	微分積分学入門		2		○							
	物理学入門		2	○								物必
	化学入門		2	○								化必　※1（注1）
	化学		2	○								※1（注1）
	生物学入門		2	○								生必　※2（注1）
	生物学		2	○								※2（注1）
	地学入門		2		○							地必
	生物統計学		2		○							
	基礎化学実験		1		○							化実（注2）
	基礎生物学実験		1		○							生実（注2）
		2	7									（注3）
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○								
	農学の総合知実習	1		○								
	インターンシップ		1					★				
	科学英語	2				○						
	海外特別実習		1			★	★	★	★	★	★	
	データ分析演習	1				○						
	統計的機械学習実践	2							○			
	卒業研究	8							○	○	○	
学科共通科目	食料農学科概論	2			○							農
	生命科学科概論		2				○					
	地域環境科学概論		2				○					
	動物科学・水産科学科概論		2				○					
専門コア科目	食品健康科学総論	1		○								
	食品化学	2				○						化，食必
	食品機能加工学Ⅰ	2				○						食必
	基礎分析化学	2				○						化，食必
	動物生理学Ⅰ	2				○						食必
	水産食品化学	2				○						食必
	天然物化学	2					○					化，食必
	栄養化学	2					○					化，食必
	食品生化学	2					○					生，食必
	熱工学	2					○					食必
	ケミカルバイオロジー	2						○				生，食必
	食品微生物学	2						○				食必
	計測解析科学	2						○				食必
	農産食品プロセス工学	2						○				農，食必
	生鮮食品保存科学	2						○				生，食必
	食肉科学	2						○				農，食必
	食品衛生学	2							○			農，食必
	食品機能加工学Ⅱ	2							○			食必
	食品機能学	2							○			農，食必
	牛乳科学・鶏卵科学	1							○			食必
	食品化学実験	1					○					食必
	食品機能加工学実験	1					○					食必
	栄養化学実験	1						○				食必
	化学生物学実験	1						○				食必
	食品生化学実験	1						○				食必
	食品微生物学実験	1						○				食必
	農学の総合知演習	1							○			農
	食品健康科学演習	1								○		
専門サブ科目	基礎遺伝学		2	○								生
	食用作物学Ⅰ		2				○					農
	食用作物学Ⅱ		2					○				農
	園芸学Ⅰ		2				○					農
	植物生理生化学		2				○					農，食
	植物栄養学・肥料学		2					○				農，食
	土壌環境微生物学・生化学		2						○			農，食
	生化学Ⅰ		2		○							化

	生化学Ⅱ		2			○						化
	分子生物学Ⅰ		2				○					
	分子生物学Ⅱ		2					○				
	細胞生物学Ⅰ		2		○							
	細胞生物学Ⅱ		2			○						
	生命情報学		2			○						
	遺伝子工学		2				○					生
	病態生化学		2				○					
	再生医療工学		2					○				
	微生物学概論		2				○					
	微生物生理学		2					○				
	産業微生物学		2					○				
	応用昆虫学Ⅰ		2				○					生
	ポストハーベスト工学		2				○					農，食
	水産食品加工学		2					○				食
	水産微生物学		2				○					食
必要修得単位数		66	32									
合計必要修得単位数		98										

○　専門基礎科目の履修について

（注１）※１の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。
　　※２の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。

（注２）基礎化学実験、基礎生物学実験の２科目から必ず１科目以上を修得しなければなりません。

（注３）専門基礎科目の選択単位については（注２）の実験を含め７単位以上修得しなければなりません。

○　その他の注意事項

①　この表に記載されていない教職科目を除く「農学部専門教育科目」「他学部専門教育科目（卒業要件外として開講している科目は除く）」「国際教育科目」「いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目」「他大学及び海外協定大学で修得した科目のうち本学部で認めた科目」について修得した単位は１０単位を上限として卒業に必要な単位として認めます。

②　★印は集中講義での実施を示します。○★印は，通常時間割の実習と集中的に行う実習を組み合わせて実施することを示します。（○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。）

③　食必・食は，食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得のため必要な科目です。食必は必修，食は選択で必修・選択をあわせて４０単位以上修得しなければなりません。

④　教職免許法上の科目は次のように表示します。
　理科（物理学：物必一・物，化学：化必一・化，生物学：生必一・生，地学：地必一・地，「物理学実験，化学実験，生物学実験，地学実験」：物実・化実・生実・地実）
　農業：農必一・農
　物必一・化必一・生必一・地必一：理科の免許を取得するための必修科目です。
　農必一：農業の免許を取得するための必修科目です。
　（「必一」が付された科目（物必一・化必一・農必一等）は，一般的包括的な内容を含む科目です。詳しくは教育職員免許状・各種資格の取得方法のページを参照してください。）

⑤　編入学生は専門基礎科目以外の科目を修得してください。

食料農学科　食品健康科学コース　カリキュラムマップ

：教養科目　：専門科目（必修）　：専門科目（選択）

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	技法知科目	外国語科目/健康・スポーツ科目/情報科目		外国語科目（英語発展）					
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目							
		理学・工学領域科目/農学領域科目							
	探究知科目	環境科目/地域関連科目（地域科目）							
	実践知科目			地域関連科目（地域課題演習科目）					
専門教育科目	専門基礎科目	生物学入門	基礎生物学実験						
		化学入門	基礎化学実験						
		物理学入門	地学入門						
		基礎数学入門	線形代数学入門						
		生物学	微分積分学入門						
		化学	生物統計学						
	共通学科部目	農学の総合知概論		科学英語		インターンシップ	統計的機械学習実践		
		農学の総合知実習		データ分析演習			卒業研究		
				海外特別実習					
	共通学科科目		食料農学科概論		生命科学科概論				
					地域環境科学概論				
					動物科学・水産科学科概論				
	専門コア科目	食品健康科学総論		食品化学	食品生化学	食品微生物学	食品衛生学	食品健康科学演習	
				食品機能加工学Ⅰ	天然物化学	ケミカルバイオロジー	食品機能加工学Ⅱ		
				基礎分析化学	栄養化学	計測解析科学	食品機能学		
				動物生理学Ⅰ	熱工学	農産食品プロセス工学	牛乳科学・鶏卵科学		
				水産食品化学	食品化学実験	生鮮食品保存科学	農学の総合知演習		
					食品機能加工学実験	食肉科学			
						栄養化学実験			
						化学生物学実験			
						食品生化学実験			
						食品微生物学実験			
	専門サブ科目	基礎遺伝学	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ	園芸学Ⅰ	食用作物学Ⅱ	土壌環境微生物学・生化学		
			細胞生物学Ⅰ	細胞生物学Ⅱ	植物生理生化学	植物栄養学・肥料学			
				生命情報学	食用作物学Ⅰ	分子生物学Ⅱ			
					分子生物学Ⅰ	再生医療工学			
					遺伝子工学	微生物生理学			
					病態生化学	産業微生物学			
					微生物学概論	水産食品加工学			
					応用昆虫学Ⅰ				
					ポストハーベスト工学				
					水産微生物学				

生命科学科　分子生物機能学コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考
				1年次		2年次		3年次		4年次		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○								
	線形代数学入門		2		○							
	微分積分学入門		2		○							
	物理学入門		2	○								物必
	化学入門		2	○								化必，危 ※1（注1）
	化学		2	○								危　※1（注1）
	生物学入門		2	○								生必　※2（注1）
	生物学		2	○								※2（注1）
	地学入門		2		○							地必
	生物統計学		2		○							
	基礎化学実験		1		○							化実，危（注3）
	基礎生物学実験		1		○							生実（注3）
		2	7									（注2）
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○								
	農学の総合知実習	1		○								
	インターンシップ		1					★				
	科学英語	2				○						
	海外特別実習		1			★	★	★	★	★	★	
	データ分析演習	1				○						
	統計的機械学習実践	2							○			
	卒業研究	8							○	○	○	
学科共通科目	生命科学科概論	2			○							生
	食料農学科概論		2				○					
	地域環境科学概論		2				○					
	動物科学・水産科学科概論		2				○					
専門コア科目	生化学Ⅰ	2			○							化，危必
	生化学Ⅱ	2				○						化，危必
	分子生物学Ⅰ	2					○					生，危必
	分子生物学Ⅱ	2						○				生，危必
	細胞生物学Ⅰ	2			○							生
	細胞生物学Ⅱ	2				○						生
	生命情報学	2				○						
	微生物学概論	2					○					生，危必
	微生物生理学	2						○				生
	植物生理学Ⅰ	2				○						生
	植物生理学Ⅱ	2					○					生
	応用昆虫学Ⅰ	2					○					生
	応用昆虫学Ⅱ	2						○				生
	生物機能応答学	2						○				
	共生生物学	2				○						生
	科学文献読解法	2						○				
	分子生物機能学基礎	1		○								
	分子生物機能学演習Ⅰ	1							○			
	分子生物機能学演習Ⅱ	1								○		
	分子生物機能学演習Ⅲ	1									○	
	分子生物機能学実験Ⅰ	1				○						生実
	分子生物機能学実験Ⅱ	1					○					生実
	分子生物機能学実験Ⅲ	1						○				
	分子生物機能学実験Ⅳ	1						○				
	分子生物機能学実験Ⅴ	1							○			
	分子生物機能学実験Ⅵ	1								○		
	農学の総合知演習	1							○			
専門サブ科目	遺伝子工学		2				○					生
	植物共生微生物学		2				○					生
	産業微生物学		2					○				生
	応用昆虫学Ⅲ		2						○			生
	植物生理学Ⅲ		2					○				生
	神経科学Ⅰ		2			○						生
	生理学		2				○					生
	組織形態学		2				○					生
	病態生化学		2				○					危
	神経科学Ⅱ		2				○					

	免疫学		2				○					
	バイオテクノロジー		2					○				危
	分子動物行動学		2					○				
	再生医療工学		2					○				
	基礎遺伝学		2	○								生
	食用作物学Ⅰ		2				○					
	園芸学Ⅰ		2				○					
	植物病理学Ⅰ		2				○					生
	植物育種学Ⅰ		2				○					
	土壌資源利用論		2			○						
	植物生理生化学		2				○					危
	基礎分析化学		2			○						危
	天然物化学		2				○					危
	栄養化学		2				○					危
	ケミカルバイオロジー		2					○				
	食品微生物学		2					○				
	栽培施設学		2			○						
	樹木学		2			○						
	林産化学		2				○					危
	森林利用学		2				○					
	森林・雪氷水文学		2				○					
	森林保全生態学		2				○					
	森林バイオマスの成分利用		2				○					
	動物生理学Ⅰ		2			○						
	発生生物学		2			○						生
	動物遺伝育種学		2			○						
	動物生殖学		2				○					
	草地学		2					○				
	動物行動学		2					○				
	水族生理学		2			○						
	水産生物学		2			○						
	水産資源生態学		2				○					
	水族遺伝学Ⅰ		2			○						
	水圏生物多様性論		2				○					
	水産食品化学		2			○						危
必要修得単位数		63	35									
合計必要修得単位数		98										

○　専門基礎科目の履修について

（注１）※１の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。
　　※２の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。

（注２）専門基礎科目の選択単位は７単位以上修得しなければなりません。

（注３）基礎化学実験、基礎生物学実験の２科目から必ず１科目以上を修得しなければなりません。

○　注意事項

①　この表に記載されていない教職科目を除く「農学部専門教育科目」「他学部専門教育科目（卒業要件外として開講している科目は除く）」「国際教育科目」「いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目」「他大学及び海外協定大学で修得した科目のうち本学部で認めた科目」について修得した単位は１０単位を上限として卒業に必要な単位として認めます。

②　★印は集中講義での実施を示します。○★印は，通常時間割の実習と集中的に行う実習を組み合わせて実施することを示します。（○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。）

③　危必・危は、危険物取扱者（甲種）の受験資格を得るために必要な科目です。危必は必修、危は選択で必修・選択を併せて15単位以上修得しなければなりません。

④　教職免許法上の科目は次のように表示します。
　理科（物理学：物必・物，化学：化必・化，生物学：生必・生，地学：地必・地，「化学実験，生物学実験」：化実・生実）
　物必・化必・生必・地必：理科の免許を取得するための必修科目です。

⑤　編入学生は専門基礎科目以外の科目を修得してください。

生命科学科　分子生物機能学コース　カリキュラムマップ

：教養科目　：専門科目（必修）　：専門科目（選択）

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	技法知科目	外国語科目/健康・スポーツ科目/情報科目		外国語科目（英語発展）					
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目							
		理学・工学領域科目/農学領域科目							
	探究知科目	環境科目/地域関連科目（地域科目）							
	実践知科目			地域関連科目（地域課題演習科目）					
専門教育科目	専門基礎科目	生物学入門	基礎生物学実験						
		化学入門	基礎化学実験						
		物理学入門	地学入門						
		基礎数学入門	線形代数学入門						
		生物学	微分積分学入門						
		化学	生物統計学						
	共通学部科目	農学の総合知概論		科学英語		インターンシップ	統計的機械学習実践		
		農学の総合知実習		データ分析演習			卒業研究		
				海外特別実習					
	共通学科科目		生命科学科概論		食料農学科概論				
					地域環境科学概論				
					動物科学・水産科学科概論				
	専門コア科目	分子生物機能学基礎	生化学Ⅰ	生化学Ⅱ	微生物学概論	応用昆虫学Ⅱ	分子生物機能学演習Ⅰ	分子生物機能学演習Ⅱ	分子生物機能学演習Ⅲ
			細胞生物学Ⅰ	細胞生物学Ⅱ	分子生物学Ⅰ	微生物生理学	分子生物機能学実験Ⅴ	分子生物機能学実験Ⅵ	
				生命情報学	植物生理学Ⅱ	分子生物学Ⅱ	農学の総合知演習		
				植物生理学Ⅰ	応用昆虫学Ⅰ	生物機能応答学			
				共生生物学	分子生物機能学実験Ⅱ	科学文献読解法			
				分子生物機能学実験Ⅰ		分子生物機能学実験Ⅲ			
						分子生物機能学実験Ⅳ			
	専門サブ科目	基礎遺伝学		神経科学Ⅰ	遺伝子工学	産業微生物学	応用昆虫学Ⅲ		
				土壌資源利用論	植物共生微生物学	植物生理学Ⅲ			
				基礎分析化学	生理学	バイオテクノロジー			
				栽培施設学	組織形態学	分子動物行動学			
				樹木学	病態生化学	再生医療工学			
				動物生理学Ⅰ	神経科学Ⅱ	ケミカルバイオロジー			
				発生生物学	免疫学	食品微生物学			
				動物遺伝育種学	食用作物学Ⅰ	草地学			
				水族生理学	園芸学Ⅰ	動物行動学			
				水産生物学	植物病理学Ⅰ				
				水族遺伝学Ⅰ	植物育種学Ⅰ				
				水産食品化学	植物生理生化学				
					天然物化学				
					栄養化学				
					林産化学				
					森林利用学				
					森林・雪氷水文学				
					森林保全生態学				
					森林バイオマスの成分利用				
					動物生殖学				
					水産資源生態学				
					水圏生物多様性論				

生命科学科　分子生命医科学コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考
				1年次		2年次		3年次		4年次		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○								
	線形代数学入門		2		○							
	微分積分学入門		2		○							
	物理学入門		2	○								物必
	化学入門		2	○								化必，危 ※1（注1）
	化学		2	○								危　※1（注1）
	生物学入門		2	○								生必　※2（注1）
	生物学		2	○								※2（注1）
	地学入門		2		○							地必
	生物統計学		2		○							
	基礎化学実験		1		○							化実，危
	基礎生物学実験		1		○							生実
		2	7									（注2）
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○								
	農学の総合知実習	1		○								
	インターンシップ		1					★				
	科学英語	2				○						
	海外特別実習		1			★	★	★	★	★	★	
	データ分析演習	1				○						
	統計的機械学習実践	2							○			
	卒業研究	8							○	○	○	
学科共通科目	生命科学科概論	2			○							生
	食料農学科概論		2				○					
	地域環境科学概論		2				○					
	動物科学・水産科学科概論		2				○					
専門コア科目	分子生命医科学概論	1		○								
	細胞生物学Ⅰ	2			○							生
	生化学Ⅰ	2			○							化，危必
	生命情報学	2				○						
	生化学Ⅱ	2				○						化，危必
	神経科学Ⅰ	2				○						生
	微生物学概論	2					○					生，危必
	植物生理学Ⅰ	2				○						生
	細胞生物学Ⅱ	2				○						生
	分子生物学Ⅰ	2					○					生，危必
	生理学	2					○					生
	組織形態学	2					○					生
	病態生化学	2					○					危必
	神経科学Ⅱ	2					○					
	免疫学	2					○					
	分子生物学Ⅱ	2						○				生，危必
	バイオテクノロジー	2						○				危必
	分子動物行動学	2						○				
	再生医療工学	2						○				
	応用昆虫学Ⅰ	2					○					生
	生物機能応答学	2						○				
	分子生命医科学情報Ⅰ	2							○			
	分子生命医科学情報Ⅱ	2								○		
	分子生命医科学情報Ⅲ	2									○	
	分子生命医科学実験Ⅰ	1						○				
	分子生命医科学実験Ⅱ	1						○				
	分子生命医科学実験Ⅲ	1						○				
	分子生命医科学実験Ⅳ	1							○			
	分子生命医科学実験Ⅴ	1							○			
	分子生命医科学実験Ⅵ	1							○			
	農学の総合知演習	1							○			
専門サブ科目	遺伝子工学		2				○					生
	植物生理学Ⅱ		2				○					生
	微生物生理学		2					○				生
	共生生物学		2			○						生
	植物共生微生物学		2				○					生
	応用昆虫学Ⅱ		2					○				生

	応用昆虫学Ⅲ		2						○			生
	植物生理学Ⅲ		2					○				生
	産業微生物学		2					○				生
	食用作物学Ⅰ		2				○					
	基礎遺伝学		2	○								生
	園芸学Ⅰ		2				○					
	植物病理学Ⅰ		2				○					生
	植物育種学Ⅰ		2				○					
	植物生理生化学		2				○					危
	基礎分析化学		2			○						危
	天然物化学		2				○					危
	食品化学		2			○						危
	栄養化学		2				○					危
	ケミカルバイオロジー		2					○				
	食品微生物学		2					○				
	動物生理学Ⅰ		2			○						
	発生生物学		2			○						生
	動物遺伝育種学		2			○						
	動物生殖学		2				○					
	水族生理学		2			○						
	水産生物学		2			○						
	水産資源生態学		2				○					
	水族遺伝学Ⅰ		2			○						
	水圏生物多様性論		2				○					
	水産食品化学		2			○						危
必要修得単位数		74	24									
合計必要修得単位数		98										

○　専門基礎科目の履修について

（注１）※１の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。
　　※２の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。

（注２）専門基礎科目の選択単位は７単位以上修得しなければなりません。

○　注意事項

①　この表に記載されていない教職科目を除く「農学部専門教育科目」「他学部専門教育科目（卒業要件外として開講している科目は除く）」「国際教育科目」「いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目」「他大学及び海外協定大学で修得した科目のうち本学部で認めた科目」について修得した単位は１０単位を上限として卒業に必要な単位として認めます。

②　★印は集中講義での実施を示します。○★印は，通常時間割の実習と集中的に行う実習を組み合わせて実施することを示します。（○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。）

③　危必・危は、危険物取扱者（甲種）の受験資格を得るために必要な科目です。危必は必修、危は選択で必修・選択を併せて15単位以上修得しなければなりません。

④　教職免許法上の科目は次のように表示します。
　理科（物理学：物必・物，化学：化必・化，生物学：生必・生，地学：地必・地，「化学実験，生物学実験」：化実・生実）
　物必・化必・生必・地必：理科の免許を取得するための必修科目です。

⑤　編入学生は専門基礎科目以外の科目を修得してください。

生命科学科　分子生命医科学コース　カリキュラムマップ

：教養科目　：専門科目（必修）　：専門科目（選択）

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	技法知科目	外国語科目/健康・スポーツ科目/情報科目		外国語科目（英語発展）					
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目							
		理学・工学領域科目/農学領域科目							
	探究知科目	環境科目/地域関連科目（地域科目）							
	実践知科目			地域関連科目（地域課題演習科目）					
専門教育科目	専門基礎科目	生物学入門	基礎生物学実験						
		化学入門	基礎化学実験						
		物理学入門	地学入門						
		基礎数学入門	線形代数学入門						
		生物学	微分積分学入門						
		化学	生物統計学						
	共通学科部目	農学の総合知概論		科学英語		インターンシップ	統計的機械学習実践		
		農学の総合知実習		データ分析演習			卒業研究		
				海外特別実習					
	共通学科科目		生命科学科概論		食料農学科概論				
					地域環境科学概論				
					動物科学・水産科学科概論				
	専門コア科目	分子生命医科学概論	細胞生物学Ⅰ	生命情報学	微生物学概論	分子生物学Ⅱ	分子生命医科学情報Ⅰ	分子生命医科学情報Ⅱ	分子生命医科学情報Ⅲ
			生化学Ⅰ	生化学Ⅱ	分子生物学Ⅰ	バイオテクノロジー	分子生命医科学実験Ⅳ		
				神経科学Ⅰ	生理学	分子動物行動学	分子生命医科学実験Ⅴ		
				植物生理学Ⅰ	組織形態学	再生医療工学	分子生命医科学実験Ⅵ		
				細胞生物学Ⅱ	病態生化学	生物機能応答学	農学の総合知演習		
					神経科学Ⅱ	分子生命医科学実験Ⅰ			
					免疫学	分子生命医科学実験Ⅱ			
					応用昆虫学Ⅰ	分子生命医科学実験Ⅲ			
	専門サブ科目	基礎遺伝学		食品化学	水産資源生態学	応用昆虫学Ⅱ	応用昆虫学Ⅲ		
				発生生物学	水圏生物多様性論	微生物生理学			
				水族生理学	遺伝子工学	産業微生物学			
				水産食品化学	植物生理学Ⅱ	ケミカルバイオロジー			
				共生生物学	植物共生微生物学	食品微生物学			
				基礎分析化学	食用作物学Ⅰ	植物生理学Ⅲ			
				動物生理学Ⅰ	園芸学Ⅰ				
				動物遺伝育種学	植物病理学Ⅰ				
				水産生物学	植物育種学Ⅰ				
				水族遺伝学Ⅰ	植物生理生化学				
					天然物化学				
					栄養化学				
					動物生殖学				

地域環境科学科　革新農業コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考
				1年次		2年次		3年次		4年次		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○								測必
	線形代数学入門		2		○							測
	微分積分学入門		2		○							測
	物理学入門		2	○								物必，測
	化学入門		2	○								化必　※1（注1）
	化学		2	○								※1（注1）
	生物学入門		2	○								生必　※2（注1）
	生物学		2	○								※2（注1）
	地学入門		2		○							地必，測
	生物統計学		2		○							
	基礎化学実験		1		○							化実
	基礎生物学実験		1		○							生実
		2	5									（注2）
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○								
	農学の総合知実習	1		○								
	インターンシップ		1					★				
	科学英語		2			○						
	海外特別実習		1			★	★	★	★	★	★	
	データ分析演習	1				○						測必
	統計的機械学習実践	2							○			測必
	卒業研究	8							○	○	○	
学科共通科目	地域環境科学概論	2			○							測必
	食料農学科概論		2				○					
	生命科学科概論		2				○					
	動物科学・水産科学科概論		2				○					
専門コア科目	革新農業入門	2		○								
	応用数学	2			○							測必
	応用力学	2			○							農,測必
	情報処理演習	1			○							測必
	構造力学	2				○						農,測必
	土質力学	2					○					農,測必
	水文・水資源学	2				○						農,測必
	測量学	2				○						農必,測必
	測量学基礎実習	1				○						農必,測必
	栽培施設学	2				○						農必
	農作業システム学	2						○				農
	フィールドロボティクス	2				○						農
	農業循環工学	2					○					農
	熱工学	2					○					物,測必
	農産食品プロセス工学	2						○				農
	生鮮食品保存科学	2						○				生
	地理情報処理学	2						○				農,測必
	スマート農業概論	2							○			農必
	水理学	2				○						農,測必
	農業水利学	2					○					農,測必
	土壌物理学	2					○					物,測必
	設計施工保全学	2					○					農
	農地工学	2						○				農必,測必
	地域デザイン論	2				○						農,測必
	農村計画学	2					○					農,測必
	農学の総合知演習	1							○			
専門サブ科目	構造力学演習		1				○					測
	土質力学演習		1					○				測
	農業気象・環境学		2				○					農,測
	ものづくり実習		1					○				物
	ポストハーベスト工学		2				○					農必
	地理情報処理演習		1						○			農,測
	革新農業実験Ⅰ		1					○				農
	革新農業実験Ⅱ		1					○				物実,測
	革新農業実験Ⅲ		1					○				農
	緑地環境学		2				○					
	地域景観保全論		2					○				

	コミュニティデザイン論		2					○				
	農業農村工学演習		1			○						
	革新農業実践論		2					○				
	作物栽培学		2		○							
	基礎遺伝学		2	○								
	食用作物学Ⅰ		2				○					
	園芸学Ⅰ		2				○					
	園芸学Ⅱ		2				○					
	園芸学Ⅲ		2					○				
	植物育種学Ⅰ		2				○					
	植物病理学Ⅰ		2				○					生
	植物栄養学・肥料学		2					○				
	植物生理生化学		2				○					
	食料経済学		2			○						
	農業経営学		2				○					
	土壌資源利用論		2			○						
	土壌環境微生物学・生化学		2						○			
	基礎分析化学		2			○						化
	食品化学		2			○						
	食品衛生学		2					○				
	食品生化学		2						○			
	地域生態系保全論		2				○					生
	木材と住宅		2			○						
	野生動物管理学		2				○					生
	砂防学		2					○				農,測
	NPO・環境ガバナンス論		2					○				
必要修得単位数		67	31									
合計必要修得単位数		98										

○　専門基礎科目の履修について

（注１）※１の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。
　　※２の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。

（注２）専門基礎科目の選択単位は５単位以上修得しなければなりません。

○　その他の注意事項

①　この表に記載されていない教職科目を除く「農学部専門教育科目」「他学部専門教育科目（卒業要件外として開講している科目は除く）」「国際教育科目」「いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目」「他大学及び海外協定大学で修得した科目のうち本学部で認めた科目」について修得した単位は１０単位を上限として卒業に必要な単位として認めます。

②　★印は集中講義での実施を示します。○★印は，通常時間割の実習と集中的に行う実習を組み合わせて実施することを示します。（○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。）

③　教職免許法上の科目は次のように表示します。
　理科（物理学：物必・物，化学：化必・化，生物学：生必・生，地学：地必・地，「化学実験，生物学実験」：化実・生実）
　農業：農必・農
　物必・化必・生必・地必：理科の免許を取得するための必修科目です。
　農必：農業の免許を取得するための必修科目です。

④　編入学生は専門基礎科目以外の科目を修得してください。

⑤　測量士補資格申請に関係する科目については備考欄へ下記のとおり記載しています。
　測必・・・測量士補資格申請のための必修科目です
　測　・・・測量士補資格申請のための選択科目です
　測量士補資格申請のためには，「測必」の科目と「測」の科目を合わせて３０単位以上修得する必要があります。

地域環境科学科　革新農業コース　カリキュラムマップ

：教養科目　：専門科目（必修）　：専門科目（選択）

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	技法知科目	外国語科目/健康・スポーツ科目/情報科目		外国語科目（英語発展）					
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目							
		理学・工学領域科目/農学領域科目							
	探究知科目	環境科目/地域関連科目（地域科目）							
	実践知科目			地域関連科目（地域課題演習科目）					
専門教育科目	専門基礎科目	生物学入門	基礎生物学実験						
		化学入門	基礎化学実験						
		物理学入門	地学入門						
		基礎数学入門	線形代数学入門						
		生物学	微分積分学入門						
		化学	生物統計学						
	共通学科部目	農学の総合知概論		科学英語		インターンシップ	統計的機械学習実践		
		農学の総合知実習		海外特別実習			卒業研究		
				データ分析演習					
	共通学科科目		地域環境科学概論		食料農学科概論				
					生命科学科概論				
					動物科学・水産科学科概論				
	専門コア科目	革新農業入門	応用数学	構造力学	土質力学	農作業システム学	スマート農業概論		
			応用力学	水文・水資源学	農業循環工学	農産食品プロセス工学	農学の総合知演習		
			情報処理演習	測量学	熱工学	生鮮食品保存科学			
				測量学基礎実習	農業水利学	地理情報処理学			
				栽培施設学	土壌物理学	農地工学			
				フィールドロボティクス	設計施工保全学				
				水理学	農村計画学				
				地域デザイン論					
	専門サブ科目	基礎遺伝学	作物栽培学	農業農村工学演習	農業気象・環境学	土質力学演習	地理情報処理演習		
				食料経済学	ポストハーベスト工学	革新農業実験Ⅰ	土壌環境微生物学・生化学		
				土壌資源利用論	構造力学演習	革新農業実験Ⅱ	食品生化学		
				基礎分析化学	緑地環境学	地域景観保全論			
				食品化学	食用作物学Ⅰ	コミュニティデザイン論			
				木材と住宅	園芸学Ⅰ	革新農業実践論			
					園芸学Ⅱ	園芸学Ⅲ			
					植物育種学Ⅰ	食品衛生学			
					植物病理学Ⅰ	砂防学			
					植物生理生化学	NPO・環境ガバナンス論			
					農業経営学	ものづくり実習			
					地域生態系保全論	革新農業実験Ⅲ			
					野生動物管理学	植物栄養学・肥料学			

地域環境科学科　森林科学コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考
				1年次		2年次		3年次		4年次		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○								測必
	線形代数学入門		2		○							測
	微分積分学入門		2		○							測
	物理学入門		2	○								物必，測
	化学入門		2	○								化必　※1（注1）
	化学		2	○								※1（注1）
	生物学入門		2	○								生必　※2（注1）
	生物学		2	○								※2（注1）
	地学入門		2		○							地必，測
	生物統計学	2			○							測必
	基礎化学実験		1		○							化実（注2）
	基礎生物学実験		1		○							生実（注2）
		4	3									（注3）
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○								
	農学の総合知実習	1		○								
	インターンシップ	1						★				
	科学英語		2					○				
	海外特別実習		1			★	★	★	★	★	★	
	データ分析演習	1				○						測必
	統計的機械学習実践	2							○			測必
	卒業研究	8							○	○	○	
学科共通科目	地域環境科学概論	2			○							測必
	食料農学科概論		2				○					
	生命科学科概論		2				○					
	動物科学・水産科学科概論		2				○					
専門コア科目	森林科学の歴史と現在	1		○								
	森林計測学	2		○								造，測必
	森林科学基礎演習	1				○						農
	木材と住宅	2					○					
	林業・木材産業論	2				○						農
	森林測量学Ⅰ	2				○						農，測必
	森林測量学実習Ⅰ	2				○						農，測必
	樹木学	2				○						生，樹，造
	樹木学実習	1				○						生実，樹，造
	森林科学実習	1			○							
	技術者倫理入門	2					○					
	林産化学	2					○					
	森林測量学Ⅱ	2					○					農，測必
	森林測量学実習Ⅱ	2					○					農，測必
	森林利用学	2					○					農，造，測必
	野生動物管理学	2					○					生，樹，造
	森林利用学実習	2						○				農，造，測必
	森林計測学実習	1						○				測必
	砂防学	2						○				農，造，測必
	森林政策学	2						○				農，造
	森林造成学	2						○				農，造
	森林造成学実習	2						○				農，樹，造
	砂防学実習	1							○			造，測必
	農学の総合知演習	1							○			
	森林科学応用演習Ⅰ	1							○			
	森林科学応用演習Ⅱ	1								○		
専門サブ科目	暖帯林概論		1			○						鹿児島大学で開講
	森林・雪氷水文学		2				○					地，造，測
	山村社会経済論		2				○					
	地域生態系保全論		2				○					生，樹
	森林保全生態学		2				○					生，樹
	森林バイオマスの成分利用		2					○				農
	森林化学演習		1					○				化実
	海外・日本の林業		2					○				
	自然環境保全論		2					○				樹
	NPO・環境ガバナンス論		2					○				
	野生動物管理学実習		1					○				生実，樹，造

	環境と樹木の生理		2						○			生，樹，造
	森林保護学		2						○			樹，造
	森林計画学		2						○			農，測
	森林情報学		2						○			測
	公開森林実習		1			○	○	○	○	○	○	
	植物病理学Ⅰ		2				○					生，樹
	植物病理学Ⅱ		2					○				樹
	天然物化学		2				○					
	基礎分析化学		2					○				化
	生化学Ⅰ		2		○		○					化
	分子生物学Ⅰ		2				○					
	微生物学概論		2						○			生
	植物生理学Ⅰ		2					○				樹
	植物生理学Ⅱ		2						○			
	応用昆虫学Ⅰ		2						○			生，樹，造
	応用数学		2		○							測
	応用力学		2		○							農，測
	構造力学		2			○						農，測
	水理学		2			○						農，測
	設計施工保全学		2				○					農
	緑地環境学		2				○					
	地域景観保全論		2					○				農，造，測
必要修得単位数		64	34									
合計必要修得単位数		98										

○　専門基礎科目の履修について

（注１）※１の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。
　　※２の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。

（注２）基礎化学実験、基礎生物学実験の２科目から必ず１科目以上を修得しなければなりません。

（注３）専門基礎科目の選択単位については（注２）の実験を含め３単位以上修得しなければなりません。

○　その他の注意事項

①　当コースは日本技術者認定機構（ＪＡＢＥＥ）で認定された技術者教育プログラムです。ＪＡＢＥＥの学習・教育到達目標については，学科紹介の「森林科学コース」のページ（Ⅵ-5～6）を参照してください。

②　この表に記載されていない教職科目を除く「農学部専門教育科目」「他学部専門教育科目（卒業要件外として開講している科目は除く）」「国際教育科目」「いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目」「他大学及び海外協定大学で修得した科目のうち本学部で認めた科目」について修得した単位は１０単位を上限として卒業に必要な単位として認めます。

③　★印は集中講義での実施を示します。○★印は，通常時間割の実習と集中的に行う実習を組み合わせて実施することを示します。（○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。）

④　備考欄の，樹は樹木医補申請に必要な科目です。
　備考欄の，造は１級・２級造園施工管理技士の受験資格申請に関係する科目です。

⑤　教職免許法上の科目は次のように表示します。
　理科（物理学：物必一・物，化学：化必一・化，生物学：生必一・生，地学：地必一・地，「物理学実験，化学実験，生物学実験，地学実験」：物実・化実・生実・地実）
　農業：農必一・農
　物必一・化必一・生必一・地必一：理科の免許を取得するための必修科目です。
　農必一：農業の免許を取得するための必修科目です。
　（「必一」が付された科目（物必一・化必一・農必一等）は，一般的包括的な内容を含む科目です。詳しくは教育職員免許状・各種資格の取得方法のページを参照してください。）

⑥　編入学生は当学科を選択できません。

⑦　測量士補資格申請に関係する科目については備考欄に下記のとおり記載しています。
　測必・・・測量士補資格申請のための必修科目です
　測　・・・測量士補資格申請のための選択科目です
　測量士補資格申請のためには，「測必」の科目と「測」の科目を合わせて３０単位以上修得することが望ましいです。

地域環境科学科　森林科学コース　カリキュラムマップ

：教養科目　：専門科目（必修）　：専門科目（選択）

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	技法知科目	外国語科目/健康・スポーツ科目/情報科目		外国語科目（英語発展）					
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目							
		理学・工学領域科目/農学領域科目							
	探究知科目	環境科目/地域関連科目（地域科目）							
	実践知科目			地域関連科目（地域課題演習科目）					
専門教育科目	専門基礎科目	生物学入門	基礎生物学実験						
		化学入門	基礎化学実験						
		物理学入門	地学入門						
		基礎数学入門	線形代数学入門						
		生物学	微分積分学入門						
		化学	生物統計学						
	共通学科部目	農学の総合知概論		データ分析演習		インターンシップ	統計的機械学習実践		
		農学の総合知実習		海外特別実習		科学英語	卒業研究		
	共通学科科目		地域環境科学概論		食料農学科概論				
					生命科学科概論				
					動物科学・水産科学科概論				
	専門コア科目	森林科学の歴史と現在	森林科学実習	林業・木材産業論	技術者倫理入門	森林利用学実習	砂防学実習	森林科学応用演習 II	
		森林計測学		森林測量学 I	林産化学	森林計測学実習	森林科学応用演習 I		
				森林測量学実習 I	森林測量学 II	砂防学	農学の総合知演習		
				樹木学	森林測量学実習 II	森林政策学			
				樹木学実習	森林利用学	森林造成学			
				森林科学基礎演習	野生動物管理学	森林造成学実習			
					木材と住宅				
	専門サブ科目		生化学 I	構造力学	設計施工保全学	植物病理学 II	環境と樹木の生理		
			応用数学	水理学	森林・雪氷水文学	地域景観保全論	森林保護学		
			応用力学	暖帯林概論	山村社会経済論	森林化学演習	森林計画学		
					地域生態系保全論	森林バイオマスの成分利用	森林情報学		
					森林保全生態学	海外・日本の林業	植物生理学 II		
					植物病理学 I	自然環境保全論	微生物学概論		
					天然物化学	NPO・環境ガバナンス論	応用昆虫学 I		
					緑地環境学	野生動物管理学実習			
					分子生物学 I	基礎分析化学			
						植物生理学 I			
				公開森林実習					

動物科学・水産科学科　動物科学コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考
				1年次		2年次		3年次		4年次		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○								
	線形代数学入門		2		○							
	微分積分学入門		2		○							
	物理学入門		2	○								物必
	化学入門		2	○								化必　※1（注1）
	化学		2	○								※1（注1）
	生物学入門		2	○								生必　※2（注1）
	生物学		2	○								※2（注1）
	地学入門		2		○							地必
	生物統計学		2		○							
	基礎化学実験		1		○							化実（注2）
	基礎生物学実験		1		○							生実（注2）
		2	5									（注3）
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○								
	農学の総合知実習	1		○								
	インターンシップ		1					★				
	科学英語	2							○			
	海外特別実習		1			★	★	★	★	★	★	
	データ分析演習	1				○						
	統計的機械学習実践	2					○					
	卒業研究	8							○	○	○	
学科共通科目	動物科学・水産科学科概論	2			○							農
	食料農学科概論		2				○					
	生命科学科概論		2						○			
	地域環境科学概論		2						○			
専門コア科目	動物科学総論	1		○								
	実験動物学概論	1			○							生
	動物生産学	2		○								農，人
	基礎遺伝学	2		○								生
	動物生理学Ⅰ	2				○						生，食
	動物生理学Ⅱ	2					○					生，食
	遺伝子機能学	2			○							生
	発生生物学	2				○						生
	動物解剖学	2			○							食
	動物組織学	1					○					食
	動物遺伝育種学	2				○						生，人，食
	動物生殖学	2					○					生，人，食
	家畜繁殖技術学	2						○				農，人
	動物栄養学	2				○						農，人，食
	飼料学	2						○				農，人，食
	家畜飼養学Ⅰ	1						○				農
	草地学	2						○				農，食
	動物管理学	2					○					農，人，食
	食肉科学	2						○				農，人，食
	人と動物の関係学	2					○					生
	家畜衛生学	1							○			食
	動物科学実験Ⅰ	3					○					農，人
	動物科学実験Ⅱ	3						○				農，人
	牧場実習	1						★				農，人
	農学の総合知演習	1							○			
専門サブ科目	動物園学		1			★						
	野生動物学		1					★				
	家畜飼養学Ⅱ		1					○				農
	動物行動学		2					○				農
	牛乳科学・鶏卵科学		1						○			
	臨海実習		1			○						
	野生動物管理学		2						○			
	森林保全生態学		2								○	
	食品生化学		2						○			
	計測解析科学		2					○				
	水産生物学		2			○						
	農業経営学		2				○					農，食

	食品化学		2			○						化
	食品微生物学		2					○				
	バイオテクノロジー		2							○		
	分子動物行動学		2							○		
	天然物化学		2						○			
	食品衛生学		2						○			農
	食品機能学		2						○			農
	生化学Ⅰ		2		○							
	生化学Ⅱ		2			○						
	水産食品化学		2			○						
必要修得単位数		65	33									
合計必要修得単位数		98										

○　専門基礎科目の履修について

（注１）※１の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。

※２の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。

（注２）基礎化学実験、基礎生物学実験の２科目から必ず１科目以上を修得しなければなりません。

（注３）専門基礎科目の選択単位については（注２）の実験を含め５単位以上修得しなければなりません。

○　その他の注意事項

①　この表に記載されていない教職科目を除く「農学部専門教育科目」「他学部専門教育科目（卒業要件外として開講している科目は除く）」「国際教育科目」「いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目」「他大学及び海外協定大学で修得した科目のうち本学部で認めた科目」について修得した単位は１０単位を上限として卒業に必要な単位として認めます。

②　★印は集中講義での実施を示します。○★印は，通常時間割の実習と集中的に行う実習を組み合わせて実施することを示します。（○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。）

③　教職免許法上の科目は次のように表示します。

理科（物理学：物必一・物，化学：化必一・化，生物学：生必一・生，地学：地必一・地，「物理学実験，化学実験，生物学実験，地学実験」：物実・化実・生実・地実）

農業：農必一・農

物必一・化必一・生必一・地必一：理科の免許を取得するための必修科目です。

農必一：農業の免許を取得するための必修科目です。

（「必一」が付された科目（物必一・化必一・農必一等）は，一般的包括的な内容を含む科目です。詳しくは教育職員免許状・各種資格の取得方法のページを参照してください。）

④　人：家畜人工授精師養成講習会(各都道府県が開催：卒業後に受講可能)における一部講義の免除指定科目。

⑤　食：食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得のため必要な科目。

⑥　編入学生は専門基礎科目以外の科目を修得してください。

動物科学・水産科学科　動物科学コース　カリキュラムマップ

：教養科目　：専門科目（必修）　：専門科目（選択）

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	技法知科目	外国語科目/健康・スポーツ科目/情報科目		外国語科目（英語発展）					
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目							
		理学・工学領域科目/農学領域科目							
	探究知科目	環境科目/地域関連科目（地域科目）							
	実践知科目			地域関連科目（地域課題演習科目）					
専門教育科目	専門基礎科目	生物学入門	基礎生物学実験						
		化学入門	基礎化学実験						
		物理学入門	地学入門						
		基礎数学入門	線形代数学入門						
		生物学	微分積分学入門						
		化学	生物統計学						
	共通学部科目	農学の総合知概論		海外特別実習	統計的機械学習実践	インターンシップ	科学英語		
		農学の総合知実習		データ分析演習			卒業研究		
	共通学科科目		動物科学・水産科学科概論		地域環境科学概論		食料農学科概論		
							生命科学科概論		
	専門コア科目	動物科学総論	遺伝子機能学	動物生理学 I	動物生理学 II	家畜繁殖技術学	家畜衛生学		
		動物生産学	動物解剖学	動物遺伝育種学	動物組織学	飼料学	農学の総合知演習		
		基礎遺伝学	実験動物学概論	動物栄養学	動物生殖学	家畜飼養学 I			
				発生生物学	動物管理学	草地学			
					人と動物の関係学	食肉科学			
					動物科学実験 I	動物科学実験 II			
						牧場実習			
	専門サブ科目		生化学 I	臨海実習	農業経営学	野生動物学	牛乳科学・鶏卵科学	バイオテクノロジー	森林保全生態学
				水産生物学		家畜飼養学 II	野生動物管理学	分子動物行動学	
				食品化学		動物行動学	食品衛生学		
				生化学 II		計測解析科学	食品生化学		
				水産食品化学		食品微生物学	天然物化学		
				動物園学			食品機能学		

動物科学・水産科学科　水産システム学コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考
				1年次		2年次		3年次		4年次		
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○								
	線形代数学入門		2		○							
	微分積分学入門		2		○							
	物理学入門		2	○								物必
	化学入門		2	○								化必　※1（注1）
	化学		2	○								※1（注1）
	生物学入門		2	○								生必　※2（注1）
	生物学		2	○								※2（注1）
	地学入門		2		○							地必
	生物統計学		2		○							
	基礎化学実験		1		○							化実
	基礎生物学実験		1		○							生実
		2	5									（注2）
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○								
	農学の総合知実習	1		○								
	インターンシップ		1					★				
	科学英語	2							○			
	海外特別実習		1			★	★	★	★	★	★	
	データ分析演習	1				○						
	統計的機械学習実践	2					○					
	卒業研究	8							○	○	○	
学科共通科目	動物科学・水産科学科概論	2			○							農必
	食料農学科概論		2				○					
	生命科学科概論		2						○			
	地域環境科学概論		2						○			
専門コア科目	水産科学入門	2		○								
	海洋実習Ⅰ	1			○							
	水産科学実験Ⅰ	1				○						生
	水産生物学	2				○						生
	水族遺伝学Ⅰ	2				○						生
	水族生理学	2				○						生
	水産食品化学	2				○						
	ミクロ経済学入門	2				○						
	水産科学実験Ⅱ	1					○					生
	水産資源生態学	2					○					
	水圏生物多様性論	2					○					
	水産増殖学Ⅰ	2					○					
	水産物流・マーケティング論	2					○					
	数理漁業資源学	2					○					
	水産システム学演習Ⅰ	1							○			
	水産システム学演習Ⅱ	1								○		
	農学の総合知演習	1							○			
専門サブ科目	水産植物学		2			○						
	水産微生物学		2				○					
	水産増殖学Ⅱ		2					○				（注3）
	水産資源管理学		2					○				（注3）
	水産食品加工学		2					○				（注3）
	水域自然環境論		2					○				（注3）
	水産政策学		2					○				（注3）
	海洋実習Ⅱ		1						○			（注3）
	魚類学		2						○			（注3）
	酵素機能化学		2						○			（注3）
	環境経済学・資源経済学入門		2						○			（注3）
	地域水産業実習		1						○			（注3）
	水族遺伝学Ⅱ		2						○			（注3）
	水産生命科学特別講義		2						○			（注3）
	水圏環境学		2			○						
	地域貢献演習		1								○	（注3）
	基礎遺伝学		2	○								生
	生化学Ⅰ		2		○							
	動物解剖学		2		○							
	遺伝子機能学		2		○							生

	細胞生物学Ⅰ		2		○							
	食品化学		2			○						化
	食品機能加工学Ⅰ		2			○						
	動物園学		1			○						
	動物遺伝育種学		2			○						生
	発生生物学		2			○						生
	微生物学概論		2				○					
	食料経済学		2			○						
	基礎分析化学		2			○						
	地域生態系保全論		2				○					
	遺伝子工学		2				○					
	動物生殖学		2				○					生
	人と動物の関係学		2				○					生
	天然物化学		2				○					
	熱工学		2				○					
	分子生物学Ⅰ		2				○					
	動物組織学		1				○					
	野生動物学		1					○				
	ケミカルバイオロジー		2					○				
	計測解析科学		2					○				
	農産食品プロセス工学		2					○				
	生鮮食品保存科学		2					○				
	食品衛生学		2					○				
	食品微生物学		2					○				
	NPO・環境ガバナンス論		2					○				
	コミュニティデザイン論		2					○				
	食品機能学		2						○			
	魚病学		2						○			
	ロボティクス工学		2							○		
	制御工学		2							○		
必要修得単位数		48	50									
合計必要修得単位数		98										

○　専門基礎科目の履修について

（注１）※１の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。
※２の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。

（注２）専門基礎科目は、基礎数学入門２単位を必修、選択必修科目として実験科目（基礎化学実験、基礎生物学実験）１単位を含めた５単位以上修得しなければなりません。

（注３）コースが指定する科目（『注３』が記載されている科目）から８単位以上修得しなければなりません。

○　その他の注意事項

①　この表に記載されていない教職科目を除く「農学部専門教育科目」「他学部専門教育科目（卒業要件外として開講している科目は除く）」「国際教育科目」「いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目」「他大学及び海外協定大学で修得した科目のうち本学部で認めた科目」について修得した単位は１０単位を上限として卒業に必要な単位として認めます。

②　★印は集中講義での実施を示します。○★印は，通常時間割の実習と集中的に行う実習を組み合わせて実施することを示します。（○印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。）

③　教職免許法上の科目は次のように表示します。
理科（物理学：物必・物，化学：化必・化，生物学：生必・生，地学：地必・地，「化学実験，生物学実験」：化実・生実）
農業：農必・農
物必・化必・生必・地必：理科の免許を取得するための必修科目です。
農必：農業の免許を取得するための必修科目です。

④　編入学生は専門基礎科目以外の科目を修得してください。

動物科学・水産科学科　水産システム学コース　カリキュラムマップ

：教養科目　：専門科目（必修）　：専門科目（選択）

		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	技法知科目	外国語科目/健康・スポーツ科目/情報科目		外国語科目（英語発展）					
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目							
		理学・工学領域科目/農学領域科目							
	探究知科目	環境科目/地域関連科目（地域科目）							
	実践知科目			地域関連科目（地域課題演習科目）					
専門教育科目	専門基礎科目	生物学入門	基礎生物学実験						
		化学入門	基礎化学実験						
		物理学入門	地学入門						
		基礎数学入門	線形代数学入門						
		生物学	微分積分学入門						
		化学	生物統計学						
	共通学部科目	農学の総合知概論		海外特別実習	統計的機械学習実践	インターンシップ	科学英語		
		農学の総合知実習		データ分析演習					
							卒業研究		
	共通学科科目		動物科学・水産科学科概論		地域環境科学概論		食料農学科概論		
							生命科学科概論		
	専門コア科目	水産科学入門	海洋実習Ⅰ	水産科学実験Ⅰ	水産科学実験Ⅱ		水産システム学演習Ⅰ	水産システム学演習Ⅱ	
				水産生物学	水産資源生態学		農学の総合知演習		
				水族遺伝学Ⅰ	水圏生物多様性論				
				水族生理学	水産増殖学Ⅰ				
				水産食品化学	水産物流・マーケティング論				
				ミクロ経済学入門	数理漁業資源学				
	専門サブ科目	基礎遺伝学	生化学Ⅰ	水産植物学	水産微生物学	水産増殖学Ⅱ	海洋実習Ⅱ	ロボティクス工学	地域貢献演習
			動物解剖学	食品化学	地域生態系保全論	水産資源管理学	魚類学	制御工学	
			遺伝子機能学	食品機能加工学Ⅰ	遺伝子工学	水産食品加工学	酵素機能化学		
			細胞生物学Ⅰ	動物園学	動物生殖学	水域自然環境論	環境経済学・資源経済学入門		
				動物遺伝育種学	人と動物の関係学	水産政策学	地域水産業実習		
				発生生物学	天然物化学	野生動物学	水族遺伝学Ⅱ		
				基礎分析化学	熱工学	ケミカルバイオロジー	水産生命科学特別講義		
				水圏環境学	分子生物学Ⅰ	計測解析科学	食品機能学		
				食料経済学	動物組織学	農産食品プロセス工学	魚病学		
					微生物学概論	生鮮食品保存科学			
						食品衛生学			
						食品微生物学			
						NPO・環境ガバナンス論			
						コミュニティデザイン論			

Ⅶ

共通教育・専門教育について

獣医学部

獣　医　学　部

＜獣医学部の理念と目標＞

＊理念

獣医学部では，人類と動物の健康と福祉に貢献することを基本理念とする。具体的には，地域の要請に応えることが可能な国際通用性のある獣医学教育を実現し，産業動物及び伴侶動物獣医学，家畜衛生などの獣医に関する諸課題に対応可能な人材を育成する。

＊教育目標

上記の理念に基づき，国際獣疫事務局（WOAH）の提唱する「高品質な獣医療サービスを提供するために必要な獣医学生が卒業時に身につけるべき最低限の資質（Day One Competency）」をバランスよく修得した獣医師を養成する。

＊研究目標

獣医学部における研究は，国際水準を目指す獣医学研究，特に地域社会と連動した独創的研究を目指す。

＊社会貢献目標

獣医学部は，産業動物臨床，家畜衛生，および伴侶動物臨床の分野での社会との連携を通して持続可能な地域社会の形成に貢献する。また，地球規模と地域の両者に関係する教育・研究課題を解決し，その成果をわかりやすく解説しながら社会に還元していくことを目標とする。

＜教育目的＞

人類と動物の健康と福祉に貢献するという理念を踏まえ，高度獣医療の提供，人類の健康と食の安全，並びに生命科学研究の発展に活躍できる国際的な視野を持つ人材の養成を目的とする。

＜学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）＞

共同獣医学科の教育目的に則り，所定の教育課程を修了し，以下の各項目を身につけた学生に「学士（獣医学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

１．獣医師としての責務を遂行するために，動物の健康・福祉，公衆衛生などに関する高度な専門知識を修得している。

（思考・判断）

２．獣医学領域に関わる課題について，生命科学を基礎とした知識と技能を用いて論理的に判断できる。

（関心・意欲）

３．獣医師として国内での責務を果たすのみならず，国際的視野を有している。

４．地球規模での感染症対策や畜産物の安全確保等に対して貢献できる知識を修得しており，意欲も有している。

（態度）

５．幅広い専門知識や技能に基づいた説明ができる。

６．倫理性も備えた行動規範を身につけており，適切なコミュニケーションができる。

（技能・表現）

７．高度な専門知識に基づいて修得した獣医学領域で必要な技能を実践できる。

８．論理性と倫理性を兼ね備えた行動規範を身につけている。

＜教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）＞

共同獣医学科では，獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに基づいた教育課程を実施することに加え，人類と動物の健康と福祉に貢献するという理念に基づき，高度獣医療の提供，人類の健康と食の安全，並びに生命科学研究の発展に活躍できる国際的な視野を持つ人材を育成することを目的として，以下のカリキュラムを編成している。

なお，教育課程を編成している各科目の評価に関しては，別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

（知識・理解）

１．獣医師としての責務を遂行するために，動物の健康・福祉，公衆衛生などに関する高度な専門知識を修得するため，専門科目の履修を必修としている。

（思考・判断）

２．獣医学領域に関わる課題について，生命科学を基礎とした知識と技能を用いて論理的に判断できるように，共通科目の履修を必修としている。

（関心・意欲）

３．獣医師として国内での責務を果たすのみならず，国際的視野を有することができるよう，海外研修などを配置している。

４．地球規模での感染症対策や畜産物の安全確保等に対して貢献できる知識を修得するために，人獣共通感染症や食品衛生関連の科目を配置している。

（態度）

５．幅広い専門知識や技能を身につけるため，各種実習，演習を配置している。

６.倫理性も備えた行動規範を身につけており,適切なコミュニケーションができるようになるため，共用試験の受験を必修としている。

（技能・表現）

７．高度な専門知識に基づいて修得した獣医学領域で必要な技能を実践できるように，総合臨床実習や行政体験実習などの現場での実習を配置している。

８．論理性と倫理性を兼ね備えた行動規範を身につけられるように，獣医倫理や獣医学概論の様な導入科目を配置している。

１．岩手大学獣医学部教育課程規則

（令和７年４月１日制定）

（趣旨）

第１条　この規則は，国立大学法人岩手大学学則第３６条第５項及び岩手大学獣医学部規則第１１条の規定に基づき，岩手大学獣医学部（以下「本学部」という。）における専門教育（以下「専門教育」という。）に関し，必要な事項を定めるものとする。

（科目及び単位の修得）

第２条　専門教育における授業科目（以下「科目」という。）及び単位数は，別表第１に定めるところによる。

２　専門教育においては，別表第２に掲げる単位数以上を修得しなければならない。

３　科目の必修と選択の別，履修年次，時間数，履修方法等は，別に定める。

（授業時間割等の公示）

第３条　開講する科目の担当教員，授業時間等は，各学期の開始までに公示する。

２　学期の途中から開講する科目については，その都度公示する。

（履修科目の届出）

第４条　学生は，履修しようとする科目を指定の期間内に学部長に届け出なければならない。

２　前項の届け出をしない者は，単位の認定を受けることができない。

３　第１項の届け出の後は，履修取り消しを認める指定期間内に限り，届け出た科目を取り消すことができる。

（他学部科目等の履修及び他学部学生の履修）

第５条　本学部学生の他学部が開設する科目及び教育職員免許状取得にかかる科目の履修は認めない。

２　他学部の学生による本学部の科目の履修は認めない。

（他大学等での履修）

第６条　学生は，他の大学又は短期大学の授業科目を履修しようとするときは，所定の手続きを経て許可を得なければならない。

２　前項により修得した単位は，別表第２の単位数に含めることはできない。

（試験）

第７条　試験を行う場合は，各学期末に行う。ただし，科目によってはその他適当な時期に行うことができる。

（雑則）

第８条　この規則に定めるもののほか，専門教育に関し必要な事項は，教授会において別に定める。

（規則の改正）

第９条　この規則の改正は，教授会の議を経なければならない。

附　則（省略）

別表第　１　（第２条第１項関係）

獣医学部専門教育科目表　　（省略）

別表第　２　（第２条第２項関係）

学生が修得すべき単位数　（省略）

２．学生が取得すべき単位数（共通教育及び専門教育）

区　分			必修単位数
共通教育科目	大学教育導入科目群		２
	スポーツ健康科目群		２
	外国語科目群		６
	人文社会科学科目群		８
	配置大学特色科目群	理数系基礎	４
		理数系アドバンス	８
	計		３０
専門教育科目	基礎獣医学科目	基礎獣医学科目群	４０
		病態獣医学科目群	２５
		応用獣医学科目群	２１
	実証獣医学科目	小動物臨床獣医学科目群	３４
		大動物臨床獣医学科目群	１６
	選択科目		５
	専修科目		１８
	計		１５９
合計			１８９

３．共通教育について

a　獣医学部における共通教育の理念と教育目標

理　念

獣医師には，地球上全ての動物生命の健康と繁栄に責任を負う自然科学としての獣医学を背景とし，論理性および倫理性を兼ね備えた高い行動規範が求められる。共通教育科目は，その基盤となる基礎的知識の習得を求め，多様な領域に対する学問的関心を喚起することで幅広く深い総合的な判断力を培い，獣医師として豊かな人間性を涵養することが目的である。獣医学部における共通教育科目は，「大学教育導入科目群」，「スポーツ健康科目群」，「外国語科目群」，「人文社会科学科目群」，および「配置大学特色科目群」によって構成され，獣医学を学ぶに必要な基礎的知識を習得させるものである。

教育目標

獣医学部では，獣医師として動物と人類の健康と福祉に貢献し，高度獣医療の提供，人の健康と食の安全，生命科学研究の発展に国際的な視野を持って活躍できる人材を養成することを目指している。したがって，共通教育では，獣医学の基盤となる高等動物の生命科学に対する知識とともに，外国語による情報収集や思考の素養を身に付け，現代の人間と社会の基本的問題や人文社会科学の諸分野の課題について学ぶことで，獣医師として豊かな人間性を養うことが目的である。

b　各科目群の教育目標

（1）大学教育導入科目群の教育目標

大学教育導入科目群における科目では，大学教育における学業活動の全般のイントロダクションとして協調性や社会性，創造性や自ら問題解決することの重要性について学ぶ。

（2）スポーツ健康科目群の教育目標

スポーツ健康科学群における科目では，社会生活を送る上で身に付けておくべき基本知識や技能の一環として，人間の身体や健康，スポーツに関する正しい知識を学び，自らの体力とその維持増進方法を実践的に理解するとともに，各個人の目的に応じた身体運動やスポーツ活動を実践する能力を習得する。

（3）外国語科目群の教育目標

外国語科目群では，国際的に広く用いられている英語に関する基礎知識を身に付け，獣医学の関わる自発的な思考や情報の収集・発信を行うための素養を身に付ける。

（4）人文社会科学科目群の教育目標

・「人文社会科学」の科目目標

人文社会科学科目では，現代の人間と社会の基本的問題および人文社会科学の諸分野の中でも，動物と人類の健康と福祉に貢献する獣医師において極めて重要な内容として，社会ならびに文化が人間にとってどのような意味や機能を持つのかについて考え，現代社会に生きる人間としての「ものの見方・考え方」を養う。

・「持続可能な環境・社会」の科目目標

人間と社会の基本的問題や人文社会科学の諸課題について広く学ぶことは，獣医師として豊かな人間性を養うために極めて有用である。「持続的な環境・社会」では，「人文社会科学科目」に挙げた基本的重要科目の他に，多様性に富んだ各種関連科目を学生諸君が自主的に精選し履修することで，現代社会に生きる人間としての「ものの見方・考え方」をいっそう深く洞察する力を身に付けることを目的とする。

（5）配置大学特色科目群

①科目群全体の教育目標

地球上全ての動物生命の健康と繁栄に責任を負い，論理性および倫理性を兼ね備えた高い行動規範が求められる獣医師には，獣医学の基盤となる基礎知識ならびに幅広く深い総合的な創造力，判断力，自己解決能力が求められる。配置大学特色科目群では，上記の共通教育の科目群とは別に学生諸君が主体的に履修科目を精選し，履修することで，多様な領域に対する学問的関心を促し豊かな人間性を養う。

②各科目の科目目標

・「理数系基礎」の科目目標

動物と人類の健康と福祉，高度獣医療の提供，人の健康と食の安全ならびに生命科学研究の発展に貢献する獣医学では，高等動物の生命科学に関する基礎学問の修得が不可欠である。理数系基礎科目では，獣医学教育の基盤となる理数系基礎学問を履修し，生命現象の基本原理に関する知識を習得する。

・「理数系アドバンス」の科目目標

「理数系アドバンス」では，「理数系基礎科目」で学んだ高等動物の生命科学に関する基礎科目の他に，多彩な理数系関連科目を学生諸君が自主的に精選し履修することで，動物と人類の健康と福祉，高度獣医療の提供，人の健康と食の安全ならびに生命科学研究の発展に貢献するための深く幅広い教養知識と洞察力を育む。

c　履修単位数・科目・履修方法等

共通教育科目の授業科目区分及び単位数等は次表のとおりで，修得すべき単位数及び履修方法については，次表のようになりますので，熟読のうえ履修してください。

表　共通教育科目の修得すべき単位数

区分		科目名	単位数	要件	開講学期				卒業要件
					1 年次		2 年次		
					前	後	前	後	
大学教育導入科目群	基礎ゼミナール	◎獣医学基礎ゼミナール	2	必	＊				必修科目
スポーツ健康科目群	スポーツ健康・基盤	◎健康･スポーツA	1	必	＊				必修科目
		健康･スポーツB	1	選択必修		＊			選択1単位修得
	スポーツ健康・発展	健康･スポーツC（シーズン）	1			＊			
外国語科目群	基礎英語	◎英語総合Ⅰ	1	必	＊				必修科目
		◎英語総合Ⅱ	1	必		＊			
		◎英語総合Ⅲ	1	必			＊		
		◎英語コミュニケーションⅠ	1	必	＊				
		◎英語コミュニケーションⅡ	1	必		＊			
		◎英語コミュニケーションⅢ	1	必				＊	
人文社会科学科目群	人文社会科学	思想	2	選	＊	＊	＊	＊	選択6単位修得
		芸術学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		文学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		言語学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		歴史学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		法学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		憲法	2	選	＊	＊	＊	＊	
		政治学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		経済学・経営学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		社会学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		教育学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		心理学	2	選	＊	＊	＊	＊	
	持続可能な環境・社会	環境A	2	選	＊		＊		選択2単位修得
		環境B	2	選	＊		＊		
		環境C	2	選	＊		＊		
		環境D	2	選		＊		＊	
		環境E	2	選		＊		＊	
		環境F	2	選		＊		＊	
		現代社会をみる視角	2	選	＊	＊	＊	＊	
		宮沢賢治の世界	2	選	＊	＊	＊	＊	
		危機管理と復興	2	選	＊	＊	＊	＊	
		地場産業･企業論	2	選	＊	＊	＊	＊	
		ボランティアとリーダーシップ	2	選	＊	＊	＊	＊	
		地域協創入門	2	選	＊	＊	＊	＊	
		社会連携学A	2	選	＊	＊	＊	＊	
		社会連携学B	2	選	＊	＊	＊	＊	
		地域協創A	1	選	＊	＊	＊	＊	
		地域協創B	1	選	＊	＊	＊	＊	
		地域協創C	1	選	＊	＊	＊	＊	
		地域協創D	1	選	＊	＊	＊	＊	
		地域協創E	1	選	＊	＊	＊	＊	
		地域協創F	1	選	＊	＊	＊	＊	
		地域協創G	1	選	＊	＊	＊	＊	
		地域協創H	1	選	＊	＊	＊	＊	
		地域協創I	1	選	＊	＊	＊	＊	
		キャリアを考えるA	2	選	＊	＊	＊	＊	
		キャリアを考えるB	2	選	＊	＊	＊	＊	
		日本事情A	2	選	＊	＊	＊	＊	
		日本事情B	2	選	＊	＊	＊	＊	
		多文化コミュニケーションA	2	選	＊	＊	＊	＊	
		多文化コミュニケーションB	2	選	＊	＊	＊	＊	

表　共通教育科目の修得すべき単位数

区分		科目名	単位数	要件	開講学期				卒業要件
					1 年次		2 年次		
					前	後	前	後	
配置大学特色科目群	理数系基礎	◎獣医細胞生物学	2	必	＊				必修４単位 選択８単位 (計12単位) 修得
		基礎生物学実験	1	選	＊				
		◎情報基礎A	2	必	＊				
		情報基礎B	2	選		＊			
	理数系アドバンス	物質科学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		自然科学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		材料科学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		電気電子工学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		エネルギー科学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		数理情報科学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		機械科学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		環境・防災学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		メディア情報学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		農学基礎	2	選	＊	＊	＊	＊	
		食品健康科学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		分子生物機能科学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		分子生命医科学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		農業環境工学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		森林科学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		動物科学	2	選	＊	＊	＊	＊	
		水産学基礎	2	選	＊	＊	＊	＊	
		データ分析演習	1	選			＊		
		統計的機械学習実践	2	選				＊	

備考（1）　◎印の授業科目は必修とする。

（2）　獣医学部以外の学部の教養教育の授業科目は他学科科目として履修できるが，卒業要件単位数に参入しない。

（3）　健康・スポーツCは2月～3月頃の集中開講科目。

Ⅰ　大学教育導入科目群（２単位）
必修単位（２単位）
獣医学基礎ゼミナール（２単位）を修得すること。

Ⅱ　スポーツ健康科目群（２単位）
必修単位（１単位）
健康・スポーツＡ（１単位）を修得すること。

選択（必修）単位（１単位）
次の科目から１科目（１単位）を修得すること。
健康・スポーツＢ（１単位）
健康・スポーツＣ（シーズン）（１単位）

Ⅲ　外国語科目群（６単位）
必修単位（６単位）
次の全科目の６単位を修得すること。
①　英語総合Ⅰ（１単位）
②　英語コミュニケーションⅠ（１単位）
③　英語総合Ⅱ（１単位）
④　英語コミュニケーションⅡ（１単位）
⑤　英語総合Ⅲ（１単位）
⑥　英語コミュニケーションⅢ（１単位）

Ⅳ　人文社会科学科目群（８単位）
選択（必修）単位（８単位）
次の２つの区分から８単位を修得すること。
なお，区分ごとに修得しなければならない単位数があるので注意すること。
①「人文社会科学」から６単位
②「持続可能な環境・社会」から２単位

Ⅴ　配置大学特色科目群（１２単位）
必修単位（４単位）
次の全科目の４単位を修得すること。
「理数系基礎」の獣医細胞生物学（２単位）
「理数系基礎」の情報基礎Ａ（２単位）

選択（必修）単位（８単位）
次の２つの区分から８単位を修得すること。
①「理数系基礎（必修科目を除く）」
②「理数系アドバンス」

―履修上の注意事項―

１　共通教育科目は，１・２年次の定められた時間帯に履修すること。

２　履修については，本冊子及び授業時間割表を参考にし，間違いのないよう注意すること。

なお，同一名称の授業科目は重複して履修できない。

また，履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。

４．専門教育について

○履修上の留意点

１．本籍
本共同獣医学科においては，入学を許可された大学を本籍とします。

２．履修
履修は，原則として本籍の大学で行います。

３．受講の学年進行（進級制度）および獣医学共用試験
共同獣医学科では，基礎獣医学，病態獣医学，応用獣医学および臨床獣医学を積み上げ式で履修することを理想とするため，カリキュラムマップ（コースツリー）に記載の順序で講義・実習の単位を修得することを基本とします。このため，共同獣医学科では進級制度を採用しています。

1) 毎年度，後期末において在籍する学年までに履修すべき必修の専門教育科目のうち講義科目の未修得単位数が 6 単位以下，かつ実習科目（行政体験実習を除く）の全てを修得した場合に進級できます。例えば 3 年生後期末時点で 1～3 年生で履修すべき講義科目全体のうち未修得単位数が 6 単位以下，かつ実習科目（行政体験実習を除く）を全て修得している場合に 4 年生に進級できます。

2) 共通教育科目は，3 年生後期末までに卒業に必要な単位（30 単位）を全て修得する必要があり，必要単位数が不足する場合は 4 年生に進級できません。

3) 4 年生後期から研究室に配属され，専修科目（獣医学演習，アドバンス演習および卒業研究）を履修することができます。ただし，卒業研究を履修するには，獣医学演習（4 単位）を修得していることが必要です。

4) 4 年生前期末に必修の専門教育科目のうち講義科目の未習得単位数が 6 単位以下，かつ実習科目（行政体験実習を除く）を全て修得している学生は 4 年生終了時に獣医学共用試験（注 1）を受験する資格を得ます。

5) 5 年生に開講される「総合参加型臨床実習Ⅰ～Ⅵ（注 2）」を履修するには，4)に記載した獣医学共用試験に合格し Student Docter の認定を受ける必要があります。なお，総合参加型臨床実習Ⅰ～Ⅵの履修にあたっては，当該実習に必要な経費をその都度徴収する場合があります。

（注1） 獣医師の資格がない学生が動物病院等において実施される臨床実習で症例に接する場合には，必要不可欠な知識，技能，態度が備わっていることを動物の所有者に示し，その質を社会に保障する必要があります。臨床実習に必要な最小限の知識，技能，態度の到達レベルを評価するために NPO 法人・獣医系大学間獣医学教育支援機構が主催する試験（以下「獣医学共用試験」という。）を４年生終了時に行います。獣医学共用試験を受験するには，上記 4)を満たしている必要があります。獣医学共用試験の合格者は Student Doctor として認定されます。獣医学共用試験は vetCBT ならびに vetOSCE から構成されますが，その両方に合格しなければ Student Doctor の認定は得られません。なお，vetCBT および vetOSCE は，４年生の間に追・再試がそれぞれ 1 回ずつ実施されます。獣医学共用試験の受験にあたっては，別途受験料が必要です。

（注2） 本実習は，大学等の動物診療施設等において，指導教員の指導下で症例（一般市民が所有する動物）に接する臨床実習です。本実習は，農林水産省通知「獣医学生の臨床実習における獣医師法第 17 条の適用について」（平成 22 年 6 月 30 日付け）に基づいて実施されます。

４．相手大学における研究室所属および専修科目・専門科目の履修

若干名の学生[注3]は，5,6 年次に本籍でない大学の共同獣医学科の専修コースにおいて専修科目を履修することができます。その場合，本籍の大学において，４年次終了時までの学科専門教育科目のうち，必修科目のすべての単位および選択科目から 5 単位以上を修得していなければなりません。また，本籍以外の大学の研究室に配属する学生の選出は本籍大学が行います。

（注3） これらの学生は，本籍でない大学の共同獣医学科において，5,6 年次の専門教育科目のすべてを履修することになります。

５．その他

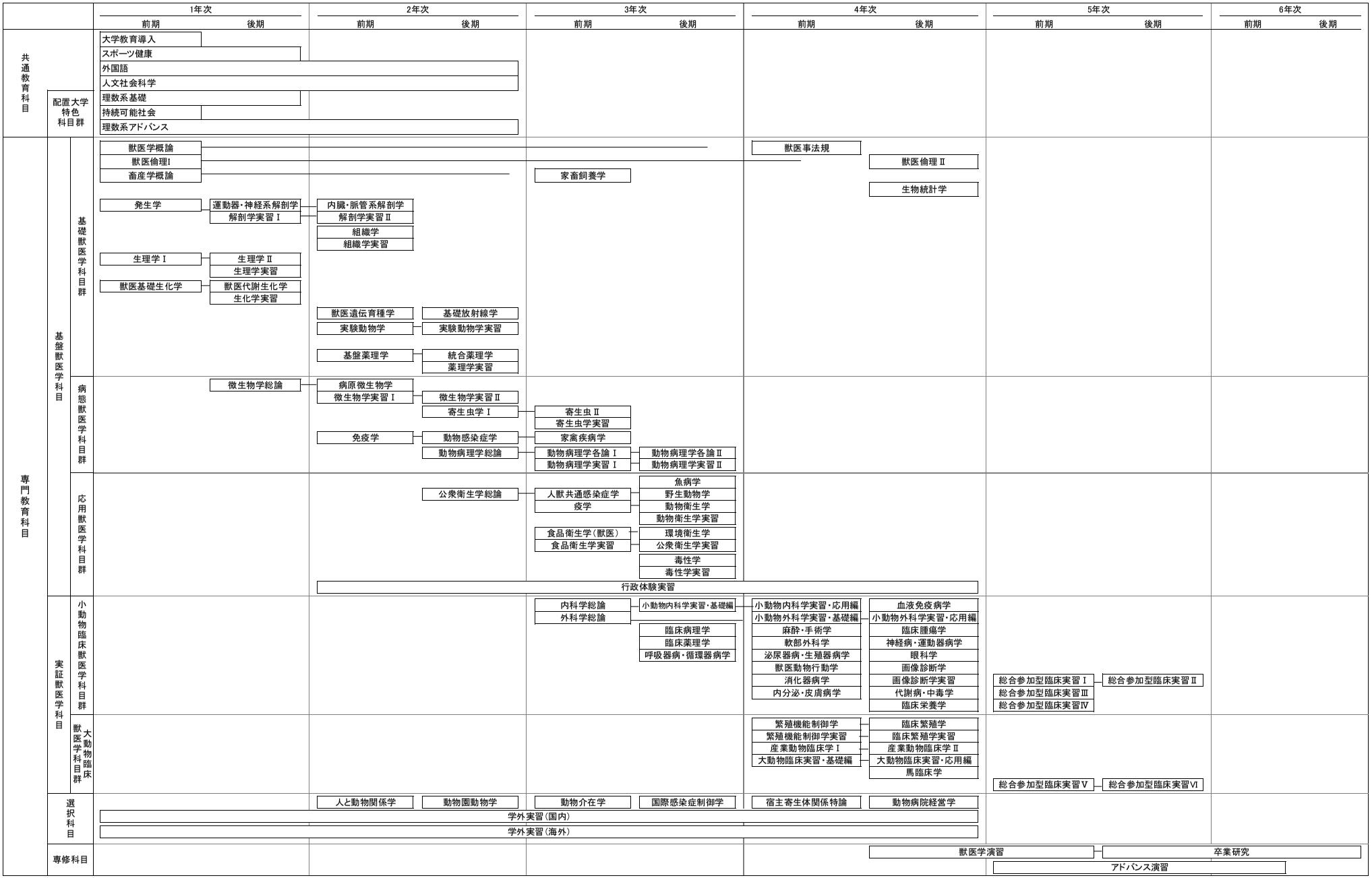
本学科では，実習科目にかかる経費を別途徴収する場合があります。

獣医学部共同獣医学科専門教育科目

区分1	区分2	授業科目	単位数		履修年次												備考
					1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基盤獣医学科目	基礎獣医学科目群	獣医学概論	1		○												
		獣医倫理Ⅰ	1		○												
		獣医倫理Ⅱ	1									○					
		獣医事法規	1								○						
		畜産学概論	2		○												
		家畜飼養学	2						○								
		生物統計学	1									○					
		運動器・神経系解剖学	2			○											
		内臓・脈管系解剖学	2				○										
		解剖学実習Ⅰ	1			○											
		解剖学実習Ⅱ	2				○										
		組織学	2				○										
		組織学実習	1				○										
		発生学	1		○												
		生理学Ⅰ	2		○												
		生理学Ⅱ	2			○											
		生理学実習	1			○											
		獣医遺伝育種学	1				○										
		実験動物学	2				○										
		実験動物学実習	1					○									
		基礎放射線学	2					○									
		獣医基礎生化学	2		○												
		獣医代謝生化学	1			○											
		生化学実習	1			○											
		基盤薬理学	2				○										
		統合薬理学	2					○									
		薬理学実習	1					○									
		小計	40														
	病態獣医学科目群	微生物学総論	2			○											
		病原微生物学	2				○										
		微生物学実習Ⅰ	1				○										
		微生物学実習Ⅱ	1					○									
		免疫学	2				○										
		寄生虫学Ⅰ	2					○									
		寄生虫学Ⅱ	1						○								
		寄生虫学実習	1						○								
		動物感染症学	2					○									
		家禽疾病学	2						○								
		動物病理学総論	3					○									
		動物病理学各論Ⅰ	2						○								
		動物病理学各論Ⅱ	2							○							
		動物病理学実習Ⅰ	1						○								
		動物病理学実習Ⅱ	1							○							
		小計	25														
	応用獣医学科目群	公衆衛生学総論	1					○									
		疫学	2						○								
		人獣共通感染症学	2						○								
		食品衛生学（獣医）	2						○								
		食品衛生学実習	1						○								
		環境衛生学	2							○							
		公衆衛生学実習	1							○							
		毒性学	2							○							
		毒性学実習	1							○							
		動物衛生学	2							○							
		動物衛生学実習	1							○							
		野生動物学	1							○							
		魚病学	2							○							
		行政体験実習	1						○								時期選択
		小計	21														
実証獣医学科目	小動物臨床獣医学科目群	内科学総論	1						○								
		外科学総論	1						○								
		呼吸器病・循環器病学	2							○							
		臨床病理学	2							○							
		臨床薬理学	1							○							
		小動物内科学実習・基礎編	1							○							
		小動物内科学実習・応用編	1								○						
		小動物外科学実習・基礎編	1								○						
		小動物外科学実習・応用編	1									○					
		消化器病学	2								○						
		麻酔学・手術学	1								○						
		軟部外科学	1								○						
		内分泌病・皮膚病学	2								○						
		泌尿器病・生殖器病学	1								○						
		獣医動物行動学	2								○						
		代謝病・中毒学	1									○					
		血液免疫病学	1									○					
		神経病・運動器病学	2									○					
		臨床腫瘍学	1									○					
		臨床栄養学	1									○					
		画像診断学	2									○					
		画像診断学実習	1									○					
		眼科学	1									○					
		総合参加型臨床実習Ⅰ	1										○				
		総合参加型臨床実習Ⅱ	1											○			
		総合参加型臨床実習Ⅲ	1										○				集中講義（東京）
		総合参加型臨床実習Ⅳ	1										○				集中講義（東京）

区分1	区分2	授業科目	単位数		履修年次												備考
					1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次		
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
		小計	34														
	大動物臨床獣医学科目群	繁殖機能制御学	2								○						
		繁殖機能制御学実習	1								○						
		臨床繁殖学	2									○					
		臨床繁殖学実習	1									○					
		産業動物臨床学Ⅰ	2								○						
		産業動物臨床学Ⅱ	2									○					
		大動物臨床実習・基礎編	1								○						
		大動物臨床実習・応用編	1									○					
		馬臨床学	2									○					集中講義（岩手）
		総合参加型臨床実習Ⅴ	1										○				集中講義（岩手）
		総合参加型臨床実習Ⅵ	1											○			集中講義（岩手）
		小計	16														
選択科目		学外実習（国内）		1	○												時期選択
		学外実習（海外）		1	○												時期選択
		人と動物関係学		2			○										集中講義（岩手）
		動物園動物学		2				○									集中講義（東京）
		動物介在学		2					○								集中講義（岩手）
		国際感染症制御学		2						○							集中講義（東京）
		宿主寄生体関係特論		1							○						集中講義（岩手）
		動物病院経営学		1								○					集中講義（東京）
		小計		5	（注）選択科目から合計5単位以上を修得することが卒業要件です												
専修科目		獣医学演習	4										○				
		アドバンス演習	4											○			
		卒業研究	10												○		
		小計	18		・専門教育科目については岩手大学と東京農工大学で独自に開講する科目および遠隔講義システムを利用する科目を含みます												
計			154	5													
合計			159														

獣医学部共同獣医学科　カリキュラムマップ



Ⅷ

教育職員免許状・各種資格の取得方法

Ⅷ　教育職員免許状・各種資格の取得方法

１　教育職員免許状の取得に当たって

岩手大学の学科・課程のうち，教育学部の学校教育教員養成課程以外の学科・課程は教員養成を目的としていません。これらの学科・課程の学生は，教育職員免許状を取得しようとする場合は，正規の卒業資格単位のほかに教育職員免許法施行規則でいう**教科及び教科の指導法に関する科目**（教科に関する科目のほとんどの科目は卒業単位で代替できるが，学科・課程によっては代替できない場合もある），**教職に関する科目**（免許の種類によって異なるが２５単位～３７単位）及び教養教育科目として開講している**「憲法」２単位**，**「健康・スポーツ科目」から２単位**，**「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ，中級ドイツ語，中級フランス語，中級ロシア語，中級中国語，中級韓国語」から２単位**，**「情報基礎Ａ」２単位**を修得する必要があり，相当な決意と努力が必要です。

取得すべき科目及び単位数等は，次ページ以降（人文社会科学部，理工学部，農学部）のとおりです。教育学部の学生はⅣ－８ページ以降のとおりです。

※獣医学部では教育職員免許状を取得することはできません。

・介護等の体験

教科に関する科目及び教職に関する科目とは別に，教育学部及び人文社会科学部の学生で**小学校及び中学校の教諭**の普通免許状を取得しようとする者は，障害者，高齢者等に対する介護・介助等の体験を**７日間**行うことが必要です。ただし，介護等に関する専門知識及び技術を有する者又は身体上の障害により介護等の体験を行うことが困難な者は免除されます。

・各学部において課程認定を受けている教育職員免許状の種類と教科・領域

学　部	学　科　等		免許状の種類	教　科　・　領　域
人文社会科学部	人間文化課程		中学校教諭１種免許状	国語，社会，英語
			高等学校教諭１種免許状	国語，地理歴史，公民，英語
	地域政策課程		高等学校教諭１種免許状	公民
教育学部	学校教育教員養成課程		小学校教諭１種免許状	
			中学校教諭１種免許状	国語，社会，数学，理科，音楽，美術，保健体育，技術，英語
			高等学校教諭１種免許状	国語，地理歴史，公民，数学，理科，情報，音楽，美術，保健体育，英語
			特別支援学校教諭１種免許状	知的障害者に関する教育の領域，肢体不自由者に関する教育の領域，病弱者に関する教育の領域
理工学部	理工学科	化学コース	高等学校教諭１種免許状	数学，理科，情報，工業
		数理・物理コース		
		材料科学コース		
		知能情報コース		
		クリエイティブ情報コース		
		電気電子・情報通信コース		
		機械知能航空コース		
		社会基盤・環境工学コース		
農学部	食料農学科		高等学校教諭１種免許状	理科，農業
	生命科学科			理科
	地域環境科学科			理科，農業
	動物科学・水産科学科			

○人文社会科学部

本学部所属学生が教育職員免許状（以下「教員免許」という。）を取得するには，以下の条件を満たしていなければなりません。

①教員免許取得の基礎資格（学士の学位）を有していること。

②表１の単位を修得していること。

③教養教育で開講する以下の授業科目の単位を修得していること。

・憲法　２単位

・健康・スポーツ　２単位

・英語コミュニケーション※　２単位

※中級ドイツ語，中級フランス語，中級ロシア語，中級中国語，中級韓国語でも可

・情報基礎Ａ　２単位

④中学校教員免許を取得する場合は，「介護等の体験（特別支援学校２日間，社会福祉施設等５日間の実習）」を実施していること。

詳細については１年前期に開講する「教職入門」で説明するので，教員免許取得希望者は必ず「教職入門」を申告のうえ履修してください。

なお，各課程で取得できる教員免許は，前ページの「１　教育職員免許状の取得に当たって」で確認してください。

表１　教員免許取得に必要な単位数

	教職に関する科目	独自科目	各教科の指導法	教科に関する科目	計
中 学 校１種	３０単位	３単位	８単位	２０単位	６１単位
高等学校１種	２６単位	１１単位	４単位	２０単位	６１単位

◆教育実習について

「教育実習事前事後指導（１単位）」の内容

１．教育実習ガイダンス（３年次４月中～下旬）

教育実習申込に係る必要書類配付および実習実施にあたっての注意事項説明

２．事前指導（３年次）

事前指導①（７月）

教員養成支援センター教員による教職，教育実習にあたっての心構えに関する講義

事前指導②（７月）

教育学部附属中学校教諭による教職，教育実習にあたっての心構えに関する講義および附属中学校見学にあたっての注意事項説明

事前指導③（８月）

教育学部附属中学校における観察実習

事前指導④（１２月下旬）

教育実習報告会の聴講

３．事前指導（４年次４月中～下旬）

教育実習記録簿配付と教育実習直前での実習実施に係る心構えに関する講話

４．事後指導（４年次後期）

事後指導①（教育実習終了後２週間以内）

教育実習レポートの提出

事後指導②（１２月下旬）

教育実習報告会に参加し，他の学生の教育実習実施報告を聴講し，教育実習を振り返る

教育実習実施の要件

３年次末までに，以下に掲げる要件を満たしていること。

①事前指導をすべて受講している

②「教育実習ガイダンス」に参加している

③卒業に必要な単位（課外科目を除く）を９６単位以上修得している

④教職に関する科目のうち３年次末までに修得できる単位数の半数以上を修得している

⑤「生徒指導・進路指導」又は「教育相談」の単位を修得している

⑥教育実習で実施する教科の教育法を２単位以上修得している

⑦教科に関する科目を１０単位以上修得していること

教育実習の実施について

教育実習を行う学校は，原則，各自の出身校（母校）です。母校での実習が困難な時は，学生センター③番窓口にご相談ください。中学校教員免許取得の場合は，中学校で４週間（約 160 時間），高等学校教員免許取得の場合は，高等学校で２週間（約 80 時間），実習を行わなければなりません。実習は，５月中旬～６月下旬に行われることが多いですが，実習校により異なりますので，申込みの際に必ず確認してください。

教育実習実施希望者は，３年次の「教育実習ガイダンス」に参加してください。教育実習申込書を配付しますので，期日までに必要事項を記入した申込書を学生センター③番窓口に提出してください。７月中旬頃に，実習予定校宛の依頼文書等をお渡しします。

実習予定校への申し込みは，事前に実習予定校に連絡し，訪問日時を予約した後，長期休業（夏休み）期間中に上記依頼文書持参で，実習予定校に依頼してください。近年，教育実習生の受け入れを制限する学校が増えており，実習を断られる場合もあります。２年次から実習予定校のＨＰの確認や実習予定校への連絡を行い，教育実習実施の意思を伝えると共に，教育実習の申込時期を問い合わせるなど，早めの行動を心がけてください。

教育実習終了後は，２週間以内にレポートを提出してください。教育実習事後指導の一部で，「教育実習事前事後指導」の単位修得に関わりますので，忘れずに提出してください。

◆教育職員免許取得に係る注意事項

教職ポートフォリオの作成

教員免許取得に関する指導の際に，その学修状況を確認するため，教職ポートフォリオ（学修記録）を作成しなければなりません。毎年度末に教職ｅポートフォリオに入力してもらいますので，日頃から配付された資料の整理や記録を行ってください。入力時期等は掲示板・アイアシスタントでお知らせします。

４年次後期に履修する「教職実践演習」では，教職ポートフォリオを使ってグループワーク等を行います。毎年度末の教職ポートフォリオの確認を受けていないと「教職実践演習」を履修することができませんので，十分注意してください。

「介護等の体験」の実施（中学校教員免許取得希望者のみ）

中学校教員免許を取得するには，「介護等の体験（介護等体験実習）」を行わなければなりませ

ん。この実習は個人で申し込むことはできませんので，中学校教員免許取得を希望する場合は，２年次１１月中～下旬に行われるガイダンスと３年次４月に行われる事前指導に必ず出席してください。２年次のガイダンスでは介護等体験実習の申込用紙等を配付しますので，期日までに学生センター③番窓口に提出してください。３年次の事前指導は２回行いますが，全て出席しなければなりません。

介護等体験実習は，３年次の６～１２月に行われ，期間は，社会福祉施設５日間，特別支援学校２日間の計７日間です。実習先や実習日は，申込書に基づき，岩手県社会福祉協議会（社会福祉施設等）および岩手県教育委員会（特別支援学校）が決めます。

教員免許状の授与申請

教員免許は，岩手県教育委員会に申請し，授与されますが，本学では，卒業見込者の教員免許状申請を一括して行っています。卒業と同時に免許状授与を希望する場合は，期日までに必要書類を学生センター③番窓口に提出してください。申請書類の配付や提出締切等は掲示板・アイアシスタントでお知らせいたします（１２月中旬頃)。

◆教職に関する科目の履修について

教職に関する科目は，一部授業科目で履修する順番が下記のとおり決まっています。

①「教職入門」履修後でなければ，他の教職に関する科目を履修できない

②国語科教育法は，Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳの順に履修しなければならない

③中学校（社会）の免許取得希望者の「各教科指導法」の履修に当たって，社会科教材研究法は，少なくとも中等社会科教育法Ａ（社会・地理）あるいは中等社会科教育法Ｂ（社会・公民）のどちらかの科目を履修した後に履修すること。

④高等学校（地理歴史）の免許取得希望者の「各教科の指導法」は，中等社会科教育法Ａ（社会・地歴)，地理歴史科教育法の順に履修しなければならない。

⑤高等学校（公民）の免許取得希望者の「各教科の指導法」は，中等社会科教育法Ｂ（社会・公民)，公民科教育法の順に履修しなければならない。

上記以外にも履修の要件がある場合もありますので，シラバスや掲示板をよく確認して履修してください。

◆教科に関する科目および独自科目の履修について

「教科に関する科目」は，免許状の種類および教科により，表２のとおり科目（区分）が定められています。各科目（区分）１単位以上修得したうえで「教科に関する科目」の免許取得に必要な単位数を修得しなければなりません。「独自科目」は，教科に関する科目，各教科の指導法，および教職に関する科目のそれぞれの免許取得に必要な修得単位数を超えて修得した単位が算入されます。

表２　免許種・教科別の科目区分

免許種	教科	科目（区分）
中 学 校 第 １ 種	国語	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）
		国文学（国文学史を含む。）
		漢文学
		書道（書写を中心とする。）
	社会	日本史・外国史
		地理学（地誌を含む。）
		「法律学，政治学」
		「社会学，経済学」
		「哲学，倫理学，宗教学」
	英語	英語学
		英語文学
		英語コミュニケーション
		異文化理解
高等学校 第 １ 種	国語	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）
		国文学（国文学史を含む。）
		漢文学
	地理歴史	日本史
		外国史
		人文地理学・自然地理学
		地誌
	公民	「法律学（国際法を含む。），政治学（国際政治を含む。）」
		「社会学，経済学（国際経済を含む。）」
		「哲学，倫理学，宗教学，心理学」
	英語	英語学
		英語文学
		英語コミュニケーション
		異文化理解

※「　」は，鍵括弧内の科目（区分）から，１つ以上の科目（区分）の授業科目の単位を修得しなければなりません。例えば，中学校社会の「法律学，政治学」では，法律学の科目（区分）の授業科目だけを修得しても教員免許を取得できます。

教職に関する科目（中学校30単位、高校26単位）

科目	各科目に含める必要事項	授業科目名	履修年次	修得単位 中学 必	中学 選	高校 必	高校 選	備　考
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） ※「（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」を含む。	教職入門	1前	2		2		
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ※「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を含む。 ※「（チーム学校運営への対応を含む。）」を含む。	教育概論	2前	2		2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育法規	2前		2		2	教育法規，学校経営・制度論から2単位必修
		学校経営・制度論	2後		2		2	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育・学校心理学	1後	2		2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2前	2		2		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と実践	2後	2				中学のみ
	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の理論と実践	2後	2		2		
	特別活動の指導法	特別活動の理論と方法	2後	2		2		
	教育の方法及び技術 ※「教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」を含む。	教育課程・教育方法論	2前	2		2		
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育におけるICT活用法	3年	1		1		
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導	1後	2		2		
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法							
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2前	2		2		
教育実践に関する科目	教育実習　中5単位、高3単位 ※事前指導含むこと	教育実習事前事後指導	3～4	1		1		
		中学校教育実習	4通	4				
		高等学校教育実習	4通			2		
	教職実践演習	教職実践演習	4後	2		2		

各教科の指導法に関する科目（中学校8単位、高校4単位）

各科目に含める必要事項	授業科目名		修得単位 中学 必	中学 選	高校 必	高校 選	備　考
各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。）	国語科教育法Ⅰ	2前	2		2		Ⅰから Ⅳの順に履修
	国語科教育法Ⅱ	2後	2		2		高校：Ⅲを履修した場合独自科目に算入する
	国語科教育法Ⅲ	3前	2			2	
	国語科教育法Ⅳ	4後	2				
	中等社会科教育法A（社会・地歴）	2後	2		2		高校地歴：中等社会科教育法Aと地理歴史科教育法を履修
	中等社会科教育法B（社会・公民）	2前	2		2		
	社会科教材研究法	2前	2				
	社会科学習内容構築論	4後	2				高校公民：中等社会科教育法Bと公民科教育法を履修
	地理歴史科教育法	2前			2		
	公民科教育法	2後			2		
	英語科教育法Ⅰ	2前	2		2		高校：Ⅲを履修した場合独自科目に算入する
	英語科教育法Ⅱ	2･3後	2		2		
	英語科教育法Ⅲ	2･3後	2			2	
	英語科教育法Ⅳ	4後	2				

教科に関する科目　科目区分別授業科目一覧

≪人間文化課程≫

科目	科目（区分）	授業科目名	単位	免許種	備考
国語	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	必　日本語学概説	2	中学 高校	高等学校免許取得希望者が「書法基礎」を修得しても，「独自科目」の単位には算入できない。 授業科目名の「必」は必修の授業科目であることを意味している（以下同様）。
		日本語学講義A	2	中学 高校	
		日本語学講義B	2	中学 高校	
		日本語学講義C	2	中学 高校	
		日本語学講義D	2	中学 高校	
		日本語学講読A	2	中学 高校	
		日本語学講読B	2	中学 高校	
		日本語学特講A	2	中学 高校	
		日本語学特講B	2	中学 高校	
		日本語表現基礎（アカデミック・ライティング）	2	中学 高校	
		日本語読解基礎（クリティカル・リーディング）	2	中学 高校	
		中国語学講義B	2	中学 高校	
	国文学（国文学史を含む。）	必　日本文学講義A	2	中学 高校	
		必　日本文学講義B	2	中学 高校	
		必　日本文学講義C	2	中学 高校	
		必　日本文学講義D	2	中学 高校	
		日本文学特講A	2	中学 高校	
		日本文学特講B	2	中学 高校	
	漢文学	必　漢文学概論	2	中学 高校	
		漢文学講義	2	中学 高校	
	書道（書写を中心とする。）	必　書法基礎	2	中学	
社会・地理歴史	日本史	必　日本史講義A	2	中学 高校	中学校免許では，日本史＋外国史の授業科目＝日本史・外国史の授業科目，人文地理学・自然地理学＋地誌の授業科目＝地理学（地誌を含む。）の授業科目。必修，選択必修の授業科目も同様である。 授業科目名の「選必」は選択必修の授業科目であることを意味している（以下同様）。 選必 アジア史講義A，同Bから２単位修得すること。
		必　日本史講義B	2	中学 高校	
		日本史講義C	2	中学 高校	
		日本史講義D	2	中学 高校	
		日本史特講A	2	中学 高校	
		日本史特講B	2	中学 高校	
		日本史特講C	2	中学 高校	
		日本史講読A	2	中学 高校	
		日本史講読B	2	中学 高校	
		考古学講義A	2	中学 高校	
		考古学講義B	2	中学 高校	
	外国史	必　西洋史講義A	2	中学 高校	
		必　西洋史講義B	2	中学 高校	
		西洋史講義C	2	中学 高校	
		選必　アジア史講義A	2	中学 高校	
		選必　アジア史講義B	2	中学 高校	
		西洋史特講A	2	中学 高校	
		西洋史特講B	2	中学 高校	
		西洋史講読A	2	中学 高校	
		西洋史講読B	2	中学 高校	
		西洋史講読C	2	中学 高校	
		西洋史講読D	2	中学 高校	
		アジア史特講A	2	中学 高校	
		アジア史特講B	2	中学 高校	
		アジア史特講C	2	中学 高校	
	人文地理学・自然地理学	必　人文地理学概論A	2	中学 高校	※課外科目
		必　自然地理学概論A	2	中学 高校	
	地誌	必　地誌学	2	中学 高校	※課外科目

科目	科目（区分）	授業科目名	単位	免許種	備考
社会・公民	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際法を含む。）」	**必** 政治学（政治過程）	2	中学 高校	中学校免許では，「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際法を含む。）」の授業科目＝「法律学、政治学」の授業科目。必修の授業科目も同様である。 本科目（区分）の授業科目は，全て地域政策課程の授業科目（一部専修プログラムでは専修プログラム科目になっている授業科目もある）。
		民法（総則）Ⅰ	2	中学 高校	
		民法（総則）Ⅱ	2	中学 高校	
		民法（物権）Ⅰ	2	中学 高校	
		民法（物権）Ⅱ	2	中学 高校	
		民法（家族法）A	2	中学 高校	
		民法（家族法）B	2	中学 高校	
		憲法（人権）Ⅰ	2	中学 高校	
		憲法（人権）Ⅱ	2	中学 高校	
	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	**必** 社会学入門A	2	中学 高校	中学校免許では，「社会学、経済学（国際経済を含む。）」の授業科目＝「社会学、経済学」の授業科目。必修の授業科目も同様である。
		社会学入門B	2	中学 高校	
		社会学入門C	2	中学 高校	
		地域社会学	2	中学 高校	
		地域社会学特講	2	中学 高校	
		ジェンダー論講義	2	中学 高校	
		エスニシティ論講義	2	中学 高校	
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	**選必** 人文学入門A	2	中学 高校	中学校免許では，「哲学、倫理学、宗教学、心理学」の授業科目＝「哲学、倫理学、宗教学」の授業科目である。心理学は高等学校のみで，中学校免許取得のための修得単位数には算入できない。 中学社会「選必」 人文学入門A，日本思想史講義A，日本思想史講義Bから２単位修得すること。 高校公民「選必」 人文学入門A，日本思想史講義A，日本思想史講義B，心理学概論から２単位修得すること。
		人文学入門B	2	中学 高校	
		人文学入門C	2	中学 高校	
		人間学講義	2	中学 高校	
		倫理学講義	2	中学 高校	
		選必 日本思想史講義A	2	中学 高校	
		人間学特講A	2	中学 高校	
		人間学特講B	2	中学 高校	
		倫理学特講A	2	中学 高校	
		倫理学特講B	2	中学 高校	
		選必 日本思想史講義B	2	中学 高校	
		日本思想史講義C	2	中学 高校	
		日本思想史講義D	2	中学 高校	
		日本思想史特講A	2	中学 高校	
		日本思想史特講B	2	中学 高校	
		日本思想史特講C	2	中学 高校	
		日本思想史講読Ⅰ	2	中学 高校	
		日本思想史講読Ⅱ	2	中学 高校	
		社会文化思想論講義	2	中学 高校	
		選必 心理学概論	2	高校	
		実験心理学（神経・生理心理学）	2	高校	
		認知心理学（知覚・認知心理学Ⅰ）	2	高校	
		社会心理学（社会・集団・家族心理学）	2	高校	
		臨床心理学（臨床心理学概論）	2	高校	
		認知心理学特講（知覚・認知心理学Ⅱ）	2	高校	
		人格心理学特講	2	高校	

科目	科目（区分）	授業科目名	単位	免許種	備考
英語	英語学	必　英語学講義D	2	中学 高校	
		言語習得論A	2	中学 高校	
		言語習得論B	2	中学 高校	
		英語学講義A	2	中学 高校	
		英語学講義B	2	中学 高校	
		英語学講義C	2	中学 高校	
	英語文学	必　英米文学講義D	2	中学 高校	
		英米文学講義A	2	中学 高校	
		英米文学講義B	2	中学 高校	
		英米文学講義C	2	中学 高校	
	英語コミュニケーション	選必　英語コミュニケーション基礎Ⅰ	2	中学 高校	選必 英語コミュニケーション基礎Ⅰ，スキルアップ・イングリッシュBから２単位修得すること。
		選必　スキルアップ・イングリッシュB	2	中学 高校	
		英語コミュニケーション基礎Ⅱ	2	中学 高校	
		スキルアップ・イングリッシュA	2	中学 高校	
	異文化理解	必　英米文化論講義E	2	中学 高校	
		英米文化論講義A	2	中学 高校	
		英米文化論講義B	2	中学 高校	
		英米文化論講義C	2	中学 高校	
		英米文化論講義D	2	中学 高校	
		英米文化論講義F	2	中学 高校	

≪地域政策課程≫

科目	科目（区分）	授業科目名	単位	免許種	備考
公民	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際法を含む。）」	**必** 政治学（政治過程）	2	高校	
		民法（総則）Ⅰ	2	高校	
		民法（総則）Ⅱ	2	高校	
		民法（物権）Ⅰ	2	高校	
		民法（物権）Ⅱ	2	高校	
		民法（家族法）A	2	高校	
		民法（家族法）B	2	高校	
		憲法（人権）Ⅰ	2	高校	
		憲法（人権）Ⅱ	2	高校	
	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	**必** 経済学基礎Ⅰ	2	高校	
		環境社会学Ⅰ	2	高校	
		環境社会学Ⅱ	2	高校	
		経済学基礎Ⅱ	2	高校	
		農業経済論Ⅰ	2	高校	
		農業経済論Ⅱ	2	高校	
		理論経済学Ⅰ	2	高校	
		理論経済学Ⅱ	2	高校	
		財政学Ⅰ	2	高校	
		財政学Ⅱ	2	高校	
		環境経済論A	2	高校	
		環境経済論特講	2	高校	
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	**選必** 人文学入門A	2	高校	選必：人文学入門A，日本思想史講義A，日本思想史講義B，心理学概論から２単位修得すること。 本科目（区分）の授業科目は，全て人間文化課程の授業科目。
		選必 日本思想史講義A	2	高校	
		選必 日本思想史講義B	2	高校	
		選必 心理学概論	2	高校	

○理工学部

本学部で取得できる教員免許状（Ⅷ-1ページ参照）を取得するためには，以下の条件を満たす必要があります。

1）基礎資格（学士の学位）を有していること
2）Ⅷ-11ページ表１に示す，教職に関する科目を**２６単位**修得していること
3）表２に示す各教科の指導法に関する科目を**４単位**修得していること及びⅧ-13～Ⅷ-18ページ表３に示す教科に関する科目を**３１単位**修得していること（**計３５単位以上**）
4）教養教育科目で開講している，下記の単位を修得していること（**計８単位**）
「憲法」２単位　「健康・スポーツＡ」１単位　「健康・スポーツＢ」又は「健康・スポーツＣ」１単位
「英語コミュニケーションⅠ」１単位　「英語コミュニケーションⅡ」１単位　「情報基礎Ａ」２単位

詳細については，**１年次前期に開講する「教職入門」で教育職員免許状を取得するためのガイダンスを行います。免許取得希望者は必ず「教職入門」を履修してください。**なお１年次前期に「教職入門」を履修できない学生は，学生センターＡ棟④番窓口（学務課）に相談してください。
※教員免許状に関する問い合わせ先は，学生センターＡ棟④番窓口（学務課）です。

表１．教職に関する科目及び修得すべき単位数

免許法上の区分	免許法施行規則に規定される科目	授業科目名 **※注１**	修得すべき単位数（合計２６単位）				履修年次	開講期
			数学	理科	情報	工業 **※注4**		
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） ※「（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」を含む。	教職入門	2	2	2	2	1	前期
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ※「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を含む。 ※「（チーム学校運営への対応を含む。）」を含む。	教育概論	2	2	2	2	2～	前期
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育・学校心理学	2	2	2	2	1～	後期
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育法規　**※注2**	2	2	2	2	2～	前期
		学校経営・制度論　**※注2**					2～	後期
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	2	2	2	2～	前期
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な探究の時間の指導法	総合的な学習の時間の理論と実践	2	2	2	2	2～	後期
	特別活動の指導法	特別活動の理論と方法	2	2	2	2	1～	後期
	教育の方法及び技術 ※「教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」を含む。	教育課程・教育方法論	2	2	2	2	2～	前期
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育におけるICT活用法	1	1	1	1	3～	後期
	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導・進路指導	2	2	2	2	1～	後期
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2	2	2	2	1～	後期
教育実践に関する科目	教職実践演習（中・高）	教職実践演習	2	2	2	2	4	後期
	教育実習	教育実習（教育実習事前・事後指導１単位含む） **※注３**	3	3	3	3	3～4	

表２．各教科の指導法に関する科目及び修得すべき単位数

免許法上の区分	免許法施行規則に規定される科目	授業科目名 **※注１**	修得すべき単位数（合計４単位）				履修年次	開講期
			数学	理科	情報	工業 **※注4**		
教科の指導法に関する科目	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	数学科教育法Ⅰ	2	－	－	－	2～	前期
		数学科教育法Ⅱ	2	－	－	－	2～	後期
		理科教育法Ⅰ	－	2	－	－	2～	前期
		理科教育法Ⅱ	－	2	－	－	2～	後期
		情報教育法Ⅰ	－	－	2	－	2～	前期
		情報教育法Ⅱ	－	－	2	－	2～	後期
		工業教育法Ⅰ	－	－	－	2	2～	前期
		工業教育法Ⅱ	－	－	－	2	2～	後期

注１ ・理工学部在籍時に，理工学部で開設している科目で必要単位を取得してください。
・隔年開講又は専門科目（必修）と開講時期が重なる等で履修できない場合は，次年度以降に履修して単位を取得してください。

注２ 「教育法規」又は「学校経営・制度論」から１科目を選択履修してください。

注３ 教育実習については，ガイダンスを３年次の５月頃におこないますが，特に以下のことに注意してください。

（１）教育実習ができる条件について（下記１～５を全て満たしている必要があります）
１）卒業見込みの者（研究室に配属されていること）
２）教職に関する科目の単位の１／２以上（１３単位）を修得していること
３）教科に関する科目の単位の１／２以上（１６単位）を修得していること
４）実習で実施する教科の教育法を２単位以上修得していること
５）「生徒指導・進路指導」又は「教育相談」の単位を修得していること
＊ ただし，編入学生には適用しません。

（２）実習校及び実習期間について
実習校は，原則として各自の出身校とします。実習期間は２週間で，例年６月～９月の予定ですが，実習校の事情により多少の変更もあります。
３年次の７月頃に，大学から実習校への依頼書を配付し，夏期休業中に実習予定者自身が持参して内諾をもらう必要がありますが，受け入れ人数に制限があり受け入れを断られる場合もあるので，２年次の終わり頃など，早めに出身校と連絡を取って確認してください。

（３）事前・事後指導について
教育実習は，実習の他に事前指導（３年次・４年次）と事後指導（４年次）を必ず受けなければなりません。日程は掲示でお知らせしますので，注意してください。

注４ 「工業」の免許状における教職に関する科目の２６単位及び教科の指導法に関する科目の４単位の計３０単位については，全部又は一部を教科に関する科目（工業）で代替することができます。ただし，コースによっては履修すべき単位（職業指導を除き５９単位）に不足することもありますので，その場合は，学生センターA棟④番窓口（学務課）に相談してください。

表３．教科に関する科目の修得すべき単位数

理工学科　【数学】

数理・物理コース、材料科学コース、知能情報コース、クリエイティブ情報コース、
電気電子・情報通信コース、機械知能航空コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設コース等☆	修得すべき単位数	
代　数　学	○ 基礎数学	1	☆	1以上	合計31
	○ 線形代数学Ａ	2			
	線形代数学Ｂ	2			
	離散数学	2			
	電気数学	2			
	計算力学	2			
幾　何　学	ベクトル解析	2	☆	1以上	
	物理数学演習Ⅰ	1			
	○ 幾何学Ⅰ	2			
	幾何学Ⅱ	2			
解　析　学	○ 微分積分学Ⅰ	2	☆	1以上	
	微分積分学Ⅱ	2			
	微分方程式	2			
	複素解析	2			
	フーリエ解析	2			
	物理数学演習Ⅱ	1			
	応用微分方程式	2			
	応用解析学	2			
	複素解析入門	1			
「確率論、統計学」	○ 確率統計学	2	☆	1以上	
	応用確率統計学	2			
	データ解析	2			
コンピュータ	△ 数値計算法	2	☆	1以上	
	プログラミング学	2			
	人工知能	2			
	論理回路	2			
	△ 数値計算	2			
	コンピュータアーキテクチャ	2			
	形式言語とオートマトン	2			
	数値計算アルゴリズム	2			
	システム制御工学	2			

○印科目は，科目区分ごとの必修科目を示す。
△印科目は，当該科目区分の選択必修科目を示す。（△印から１科目２単位以上修得すること）
・下線付きの授業科目は，一般的包括的内容を含む科目。
☆各コース教育課程表備考欄に示されている科目区分(Ⅷ-19ページ表4参照)を確認し，開設コースで受講してください。
※他コースの開設科目を履修する場合は，設備等の関係で受け入れできない場合もありますので，担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

理工学科　【理科】

化学コース、数理・物理コース、材料科学コース、社会基盤・環境工学コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設コース等☆	修得すべき単位数	
物　理　学	○ 物理学A	2	☆	1以上	合計31
	物理学B	2			
	熱力学	2			
	電磁気学Ⅰ	2			
	電磁気学Ⅱ	2			
	量子物理学Ⅰ	2			
	統計物理学	2			
	光学	2			
	固体物理学	2			
	電子物性学	2			
	磁性理工学	2			
	超伝導理工学	2			
	ナノ理工学	2			
	量子物理学Ⅱ	2			
	粒子線計測学	2			
	現代物理学Ⅰ	2			
	現代物理学Ⅱ	2			
	振動論	2			
	構造力学Ⅰ	2			
	構造力学Ⅱ	2			
	構造力学演習	1			
	水理学Ⅰ	2			
	水理学Ⅱ	2			
	水理学演習	1			
	土質力学Ⅰ	2			
	土質力学Ⅱ	2			
	土質力学演習	1			
	耐震工学	2			
化　　学	○ 化学A	2	☆	1以上	
	化学B	2			
	有機化学Ⅰ	2			
	有機化学Ⅱ	2			
	無機化学Ⅰ	2			
	無機化学Ⅱ	2			
	物理化学Ⅰ	2			
	物理化学Ⅱ	2			
	化学工学Ⅰ	2			
	有機化学演習Ⅰ	1			
	有機化学演習Ⅱ	1			
	有機化学演習Ⅲ	1			
	無機化学演習Ⅰ	1			
	無機化学演習Ⅱ	1			
	無機化学演習Ⅲ	1			
	物理化学演習Ⅰ	1			
	物理化学演習Ⅱ	1			
	物理化学演習Ⅲ	1			
	高分子化学	2			
	無機分析化学	2			
	医薬品化学	2			
	無機材料化学	2			
	化学工学Ⅱ	2			
	次世代電池工学	2			
	触媒化学	2			
	有機分析化学	2			
	表面化学	2			
	応用電気化学	2			
	結晶工学	2			
	エネルギー環境科学	2			
	半導体分子化学	2			
	化学概論	2			

	化学研修 化学理工学情報Ⅰ 化学理工学情報Ⅱ 化学理工学研修 材料物理化学I 材料電気化学 水環境工学 大気環境工学	1 1 1 1 2 2 2 2	☆		
生　物　学	○ 生物学 生物化学Ⅰ 生物化学Ⅱ 生物有機化学 ケミカルバイオロジー	2 2 2 2 2	☆	1以上	
地　　学	○ 地学 地質工学 地震･火山防災工学 水・土砂防災工学	2 2 2 2	☆	1以上	
「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」	△ 物理学実験 △ 物理･材料理工学実験Ⅱ △ 化学理工学実験Ⅰ △ 化学理工学実験Ⅱ △ 化学実験 △ 物理･材料理工学実験Ⅰ 社会基盤・環境工学実験	1 2 3 3 1 2 1	☆	1以上	

○印科目は，科目区分ごとの必修科目を示す。
△印科目は，当該科目区分の選択必修科目を示す。（△印から１科目１単位以上修得すること）
・下線付きの授業科目は，一般的包括的内容を含む科目。
☆各コース教育課程表備考欄に示されている科目区分(Ⅷ-19ページ表4参照)を確認し，開設コースで受講してください。
※他コースの開設科目を履修する場合は，設備等の関係で受け入れできない場合もありますので，担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

理工学科　【情報】

知能情報コース、クリエイティブ情報コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設コース等☆	修得すべき単位数	
情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理	○ 情報社会と倫理	2	教育学部開設科目	1以上	合計31
	セキュリティとプライバシー	2	☆		
	○ 情報職業論	1			
コンピュータ・情報処理	信号処理	2	☆	1以上	
	ディジタル回路設計	2			
	○ オペレーティングシステム	2			
	数理計画法	2			
	コンパイラ	2			
	○ プログラミング言語及び演習Ⅰ	2			
	○ プログラミング言語及び演習Ⅱ	2			
	○ データ構造とアルゴリズム	2			
	ハードウェア設計及び演習	2			
情報システム	○ データベース	2	☆	1以上	
	ロボティクス	2			
	○ ソフトウェア構成論	2			
	○ ソフトウェア設計及び演習	2			
	○ システム創成プロジェクト	2			
情報通信ネットワーク	○ コンピュータネットワーク	2	☆	1以上	
	ディジタル通信	2			
	○ ネットワーク実験	1			
マルチメディア表現・マルチメディア技術	画像処理とパターン認識	2	☆	1以上	
	○ メディアシステム	2			
	ヒューマンインタフェース	2			
	コンピュータグラフィックス	2			
	情報デザインⅠ	2			

○印科目は，科目区分ごとの必修科目を示す。

・下線付きの授業科目は，一般的包括的内容を含む科目。

☆各コース教育課程表備考欄に示されている科目区分(Ⅷ-19ページ表4参照)を確認し，開設コースで受講してください。

理工学科　【工業】

数理・物理コース、材料科学コース、電気電子・情報通信コース、機械知能航空コース、社会基盤・環境工学コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設コース等☆	修得すべき単位数	
職 業 指 導	○ 職業指導	2	理工学科	2	
工業	△ 材料組織学Ⅰ	2		29	合計31
	△ 電気回路学	2			
	材料計測学	2			
	誘電体材料学	2			
	半導体理工学	2			
	半導体デバイス工学	2			
	△ 材料力学	2			
	△ 材料物理化学Ⅱ	2			
	材料組織学Ⅱ	2			
	金属構造材料学	2			
	△ 材料強度学	2			
	△ エコ材料学	2			
	接合工学	2			
	反応工学	2			
	製錬工学	2			
	鋳造材料学	2			
	複合材料学	2			
	生体材料学	2			
	非鉄金属材料学	2			
	電子デバイス工学Ⅰ	2			
	電子デバイス工学Ⅱ	2			
	半導体LSI工学	2			
	△ 電気回路論Ⅰ	2			
	△ 電気回路論Ⅱ	2			
	△ 電気回路論Ⅲ	2			
	△ 電磁気学Ⅰ	2			
	△ 電磁気学Ⅱ	2			
	電磁波工学	2			
	電子材料物性学	2			
	アナログ電子回路	2	☆		
	応用電子回路	2			
	電気電子計測学	2			
	通信システム	2			
	制御システム工学	2			
	光エレクトロニクス	2			
	エネルギー変換工学	2			
	電気機器工学	2			
	高電圧プラズマ工学	2			
	発電工学	2			
	送配電工学	2			
	組込ソフトウェア実習	1			
	組込ハードウェア実習	1			
	電気電子・情報通信工学特別講義	2			
	電気設計製図	2			
	精密工学	2			
	トライボロジー	2			
	△ 機械製図Ⅰ	1			
	△ ＣＡＤ実習	1			
	材料力学Ⅰ	2			
	機械材料学Ⅰ	2			
	流体力学	2			
	△ 機械製図Ⅱ	1			
	機械加工学	2			
	機械力学	2			
	熱力学	2			
	制御工学	2			
	機械設計学	2			
	材料力学Ⅱ	2			
	粘性流体工学	2			

	固体力学	2			
	伝熱工学	2			
	燃焼工学	2			
	生体工学	2			
	センシング工学	2			
	航空流体工学	2			
	機械材料学Ⅱ	1			
	ロボティクス工学	2			
	航空宇宙システム工学	1			
	△ 測量学	2			
	△ 環境工学	2			
	測量学実習Ⅰ	1			
	測量学実習Ⅱ	1			
	鋼構造学	2	☆		
	コンクリート工学	2			
	鉄筋コンクリート工学	2			
	道路工学	2			
	施設維持管理工学	2			
	水工学	2			
	岩盤力学	2			
	都市計画学	2			
	交通計画学	2			
	公共政策学	2			
	上下水道工学	2			
	土壌環境工学	2			
	生態環境保全学	2			
	資源循環工学	2			
	設計製図	1			

○印科目は，科目区分ごとの必修科目を示す。
△印科目は，当該科目区分の選択必修科目を示す。（△印から１科目１単位以上修得すること）
・下線付きの授業科目は，一般的包括的内容を含む科目。
☆各コース教育課程表備考欄に示されている科目区分(Ⅷ-19ページ表4参照)を確認し，開設コースで受講してください。
※他コースの開設科目を履修する場合は，設備等の関係で受け入れできない場合もありますので，担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

表４．教科に関する科目　科目区分一覧

※教育課程表の備考欄に表示する略語

教科名	科目区分	※略語
数学	代数学	代
	幾何学	幾
	解析学	解
	「確率論、統計学」	確
	コンピュータ	コ
理科	物理学	物
	化学	化
	生物学	生
	地学	地
	「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」	物実
		化実
		生実
		地実
情報	情報社会（職業に関する内容を含む）・情報倫理	情社
	コンピュータ・情報処理	情コ
	情報システム	情シ
	情報通信ネットワーク	情ネ
	マルチメディア表現・マルチメディア技術	情マ
工業	工業の関係科目	工
	職業指導	

○農　学　部

農学部では高等学校教諭１種免許状（理科・農業）が取得可能です。そのためには下記のように修得する必要があります。**（注：生命科学科は農業の免許状を取得できません。）**

①基礎資格（「学士の学位」）を有している
②下記に示した**Ａ表から２６単位**と**Ｂ表から３５単位以上**の合計６１単位以上を修得している
③教養教育科目から決められた科目と単位数を修得している
（Ⅷ教育職員免許状・各種資格の取得方法（Ⅷ-1 ページ） を参照）

詳細については，1 年次前期に開講する「教職入門」で説明するので，**免許取得希望者は必ず「教職入門」を履修申告のうえ受講してください。**

Ａ表　教職に関する科目及び修得単位数

	免許法施行規則に規定される科目		授業科目名	履修年次	履修時期	最低修得単位数	
						農業	理科
教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） ※「（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」を含む。	教職入門	1	前期	2	2
		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ※「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を含む。 ※「（チーム学校運営への対応を含む。）」を含む。	教育概論	２～	前期	2	2
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育法規	２～	前期	１科目選択	１科目選択
			学校経営・制度論	２～	後期	2	2
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育・学校心理学	１～	後期	2	2
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	２～	前期	2	2
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な探究の時間の指導法	総合的な学習の時間の理論と実践	２～	後期	2	2
		特別活動の指導法	特別活動の理論と方法	１～	後期	2	2
		教育の方法及び技術 ※「教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」を含む。	教育課程・教育方法論	２～	前期	2	2
		情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育における ICT 活用法	３～	後期	1	1
		生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導・進路指導	１～	後期	2	2
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	１～	後期	2	2
	教育実践に関する科目	教育実習	教育実習（教育実習事前事後指導含む）**（注１・注２）**	３～４		3	3
		教職実践演習（中・高）	教職実践演習	4	後期集中	2	2
	Ａ表　　小　　計					２６	２６

Ｂ表　教科及び教科の指導法に関する科目及び修得単位数

	免許法施行規則に規定される科目		授業科目名	履修年次	履修時期	開設科目単位数による最低修得単位数	
						農業	理科
教科及び教科の指導法に関する科目	理科に関する専門的事項	物理学	物理学入門				2
		化学	化学入門				2
		生物学	生物学入門				2
		地学	地学入門				2
		「物理学実験（コンピュータ活用を含む。）、化学実験（コンピュータ活用を含む。）、生物学実験（コンピュータ活用を含む。）、地学実験（コンピュータ活用を含む。）」	基礎化学実験 基礎生物学実験				このうちから1
		理科の関係科目	（注３）				２２
	理科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		理科教育法Ⅰ	２～	前期		2
			理科教育法Ⅱ	２～	後期		2
	農業に関する専門的事項	農業の関係科目	（注３）			２９	
		職業指導	職業指導	１～	前期集中	2	
	農業の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		農業教育法Ⅰ	２～	前期	2	
			農業教育法Ⅱ	２～	後期	2	
	Ｂ表　小　計					３５	３５

Ａ表　Ｂ表　合　計	６１	６１

（注１）教育実習について
１）教育実習は４年次の６～９月頃に２週間の日程で行います。実習校は原則として各自の出身高等学校とします。
３年次の４月下旬～５月上旬にガイダンスを行ったうえで，７月頃に，実習校への大学からの依頼文を配布し，希望者が実習校に持参することにしていますが，実習生の受入人数を制限している学校があるので，実習を希望する学生は，２年次の終わり頃に出身校に連絡を取り，受け入れ手続きの確認をしておいてください。
２）実習のほかに事前指導（３年次・４年次）と事後指導（４年次）を必ず受ける必要があります。日程は掲示でお知らせしますので，注意してください。
（注２）教育実習実施にあたっては，下記の条件を全て満たしていなければなりません。
１）卒業見込の者（研究室配属されていること）
２）教職に関する科目の単位の１／２以上（１３単位以上）を取得していること
３）教科に関する科目の単位の１／２以上（１８単位以上）を取得していること
４）実習で実施する教科の教育法を２単位以上修得していること
５）「生徒指導・進路指導」又は「教育相談」の単位を修得していること
６）教育実習事前指導を受講していること
（注３）理科及び農業の関係科目に対応する授業科目については，農学部専門教育科目履修表の備考欄の教員免許法上の科目の表示を確認し，所属学科（所属学科の他コースも含む。）の科目を修得してください。なお，所属学科（所属学科の他コースも含む。）で指定されている、免許を取得するための必修科目（「必」が記載された科目）を必ず履修してください。

○教員免許状授与申請について
免許状は都道府県の教育委員会に必要書類を取りそろえて申請することによって授与されます。
卒業時に岩手県教育委員会に一括して申請しますので，希望者は必要書類を学生センターＡ棟④番窓口に提出して下さい。
必要書類や提出の日程については冬季休業前に掲示します。

２　その他各種資格の取得に当たって

所属する学部・学科・課程等によっては，特定科目の単位取得と卒業をもって，各種の資格を取得できたり，資格取得のための試験科目が一部免除される場合があります。

取得できる資格等については次の表にあげるページを参照してください。

また，この「履修の手引き」に掲載されていない資格について講習会等が開催される場合もありますので掲示にも注意してください。

所属学部	資格等の掲載ページ
人文社会科学部	Ⅲ－４９～５１ページ
教育学部	Ⅳ－４３～６９ページ
理工学部	各コース課程表の注釈欄
農学部	専門教育科目履修表の注釈欄

Ⅸ

国際教育科目について

Ⅸ　国際教育科目について

１．国際教育科目の理念と教育目標

岩手大学では，次の２種類の内容の「国際教育科目」を開講しています。

① 共修科目群

概要・目的：本学の海外交流協定大学からの交換留学生や日本語・日本文化研修留学生等と本学の学生が共修し，日本や国際社会についての知識を高め，それらについての討論，体験などを通じて，主体的に行動する態度を涵養することを目的とします。授業は日本語または英語で行われます。

対象：本学の海外交流協定大学からの交換留学生，本学の各学部に在籍する日本人学生及び外国人留学生が履修できます。本学の学部生がこの科目を履修した場合，専門教育科目の自由選択科目として卒業要件の単位が認められる場合がありますので、学務課に確認のうえ履修してください。

＜共修科目群リスト＞

科目区分	授業科目名	単位数	対象学年	開講学期	備考
文化	Comparative Japanese History A	2	1	前期	英語
	Comparative Japanese History B	2	1	後期	英語
	Japanese History A	2	1	前期	英語
	Japanese History B	2	1	後期	英語
	Japanese Traditional Culture A – Ikebana A	2	1	前期 後期	英語
国際研修	海外研修	2	2	前期 後期	集中
	海外研修事前事後指導	2	2	前期 後期	教養教育科目「海外研修―世界から地域を考える」および国際教育科目「海外研修」履修者対象
	学内留学	2	2・3・4	後期	
	国際合宿	2	2	前期	集中

※対象学年以上の学生が履修可能です。

※備考欄に「英語」とある科目は英語で授業を行います。

※備考欄に「集中」とある科目は集中講義で開講予定です。

※講師等の都合により、開講しないことがあります。また、この他の科目が開講される可能性があります。各学期の開講案内を確認してください。

②交換留学生専用科目群

概要・目的：本学に在籍する外国人留学生のために，初級から上級まで 5 レベルの日本語教育，および地域学や研究に関する国際教育を実施します。

対象：本学の海外協定大学からの交換留学生，日本語・日本文化研修留学生に単位が認められます。また，科目区分「日本語」の科目は本学に在学する全ての外国人留学生が受講することができますが，正規学部留学生には単位は認められません。総合科学研究科の正規留学生が「アカデミック日本語」*として登録した科目については単位が認められます。

＜交換留学生専用科目群＞

①日本語

授業科目名	単位数	開講学期	備考
初級日本語総合	10	前期・後期	月～金×2 コマ
初級日本語総合漢字	1	前期・後期	月・木×0.5 コマ
初級日本語Ⅰ会話	1	前期・後期	
初級日本語Ⅰ表記・読解	1	前期・後期	
初級日本語Ⅰ文法	1	前期・後期	
初級日本語Ⅱ文法	1	前期・後期	
初級日本語Ⅱ漢字	1	前期・後期	
初級日本語Ⅱ会話	1	前期・後期	
中級日本語Ⅰ文法１	1	前期・後期	
中級日本語Ⅰ文法２	1	前期・後期	
中級日本語Ⅰ会話	1	前期・後期	
中級日本語Ⅰ読解	1	前期・後期	
中級日本語Ⅰ漢字	1	前期・後期	
中級日本語Ⅰ作文	1	前期・後期	
中級日本語Ⅱ会話	1	前期・後期	
中級日本語Ⅱ文法	1	前期・後期	
中級日本語Ⅱ漢字	1	前期・後期	
中級日本語Ⅱアカデミック日本語	1	前期・後期	
中級日本語Ⅱ読解	1	前期・後期	
中級日本語Ⅱ作文	1	前期・後期	
上級日本語ビジネス日本語	1	前期・後期	
上級日本語アカデミック日本語	1	前期・後期	

② 国際教育

授業科目名	単位数	開講学期	備考
理系研究 A	2	前期	
理系研究 B	2	後期	
特別研究 A	3	前期	大学院科目
特別研究 B	3	後期	大学院科目
農学系研究	1	前期・後期	
農学系特別研究 1	1	前期・後期	大学院科目
農学系特別研究 2	2	前期・後期	大学院科目
農学系特別研究 3	3	前期・後期	大学院科目
芸術系研究 I	2	前期	
芸術系研究Ⅱ	2	前期	
芸術系研究Ⅲ	2	後期	
芸術系研究Ⅳ	2	後期	
芸術系特別研究 I	2	前期	大学院科目
芸術系特別研究Ⅱ	2	前期	大学院科目
芸術系特別研究Ⅲ	2	後期	大学院科目
芸術系特別研究Ⅳ	2	後期	大学院科目
岩手学 A	2	前期	
岩手学 B	2	後期	
スクールインターンシップ I	2	前期	
スクールインターンシップⅡ	2	後期	
個別研究	2	前期・後期	文系・芸術系科目

時間割，単位数，履修手続き，試験，成績評価等については，「岩手大学における国際教育科目に関する要項」その他に定めます。

２．履修方法および開設授業科目

履修については，本冊子及び時間割を参考にし，大学からのお知らせ，中央掲示板および国際課前の掲示等に注意して，間違いのないように手続きをしてください。具体的な履修方法及び開設授業科目については，当該学期の開始までに別途掲示によりお知らせします。

各学部，学科，課程ごとにそれぞれ履修できる範囲及び修得すべき単位数等が定め

られていますので，各学部の説明の項を熟読してください。また，履修にあたっては前期のみまたは後期のみ開講する授業科目や，年度により開設しない科目があるので注意してください。

X

その他プログラムについて

数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（MDASH 認定教育プログラム）

本学は「岩手大学ビジョン 2030」の教育目標及び第４期中期目標・中期計画のアクションプランで「社会における様々なデータを数理・統計・情報を用いて解析し，社会における課題を発見し解決することができる能力を身につけるため教養教育と専門教育を融合させた数理・データサイエンス・ＡＩに係る教育の体系化の確立」を掲げています。このアクションプラン実現のため，教養教育と各学部の専門教育では，数理・データサイエンス・ＡＩに関する授業科目を開設しています。新しい時代の「読み・書き・そろばん」とされる数理・データサイエンス・ＡＩに係る知識やスキルは，理系学部生の必須能力に留まらず，人文社会科学分野の文系の学生においても必須能力となっています。特に近年成長著しい AI は，今後の社会を大きく変革するゲームチェンジャーになると考えられています。このようなことから,本学では,在籍するすべての学生が関係する知識やスキルを習得し，実践的に活用できる能力を身につけられる教育プログラムとしています。

本学では，令和４年度に文部科学省から,「数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム」認定制度(MDASH)による「リテラシーレベル」の認定を受けています。リテラシーレベルは，教養教育科目の必修科目で対応しているため，全学生が認定されます。また，MDASH「応用基礎レベル」の教育プログラムは，教養教育科目と各学部の専門教育科目で構成されており，学部の専門性を活かした教育プログラムとなっています。令和６年度には教育学部の教育プログラムが認定され，令和５年度入学生から適用されています。人文社会科学部，理工学部，農学部（共同獣医学科は令和７年度から獣医学部）については令和６年度入学生から同教育プログラムを開始しており，令和７年度中に認定申請の予定です。

なお，令和７年度から入学する理工学部，農学部の学生については,「応用基礎レベル」の科目がすべて必修科目となっています。「応用基礎レベル」の認定科目はいずれも基礎的な内容であり，データエビデンスに基づく問題解決能力等の実践力を形成するために，認定科目の多くを演習形式としています。選択的に履修することになる人文社会科学部，教育学部，獣医学部の学生の積極的な履修を期待します。

本教育プログラムにより身につけることのできる能力や対象授業科目，修了要件等は本学ホームページで確認してください。

リテラシーレベル

https://www.iwate-u.ac.jp/campus/course/ds.html

応用基礎レベル

https://www.iwate-u.ac.jp/campus/course/mdash-AL.html

IHATOVO グローバルコースについて

１．IHATOVO グローバルコースの理念と教育目標

岩手大学国際教育センターでは、岩手に顕在化するグローバルな課題を理解し、解決に貢献し、発信する力の養成をめざし、「IHATOVO グローバルコース」を企画・運営しています。このコースの参加によって「知識・探求力」、「コミュニケーション力」、「人間力」を向上させ、地域社会、国際社会で活躍する人材を育成します。

２．コースの構成

コースは、A. 外国語、B. コミュニケーション、C. 国際教養、D. 実践の 4 つのカテゴリーに分類された、授業および課外活動で構成されています。各授業、活動に参加すると、Global Mileage が付与されます。

Ａ～Dのすべてのカテゴリーのいずれかの授業、課外活動に最低1つ参加し、一定程度の Global Mileage を獲得した者には IHATOVO グローバルコース履修認定証を授与します。コース認定されなくても、Global Mileage の獲得実績に応じて表彰します。また、海外研修、留学などの際にインセンティブを与えることがあります。

３．コースの評価・認定方法

認定要件を満たした学生には、学長から認定証を授与し、記念品を贈呈します。また、毎学期、学年別に Global Mileage 獲得上位者を表彰し、記念品およびオープンバッジを贈呈します。

＊一定以上のマイル獲得後、海外研修、留学に行く場合は、海外派遣奨学金、留学のための語学検定試験の受験料補助などの奨学資金を支給します。
＊マイルの獲得実績を、海外研修、留学等の参加要件（成績、単位数、面接評価等）に加えることもあります。

＜認定方法＞

1）A. 外国語、B. コミュニケーション、C. 国際教養、D. 実践、の4領域すべての授業、活動をそれぞれ最低1つずつ履修、参加していること
2）マイルの合計が一定のマイル数に到達していること
　ブロンズ＝800 マイル　シルバー＝1200 マイル　ゴールド＝2000 マイル

＜認定基準＞

総取得マイル数に応じ、ブロンズ、シルバー、ゴールドの３段階で認定します。

ランク	外国語	コミュニケーション	国際教養	実践	合計マイル数
ブロンズ	10 マイル以上	10 マイル以上	10 マイル以上	10 マイル以上	800 マイル
シルバー	10 マイル以上	10 マイル以上	10 マイル以上	10 マイル以上	1200 マイル
ゴールド	10 マイル以上	10 マイル以上	10 マイル以上	10 マイル以上	2000 マイル

４．履修方法および開設授業科目・課外活動

IHATOVO グローバルコース対象授業科目の履修については、本冊子及び時間割を参考にし、大学からのお知らせ、アイアシスタントおよび国際課（学生センターB棟）の掲示等に注意して、確認してください。

また、履修にあたっては前期のみまたは後期のみ開講する授業科目や、年度により開設しない科目があるので注意してください。

※ 対象学年以上の正規学生が履修可能です。

※ 備考欄に「集中」とある科目は集中講義で開講します。

※ 講師の都合等により、開講しないことがあります。また、この他の科目が開講される可能性があります。各学期の開講案内を確認してください。

※ IHATOVO グローバルコース対象課外活動リスト及び詳細については、以下を参照願います。

https://www.iwate-u.ac.jp/iuic/japanese-student/index.html

イーハトーヴ協創コースについて

１．イーハトーヴ協創コースの理念と教育目標

岩手大学では，全学部の学生を対象とした共修プログラム（※）「イーハトーヴ協創コース」を開講しています。

岩手大学（前身の盛岡高等農林学校）の卒業生である宮沢賢治の想い「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」(Well-being) を受け継ぎ，誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を目指し，岩手で生きる，岩手と縁のある地域の多様な方々との協創活動を通じ，心の豊かさとイノベーションマインドを併せ持ち，高い専門性と実践力を兼ね備えたレジリエントな人材を育成します。

(※)共修プログラムとは？

自身が所属する主専攻（学部）以外の分野を系統的に学修するプログラムです。

（１）コースの概要

イーハトーヴ協創コースでは，教養教育科目を中心に，デザイン思考，マーケティング，プロジェクトマネジメント，課題解決型インターンシップなど，アントレプレナーシップ（起業家精神）の醸成や，地域のイノベーションに必要な創造性やチャレンジ精神を高めるための科目，企業・自治体との提携講義を学部横断型で学びます。

さらに地域における実践活動（正課外）も併せて評価することで，専門性と実践力を身につけます。

これらの学修過程を可視化するため，「地域協創マイレージ」を導入し，正課教育に加え正課外活動を含めてポイント化し，履修・研修経験を段階的に評価します（地域協創マイレージの取得状況は「アイフォリオ」で確認することができます。

（２）コースの受講対象者，登録・認定方法

- 本学の各学部に在籍する日本人学生及び外国人留学生（非正規生を除く）が履修できます。
- コースは自動エントリー制であり，履修をするための特段の手続きは不要です。
- コースに関連する科目の単位を取得した場合や，課外活動を実施し所定の手続きを行った場合，「地域協創マイレージ」が自動的に付与されます。
- 修了認定要件を満たし，「修了認定申請書」を自己申請すると，修了認定を受けることが出来ます。

２．コースの構成

（１）正課教育

「イーハトーヴ協創コース関連科目」に指定されている以下の科目から受講します。なお，授業科目には，必修科目とコア（選択必修）科目，選択科目の３種類があり，段階ごとに修得すべき単位数が定められていますので，注意してください。

なお，正課教育で取得した単位は１単位＝50 地域協創マイレージに換算します。

① コースの構成

必修・選択の別		科目名称	科目区分
必修科目		地域協創入門	教養（地域）
コア科目（選択必修）	１単位	地域協創 A・B・C・D・E・F・G・H・I	教養（地域）
	２単位	社会連携学 A・B, キャリアを考える A・B キャリアデザイン実践 地域課題演習 A・B・C・D インターカレッジ・フィールド実践演習	教養（地域/地域課題演習）
選択科目（教養）		コア科目及び探究知科目（環境科目，地域科目）・実践知科目（地域課題演習科目）から選択	教養（環境/地域/地域課題演習）
選択科目（専門）		各学部専門科目におけるイーハトーヴ協創コース関連科目から選択	専門

② 開講科目

イーハトーヴ協創コース関連科目リスト及び詳細については，地域協創教育センターホームページを参照願います。

※ 対象学年以上の学生が履修可能です。

※ 備考欄に「集中」とある科目は集中講義で開講する場合があります。

※ 講師等の都合により，開講しないことがあります。また，この他の科目が開講される可能性があります。各学期の開講案内を確認してください。

（２）正課外活動

・ 地域課題解決プログラム，学内カンパニー，NEXT STEP 工房など本学が実施・支援する実践活動プログラムや，イーハトーヴ協創ラボ（TOVLAB）及びグローバルビレッジ等でのイベント参加，他大学や他機関との連携プログラム等について，以下の基準に基づき「地域協創マイレージ」を付与します。

＜地域協創マイレージの算定基準（標準的な目安）＞

正課・課外の別	主な事業	付与マイル数
正課教育	イーハトーヴ協創コース関連科目 １単位科目	５０
	イーハトーヴ協創コース関連科目 ２単位科目	１００
正課外活動	単発型のイベント	１０
	３日程度の短期イベント	５０
	３日以上～１週間程度の中長期イベント	１００
	インターンシップ，通年の実践活動（メンバーの一人として参画）	１５０
	長期研修・長期インターンシップ，通年の実践活動（リーダーとして参画）	３００

地域協創マイレージの対象事業等の詳細については，地域協創教育センターホームページを参照願います。

３．コースの評価・認定方法

- 修了認定要件を満たし，「修了認定申請書」を自己申請すると，修了認定を受けることが出来ます。
- 修了が認定されると，成績証明書の特記事項欄に「イーハトーヴ協創コース（受講中または修了)」と記載されます。
- また，本学が提供する学習プログラム等の修了者に対してデジタル修了証である「オープンバッジ」を付与する予定です。
- 大学時代に経験した実践的な取組を就職や進学の際にアピールするものとしての効果が期待できます。
- 認定証と併せ，就職活動等に活用可能なコース概要説明書を発行します。

（1）認定方法

- イーハトーヴ協創コース関連科目事業における主な修得能力を５つのカテゴリーに分類し，それぞれの「地域協創マイレージ」取得状況に基づき評価します。

①　マインドセット
②　ツール
③　キャリア
④　アクション
⑤　専門知識

- 各カテゴリーから，該当する授業，活動を最低１つずつ取得していることが認定要件となります。
- マイレージの認定について，授業は自動認定されますが，正課外活動については，認定申請が必要となる場合があります。申請方法はプログラム毎に案内します。
- 地域協創マイレージの取得状況については「アイフォリオ」で確認することができますので，随時活用してください。

（2）認定基準

総取得マイル数に応じ，ブロンズ，シルバー，ゴールドの３段階で認定します。

ランク	正課教育		正課外活動	総取得マイル数
	単位数（必修・コア）	単位数（選択）		
ブロンズ	必修２，コア２（200 マイル）	専門２（100 マイル）	100 マイル	400 マイル
シルバー	必修２，コア４（300 マイル）	教養２，専門２（200 マイル）	300 マイル	800 マイル
ゴールド	必修２，コア８（500 マイル）	教養２，専門２（200 マイル）	500 マイル	1200 マイル

４．履修モデル

- イーハトーヴ協創コースを受講する学生に対し，カリキュラムデザインの参考としてもらうとともに，コースの認知度や有用性を図りたい個別のキャリア像を意識した履修モデルを複数提示します。
- 履修モデルはあくまでも参考提示であり，学生はコースに指定する科目を自由に受講することが可能ですので，履修の参考としてください。

  なお，専門科目については，原則，所属する学部の科目を受講してください。

各履修モデルの詳細については，地域協創教育センターホームページを参照願います。

５．履修方法および開設授業科目

イーハトーヴ協創コースの履修については，本冊子及び時間割を参考にし，大学からのお知らせ，アイアシスタントおよび地域協創教育室（学生センターB 棟）の掲示等に注意して，間違いのないように手続きをしてください。具体的な履修方法及び開設授業科目については，当該学期の開始までに別途掲示によりお知らせします。

各学部，学科，課程ごとにそれぞれ履修できる範囲及び修得すべき単位数等が定められていますので，各学部の説明の項を熟読してください。また，履修にあたっては前期のみまたは後期のみ開講する授業科目や，年度により開設しない科目があるので注意してください。

６．本件担当

地域協創教育センター（学生センターＢ棟１階）

https://www.iwate-u.ac.jp/rcec/ihatov-course.html

XI

関係法規等

岩手大学諸規則

1. 国立大学法人岩手大学学則
2. 国立大学法人岩手大学大学院学則
3. 岩手大学教養教育規則
4. 岩手大学における授業科目の履修登録単位数の上限に関する規則
5. 岩手大学における在学期間の特例に関する規則
6. 岩手大学における長期にわたる教育課程の履修に関する規則
7. 岩手大学転学部に関する規則
8. 岩手大学転学科及び転課程取扱要項
9. 岩手大学編入学取扱規則
10. 岩手大学再入学取扱規則
11. 岩手大学研究生規則
12. 岩手大学科目等履修生規則
13. 岩手大学外国人留学生規則
14. 成績評価基準について
15. 気象警報等の発令時等における授業等の取扱いに関する申合せ

関係法令（e-Gov 法令検索にリンク）

1. 日本国憲法
2. 教育基本法
3. 学校教育法
4. 教育職員免許法
5. 教育職員免許法施行規則
6. 小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律

国立大学法人岩手大学学則

平成１６年 ４ 月 １ 日　制　　定
令和 ７ 年 ２ 月２７日　最終改正

目次

第１章　総則
第１節　目的（第１条）
第２節　構成（第２条－第９条）
第３節　役員（第１０条）
第４節　職員（第１１条－第１６条）
第５節　役員会、教育研究評議会、経営協議会等（第１７条－第２４条）
第６節　事務組織及び技術支援組織（第２５条・第２６条）
第７節　教育研究等の状況の公表等（第２７条）
第８節　自己評価等（第２８条）
第９節　ダイバーシティの推進（第２８条の３）
第２章　学部通則
第１節　修業年限、在学期間等（第２９条・第３０条）
第２節　学年、学期及び休業日（第３１条－第３３条）
第３節　収容定員等（第３４条）
第４節　教育課程（第３５条－第４６条）
第５節　入学、卒業、転学、留学、休学、復学及び退学等（第４７条－第６０条の２）
第６節　教育職員免許（第６１条）
第７節　検定料、入学料及び授業料（第６２条－第６７条）
第８節　表彰、除籍及び懲戒（第６８条－第７０条）
第３章　補則
第１節　学生証（第７１条）
第２節　健康診断（第７２条・第７３条）
第３節　福利厚生施設（第７４条）
第４節　科目等履修生、研究生及び特別聴講学生（第７５条－第７７条）
第５節　外国人留学生（第７８条）
第６節　研修員等（第７９条・第８０条）
第７節　公開講座及び科学教育研究室（第８１条・第８２条）
附則

第１章　総則

第１節　目的

（目的）

第１条　国立大学法人岩手大学（以下「本学」という。）は、真理を探究する教育研究の場として、学術文化を創造しつつ、幅広く深い教養と高い専門性を備えた人材を育成することを目指すとともに、社会に開かれた大学として、その教育研究の成果をもとに地域社会と国際社会の文化の向上と発展に貢献することを目的とする。

２　本学は、学部、学科又は課程ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定め、公表するものとする。

第２節　構成

（学部）

第２条　本学に次の学部を置く。

人文社会科学部
教育学部
理工学部
農学部
獣医学部

（学科及び課程）

第３条　各学部に学科又は課程を次のとおり置く。

学　　部	学科又は課程
人文社会科学部	人間文化課程
	地域政策課程
教育学部	学校教育教員養成課程
理工学部	理工学科
農学部	食料農学科
	生命科学科
	地域環境科学科
	動物科学・水産科学科
獣医学部	共同獣医学科

（大学院）

第４条　本学に大学院を置く。

２　前項の大学院に次の研究科を置く。

総合科学研究科　修士課程
教育学研究科　　専門職学位課程（教職大学院の課程）
理工学研究科　　博士課程
獣医学研究科　　博士課程
連合農学研究科　博士課程

３　大学院の学則は、別に定める。

（教育研究施設）

第５条　本学に次の教育研究施設を置く。

地域防災研究センター
平泉文化研究センター
三陸水産研究センター
ものづくり技術研究センター
次世代アグリイノベーション研究センター
分子接合技術研究センター

２　前項の教育研究施設に関する規則は、別に定める。

（教育研究基盤施設）

第６条　本学に次の教育研究基盤施設を置く。

図書館
保健管理センター
情報基盤センター
国際教育センター

２　前項の教育研究基盤施設に関する規則は、別に定める。

（教育研究支援施設）
第７条　本学に次の教育研究支援施設を置く。
教学マネジメントセンター
地域協創教育センター
教員養成支援センター
研究支援・産学連携センター
ＲＩ総合実験センター
２　前項の教育研究支援施設に関する規則は、別に定める。

（特定事業推進室）
第７条の２　本学に次の特定事業推進室を置く。
地域社会教育推進室
環境マネジメント推進室
評価室
ダイバーシティ推進室
２　前項の特定事業推進室に関する規則は、別に定める。

（学部附属の教育研究施設）
第８条　本学に次の学部附属の教育研究施設を置く。

人文社会科学部	こころの相談センター
	宮沢賢治いわて学センター
教育学部	附属教育実践・学校安全学研究開発センター
	附属自然観察園
理工学部	附属ソフトパス理工学総合研究センター
	附属ものづくりエンジニアリングファクトリー
	附属理工系教育研究基盤センター
農学部	附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター
	附属畜産飼料総合教育研究センター
	附属生物環境制御装置室
	附属植物園
	附属農業教育資料館
	附属自然エネルギー利用温室
獣医学部	附属動物病院
	附属動物医学食品安全教育研究センター
	附属産業動物臨床・疾病制御教育研究センター

２　前項の学部附属の教育研究施設に関する規則は、別に定める。

（共同利用）
第８条の２　前条第１項に掲げる農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センターは、本学の教育研究上支障がないと認められるときは、他の大学の利用に供することができる。
２　前項に関し必要な事項は、別に定める。

（附属学校）
第９条　教育学部に次の附属学校を置く。
附属幼稚園
附属小学校
附属中学校
附属特別支援学校

２　前項の附属学校に関する規則は、別に定める。

第３節　役員

（役員）

第１０条　本学に次の役員を置く。

一　学長

二　理事

三　監事

第４節　職員

（職員）

第１１条　本学に次の職員を置く。

教員（教授、准教授、講師、助教、副園長・副校長、主幹教諭、教諭及び養護教諭をいう。）、事務職員、専門職員、技能職員及び医療職員

２　前項の教員（副園長・副校長、主幹教諭、教諭及び養護教諭を除く。次項において同じ。）は別表１に掲げるいずれかの組織に所属する。

３　前項の規定にかかわらず、第１項の教員のうち学長が必要と認めた者については、別表１に掲げる組織に所属させないことができる。

（副学長）

第１２条　本学に副学長を置き、第１０条に規定する理事のうち、教育研究に関する業務を担当する者をもって充てる。

２　前項に規定するもののほか、本学の意思決定と執行を円滑に行うため、副学長を置くことができる。

（学部長及び副学部長）

第１３条　各学部に学部長を置く。

２　前項の学部長を補佐するため、各学部に副学部長を置く。

（教育研究施設の長）

第１３条の２　教育研究施設に長を置く。

（教育研究基盤施設の長）

第１４条　教育研究基盤施設に長を置く。

（教育研究支援施設の長）

第１４条の２　教育研究支援施設に長を置く。

（特定事業推進室の長）

第１４条の３　特定事業推進室に長を置く。

（学部附属の教育研究施設の長）

第１５条　学部附属の教育研究施設に長を置く。

２　宮沢賢治いわて学センター長は、人文社会科学部の学部長をもって充てる。

３　附属教育実践・学校安全学研究開発センター長は、教育学部の学部長をもって充てる。

（附属学校の校長等）

第１６条　附属学校に園長又は校長を置く。

第５節　役員会、教育研究評議会、経営協議会等

（役員会）
第１７条　本学に、本学の意思決定と執行に責任を持つ機関として役員会を置く。
２　前項の役員会に関する規則は、別に定める。

（教育研究評議会）
第１８条　本学の教育研究に関する重要事項について審議するため、教育研究評議会を置く。
２　前項の教育研究評議会に関する規則は、別に定める。

（経営協議会）
第１９条　本学の経営に関する重要事項について審議するため、経営協議会を置く。
２　前項の経営協議会に関する規則は、別に定める。

（学長選考・監察会議）
第２０条　本学に、学長選考・監察会議を置く。
２　前項の学長選考・監察会議に関する規則は、別に定める。

（学長・副学長会議）
第２１条　本学の意思決定と執行を円滑に行うため、学長・副学長会議を置く。
２　前項の学長・副学長会議に関する規則は、別に定める。

（学部長・研究科長会議）
第２２条　学長、理事及び副学長と学部等との連絡調整並びに教育研究及び経営に関する重要事項の意見集約に当たるため、学部長・研究科長会議を置く。
２　前項の学部長・研究科長会議に関する規則は、別に定める。

（教員人事会議）
第２２条の２　本学における教員人事の基本方針について検討するとともに、全学的観点及び戦略的観点から教員人事について審議するため、教員人事会議を置く。
２　前項の教員人事会議に関する規則は、別に定める。

（教授会）
第２３条　本学の各学部に教授会を置く。
２　前項の教授会に関する規則は、別に定める。

（学科会議及び課程会議）
第２３条の２　第３条に規定する学科又は課程に学科会議又は課程会議を置く。
２　前項の学科会議及び課程会議に関する規則は、別に定める。

（委員会）
第２４条　本学に、専門的な観点から全学の意思形成に資するため、必要な委員会を置く。
２　前項の委員会に関する必要な事項は、別に定める。

第６節　事務組織及び技術支援組織

（事務組織）

第２５条　本学における企画立案事務、教育研究支援事務及び管理事務等を行うため、事務組織を置く。
２　前項の事務組織に関する規則は、別に定める。

（技術支援組織）
第２６条　本学における教育研究の技術支援を行うため、技術支援組織を置く。
２　前項の技術支援組織に関する規則は、別に定める。

第７節　教育研究等の状況の公表等

（教育研究等の状況の公表等）
第２７条　本学は、本学の教育研究、組織運営及び財務の状況を公表（情報提供を含む。）するものとする。
２　前項の公表に当たっては、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって行うものとする。

第８節　自己評価等

（自己評価等）
第２８条　本学は、その教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究、組織運営及び施設設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。
２　前項の点検及び評価の項目並びに実施体制については、別に定める。
３　第１項の点検及び評価の結果については、本学の職員以外の者による検証を行うよう努めるものとする。

第２８条の２　削除

第９節　ダイバーシティの推進

（ダイバーシティの推進）
第２８条の３　本学は、その教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学におけるダイバーシティの推進を図るものとする。

第２章　学部通則

第１節　修業年限、在学期間等

（修業年限、在学期間等）
第２９条　本学の修業年限は、４年とする。ただし、獣医学部共同獣医学科については、その修業年限は、６年とする。
２　本学の科目等履修生として一定の単位（学校教育法（昭和２２年法律第２６号）第９０条の規定により入学資格を有した後、修得したものに限る。）を修得した者が本学に入学する場合において、当該単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認められるときは、修得した単位数その他の事項を勘案して本学が定める期間を修業年限の２分の１を超えない範囲で修業年限に通算することができる。
３　在学期間は、修業年限の２倍を超えることはできない。

（在学期間の特例）

第３０条　本学に３年以上在学した者（獣医学部共同獣医学科に在学するものを除く。）が、卒業の要件として本学の定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、前条第１項本文の規定にかかわらずその卒業を認めることができる。

第２節　学年、学期及び休業日

（学年）

第３１条　学年は、毎年４月１日に始まり、翌年３月３１日に終わる。

２　前項に規定する学年の途中においても、学期の区分に従い、入学させ及び卒業させることができる。

（学期）

第３２条　学年を２学期に分け、前期は４月１日から９月３０日まで、後期は１０月１日から翌年３月３１日までとする。

２　学長が必要と認めるときは、学期の始期前及び終期後に当該学期の授業を行うことができる。

（休業日）

第３３条　休業日は、次のとおりとする。

一　日曜日及び土曜日

二　国民の祝日に関する法律に規定する休日

三　夏季休業　８月５日から９月３０日まで

四　冬季休業　１２月２４日から翌年１月７日まで

五　春季休業　卒業式の翌日から３月３１日まで

２　学長が必要と認めるときは、前項の休業日を臨時に変更することができる。

３　第１項に定めるもののほか、学長が必要と認めるときは、臨時の休業日を定めることができる。

第３節　収容定員等

（収容定員等）

第３４条　各学部の学科又は課程の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学科又は課程	入学定員	３年次編入学定員	収容定員
人文社会科学部	人間文化課程	１２５名	６名	５１２名
	地域政策課程	７５名	４名	３０８名
	計	２００名	１０名	８２０名
教育学部	学校教育教員養成課程	１６０名		６４０名
	計	１６０名		６４０名
理工学部	理工学科	４１４名	２０名	１，６９６名
	計	４１４名	２０名	１，６９６名
農学部	食料農学科	５０名	２名	２０４名
	生命科学科	５１名	１名	２０６名
	地域環境科学科	７０名	１名	２８２名
	動物科学・水産科学科	５５名	１名	２２２名
	計	２２６名	５名	９１４名
獣医学部	共同獣医学科	３０名		１８０名
	（東京農工大学農学部共同獣医学科）	（３５名）		（２１０名）

	計	３０名		１８０名
備考　（　）は、本学と共同獣医学科を設置している東京農工大学農学部共同獣医学科の入学定員及び収容定員であり、外数とする。				

第４節　教育課程

（教育課程の編成）

第３５条　本学は、大学、学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を設定し、体系的に教育課程を編成するものとする。

２　教育課程の編成に当たっては、学部及び学科又は課程等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう配慮するものとする。

３　教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

（特別の課程の編成）

第３５条の２　本学は、前条に規定するもののほか、本学の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成することができる。

２　前項の特別の課程に関する規則は、別に定める。

（教育体系）

第３６条　本学における教育体系は、一貫教育の観点から教養教育及び共同獣医学科の共通教育並びに専門教育とし、教養教育には教養教育科目を、共同獣医学科の共通教育（以下「共通教育」という。）には共通教育科目を、専門教育には専門教育科目を置くものとする。

２　教養教育及び共通教育は、全学体制で実施し、本学の教員は教養教育及び共通教育の実施・発展に努め、担当する責任を負うものとする。

３　専門教育は、各学部の責任において実施する。

４　教養教育及び共通教育に関し必要な事項は、別に定める。

５　専門教育に関し必要な事項は、各学部が定める。

６　第１項に定める科目のほか、国際教育科目を置くものとし、必要な事項は、別に定める。

（学生の修得すべき単位数）

第３７条　学生が修得すべき単位数は、別表２のとおりとする。

（単位の計算方法）

第３８条　授業科目の単位数は、１単位の授業科目を４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

一　講義及び演習については、１５時間又は３０時間の授業をもって１単位とする。

二　実験、実習及び実技については、３０時間又は４５時間の授業をもって１単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって１単位とすることができる。

２　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらの必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

３　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用

により行う場合については、その組み合わせに応じ、第１項に規定する基準を考慮して別に定める時間の授業をもって１単位とする。

（授業期間）

第３８条の２　授業は、学期ごとに１５週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、この限りではない。

（授業の方法）

第３９条　授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

２　文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

３　前２項の授業は、外国において履修させることができる。

（成績評価基準等の明示等）

第３９条の２　本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに１年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

２　学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

（教育内容等の改善のための組織的な研修等）

第３９条の３　本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

（単位の授与）

第４０条　科目を履修した場合には、成績を審査し、合格した者に対して所定の単位を与える。

２　成績の審査は、試験、報告書、論文及び平常の成績によって行う。

３　成績の評価は、秀、優、良、可及び不可とし、秀、優、良及び可を合格、不可を不合格とする。

（履修科目の登録の上限）

第４１条　本学は、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が１年間又は１学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるものとする。

２　所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。

３　前２項に関し必要な事項は、別に定める。

（他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第４２条　本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、６０単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　前項の規定は、第５５条の規定による留学の場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

（大学院授業科目の履修）
第４２条の２　学生が本学大学院に進学を志望し、本学が教育上有益と認めるときは、進学を志望する研究科長（総合科学研究科の場合は、専攻長）の許可を得て、当該大学院の授業科目を履修することができる。
２　前項に関し必要な事項は別に定める。

（大学以外の教育施設等における学修）
第４３条　本学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
２　前項により与えることのできる単位数は、前条第１項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて６０単位を超えないものとする。

（入学前の既修得単位等の認定）
第４４条　本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
２　本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第１項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
３　前２項により、修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第４２条及び前条第１項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて６０単位を超えないものとする。

（遠隔授業により修得することができる単位数）
第４５条　第３９条第２項の授業の方法により修得することができる単位数は６０単位を超えないものとする。
２　前項の規定にかかわらず、大学設置基準（昭和３１年文部省令第２８号）で卒業の要件として定める単位数を超える単位数を卒業の要件としている学科・課程においては、第３９条第１項の授業方法により６４単位以上（ただし、共同獣医学科は１２２単位以上）を修得しているときは、６０単位を超えることができる。

（長期にわたる教育課程の履修）
第４６条　学生が、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。
２　長期にわたる教育課程の履修に関する規則は、別に定める

第５節　入学、卒業、転学、留学、休学、復学及び退学等

（入学資格）
第４７条　本学に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
一　高等学校を卒業した者
二　中等教育学校を卒業した者
三　専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が指定する日以後に修了した者
四　通常の課程による１２年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程により

これに相当する学校教育を修了した者
五　外国において学校教育における１２年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
六　文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
七　文部科学大臣が指定した者
八　高等学校卒業程度認定試験規則（平成１７年文部科学省令第１号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第２条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和２６年文部省令第１３号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
九　本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、１８歳に達したもの

（入学志願の手続）
第４８条　入学を志願する者は、所定の期間内に別に指定する関係書類に、検定料を添えて本学に提出しなければならない。

（合格者の決定）
第４９条　学長は、前条の入学志願者について、選考の上合格者を決定する。

（入学の手続）
第５０条　合格者は、所定の期間内に別に指定する関係書類に入学料を添えて本学に提出しなければならない。

（入学の許可）
第５１条　学長は、前条の手続を経た者に対し、入学を許可する。

（卒業の認定）
第５２条　学長は、所定の修業年限以上在学し、かつ所定の科目の単位を修得した者に対し、教授会の審議を経て卒業を認定する。

（学位の授与）
第５３条　前条の規定により卒業を認定された者には、学士の学位を授与する。
２　前項に規定するもののほか、学位の授与については、別に定める。

（履修証明の交付）
第５３条の２　本学は、第３５条の２の規定により特別の課程を修了した者に対し、その修了を認定し、修了の事実を証する証明書を交付する。

（転学部）
第５４条　本学の他の学部に転学部を志願する者があるときは、選考の上許可することがある。
２　前項の転学部について必要な事項は、別に定める。

（転学科及び転課程）
第５４条の２　同一学部の他の学科又は課程に転学科又は転課程を志願する者があるときは、選考の上許可することがある。
２　前項の転学科及び転課程について必要な事項は、別に定める。

（留学）

第５５条　本学が教育上有益と認めるときは、外国の大学又は短期大学との協議に基づき、学生が当該大学又は短期大学に留学することを許可することができる。
２　留学の期間は、第２９条第１項に規定する修業年限に含めるものとする。

（休学）
第５６条　疾病その他の事由により、３月以上修学できない者は、休学願を提出し、学長の許可を得るものとする。
２　疾病のため、修学が不適当と認められる者に対して、学長は、休学を命ずることができる。
３　第１項の休学期間は、１年以内とする。ただし、特別の事情がある場合は、願い出により引き続き休学することができる。
４　休学期間は、通算して第２９条第１項に規定する修業年限を超えることはできない。
５　前項の休学期間は、第２９条第３項に規定する在学期間に算入しない。

（復学）
第５７条　学生は、休学期間が満了したときは、復学するものとする。
２　休学期間が満了する前に休学の事由が消滅したときは、復学願を提出し、学長の許可を得るものとする。

（退学等）
第５８条　疾病その他の事由により退学しようとする者は、退学願を提出し、学長の許可を得るものとする。
２　他の大学に入学、転学又は本学に改めて入学を志願する者は、受験願を提出し、学長の許可を得るものとする。

（再入学）
第５９条　本学を退学した者が同一学部の同一学科又は課程に再入学を願い出たときは、選考の上許可することがある。
２　前項の再入学の取扱いについては、別に定める。

（編入学）
第６０条　次の各号のいずれかに該当する者で、本学に編入学を願い出たときは、選考の上許可することがある。
一　大学を卒業した者又は大学に２年以上在学し所定の単位を修得した者
二　短期大学又は高等専門学校を卒業した者
三　外国の短期大学を卒業した者又は外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を我が国において修了した者（学校教育法第９０条第１項に規定する者に限る。）
四　専修学校の専門課程（修業年限が２年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（学校教育法第９０条に規定する者に限る。）
五　高等学校等の専攻科のうち、文部科学大臣が定める基準を満たすものを修了した者（学校教育法第９０条第１項に規定する者に限る。）
六　学校教育法施行規則（昭和２２年文部省令第１１号）附則第７条の規定により大学に編入学することができる者
七　工業教員養成所又は養護教諭養成所を卒業した者
八　外国において、学校教育における１４年以上の課程を修了した者
２　前項の編入学の取扱いについては、別に定める。

（転入学）
第６０条の２　他の大学から本学に転入学を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。
２　前項の転入学の取扱いについては、別に定める。

第６節　教育職員免許

（教育職員免許）
第６１条　教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和２４年法律第１４７号）及び教育職員免許法施行規則（昭和２９年文部省令第２６号）に定める所要の単位を修得しなければならない。
２　本学の学部の学科又は課程において当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類及び教科は、別表３に掲げるとおりとする。

第７節　検定料、入学料及び授業料

（検定料、入学料及び授業料の額）
第６２条　検定料、入学料及び授業料の額は、岩手大学における授業料その他の料金に関する規則の定めるところによる。

（授業料の納付）
第６３条　授業料は、前期及び後期の２期に分けて、それぞれ年額の２分の１に相当する額を、前期にあっては５月、後期にあっては１１月に納付しなければならない。

（検定料、入学料及び授業料の免除又は徴収猶予）
第６４条　検定料、入学料及び授業料は、別に定めるところにより免除又は徴収猶予を認めることがある。

第６５条　削除

（退学、復学又は停学の場合の授業料の納付）
第６６条　学生が退学し、又は退学を命ぜられた場合は、その日の属する期の授業料を、休学中の者が復学した場合は、その日の属する月から次の徴収の時期前までの月割の授業料を、また、停学を命ぜられた場合は、その期間中も授業料を納付しなければならない。

（検定料、入学料及び授業料の返還等）
第６７条　既納の検定料、入学料及び授業料は、返還しない。
２　前項の規定にかかわらず、学部における入学者選抜試験において出願書類等による選抜（以下この項において「第１段階目の選抜」という。）を行い、その合格者に限り学力検査その他による選抜（以下この項において「第２段階目の選抜」という。）を行う場合、第１段階目の選抜で不合格になった者に対し、第２段階目の選抜に係る検定料に相当する額を返還する。
３　学部における入学者選抜試験に際し、個別学力検査出願受付後に大学入学共通テスト受験科目の不足等による出願無資格者であることが判明した者に対しては、第１項の規定にかかわらず、前項の規定を準用し、第２段階目の選抜に係る検定料に相当する額を返還する。
４　検定料を納付した者が、入学試験日までに災害救助法対象の災害に被災し、納付した検定料の返還を申請し許可された場合には、第１項の規定にかかわらず、当該検定料に相当する額を返還する。

５　入学を許可されたときに授業料を納付した者が、入学年度の前年度の３月３１日までに入学を辞退した場合には、第１項の規定にかかわらず、当該授業料相当額を返還する。
６　授業料を納付した者が、授業料の納付時期前及び納付時期に休学を許可され又は命ぜられた場合並びに退学を許可された場合には、第１項の規定にかかわらず、当該期間に係る授業料免除相当額を返還する。
７　前期分授業料納付の際、前期分及び後期分授業料を納付し、後期分授業料の納付時期前に退学を命ぜられた場合には、第１項の規定にかかわらず、後期分の授業料に相当する額を返還する。
８　入学料又は授業料を納付した者が、免除を申請し許可された場合には、第１項の規定にかかわらず、当該入学料又は授業料に係る免除相当額を返還する。

第８節　表彰、除籍及び懲戒

（表彰）
第６８条　学長は、表彰に値する顕著な業績等がある学生を、表彰することがある。
２　前項の表彰に関する規則は、別に定める。

（除籍）
第６９条　学長は、次の各号のいずれかに該当する学生を、教授会の審議を経て除籍する。
一　第２９条第３項に規定する在学期間を超えた者
二　休学期間が第２９条第１項に規定する修業年限を超えてなお復学できない者
三　入学料の免除若しくは徴収猶予を申請した者のうち、免除若しくは徴収猶予が認められなかった場合又は半額の免除若しくは徴収猶予が認められた場合において、所定の期間内に入学料を納付しない者
四　授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
五　死亡又は長期にわたり行方不明の者

（懲戒）
第７０条　この学則に背き、学生としての本分に反し、また学内の秩序を乱す行為があったときは、教授会の審議を受け、教育研究評議会の議を経て学長が当該学生を懲戒する。
２　前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。
３　前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。
一　性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
二　学力劣等で、成業の見込みがないと認められる者
三　正当な理由がなく、出席が常でない者
四　学内の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者

第３章　補則

第１節　学生証

（学生証）
第７１条　学生は、別に定める学生証の交付を受け、常にこれを所持しなければならない。

第２節　健康診断

（健康診断の実施）
第７２条　本学は、学校保健安全法（昭和３３年法律第５６号）に基づき、毎年定期に健康診断を行う。また、学長が必要と認めた場合には、臨時の健康診断を行うことがある。

（健康診断の受診）

第７３条　学生は、本学が行う健康診断を受けなければならない。

第３節　福利厚生施設

（福利厚生施設）
第７４条　本学に、学生寮、大学会館、課外活動施設等の福利厚生施設を置く。
２　前項の福利厚生施設に関する規則は、別に定める。

第４節　科目等履修生、研究生及び特別聴講学生

（科目等履修生）
第７５条　本学の学生以外の者で、本学が開設する授業科目の履修を志願するものがあるときは、本学の授業に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可する。
２　前項の科目等履修生に関する規則は、別に定める。

（研究生）
第７６条　本学において特定の専門的事項の研究を志願する者があるときは、本学の教育又は研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可する。
２　前項の研究生に関する規則は、別に定める。

（特別聴講学生）
第７７条　他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）の学生で、本学の授業科目を履修しようとする者があるときは、当該大学又は短期大学との協議に基づき、特別聴講学生として入学を許可することがある。
２　前項の特別聴講学生に関する規則は、別に定める。

第５節　外国人留学生

（外国人留学生）
第７８条　外国人（日本国籍を有しない者）で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。
２　前項の外国人留学生に関する規則は、別に定める。

第６節　研修員等

（研修員）
第７９条　公共の機関から特別の必要上研修員として委託の申請があったときは、別に定めるところによりこれを研修員として許可することがある。

（受託研究員）
第８０条　公共の機関又はその他の機関から特別の必要上研究員として委託の申請があったときは、別に定めるところにより、これを受託研究員として許可することがある。

第７節　公開講座及び科学教育研究室

（公開講座）
第８１条　本学に、公開講座を開設する。
２　前項の公開講座については、別に定める。

（科学教育研究室）

第８２条　本学に、小学校、中学校及び高等学校の現職の教員の資質向上のため、科学教育研究室を置く。

２　前項の科学教育研究室に関する規則は、別に定める。

附　則

（施行期日）

１　この学則は、平成１６年４月１日から施行する。

（経過規定）

２　この学則の施行の際現に国立学校設置法第３条第１項の規定による岩手大学（以下「旧岩手大学」という。）に在学している者は、この学則の施行の日において、本学の学生となるものとする。

３　前項の規定による学生の教育課程及び教育職員免許取得に関する事項については、この学則の規定にかかわらず、当該学生が入学した際の、旧岩手大学学則の規定によるものとする。

４　第３４条の規定にかかわらず、平成１６年度から平成１８年度における人文社会科学部の国際文化課程及び法学・経済課程並びに工学部の応用化学科及び建設環境工学科の学生の収容定員は、次の表に掲げるとおりとする。

学　部	学科又は課程	平成１６年度	平成１７年度	平成１８年度
人文社会科学部	国際文化課程	３０５名		
	法学・経済課程	２８５名		
工　学　部	応用化学科	３１０名	３００名	２９０名
	建設環境工学科	２７０名	２６０名	２５０名

附　則

この学則は、平成１６年１２月７日から施行し、平成１６年度入学者から適用する。

附　則

この学則は、平成１７年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１７年８月１日から施行する。

附　則

１　この学則は、平成１７年１２月１日から施行する。ただし、第３条、第７条及び第３４条の改正規定は平成１８年４月１日から施行する。

２　この学則による改正後の第４２条の規定は平成１８年度入学者及び編入学者から、第４７条の規定は平成１９年度入学者から、第６０条の規定は平成１９年度編入学者から、第５４条の規定は平成１７年度入学者から適用する。

３　この学則による改正後の第３４条の規定にかかわらず、平成１８年度から平成２０年度までの工学部の応用化学科、材料物性工学科、機械工学科、建設環境工学科及び情報システム工学科の学生の収容定員並びに工学部の収容定員は、次の表に掲げるとおりとする。

学部	学　科	平成18年度	平成19年度	平成20年度
工学	応用化学科	２８８名	２７６名	２７４名
	材料物性工学科	１９８名	１９６名	１９４名
	機械工学科	３１８名	３１６名	３１４名
	建設環境工学科	２４８名	２３６名	２３４名

部	情報システム工学科	２７８名	２７６名	２７４名
	計	１，８１０名	１，７８０名	１，７７０名

附　則

この学則は、平成１８年１月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１８年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１８年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１８年７月１日から施行する。

附　則

（施行期日）

１　この学則は、平成１９年４月１日から施行する。ただし、第８条の改正規定は、平成１８年１０月１日から施行する。

（経過規定）

２　この学則による改正前の農学部農業生命科学科、農林環境科学科及び獣医学科は、改正後の国立大学法人岩手大学学則第３条の規定にかかわらず、平成１９年３月３１日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

３　この学則による改正後の国立大学法人岩手大学学則第３４条の規定にかかわらず平成１９年度から平成２３年度までの農学部の学生の収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学科又は課程	平成 １９ 年度	平成 ２０ 年度	平成 ２１ 年度	平成 ２２ 年度	平成 ２３ 年度
農学部	農学生命課程	５５名	１１０名	１６５名		
	応用生物化学課程	４０名	８０名	１２０名		
	共生環境課程	５５名	１１０名	１６５名		
	動物科学課程	３０名	６０名	９０名		
	３年次編入学			５名		
	獣医学課程	３０名	６０名	９０名	１２０名	１５０名
	農業生命科学科	２７０名	１８０名	９０名		
	農林環境科学科	２８０名	１９０名	９５名		
	獣医学科	１５０名	１２０名	９０名	６０名	３０名

４　この学則による改正後の国立大学法人岩手大学学則別表１及び別表２の農学部に係る規定は、平成１９年４月１日以後の入学者から適用し、平成１９年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則

１　この学則は、平成１９年４月１日から施行する。

２　この学則は、平成１９年４月１日以降の入学者から適用し、平成１９年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

３　この学則の編入学者への適用は、当該編入学者が属する年次の学生と同様に取り扱う

ものとする。

附　則

（施行期日）

1　この学則は、平成１９年４月１日から施行する。

（経過規定）

2　この学則の施行の日（以下「施行日」という。）の前日に本学の講師として在職し、その者が施行日以後も引き続き講師として在職する間にあっては、第１１条第１項中「教員（教授、准教授、助教、教頭、教諭及び養護教諭をいう。）」とあるのは「教員（教授、准教授、講師、助教、教頭、教諭及び養護教諭をいう。）」と読み替えるものとする。

附　則

この学則は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１８年１２月２６日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成１９年４月１日から施行する。ただし、第８条の改正規定は、平成１９年２月１日から施行する。

2　この学則による改正後の第５条、別表１及び別表３の規定は、平成１９年４月１日以後の入学者から適用し、平成１９年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則

（施行期日）

1　この学則は、平成１９年４月１日から施行する。

（経過措置）

2　この学則による改正後の別表１、別表２及び別表３の規定は、平成１９年４月１日以後の入学者から適用し、平成１９年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

3　この学則の編入学者への適用は、当該編入学者が属する年次の学生と同様に取り扱うものとする。

附　則

この学則は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成１９年１１月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２０年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２０年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２０年４月１日から施行する。

附　則

（施行期日）

１　この学則は、平成２１年４月１日から施行する。

（経過規定）

２　この学則による改正前の工学部応用化学科、材料物性工学科、電気電子工学科、機械工学科、建設環境工学科、情報システム工学科及び福祉システム工学科は、改正後の国　立大学法人岩手大学学則第３条の規定にかかわらず、平成２１年３月３１日に当該学科　に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

３　この学則による改正後の国立大学法人岩手大学学則第３４条の規定にかかわらず平成２１年度から平成２３年度までの工学部の学生の収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度
工学部	応用化学・生命工学科	７５名	１５０名	２２５名
	マテリアル工学科	６０名	１２０名	１８０名
	電気電子・情報システム工学科	１２０名	２４０名	３６０名
	機械システム工学科	８０名	１６０名	２４０名
	社会環境工学科	６５名	１３０名	１９５名
	応用化学科	２０４名	１３６名	６８名
	材料物性工学科	１４４名	９６名	４８名
	電気電子工学科	１８０名	１２０名	６０名
	機械工学科	２３４名	１５６名	７８名
	建設環境工学科	１７４名	１１６名	５８名
	情報システム工学科	２０４名	１３６名	６８名
	福祉システム工学科	１５０名	１００名	５０名
	計	１，７３０名	１，７００名	１，６７０名

４　この学則による改正後の国立大学法人岩手大学学則別表１及び別表２の工学部に係る規定は、平成２１年４月１日以後の入学者から適用し、平成２１年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成２１年６月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２２年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２２年６月８日から施行し、平成２２年４月１日から適用する。

附　則

この学則は、平成２３年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２３年１０月２５日から施行し、平成２３年４月１日から適用する。

附　則

（施行期日）

１　この学則は、平成２４年４月１日から施行する。

（経過規定）
2　この学則による改正前の農学部獣医学課程は、改正後の国立大学法人岩手大学学則第３条の規定にかかわらず、平成２４年３月３１日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
3　この学則による改正後の国立大学法人岩手大学学則第３４条の規定にかかわらず平成２４年度から平成２８年度までの農学部獣医学課程及び共同獣医学科の学生の収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科又は課程	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度	平成２８年度
農学部	獣医学課程	１５０名	１２０名	９０名	６０名	３０名
	共同獣医学科	３０名	６０名	９０名	１２０名	１５０名

4　この学則による改正後の国立大学法人岩手大学学則別表１及び別表２の農学部に係る規定は、平成２４年４月１日以後の入学者から適用し、平成２４年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則
この学則は、平成２４年１２月２５日から施行し、平成２４年４月１日から適用する。

附　則
この学則は、平成２５年２月２１日から施行する。ただし、第５条の改正規定は平成２５年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成２６年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、平成２７年４月１日から施行する。ただし、第６３条の改正規定は、平成２７年１０月１日から施行する。

附　則
（施行期日）
1　この学則は、平成２８年４月１日から施行する。
（経過規定）
2　この学則による改正前の人文社会科学部人間科学課程、国際文化課程、法学・経済課程及び環境科学課程、教育学部生涯教育課程及び芸術文化課程、工学部化学・生命工学科、マテリアル工学科、電気電子・情報システム工学科、機械システム工学科及び社会環境工学科、農学部農学生命課程、応用生物化学課程、共生環境課程及び動物科学課程は、改正後の国立大学法人岩手大学学則第２条及び第３条の規定にかかわらず、平成２８年３月３１日に当該学部並びに学科及び課程に在学する者が当該学部並びに学科及び課程に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
3　工学部長は、工学部が存続する間、当該学部に置くものとする。この場合において、工学部長は理工学部長をもって充てる。
4　この学則による改正後の国立大学法人岩手大学学則第３４条の規定にかかわらず平成２８年度から平成３０年度までの学生の収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科又は課程	平成２８年度	平成２９年度	平成３０年度
人文社会科学	人間文化課程	１２５名	２５０名	３８１名

部	地域政策課程	７５名	１５０名	２２９名
	小計	２００名	４００名	６１０名
	人間科学課程	１２０名	８０名	４０名
	国際文化課程	２２５名	１５０名	７５名
	法学・経済課程	２１０名	１４０名	７０名
	環境科学課程	９０名	６０名	３０名
	小計	６６５名	４５０名	２２５名
	計	８６５名	８５０名	８３５名
教育学部	学校教育教員養成課程	６４０名	６４０名	６４０名
	生涯教育課程	１５０名	１００名	５０名
	芸術文化課程	１２０名	８０名	４０名
	計	９１０名	８２０名	７３０名
理工学部	化学・生命理工学科	９０名	１８０名	２７２名
	物理・材料理工学科	８０名	１６０名	２４２名
	システム創成工学科	２７０名	５４０名	８２６名
	計	４４０名	８８０名	１，３４０名
工学部	応用化学・生命工学科	２２５名	１５０名	７５名
	マテリアル工学科	１８０名	１２０名	６０名
	電気電子・情報システム工学科	３６０名	２４０名	１２０名
	機械システム工学科	２４０名	１６０名	８０名
	社会環境工学科	１９５名	１３０名	６５名
	計	１，２４０名	８４０名	４２０名
農学部	植物生命科学科	４０名	８０名	１２１名
	応用生物化学科	４０名	８０名	１２１名
	森林科学科	３０名	６０名	９０名
	食料生産環境学科	６０名	１２０名	１８２名
	動物科学科	３０名	６０名	９１名
	小計	２００名	４００名	６０５名
	農学生命課程	１６５名	１１０名	５５名
	応用生物化学課程	１２０名	８０名	４０名
	共生環境課程	１６５名	１１０名	５５名
	動物科学課程	９０名	６０名	３０名
	小計	５５０名	３７０名	１８５名
	共同獣医学科	１８０名	１８０名	１８０名
	計	９３０名	９５０名	９７０名

５　この学則による改正後の第３６条第１項、第４項及び第６項の規定は、平成２８年４月１日以後の入学者から適用し、平成２８年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

６　この学則の編入学者への適用は、当該編入学生が属する年次の学生と同様に扱うものとする。
７　この学則による改正後の国立大学法人岩手大学学則別表２及び別表３に係る規定は、平成２８年４月１日以後の入学者から適用し、平成２８年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則
この学則は、平成２８年５月２６日から施行する。

附　則
この学則は、平成２８年１２月１４日から施行する。ただし、第６７条の改正規定は、平成２８年４月１日から適用する。

附　則
１　この学則は、平成２９年４月１日から施行する。
２　この学則による改正前の人文社会科学研究科、工学研究科博士前期課程、工学研究科博士後期課程及び農学研究科は、改正後の国立大学法人岩手大学学則第４条の規定にかかわらず、平成２９年３月３１日に当該研究科に在学する者が当該研究科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附　則
１　この学則は、平成３０年４月１日から施行する。
２　この学則による改正後の第５６条第５項の規定は、平成３０年４月１日以降の入学者から適用し、平成３０年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則
１　この学則は、平成３１年４月１日から施行する。
２　この学則による改正前の工学研究科は、改正後の国立大学法人岩手大学学則第４条の規定にかかわらず、平成３１年３月３１日に当該研究科に在学する者が当該研究科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
３　この学則による改正後の別表２及び別表３の規定は、平成３１年４月１日以後の入学者から適用し、平成３１年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則
この学則は、令和２年４月１日から施行する。

附　則
この学則は、令和２年１０月１日から施行する。

附　則
１　この学則は、令和４年４月１日から施行する。
２　この学則は、令和４年４月１日以後の入学者から適用し、令和４年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則
この学則は、令和４年６月１日から施行する。

附　則
１　この学則は、令和５年４月１日から施行する。ただし、第６０条の２の改正規定

は、令和４年１０月１日から施行する。
２　この学則は、令和５年４月１日以後の入学者から適用し、令和５年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則

この学則は、令和５年９月１日から施行する。

附　則

この学則は、令和６年６月１日から施行する。

附　則

（施行期日）

１　この学則は、令和７年４月１日から施行する。

（経過規定）

２　この学則による改正前の理工学部化学・生命理工学科、物理・材料理工学科及びシステム創成工学科並びに農学部植物生命科学科、応用生物化学科、森林科学科、食料生産環境学科、動物科学科及び共同獣医学科は、改正後の国立大学法人岩手大学学則第２条及び第３条の規定にかかわらず、令和７年３月３１日に当該学部及び学科に在学する者が当該学部及び学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

３　この学則による改正後の国立大学法人岩手大学学則第３４条の規定にかかわらず令和７年度から令和１１年度までの学生の収容定員は、次のとおりとする。

学　部	学科	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和１０年度	令和１１年度
理工学部	理工学科	４１４名	８２８名	1,２６２名		
	化学・生命理工学科	２７４名	１８４名	９２名		
	物理・材料理工学科	２４４名	１６４名	８２名		
	システム創成工学科	８４２名	５７２名	２８６名		
農学部	食料農学科	５０名	１００名	１５２名		
	生命科学科	５１名	１０２名	１５４名		
	地域環境科学科	７０名	１４０名	２１１名		
	動物科学・水産科学科	５５名	１１０名	１６６名		
	植物生命科学科	１２２名	８２名	４１名		
	応用生物化学科	１２２名	８２名	４１名		
	森林科学科	９０名	６０名	３０名		
	食料生産環境学科	１８４名	１２４名	６２名		
	動物科学科	９２名	６２名	３１名		
	共同獣医学科	１５０名	１２０名	９０名	６０名	３０名
獣医学部	共同獣医学科	３０名	６０名	９０名	１２０名	１５０名

４　この学則の編入学者への適用は、当該編入学生が属する年次の学生と同様に扱うも

のとする。
5　この学則による改正後の国立大学法人岩手大学学則別表２及び別表３に係る規定は、令和７年４月１日以後の入学者から適用し、令和７年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、令和７年４月１日から施行する。
2　岩手大学入試センター規則（平成２６年４月１日制定）及び岩手大学入試センター運営委員会規則（平成２６年４月１日制定）は廃止する。

別表１　第１１条第２項に定められた教員所属組織

人文社会科学部
教育学部
理工学部
農学部
獣医学部
連合農学研究科
第５条に定める教育研究施設の各施設
第６条に定める教育研究基盤施設の各施設
第７条に定める教育研究支援施設の各施設
第７条の２に定める特定事業推進室の各室

別表２　第３７条に定められた学生の修得すべき単位数

学部	学科又は課程	コース	教養教育科目	共通教育科目	専門教育科目	合　計
人文社会科学部	人間文化課程 地域政策課程		２８		９８	１２６
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース	２８		１０９～１１８	１３７～１４６
		中学校教育コース			１０６～１１５	１３４～１４３
		理数教育コース			１０９～１１１	１３７～１３９
		特別支援教育コース			１０７	１３５
理工学部	理工学科	化学コース	２８		９９	１２７
		数理・物理コース				
		材料科学コース				
		知能情報コース				
		クリエイティブ情報コース				
		電気電子通信コース				
		機械知能航空コース				
		社会基盤・環境工学コース				
農学部	食料農学科	農学コース	２８		９８	１２６
		食品健康科学コース				
	生命科学科	分子生物機能学コース				
		分子生命医科学コース				
	地域環境科学科	革新農業コース				
		森林科学コース				
	動物科学・水産科学科	動物科学コース				
		水産システム学コース				
獣医学部	共同獣医学科			３０	１５９	１８９

別表３　第６１条第２項に定められた免許状の種類及び教科又は特別支援教育領域

学　部	学科又は課程	免許状の種類	教科又は特別支援教育領域
人文社会科学部	人間文化課程	中学校教諭一種免許状	国語、社会、英語
		高等学校教諭一種免許状	国語、地理歴史、公民、英語
	地域政策課程	高等学校教諭一種免許状	公民
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教諭一種免許状	
		中学校教諭一種免許状	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、英語
		高等学校教諭一種免許状	国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、保健体育、英語、情報
		特別支援学校教諭一種免許状	知的障害者に関する教育、肢体不自由者に関する教育、病弱者（身体虚弱者を含む。）に関する教育
理工学部	理工学科	高等学校教諭一種免許状	数学、理科、工業、情報
農学部	食料農学科	高等学校教諭一種免許状	理科、農業
	生命科学科		理科
	地域環境科学科		理科、農業
	動物科学・水産科学科		理科、農業

国立大学法人岩手大学大学院学則

平成１６年４月１日　制　　定
令和７年２月２７日　最終改正

第１章　総則

（目的）

第１条　国立大学法人岩手大学大学院（以下「本大学院」という。）は、学術の理論及び応用を教育研究し、国際的な学術文化の創造を目指すとともに、幅広く高度な学識と専門的な能力を備えた人材又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を備えた人材の育成を通じて、地域社会と国際社会の文化の進展に寄与することを目的とする。

２　本大学院は、研究科又は専攻ごとに人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定め、公表するものとする。

第２章　組織

（研究科及び課程）

第２条　本大学院に次の研究科及び課程を置く。

総合科学研究科
教育学研究科
理工学研究科
獣医学研究科
連合農学研究科

２　総合科学研究科の課程は、修士課程とする。

３　理工学研究科及び連合農学研究科の課程は、後期３年のみの博士課程とする。

４　獣医学研究科の課程は、博士課程とする。

５　教育学研究科の課程は、専門職学位課程（学校教育法第９９条第２項に定める専門職大学院の課程）とし、専門職大学院設置基準第２６条第１項に定める教職大学院の課程（以下「教職大学院の課程」という。）とする。

（連合農学研究科における教育研究の実施）

第３条　連合農学研究科の教育研究は、国立大学法人岩手大学（以下「本学」という。）、国立大学法人弘前大学（以下「弘前大学」という。）、国立大学法人山形大学（以下「山形大学」という。）及び国立大学法人福島大学（以下「福島大学」という。）の協力により実施するものとする。

第４条　削除

（専攻）

第５条　各研究科に次の専攻を置く。

研究科名	課程	専　　攻
総合科学研究科	修士課程	地域創生専攻
		総合文化学専攻
		理工学専攻
		農学専攻

教育学研究科	教職大学院の課程	教職実践専攻
理工学研究科	博士課程	自然・応用科学専攻
		システム創成工学専攻
		デザイン・メディア工学専攻
獣医学研究科	博士課程	共同獣医学専攻
連合農学研究科	博士課程	生物生産科学専攻
		生物資源科学専攻
		地域環境創生学専攻

（教員組織）

第６条　本大学院（連合農学研究科を除く。）の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）又は授業を担当する教員は、本学の教授、准教授、講師及び助教並びに非常勤講師、客員教授、客員准教授、特命教授及び特命准教授とする。ただし、必要あるときは、このほか所定の資格基準に基づき、他の者を第７条第１項に規定する教授会の議を経て学長が委嘱することができる。

２　連合農学研究科における授業並びに研究指導及び研究指導の補助を担当する教員は、当該研究科の専任の教員並びに客員教授及び客員准教授並びに本学、弘前大学、山形大学及び福島大学に所属する専任の教員であって、当該研究科における研究指導を担当する資格を有するもの（以下「連合農学研究科の教員」という。）のうちから指名された者とする。

３　前項に規定するもののほか連合農学研究科の教員組織については、連合農学研究科において、別に定める。

４　博士課程を担当する教員は、教育研究上支障を生じない場合には、一個の専攻に限り、修士課程又は教職大学院の課程を担当する教員のうち博士課程が定める資格を有するものがこれを兼ねることができる。

（運営組織）

第７条　本大学院の管理運営のため、大学院委員会並びに総合科学研究科を除く各研究科に研究科教授会及び専攻会議を置き、総合科学研究科に運営委員会及び専攻教授会（以下研究科教授会及び専攻教授会を併せて「教授会」という。）を置く。

２　前項の大学院委員会、運営委員会、教授会及び専攻会議に関する規則は、別に定める。

第８条　連合農学研究科の管理運営の基本に関し、構成大学間の連絡調整を図るため、連合農学研究科構成法人間連絡調整委員会を置く。

２　前項の委員会に関する規則は、別に定める。

（研究科長等）

第９条　各研究科（連合農学研究科を除く。）に研究科長及び副研究科長を置く。

２　理工学研究科の研究科長及び副研究科長は、理工学部の学部長及び副学部長をもって充てる。

３　連合農学研究科に研究科長及び研究科長補佐を置く。

４　獣医学研究科の研究科長及び副研究科長は、獣医学部の学部長及び副学部長をもって充てる。

（自己評価等）

第１０条　本大学院は、その教育研究水準の向上を図り、本大学院の目的及び社会的使命

を達成するため、本大学院における教育研究、組織運営及び施設設備について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。
２　前項の点検及び評価の項目並びに実施体制については、別に定める。
３　第１項の点検及び評価の結果については、岩手大学の職員以外の者による検証を行うよう努めるものとする。

第３章　収容定員等、標準修業年限及び在学期間

（収容定員等）
第１１条　研究科の専攻別収容定員等は、次の表のとおりとする。

研究科名	課程	専　攻　名	入学定員	収容定員
総合科学研究科	修士課程	地域創生専攻	５４名	１０８名
		総合文化学専攻	１０名	２０名
		理工学専攻	１８０名	３６０名
		※農学専攻	５０名	１００名
		計	２９４名	５８８名
教育学研究科	教職大学院の課程	教職実践専攻	１６名	３２名
		計	１６名	３２名
理工学研究科	博士課程	自然・応用科学専攻	６名	１８名
		システム創成工学専攻	９名	２７名
		デザイン・メディア工学専攻	３名	９名
		計	１８名	５４名
獣医学研究科	博士課程	※共同獣医学専攻	５名	２０名
		（東京農工大学大学院農学府共同獣医学専攻）	（１０名）	（４０名）
		計	５名	２０名
連合農学研究科	博士課程	※生物生産科学専攻	１０名	３０名
		※生物資源科学専攻	９名	２７名
		※地域環境創生学専攻	９名	２７名
		計	２８名	８４名
備考　※印を冠するものは、入学定員の一部について連携大学院方式を実施する専攻である。 （　）は、本学と共同獣医学専攻を設置している東京農工大学農学府共同獣医学専攻の入学定員及び収容定員であり、外数とする。				

（標準修業年限）
第１２条　修士課程及び教職大学院の課程の標準修業年限は２年とする。
２　理工学研究科及び連合農学研究科の博士課程の標準修業年限は３年とする。
３　獣医学研究科の博士課程（以下「獣医学の博士課程」という。）の標準修業年限は４年とする。

４　第１項の規定にかかわらず、修士課程においては、主として実務の経験を有する者に対して教育を行う場合であって、教育の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育上支障を生じないときは、研究科、専攻又は学生の履修上の区分に応じ、標準修業年限を１年以上２年未満の期間とすることができる。

（在学期間）
第１３条　在学期間は、第１２条に規定する標準修業年限の２倍を超えることができない。

第４章　修士課程及び博士課程の教育課程

（教育方法）
第１４条　本大学院（教職大学院の課程を除く。以下この章において同じ。）の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行うものとする。

（教育方法の特例）
第１４条の２　本大学院において、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

（教育課程の編成方針）
第１４条の３　本大学院は研究科及び専攻の目的を達成するために必要な授業科目の開設及び研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成するものとする。
２　教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮するものとする。

（履修方法等）
第１５条　前条に規定する授業科目の内容、単位数及び履修方法並びに研究指導の内容及び履修方法は、各研究科において定める。

（一の授業科目について二以上の方法の併用により行う場合の単位の計算基準）
第１５条の２　本大学院は、一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合の単位数を計算するに当たっては、その組み合わせに応じ、国立大学法人岩手大学学則（以下「大学学則」という。）第３８条第１項各号に規定する基準を考慮して別に定める時間の授業をもって１単位とするものとする。

（成績評価基準等の明示等）
第１５条の３　本大学院は、学生に対して授業及び研究指導の方法及び内容並びに１年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。
２　学修の成果及び学位論文にかかる評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

（教育内容等の改善のための組織的な研修）
第１５条の４　本大学院は、授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的

な研修及び研究を実施するものとする。

（単位の授与）
第１６条　修士課程及び博士課程における授業科目の履修単位は、筆答若しくは口頭試験又は研究報告の成績を評価して与えるものとする。

（他の大学院における授業科目の履修等）
第１７条　本大学院が教育上有益と認めるときは、他の大学院との協議に基づき、学生に当該大学院の授業科目を履修させることができる。
２　本大学院が教育上有益と認めるときは、他の大学院との協議に基づき、学生に学校教育法第１０５条の規定により他の大学院が編成する特別の課程（履修資格を有する者が、同法第１０２条第１項の規定により大学院に入学することができる者であるものに限る。以下同じ。）を履修させることができる。
３　前２項の規定により修得した単位数は、１５単位を超えない範囲で、本大学院において修得したものとみなすことができる。
４　前項の規定は、第３５条の規定による留学の場合に準用する。

（入学前の既修得単位の認定）
第１７条の２　本大学院が教育上有益と認めるときは、学生が本大学院に入学する前に本大学院又は他の大学院において履修した授業科目について修得した単位（大学院設置基準（昭和４９年文部省令第２８号）第１５条に規定する科目等履修生及び特別の課程の履修生として修得した単位を含む。）を、本大学院に入学した後の本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
２　前項により修得したものとみなすことのできる単位数は、第３４条に規定する編入学及び転学の場合を除き、本大学院において修得した単位以外のものについては、１５単位を超えないものとする。

（他の大学院における授業科目の履修等および入学前の既修得単位の認定）
第１７条の３　第１７条第２項及び第１７条の２第１項の規定により本大学院において修得したとみなす単位数は、合わせて２０単位を超えないものとする。

（他の大学院等における研究指導）
第１８条　本大学院が教育上有益と認めるときは、他の大学院又は研究所等との協議に基づき、学生に当該大学院又は研究所等において、必要な研究指導を受けさせることができる。ただし、当該研究指導期間は１年を超えないものとし、博士課程の学生については、更に１年以内の延長を認めることができる。

（長期にわたる教育課程の履修）
第１９条　学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。
２　長期にわたる教育課程の履修に関し必要な事項は、別に定める。

（学位論文の審査及び試験）
第２０条　学位論文の審査は、当該論文の専攻分野の属する教授会において行うものとする。
２　最終試験の合格・不合格は、当該専攻における判定に基づき、教授会が行うものとする。

（課程の修了及び学位の授与）

第２１条　修士課程の修了要件は、修士課程に２年（２年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻又は学生の履修上の区分にあっては、当該標準修業年限）以上在学し、授業科目について別表１に定める単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士課程の目的に応じ、当該研究科の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、１年以上在学すれば足りるものとする。

２　博士課程（獣医学の博士課程を除く。次項において同じ。）の修了要件は、博士課程に３年以上在学し、授業科目について別表１に定める単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、１年以上在学すれば足りるものとする。

３　本大学院及び他の大学院において、１年以上２年未満の在学期間をもって修士課程を修了した者の博士課程の修了要件については、前項ただし書中「１年」とあるのは「３年（修士課程における在学期間を含む。）」と読み替えて、前項の規定を適用する。

４　獣医学の博士課程の修了要件は、博士課程に４年以上在学し、授業科目について別表１に定める単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、３年以上在学すれば足りるものとする。

５　第１７条の２第１項の規定により、本大学院に入学する前に修得した単位（学校教育法第１０２条第１項の規定により入学資格を有した後、修得したものに限る。）を本大学院において修得したものとみなす場合であって、当該単位の修得により本大学院の修士課程又は獣医学の博士課程の教育課程の一部を履修したと認めるときは、当該単位数、その修得に要した期間その他を勘案して１年を超えない範囲で本大学院が定める期間在学したものとみなすことができる。ただし、この場合においても、修士課程については、当該課程に少なくとも１年以上在学するものとする。

６　修士課程を修了した者には修士の学位を授与し、博士課程を修了した者には博士の学位を授与する。

７　博士の学位は、本学に学位論文を提出してその審査に合格し、かつ、博士課程を修了した者と同等以上の学力を有すると確認された者にも授与することができる。

８　前２項に規定するもののほか、学位の授与については、別に定める。

第４章の２　教職大学院の課程の教育課程

（教育課程）

第２１条の２　教職大学院の課程は、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、「理論と実践の融合」を具現化するための体系的な教育課程を編成するものとする。

（授業の方法等）

第２１条の３　教職大学院の課程は、その目的を達成し得る実践的な教育を行うよう事例研究、現地調査又は双方向若しくは多方向に行われる討論若しくは質疑応答その他の適切な方法により授業を行うなど適切に配慮するものとする。

（履修方法等）

第２１条の４　第２１条の２に規定する授業科目の内容、単位数及び履修方法は、本教職大学院において定める。

（一の授業科目について二以上の方法の併用により行う場合の単位の計算基準）
第２１条の５　教職大学院の課程は、一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合の単位数を計算するに当たっては、その組み合わせに応じ、国立大学法人岩手大学学則（以下「大学学則」という。）第３８条第１項各号に規定する基準を考慮して別に定める時間の授業をもって１単位とするものとする。

（成績評価基準等の明示等）
第２１条の６　教職大学院の課程は、学生に対して授業の方法及び内容並びに１年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。
２　学修の成果及び修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

（教育内容等の改善のための組織的な研修）
第２１条の７　教職大学院の課程は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

（履修科目の登録の上限）
第２１条の８　教職大学院の課程は、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、学生が１年間又は１学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるものとする。

（他の大学院における授業科目の履修等）
第２１条の９　本教職大学院が、教育上有益と認めるときは、他の大学院との協議に基づき、学生に当該大学院の授業科目を履修させることができる。
２　本教職大学院が教育上有益と認めるときは、他の大学院との協議に基づき、学生に学校教育法第１０５条の規定により他の大学院が編成する特別の課程を履修させることができる。
３　前２項の規定により修得した単位数は、本教職大学院の修了要件単位数の２分の１を超えない範囲で当該教職大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
４　前項の規定は、第３５条の規定による留学の場合に準用する。

（入学前の既修得単位の認定）
第２１条の１０　本教職大学院が、教育上有益と認めるときは、学生が本教職大学院に入学する前に本大学院又は他の大学院において履修した授業科目について修得した単位(大学院設置基準第１５条に規定する科目等履修生及び特別の課程履修生として修得した単位を含む。）を、本教職大学院に入学した後の本教職大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
２　前項により修得したものとみなすことのできる単位数は、第３４条に規定する編入学及び転学の場合を除き、本大学院において修得した単位以外のものについては、前条第３項の規定により本教職大学院において修得したものとみなす単位数と合わせて本教職大学院の修了要件単位数の２分の１を超えないものとする。

（長期にわたる教育課程の履修）
第２１条の１１　学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。
２　長期にわたる教育課程の履修に関し必要な事項は、別に定める。

（課程の修了及び学位の授与）
第２１条の１２　教職大学院の課程の修了要件は、教職大学院の課程に２年以上在学し、別表１に定める単位を修得し、かつ教育実践研究報告書の提出及び最終審査に合格することとする。
２　前項に規定するもののほか、学位の授与については、別に定める。

第５章　教育職員免許

（教育職員免許）
第２２条　教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。
２　前項の規定により各研究科において取得できる教員の免許状の種類及び教科は、別表２に掲げるとおりとする。

第６章　入学、休学、復学、退学、再入学、編入学、転学、留学、表彰、除籍及び懲戒

（入学時期）
第２３条　入学の時期は、毎年４月又は１０月とする。

（修士課程及び教職大学院の課程の入学資格）
第２４条　修士課程に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
一　学校教育法第８３条第１項に定める大学の卒業者
二　学校教育法第１０４条第７項の規定により学士の学位を授与された者
三　外国において学校教育における１６年の課程を修了した者
四　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における１６年の課程を修了した者
五　我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における１６年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
五の二　外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が３年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者

六　専修学校の専門課程（修業年限が４年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
七　文部科学大臣の指定した者
八　大学に３年以上在学し、外国において学校教育における１５年の課程を修了し、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における１５年の課程を修了し、又は我が国において外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における１５年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
九　本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、２２歳に達したもの
２　教職大学院の課程に入学できる者は、教育職員免許法（昭和２４年法律第１４７号）に定める免許状（一種）を有し、かつ前条各号のいずれかに該当する者とする。

（博士課程の入学資格）
第２５条　博士課程（獣医学の博士課程を除く。）に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
一　修士の学位又は専門職学位を有する者
二　外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
三　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
四　我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
五　国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
六　文部科学大臣の指定した者
七　本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、２４歳に達したもの

（獣医学の博士課程の入学資格）
第２５条の２　獣医学の博士課程に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
一　大学における医学、歯学又は修業年限６年の獣医学若しくは薬学を履修する課程を卒業した者
二　外国において、学校教育における１８年の課程（最終の課程は医学、歯学、獣医学又は薬学）を修了した者
三　外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における１８年の課程（最終の課程は医学、歯学、獣医学又は薬学）を修了した者
四　我が国おいて、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における１８年の課程（最終の課程は医学、歯学、獣医学又は薬学）を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学省が別に指定するものの当該課程を修了した者
五　外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が５年

以上である課程（医学、歯学、獣医学又は薬学を履修する課程に限る。）を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者

六　昭和３０年文部省告示第３９号をもって文部科学大臣の指定した者

七　本大学院において、個別の入学資格審査により、大学（医学、歯学、獣医学又は薬学を履修する課程）を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、２４歳に達したもの

（入学志願の手続）

第２６条　入学を志願する者は、所定の期間内に、別に指定する関係書類に検定料を添えて本学に提出しなければならない。

（合格者の決定）

第２７条　学長は、前条の入学志願者について、選考の上合格者を決定する。

２　前項の選考の方法及び時期等については、その都度これを定める。

（入学の手続）

第２８条　入学の手続については、大学学則第５０条の規定を準用する。

（入学の許可）

第２９条　学長は、前条の手続を経た者に対し、入学を許可する。

（休学）

第３０条　疾病その他の事由により、３月以上修学できない者は、休学願を提出し、学長の許可を得るものとする。

２　疾病のため、修学が不適当と認められる者に対して、学長は、休学を命ずることができる。

３　第１項の休学期間は、１年以内とする。ただし、特別の事情がある場合は、願い出により引き続き休学することができる。

４　休学期間は、修士課程及び教職大学院の課程にあっては通算して２年、博士課程（獣医学の博士課程を除く。）にあっては通算して３年、獣医学の博士課程にあっては通算して４年を超えることができない。

５　前項の休学期間は、第１３条に規定する在学期間に算入しない。

（復学）

第３１条　学生は、休学期間が満了したときは、復学するものとする。

２　休学期間が満了する前に休学の事由が消滅したときは、復学願を提出し、学長の許可を得るものとする。

（退学）

第３２条　疾病その他の事由により退学しようとする者は、退学願を提出し、学長の許可を得るものとする。

（再入学）

第３３条　本学の大学院研究科を退学した者が同一課程の同一専攻に再入学を願い出たときは、教授会の議を経て許可することがある。

２　前項の再入学の取扱については、別に定める。

（編入学及び転学）
第３４条　編入学及び転学については、教授会の議を経て学長が許可する。
２　他の大学の大学院から本学の大学院に転科又は転学を希望する者があるときは、欠員のある場合に限り許可することがある。

（留学）
第３５条　本大学院が教育上有益と認めるときは、外国の大学院との協議に基づき、学生が当該大学院に留学することを許可することができる。
２　留学の期間は、第１２条及び第１３条に規定する標準修業年限及び在学期間に含めるものとする。

（表彰）
第３６条　学長は、表彰に値する顕著な業績等がある学生を、表彰することがある。
２　前項の表彰については、別に定める。

（除籍）
第３７条　除籍は、教授会の議を経て学長がこれを行う。
２　前項の除籍については、大学学則第６９条の規定を準用する。

（懲戒）
第３８条　懲戒は、教授会の発議により、教育研究評議会の議を経て学長がこれを行う。
２　前項の懲戒については、大学学則第７０条の規定を準用する。

第７章　検定料、入学料及び授業料

（検定料、入学料及び授業料の額）
第３９条　検定料、入学料及び授業料の額は、岩手大学における授業料その他の料金に関する規則の定めるところによる。

（授業料の納付）
第４０条　授業料の納付については、大学学則第６３条の規定を準用する。

（検定料、入学料及び授業料の免除又は徴収猶予）
第４１条　検定料、入学料及び授業料の免除又は徴収猶予については、大学学則第６４条の規定を準用する。

第４２条　削除

（退学、復学又は停学の場合の授業料の納付）
第４３条　退学、復学又は停学の場合の授業料の納付については、大学学則第６６条の規定を準用する。

（検定料、入学料及び授業料の返還等）
第４４条　検定料、入学料及び授業料の返還等については、大学学則第６７条第１項、同

条第４項、同条第５項、同条第６項、同条第７項及び同条第８項の規定を準用する。

第８章　学年、学期及び休業日

（学年、学期及び休業日）

第４５条　本大学院の学年、学期及び休業日については、大学学則第３１条から第３３条までの規定を準用する。

第９章　科目等履修生、研究生、特別聴講学生及び特別研究学生

（科目等履修生）

第４６条　本学の学生以外の者で、本大学院が開設する授業科目の履修を志願するものがあるときは、本学の授業に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可する。

２　前項の科目等履修生に関する規則は、別に定める。

（研究生）

第４７条　本大学院において特定の専門的事項の研究を志願する者があるときは、本大学院の教育又は研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可する。

２　前項の研究生に関する規則は、別に定める。

（特別聴講学生）

第４８条　他の大学院（外国の大学院を含む。）の学生が、本大学院の授業科目を履修しようとするときは、当該大学院との協議に基づき、特別聴講学生として入学を許可することがある。

２　前項の特別聴講学生に関する規則は、別に定める。

（特別研究学生）

第４９条　他の大学院（外国の大学院を含む。）の学生が、本大学院において研究指導を受けようとするときは、当該大学院との協議に基づき、特別研究学生として受入れを許可することがある。

２　前項の特別研究学生に関する規則は、別に定める。

第１０章　外国人留学生

（外国人留学生）

第５０条　外国人（日本国籍を有しない者）で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本大学院に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

２　前項の外国人留学生に関する規則は、別に定める。

第１１章　雑則

（大学学則の準用）

第５１条　この学則に規定しない事項は、大学学則の規定を準用する。

２　前項の他、本学が学術交流協定等を締結し、外国の大学（協定校）と共同して教育・研究指導を行い、学位の取得を促進する教育課程等（デュアルディグリープログラム等）を運用する場合に必要な事項は、関係研究科等において別に定める。

附　則

（施行）

１　この学則は、平成１６年４月１日から施行する。

（経過規定）

２　この学則の施行の際現に国立学校設置法第３条第１項の規定による岩手大学（以下「旧岩手大学」という。）大学院に在学している者は、この規則の施行の日において、本大学院の学生となるものとする。

３　前項の規定による学生の教育課程及び教育職員免許取得に関する事項については、この学則の規定にかかわらず、当該学生が入学した際の、旧岩手大学の定める岩手大学大学院学則の規定によるものとする。

４　この学則の規定にかかわらず、人文社会科学研究科の地域文化専攻及び社会科学専攻、工学研究科の応用分子化学専攻及び情報工学専攻並びに農学研究科の農林生産学専攻、応用生物学専攻及び農業生産環境工学専攻は、平成１６年３月３１日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、本大学院に置かれるものとする。

５　第１１条の規定にかかわらず、平成１６年度及び平成１７年度における人文社会科学研究科、工学研究科、農学研究科及び連合農学研究科の学生の収容定員は次の表に掲げるとおりとする。

研究科名	課程	専攻名	平成１６年度	平成１７年度
人文社会科学研究科	修士課程	人間科学専攻	２名	
		国際文化学専攻	２名	
		社会・環境システム専攻	２名	
		地域文化専攻	３名	
		社会科学専攻	３名	
工学研究科	博士前期課程	※応用化学専攻	１５名	
		材料物性工学専攻	３０名	
		電気電子工学専攻	２６名	
		機械工学専攻	３６名	
		建設環境工学専攻	３０名	
		情報システム工学専攻	１６名	
		福祉システム工学専攻	１２名	
		フロンティア材料機能工学専攻	１８名	
		※応用分子化学専攻	１７名	
		情報工学専攻	１６名	
		計	２１６名	
	博士後期課程	フロンティア材料機能工学専攻	８名	１６名
		計	５６名	６４名
	修	※農業生命科学専攻	３７名	

農学研究科	士課程	農林環境科学専攻	３０名	
		農林生産学専攻	２４名	
		応用生物学専攻	２９名	
		農業生産環境工学専攻	１４名	
連合農学研究科	博士課程	※生物資源科学専攻	５名	
		計	６１名	
備考　※印を冠するものは、入学定員の一部について連携大学院方式を実施する専攻である。				

附　則

この学則は、平成１７年４月１日から施行する。

附　則

１　この学則は、平成１７年１２月１日から施行する。ただし、第５条、第６条及び第１１条の改正規定は、平成１８年４月１日から施行する。

２　この学則による改正後の第２４条及び第２５条の規定は、平成１８年１０月入学者から適用する。

３　この学則による改正後の第１１条の規定にかかわらず、平成１８年度及び平成１９年度における工学研究科博士前期課程の金型・鋳造工学専攻並びに連合農学研究科博士課程の生物資源科学専攻及び寒冷圏生命システム学専攻の学生の収容定員及び工学研究科博士前期課程及び連合農学研究科博士課程の収容定員は、次の表に掲げるとおりとする。

研究科・課程	専　攻	平成１８年度	平成１９年度
工学研究科 博士前期課程	金型・鋳造工学専攻	１０名	
	計	２４８名	
連合農学研究科 博士課程	生物資源科学専攻	２６名	２５名
	寒冷圏生命システム学専攻	４名	８名
	計	６６名	６９名

附　則

この学則は、平成１８年４月１日から施行する。

附　則

１　この学則は、平成１８年７月２４日から施行する。

２　この学則による改正後の第１１条、第１２条、第１７条の２、第１９条及び第２１条の規定は、平成１９年４月１日以降の入学者に係るものから適用し、第３０条及び第３１条の規定は、平成１９年４月１日から適用する。

附　則

（施行期日）

１　この学則は、平成１９年４月１日から施行する。

（経過規定）

２　この学則の施行の日（以下「施行日」という。）の前日に本学の講師として在職し、その者が施行日以後も引き続き講師として在職する間にあっては、第６条第１項中「本学の教授及び准教授」とあるのは「本学の教授、准教授及び講師」と読み替えるものとする。

附　則

（施行期日）

1　この学則は、平成１９年４月１日から施行する。

（経過規定）

2　この学則の施行の日（以下「施行日」という。）の前日に本学の講師として在職し、その者が施行日以後も引き続き講師として在職する間にあっては第６条第１項中「本学の教授、准教授及び助教」とあるのは「本学の教授、准教授、講師及び助教」と読み替えるものとする。

3　この学則による改正後の第２１条第２項の博士課程の単位の修得に係る規定は、平成１９年４月１日以降の博士課程入学者から適用し、平成１９年３月３１日以前の博士課程入学者については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、平成１９年４月１日から施行する。

2　この学則による改正後の別表の規定は、平成１９年４月１日以後の入学者から適用し、平成１９年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成２０年４月１日から施行する。

附　則

（施行期日）

1　この学則は、平成２１年４月１日から施行する。

（経過規定）

2　この学則による改正前の教育学研究科修士課程の学校教育専攻及び障害児教育専攻、工学研究科博士前期課程の応用化学専攻、材料物性工学専攻、電気電子工学専攻、機械工学専攻、建設環境工学専攻、情報システム工学専攻、福祉システム工学専攻及びフロンティア材料機能工学専攻、工学研究科博士後期課程の物質工学専攻、生産開発工学専攻、電子情報工学専攻及びフロンティア材料機能工学専攻並びに農学研究科修士課程の農業生命科学専攻及び農林環境科学専攻は、改正後の国立大学法人岩手大学大学院学則第５条の規定にかかわらず、平成２１年３月３１日に当該専攻に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

3　この学則による改正後の国立大学法人岩手大学大学院学則第１１条の規定にかかわらず平成２１年度及び平成２２年度の学生の収容定員は、次のとおりとする。

研究科名	課程	専攻名	平成２１年度	平成２２年度
人文社会科学研究科	修士課程	人間科学専攻	１０名	１６名
		国際文化学専攻	６名	８名
		社会・環境システム専攻	６名	８名
		計	２２名	３２名
教育学研究科	修士課程	学校教育実践専攻	１２名	２４名
		教科教育専攻	５３名	４０名
		学校教育専攻	６名	
		障害児教育専攻	３名	
		計	７４名	６４名
工学研究科	博士前期課程	※応用化学・生命工学専攻	２５名	５０名
		フロンティア材料機能工学専攻	４８名	６０名

		電気電子・情報システム工学専攻	４０名	８０名
		機械システム工学専攻	３０名	６０名
		社会環境工学専攻	２０名	４０名
		デザイン・メディア工学専攻	１０名	２０名
		金型・鋳造工学専攻	２０名	２０名
		※応用化学専攻	１５名	
		材料物性工学専攻	１４名	
		電気電子工学専攻	１４名	
		機械工学専攻	１６名	
		建設環境工学専攻	１４名	
		情報システム工学専攻	１６名	
		福祉システム工学専攻	１２名	
		計	２９４名	３３０名
	博士後期課程	※フロンティア物質機能工学専攻	９名	１８名
		電気電子・情報システム工学専攻	４名	８名
		機械・社会環境システム工学専攻	４名	８名
		デザイン・メディア工学専攻	３名	６名
		※物質工学専攻	１２名	６名
		生産開発工学専攻	１０名	５名
		電子情報工学専攻	１０名	５名
		フロンティア材料機能工学専攻	１６名	８名
		計	６８名	６４名
農学研究科	修士課程	農学生命専攻	２０名	４０名
		応用生物化学専攻	１５名	３０名
		共生環境専攻	１６名	３２名
		動物科学専攻	８名	１６名
		※バイオフロンティア専攻	８名	１６名
		※農業生命科学専攻	３７名	
		農林環境科学専攻	３０名	
		計	１３４名	１３４名
連合農学研究科	博士課程	生物生産科学専攻	２０名	２２名
		生物資源科学専攻	２６名	２８名
		※寒冷圏生命システム学専攻	１４名	１６名
		生物環境科学専攻	２０名	２２名
		計	８０名	８８名

４　この学則による改正後の国立大学法人岩手大学大学院学則別表の規定は、平成２１年４月１日以後の入学者から適用し、平成２１年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成２２年６月８日から施行し、平成２２年４月１日から適用する。

附　則

この学則は、平成２３年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成２３年１２月２日から施行し、平成２３年４月１日から適用する。

附　則

この学則は、平成２４年１２月２５日から施行し、平成２４年４月１日から適用する。

附　則

この学則は、平成２６年４月１日から施行する。

附　則

（施行期日）

１　この学則は、平成２８年４月１日から施行する。

（経過規定）

２　この学則による改正前の教育学研究科修士課程の学校教育実践専攻及び教科教育専攻は、改正後の国立大学法人岩手大学大学院学則第５条の規定にかかわらず、平成２８年３月３１日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

３　この学則による改正後の国立大学法人岩手大学大学院学則第１１条の規定にかかわらず平成２８年度の学生の収容定員は、次のとおりとする。

研究科名	課程	専攻名	平成 ２８ 年度
教育学研究科	教職大学院の課程	教職実践専攻	１６名
	修士課程	学校教育実践専攻 教科教育専攻	１２名 ２０名
	計		４８名

４　この学則による改正後の国立大学法人岩手大学大学院学則別表の規定は、平成２８年４月１日以後の入学者から適用し、平成２８年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則

この学則は、平成２８年１２月１４日から施行し、平成２８年４月１日から適用する。

附　則

（施行期日）

１　この学則は、平成２９年４月１日から施行する。

（経過規定）

２　この学則による改正前の人文社会科学研究科、工学研究科博士前期課程、工学研究科博士後期課程及び農学研究科は、改正後の国立大学法人岩手大学大学院学則第２条及び第５条の規定にかかわらず、平成２９年３月３１日に当該研究科に在学する者が当該研究科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

３　人文社会科学研究科長及び農学研究科長は、当該研究科が存続する間、当該研究科に置くものとする。この場合において、人文社会科学研究科長は人文社会科学部長をもって充て、農学研究科長は農学部長をもって充てる。

４　この学則による改正後の第１２条、第１６条、第１８条、第２１条、第３０条の規定は、平成２９年４月１日以後の入学者から適用し、平成２９年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

５　この学則による改正後の国立大学法人岩手大学大学院学則第１１条の規定にかかわらず平成２９年度の学生の収容定員は、次のとおりとする。

研究科名	課程	専攻名	平成

			２９ 年度
総合科学研究科	修士課程	地域創生専攻	５４名
		総合文化学専攻	１０名
		理工学専攻	１８０名
		※農学専攻	５０名
		計	２９４名
人文社会科学研究科	修士課程	人間科学専攻	８名
		国際文化学専攻	４名
		社会・環境システム専攻	４名
		計	１６名
工学研究科	博士前期課程	応用化学・生命工学専攻	２５名
		フロンティア材料機能工学専攻	３０名
		電気電子・情報システム工学専攻	４０名
		機械システム工学専攻	３０名
		社会環境工学専攻	２０名
		デザイン・メディア工学専攻	１０名
		金型・鋳造工学専攻	１０名
		計	１６５名
農学研究科	修士課程	農学生命専攻	２０名
		応用生物化学専攻	１５名
		共生環境専攻	１６名
		動物科学専攻	８名
		バイオフロンティア専攻	８名
		計	６７名

６　この学則による改正後の国立大学法人岩手大学大学院学則別表２の規定は、平成２９年４月１日以後の入学者から適用し、平成２９年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則

（施行期日）

１　この学則は、平成３０年４月１日から施行する。

（経過規定）

２　この学則による改正前の連合農学研究科の教育研究は、改正後の国立大学法人岩手大学大学院学則第３条の規定にかかわらず、平成３０年３月３１日に当該研究科に在学する者が当該研究科に在学しなくなる日までの間、岩手大学、弘前大学、及び山形大学及び国立大学法人帯広畜産大学（以下「帯広畜産大学」という。）の協力により実施するものとする。

３　この学則による改正前の連合農学研究科における授業並びに研究指導及び研究指導補助を担当する教員は、改正後の国立大学法人岩手大学学則第６条第２項の規定にかかわらず、平成３０年３月３１日に当該研究科に在学する者が当該研究科に在学しなくなる日までの間、当該研究科の専任の教員並びに客員教授及び客員准教授並びに本学の教育学部、理工学部及び農学部、弘前大学の農学生命科学部及び遺伝子実験施設、並びに山形大学の農学部並びに帯広畜産大学の畜産学部及び大学院畜産学研究科に所属する専任の教員であって、当該研究科における研究指導を担当する資格を有するもののうちから指名された者とする。

４　この学則による改正前の国立大学法人岐阜大学大学院に設置される連合獣医学研究科の教育研究の実施に当たっては、平成３０年３月３１日に当該研究科に在学する者が当

該研究科に在学しなくなる日までの間、本学は、帯広畜産大学、国立大学法人東京農工大学（以下「東京農工大学」という。）及び国立大学法人岐阜大学（以下「岐阜大学」という。）とともに協力するものとする。

5　前項の連合獣医学研究科に置かれる連合講座は、帯広畜産大学の畜産学部及び原虫病研究センター、東京農工大学農学部並びに岐阜大学応用生物科学部の教員とともに、本学農学部の教員がこれを担当するものとする。

6　この学則による改正後の国立大学法人岩手大学大学院学則第１１条の規定にかかわらず平成３０年度から平成３２年度の獣医学研究科及び平成３０年度から平成３１年度の連合農学研究科の学生の収容定員は、次のとおりとする。

研究科名	課程	専攻名	平成３０年度	平成３１年度	平成３２年度
獣医学研究科	博士課程	※共同獣医学専攻	５名	１０名	１５名
		（東京農工大学大学院農学府共同獣医学専攻）	（１０名）	（２０名）	（３０名）
		計	５名	１０名	１５名
連合農学研究科	博士課程	※生物生産科学専攻	２５名	２６名	
		※生物資源科学専攻	２８名	２６名	
		※寒冷圏生命システム学専攻	１２名	６名	
		※生物環境科学専攻	１６名	８名	
		※地域環境創生学専攻	７名	１４名	
		計	８８名	８０名	

7　この学則による改正後の第３０条第５項の規定は、平成３０年４月１日以降の入学者から適用し、平成３０年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則

（施行期日）

1　この学則は、平成３１年４月１日から施行する。

（経過規定）

2　この学則による改正前の工学研究科博士課程のフロンティア物質機能工学専攻、電気電子・情報システム工学専攻、機械・社会環境システム工学専攻及びデザイン・メディア工学専攻は、改正後の国立大学法人岩手大学大学院学則第２条及び第５条の規定にかかわらず、平成３１年３月３１日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

3　工学研究科長は、当該研究科が存続する間、当該研究科に置くものとし、理工学部長をもって充てる。

4　この学則による改正後の第１１条の規定にかかわらず平成３１年度から平成３２年度の学生の収容定員は、次のとおりとする。

研究科名	課程	専攻名	平成３１年度	平成３２年度
理工学研究科	博士課程	自然・応用科学専攻	６名	１２名
		システム創成工学専攻	９名	１８名
		デザイン・メディア工学専攻	３名	６名
		計	１８名	３６名
工学研究科	博士課程	フロンティア物質機能工学専攻	１８名	９名
		電気電子・情報システム工学専攻	８名	４名

		機械・社会環境システム工学専攻	８名	４名
		デザイン・メディア工学専攻	６名	３名
		計	４０名	２０名

5　この学則による改正後の第１２条及び別表１の規定は、平成３１年４月１日以後の入学者から適用し、平成３１年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、令和２年４月１日から施行する。

2　この学則による改正後の別表１の規定は、令和２年４月１日以後の入学者から適用し、令和２年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則

この学則は、令和２年１２月２４日より施行し、令和２年４月１日より適用する。

附　則

この学則は、令和４年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、令和５年４月１日から施行する。

2　この学則による改正後の別表の規定は、令和５年４月１日以後の入学者から適用し、令和５年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、令和６年４月１日から施行する。

2　この学則による改正後の別表の規定は、令和６年４月１日以後の入学者から適用し、令和６年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則

1　この学則は、令和７年４月１日から施行する。

2　この学則の施行の日（以下、「施行日」という。）の前日に獣医学研究科の研究科長及び副研究科長として在職する者の任期の末日が施行日以後である場合は、第９条第４項の規定は、当該者の後任の者から適用する。

附　則

（施行期日）

1　この学則は、令和７年４月１日から施行する。

（経過規定）

2　この学則による改正後の第１７条、第１７条の２、第１７条の３、第２１条、第２１条の９、第２１条の１０の規則は、令和７年４月１日以降の入学者から適用し、令和７年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

3　この学則による改正後の第１１条の規定にかかわらず令和７年度及び令和８年度の学生の収容定員は、次のとおりとする。

研究科名	課程	専攻名	令和７年度	令和８年度
連合農学研究科	博士課程	※生物生産科学専攻	２８名	２９名
		※生物資源科学専攻	２５名	２６名
		※地域環境創生学専攻	２３名	２５名
		計	７６名	８０名

別表１　第２１条第１項、同条第２項、同条第４項及び第２１条の１２第１項に定められた課程の修了に必要な単位数

研究科名	課程	専攻名	単位数
総合科学研究科	修士課程	地域創生専攻	３０単位以上
		総合文化学専攻	３３単位以上
		理工学専攻	３１単位以上
		農学専攻	３０単位以上
教育学研究科	教職大学院の課程	教職実践専攻	４６単位以上
理工学研究科	博士課程	自然・応用科学専攻 システム創成工学専攻 デザイン・メディア工学専攻	１２単位以上
獣医学研究科	博士課程	共同獣医学専攻	３４単位以上
連合農学研究科	博士課程	生物生産科学専攻 生物資源科学専攻 地域環境創生学専攻	１２単位以上

別表２　第２２条第２項に定められた免許状の種類及び教科又は特別支援教育領域

研究科名	課程	専　攻　名	免許状の種類	教科又は特別支援教育領域
総合科学研究科	修士課程	地域創生専攻	高等学校教諭専修免許状	工業
		総合文化学専攻	中学校教諭専修免許状	国語、社会、音楽、美術、英語
			高等学校教諭専修免許状	国語、地理歴史、公民、音楽、美術、英語
		理工学専攻	高等学校教諭専修免許状	数学、理科、工業
		農学専攻	高等学校教諭専修免許状	理科、農業
教育学研究科	教職大学院の課程	教職実践専攻	幼稚園教諭専修免許状	
			小学校教諭専修免許状	
			中学校教諭専修免許状	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、英語、ドイツ語、フランス語、中国語
			高等学校教諭専修免許状	国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、家庭、情報、農業、工業、商業、水産、英語、ドイツ語、フランス語、中国語
			特別支援学校教諭専修免許状	知的障害者に関する教育、肢体不自由者に関する教育、病弱者（身体虚弱者を含む。）に関する教育

岩手大学教養教育規則

平成１６年４月１日　制　　定
令和７年２月２７日　最終改正

（趣旨）
第１条　国立大学法人岩手大学学則（以下「学則」という。）第３６条第４項の規定に基づき、教養教育及び共通教育に関し必要な事項を定める。

（授業科目の区分）
第２条　教養教育科目は、技法知科目、学問知科目、探究知科目及び実践知科目により構成され、次のとおり区分する。

技法知科目	外国語科目、健康・スポーツ科目、情報科目
学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目、理学・工学領域科目、農学領域科目
探究知科目	環境科目、地域関連科目（地域科目）
実践知科目	地域関連科目（地域課題演習科目）

２　獣医学部の共通教育科目（以下「共通教育科目」という。）は、大学教育導入科目群、スポーツ健康科目群、外国語科目群、人文社会科学科目群及び配置大学特色科目群により構成され、次のとおり区分する。

大学教育導入科目群	基礎ゼミナール
スポーツ健康科目群	スポーツ健康・基盤、スポーツ健康・発展
外国語科目群	基礎英語
人文社会科学科目群	人文社会科学、持続可能な環境・社会
配置大学特色科目群	理数系基礎、理数系アドバンス

（授業科目及び単位数）
第３条　教養教育科目として開設する授業科目及び単位数は、別表１－１のとおりとする。
２　共通教育科目として開設する授業科目及び単位数は、別表１－２のとおりとする。

（修得すべき単位数）
第４条　教養教育科目に関し、学生が修得すべき単位数は、別表２－１のとおりとする。
２　共通教育科目に関し、学生が修得すべき単位数は、別表２－２のとおりとする。
３　学生は、第１項又は第２項の定めにより授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

（単位の計算基準）
第５条　授業科目の単位の計算基準は、学則第３８条によるものとする。

（授業時間割等の公示）
第６条　授業科目、時間数及び担当教員名は、各学期の開始までに公示する。

（履修授業科目の届け出）
第７条　学生は、履修しようとする授業科目名を各学期当初の指定期間内に届け出なければならない。
２　学期の途中から開講する授業科目については、その都度前項の届け出をすることができる。
３　前２項の届け出をしない者は、単位の認定を受けることができない。
４　第１項及び第２項の届け出の後は、履修取り消しを認める指定期間を除き、授業科目を変更することができない。

（試験）
第８条　試験は、各学期末に行う。ただし、授業科目によっては、学期中に随時行うことがある。

（成績の評価）
第９条　履修授業科目の成績は、各授業の担当教員が学習状況、出席状況、学習報告及び試験等に

よって評価する。
２　成績は、秀、優、良及び可を合格、不可を不合格とする。

（雑則）
第１０条　この規則に定めるもののほか、教養教育に関する事項は、岩手大学教務委員会が別に定める。

附　則
この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則
１　この規則は、平成１７年６月２３日から施行し、平成１７年４月１日から適用する。
２　改正後の別表２中「岩手大学ミュージアム学」及び「岩手大学論」に係る規定は、平成１７年度入学者から適用し、「現代社会と著作権」に係る規定は平成１２年度入学者から適用する。

附　則
この規則は、平成１８年４月１日から施行する。

附　則
１　この規則は、平成１８年４月１日から施行する。
２　この規則は、平成１８年度入学者から適用し、平成１７年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則
１　この規則は、平成１９年４月１日から施行する。
２　この規則は、平成１９年４月１日以降の入学者から適用し、平成１９年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。
３　この規則の編入学者への適用は、当該編入学者が属する年次の学生と同様に取り扱うものとする。

附　則
（施行期日）
１　この規則は、平成１９年４月１日から施行する。
（経過措置）
２　この規則は、平成１９年４月１日以降の入学者から適用し、平成１９年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。
３　前項の規定にかかわらず、改正後の別表１中「男女共同参画の実践を学ぶ」、「都市の自然再生プランニング」、「高年次課題科目特別講義Ⅰ」、「高年次課題科目特別講義Ⅱ」及び「知財ワークショップ」は平成１６年度入学者から適用する。

附　則
１　この規則は、平成２０年４月１日から施行し、平成２０年度入学者から適用する。
２　改正後の別表１中「持続可能なコミュニティーづくり実践学」、「地元の企業に学ぶＥＳＤ」、「地場産業・企業論」、「北上川流域学実習」及び「津波の実際から防災を考える」は平成１７年度入学者から適用する。

附　則
（施行期日）
１　この規則は、平成２１年４月１日から施行する。
（経過措置）
２　この規則は、平成２１年度入学者から適用し、平成２０年度以前の入学者については、なお従前の例による。
３　前項の規定にかかわらず、改正後の別表１中「環境都市盛岡づくりプロジェクト」及び「社会のなかの法律問題を考える」は平成１６年度入学者から適用する。

附　則
（施行期日）
１　この規則は、平成２２年４月１日から施行する。

（経過措置）
２　この規則は、平成２２年度入学者から適用し、平成２１年度以前の入学者については、なお従前の例による。
３　前項の規定にかかわらず、改正後の別表１中「環境マネジメント実践学」は平成１９年度入学者から適用する。

附　則
（施行期日）
１　この規則は、平成２３年４月１日から施行する。
（経過措置）
２　この規則は、平成２３年度入学者から適用し、平成２２年度以前の入学者については、なお従前の例による。
３　前項の規定にかかわらず、改正後の別表１中「日本の文化・社会と国際ボランティア」は平成１９年度入学者から適用する。

附　則
（施行期日）
１　この規則は、平成２４年４月１日から施行する。
（経過措置）
２　この規則は、平成２４年度入学者から適用し、平成２３年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則
（施行期日）
１　この規則は、平成２５年４月１日から施行する。
（経過措置）
２　この規則は、平成２５年度入学者から適用し、平成２４年度以前の入学者については、なお従前の例による。
３　前項の規定にかかわらず、改正後の別表１中「異文化理解と実践」は平成２３年度入学者から適用する。

附　則
（施行期日）
１　この規則は、平成２６年４月１日から施行する。
（経過措置）
２　この規則は、平成２６年度入学者から適用し、平成２５年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則
（施行期日）
１　この規則は、平成２７年４月１日から施行する。
（経過措置）
２　この規則は、平成２７年度入学者から適用し、平成２６年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則
１　この規則は、平成２８年４月１日から施行する。
２　この規則は、平成２８年度入学者から適用し、平成２７年度以前の入学者については、この規則改正前の岩手大学全学共通教育規則の例による。

附　則
１　この規則は、平成２８年４月１日から施行する。
２　この規則は、平成２８年度入学者から適用し、平成２７年度以前の入学者については、この規則改正前の岩手大学全学共通教育規則の例による。

附　則
１　この規則は、平成３０年４月１日から施行する。
２　この規則は、平成３０年度入学者から適用し、平成２９年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則

この規則は、平成３１年４月１日から施行する。

附　則

１　この規則は、令和２年４月１日から施行する。

２　この規則は、令和２年度入学者から適用し、令和元年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則

この規則は、令和２年１０月１日から施行する。

附　則

１　この規則は、令和３年４月１日から施行する。

２　この規則は、令和３年度入学者から適用し、令和２年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則

１　この規則は、令和４年４月１日から施行する。

２　この規則は、令和４年度入学者から適用し、令和３年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則

１　この規則は、令和６年４月１日から施行する。

２　この規則は、令和６年度入学者から適用し、令和５年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則

１　この規則は、令和７年４月１日から施行する。

２　この規則は、令和７年度入学者から適用し、令和６年度以前の入学者については、なお従前の例による。

別表１－１
教養教育科目として開設する授業科目及び単位数

一　技法知科目

区　　分		授　業　科　目	単位数
外国語科目	英　語	英語総合Ⅰ（上級）	1
		英語総合Ⅱ（上級）	1
		英語総合Ⅰ（中級）	1
		英語総合Ⅱ（中級）	1
		英語総合Ⅰ（初級）	1
		英語総合Ⅱ（初級）	1
		英語コミュニケーションⅠ（上級）	1
		英語コミュニケーションⅡ（上級）	1
		英語コミュニケーションⅠ（中級）	1
		英語コミュニケーションⅡ（中級）	1
		英語コミュニケーションⅠ（初級）	1
		英語コミュニケーションⅡ（初級）	1
		英語発展Ａ	1
		英語発展Ｂ	1
		英語発展Ｃ	1
		英語発展Ｄ	1
	英語以外の外国語	初級ドイツ語（入門）	1
		初級ドイツ語（発展）	1
		中級ドイツ語	1
		初級フランス語(入門)	1
		初級フランス語(発展)	1
		中級フランス語	1
		初級ロシア語(入門)	1
		初級ロシア語(発展)	1
		中級ロシア語	1
		初級中国語（入門）	1
		初級中国語（発展）	1
		中級中国語	1
		初級韓国語（入門）	1
		初級韓国語（発展）	1
		中級韓国語	1
	日本語	上級日本語Ａ	1
		上級日本語Ｂ	1
		上級日本語Ｃ	1
		上級日本語Ｄ	1
		上級日本語Ｅ	1
		上級日本語Ｆ	1
		上級日本語Ｇ	1
		上級日本語Ｈ	1
健康・スポーツ科目		健康・スポーツＡ	1
		健康・スポーツＢ	1
		健康・スポーツＣ（シーズン）	1
情報科目		情報基礎Ａ	2
		情報基礎Ｂ	2

二　学問知科目

区　　分	授　業　科　目	単位数
人文社会科学・教育学領域科目	思想	2
	芸術学	2
	文学	2
	言語学	2
	歴史学	2
	法学	2
	憲法	2
	政治学	2
	経済学・経営学	2
	社会学	2
	教育学	2
	心理学	2
理学・工学領域科目	物質科学	2
	自然科学	2
	材料科学	2
	電気電子工学	2
	エネルギー科学	2
	数理情報科学	2
	機械科学	2
	環境・防災学	2
	メディア情報学	2
農学領域科目	農学基礎	2
	食品健康科学	2
	分子生物機能科学	2
	分子生命医科学	2
	農業環境工学	2
	森林科学	2
	動物科学	2
	水産学基礎	2
	獣医学Ａ	2
	獣医学Ｂ	2
	獣医学Ｃ	2

三　探究知科目

区　　分		授　業　科　目	単位数
環境科目		環境Ａ	2
		環境Ｂ	2
		環境Ｃ	2
		環境Ｄ	2
		環境Ｅ	2
		環境Ｆ	2
地域関連科目	地域科目	現代社会をみる視角	2
		宮沢賢治の世界	2
		危機管理と復興	2
		地場産業・企業論	2
		ボランティアとリーダーシップ	2
		地域協創入門	2
		社会連携学Ａ	2
		社会連携学Ｂ	2

地域関連科目	地域科目	地域協創Ａ	1
		地域協創Ｂ	1
		地域協創Ｃ	1
		地域協創Ｄ	1
		地域協創Ｅ	1
		地域協創Ｆ	1
		地域協創Ｇ	1
		地域協創Ｈ	1
		地域協創Ｉ	1
		キャリアを考えるＡ	2
		キャリアを考えるＢ	2
		日本事情Ａ	2
		日本事情Ｂ	2
		多文化コミュニケーションＡ	2
		多文化コミュニケーションＢ	2

四　実践知科目

区　　分		授　業　科　目	単位数
地域関連科目	地域課題演習科目	地域防災課題演習	2
		地域グローバル課題演習	2
		地域クリエイト課題演習	2
		地域課題演習Ａ	2
		地域課題演習Ｂ	2
		地域課題演習Ｃ	2
		地域課題演習Ｄ	2
		インターカレッジ・フィールド実践演習	2
		キャリアデザイン実践演習	2
		海外研修−世界から地域を考える−	2

別表１－２
共通教育科目として開設する授業科目及び単位数

一　大学教育導入科目群

区　　分	授　業　科　目	単位数
基礎ゼミナール	獣医学基礎ゼミナール	2

二　スポーツ健康科目群

区　　分	授　業　科　目	単位数
スポーツ健康・基盤	健康・スポーツＡ	1
	健康・スポーツＢ	1
スポーツ健康・発展	健康・スポーツＣ（シーズン）	1

三　外国語科目群

区　　分	授　業　科　目	単位数
基礎英語	英語総合Ⅰ	1
	英語総合Ⅱ	1
	英語コミュニケーションⅠ	1
	英語コミュニケーションⅡ	1
	英語総合Ⅲ	1
	英語コミュニケーションⅢ	1

四　人文社会科学科目群

区　　分	授 業 科 目	単位数
人文社会科学	思想	2
	芸術学	2
	文学	2
	言語学	2
	歴史学	2
	法学	2
	憲法	2
	政治学	2
	経済学・経営学	2
	社会学	2
	教育学	2
	心理学	2
持続可能な環境・社会	環境Ａ	2
	環境Ｂ	2
	環境Ｃ	2
	環境Ｄ	2
	環境Ｅ	2
	環境Ｆ	2
	現代社会をみる視角	2
	宮沢賢治の世界	2
	危機管理と復興	2
	地場産業・企業論	2
	ボランティアとリーダーシップ	2
	地域協創入門	2
	社会連携学Ａ	2
	社会連携学Ｂ	2
	地域協創Ａ	1
	地域協創Ｂ	1
	地域協創Ｃ	1
	地域協創Ｄ	1
	地域協創Ｅ	1
	地域協創Ｆ	1
	地域協創Ｇ	1
	地域協創Ｈ	1
	地域協創Ｉ	1
	キャリアを考えるＡ	2
	キャリアを考えるＢ	2
	日本事情Ａ	2
	日本事情Ｂ	2
	多文化コミュニケーションＡ	2
	多文化コミュニケーションＢ	2

五　配置大学特色科目群

区　　分	授 業 科 目	単位数
理数系基礎	獣医細胞生物学	2
	基礎生物学実験	1
	情報基礎Ａ	2
	情報基礎Ｂ	2
理数系アドバンス	物質科学	2
	自然科学	2

	材料科学	2
	電気電子工学	2
	エネルギー科学	2
	数理情報科学	2
	機械科学	2
	環境・防災学	2
	メディア情報学	2
	農学基礎	2
	食品健康科学	2
	分子生物機能科学	2
	分子生命医科学	2
	農業環境工学	2
	森林科学	2
	動物科学	2
	水産学基礎	2
	データ分析演習	1
	統計的機械学習実践	2

別表２－１

教養教育科目に関する修得すべき単位数

<table>
<tr><th rowspan="4">学部</th><th rowspan="4">学科・課程</th><th rowspan="4"></th><th colspan="11">教　養　教　育　科　目</th></tr>
<tr><th colspan="5">技法知科目</th><th rowspan="3">技法知科目修得単位数計</th><th colspan="3">学問知科目</th><th rowspan="3">学問知科目修得単位数計</th><th colspan="2">探究知科目</th><th>実践知科目</th><th rowspan="3">探究知科目・実践知科目修得単位数計</th><th rowspan="3">教養教育科目修得単位数計</th></tr>
<tr><th colspan="3">外国語科目　注１</th><th rowspan="2">健康・スポーツ科目</th><th rowspan="2">情報科目</th><th rowspan="2">人文社会科学・教育学領域科目</th><th rowspan="2">理学・工学領域科目</th><th rowspan="2">農学領域科目</th><th rowspan="2">環境科目</th><th colspan="2">地域関連科目</th></tr>
<tr><th>英語</th><th>英語以外の外国語</th><th>日本語　注２</th><th>地域科目</th><th>地域課題演習科目</th></tr>
<tr><td rowspan="3">人文社会科学部</td><td rowspan="3">人間文化課程
地域政策課程</td><td>必修</td><td colspan="3">8</td><td>1
（健康・スポーツＡ）</td><td>2</td><td>１１</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>6</td><td colspan="2">4</td><td>4</td><td rowspan="3">２８</td></tr>
<tr><td>選択</td><td colspan="11">7</td></tr>
<tr><td>上限</td><td>2</td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育学部</td><td rowspan="3">学校教育教員養成課程</td><td>必修</td><td>4</td><td colspan="2">4</td><td>2
注３</td><td>2</td><td>１２</td><td>4
※憲法２単位を含む</td><td>2</td><td>2</td><td>8</td><td colspan="2">4</td><td>4</td><td rowspan="3">２８</td></tr>
<tr><td>選択</td><td colspan="11">4</td></tr>
<tr><td>上限</td><td>2</td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td></td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">理工学部</td><td rowspan="3">理工学科</td><td>必修</td><td colspan="3">8</td><td>1
（健康・スポーツＡ）</td><td>2</td><td>１１</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>6</td><td colspan="2">4</td><td>4</td><td rowspan="3">２８</td></tr>
<tr><td>選択</td><td colspan="11">7</td></tr>
<tr><td>上限</td><td>2</td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td></td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td><td>2</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">農学部</td><td rowspan="3">食料農学科
生命科学科
地域環境科学科
動物科学・水産科学科</td><td>必修</td><td colspan="3">8</td><td>1
（健康・スポーツＡ）</td><td>2</td><td>１１</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>6</td><td colspan="2">4</td><td>4</td><td rowspan="3">２８</td></tr>
<tr><td>選択</td><td colspan="11">7</td></tr>
<tr><td>上限</td><td>2</td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td><td>2</td><td></td></tr>
</table>

注１　英語、英語以外の外国語及び日本語の組合せから選択すること。
　　なお、選択科目は英語発展Ａ～Ｄが対象となる。

注２　外国人留学生に限る。

注３　健康・スポーツＡを含む。

注４　各学部で定める選択科目の修得すべき単位数には、「いわて高等教育コンソーシアム」連携校との単位互換協定に基づき、
　　他大学で取得した教養教育に相当する科目を含めることができる。

注５　課外科目として「コミュニティーサポート実習　１単位」を認定するが、修得すべき単位数には含めない。

別表２－２

共通教育科目に関する修得すべき単位数

<table>
<tr><td rowspan="3">学部</td><td rowspan="3">学科</td><td rowspan="3"></td><td colspan="12">共　通　教　育　科　目</td></tr>
<tr><td colspan="2">大学教育導入科目群</td><td colspan="3">スポーツ健康科目群</td><td colspan="2">外国語科目群</td><td colspan="3">人文社会科学科目群</td><td colspan="3">配置大学特色科目群</td><td rowspan="2">共通教育科目修得単位数計</td></tr>
<tr><td>基礎ゼミナール</td><td>大学教育導入科目群修得単位数計</td><td>スポーツ健康・基盤
注１</td><td>スポーツ健康・発展</td><td>スポーツ健康科目群修得単位数計</td><td>基礎英語</td><td>外国語科目群修得単位数計</td><td>人文社会科学</td><td>持続可能な環境・社会</td><td>人文社会科学科目群修得単位数計</td><td>理数系基礎
注１</td><td>理数系アドバンス</td><td>配置大学特色科目群修得単位数計</td></tr>
<tr><td rowspan="3">獣医学部</td><td rowspan="3">共同獣医学科</td><td>必修</td><td>2</td><td rowspan="3">2</td><td>1</td><td></td><td rowspan="3">2</td><td>6</td><td rowspan="3">6</td><td></td><td></td><td rowspan="3">8</td><td>4</td><td></td><td rowspan="3">１２</td><td rowspan="3">３０</td></tr>
<tr><td>選択</td><td></td><td colspan="2">1</td><td></td><td colspan="2">8</td><td colspan="2">8</td></tr>
<tr><td>上限</td><td></td><td>1</td><td>1</td><td></td><td>6</td><td>2</td><td colspan="2">8</td></tr>
</table>

注１　健康・スポーツＡ、獣医細胞生物学、情報基礎Ａを含む。

注２　課外科目として「コミュニティーサポート実習　１単位」を認定するが、修得すべき単位数には含めない。

岩手大学における授業科目の履修登録単位数の上限に関する規則

平成１６年 ４ 月 １ 日　制　　定
令和　５年 ２ 月 ９ 日　最終改正

（趣旨）
第１条　この規則は、国立大学法人岩手大学学則第４１条第３項の規定に基づき、岩手大学（以下「本学」という。）において、１学期に履修科目として登録することができる単位数（以下「履修登録単位数」という。）の上限に関し必要な事項を定める。

（対象授業科目）
第２条　学生が履修科目として登録することができる単位数の対象となる授業科目は、本学で開講する授業科目のうち、卒業要件として履修する授業科目（以下「卒業要件科目」という。）、並びに卒業要件科目以外の科目のうち、教育学部以外の学生を対象とした教育職員免許状の取得に必要な授業科目（以下、本規則において「教職科目」という。）とする。
２　前項の学生が履修科目として登録することができる単位数の対象となる授業科目のうち、集中講義の授業科目、教育実習及び卒業・特別研究は、履修登録単位数の対象としないものとする。

（履修登録単位数の上限）
第３条　本学の履修登録単位数は、２４単位を上限とする。
２　前項の規定にかかわらず、教育学部の学生及び教育学部以外の教育職員免許状を取得する学生の履修登録単位数は、２８単位を上限とする。ただし、当該２８単位のうち、次の各号に該当する科目については、２４単位を上限とする。
一　教育学部の学生が所属するコース又はサブコースにより取得を義務づけられた一つめの教育職員免許状の取得にかかる授業科目
二　教育学部以外の学生が履修する科目のうち卒業要件科目
３　前２項の規定にかかわらず、成績優秀者及び編入学生の履修登録単位数は、２８単位を上限とする。

（成績優秀者）
第４条　前条第３項に規定する成績優秀者とは、前学期において卒業要件科目を１８単位以上修得し、かつ、卒業要件科目の総修得単位のうち、「秀」及び「優」の評語を１０分の９以上得た者とする。

附　則
この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則
１　この規則は、平成１９年４月１日から施行する。
２　この規則は、平成１９年４月１日以降の入学者から適用し、平成１９年３月３１日

以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則

この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

附　則

１　この規則は、平成２３年４月１日から施行する。

２　この規則は、平成２１年４月１日以降の入学者から適用し、平成２１年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

附　則

この規則は、平成２８年４月１日から施行する。ただし、平成２７年度以前に入学した者については、なお従前の例による。

附　則

１　この規則は、令和５年４月１日から施行する。

２　この規則は、令和５年４月１日以降の入学者から適用し、令和５年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

岩手大学における在学期間の特例に関する規則

平成１６年 ４ 月 １ 日 制　　定
平成１９年 ４ 月 １ 日 最終改正

（趣旨）
第１条　この規則は、国立大学法人岩手大学学則第３０条の規定に基づき、教育的配慮及び厳正な成績評価により、岩手大学（以下「本学」という。）における在学期間の特例（以下「早期卒業」という。）を行う場合の必要な事項を定める。

（対象学生）
第２条　早期卒業の対象となる学生は、本学に３年以上在学し、卒業の要件として学部の定める単位を特に優秀な成績をもって修得したと認められる者とする。ただし、編入学した学生及び休学したことのある学生は、早期卒業の対象者とならない。

（早期卒業候補者の認定）
第３条　２年次終了の時点において、それまでの全ての学期における成績優秀者（岩手大学における授業科目の履修登録単位数の上限に関する規則第４条に規定する者をいう。）のうち早期卒業を希望する者は、各学部長に申請することとする。
２　前項の申請をした者については、各学部の教務委員会又は学務委員会が審査し、教授会の了承を得て早期卒業候補者として認定する。

（卒業研究等）
第４条　早期卒業候補者には、卒業研究又は特別研究を課す。
２　早期卒業候補者には、３年次終了時又は４年次前期終了時に、最終試験を課す。

（卒業の認定）
第５条　各学部教授会は、第３条第２項により、早期卒業候補者の認定を受けた学生に対し、３年次終了時又は４年次前期終了時に、卒業の認定を行う。
２　卒業の認定基準は、次の各号に掲げるとおりとする。
一　早期卒業候補者として認定を受けた後の各学期の成績についても、「秀」及び「優」の評語が１０分の９以上であること。
二　各学部が定める卒業に要する所定の科目の単位を取得していること。
三　卒業研究又は特別研究の成績が「秀」又は「優」であること。

（学習指導等）
第６条　学部並びに学科及び課程は、早期卒業候補者の授業計画等にあたって、適切な指導を行うこととする。
２　早期卒業候補者の就職及び大学院受験については、４年次学生と同等に扱う。

（雑則）
第７条　この規則に定めるもののほか、早期卒業に関し必要な事項は、各学部で別に定める。

附　則

この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則

１　この規則は、平成１９年４月１日から施行する。

２　この規則は、平成１９年４月１日以降の入学者から適用し、平成１９年３月３１日以前の入学者については、なお従前の例による。

岩手大学における長期にわたる教育課程の履修に関する規則

平成１６年 ４ 月 １ 日 制　　定
令和 ７ 年 ２ 月２７日 最終改正

（趣旨）

第１条　この規則は、国立大学法人岩手大学学則第４６条第２項、国立大学法人岩手大学大学院学則第１９条第２項及び第２１条の１１第２項の規定に基づき、長期にわたる教育課程の履修（以下「長期履修」という。）に関し必要な事項を定める。

（対象学生）

第２条　長期履修の希望を申し出ることのできる者は、学部に在学する学生（獣医学部共同獣医学科に在学する者を除く。以下次条において同じ。）及び大学院研究科に在学する学生（デュアルディグリープログラム学生を除く。以下次条において同じ。）のうち、職業を有しているなどの状況にある者とする。

（長期在学期間）

第３条　修業年限又は標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修して卒業又は課程を修了する場合の在学を認める期間（「長期在学期間」という。）は、学部に在学する学生にあっては６年以内、大学院研究科修士課程及び大学院研究科専門職学位課程に在学する学生にあっては４年以内、大学院研究科博士課程に在学する学生にあっては５年以内とする。

２　前項の規定にかかわらず、獣医学研究科に在学する学生にあっては、長期在学期間を８年以内とする。

（長期履修の許可等）

第４条　長期履修を希望する者は、新たに入学する者にあっては入学手続時に、在学中の者にあっては２月末日又は８月末日までに学長に申請しなければならない。

２　学長は、前項の申請をした者について各学部教授会又は各研究科教授会（総合科学研究科にあっては専攻教授会）の議に基づき長期履修を許可する。

附 則

この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

附 則

この規則は、平成１６年１０月１日から施行する。

附 則

１ この規則は、平成２０年３月６日から施行し、平成１９年４月１日から適用する。

２ この規則の規定にかかわらず、農学部獣医学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、第２条中「農学部獣医学課程」とあるのは、「農学部獣医学科又は農学部獣医学課程」と読み替えるものとする。

附 則

１ この規則は、平成２４年４月１日から施行する。

２ この規則の規定にかかわらず、農学部獣医学科又は農学部獣医学課程に在学する者が当該学科又は

当該課程に在学しなくなるまでの間、第２条中「農学部共同獣医学科」とあるのは、「農学部獣医学科又は農学部獣医学課程並びに農学部共同獣医学科」と読み替えるものとする。

附 則

この規則は、平成２６年４月１日から施行する。

附 則

1　この規則は、平成２９年４月１日から施行する。
2　この規則は、平成２９年度入学者から適用し、平成２８年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則

この規則は、平成３０年４月１日から施行する。

附 則

この規則は、令和４年７月１日から施行する。

附 則

1　この規則は、令和７年４月１日から施行する。
2　この規則の規定にかかわらず、農学部共同獣医学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、第２条中「獣医学部共同獣医学科」とあるのは、「農学部共同獣医学科又は獣医学部共同獣医学科」と読み替えるものとする。

岩手大学転学部に関する規則

平成１７年１２月１５日 制　　定
令和 ７ 年 ２ 月２７日 最終改正

（趣旨）
第１条 この規則は、国立大学法人岩手大学学則（以下「学則」という。）第５４条の規定に基づき、岩手大学（以下「本学」という。）の転学部について必要な事項を定める。

（転学部資格）
第２条　転学部できる者は、原則として下記のいずれにも該当する者とする。
一　転学部時点で１年以上の在学歴（休学期間を除く。）があり、３６単位以上を修得した者であること。
二　一般選抜（前期日程又は後期日程）により入学した者であること。
三　学生の適性上、転学部により能力の伸長が見込まれる学生であること。

（出願手続）
第３条　転学部を志願する者は、転学部願（別記様式１）に担任教員連署の上、所定の期間内に所属学部の長（以下「所属学部長」という。）へ提出しなければならない。

（担任教員の責務）
第４条　担任教員は、転学部を志願する者から志願理由等を聴取の上、調査書（別記様式２）を作成し所定の期間内に所属学部長に提出するものとする。

（所属学部長による選考）
第５条　所属学部長は、転学部願及び調査書を総合的に判定し、転学部の可否を決定するものとする。
２　所属学部長は、転学部を可とする場合、１月末日までに当該学生が転学部を志願する学部（以下「志願学部」という。）の長（以下「志願学部長」という。）に、転学部願に所要の記名押印のうえ、調査書を付して送付するものとする。
３　所属学部長は、転学部を否とする場合、学長に転学部願及び調査書を添付して転学部を認めない旨の選考結果を報告するものとする。

（志願学部長による選考）
第６条　転学部願及び調査書の送付を受けた志願学部長は、志願理由、入学試験の成績、在学中の学業成績、面接・小論文等志願学部が定める選考条件により総合的に判定し、受入の可否を決定するものとする。
２　志願学部長は、３月２２日までに学長及び所属学部長へ前項の選考結果を報告するものとする。

（転学部の許可又は不許可の決定及び通知）
第７条　学長は、第５条第３項又は第６条第２項の選考結果の報告に基づき、転学部の許可又は不許可を決定し、所属学部長、志願学部長及び志願者に転学部の許可又は不許可を通知するものとする。

（許可の時期）
第８条　転学部の許可の時期は、４月１日とする。

（配属年次）
第９条　転学部許可後の配属年次は、原則として２年次とする。

（単位）
第１０条　転学部を許可された者の修得すべき単位（以下「卒業要件単位」という。）は、転学部後に所属する学部の定める卒業要件単位とする。
２　転学部を許可された者が、転学部以前に所属した学部において修得した科目の単位は、転学部後に所属する学部で卒業要件として定められるものを除き、卒業要件単位としては認めない。

（在学期間）
第１１条　転学部を許可された者の在学期間は、転学部先の学部における所定の在学期間から当該者が既に在学した期間を差し引いた期間とする。ただし、修業年限６年の獣医学部共同獣医学科に転学部を許可された場合は、転学部前に在学した学部の在学期間を適用する。

（転学部の制限）
第１２条　転学部を許可された者は、再び転学部を願い出ることはできない。

（雑則）
第１３条　この規則に定めるもののほか、転学部に関し必要な事項は、学部の定めるところによる。

附 則
この規則は、平成１７年１２月１５日から施行し、平成１７年度入学者から適用する。

附 則
１ この規則は、平成２４年４月１日から施行し、平成１７年度入学者から適用する。
２ この規則の規定にかかわらず、農学部獣医学課程又は農学部共同獣医学科に転学部を許可された場合の第１１条中「農学部共同獣医学科」とあるのは、「農学部獣医学課程又は農学部共同獣医学科」と読み替えるものとする。

附 則
この規則は、令和元年５月１日から施行する。

附 則
１ この規則は、令和３年１２月８日から施行し、令和３年４月１日から適用する。
２ この規則は、令和３年度入学者から適用し、令和２年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則
１ この規則は、令和７年４月１日から施行する。
２ この規則の規定にかかわらず、農学部共同獣医学科に転学部を許可された場合の第１１条中「獣医学部共同獣医学科」とあるのは、「農学部共同獣医学科」と読み替えるものとする。

（別記様式１）

	担任教員　署名欄 学部学科担任氏名 （自署又は記名押印）

令和　　年　　月　　日

転　学　部　願

岩 手 大 学 長　殿

氏　　名　　（自署又は記名押印）
入学年度・学籍番号
所属学部・学科・課程・コース
連絡先住所
電　　話
保証人住所
氏　　名　　（自署又は記名押印）

私こと、下記理由により　　年４月１日付けで　　学部　　（学科・課程・コース）に転学部したいので、ご許可くださるようお願いいたします。

理　由（できる限り具体的詳細に記入のこと。）

令和　　年　　月　　日

本学生の転学部が適切と認めます。

（所属学部長）　　学部長　　氏　名　　職印

所属学部長宛提出月日	志願学部長受付月日

（別記様式２）

調　査　書

（転学部選考用）

<table>
<tr><td colspan="4">転学部を希望する学部
（学部・学科（課程）コース）</td></tr>
<tr><td colspan="4">所属
（学部・学科（課程）コース）</td></tr>
<tr><td>学籍番号</td><td></td><td>入学年度</td><td></td></tr>
<tr><td>（フリガナ）
氏　　名</td><td></td><td>生年月日</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">・入学前の学歴（高等学校以降）</td></tr>
<tr><td colspan="4">・在学中の異動（休学・改姓等）</td></tr>
<tr><td colspan="4">・入学試験成績　（別紙添付可）

一般選抜（前期日程・後期日程）の別
岩手大学の受験番号
成績順位、得点（大学入学共通テスト及び個別学力検査の科目別）</td></tr>
<tr><td colspan="4">・学業成績
（転学部予定日の前の学期まで登録されたもの　成績通知書添付可）</td></tr>
<tr><td colspan="4">・総合所見</td></tr>
<tr><td colspan="4">令和　　年　　月　　日
作成者　　○○学部・学科（課程）・コース担任教員
氏　名　　（自署又は記名押印）</td></tr>
</table>

岩手大学転学科及び転課程取扱要項

（趣旨）
第１　岩手大学は、入学後に他学科・他課程に移る積極的理由を見いだした学生の新たな勉学意識を引き出すため、転学科・転課程を実施する。
　このための国立大学法人学則第５４条の２第２項の規定に基づく転学科及び転課程の取扱いについては、この要項の定めるところによる。

（転学科及び転課程の時期）
第２　転学科及び転課程の時期は、学年の始めとする。

（出願資格）
第３　転学科又は転課程を志願できる者は、次の各号の全てに該当する者とする。
①　当該学部に在学し、学部の定める所定の単位以上を修得している者
②　転学科又は転課程を志願する理由が明確で、勉学の意欲のある者

（提出書類）
第４　転学科又は転課程を志願する者は、別に指定する関係書類を学部長に提出しなければならない。

（選考）
第５　選考の時期、選考方法、選考基準等は学部の定めるところによる。

（許可）
第６　前項の選考の結果に基づき、転学科又は転課程の許可を受けた者は、所定の手続きを取らなければならない。

（雑則）
第７　この要項に定めるもののほか、転学科及び転課程に関し必要な事項は、学部の定めるところによる。

付　記
この要項は、平成１６年１２月７日から実施する。

岩手大学編入学取扱規則

平成１６年　４　月　１　日　制　　定
平成２８年　４　月　１　日　最終改正

（趣旨）
第１条　この規則は、国立大学法人岩手大学学則（以下「学則」という。）第６０条第２項の規定に基づき、岩手大学（以下「本学」という。）の編入学について必要な事項を定める。

（編入学の時期）
第２条　編入学の時期は、学年の始めとする。

（入学資格）
第３条　編入学をすることができる者は、次の各号のいずれかに該当するものとする。
一　大学を卒業した者、又は大学に２年以上在学し所定の単位を修得した者
二　短期大学又は高等専門学校を卒業した者
三　外国の短期大学を卒業した者又は外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を我が国において修了した者（学校教育法第９０条第１項に規定する者に限る。）
四　専修学校の専門課程（修業年限が２年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（学校教育法第９０条に規定する者に限る。）
五　高等学校等の専攻科のうち、文部科学大臣が定める基準を満たすものを修了した者（学校教育法第９０条第１項に規定する者に限る。）
六　学校教育法施行規則（昭和２２年文部省令第１１号。以下「施行規則」という。）附則第７条の規定により大学に編入学することができる者
七　工業教員養成所又は養護教諭養成所を卒業した者
八　外国において、学校教育における１４年以上の課程を修了した者
２　他の大学に在学する者で、本学に編入学を願い出る者は、当該大学の許可を受けなければならない。

（出願書類）
第４条　編入学を志願する者は、当該学部で定める必要書類に岩手大学における授業料その他の料金に関する規則（以下「料金規則」という。）に規定する検定料を添え、当該学部へ提出しなければならない。

（選考）
第５条　編入学を志願する者の選考は、当該学部の定めるところによる。

（入学許可）
第６条　前条の規定による選考の結果に基づき、合格の通知を受けた者は、所定の手続きをとるとともに料金規則に規定する入学料を納付しなければならない。ただし、学則第６４条の規定による入学料の免除を申請した者については、免除の許可又は不許可が決定するまでの間は、本文の規定にかかわらず入学料の納付を猶予する。
２　学長は、前項の手続きを完了した者に編入学を許可する。

（授業料）
第７条　編入学を許可された者の授業料は、当該者の属する年次の在学者にかかる額と同額とする。

（編入学年、修業年限及び在学期間等）
第８条　編入学を許可された者の編入学年及び修業年限は当該学部の定めるところによる。ただし、第３条第１項第２号及び第３号に規定する者の在学すべき期間は、施行規則の定めるところによるものとする。
２　在学期間は、修業年限の２倍を越えることができない。
３　編入学を許可された者の休学期間は、通算して修業年限を超えることができない。

（授業科目及び単位数）
第９条　編入学により入学した者の履修すべき授業科目及び単位数は、学則第３６条及び第３７条に定めるもののほか、別に定めるところによる。

（雑則）
第１０条　　この規則に定めるもののほか、編入学に関し必要な事項は当該学部が定める。

附　則
この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則
この規則は、平成１７年１２月１日から施行し、平成１９年度編入学者から適用する。

附　則
この規則は、平成２０年４月１日から施行する。

附　則
この規則は、平成２８年４月１日から施行する。

岩手大学再入学取扱規則

平成２２年 ６ 月 ２ 日　制定

（趣旨）

第１条　この規則は、国立大学法人岩手大学学則（以下「学則」という。）第５９条及び国立大学法人岩手大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第３３条の規定に基づき、岩手大学（以下「本学」という。）の再入学について必要な事項を定める。

（再入学の時期）

第２条　学部学生の再入学時期は４月とし、大学院学生の再入学時期は４月又は１０月とする。

（再入学の志願回数）

第３条　再入学を志願できる回数は、学部又は大学院それぞれ１回とする。

（出願書類）

第４条　再入学を志願する者は、当該学部又は研究科で定める必要書類に岩手大学における授業料その他の料金に関する規則（以下「料金規則」という。）に規定する検定料を添え、当該学部又は研究科へ提出しなければならない。

（選考）

第５条　再入学を志願する者の選考は、当該学部又は研究科の定めるところによる。

２　選考に際しては、再入学する場合の配属年次及び履修要件を、当該学部又は研究科が決定しなければならない。

（入学許可）

第６条　前条の規定による選考の結果に基づき、再入学として受け入れる旨の通知を受けた者は、所定の手続きをとるとともに料金規則に規定する入学料を納付しなければならない。また、学則第６４条の規定又は大学院学則第４１条による入学料の免除を申請した者については、免除の許可又は不許可が決定するまでの間は、本文の規定にかかわらず入学料の納付を猶予する。

２　学長は、前項の手続きを完了した者に再入学を許可する。

（授業料）

第７条　再入学を許可された者の授業料は、当該者の属する年次の在学者にかかる額と同額とする。

（修業年限又は標準修業年限）

第８条　再入学した学部生の修業年限は、学則第２９条に定める修業年限から退学時の修業年を減じた年限とする。ただし、退学時の修業年に１年未満の期間が生じた場合はその期間を切り捨てるものとする。

２　再入学した大学院生の標準修業年限にあっては、大学院学則第１２条に定める標準修業年限から退学時の修業年を減じた年限とする。ただし、退学時の修業年に１年未満の期間が生じた場合はその期間を切り捨てるものとする。

（在学期間）

第９条　再入学した学部生の在学期間は、学則第２９条第３項に定める在学期間から退学時の在学期間を減じた期間とする。ただし、退学時の在学期間に１年未満の期間が生じた場合は、この期間を切り上げるものとする。

２　再入学した大学院生の在学期間は、大学院学則第１３条に定める在学期間から退学時の在学期間を減じた期間とする。ただし、退学時の在学期間に１年未満の期間が生じた場合は、この期間を切り上げるものとする。

（休学期間）

第１０条　再入学した学部生の休学期間は、退学時までの休学期間を通算して学則第２９条第１項に規定する修業年限を超えることができない。

２　再入学した大学院生の休学期間は、退学時までの休学期間を通算して、大学院学則第３０条第４項に規定する期間を超えることができない。

（雑則）

第１１条　この規則に定めるもののほか、再入学に関し必要な事項は当該学部又は研究科が定める。

附　則

この規則は、平成２２年４月１日から施行し、平成２２年度再入学者から適用する。

岩手大学研究生規則

平成１６年　４　月　１　日　制　　定
平成２９年　４　月　１　日　最終改正

（趣旨）
第１条　この規則は、国立大学法人岩手大学学則（以下「大学学則」という。）第７６条第２項及び国立大学法人岩手大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第４７条第２項の規定に基づき、研究生に関して必要な事項を定める。

（入学の時期）
第２条　研究生の入学の時期は、学期の始めとする。

（入学資格）
第３条　学部研究生として入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当するものとする。
一　学士の学位を有する者
二　大学２年修了以上の学力を有する者
三　学部教授会において、前２号と同等以上の学力があると認められた者

第４条　大学院研究生として入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
一　修士課程の大学院研究生は、修士の学位を有する者
二　博士課程の大学院研究生は、博士の学位を有する者
三　研究科教授会（総合科学研究科にあっては専攻教授会。以下同じ。）において、前２号と同等以上の学力があると認められた者

（出願手続）
第５条　研究生として入学を志願する者は、所定の期間内に別に指定する関係書類に検定料を添えて学長に願い出なければならない。

（選考）
第５条の２　前条の入学志願者に対しては、別に定めるところにより選考を行う。

（入学許可）
第５条の３　前条の選考に基づき合格の通知を受けた者は、所定の手続きをとるとともに、入学料を納付しなければならない。
２　学長は、前項の手続きを経た者に対し、入学を許可する。

（検定料、入学料及び授業料）
第６条　検定料、入学料及び授業料の額は、岩手大学における授業料その他の料金に関する規則に定める額とする。
２　授業料は、在学期間に応じ、６月分に相当する額を４月及び１０月にそれぞれ納付しなければならない。

（研究費用の負担）
第７条　実験実習に要する材料費等については、その一部又は全部を研究生に負担させることができる。

（在学期間）
第８条　研究生の在学期間は、１年以内とする。ただし、学部教授会又は研究科教授会が必要と認めた場合は、在学期間を延長することができる。

（研究報告書）
第９条　研究生は、所定の期日までに、学部長又は研究科長に、研究報告書を提出しなければならない。
２　学部教授会又は研究科教授会は、研究報告書を審査し、その合否を判定する。

（研究証書）
第１０条　学長は、学部長又は研究科長の報告に基づき、研究報告書の審査に合格した者に対して、研究証書を授与する。

（退学）
第１１条　当該在学期間の中途で退学しようとする者は、所定の退学願にその理由を記載し、学部長又は研究科長を経て学長に願い出、その許可を得なければならない。

（除籍）
第１２条　学長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、学部教授会又は研究科教授会の議を経て除籍する。
一　研究報告書を提出しない場合
二　本学の規則に違反し、又は研究生の本分に反する行為があった場合
三　授業料の納付を怠った場合

（規定の準用）
第１３条　研究生については、この規則に定めるもののほか、大学学則及び大学院学則の規定を準用する。

附　則
この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則
この規則は、平成１７年２月１７日から施行する。

附　則
この規則は、平成２０年９月１７日から施行する。

附　則
この規則は、平成２９年４月１日から施行する。

岩手大学科目等履修生規則

平成１６年 ４ 月 １ 日　制　　定
平成１７年 ２ 月１７日　最終改正

（趣旨）
第１条　この規則は、国立大学法人岩手大学学則（以下「大学学則」という。）第７５条第２項及び国立大学法人岩手大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第４６条第２項の規定に基づき、科目等履修生に関して必要な事項を定める。

（入学の時期）
第２条　科目等履修生の入学の時期は、学期の始めとする。

（入学資格）
第３条　科目等履修生の入学資格は、学部等において当該授業科目を履修する学力があると認めた者とする。

（出願手続）
第４条　科目等履修生として入学を志願する者は、所定の期間内に別に指定する関係書類に検定料を添えて、学長に願い出なければならない。

（選考）
第４条の２　前条の入学志願者に対しては、別に定めるところにより選考を行う。

（入学許可）
第４条の３　前条の選考に基づき合格の通知を受けた者は、所定の手続きをとるとともに、入学料を納付しなければならない。
２　学長は、前項の手続きを経た者に対し、入学を許可する。

（検定料、入学料及び授業料）
第５条　検定料､入学料及び授業料の額は、岩手大学における授業料その他の料金に関する規則に定める額とする。
２　授業料は、履修単位に応じて、４月及び１０月にそれぞれ納付しなければならない。

（履修期間）
第６条　科目等履修生の履修期間は、当該学期又は学年の終わりまでとする。

（履修科目の追加）
第７条　前期に科目等履修生として入学した者が、引き続き、後期に新たな授業科目を履修することを希望するときは、所定の期日までに改めて所定の書類を学部長等に提出し、その許可を受けて、これを履修することができる。
２　前項により履修の許可を受けた場合には、検定料及び入学料を徴しない。

（単位の授与）

第８条　履修した授業科目については、成績を審査し、合格した者に対して、所定の単位を与える。

（退学）
第９条　科目等履修生が退学しようとするときは、理由を付し、学部長等を経て、学長に願い出なければならない。

（履修許可の取消）
第１０条　科目等履修生として不適当と認められたときは、教授会等の議を経て、学長は履修の許可を取り消すことができる。

（履修科目が複数の学部等にわたる場合の取扱い）
第１１条　１人の科目等履修生の履修科目が複数の学部等にわたる場合は、履修科目の多い学部等（以下「主たる学部等」という。）の科目等履修生として取り扱い、他の学部等に関連する事項は、主たる学部等が関係学部長等と協議して処理するものとする。

（規定の準用）
第１２条　科目等履修生については、この規則に定めるもののほか、大学学則及び大学院学則の規定を準用する。

（雑則）
第１３条　この規則に定めるもののほか、科目等履修生に関し必要な事項は、学部等において定める。

附　則
この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

附　則
この規則は、平成１７年２月１７日から施行する。

岩手大学外国人留学生規則

平成１６年４月１日　制　　定
令和２年１０月１日　最終改正

（趣旨）

第１条　この規則は、国立大学法人岩手大学学則（以下「大学学則」という。）第７８条第２項及び国立大学法人岩手大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第５０条第２項の規定に基づき、岩手大学（以下「本学」という。）における外国人留学生に関し、必要な事項を定める。

（区分）

第２条　外国人留学生の区分は、次のとおりとする。

一　学部学生
二　大学院学生
三　研究生
四　特別聴講学生
五　特別研究学生
六　日本語研修留学生
七　日本語・日本文化研修留学生
八　教員研修留学生

（入学資格）

第３条　外国人留学生として入学することのできる者は、前条の外国人留学生の区分に応じた本学所定の入学資格を有する者とする。

２　前項の規定にかかわらず、前条第６号から第８号に掲げる者の入学資格については、国費外国人留学生制度実施要項（昭和２９年３月３１日文部大臣裁定。以下「実施要項」という。）に定める応募の要件による。

３　第１項の規定にかかわらず、大学院学則第５１条第２項に定めるデュアルディグリープログラム等において外国の大学を主たる所在大学とする学生（以下「デュアルディグリープログラム学生」という。）については、当該デュアルディグリープログラムに関する協定等に関連する規定があるときは、当該規定を適用する。

（出願手続）

第４条　外国人留学生として入学を志願する者は、次に掲げる書類を外国人留学生の区分に応じて取り揃え、提出しなければならない。

一　入学願書
二　履歴書
三　最終出身学校の卒業（修了）証明書（卒業見込み証明書）及び学業成績証明書
四　外務省在外公館、又は日本所在の外国公館等の発行する身分証明書
五　本人写真
六　所定の検定料

七　その他本学が必要と認める書類

２　実施要項に定める国費外国人留学生及び外国政府派遣留学生については、文部科学省からの協議書類をもって前項各号に掲げる書類に代えることができる。

３　第１項の規定にかかわらず、デュアルディグリープログラム学生については、当該デュアルディグリープログラムに関する協定等に関連する規定があるときは、当該規定を適用する。

（入学者の選考等）

第５条　入学者の選考は、学力、人物のほか、修学に必要な日本語の受講能力等に基づき当該学部の教授会、研究科教授会（総合科学研究科にあっては専攻教授会）又は国際教育センター長が行い、その議又は推薦を経て学長が合格者を決定する。

２　合格者は、所定の期間内に、所定の書類に入学料を添えて本学に提出しなければならない。

３　前各項の規定にかかわらず、デュアルディグリープログラム学生については、当該デュアルディグリープログラムに関する協定等に関連する規定があるときは、当該規定を適用する。

（入学許可）

第６条　学長は、前条に定める手続を経た者に対し、入学を許可する。

（入学の時期）

第７条　入学の時期は、学期の始めとする。ただし、特別研究学生の入学の時期については、学期の途中においても入学させることができる。

（検定料、入学料及び授業料）

第８条　検定料、入学料及び授業料の額及び納付は、大学学則、大学院学則その他学生に関する諸規則の定めるところによる。

２　前項の規定にかかわらず、実施要項に基づく国費外国人留学生の検定料入学料及び授業料は、徴収しない。

３　第１項の規定にかかわらず、デュアルディグリープログラム学生については、当該デュアルディグリープログラムに関する協定等に関連する規定があるときは、当該規定を適用する。

（規定の適用）

第９条　この規則に定めるもののほか、外国人留学生に関し必要な事項は、大学学則、大学院学則その他学生に関する諸規則の規定を適用する。

附則

この規則は、平成１６年４月１日から施行する。

附則

この規則は、平成１９年５月１７日から施行し、平成１９年４月１日から適用する。

附則

この規則は、平成２１年４月１日から施行する。

附則

この規則は、平成２６年５月２３日から施行し、平成２６年４月１日から適用する。

附則

この規則は、平成２７年７月３０日から施行し、平成２７年４月１日から適用する。

附則

この規則は、平成２９年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、令和２年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、令和２年１０月１日から施行する。

成績評価基準について

（趣旨）

1　この成績評価基準は、岩手大学学則（以下「学則」という。）第４０条に定める成績の判定に関して、必要な事項を定める。

（学業成績の判定）

2　学業成績の判定は、試験、レポート、報告書、論文及び平常の成績等によって行う。

学修の成果に係る評価に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対しその基準をあらかじめ明示すると共に、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

（試験）

3　試験は、筆記、口述、発表などにより実施する。

試験の実施にあたっては、あらかじめ日時を周知する。ただし、授業科目によっては随時行うことがある。この場合の試験方法及び日時は、その授業科目の担当者の定めるところによる。

（平常の成績）

4　平常の成績は、随時行う小テスト、学習状況等によって判定する。

（学業成績判定の評語）

5　成績判定の評語は、秀、優、良、可及び不可とし、秀、優、良、及び可を合格、不可を不合格とする。

（学業成績の評価基準）

6　成績の評価は、絶対評価に基づき、各授業科目につき 100 点を満点として、原則として以下の基準により判定をする。

秀　：100 点～90 点（その科目の到達目標を超えて秀でた成績）
優　：　89 点～80 点（その科目の到達目標にふさわしい優れた成績）
良　：　79 点～70 点（その科目の到達目標をおおむね満たす成績）
可　：　69 点～60 点（その科目の到達目標を最低限度満たす成績）
不可：　59 点～　0 点（その科目の到達目標に達していない成績）

（不正行為の取り扱い）

7　試験に際し不正行為を行った者については、当該学期の学業成績は判定しない。

気象警報等の発令時における授業等の取扱いに関する申合せ

令和元年７月２５日
教育研究評議会決定

この申合せは、気象警報（暴風警報及び暴風雪警報に限る。）又は特別警報（以下「気象警報等」という。）発令時における岩手大学学生の安全確保を目的とし、授業及び課外活動等の取扱いについて定めるものである。

Ⅰ　盛岡市に気象警報等が発令された場合

１　盛岡市のキャンパスにおける授業の取扱いについては、次のとおりとする。

（１）午前７時の時点で気象警報等が発令されている場合、午前（１時限及び２時限。ただし、共同獣医学科は１－２校時及び３－４校時）の授業を休講とする。
（２）午前 11 時の時点で気象警報等が発令されている場合、午後（３時限以降。ただし、共同獣医学科は５－６校時以降）の授業を休講とする。

２　１以外の場合であっても、その後に気象警報等の発令が予想されるなど学生の安全確保が必要と判断される場合は、学長又は教育・学生担当副学長が休講を決定することができる。

３　１及び２による休講については、大学ホームページ及び掲示により周知・連絡する。

４　１及び２により休講となった授業の補講については、掲示等により周知・連絡の上、補講期間に実施するものとし、この補講は、個別の補講等に優先する。

５　１及び２により休講となった場合、当該キャンパス内の課外活動も休止とする。

Ⅱ　釜石市に気象警報等が発令された場合

１　釜石市のキャンパスにおける授業（休講、通知、補講等）及び課外活動の取扱いについては、学長又は教育・学生担当副学長の判断によるものとする。

Ⅲ　キャンパス外活動等の取扱い

１　キャンパス外の学外実習、教育実習、インターンシップ及び課外活動等の取扱いは、実習先等担当者の判断によるものとする。

附 則
この申合せは、令和元年１０月１日から実施する。

国立大学法人
岩手大学
IWATE UNIVERSITY